

**2024年度  
大学院公共政策研究科  
講義概要 (シラバス)**



**法政大学**

# 科目一覧

[発行日: 2024/5/1] 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

## 凡例 その他属性

〈他〉: 他学部公開科目	〈グ〉: グローバル・オープン科目
〈優〉: 成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉: 実務経験のある教員による授業科目
〈S〉: サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉: サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉: サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉: サーティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉: サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9000】 政治理論 [杉田 敦] 春学期授業/Spring .....	1
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9001】 行政学基礎 [林 嶺那] 春学期後半/Spring(2nd half) ....	2
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9002】 比較行政研究 [申 龍徹] 春学期後半/Spring(2nd half) ..	3
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9003】 公共哲学基礎 [宮川 裕二] 秋学期前半/Fall(1st half)....	4
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9005】 政策学基礎 [瀧元 初姫] 春学期前半/Spring(1st half)...	5
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9006】 現代政治分析研究 [白鳥 浩] 春学期前半/Spring(1st half)	6
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9007】 公共政策とジャーナリズム [白鳥 浩] 春学期後半/Spring(2nd half).....	7
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9008】 公共政策の経済分析 [北浦 康嗣] 秋学期授業/Fall.....	8
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9009】 財政学基礎 [其田 茂樹] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	9
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9010】 経済学基礎 [芦谷 典子] 春学期前半/Spring(1st half)...	10
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9011】 環境哲学・倫理学 [吉永 明弘] 秋学期後半/Fall(2nd half)	12
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9012】 環境法基礎 [岡松 暁子、奥田 進一、野村 撰雄] 春学期前半/Spring(1st half) .....	13
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9013】 地球環境学基礎 [藤倉 良] 春学期後半/Spring(2nd half)	15
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9014】 国際政治学基礎 [大野 知之] 春学期授業/Spring .....	16
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9015】 国際協力論 [武貞 稔彦] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	17
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9016】 サステイナビリティ研究入門 [藤田 研二郎、金藤 正直、長谷川 直哉、渡邊 誠、小島 聡、武貞 稔彦、藤倉 良] 春学期前半/Spring(1st half).....	19
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9017】 S D G sへの招待【SDGsPlus履修証明プログラム専用科目】 [小島 聡、武貞 稔彦、(一社) SDGs市民社会ネットワーク (新田英理子、長島美紀、星野智子)] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	20
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9018】 公共政策と持続可能な社会づくり [林 嶺那、加藤 寛之、杉崎 和久、谷本 有美子、土山 希美枝、名和田 是彦] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	21
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9019】 政策法務論 [神崎 一郎] 春学期後半/Spring(2nd half) ..	23
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9020】 立法学研究 [神崎 一郎] 春学期前半/Spring(1st half)...	25
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9021】 政策評価論 [南島 和久] 春学期後半/Spring(2nd half) ..	27
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9022】 社会調査法1 [竹元 秀樹] 春学期前半/Spring(1st half)	29
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9023】 社会調査法2 [見田 朱子] 春学期後半/Spring(2nd half)	30
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9024】 社会調査法3 [見田 朱子] 秋学期前半/Fall(1st half)....	31
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9025】 社会調査法4 [見田 朱子] 秋学期後半/Fall(2nd half)...	33
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9026】 社会調査法5 [竹元 秀樹] 秋学期前半/Fall(1st half)....	35
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9027】 社会調査法6 [竹元 秀樹] 秋学期後半/Fall(2nd half)...	36
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9028】 社会調査法7 [見田 朱子] 春学期前半/Spring(1st half)	37
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9029】 社会調査法8 [竹元 秀樹] 春学期後半/Spring(2nd half)	39
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9030】 政策分析評価技法 [阿部 一知] 春学期後半/Spring(2nd half)	40
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9031】 市民参加の理論と実践 [杉崎 和久、小島 聡、谷本 有美子] 春学期前半/Spring(1st half) .....	41
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9033】 地域コンサルティング論 [佐谷 和江] 春学期前半/Spring(1st half).....	43
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9034】 ファシリテーション演習 [徳田 太郎] 秋学期前半/Fall(1st half).....	45
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9035】 C S R論 [長谷川 直哉] 春学期前半/Spring(1st half)...	47
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 【X9037】 政策研究概論 (外国語) ※中国語 [毛 桂築] 秋学期授業/Fall	49

公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 <b>【X9038】</b> 公共政策論文技法1 [白鳥 浩、笹米地 真理、宮崎 一徳] 春学期前半/Spring(1st half) .....	51
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 <b>【X9039】</b> 学術的文章作成演習(基礎) [渊元 初姫、西谷内 博美、宮川 路子、林 嶺那、竹元 秀樹] 春学期前半/Spring(1st half).....	52
公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目 <b>【X9040】</b> 学術的文章作成演習(応用) [西谷内 博美] 秋学期前半/Fall(1st half).....	53
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9041】</b> 政策学研究 [渊元 初姫] 春学期後半/Spring(2nd half).....	54
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9042】</b> 行政学事例研究の方法 [林 嶺那] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	55
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9045】</b> 自治体議会論 [鍵屋 一] 春学期後半/Spring(2nd half).....	56
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9046】</b> 公務員制度研究 [森谷 明浩] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	57
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9047】</b> 都市政策概論 [杉崎 和久] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	59
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9048】</b> 都市政策事例研究 [杉崎 和久] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	60
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9049】</b> 政策過程研究 [土山 希美枝] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	61
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9050】</b> 自治体福祉政策論 [鏡 諭] 秋学期前半/Fall(1st half).....	62
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9052】</b> コミュニティ制度論 [名和田 是彦] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	64
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9053】</b> 日本政治史研究 [明田川 融] 春学期授業/Spring .....	66
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9054】</b> 地方自治論 [渡部 朋宏] 春学期後半/Spring(2nd half).....	67
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9055】</b> 自治体経営論 [谷本 有美子] 春学期後半/Spring(2nd half).....	69
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9056】</b> 防災危機管理研究 [鍵屋 一] 春学期前半/Spring(1st half).....	71
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9057】</b> 雇用労働政策研究 [濱口 桂一郎] 秋学期前半/Fall(1st half).....	72
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9058】</b> 政策過程事例研究 [鄭 智允] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	73
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9059】</b> 政策開発実践論 [清水 英弥、富澤 守、高橋 良一、藤原 大] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	74
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9060】</b> 公共政策実践論1(地方自治研究) [渡部 朋宏、伊藤 哲也、小西 真樹] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	76
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9061】</b> 公共政策実践論2(公共政策の基礎) [鈴木 良祐、栗田 昌之] 春学期前半/Spring(1st half) .....	78
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目 <b>【X9062】</b> 公共政策実践論3(人材育成と専門教育) [折田 朋美、宇佐美 淳、鳥山 亜由美] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	80
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目 <b>【X9063】</b> ガバナンス研究 [芦立 秀朗] 春学期前半/Spring(1st half).....	82
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目 <b>【X9064】</b> リージョナリズムと非政府組織 [上原 史子] 秋学期集中/Intensive(Fall) .....	83
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目 <b>【X9065】</b> 企業論 [加藤 寛之] 春学期授業/Spring .....	84
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目 <b>【X9066】</b> グローバル企業戦略論 [多田 和美] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	85
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目 <b>【X9068】</b> NPO論 [池本 修悟] 春学期前半/Spring(1st half) .....	86
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目 <b>【X9069】</b> 市民社会とコミュニティ [名和田 是彦] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	88
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目 <b>【X9070】</b> 都市ガバナンス論 [植木 豊] 秋学期前半/Fall(1st half).....	90

公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目 【X9072】 文化政策研究 [松本 茂章] 春学期前半/Spring(1st half).....	91
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目 【X9073】 シンクタンク論 [蒔田 純] 秋学期集中/Intensive(Fall)	93
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目 【X9074】 行政法研究 [天本 哲史] 秋学期前半/Fall(1st half)	95
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目 【X9076】 ジェンダー政策研究 [中野 洋恵] 春学期後半/Spring(2nd half).....	96
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目 【X9077】 公共哲学研究 [西谷内 博美] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	98
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目 【X9078】 イノベーション政策論 [糸久 正人] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	99
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目 【X9079】 外交政策論 [宮本 悟] 春学期前半/Spring(1st half)	101
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目 【X9080】 国際環境政策の社会学 [島田 昭仁] 春学期授業/Spring	103
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目 【X9083】 比較公共政策論 [桐谷 仁] 春学期後半/Spring(2nd half).....	104
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9100】 論文研究指導 1 A [杉崎 和久] 春学期授業/Spring .....	106
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9101】 論文研究指導 1 B [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall.....	107
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9102】 論文研究指導 1 A [土山 希美枝] 春学期授業/Spring .....	108
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9103】 論文研究指導 1 B [土山 希美枝] 秋学期授業/Fall .....	109
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9104】 論文研究指導 1 A [名和田 是彦] 春学期授業/Spring.....	110
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9105】 論文研究指導 1 B [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall .....	112
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9106】 論文研究指導 1 A [林 嶺那] 春学期授業/Spring.....	114
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9107】 論文研究指導 1 B [林 嶺那] 秋学期授業/Fall .....	115
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9108】 論文研究指導 1 A [廣瀬 克哉] 春学期授業/Spring .....	116
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9109】 論文研究指導 1 B [廣瀬 克哉] 秋学期授業/Fall.....	117
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9110】 論文研究指導 1 A [天本 哲史] 春学期授業/Spring .....	118
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9111】 論文研究指導 1 B [天本 哲史] 秋学期授業/Fall.....	119
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9112】 論文研究指導 1 A [糸久 正人] 春学期授業/Spring .....	120
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9113】 論文研究指導 1 B [糸久 正人] 秋学期授業/Fall.....	121
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9114】 論文研究指導 1 A [加藤 寛之] 春学期授業/Spring .....	122
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9115】 論文研究指導 1 B [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall.....	123
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9116】 論文研究指導 1 A [白鳥 浩] 春学期授業/Spring.....	124
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9117】 論文研究指導 1 B [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall .....	125
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9118】 論文研究指導 1 A [多田 和美] 春学期授業/Spring .....	126
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9119】 論文研究指導 1 B [多田 和美] 秋学期授業/Fall.....	127
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9120】 論文研究指導 1 A [谷本 有美子] 春学期授業/Spring .....	128
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9121】 論文研究指導 1 B [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall .....	129
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9122】 論文研究指導 1 A [北浦 康嗣] 春学期授業/Spring .....	130
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9123】 論文研究指導 1 B [北浦 康嗣] 秋学期授業/Fall.....	131
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9126】 論文研究指導 2 A [土山 希美枝] 春学期授業/Spring .....	132
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9127】 論文研究指導 2 B [土山 希美枝] 秋学期授業/Fall .....	133
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9128】 論文研究指導 2 A [名和田 是彦] 春学期授業/Spring.....	134
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9129】 論文研究指導 2 B [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall .....	135
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9132】 論文研究指導 2 A [廣瀬 克哉] 春学期授業/Spring .....	136
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9133】 論文研究指導 2 B [廣瀬 克哉] 秋学期授業/Fall.....	137
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9136】 論文研究指導 2 A [糸久 正人] 春学期授業/Spring .....	138
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9137】 論文研究指導 2 B [糸久 正人] 秋学期授業/Fall.....	139
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9140】 論文研究指導 2 A [白鳥 浩] 春学期授業/Spring.....	140
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9141】 論文研究指導 2 B [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall .....	141
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9142】 論文研究指導 2 A [多田 和美] 春学期授業/Spring .....	142
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9143】 論文研究指導 2 B [多田 和美] 秋学期授業/Fall.....	143
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9144】 論文研究指導 2 A [谷本 有美子] 春学期授業/Spring .....	144
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9145】 論文研究指導 2 B [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall .....	145
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9200】 修士論文 [公共政策研究科論文指導教員] 年間授業/Yearly .	146
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9250】 政策研究論文 [公共政策研究科論文指導教員] 年間授業/Yearly	147
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9300】 公共政策学特殊研究 1 A [杉崎 和久] 春学期授業/Spring .....	148

公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9301】 公共政策学特殊研究 1 B [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall.....	149
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9302】 公共政策学特殊研究 1 A [土山 希美枝] 春学期授業/Spring.....	150
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9303】 公共政策学特殊研究 1 B [土山 希美枝] 秋学期授業/Fall.....	151
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9304】 公共政策学特殊研究 1 A [名和田 是彦] 春学期授業/Spring.....	152
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9305】 公共政策学特殊研究 1 B [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall.....	153
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9306】 公共政策学特殊研究 1 A [林 嶺那] 春学期授業/Spring.....	154
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9307】 公共政策学特殊研究 1 B [林 嶺那] 秋学期授業/Fall.....	155
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9308】 公共政策学特殊研究 1 A [廣瀬 克哉] 春学期授業/Spring.....	156
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9309】 公共政策学特殊研究 1 B [廣瀬 克哉] 秋学期授業/Fall.....	157
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9310】 公共政策学特殊研究 1 A [天本 哲史] 春学期授業/Spring.....	158
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9311】 公共政策学特殊研究 1 B [天本 哲史] 秋学期授業/Fall.....	159
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9312】 公共政策学特殊研究 1 A [糸久 正人] 春学期授業/Spring.....	160
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9313】 公共政策学特殊研究 1 B [糸久 正人] 秋学期授業/Fall.....	161
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9314】 公共政策学特殊研究 1 A [加藤 寛之] 春学期授業/Spring.....	162
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9315】 公共政策学特殊研究 1 B [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall.....	163
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9316】 公共政策学特殊研究 1 A [白鳥 浩] 春学期授業/Spring.....	164
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9317】 公共政策学特殊研究 1 B [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall.....	165
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9318】 公共政策学特殊研究 1 A [多田 和美] 春学期授業/Spring.....	166
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9319】 公共政策学特殊研究 1 B [多田 和美] 秋学期授業/Fall.....	167
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9320】 公共政策学特殊研究 1 A [谷本 有美子] 春学期授業/Spring.....	168
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9321】 公共政策学特殊研究 1 B [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall.....	169
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9322】 公共政策学特殊研究 1 A [北浦 康嗣] 春学期授業/Spring.....	170
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9323】 公共政策学特殊研究 1 B [北浦 康嗣] 秋学期授業/Fall.....	171
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9324】 公共政策学特殊研究 2 A [杉崎 和久] 春学期授業/Spring.....	172
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9325】 公共政策学特殊研究 2 B [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall.....	173
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9326】 公共政策学特殊研究 2 A [土山 希美枝] 春学期授業/Spring.....	174
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9327】 公共政策学特殊研究 2 B [土山 希美枝] 秋学期授業/Fall.....	175
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9328】 公共政策学特殊研究 2 A [名和田 是彦] 春学期授業/Spring.....	176

公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9329】 公共政策学特殊研究 2 B [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall .....	177
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9332】 公共政策学特殊研究 2 A [廣瀬 克哉] 春学期授業/Spring .....	178
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9333】 公共政策学特殊研究 2 B [廣瀬 克哉] 秋学期授業/Fall .....	179
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9348】 公共政策学特殊研究 3 A [杉崎 和久] 春学期授業/Spring .....	180
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9349】 公共政策学特殊研究 3 B [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall .....	181
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9350】 公共政策学特殊研究 3 A [土山 希美枝] 春学期授業/Spring .....	182
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9351】 公共政策学特殊研究 3 B [土山 希美枝] 秋学期授業/Fall .....	183
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9352】 公共政策学特殊研究 3 A [名和田 是彦] 春学期授業/Spring .....	184
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9353】 公共政策学特殊研究 3 B [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall .....	185
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9356】 公共政策学特殊研究 3 A [廣瀬 克哉] 春学期授業/Spring .....	186
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9357】 公共政策学特殊研究 3 B [廣瀬 克哉] 秋学期授業/Fall .....	187
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9364】 公共政策学特殊研究 3 A [白鳥 浩] 春学期授業/Spring .....	188
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9365】 公共政策学特殊研究 3 B [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall .....	189
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9368】 公共政策学特殊研究 3 A [谷本 有美子] 春学期授業/Spring .....	190
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9369】 公共政策学特殊研究 3 B [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall .....	191
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 【X9400】 地方自治特殊研究 [渡部 朋宏] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	192
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 【X9401】 政策過程特殊研究 [土山 希美枝] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	194
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9358】 公共政策学特殊研究 3 A [渕元 初姫] 春学期授業/Spring .....	195
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 【X9402】 行政学特殊研究 [林 嶺那] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	196
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 【X9403】 行政学事例特殊研究 [林 嶺那] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	197
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 【X9404】 都市政策特殊研究 [杉崎 和久] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	198
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 【X9405】 都市政策事例特殊研究 [杉崎 和久] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	199
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 【X9406】 コミュニティ政策特殊研究 [名和田 是彦] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	200
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 【X9407】 コミュニティ構造特殊研究 [名和田 是彦] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	202
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9408】 公共政策ワークショップ (公共) 1 A [名和田 是彦] 春学期授業/Spring .....	204
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9409】 公共政策ワークショップ (公共) 1 B [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall .....	205
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9410】 公共政策ワークショップ (公共) 2 A [名和田 是彦] 春学期授業/Spring .....	206
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9411】 公共政策ワークショップ (公共) 2 B [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall .....	207
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9412】 公共政策ワークショップ (公共) 3 A [名和田 是彦] 春学期授業/Spring .....	208
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9413】 公共政策ワークショップ (公共) 3 B [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall .....	209

公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9414】 公共政策ワークショップ (政策研究) 1 A [加藤 寛之] 春学期授業/Spring .....	210
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9415】 公共政策ワークショップ (政策研究) 1 B [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall .....	211
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9416】 公共政策ワークショップ (政策研究) 2 A [加藤 寛之] 春学期授業/Spring .....	212
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9417】 公共政策ワークショップ (政策研究) 2 B [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall .....	213
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9418】 公共政策ワークショップ (政策研究) 3 A [加藤 寛之] 春学期授業/Spring .....	214
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9419】 公共政策ワークショップ (政策研究) 3 B [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall .....	215
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9450】 博士論文 [公共政策研究科論文指導教員] 年間授業/Yearly .....	216
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9500】 行政学基礎 [林 嶺那] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	217
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9501】 比較行政研究 [申 龍徹] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	218
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9502】 公共哲学基礎 [宮川 裕二] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	219
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9503】 政策学基礎 [淵元 初姫] 春学期前半/Spring(1st half) .....	220
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9504】 現代政治分析研究 [白鳥 浩] 春学期前半/Spring(1st half) .....	221
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9505】 公共政策とジャーナリズム [白鳥 浩] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	222
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9506】 公共政策の経済分析 [北浦 康嗣] 秋学期授業/Fall .....	223
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9507】 財政学基礎 [其田 茂樹] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	224
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9508】 経済学基礎 [芦谷 典子] 春学期前半/Spring(1st half) .....	225
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9509】 環境哲学・倫理学 [吉永 明弘] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	227
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9510】 環境法基礎 [岡松 暁子、奥田 進一、野村 摂雄] 春学期前半/Spring(1st half) .....	228
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9511】 地球環境学基礎 [藤倉 良] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	230
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9512】 国際政治学基礎 [大野 知之] 春学期授業/Spring .....	231
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9513】 国際協力論 [武貞 稔彦] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	232
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9514】 サステナビリティ研究入門 [藤田 研二郎、金藤 正直、長谷川 直哉、渡邊 誠、小島 聡、武貞 稔彦、藤倉 良] 春学期前半/Spring(1st half) .....	234
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9515】 S D G sへの招待 【SDGsPlus履修証明プログラム専用科目】 [小島 聡、武貞 稔彦、(一社) SDGs市民社会ネットワーク (新田英理子、長島美紀、星野智子)] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	235
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9516】 公共政策と持続可能な社会づくり [林 嶺那、加藤 寛之、杉崎 和久、谷本 有美子、土山 希美枝、名和田 是彦] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	236
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9517】 政策法務論 [神崎 一郎] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	238
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9518】 立法学研究 [神崎 一郎] 春学期前半/Spring(1st half) .....	240
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9519】 政策評価論 [南島 和久] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	242
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9520】 社会調査法 1 [竹元 秀樹] 春学期前半/Spring(1st half) .....	244
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9521】 社会調査法 2 [見田 朱子] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	245
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9522】 社会調査法 3 [見田 朱子] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	246

サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9523】 社会調査法 4 [見田 朱子] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	248
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9524】 社会調査法 5 [竹元 秀樹] 秋学期前半/Fall(1st half).....	250
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9525】 社会調査法 6 [竹元 秀樹] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	251
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9526】 社会調査法 7 [見田 朱子] 春学期前半/Spring(1st half).....	252
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9527】 社会調査法 8 [竹元 秀樹] 春学期後半/Spring(2nd half).....	254
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9528】 政策分析評価技法 [阿部 一知] 春学期後半/Spring(2nd half).....	255
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9529】 市民参加の理論と実践 [杉崎 和久、小島 聡、谷本 有美子] 春学期前半/Spring(1st half).....	256
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9531】 地域コンサルティング論 [佐谷 和江] 春学期前半/Spring(1st half).....	258
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9532】 ファシリテーション演習 [徳田 太郎] 秋学期前半/Fall(1st half).....	260
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9534】 政策研究概論 (外国語) ※中国語 [毛 桂榮] 秋学期授業/Fall.....	262
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9535】 公共政策論文技法 1 [白鳥 浩、菅米地 真理、宮崎 一徳] 春学期前半/Spring(1st half).....	264
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9536】 学術的文章作成演習 (基礎) [瀧元 初姫、西谷内 博美、宮川 路子、林 嶺那] 春学期前半/Spring(1st half).....	265
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9537】 学術的文章作成演習 (応用) [西谷内 博美] 秋学期前半/Fall(1st half).....	266
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9538】 環境行政法 [野村 撰雄] 秋学期前半/Fall(1st half).....	267
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9540】 環境政策法務と条例 [朝賀 広伸] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	268
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9543】 外交政策論 [宮本 悟] 春学期前半/Spring(1st half).....	270
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9549】 サステナブル地域政策研究 [小島 聡] 春学期後半/Spring(2nd half).....	272
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9550】 地域環境計画研究 [湯澤 規子] 秋学期前半/Fall(1st half).....	273
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9552】 環境ガバナンス I [藤田 研二郎] 秋学期前半/Fall(1st half).....	274
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9553】 環境経営論 [金藤 正直] 春学期授業/Spring.....	276
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9554】 サステナビリティ・レポート [八木 裕之] 秋学期前半/Fall(1st half).....	278
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9555】 環境経済論 [杉野 誠] 春学期前半/Spring(1st half).....	280
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9556】 サステナブル経営論 [長谷川 直哉] 春学期前半/Spring(1st half).....	282
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9557】 環境と知的財産権 [中里 妃沙子] 春学期後半/Spring(2nd half).....	284
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9560】 グローバル環境経営論 [白鳥 和彦] 秋学期前半/Fall(1st half).....	286
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9561】 開発経済論 [山田 英嗣] 秋学期前半/Fall(1st half).....	287
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9562】 国際環境協力論 [藤倉 良] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	289
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) サステナビリティ学専攻専門科目 【X9564】 国際協力フィールドスタディ [武貞 稔彦] 秋学期集中/Intensive(Fall).....	290



サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9565】 国際NGO・NPO論 [小野 行雄] 秋学期前半/Fall(1st half).....	291
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9566】 ヒューマン・エコロジー [高橋 五月] 秋学期前半/Fall(1st half).....	292
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9567】 社会起業家論 [松本 勝男] 秋学期前半/Fall(1st half).....	293
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9568】 国際環境政策の社会学 [島田 昭仁] 春学期授業/Spring.....	295
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9569】 環境工学の基礎 [藤倉 良] 春学期前半/Spring(1st half).....	296
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9570】 環境資源・エネルギー政策論 [土井 菜保子] 春学期授業/Spring.....	297
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9571】 公衆衛生研究 [宮川 路子] 春学期前半/Spring(1st half).....	299
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9572】 自然環境共生研究 [三村 起一] 春学期前半/Spring(1st half).....	301
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9573】 大気人間環境論 [北川 徹哉] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	302
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9577】 サステイナビリティ学事例研究Ⅲ [渡邊 誠] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	303
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9600】 論文研究指導 1 A [岡松 暁子] 春学期授業/Spring.....	304
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9601】 論文研究指導 1 B [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall.....	305
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9602】 論文研究指導 1 A [金藤 正直] 春学期授業/Spring.....	306
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9603】 論文研究指導 1 B [金藤 正直] 秋学期授業/Fall.....	307
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9604】 論文研究指導 1 A [北川 徹哉] 春学期授業/Spring.....	308
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9605】 論文研究指導 1 B [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall.....	309
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9606】 論文研究指導 1 A [小島 聡] 春学期授業/Spring.....	310
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9607】 論文研究指導 1 B [小島 聡] 秋学期授業/Fall.....	311
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9610】 論文研究指導 1 A [杉野 誠] 春学期授業/Spring.....	312
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9611】 論文研究指導 1 B [杉野 誠] 秋学期授業/Fall.....	313
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9612】 論文研究指導 1 A [高田 雅之] 春学期授業/Spring.....	314
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9613】 論文研究指導 1 B [高田 雅之] 秋学期授業/Fall.....	315
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9614】 論文研究指導 1 A [高橋 五月] 春学期授業/Spring.....	316
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9615】 論文研究指導 1 B [高橋 五月] 秋学期授業/Fall.....	317
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9616】 論文研究指導 1 A [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring.....	318
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9617】 論文研究指導 1 B [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall.....	319
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9622】 論文研究指導 1 A [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring.....	320
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9623】 論文研究指導 1 B [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall.....	321
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9624】 論文研究指導 1 A [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring.....	322
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9625】 論文研究指導 1 B [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall.....	323
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9626】 論文研究指導 1 A [藤倉 良] 春学期授業/Spring.....	324
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9627】 論文研究指導 1 B [藤倉 良] 秋学期授業/Fall.....	325
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9628】 論文研究指導 1 A [松本 倫明] 春学期授業/Spring.....	326
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9629】 論文研究指導 1 B [松本 倫明] 秋学期授業/Fall.....	327
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9630】 論文研究指導 1 A [宮川 路子] 春学期授業/Spring.....	328
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9631】 論文研究指導 1 B [宮川 路子] 秋学期授業/Fall.....	329
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9636】 論文研究指導 2 A [金藤 正直] 春学期授業/Spring.....	330
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9632】 論文研究指導 1 A [渡邊 誠] 春学期授業/Spring.....	331
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9633】 論文研究指導 1 B [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall.....	332
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9637】 論文研究指導 2 B [金藤 正直] 秋学期授業/Fall.....	333
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9638】 論文研究指導 2 A [小島 聡] 春学期授業/Spring.....	334
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9639】 論文研究指導 2 B [小島 聡] 秋学期授業/Fall.....	335
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9640】 論文研究指導 2 A [高田 雅之] 春学期授業/Spring.....	336
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9641】 論文研究指導 2 B [高田 雅之] 秋学期授業/Fall.....	337
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9642】 論文研究指導 2 A [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring.....	338
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9643】 論文研究指導 2 B [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall.....	339
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9644】 論文研究指導 2 A [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring.....	340

サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 <b>[X9645]</b> 論文研究指導 2 B [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	341
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 <b>[X9646]</b> 論文研究指導 2 A [藤倉 良] 春学期授業/Spring	342
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 <b>[X9647]</b> 論文研究指導 2 B [藤倉 良] 秋学期授業/Fall ..	343
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 <b>[X9648]</b> 論文研究指導 2 A [宮川 路子] 春学期授業/Spring	344
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 <b>[X9649]</b> 論文研究指導 2 B [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	345
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 <b>[X9650]</b> 論文研究指導 2 A [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	346
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 <b>[X9651]</b> 論文研究指導 2 B [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	347
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 <b>[X9680]</b> 修士論文 [公共政策研究科論文指導教員] 年間授 業/Yearly .....	348
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 <b>[X9690]</b> 政策研究論文 [公共政策研究科論文指導教員] 年間 授業/Yearly .....	349
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9700]</b> サステナビリティ特殊研究 1 A [岡松 暁子] 春学期授業/Spring .....	350
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9701]</b> サステナビリティ特殊研究 1 B [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall .....	351
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9704]</b> サステナビリティ特殊研究 1 A [北川 徹哉] 春学期授業/Spring .....	352
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9705]</b> サステナビリティ特殊研究 1 B [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall .....	353
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9706]</b> サステナビリティ特殊研究 1 A [小島 聡] 春学期授業/Spring .....	354
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9707]</b> サステナビリティ特殊研究 1 B [小島 聡] 秋学期授業/Fall .....	355
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9710]</b> サステナビリティ特殊研究 1 A [杉野 誠] 春学期授業/Spring .....	356
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9711]</b> サステナビリティ特殊研究 1 B [杉野 誠] 秋学期授業/Fall .....	357
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9712]</b> サステナビリティ特殊研究 1 A [高田 雅之] 春学期授業/Spring .....	358
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9713]</b> サステナビリティ特殊研究 1 B [高田 雅之] 秋学期授業/Fall .....	359
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9714]</b> サステナビリティ特殊研究 1 A [高橋 五月] 春学期授業/Spring .....	360
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9715]</b> サステナビリティ特殊研究 1 B [高橋 五月] 秋学期授業/Fall .....	361
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9716]</b> サステナビリティ特殊研究 1 A [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring .....	362
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9717]</b> サステナビリティ特殊研究 1 B [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall .....	363
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9722]</b> サステナビリティ特殊研究 1 A [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring .....	364
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9723]</b> サステナビリティ特殊研究 1 B [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall .....	365
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9724]</b> サステナビリティ特殊研究 1 A [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring .....	366
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9725]</b> サステナビリティ特殊研究 1 B [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall .....	367
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9726]</b> サステナビリティ特殊研究 1 A [松本 倫明] 春学期授業/Spring .....	368
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9727]</b> サステナビリティ特殊研究 1 B [松本 倫明] 秋学期授業/Fall .....	369
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9728]</b> サステナビリティ特殊研究 1 A [宮川 路子] 春学期授業/Spring .....	370
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9729]</b> サステナビリティ特殊研究 1 B [宮川 路子] 秋学期授業/Fall .....	371
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) <b>[X9734]</b> サステナビリティ特殊研究 1 A [渡邊 誠] 春学期授業/Spring .....	372

サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9735】 サステイナビリティ特殊研究1 B [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall.....	373
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9736】 サステイナビリティ特殊研究2 A [小島 聡] 春学期授業/Spring .....	374
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9737】 サステイナビリティ特殊研究2 B [小島 聡] 秋学期授業/Fall.....	375
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9738】 サステイナビリティ特殊研究2 A [杉野 誠] 春学期授業/Spring .....	376
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9739】 サステイナビリティ特殊研究2 B [杉野 誠] 秋学期授業/Fall.....	377
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9740】 サステイナビリティ特殊研究2 A [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring .....	378
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9741】 サステイナビリティ特殊研究2 B [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall.....	379
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9742】 サステイナビリティ特殊研究2 A [藤倉 良] 春学期授業/Spring .....	380
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9743】 サステイナビリティ特殊研究2 B [藤倉 良] 秋学期授業/Fall.....	381
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9744】 サステイナビリティ特殊研究2 A [宮川 路子] 春学期授業/Spring .....	382
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9745】 サステイナビリティ特殊研究2 B [宮川 路子] 秋学期授業/Fall .....	383
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9746】 サステイナビリティ特殊研究2 A [渡邊 誠] 春学期授業/Spring .....	384
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9747】 サステイナビリティ特殊研究2 B [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall.....	385
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9748】 サステイナビリティ特殊研究3 A [金藤 正直] 春学期授業/Spring .....	386
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9749】 サステイナビリティ特殊研究3 B [金藤 正直] 秋学期授業/Fall .....	387
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9750】 サステイナビリティ特殊研究3 A [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring .....	388
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9751】 サステイナビリティ特殊研究3 B [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall .....	389
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9752】 サステイナビリティ特殊研究3 A [藤倉 良] 春学期授業/Spring .....	390
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9753】 サステイナビリティ特殊研究3 B [藤倉 良] 秋学期授業/Fall.....	391
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9754】 サステイナビリティ特殊研究3 A [宮川 路子] 春学期授業/Spring .....	392
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9755】 サステイナビリティ特殊研究3 B [宮川 路子] 秋学期授業/Fall .....	393
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9756】 サステイナビリティ特殊研究3 A [吉永 明弘] 春学期授業/Spring .....	394
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9757】 サステイナビリティ特殊研究3 B [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall .....	395
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9758】 サステイナビリティ特殊研究3 A [渡邊 誠] 春学期授業/Spring .....	396
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9759】 サステイナビリティ特殊研究3 B [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall.....	397
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9800】 環境法基礎D [岡松 暁子、奥田 進一、野村 撰雄] 春学期前半/Spring(1st half).....	398
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9801】 地球環境学基礎D [藤倉 良] 春 学期後半/Spring(2nd half).....	400
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9802】 国際協力論D [武貞 稔彦] 秋学 期前半/Fall(1st half) .....	401

サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9803】 市民参加の理論と実践D [杉崎和久、小島 聡、谷本 有美子] 春学期前半/Spring(1st half) .....	403
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9806】 環境経営論D [金藤 正直] 春学期授業/Spring .....	405
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9807】 環境行政法D [野村 摂雄] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	407
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9809】 自然環境共生研究D [三村 起一] 春学期前半/Spring(1st half) .....	408
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9811】 大気人間環境論D [北川 徹哉] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	409
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9812】 環境工学の基礎D [藤倉 良] 春学期前半/Spring(1st half) .....	410
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9814】 環境経済論D [杉野 誠] 春学期前半/Spring(1st half) .....	411
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9815】 サステイナブル地域政策研究D [小島 聡] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	413
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9816】 公衆衛生研究D [宮川 路子] 春学期前半/Spring(1st half) .....	414
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9817】 サステイナブル経営論D [長谷川直哉] 春学期前半/Spring(1st half) .....	416
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9818】 地域環境計画研究D [湯澤 規子] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	418
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9820】 国際環境協力論D [藤倉 良] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	419
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9821】 国際協力フィールドスタディD [武 貞 稔彦] 秋学期集中/Intensive(Fall) .....	420
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9822】 ヒューマン・エコロジーD [高橋 五月] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	421
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9825】 サステナビリティ学事例研究D Ⅲ [渡邊 誠] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	422
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9826】 環境ガバナンスD I [藤田 研二郎] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	423
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9850】 博士論文 [公共政策研究科論文指導教員] 年間授業/Yearly .....	425



POL500P1 - 001 (政治学 / Politics 500)

## 政治理論

杉田 敦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

### 【到達目標】

権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎回、英語文献を講読して議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献講読1	テキストを読んでディスカッションする1
第2回	文献講読2	テキストを読んでディスカッションする2
第3回	文献講読3	テキストを読んでディスカッションする3
第4回	文献講読4	テキストを読んでディスカッションする4
第5回	文献講読5	テキストを読んでディスカッションする5
第6回	文献講読6	テキストを読んでディスカッションする6
第7回	文献講読7	テキストを読んでディスカッションする7
第8回	文献講読8	テキストを読んでディスカッションする8
第9回	文献講読9	テキストを読んでディスカッションする9
第10回	文献講読10	テキストを読んでディスカッションする10
第11回	文献講読11	テキストを読んでディスカッションする11
第12回	文献講読12	テキストを読んでディスカッションする12
第13回	文献講読13	テキストを読んでディスカッションする13
第14回	文献講読14	テキストを読んでディスカッションする14

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

### 【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

### 【参考書】

特になし

### 【成績評価の方法と基準】

参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点100点。

### 【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する。

### 【その他の重要事項】

本講義は、学部における外書購読（英語）と合同で実施する。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学

<研究テーマ>政治理論

<主要研究業績>

『権力論』、『境界線の政治学 増補版』（いずれも岩波現代文庫）

### 【Outline (in English)】

This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic literature in English.

POL500P1 - 002 (政治学 / Politics 500)

## 行政学基礎

林 嶺那

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。

### 【到達目標】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻「行政学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第2回	論文の報告①	割り当てられた論文についての報告
第3回	「論文の報告①」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第4回	論文の報告②	割り当てられた論文についての報告
第5回	「論文の報告②」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第6回	論文の報告③	割り当てられた論文についての報告
第7回	「論文の報告③」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第8回	論文の報告④	割り当てられた論文についての報告
第9回	「論文の報告④」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第10回	論文の報告⑤	割り当てられた論文についての報告
第11回	「論文の報告⑤」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第12回	論文の報告⑥	割り当てられた論文についての報告
第13回	「論文の報告⑥」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第14回	まとめ	これまで扱った論文について振り返る

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、割り当てられた論文の読解60分、論文報告資料準備120分で、合計180分を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価4290円  
曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価2970円

### 【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーの提出（50%）  
論文の報告（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

行政や政策に関するニュースを見る。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学  
<研究テーマ>人事行政  
<主要研究業績>林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

### 【Outline (in English)】

The course aims to give students an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL500P1 - 003 (政治学 / Politics 500)

**比較行政研究****申 龍徹**

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この科目では、比較行政研究の学際的理解及び比較研究手法の習得を目指しており、学位論文の作成に役立てることが目的である。

**【到達目標】**

- ①比較行政研究の理論展開を分析することにより、比較行政研究の理論的背景を理解できる（比較行政運動の展開）。
- ②OECD加盟国における多様な行政現象の中から事例分析を行い、国際比較の方法論を体系的に習得できる（主要国の行政システムの展開と特徴）。
- ③実際の行政活動の改善に役立つ政策案が提案できる専門能力の習得ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻「比較行政研究」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

国際化の深化という現代社会の行政現象を分析する上で欠かせない比較行政研究を研究対象とするこの授業は、講義と発表で進める。講義では、比較行政研究の学際的な発展過程について理解を深めるとともに、OECD加盟国の行政制度及び行政過程、個別行政の特徴に関する国際比較を通じて、現在の行政課題に対する政策対案の作成を可能とする政策形成能力の向上を目指す。前半は講義を中心に、後半は受講者の発表と討論で構成する。発表では、受講者が設定したテーマ（行政課題）に対し、国内やOECD諸国との事例の比較・分析を通じて、もっとも有効と思われる対案の作成を目指す。原則として対面で授業を実施すること、新型コロナウイルス感染状況等を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンラインに切り替える。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：オンライン/online**

回	テーマ	内容
1回目	授業の概要説明について	講義の概要、個人課題の設定、発表スケジュールの調整
2回目	比較行政の概念と歴史的展開及び比較行政と発展行政の理論統合	形成期、沈滞期、転換期、跳躍期の比較行政研究 比較行政研究と発展行政論の関係、理論的統合
3回目	行政システムの国際比較A	英米独仏の行政システムの比較分析
4回目	行政システムの国際比較B	北欧諸国の行政システムの比較分析
5回目	行政システムの国際比較C	NICsの行政システム及び日韓の行政システムの比較分析
6回目	比較行政研究事例分析A	受講者の事例発表・討論
7回目	比較行政研究事例分析B	受講者の事例発表・討論

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

事前に講義レジュメ及び参考資料などをアップする。

- ・ Eric E. Otenyo & Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
- ・ Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

**【参考書】**

特に限定しないが、主に参考している資料は、以下を推薦する。

- ・ Eric E. Otenyo & Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
- ・ Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

**【成績評価の方法と基準】**

質問力（25%）、調査力（25%）、構成力（25%）、プレゼンテーション（25%）の4つによる絶対評価（100%）  
受講者は、講義の後半において、比較研究を手法を活用した発表をお願いする。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講者には関心のあるテーマの発表が課題として課されるので、事前準備が必要です。

**【担当教員の専門分野】**

<専門領域> 行政学、比較行政

<研究テーマ> 自治行政の国際比較

<主要研究業績>

- 『現代日本の公務員人事—政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』（執筆分担、第一法規、2019）
- 『公務員制度改革という時代』（執筆分担、敬文堂、2017）
- 『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版社、2013）
- 『アジアの中の日本官僚：歴史と現在』（執筆分担、勉誠出版、2010）
- 『韓国行政・自治入門』（単著、公人社、2006）
- 『自治体経営改革』（執筆分担、公人社、2006）

**【Outline (in English)】**

Interdisciplinary understanding of comparative administrative research and acquisition of comparative research method  
Understand the theoretical development of comparative administrative research and understand the theoretical background of comparative administrative research (development of comparative administrative movement)

**Required reading references**

Absolute evaluation (100%) based on four questions: questioning ability (25%), research ability (25%), composition ability (25%), and presentation ability (25%).



PHL500P1 - 004 (哲学/Philosophy 500)

## 公共哲学基礎

宮川 裕二

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目の一つである。近代以降の社会思想の展開をたどり、「自由」と「公共」という公共哲学の基礎的な概念について理解し、現代の公共的課題を探究できる能力を涵養することを目的とする。

### 【到達目標】

公共哲学の基礎的な概念である「自由」と「公共」、およびそれらの相関について理解し、それを踏まえて現代の公共的課題を探究できる能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サステナビリティ学専攻「公共哲学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講生は分担して、指定された文献の箇所について要点と論点を整理して授業のはじめに報告し、教員のサジェストを交えつつ全体で議論と考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入的講義／文献講読：坂本後掲書序章・第1章	導入的講義、「社会思想とは何か」、「マキアヴェリの社会思想」
第2回	文献講読：坂本後掲書第2章・第3章	「宗教改革の社会思想」、「古典的『社会契約』思想の展開」
第3回	文献講読：坂本後掲書第4章・第5章	「啓蒙思想と文明社会論の展開」、「ルソーの文明批判と人民主権論」
第4回	文献講読：坂本後掲書第6章・第7章	「スミスにおける経済学の成立」、「『哲学的急進主義』の社会思想——保守から改革へ」
第5回	文献講読：坂本後掲書第8章・第9章	「近代自由主義の批判と継承——後進国における『自由』」、「マルクスの資本主義批判」
第6回	文献講読：坂本後掲書第10章・第11章	「J・S・ミルにおける文明社会論の再建」、「西欧文明の危機とヴェーバー」
第7回	文献講読：坂本後掲書第12章・第13章・終章	「『全体主義』批判の社会思想——フランクフルト学派とケインズ、ハイエク」、「現代『リベリズム』の諸潮流」、「社会思想の歴史から何を学ぶか」

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は文献を準備学習し、授業の後は復習を行う。また報告（分担制）のためのレジュメ作成を含む準備と、授業の最終回に提示する期末レポートの作成を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』（名古屋大学出版会、2014年）を文献講読のテキストとする。各章とも、社会思想家の思想内容が要領よく整理されていると同時に、まとめとしてその思想が「自由」と「公共」という概念にどのように結び付いているのかが提示されており、本科目の趣旨に相応しい文献と思われる。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度授業改善アンケートの結果が得られていないためフィードバックできない。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共政策の政治社会学

<研究テーマ>

新しい公共、ガバナンス、統治性研究、地方自治

<主要研究業績>

『「新しい公共」とは何だったのか—四半世紀の軌跡と新自由主義統治性』（風行社、2023年）

『「公共」のオルタナティブは可能か—「新しい公共」言説の検証から』（『世界』2023年9月号、2023年）

『統治性研究を用いた現代日本の実証的研究に関する一考察』（『唯物論研究年誌』第27号、2022年）

### 【Outline (in English)】

(Course outline) The purpose of this course is to understand the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public," by tracing the development of social thought since the modern era, and to cultivate students' ability to investigate contemporary public issues.

(Learning Objectives) The goals of this course are to develop an understanding of the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public" and their correlations, and to acquire the ability to investigate contemporary public issues based on this understanding. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and review it after the class. In addition, students are expected to share in the preparation of in-class reports, and to write a term-end report to be presented at the end of the class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process; in-class report (30%), term-end report (50%), and in-class contribution(20%).

POL500P1 - 006 (政治学 / Politics 500)

**政策学基礎**

淵元 初姫

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

政治学からの政策研究へのアプローチについて、基礎的な知識と分析手法の習得を目指す、入門的な位置づけの科目である。学部までの段階で政治学を専攻していない受講生も想定し、政治学の基礎概念の習得ができるように配慮する。取りあげる主要な論点は、政策と政治過程の関係、政治的正統性と政策的合理性の関係、制度研究と政策研究の関係などである。

**【到達目標】**

政策研究一般の中で、政治学からのアプローチの特性を把握し、対象とする政策領域に対する適切な研究設問を立てることができるようになる。その上、学術論文の作成の際に、適切な文脈の中で活用することができることを到達目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究の基本的知識について整理します。受講者は、個人の研究関心に沿って課題を設定して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	政策に関する諸学問分野の中で政治学からのアプローチの特徴とは何か。あわせて政策に関する諸学問分野の中で、政治学の隣接諸学の基本的な特徴を整理する。
第2回	公共政策学の誕生前史	公共政策学の誕生についてそのルーツを探る。
第3回	公共政策学の成立	公共政策がアメリカで成立したことの背景を整理する。
第4回	公共政策学の発展	公共政策学の発展とその挫折について検討する。
第5回	公共政策学の変容	公共政策学の変容と、多様な政策科学のアプローチについて学ぶ。
第6回	公共政策の構成と特徴	公共政策の構成要素及び公共政策がもつ特徴について整理する。
第7回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、公共政策学の歴史に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第8回	政策のライフ・ステージと政策過程	政策過程を段階に分けて整理する概念を検討する。
第9回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策段階論に関する論点など）について報告・質疑を行う。

第10回	政策過程における参加者	政策過程におけるアクターの役割について考える。
第11回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策過程におけるアクターに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第12回	政策をめぐる価値の対立	政策がめざすべき諸価値について検討し、それらの対立関係について考える。
第13回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策をめぐる価値の対立に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第14回	まとめ	講義のまとめを行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しません。

**【参考書】**

必要に応じて授業中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

課題報告（30%）及び期末レポート（40%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（30%）により評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

公共政策学を理解するために、その歴史的な成り立ちを丁寧に説明することが重要であると考えています。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策  
 <研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権  
 <主要研究業績>  
 「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社  
 「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店  
 「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

**【Outline (in English)】**

The overall aim of this course is to introduce students to a range of political theories and concepts used in the academic study of public policy, such as rationalism, incrementalism and institutionalism. The course aims to be accessible for those who have not studied politics before, and is suitable for students looking for a multi-disciplinary experience. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting. Students will be Assessed by; Course presentation 30%, Short Essay 50%, Class contribution 20%

POL500P1 - 007 (政治学 / Politics 500)

## 現代政治分析研究

白鳥 浩

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代政治の総合的理解を目指す。

### 【到達目標】

同上。詳細は【授業の進め方と方法】に記載。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

①現代政治の今日的展開の姿を主に研究者を志望とする学生を対象とし、デモクラシーの視点及び脱冷戦時代の視点から分析し、現代政治分析の理念と手法を明らかにする

②具体的には、国際・国内・地域社会における公的課題の解決に向けて、自治体と住民・市民組織との新たな関係の再構築

③国際・国内のガバナンスの理念に立脚した政治システムと機構の改革方向

④冷戦後の構造変化と政府の新たなあり方などの課題を具体的に考え、そのための仕組みや政策のあり方を設計することを目的とする

⑤さらに、将来のデモクラシーについて履修した学生諸君と共に考える

⑥対面により講義を行う。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	現代政治分析とは	同左
第2回	現代政治学の基礎	同左
第3回	政治学の基礎概念	同左
第4回	政治学の理論	同左
第5回	現代日本政治の基礎	同左
第6回	現代日本政治の変動	同左
第7回	日本政治の現在	同左
第8回	日本政治の構造	同左
第9回	構造的視座による理解	同左
第10回	国際的視座の中の日本	同左
第11回	国民国家の国際化	同左
第12回	比較の中の日本政治	同左
第13回	多様なデモクラシー	同左
第14回	日本政治の理論的解明	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に適宜指示。

【参考書】

①白鳥浩『都市対地方の日本政治』芦書房、2009年

【成績評価の方法と基準】

試験、レポートと講義への積極性による総合評価（100%）。(講義への貢献度50%、期末50%を目安とする)。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course aims to attain student's understanding of modern politics. In order to reach that goal, it is needed to study modern politics in a systematic way. It starts out from clarification of the definitions of important notions which appears on literatures of political science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and decision-making process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

POL500P1 - 008 (政治学 / Politics 500)

## 公共政策とジャーナリズム

白鳥 浩

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における政策とジャーナリズムの総合的理解。

### 【到達目標】

本講座の目的は、「新聞が行っている報道、論説、提言などの実際を現役記者等が紹介し、新聞メディアの機能、影響力、課題について解説・分析することで、大学院生の視野を広げ、新聞など活字文化への関心を高める」こととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

本講義は読売新聞特別講座である。第一線のジャーナリストをお招きし、新聞社の調査、分析と報道の実際と、論説提言のあり方を学ぶ。講義は、毎回異なるジャーナリストのオムニバス講義によって行う。以下は予想される講義のトピックであるが、変更もありうる。また講義計画は対面を中心とするが、講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	新聞とジャーナリズム	同左
(2)	政治とジャーナリズム	同左
(3)	安全保障政策とジャーナリズム	同左
(4)	外交政策とジャーナリズム	同左
(5)	社会保障政策とジャーナリズム	同左
(6)	医療政策とジャーナリズム	同左
(7)	経済政策とジャーナリズム	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義当日の読売新聞朝刊を必ず持参して、講義に臨む事。

【参考書】

講義時に適時指示。

【成績評価の方法と基準】

出席、毎回の講義で課される課題への取り組み、毎回の感想文、さらにレポートなどを総合的に考慮して評価（100%）。(講義への貢献度50%、期末50%を目安)。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course offers advanced understanding of the public policy on each policy fields, international politics, domestic politics, public administration, local government, international economy and so on. Lecturers are all distinguished journalists from the Yomiuri Shinbun, Yomiuri News Paper Company.

The goals of this course are to realize relationship between journalism and policy process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

ECN500P1 - 022 (経済学 / Economics 500)

## 公共政策の経済分析

北浦 康嗣

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、行動経済学の知見をいかして行動変容を促す「ナッジ」への関心が高まりつつあります。この授業の目的は、「ナッジ」を公共政策にあてはめるとき、どのような効果があるのか、また、どのような問題点が生じるのかについて検討することです。この授業では、行動経済学を学びつつ、現在、多くの自治体で取り入れられている「ナッジ」について議論します。その際に、受講者の経験が必要となります。単に講義を聞くだけではなく、受講者の生きた知識をもとに問題点を指摘します。

### 【到達目標】

- ①伝統的経済学と行動経済学の違いが説明できる。
- ②行動経済学の長所と短所を説明できる。
- ③「ナッジ」に関する問題点を指摘することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻「公共政策の経済分析」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義を前提に進めます。しかしながら「ナッジ」に関しては受講生の経験に基づいて議論します。必ず、それぞれの経験について記録しておいてください。また、必要に応じてグラフによる図解を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	伝統的経済学と行動経済学	合理的と非合理的のちがいに關して議論します。
第2回	双曲割引（1）	時間割引率に關して議論します。
第3回	双曲割引（2）	現在バイアスに關して議論します。
第4回	コミットメントデバイス	コミットメントデバイスに關して議論します。
第5回	選択のオーバーロード現象	選択のオーバーロード現象に關して議論します。
第6回	プロスペクト理論（1）	損失回避性について議論します。
第7回	プロスペクト理論（2）	参照点に關して議論します。
第8回	ナッジ（1）	ナッジの定義について解説します。
第9回	ナッジ（2）	世界におけるナッジの事例について議論します。
第10回	ナッジ（3）	公共経済分野におけるナッジの事例について議論します。
第11回	ナッジ（4）	健康保健分野におけるナッジの事例について議論します。
第12回	ナッジ（5）	労働分野におけるナッジの事例について議論します。
第13回	ナッジ（6）	環境分野におけるナッジの事例について議論します。
第14回	行動経済学の将来	行動経済学と政策に關する展望について議論します。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、ナッジの事例を実務や文献から調査する時間を設けます。とくに成績評価に關係するので必ず時間をとるようにしてください。

### 【テキスト（教科書）】

授業内で指定します。

### 【参考書】

Ohtake, Kang, Ikeda (2010)  
Hyperbolic discounting, the sign effect, and the body mass index  
<https://doi.org/10.1016/j.jhealeco.2010.01.002>  
Wong (2008)  
How much time-inconsistency is there and does it matter? Evidence on self-awareness, size, and effects  
<https://doi.org/10.1016/j.jebo.2008.09.005>  
Ariely and Wertenbroch (2002)  
PROCRASTINATION, DEADLINES, AND PERFORMANCE: Self-Control by Precommitment  
<https://doi.org/10.1111/1467-9280.00441>

### 【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めての授業なので、まだありません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
マクロ経済学、公共経済学  
<研究テーマ>  
開発途上国における教育の役割  
<主要研究業績>  
Kitaura, Koji & Miyazawa, Kazutoshi, 2021. "Inequality and conditionality in cash transfers: Demographic transition and economic development," Economic Modelling, Elsevier, vol. 94(C), pages 276-287.

### 【Outline (in English)】

Recently, there has been a growing concern with "nudges," which use knowledge from behavioral economics to promote behavior change. The purpose of this class is to examine the effects of "nudges" when applied to public policy and what problems they may cause. In this class, we will study behavioral economics and discuss the "nudges" that are currently being adopted by many local governments. In this case, the experience of the students will be necessary. Students will not simply listen to a lecture, but will point out problems based on their own experiences.

ECN500P1 - 010 (経済学 / Economics 500)

## 財政学基礎

其田 茂樹

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、財政学全般の概要と日本の財政制度の理解に重点を置く。政策の遂行や評価において密接に関係する財政であるため、これらの理解は研究の進展に資するものと思われる。

### 【到達目標】

受講者自身の研究に対して財政の理論や制度を位置づけながら研究の進捗を図ること、日本の財政制度の持つ課題を認識し、自らの見解を形成・確立することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面授業で行う予定である。受講者数にもよるが、授業計画に従い財政学の基本的な素養を確認しつつ、受講者各自の問題意識と財政との関連等について授業内で報告を求める予定である。受講者の疑問点などは授業内で質疑の時間を設けるとともに、その場での回答が難しい場合は、後日対応する。なお、受講者の要望を反映して授業計画等は柔軟に見直す予定である。可能な限り初回の授業への参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの内容について共有し、授業の進め方や授業計画に関する意見交換を行う。
第2回	財政と財政学	各自の研究テーマや問題関心を確認しつつ財政との関係を意識してみる。
第3回	市場の失敗と政府の失敗	財政運営を行う政府の必要性について経済学的に考察する。
第4回	予算と予算原則	予算に関する理論と日本の制度を理解する。
第5回	経費論	経費に関する理論と日本における運用の特質を理解する。
第6回	租税論	租税理論や租税原則を学ぶ。
第7回	日本の主な税目	所得税、法人税、消費税について理解を深める。
第8回	公債論	公債に関する理論、制度を学ぶ。
第9回	財政投融资	財政投融资制度の概要を理解する。
第10回	国と地方の財政関係	税収や歳出における国と地方の関係を理解する。
第11回	国庫支出金	国から地方への財源移転のうち、原則として使途が特定された国庫支出金を理解する。
第12回	地方交付税	一般補助金としての性格をもつ地方交付税の重要性を理解する。
第13回	口頭報告	各自の問題意識と財政の関係等をまとめてみる。

第14回 まとめ

報告に対する受講者相互の質疑等をおこないつつ授業全体を振り返る。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。学術書・専門書による学習もさることながら、財政や地域経済にまつわる報道等についても各授業計画に掲げた項目に応じて目を通すなどして関心を払ってください。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

### 【参考書】

1. 佐藤進・関口浩『新版財政学入門』同文館出版、2019年
  2. 佐々木伯朗編『財政学制度と組織を学ぶ』有斐閣、2019年
  3. 高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020年
- その他、授業内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

口頭報告の内容（70%）、平常点（30%）による。平常点の内訳は、授業内でのコメント（15%）、相互討論への参加（15%）で評価する。口頭報告の機会は、原則として最終回に用意する予定であるが、初回や途中の授業における発言等も加味して評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

対面授業による受講者相互のコミュニケーションへの期待が大きいと考えていたが、意外に、ハイフレックスの授業を求める声も多かった。初回の授業を含めて柔軟に対応する必要性を感じたことから、事前にハイフレックスにも対応できるようにしておきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にないが、都合によりオンライン参加等になる場合には必要な機器を用意されたい。

### 【その他の重要事項】

受講者の研究内容や関心に応じて授業の進め方や授業計画は柔軟に対応する予定である。すなわち、授業計画における授業形態は対面としてあるが、受講者が参加しやすい形態を柔軟に検討する。そのため、第1回・第2回の授業には特に積極的にご参加いただきたい。一方で、担当者の都合でオンラインに変更されることがある旨、ご留意いただきたい。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
財政学、地方財政論、経済政策論  
<研究テーマ>  
国と地方の財政関係、地方税における法定外税と超過課税、公共交通政策と財政  
<主要研究業績>  
『自治から考える自治体DX』（編者）公人の友社、2021年  
『国税森林環境税』（共著）公人の友社、2021年  
『生活を支える社会のしくみを考える』（共著）日本経済評論社、2019年  
『地方自治論（第2版）』2018年、弘文堂 など

### 【Outline (in English)】

This course focuses on an overview of Public Finance and fiscal system in Japan.

In addition to reference books, you need to be interested in the websites and press of ministries and agencies to understand the administrative and financial system of Japan.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Research presentation:70%,Partipation&Contribution:30%.

ECN500P1 - 011 (経済学 / Economics 500)

**経済学基礎**

芦谷 典子

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

経済学の基礎の部分は、ミクロ経済学とマクロ経済学の二つから構成されます。このうちミクロ経済学は、個々の経済主体、消費者や企業の行動を分析する学問です。消費者と企業が出会う場である市場についての分析も対象で、国をまたいだ取引である貿易も、ミクロ経済学の対象です。これに対して、マクロ経済学は、ひとつの国の経済活動の成果、パフォーマンスを分析する学問です。どのような政策を実行すれば、結果として国民の所得が増えるのか、失業が減るのか、物価が安定するのかといった、暮らし直結の政策論議も含まれるので、マクロ経済学の方が、より身近に感じられる受講生がいらっしゃるかもしれません。これらを踏まえ、いくつかのトピックを選びながら、講義形式で授業を進行してゆきます。

**【到達目標】**

- ①経済学の基礎を理解し、②それを使って現実の経済状況を把握し、③求められる政策が何かについて考える力を習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

講義1時間、受講者によるディスカッション1時間、振り返り1時間を基礎に、1日（2回分）の授業で1つのトピックを完結します。受講者の希望に応じて、e-ラーニングを取り入れますが、希望の場合は教科書の購入が必要になります。準備時間1~2時間以内の宿題を各日出题し、予習復習および期末試験の代替とします。講義資料は配布を基本としますが、復習時は教科書の熟読を推奨します。宿題の作成にあたっては、教科書は特に必要ありません。代わりに参照できる文献を適宜紹介し、宿題の作成方法について講義の最後に説明します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方/自己紹介/研究テーマ・関心領域の紹介
第2回	経済学の原理と方法	経済学の原理と実践；経済学の方法と問い；最適化；需要と供給、均衡
第3回	ミクロ経済学の基礎1	消費者と生産者、需要曲線、供給曲線、需要の価格弾力性、長期競争均衡
第4回	ミクロ経済学の基礎2	市場の構造、完全競争、産業間の資源配分、公平性と効率性
第5回	マクロ経済学の基礎1	経済全体の俯瞰、国民経済計算、GDPでは測定されないもの、実質と名目
第6回	マクロ経済学の基礎2	所得、失業、物価、景気、金融市場
第7回	貿易1	生産可能曲線、絶対優位、比較優位
第8回	貿易2	国際貿易、貿易体制、保護貿易
第9回	国際金融1	国際貿易と国際金融、經常収支、金融収支

第10回	国際金融2	為替相場制度、外国為替市場、為替レートと輸出
第11回	開発経済1	経済成長のパターン、不平等、貧困
第12回	開発経済2	経済制度と経済発展、対外援助
第13回	経済政策1	財政政策
第14回	経済政策2	金融政策

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習・宿題に要する時間は各回毎に2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』 東洋経済新報社、2020年  
『アセモグル/レイブソン/リスト マクロ経済学』 東洋経済新報社、2019年  
※購入は不要です。ただしe-ラーニングの活用希望者は購入が必要です。e-ラーニングの実施の有無については、初回の講義で受講生の希望を伺います。

**【参考書】**

適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

- ①平常授業の活動状況：60%
- ②宿題：40%

**【学生の意見等からの気づき】**

社会人受講生が多い傾向にあることから、欠席時にもフォローがしやすくやるように、講義は1日（2回分）に1トピックを完結する方法で実施します。本年度は講義を主体とする進行になりますが、日頃の疑問や仕事に生かせる考え方、論文に生かせる考え方など、受講者の間の楽しみにもなる意見交換を期待します。

**【学生が準備すべき機器他】**

非対面 zoom 授業へのアクセスが可能な PC の準備が必要です。また、zoom アプリのインストールが必要です。

**【その他の重要事項】**

初回および最終回は対面、その他は非対面 zoom によるリアルタイム・オンライン授業となります。アクセス先は講義ページに掲載します。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 経済理論および経済統計  
<研究テーマ> 不動産と国際経済（金融、貿易、開発、環境、補償）  
<主要研究業績> "The Modified Phillips Curve as a Possible Answer to Japanese Deflation," *Advances in Economics and Business*, 5 (10), 2017; "Determinants of Potential Seller/Lessee Benefits in Sale-Leaseback Transactions," *International Real Estate Review*, 18 (1), 2015; "Perfect' Real Estate Liquidity and Adjustment Paths to Long-run Equilibrium," *Journal of International Economic Studies*, 27 (5), 2013; "The Robustness of Cartels Facilitated by Anti-dumping Regulations," *Australian Economic Papers*, 43 (3), 2004 ほか。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This economics lecture introduces basic theories on microeconomics and macroeconomics. Microeconomics views individual actors of the economy, such as consumers, households and firms and the market economics of larger scale producers. Cross-border transaction is considered trade, as we know, and it can also be explained using microeconomic theory. Through the study of macroeconomics theory, on the other hand, we take an overall look at the economy starting with measuring economic performance, followed by learning the model of circular flow. Everyday issues like unemployment, inflation, and salaries are usually seen as key targets of economic policies, and therefore seem familiar to us, and thus a good choice for the focus of our lecture. So, at least one current economic issue will be discussed in each lecture to illustrate what we study in the class.

**【Learning Objectives】**

This lecture has three objectives as follows and we will approach them cumulatively, building on the concepts one by one.

1. First objective - to understand the basic concepts of Economics
2. Second objective - to utilize them to analyze real economic issues
3. Third objective - to derive the appropriate policy to tackle these issues

**【Learning activities outside of classroom】**

As a review each class, students will be asked to write an answer to a question to submit by the next lecture. For this you will be given reference and other study materials including lecture notes at the end of each lecture. Students will be asked to read through the reference and find related issues including business issues around you to discuss in class. Your answers and corresponding activities will be graded as a replacement of the final exam.

**【Grading Criteria /Policy】**

This lecture puts more weight on the in-class activities, up to 60%. The remainder of your grade will be allocated to what you study at home prior to the every lecture, consisting of 40% of the total grade.

Class participation and in-class contribution: 60%

Reports and assigned tasks: 40%



PHL500P1 - 013 (哲学/Philosophy 500)

## 環境哲学・倫理学

吉永 明弘

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講者は環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握する。あわせて発表を行い、自身の問題意識を他者に伝えることができる。

### 【到達目標】

受講者は、環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握し、それをもとに現実の環境問題に対する自分なりの考えを文章で表現することができる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

対面で行う。環境哲学・倫理学の文献の解説と、参加者による発表を中心に進める。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の進め方を説明する
第2回	現代倫理学の射程	現代倫理学の基本文献を紹介する
第3回	欧米の環境倫理	欧米の環境倫理の基本文献を紹介する
第4回	グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理に関する文献を紹介する
第5回	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理に関する文献を紹介する
第6回	科学技術の倫理	科学技術の倫理を論じた文献を紹介する
第7回	公害と環境正義	公害と環境正義に関する文献を紹介する
第8回	自然保護から生物多様性保全へ	自然保護・生物多様性保全に関する文献を紹介する
第9回	意見交換会（1）	授業内容に関する意見交換を行う
第10回	環境問題と社会科学	社会科学の視点から環境問題を論じた文献を紹介する
第11回	地域環境保全と市民の力	地域環境や市民運動に関する文献を紹介する
第12回	場所論と風土論	場所論と風土論の基本文献を紹介する
第13回	景観保全と都市環境	景観保全と都市環境に関する文献を紹介する
第14回	意見交換会（2）	授業内容に関する意見交換を行う

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017年

### 【成績評価の方法と基準】

授業内の意見交換での発言（20%）と期末の書評レポート（80%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やすことにしました。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境倫理学

<研究テーマ>都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理

<主要研究業績>

『都市の環境倫理』

『ブックガイド 環境倫理』

『未来の環境倫理学』

いずれも勁草書房より刊行

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire environmental reading and presentation. At the end of the course, students are expected to writing a book review. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following book review : 80%,in class contribution: 20%.

LAW500P1 - 014 (法学 / law 500)

**環境法基礎**

岡松 暁子、奥田 進一、野村 摂雄

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境問題に関する民事法、行政法、国際法について、その基礎を学ぶ。本授業は、法律の初学者向けに行われる。

**【到達目標】**

環境法の知識のない学生が、その全体像を把握することが、到達目標である。環境分野で仕事をする上で不可欠な知識を身につけることを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

まず、環境法がどのような法律分野から構成されており、環境問題に対して、どのような機能を果たしているのかについて概観する。また、基本的な文献リサーチ方法についても説明する。次に、環境私法について、私人間の環境紛争で、民法に規定された不法行為という考え方がどのように機能するのかを学ぶ。そして、最後に、実際に起こった公害事案をもとにしながら、判例法の妥当性を検証する。次に、環境行政法について、日本における環境行政法の展開を学んだ後、個別規制法として公害規制法や自然保護法、環境行政訴訟と環境行政組織を概観する。

最後に、国際的な環境問題を検討するにあたり必要となる国際法の基本理論を学ぶ。国際社会の基本単位である国家の役割、国際法の特徴を概観した後、受講者の関心がある国際環境問題を取り上げながら、国際社会における環境に関する紛争解決、国家責任等について適宜判例を紹介しつつ、国際環境問題への国際法からのアプローチの仕方を習得する。

また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウィルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境法の概観（1） （奥田進一）	環境問題と環境法
2	環境法の概観（2） （奥田進一）	①環境法とは何か、②環境法の構成
3	環境私法（1）（奥田進一）	①環境私法とは何か、②不法行為の基礎理論
4	環境私法（2）（奥田進一）	損害賠償請求と差止請求
5	環境私法（3）（奥田進一）	①環境訴訟における因果関係の立証、②複合汚染と共同不法行為
6	環境私法（4）（奥田進一）	公害事案に基づく議論
7	環境行政法（1）（野村摂雄）	環境行政法の展開
8	環境行政法（2）（野村摂雄）	公害規制法
9	環境行政法（3）（野村摂雄）	自然保護法

10	環境行政法（4）（野村摂雄）	環境行政訴訟・行政組織
11	国際環境法（1）（岡松暁子）	国際法の基本原則と国際環境問題
12	国際環境法（2）（岡松暁子）	国際環境問題における国家責任法とその限界
13	国際環境法（3）（岡松暁子）	国際環境条約と国内法
14	国際環境法（4）（岡松暁子）	判例研究

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。適宜資料を配布または紹介する。

**【参考書】**

奥田進一＝長島光一『環境法～将来世代との共生』（成文堂、2023）  
北村喜宣『環境法（第5版）』（有斐閣ストゥディア、2020年）。  
黒川哲志・奥田進一編『環境法へのフロンティア』（成文堂、2015年）。  
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦他編著『ケースブック国際環境法』（東信堂、2020年）。

**【成績評価の方法と基準】**

配分：授業内での発表、議論への参加・貢献度30%、期末レポート70%。

評価基準：3人の講師が、授業中に、それぞれ2つのテーマを提示する。この合計6つのテーマの中からレポートを1つ作成し、担当講師に提出する。選択したテーマにつき、判例や法律論文等を最低5つ以上参照して、レポートを書くこと。論点、構成、内容の理解度から評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【担当教員の専門分野等】**

岡松 暁子  
 <専門領域>国際法  
 <研究テーマ>国際法の履行確保、国際環境法、国際原子力法  
 <主要研究業績>  
 『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「福島第一原子力発電所のALPS処理水の海洋放出にかかる諸問題」（2022年）、「ロンドン条約96年議定書の遵守手続」（2022年）、「SDGsと生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017年）等。  
 奥田進一  
 <専門領域>環境法、民法  
 <研究テーマ>  
 <主要研究業績>（環境関連のもの）  
 ①共著『環境法のフロンティア』（成文堂、2015）  
 ②共著『流域ガバナンスと中国の環境政策』（成文堂、2015）  
 ③「中国の環境問題と法政策」『アジアの環境法政策と日本』（商事法務研究会、2015）所収  
 野村摂雄  
 <専門領域>  
 環境法・海事法  
 <研究テーマ>  
 地球温暖化、海洋環境法、環境条約の国内実施  
 <主要研究業績>  
 ①『演習ノート環境法』（法学書院、2010年）。  
 ②「欧州連合（EU）における海洋環境保全法制」環境法研究14号（2022年）1頁以下。  
 ③「資源管理法としての環境法」小賀野晶一・黒川哲志編『環境法のロジック』（成文堂、2022年175頁以下）。

**【Outline (in English)】**

< Course Outline >  
 Students will learn the basics of civil, administrative, and international law on environmental issues in this class. The class will be taught on the assumption that you are a layman in the law.  
 < Learning Objectives >

The goal of this course is for students who have no knowledge of environmental law to grasp the whole picture. Students are expected to acquire essential knowledge for working in the environmental field.

< Learning Activities outside of Classroom >

Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, three instructors will each present two themes during these classes. You can take one of the themes, referring to five or more legal cases or papers, write a report on the theme, and submit it to the instructor in charge. Your report will be evaluated based on issues, structure, and understanding of the content.

SES500P1-015 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500)

**地球環境学基礎**

藤倉 良

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用である。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせない。本講義では気候変動を中心にしつつ、オゾン層保護、酸性雨など環境問題や、エネルギーや淡水などの資源問題について、発生メカニズムと対処に関する科学の基礎を修得し、地球規模や国境を超える環境問題に対処する基礎力を養うことを目指す。

**【到達目標】**

- 以下を説明できるだけの科学的基礎力を養う。
- 人口増加と減少パターンの発生理由。
- オゾンホールが南極上空にできる理由。
- 温室効果のメカニズムと気候変動の科学の不確実性。
- 日本では酸性雨の生態影響が顕在化していない理由。
- 生物多様性を保全しなければならない理由。
- 資源のもつ意味。
- 淡水、土壌、金属などの資源のもつ役割。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

中学卒業レベルの理科の知識を習得していることを前提にして、パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントはHoppiiにアップする。なお講義の順番は状況によって変更になることがある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	地球環境問題を取りまく諸状況
第2回	人口	人口が増加する要因、都市の人口問題
第3回	オゾン層	オゾン層が破壊されるメカニズム、オゾン層破壊物質、ウィーン条約、モントリオール議定書、国内対策
第4回	気候変動①	地球温暖化のメカニズム、将来予測
第5回	気候変動②	I P C C、国際社会、国際交渉、パリ協定
第6回	気候変動③	緩和策
第7回	気候変動④	エネルギー資源
第8回	気候変動⑤	適応策、気候安全保障
第9回	越境する大気汚染	酸性雨、光化学オキシダント、PM2.5
第10回	資源とは何か	「資源」の持つ意味、「資源の呪い」、資源に関する楽観論と悲観論
第11回	水資源	世界の水資源、国際流域の課題
第12回	生物多様性	生物多様性保全の意義、生態系サービス、遺伝資源

第13回	土壌資源、窒素とリン	土壌の成り立ち、機能、窒素とリンの循環、リン資源
第14回	金属資源	ベースメタル、レアメタル、リサイクル

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

藤倉良・藤倉まなみ 『文科系のための環境科学入門』 有斐閣

**【参考書】**

講義中に指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

最終回に行う試験(100%)またはレポート(100%)で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

中学校卒業程度の理科の知識があれば理解できるように心がけるが、高校卒業程度の知識が必要な場合もある。

**【学生が準備すべき機器他】**

とくにない。

**【その他の重要事項】**

授業は対面で行うが、オンラインで同時配信するので、学生は各自の都合に合わせて受講されたい。オンラインのURLはHoppiiで通知する。

**【担当教員の専門分野等】**

環境システム科学、国際環境協力

**【担当教員が関連した書籍】**

1. Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford
2. Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota (Editor) (2012) Climate Change Mitigation and International Development Cooperation, (p.264) Earthscan, London
3. Ryo Fujikura (Guest Editor) (2011) Environmental Policy in Japan: From Pollution Control to Sustainable Environmental Management, Special Issue, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5
4. Ryo Fujikura and Masato Kawanishi (Editor) (2010) Climate Change Adaptation and International Development – Making Development Cooperation More Effective, Earthscan, London

**【Outline (in English)】**

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this course, students will learn the basic science behind the mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone depletion, acid rain, and resource problems such as energy and fresh water. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each. Grading will be based on the final exam (100%) or report (100%).

POL500P1 - 016 (政治学 / Politics 500)

**国際政治学基礎**

大野 知之

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

国際政治学とは何か、その概要を解説するのが本講義の目的です。ロシアのウクライナ軍事侵攻や中国の台頭などによって第二次世界大戦後の国際秩序が大きく動揺していると言われます。今こそ国際関係を冷静に見る目が必要な時代はありません。入門論としての本講義では、国際政治を理解する上での基本的諸概念を学びます。

**【到達目標】**

本講義では、以下を到達目標とします。

1. 国際政治学の基本的概念を理解することによって、国際情勢を客観的に把握できるようにする。
2. 他人の意見の受け売りではなく、自分の知力で国際政治について意見を主張できるようにする。
3. 偏見、思い込み、固定観念を打破し、公平かつ価値中立的な国際政治に対する見方を養う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

対面授業を基本として、講義形式で行います。この科目は3つのパートで構成されています。まず前半部は国際政治学の基本的な概念や基礎理論について学びます。その後、中間部では国際政治学の代表的なテーマについて前半部で学んだことを踏まえながら考えます。そして、後半部では、昨今の国際情勢についてこれまでの議論を踏まえながら考えます。また授業では、定期的リアクションペーパーを提出してもらうほか、授業期間中に1回小テストを実施する予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～国際政治学入門の入門	国際政治学（国際関係論）とは何か、学問分野の基本的概念を解説します。
2	アナキーとは何か？	国際政治の最も基本的な概念の一つであるアナキーについて考えます。
3	リアリズム	国際政治学の主要理論のうち、リアリズムと呼ばれる理論について扱います。
4	リベラリズム	リベラリズムと呼ばれる国際政治理論について、経済的相互依存、国際制度、民主主義の3つの柱という観点から考えます。
5	国際政治における価値の役割	国際社会における規範の形成を中心に国際政治における価値の役割を考えます。
6	対外政策決定過程	外交政策はどのように決定されるのか？ 政策決定の理論のうち、アリソンモデルとバットナムの2層ゲームモデルを中心に考えます。
7	安全保障	安全保障について、同盟と抑止の2つの概念を取り上げて議論します。

8	国際政治経済	国際経済の政治的側面について、前半部で扱ったリアリズムとリベラリズムの視点から考えます。
9	国際機構の役割	国際連合を中心に国際機構の機能と役割について考えます。
10	戦後日本外交の展開	現在の日本外交について議論する際に欠かせない、戦後日本外交の歴史的展開について概観します。
11	冷戦後の東アジア国際関係	冷戦後の東アジアの国際政治について、朝鮮半島情勢と中国の台頭の2つを中心に検討します。
12	国境を超えた人の移動を取り巻く問題	難民や移民などの人の移動をめぐる問題が各国の内政と対外政策にどのような影響を与えているのか考察します。
13	理論からみた現代の国際紛争	合理的選択論など近年、日本でも取り上げられるようになってきた理論を中心にウクライナや中東での戦争について検討します。
14	学習のまとめ	半期の学習を振り返り、まとめます。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに1時間、講義終了後に内容を復習するのに2時間、合計3時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

講義の中で毎回必ず使用する教科書は指定しません。

**【参考書】**

講義全体の参考書として、いくつか掲示します。さらに詳細な文献リストは講義内で紹介します。

- 国際政治学の入門書・教科書
- ・村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将著『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣 2023年）
- ・佐渡友哲、信夫隆司、柑本英雄著『国際関係論（第3版）』（弘文堂 2018年）
- ・草野大希、小川裕子、藤田泰昌『国際関係論入門』（ミネルヴァ書房 2023年）
- ・宮岡勲『入門講義 安全保障論（第2版）』（慶應義塾大学出版会 2023年）
- 国際政治史・外交史
- 国際政治学を履修する際は、高校の世界史や大学の国際政治史、外交史の知識が役立ちます。参考文献としては、下記のを挙げておきます。
- ・小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史-主権国家体系のあゆみ』（有斐閣 2018年）
- ・添谷芳秀『入門講義 戦後日本外交史』（慶應義塾大学出版会 2023年）
- ・森聡、福田円編『入門講義 戦後国際政治史』（慶應義塾大学出版会 2022年）

**【成績評価の方法と基準】**

授業中に1回小テストを行います。(30%)  
また最後に学期末試験を行います。(70%)  
この両者を合計した100点満点で成績評価を行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

**【Outline (in English)】**

The aim of this lecture is to explain an outline of international politics / international relations. The impact of Russian aggression against Ukrain and the rise of china is very heavily, but we must study the basic concepts of international affairs based upon academic discipline now.

ARSI500P1 - 017 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 国際協力論

武貞 稔彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs (持続可能な開発目標) に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

### 【到達目標】

一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1)現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2)国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3)誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻「国際協力論」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

報告対象とする文献については、2024年度秋学期開始前に学習支援システム (Hoppii) を通じて通知/配布予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景-途上国の貧困と先進国との格差-について概観する。
第2回	国際協力をめぐる歴史と制度 (1) 経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後1970年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治/歴史の文脈に位置づけて概観する。
第3回	国際協力をめぐる歴史と制度 (2) 経済成長路線から人間開発路線へ	1980年代、90年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方/取り組みの重点の変化を概観する。
第4回	国際協力をめぐる歴史と制度 (3) 環境と持続可能な開発	2000年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。

第5回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第6回	「開発」とは何か:開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標 (行き着く先) について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第7回	民間企業と国際協力	国際協力の主要なアクターのひとつとなっている民間企業の活動について概観し、その将来像について議論する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

### 【参考書】

松本勝男著 (2023年) 『日本型開発協力 一途上国支援はなぜ必要なのか』 (ちくま新書)  
 牧田東一編著 (2013年) 『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』 (学陽書房)  
 勝間靖編著 (2012年) 『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』 (ミネルヴァ書房)  
 斎藤文彦 (2005年) 『国際開発論』 (日本評論社)  
 外務省 (毎年発行) 『日本の開発協力』 (ODA白書)

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末レポート (50%)、各回の担当報告の内容 (30%)、授業やディスカッションへの貢献 (20%) を総合的に判断して行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

過去には議論の時間の充実 (拡大) を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい (望ましくない) 「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』 勁草書房 2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

### 【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.

#### 【Learning Objectives】

Completing the course, students are expected;

- 1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
- 2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
- 3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.

[Learning Activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

SES500P1-021 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500)

## サステナビリティ研究入門

藤田 研二郎、金藤 正直、長谷川 直哉、渡邊 誠、小島 聡、武貞 稔彦、藤倉 良

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義はサステナビリティと関連する問題を研究するための学際的なアプローチを学ぶための入門コースである。

学生は、今後のサステナビリティ研究の出発点として、サステナビリティ学専攻を構成する様々な研究分野の基本概念と方法論の概要を理解する。また、これらの分野において、サステナビリティという概念がどのように扱われているかを理解することを目的としている。

### 【到達目標】

学生はサステナビリティ研究を行っていく上での出発点として、サステナビリティ学専攻を構成するさまざまな研究領域において、その基礎概念や方法論について概観を得るとともに、それらの領域においてサステナビリティの概念はどのように扱われているのかについて理解する。

講義は7名の教員がオムニバス方式で担当する。学生はこの講義を2年連続して受講することにより、本専攻に所属する専任教員全員の講義を受けることが可能となり、サステナビリティ学における幅広い基礎知識を身に付け、多角的な視野を持つことを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

サステナビリティ学専攻の専任教員が各1回、合計7回を担当するオムニバス形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ／環境 NGO・NPO とパートナーシップ の課題（藤田）	サステナビリティ概念の概要を示す。環境 NGO・NPO の役割と行政をはじめ多様な主体のパートナーシップにおける課題を考察する。
第2回	持続可能な開発と貧困・格差（武貞）	持続可能な開発目標（SDGs）の最初の目標の対象となっている貧困・格差について、歴史的な視点から概説する。
第3回	研究の進め方と論文の書き方（藤倉）	研究テーマはどのように設定すれば良いか、論文はどのように書くべきか、学術論文とはどのようなものなのかについて解説する。
第4回	現代日本社会と地域の持続可能性（小島）	現代日本における地域の持続可能性問題と対応策について、最近のトピックなどをお互いに持ち寄りながら、ワークショップ形式で考える。

第5回	地球システムと人間活動（渡邊）	エネルギーと物質の保存と拡散、物質循環とエントロピーなどについて考察する。（熱力学から考えるサステナビリティ）
第6回	サステナビリティを巡る日本企業の対応（長谷川）	サステナビリティ経営の現状を脱炭素、人的資本経営、コーポレートガバナンスの視点から解説する。
第7回	新たな環境経営・サステナビリティ経営の理論と実践／総括（金藤）	包括的（包摂的）成長戦略（IG戦略）とこの戦略に基づいた企業・地域の取組事例を取り上げる。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

とくになし。

### 【参考書】

その都度教員が指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業最終回に提示するテーマからひとつを選択し、それにもとづくレポートを作成する（100％）。

### 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

### 【Outline (in English)】

"Introduction to Sustainability Studies" is an introductory course to learn interdisciplinary approaches to study sustainability and related issues. As a starting point for future research on sustainability, students will gain an overview of the basic concepts and methodologies of the various research areas that make up Major in Sustainability Studies. In addition, students will gain an understanding of how the concept of sustainability is treated in these fields. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Choose one of the themes presented in the last class and write a final report based on the theme (100%).



SES500P1-020

**SDGsへの招待【SDGsPlus履修証明プログラム専  
用科目】**

小島 聡、武貞 稔彦、(一社)SDGs市民社会ネット  
ワーク(新田英理子、長島美紀、星野智子)

その他属性：

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」(以下SDGs)について、多様な分野で実現に向け取り組んでいる専門家の講義を受ける。それらを通じ、SDGsについての理解を深めると同時に、各人が自身の関心分野を切り口に、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。SDGs Plus 履修証明プログラムの入り口として設置されているものである。なお、この科目は(一社)SDGs市民社会ネットワークとの連携科目として開講する。

**【到達目標】**

グローバルな射程を持ち、多様かつ一部は実現に困難が予想される目標も含んだSDGsについては、主に国際機関、政府やNGO/NPOが主体的に活動するものと思われがちである。しかしSDGsでは、民間企業や市民がその担い手として重要であると認識されている。持続可能な社会について学ぶ受講生として、①SDGsに関する基礎的な知識を持ち、人に説明することができるようになること、②SDGsにあげられた各種課題を「自分ごと」として捉えることができる当事者としての意識を涵養すること、が本講義の目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

本セミナーでは、SDGsに関わって実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者のSDGsや現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。

受講者は各回にコメントペーパー(講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの)の記入と提出が求められる。

同時に可能な範囲で参加者によるアクティブラーニングの要素を取り入れ、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。

最終回には各受講者にショートプレゼンテーションを実施してもらう予定である。

なお、本講義は対面開催を予定するが、不測の事態が発生した場合は授業実施方法を変更する可能性もある。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとSDGs 総論	講義の目的、進め方等の説明。 講義の全体像の確認。SDGsの 動向に関する解説
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	プレゼンテーション と総括	受講者によるショートプレゼン テーションと総括

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント(資料)が配布される。

**【参考書】**

外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など)60%、プレゼンテーション20%、期末レポート20%の総合評価による。

**【学生の意見等からの気づき】**

オンライン実施の経験も踏まえ、参加者のコミュニケーションのバリエーションや方法の工夫に努める。

**【その他の重要事項】**

講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および研究科ウェブサイトにて発表する。

**【実務経験のある教員による授業】**

財団法人における行政研究等の実務及び自治体行政のコンサルティングの経験者と、SDGsの専門組織である社団法人の理事が協働で、コーディネーターを担当する。

**【Outline (in English)】**

**【Course Outline】**

This course is to introduce and give basic understandings of the Sustainable Development Goals, which is internationally agreed goals and strategies toward sustainable societies. Each class will consist of lecture, discussion among participants and guest speaker's lectures.

**【Learning Objectives】**

The SDGs, which have a global scope and include a variety of goals, some of which are expected to be difficult to achieve, are often thought of as being primarily the work of international organizations, governments, and NGOs/NPOs. However, the SDGs recognize the importance of the private sector and citizens as key players. As students learning about sustainable society, the goals of this lecture are (1) to have a basic knowledge of the SDGs and be able to explain them to others, and (2) to cultivate an awareness of being a party to the SDGs so that they can see the various issues listed in the SDGs as their own.

**【Learning Activities outside of classroom】**

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria/Policy】**

Grading will be based on a composite evaluation of 60% contribution points (attitude toward participation, content of comment papers, comments made in class, etc.), 20% presentation, and 20% final report.

POL500P1 - 017 (政治学 / Politics 500)

## 公共政策と持続可能な社会づくり

林 嶺那、加藤 寛之、杉崎 和久、谷本 有美子、土山 希美枝、名和田 是彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科が運営しているSDGs Plus履修証明プログラムを強化するために、公共政策学専攻が提供している入門的科目である。公共政策研究の立場からいくつかの主要な分野を選び、専攻の教員によるオムニバス形式で構成する。

### 【到達目標】

SDGsに関連するさまざまな政治的活動、行政施策、経済活動、市民運動を、いくつかの分野に即して理解し、それぞれの受講者がSDGsについて体系的なイメージを獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サステナビリティ学専攻「公共政策と持続可能な社会づくり」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行う。回によっては、外部講師を招いての講義や対談形式を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入的説明、及び「地域における持続可能なまちづくり(まちおこし)について、マーケティング戦略の視点から考える」	加藤寛之教授担当。この科目に関する簡単な導入の後、①AUGAの典型的な失敗、②ドラマ『あまちゃん』(2013)に描かれるアイドルによる村おこしの成功要因と持続可能性という観点からみた問題点、③実際に生じたマーケティングとファイナンスとコーポレート・ガバナンスの観点から見て興味深い草津温泉再生事例を比較する。合わせて社会人大学院生特有の研究の良さとそれが故に陥りがちな問題点について考える。
第2回	「地域における持続可能なまちづくり(まちおこし)について、マーケティング戦略の視点から考える」・続き	同上
第3回	「都市型社会の政策主体とその関係性」	土山希美枝教授担当。公共政策を展開する主体は市民社会セクター、政府セクター、企業セクターとセクターをこえて存在し、その主体間関係が重要視されている。各主体の特徴、境界領域での新しいとらえ方をとりあげ、論じる。
第4回	「都市型社会の政策主体とその関係性」・続き	同上

第5回	「コミュニティ政策と持続可能な社会づくり 1」	名和田是彦教授担当。基礎的な自治体である市町村内のさらに狭域の、しかし住民にとって生活上意味のある地域社会としての「コミュニティ」の観点から、持続可能な社会のための政策論を考える。まずは、日本のコミュニティの基本的な構成を国際比較の観点も交えながら考察する。
第6回	「コミュニティ政策と持続可能な社会づくり 2」	次いで、近年「地域のつながりの希薄化」とよばれている趨勢のもとで試みられている様々な政策的対応や地域活動を、実例を紹介しながら具体的に考察する。杉崎和久教授担当。都市計画制度は、限られた都市空間において、機能的な都市活動と健康で文化的な都市生活を確保するために、土地利用の適正な制限を行う仕組みです。講義では、基本となる都市計画法の概要と成熟型社会における課題について解説します。
第7回	「都市計画」	同上
第8回	「都市計画」・続き	同上
第9回	「多国籍企業のCSR」	多田和美教授担当。グローバル化の進展にともない、多国籍企業のCSRの重要性はますます高まっています。第9,10回の授業では、多国籍企業の国際経営活動が国際社会に及ぼす影響について解説します。また、社会と企業がともに発展するための新たなCSRのあり方について考察します。
第10回	「多国籍企業のCSR」・続き	同上
第11回	「東京圏・町村地域のまちづくりと自治の持続可能性」	谷本有美子准教授担当。東京圏で人口減少に伴う課題を抱える町村において、市民主導ですすめている移住支援や観光事業等の取組みを題材に、ゲストスピーカーによる事例報告を受け、東京圏の町村地域におけるまちづくりと自治の持続可能性、人口集中地域との連携可能性などについて討議を行います。
第12回	「東京圏・町村地域のまちづくりと自治の持続可能性」・続き	同上
第13回	「原子力と持続可能な社会づくり」	林嶺那教授担当。福島第一原子力発電所事故の傷跡が未だ癒えない中、ウクライナ戦争に端を発するエネルギー危機に伴い原子力に対する注目が高まっている。原子力は持続可能な社会づくりに貢献できるのか。エネルギー経済研究所或いは日本原子力研究開発機構等の原子力の専門家を招き、受講者とのディスカッションも交えて、この問題について皆さんと一緒に考えていきたい。
第14回	「原子力と持続可能な社会づくり」・続き	同上

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

**【参考書】**

各回の担当者から、事前に、または講義中に、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の討論への参加状況（20％）と期末レポート（80％）により成績を決定する。

**【学生の意見等からの気づき】**

コメントシート等を通じて学生から積極的な意見を得ることができた回もあった。今後、授業における双方向性を強めることを前向きに検討したい。

**【Outline (in English)】**

This lecture is an introduction to the SGDs Plus Certificate Program from a viewpoint of the public policy studies in various fields.

Students are expected to understand the outline of political, administrative, economic, social activities related to SGDa.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end report (80%), and in-class contribution (20%).

LAW500P1 - 051 (法学 / law 500)

政策法務論

神崎 一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

特に2000年の第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」ということが唱えられてきた。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者間で「政策法務」という言葉は一般的ではない。この差に着目し、自治体政策法務について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。

【授業目的】

現在の自治体法務が直面している問題点を検討するとともに、条例論を学ぶ。

【到達目標】

- ・自治体政策法務のイメージをつかむ。
- ・条例案立案のポイントをつかむ。
- ・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

- ①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。
- ②授業は、講義を中心とするが、立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。
- ③本講義の最後の2回を立法演習（条例演習）に当てる。立法演習が、講義内容の総まとめとなる。立法演習において、提示した事例を解決するための制度設計をしてもらい、各学生が報告する。報告に対する講評が学生へのフィードバックとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1.はじめに～「政策法務」とは？ 2.自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政府とGHQの攻防	1.GHQ民政局内における条文の変遷とその意味するところ～ホームルール制とチャーター 2.日本側草案の起草～民政局案との対比 3.チャーター制定権の変貌
5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1.基本法・基本条例の法規範的性格の稀薄性 2.法体系上の位置づけ 3.自治基本条例の意義 4.民主的契機としての住民投票 5.議会基本条例の意義

7-8	条例論	1.条例の定義 2.条例の類型 3.法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1.分権改革前の判例 2.比例原則 3.分権改革後の判例 4.違憲審査基準論と合理性の基準 5.合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011年）  
神崎一郎『「政策法務」試論～自治体と国のバララックス(1)(2)』（自治研究2009年2月・3月・第一法規）  
「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）

【成績評価の方法と基準】

平常点30％・立法演習40％・報告30％。

立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。

なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学

<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論

<主要研究業績>

- ①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究2009年8月・第一法規）
- ②『「政策法務」試論～自治体と国のバララックス(1)(2)』（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
- ③「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）
- ④「基本法と基本条例」自治実務セミナー2018年3月号

【Outline (in English)】

Course outline;

Since the first decentralisation reform in 2000, the term "policy legal affairs" has been advocated mainly by those in charge of legal affairs in local governments. However, this term is not commonly used among legal staff in the central government. We will focus on this difference, and examine the problems faced by municipal legal affairs, while clarifying the concept of policy legal affairs.

Learning Objectives;

To get an idea of "policy legal affairs".

To understand the key points of drafting ordinances.

Grading Criteria/Policy;

The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.

Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

LAW500P1 - 052 (法学 / law 500)

## 立法学研究

神崎 一郎

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

#### 【授業概要】

我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和21年に、既に末弘巖太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての優れた能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な考究が全くなされていないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に見るにとどまるのではなく、法的視点（法学の基礎知識から立法における憲法・行政法上の比例原則まで）も含めて検討していきたい。

#### 【授業目的】

我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をする。

#### 【到達目標】

- ・我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までの正確な知識を得る。
- ・上記のベースとなる法学についての基礎的知識を得る。
- ・法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。

②授業は、講義を中心とするが、必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせる。

③本講義の最大の特徴は、最後の2回を行う立法演習である。講義において会得した発想法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。これに対する講評が学生へのフィードバックの位置付けになる。

※本講義は、原則として対面で開催する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1.序論～立法学とは 2.現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など

3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1.内閣による法案提出プロセス 2.政党内の意思決定システム 3.議員立法のプロセスの特徴 4.民主党政権下における立法過程の変容～ウエストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1.国会審議過程の現状と課題 2.内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3.ねじれ国会下における立法傾向 4.ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か	1.「法律」とは何か～歴史的経緯から憲法41条の解釈まで 2.現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3.「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する（必要に応じて主要判例を検討する）。
13-14	立法演習	提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

#### 【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

#### 【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011年）  
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方 第2版』有斐閣（2021年）

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%・立法演習40%・報告30%。  
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。  
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

#### 【その他の重要事項】

コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい（パソコン・タブレットでも対応可）。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学  
<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論  
<主要研究業績>  
①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究2009年8月・第一法規）  
②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス(1)(2)」（自治研究2009年2月・3月・第一法規）  
③「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）  
④「基本法と基本条例」自治実務セミナー2018年3月号

#### 【Outline (in English)】

Course outline;  
Japanese jurisprudence has been developed mainly on the interpretation of laws. Already in 1946, Dr.Suehiro pointed out that the work of drafting laws and regulations is done only by the professional skills of the bureaucrats concerned, and that there has been no scientific study. In this lecture, we will try to systematize "Legislation Studies" based on the results of these studies.

Learning Objectives;

To acquire an accurate knowledge of Japanese legislation, from the planning stage to the enactment and enforcement stage.

To gain knowledge of the structure of laws and regulations and the means of achieving policy objectives, and to be able to design simple systems and draft articles.

Grading Criteria/Policy;

The class will consist mainly of lectures, but will also include a combination of research, presentations and discussions by the participants as necessary.

The most important feature of this course is the legislative exercise held in the last two sessions. Students will design a legal system for a given issue, using the ideas and tools they have acquired in the lectures, and report on and discuss the legal system they have designed. Participation in the legislative exercise is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures

POL500P1 - 053 (政治学 / Politics 500)

政策評価論

南島 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代後半には日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされていなかった。本講義では、これら公的部門の評価のあり方を議論するものである。その際、歴史を踏まえつつ理論的な検討を行うとともに海外の取組との比較も視野に入れる。

【到達目標】

本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントは以下の3点である。

- ①政策評価の類型に関する理解  
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
- ②政策評価の歴史に関する理解  
PPBS、GAOのプログラム評価、GPRA/GPRAMAの史的展開  
日本の政策評価の史的展開に関する理解
- ③政策評価の理論に関する理解  
ロジックモデル、評価階層、アカウントビリティの理解  
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争  
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

オンラインにて行う予定である。授業は1回2コマで実施する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形式での討論を交える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この科目について、成績評価の方法についてなど
第2回	政策の概念：公共政策学と評価学の政策のイメージの違い、ロジックモデルについて概説する。	政策の合理性、体系的、循環性、ロジックモデル
第3回	評価の概念：政策分析、プログラム評価、業績測定の違いを概説する。	政策分析、プログラム評価、業績測定の違い
第4回	政策分析：政策分析に関して、公共事業評価、規制影響分析について学ぶ。	費用便益分析、公共事業評価、規制評価

第5回	業績測定と自治体① ：自治体評価がどのように組み込まれてきたのか。三重県の事例も含めて概説する。	事務事業評価、総合計画の評価
第6回	業績測定と自治体② ：自治体評価において用いられる必要性、有効性、効率性の規準を議論する。また、政治と評価について議論する。	計画と評価、マニフェストと評価
第7回	業績測定と独立行政法人①：国の独立行政法人の評価とその課題について議論する。	NPMと評価、独法の歴史、3つの独法形態と評価
第8回	業績測定と独立行政法人②：地方独法の評価とその課題について議論する。	地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価
第9回	国の府省の評価①：政策評価制度の導入の経緯を詳細に議論する。政策評価法の構造にも触れる。	中央省庁等改革と評価、総務省の行政評価局調査、政策評価法の
第10回	国の府省の評価②：国の府省の政策評価の実像に迫る。あわせて行政事業レビューの取組を紹介する。	府省の自己評価、3つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
第11回	アメリカの評価①：アメリカの政策評価の歴史を概観する。	PPBS、プログラム評価、PGRA
第12回	アメリカの評価②：アメリカの政策評価のうちGPRAの改革過程と論点を議論する。	GPRAMA、データドリブン、エビデンスベースド、APGs、CAPGs、評価の日米比較
第13回	評価理論①：評価類型を整理する。あわせて評価階層の理論について議論する。	評価の類型論、評価階層の理論（システマティックアプローチ）
第14回	評価理論②：評価に関する学説史について概要に触れる。	評価をめぐる学説、科学主義と実用主義の対立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』晃洋書房、2020年。

【参考書】

今村都南雄・武藤博己・佐藤克廣・沼田良・南島和久『ホーンブック基礎行政学（第3版）』北樹出版、2015年。  
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。  
行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008年。  
南島和久編『JAXAの研究開発と評価』晃洋書房、2020年。  
馬場健・南島和久編『地方自治入門』法律文化社、2023年。  
武藤博己監修、南島和久・堀内匠編著『自治体政策学』法律文化社、2024年。  
益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010年。  
松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018年。  
武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014年。  
広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013年。  
山谷清志『政策評価の理論とその展開』晃洋書房、1997年。  
山谷清志『政策評価の実践とその課題』萌書房、2006年。



山谷清志編著『公共部門の評価と管理』晃洋書房、2010年。  
山谷清志『政策評価』ミネルヴァ書房、2012年。  
山谷清志監修、大島巖、源由理子編著『プログラム評価ハンドブック』晃洋書房、2020年。  
山谷清志編『政策と行政』晃洋書房、2021年。

**【成績評価の方法と基準】**

討論への参加（40％）、期末レポート（60％）

**【学生の意見等からの気づき】**

とくになし。

**【学生が準備すべき機器他】**

履修にはZoomに接続可能な機器が必要です。講義はZoomを利用して行います。

**【その他の重要事項】**

初回の講義にて案内します。万が一初回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、najima@policy.ryukoku.ac.jp（「@」は「@」に、ピリオドは半角にしてください。）

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>行政学、政策学

<研究テーマ>政策評価の制度運用

<主要研究業績>『政策評価の行政学』（単著、晃洋書房）、『英国の諸相』（編著、創成社）、『地方自治入門』（編著、法律文化社）『自治体政策学』（編著、法律文化社）、『協働型評価とNPO』（共著、晃洋書房）、『JAXAの研究開発と評価』（編著、晃洋書房）、『政策と行政』（共著、ミネルヴァ書房）、『プログラム評価ハンドブック』（共著、晃洋書房）、『公共政策学』（編著、ミネルヴァ書房）、『それでも大学が必要』と言われるために』（共著、創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第3版）』（編著、北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（共著、敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（共著、法大出版）、『組織としての大学』（共著、岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（共著、晃洋書房）など

**【Outline (in English)】**

Since 1990's, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with overseas initiatives.

SOC500P1 - 054 (社会学 / Sociology 500)

## 社会調査法 1

竹元 秀樹

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 社会調査法の入門科目として、社会調査の基本的な事項を学ぶ。
2. 社会調査の全体像、社会調査の歴史的経緯について概説する。
3. 社会調査の様々な手法について検討する。
4. 質的調査と量的調査双方の基本事項を理解する。
5. 調査倫理など調査に伴う問題を学ぶ。

### 【到達目標】

1. 社会調査の基本事項、歴史を簡潔に説明できる。
2. 量的調査と質的調査の相違を識別できる。
3. 社会調査のプロセスを具体的に述べることができ、実際に調査を始めることができる。
4. 倫理違反といった概念について具体的に説明できる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

社会調査の基本事項を理解し、全体像を把握するために、次のように授業を進めていく。

1. 社会調査の歴史的経緯を学びつつ、様々な社会調査の手法を説明する。
2. 質・量双方の調査研究の特性について、調査の企画・実施、成果の発表に至るまでの流れを具体的に解説する。
3. 調査倫理の問題を踏まえつつ、社会調査の意義についての理解を促す。

授業は原則対面で実施する講義形式によって進める。

授業への学生の積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらおう。

授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会調査の基本的な考え方1	・社会調査の諸定義と目的 ・社会調査の諸類型
第2回	社会調査の基本的な考え方2	・量的調査と質的調査 ・成果の公表
第3回	社会調査の歴史1	・社会調査の源流：人口調査、 貧困調査 ・民族誌の系譜：文化人類学、 シカゴ学派社会学
第4回	社会調査の歴史2	・日本の社会調査：国勢調査、 都市及び農村調査、SSM調査等
第5回	社会調査の設計1	・社会調査の全過程：着想から 成果の公表まで
第6回	社会調査の設計2	・問いと対象の設定 ・調査・分析手法の選択 ・手法による手順の違い：研究 における「仮説」の位置
第7回	量的調査の方法と実 例1	量的調査のステップ：仮説の操 作化、調査票の作成、サンプリ ング、実施、データの入力と分析

第8回	量的調査の方法と実 例2	・実例に基づく量的調査実施過 程の追体験
第9回	質的調査の方法と実 例1	・質的調査のステップ：関連資料 の収集、参与観察、聞き取り調 査の実施、データの整理と分析
第10回	質的調査の方法と実 例2	・実例に基づく質的調査実施過 程の追体験
第11回	理論と調査との関係1	・理論命題と理論枠組 ・先行理論の位置づけ
第12回	理論と調査との関係2	・認識の深まりと問いの洗練
第13回	調査倫理	・調査者と被調査者との関係 ・学問としての倫理、調査にお ける倫理
第14回	調査の社会的意義	・社会調査と価値判断の問題

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業1回につき4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。

### 【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点20%、リアクションペーパー20%、レポート課題60%とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

論文作成と社会調査との関係性、たとえば論文作成において社会調査はどのような位置づけにあり、どのような役割を果たしているかなどについて、より理解が深まるように授業を展開していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」

関連科目「社会調査法2～8」

### 【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

### 【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析  
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

### 【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014年、新  
曜社。

共著『よくわかる都市社会学』2013年、ミネルヴァ書房。

直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質なコミュ  
ニティ・ピロギングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第3巻第2号、  
2021年。

### 【Outline (in English)】

This course deal with basic matters of social research. It also enhances the development of students' skill in considering various methods of social research.

By the end of the course, students should be able to explain basic matters of social research, especially about the difference of quantitative and qualitative research.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P1 - 055 (社会学 / Sociology 500)

## 社会調査法2

見田 朱子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の社会調査法のうち、統計学の応用による、大人数の社会意識や集合行動の構造の解明を目的とするサーベイ型の調査法について概説する。まずこの調査法の成立の歴史的経緯と基本的な論点を踏まえた上で、調査計画から結果の統計解析までのプロセスを概観するとともに、その時々が生じる実践的課題について詳論する。さらに、社会意識調査を政策形成に活用する方途についても考察したい。

### 【到達目標】

サーベイ型の社会調査に関する基本的知識、特に調査の計画から報告書の作成までの一連の流れを理解し、知識として習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

教室で対面を実施(予定)。実習的な作業をとまなう、各回2時限の連続講義。課題やレポートについては事後に全員に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論1	社会科学的認識と計量的社会調査の関係について
2	概論2	近代日本における計量的社会調査の展開と課題
3	調査の設計1	調査票調査の企画・設計（質問文案をレポートとして提出）
4	調査の設計2	質問文と選択肢の構成（調査票作成作業を実習形式で行う）
5	サンプリング1	サンプリングの統計学的基礎
6	サンプリング2	サンプリングの種類と実施上の問題
7	調査の実際1	計量的社会調査における調査者と被調査者の関係
8	調査の実際2	調査票の配布・回収をめぐる諸問題
9	データの集計と整理1	コーディングとデータクリーニングの方法
10	データの集計と整理2	コーディングから度数分布表作成までの過程（仮想的な調査データを用いて実習形式で行う）
11	調査データの読み方	基本統計量とデータ分布の概説
12	展開的講義	政策形成と社会意識調査
13	まとめ1	社会調査を政策形成に活用する方途について（講義）
14	まとめ2	社会調査を政策形成に活用する方途について（討論）別途レポート提出および筆記試験を実施

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示した課題を指示された期日までに自宅で用意し、提出すること。授業終了後参考書を手入・熟読して、重要箇所を復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない

### 【参考書】

授業中に適宜指示する

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加30%、課題提出15%×2回、筆記試験40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

（本年度授業担当者変更によりフィードバックは特になし）

### 【学生が準備すべき機器他】

各自自宅でパソコンを使用した作業が必要。学習支援システムへのアクセスが必須。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会意識、社会調査論、近代化論

<研究テーマ> 「幸福」の社会学

<主要研究業績>

『「幸福の基準」及びその設定における『近代化』の影響』『SSJDA Research Paper Series—World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA - 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)This lecture aims to study basic methods of social research by statistical sampling and questionnaires.(Learning Objectives)The goals of this lecture are understanding the basics of social research by statistical sampling and questionnaires.(Learning activities outside of classroom)Writing reports and Reading directed books(Grading Criteria /Policy)Positivity to classwork:30%,Reports:15%\*2,Final Exam:40%

SOC500P1 - 056 (社会学 / Sociology 500)

## 社会調査法 3

見田 朱子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学における統計データの利用法。

「統計データ」を読み、書（描）き、利用するための基本概念や方法を理解する。具体的には、統計資料の整理の仕方、基本的な統計量の読み方、図表の読み方、作成方法について。また、変数間の関係を記述する方法やその読み取り方についても解説するので身に付けてほしい。

さらに「非統計（質的）データ」を読むときの基本事項の学習を踏まえ、社会調査におけるデータ活用方法についての理解を促す。技術的には、Excelおよび無料の統計ソフトR等を用いた実習を通じてデータ分析の実践的理解を深める。

### 【到達目標】

統計データの形式を整えたり、変数を操作化することができる。  
統計データの情報を要約することができる。  
統計ソフトを用いて変数間の相関や連関を調べることができる。  
統計ソフトを用いて推定や仮説検定を行うことができる。  
統計データをグラフや表によって可視化することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC操作の可能な学習室を利用予定。  
「社会統計」と「社会調査」の仕組みを根本的に理解するための講義を行う。またExcelや統計ソフトRの技術的な習得が一つの重要な目標であるため、PC操作の実習は必須である。発表や課題提出は社会調査の結果報告に欠かせないため、WordやPowerPoint等の扱い方を含めた、基本的なレポート（論文）の書き方についても指導する。

クラスの親睦を深め、具体的なテーマに接するため、授業内発表の機会も設ける予定である。また、リアクションペーパーではなく、都度の質問や対話やメールでの補足を受け付ける予定。

成績は、受講人数にもよるが、授業内での小課題と発表、レポートによる予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1 統計データの基本事項 2 統計データの基本概念	・統計データの目的と種類 ・社会（学）理論とデータとの関係 ・測定と変数の種類 ・記述統計と推測統計 ・データの解釈
第2回	3 統計資料の整理 4 度数分布	・統計資料の整理 ・データファイルの作成 ・2次資料と公開データ・単純集計と度数分布表 ・図の種類 ・相対度数による表示の機能と問題

第3回	5 分布と統計量1 6 分布と統計量2	・平均 ・分散 ・標準偏差 ・中央値 ・分位数 ・標準化 ・（標準）正規分布
第4回	7 検定の基礎知識 8 クロス表1	・母集団と標本データ ・仮説 ・独立変数と従属変数 ・因果関係 ・クロス表の作成と読み取りの一般原則 ・DKとNA ・情報の圧縮
第5回	9 クロス表2 10 相関1	・関連性の読み取り：オッズ比とリスク比 ・第3変数とエラボレーション ・散布図 ・相関係数
第6回	11 相関2 12 復習と補足	・相関関係と因果関係 ・擬似相関 ・結果の解釈と提示の方法 ・作図のオプション
第7回	13 非統計データについて 14 総括	・「量的データ」への変換と利用の方法 ・テキスト（化）データの扱い方 ・社会調査の基本事項に関するまとめと成績評価に関わる作業

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業各回の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

杉野勇『入門・社会統計学：2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』法律文化社、2017年。（データ資料を利用します。web上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布する予定なので未購入でも構いません。）

### 【参考書】

G.W. ボーンシュテット/D. ノーキ著、海野道郎・中村隆監訳、1992、『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社。  
石川淳志他編、1998、『見えないものを見る力—社会調査という認識』八千代出版。  
『入門・社会統計学』サポートウェブ (<http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html>)  
他（授業中に適宜紹介）

### 【成績評価の方法と基準】

課題提出によって評価。

課題は、複数回ある小課題（合計40%）、期末の発表（30%）および期末レポート課題（30%）を指す。

ただし、オンライン授業の取入れなどによって「小課題」や「発表」の内容や方法に変更が有り得る。

また、授業期間中の授業貢献度（クラス全体の理解を助ける質問や意欲的な取り組みなど）を10-20%程度取り入れる場合がある。

※出席が2/3に満たない場合は無条件に「不可」となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

・実習の進行について、パソコンに慣れていないと「早すぎる」と感じられるかもしれない。不安を感じる場合は、受講までにパソコンにできるだけ慣れておくことが望ましい。例えば、Excelにおけるドラッグによるナンバリング（Autofill機能）などが一応使える程度、Copy & Pasteやファイルのダウンロードと保存、テキストデータの扱いなども滞りなくできる程度を念頭においている。  
・学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。例年、他分野から様々な立場での受講生がいるため、双方向性の必要を強く感じている。必要な進度は確保しつつ、フロアからも気軽に発言して無理なくフォローができる授業運営にしたい。  
・質問等の効果はクラス全体で共有することを基本とする。  
・また授業時間外の学習に取り組みやすいよう、オンライン資料等の活用に対応できるよう準備したい。

**【学生が準備すべき機器他】**

実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや授業システム等を利用予定。

必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコン等の演算機器が必要になる。自宅に用意できない場合は登校して学習する必要が出てくる。

**【その他の重要事項】**

社会調査士資格認定のためのカリキュラム「C」科目に相当する。オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。その他の機会については初回授業でお知らせする。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 社会意識、社会調査論、近代化論

<研究テーマ> 「幸福」の社会学

<主要研究業績>

『「幸福の基準」及びその設定における『近代化』の影響』『SSJDA Research Paper Series—World Values Survey (世界価値観調査)を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA-40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年.

**【Outline (in English)】**

Learning how to use statistical data in social science research: Beginner level.

Understand basic concepts and methods for reading, writing and drawing statistical data. Specifically, how to organize statistical data, how to read basic statistics, and how to understand and create tables and graphs. Then, also we learn how to know and describe (and read) relationships between variables. Furthermore, based on the learning about basic non-statistical (qualitative) data, encourage understanding of "data" analysis in social survey research.

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.

Grading will be decided based on tasks: assignments 40%,presentation 30% and end-term report 30%. Maybe in-class contribution also will be considered (20% max.and in case, assignments 30% and presentation 20%).

\*We use Windows PC; Excel and statistical package "R".

SOC500P1 - 057 (社会学 / Sociology 500)

## 社会調査法 4

見田 朱子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既存の、あるいはオリジナルに収集されたデータセットについて、基礎的な統計処理を経てレポートを作成するまでのスキルを身につけることを目的とする。

主な内容は、既存の統計調査の検討、学術的調査と実務的調査の違い、統計の理論的背景、Rの使用法などである。あわせて、数値データの解釈に必要な現代社会の諸相についての知識も得る。大きな前提として、本講義は社会調査について学ぶ中にある。したがって、「社会調査」というもののあり方や、その中での定量的調査・分析の位置づけといったものの理解もうながす目的もつ。

### 【到達目標】

本講義の到達目標は以下の4点である。

- ①定量的社会調査の基礎知識を得る
- ②定量的社会調査をとまなう学術論文を理解できるようになる
- ③自身の論文作成において定量的社会調査を活用できるようになる
- ④行政、ビジネス等の実務においても定量的社会調査を活用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC操作の可能な学習室を利用予定。

2コマ連続のクラスだが、1コマずつ別の単元で区切る場合と、連続して1つの単元に取り組む場合、あるいは前半と後半を講義と実習に振り分けることなどがある。講義もだが、特に実習は遅刻や欠席によって進行についていけなくなるので留意されたい。

リアクションペーパーを兼ねた小課題、期末にはレポートと発表を兼ねた課題を出す予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	イントロダクション 社会調査と社会統計学の歴史
第2回	統計ソフトRの扱い方	Rの紹介と基本的な使い方 復習を兼ねて、基本統計量の算出などを確認。
第3回	確率論の基礎	確率分布の考え方 正規分布の意味と性質
第4回	R実習1	基本操作方法～確率と確率分布に関するコマンド
第5回	統計的（量的）分析の基本	データセットの取り扱いとデータクリーニングについて
第6回	R実習2	データ操作の基本・データ取得～データクリーニング
第7回	分布と確率	正規分布の意味と性質～二項分布
第8回	R実習3	表の作成と解読 正規分布曲線をはじめとしたグラフィックの基本（図の作成）
第9回	統計的検定の基礎	推測統計と、帰無仮説の考え方

第10回	検定の手順	検定の手順を確認しつつ、Rを使って例題を解き、結果を解釈し文章化する。
第11回	各種の検定 独立性の検定 2群間の差の検定	検定の種類外観 カイ二乗検定とt検定
第12回	R実習	カイ二乗検定とt検定
第13回	回帰分析	回帰分析の考え方と手順
第14回	R実習 まとめ	回帰分析の実習 成績評価にかかわるまとめ作業

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習はWindowsパソコンで無料の統計ソフトRを使用して行う。このため、特別なスキルは必要ないが、エクセルやワードをごく一般的なレベルで使える程度のスキルが必要である。できればRを予めダウンロードしておくこと。またパソコンスキルに自信のない受講者は事前にWindowsパソコンに十分に慣れておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しないが、下記の書籍を適宜参照すると理解の助けとなる。この書籍の公開データなどを利用してもらう予定である。また、Rの操作方法についてはWeb上に公開されている参考ページなどを交えて適宜紹介する。

杉野勇『入門・社会統計学: 2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』法律文化社、2017年。

### 【参考書】

石川淳志他編 1998、『見えないものを見る力——社会調査という認識』八千代出版。

G.W. ボーンシュテット/D. ノーキ著、海野道郎・中村隆監訳、1992、『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社。

### 【成績評価の方法と基準】

実習的な小課題 30%

授業中の理解・貢献状況 10%

期末レポート・発表 60%

ただし、受講人数やオンライン回の活用状況などによって、評価の方法や内容は変更になることもありうる（このような場合には受講生への確認と周知をする）。

### 【学生の意見等からの気づき】

・実習の進行について、パソコンに慣れていないと「早すぎる」と感じられるかもしれない。不安を感じる場合は、受講までにパソコンにできるだけ慣れておくことが望ましい。例えば、Excelにおけるドラッグによるナンバリング（Autofill機能）などが一応使える程度、Copy & Pasteやファイルのダウンロードと保存、テキストデータの扱いなども滞りなくできる程度、を念頭においている。

・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては必要に応じて相談のうえクラス運営をする予定である。

・社会調査法1～3（特に3）は、必須ではないが既習であることが望ましい。

例年、「3」より先に本講「4」を履修したいという相談がある。履修予定等さまざまな事情はあるだろうからできる限り対応したいと思うが、理解度としてはやはり難しいところがあると感じている（例えるなら、四則計算を学ばずに面積や体積の計算方法を学ぼうとするようなもの）。さらに、統計ソフトの使用という技術的な慣れの点でも積み重ねの差が出てしまうので、「3」未履修での本科目の履修は非常な努力の覚悟が必要になる。履修相談は受け付ける。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料の配布やお知らせ等には法政大学の学習支援システム（Hoppii）を利用する。

パソコン（Windows）および周辺機器。MacやLinuxでも履修可能だが、授業はWindowsを前提として行う。iPad等のタブレット端末は使用できない。

Excelもしくはこれと同等に使用できる表計算ソフト。ただしExcel以外のソフトを使用する場合、それに合わせた特別な指導や補助はできない。

できれば「R」をインストールしておくこと（講義予定の教室PCにはインストール済み。初回授業で案内予定）。

### 【その他の重要事項】

・質問等はメール（akiko.mita.86@hosei.ac.jp）でも受け付ける。

・講義開始後、授業内容にかかわる質問はクラス全体で共有したい。そのため極力「その場で」の質問を推奨し、メール等でいただいた質問もプライバシーの問題等がない範囲で公開の回答とする。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 社会意識、社会調査論、近代化論

<研究テーマ> 「幸福」の社会学

<主要研究業績>

「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series—World Values Survey (世界価値観調査)』を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA - 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年.

**【Outline (in English)】**

This course introduces the skill of quantitative research data.

We will study about technics to analyze statistical data and social research plan. At the end of the course, participants are expected to understand the difference between academic and practical research, theoretical background of social statistics, and be able to analyze statistical data using R.

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.

Grading will be decided based on assignments 30%,end-term report and presentation 60% and in-class contribution 10%.

SOC500P1 - 058 (社会学 / Sociology 500)

## 社会調査法5

竹元 秀樹

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的な調査と分析の方法についてより深く学び、基本的な質的調査計画が設計できることを目指す。そのために、さまざまな質的データの収集と分析の具体的方法について理解を深め、実践に役立つ知識を身に付ける。とくにフィールドワークに必要な技法や倫理的な問題についての知識を習得する。

### 【到達目標】

1. 質的調査におけるデータ収集の基本手法である、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析について、各手法の利点と問題点を説明できる。
2. 質的調査の分析技法である、インタビュー分析、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析について、各技法の内容を説明できる。
3. 質的調査の実施に向け、基本的な調査計画が設計できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

1. まず、質的調査の考え方や設計の仕方について解説する。
2. つぎに、フィールドワークの基本的な質的調査手法である、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析の各項目について、事例を使って具体的な解説を行い、質的データの収集・分析方法について理解を深める。
3. さらに、分析結果の提示（論文・報告書の発表）を念頭におき、被調査者との関係など倫理的な問題についての理解を促す。授業は原則対面で実施する講義形式によって進める。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論1：社会調査の全体像	・社会調査と質的調査の定義／目的 ・質的調査と量的調査の定義／種類／特徴
2	総論2：方法論的スタンスの識別	・方法論的スタンス（個人主義／集団主義）の自己把握と客観性問題
3	総論3：質的研究の意義と特性	・質的研究の現在の特徴と意義 ・帰納的研究および「中範囲の理論」の重要性
4	質的調査の設計—調査研究のプロセス	・質的調査のプロセス ・「問い」「仮説」の設定の重要性と問題点 ・先行研究との関連性
5	フィールドワーク1—社会的生活の記述	・質的調査におけるフィールドワークの流れ ・フィールドワークの論点
6	フィールドワーク2—事例の俯瞰的把握	・先行研究事例の構造とプロセス ・事例の評価と限界

7	質的データの収集1—聞き取り調査	・聞き取り調査の意義と限界 ・インタビューの種類 ・聞き取り調査のプロセス
8	質的データの収集2—参与観察	・参与観察の利点と問題点 ・「問い」の設定時期
9	質的データの収集3—ドキュメント分析	・ドキュメント分析の様々な材料 ・分析によって明らかにされるもの
10	質的調査の分析技法	・カテゴリー分析の特徴と理論的背景 ・シークエンス分析の特徴と理論的背景
11	質的データの分析1—ライフヒストリー分析	・ライフヒストリー分析の特徴と意義 ・先行研究の解読
12	質的データの分析2—内容分析、会話分析	・内容分析の特性と具体例 ・会話分析の内容と先端的意義
13	調査結果のまとめ方と発表での活用	・論文／報告書の作成 ・発表での活用事例の検証
14	調査倫理—成果の公表とその問題	・調査倫理規定 ・プライバシー保護 ・被調査者保護をめぐる諸問題

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業1回につき4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。  
なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

### 【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

学界の現代的潮流のなかでの質的調査の位置づけと重要性について、より理解が深まるように授業を展開していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」  
関連科目「社会調査法1・2・3・6・8」

### 【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

### 【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析  
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

### 【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014年、新曜社。  
共著『よくわかる都市社会学』2013年、ミネルヴァ書房。  
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質なコミュニティ・ピロングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第3巻第2号、2021年。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about specific methods of collecting and analyzing qualitative data.  
By the end of the course, students should be able to explain specific methods of qualitative research.  
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.  
Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).



SOC500P1 - 059 (社会学 / Sociology 500)

## 社会調査法6

竹元 秀樹

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学および政策科学の研究の実際場面で社会調査を活用するため、研究の目的および研究に適用する調査の方法論と有機的に結びついたかたちで、調査をデザインしてデータを収集／分析する思考法を実践的に習得する。とくに調査企画・設計のプロセスに主軸をおいた、量的調査と質的調査の両面からの実習体験を通じて、さまざまな社会調査手法の利点／欠点、意義／限界について理解する。そして最終的に、受講者が各自の問題関心に対して、マルチメソッド法や混合研究法の方法論に基づいて調査デザインが立案できる構想力を習得する。

### 【到達目標】

1. 社会調査の実施に向け、研究計画書を作成するための実践的な思考法を身につけている。
2. 量的調査の基本的な企画・設計ができ、それに基づいて調査票の作成を行える。
3. 社会調査の方法論的立場を認識して、質的調査の基本的な企画・設計ができる。
4. 受講生各自の問題関心に基づく調査計画、およびその調査に基づく修士論文の執筆計画を立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

1. 研究計画書の作成プロセスを通じて調査研究の基礎的な知識について解説し、グループワークによる実習を中心にして研究の方法を検討する。
2. グループワークおよび個別単位での実習を中心にして、量的調査の基本的な企画・設計と簡単な調査票の作成を行う。
3. グループワークによる実習を中心に、方法論的立場の違う仮説を設定して、それに基づいて質的調査の企画・設計を行う。
4. 受講者各自の問題関心に対して、マルチメソッド的な調査デザインを構想する。

授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論1：社会学・政策科学と社会調査	・調査背景、調査目的、意義と限界
2	総論2：社会調査のプロセス	・企画から報告書の作成まで、データの収集と分析
3	総論3：社会調査の諸類型	・量的調査／質的調査、混合研究法、デジタル・サーベイ
4	総論4：社会調査の倫理と真正性	・ラポールの構築、調査に特有の倫理
5	研究計画書の作成プロセス1	・論文の構成、調査研究のプロセス、問題関心の内容
6	研究計画書の作成プロセス2	・研究テーマ、研究の課題と目的、研究の方法

7	グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計1	・調査テーマの設定 ・仮説構成 ・サンプリングの対象・方法
8	グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計2	・調査票の作成 ・ワーディング、プリテスト ・企画・設計内容の発表
9	事例の映像データから構想する質的調査の企画・設計1	・データの収集方法 ・聞き取り調査 ・社会構造主義／構築主義
10	事例の映像データから構想する質的調査の企画・設計2	・ライフストーリー分析 ・会話分析 ・企画／設計策定結果の発表
11	質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較1	・研究目的の相違 ・先行研究の批判的視点 ・調査手法の組合せと限界
12	質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較2	・方法論的個人主義／集団主義 ・参与観察の利点 ・マルチメソッド法の効用
13	マルチメソッド的な方法による社会調査デザインの構想1	・混合研究法の方法論的特徴と意義の把握
14	マルチメソッド的な方法による社会調査デザインの構想2	・混合研究法の方法論に基づく調査デザインの実践的理解

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業1回につき4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

### 【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、リアクションペーパー20%、レポート課題50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

社会調査の企画・設計時に、マルチメソッド法や混合研究法の手法を活用して立案できるように注力していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

第1回目の講義時に確認する。

### 【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」  
関連科目「社会調査法1・2・3・5・8」

### 【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

### 【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析  
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

### 【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014年、新曜社。  
共著『よくわかる都市社会学』2013年、ミネルヴァ書房。  
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質なコミュニティ・ピロングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第3巻第2号、2021年。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about planning and design of social research by practical training.  
By the end of the course, students should be able to make a research plan based on each student's interests in problems.  
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.  
Grading will be decided based on term-end report(50%), short report(20%) and in class contribution(30%).

SOC500P1 - 061 (社会学 / Sociology 500)

## 社会調査法7

見田 朱子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、定量的社会調査の結果をデータとして用いる多変量解析の技術を学ぶものである。しかし、昨今、統計パッケージの普及によって、複雑な統計解析も容易に行えるようになってきた反面、それぞれの統計手法の基礎や特徴を理解しないまま分析がされることも少なくない。本講義では、技術そのものとしての習得と同程度あるいはそれ以上に、その技術が社会調査のなかでどのように利用されるものか、社会調査結果の分析と考察の過程にどのように位置づけられるのかといった理解を重視する。

具体的には、統計学の基礎を確認しつつ、まずは分散分析と線形回帰モデルの学習を通じて、交互作用項を中心とした多変量解析の基本的な考え方を学ぶ。さらに線形回帰モデルとの差異に注目しながら、ロジスティック回帰分析について学習する。また、探索的分析手法としてクラスター分析、主成分分析、因子分析を紹介し、その概要を学習する。

これらの分析手法は、統計パッケージRによる実習を通じて、実践的に修得することが目指される。またその際には、統計パッケージの単なる使用方法の習得だけでなく、各手法の考え方やその結果の意味を理解し報告できるようになることに重点を置く。

### 【到達目標】

本講義の目標は、多群間比較や線形回帰モデルなどの学習を通じて、多変量解析の基本的な考え方を修得することである。座学と実習を通じて各分析手法の考え方や仮定について理解し、自ら説明できるようになることが目標である。それと同時に、統計パッケージRを用いた実習によって、実際に分析するための技術の修得も目指す。

また、本講義はあくまでも社会調査法の一環としてあることを前提とし、社会調査の中で、またその結果を分析・考察・発表する過程において、これらの技術がどのように利用できるか、できないかを理解することも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

本講では、対面の講義と実習を通じて多変量解析の考え方や仮定について学習する。各回の授業は講義とともに適宜統計パッケージの操作実習をはさむことで理解を深める形でおこなう予定である。表計算ソフトExcelのほか、統計ソフトとしては無料のRを用いる。Rについては基本的な操作方法から確認するので初見でも構わないが、統計的（量的）分析については社会調査法3、4などで推測統計の基礎までは学んでいることが望ましい（必須ではないが）。

履修人数にもよるが、都度の質問や対話やメール・学習支援システムの機能等によって補足をしていきたい。リアクションペーパーは対面の場合のみ予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	多変量解析に向けた準備1	社会学と多変量解析、R紹介と復習を兼ねて、基本統計量の算出方法。標準化、共分散と相関係数について。
2	多変量解析に向けた準備2	Rの操作に慣れつつ、統計的推測と仮説検定、検定の全体図を確認。
3	分散分析	多変量解析の基本的な考え方。分散分析の基本。級内平均と級間平均、一元配置、多元配置、実習
4	線形回帰分析と最小二乗法（OLS）	線形回帰分析における仮定
5	基本統計量とOLS推定量の関係	分散分析表の読み方や決定係数について学習
6	重回帰分析	統制・偏相関、多重共線性、修正済み決定係数、結果のt検定・F検定
7	実習と補足：分析の準備～結果の解釈	ダミー変数とその作り方、直接効果と間接効果、交互作用
8	ロジスティック回帰分析の基礎	オッズとロジット、回帰係数の解釈、回帰係数とモデルの検定
9	分析方法の整理	仮説検定のための分析と、探索的分析
10	クラスター分析	クラスター分析の紹介と基本的な方法
11	主成分分析と因子分析	考え方の基礎、主成分、潜在因子と観測因子、因子負荷量、寄与率
12	因子分析と主成分分析の実習	因子分析、主成分分析表の図示と解釈
13	データの選び方、分析方法の選択方法、補足	「データ」とは、どのように考えるべきものか。選び方、利用の仕方の補足と確認。
14	まとめ	まとめと成績評価にかかわる作業

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業各回の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

杉野勇『入門・社会統計学：2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』法律文化社、2017年。

（データ資料を利用します。web上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布するので、購入必須ではありませんが、授業の範囲以上に参考になる文献です。）

### 【参考書】

G.W. ボーンシュテット / D. ノーキ著、海野道郎・中村隆監訳、1992、『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社。『入門・社会統計学』サポートウェブ (<http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html>)  
他、授業内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献と理解度（20％）

課題（80％）

授業への貢献と理解度とは、クラス全体の理解を促す質問、意欲的な取り組みなどを指す。

課題は授業期間中の複数回の小課題、および期末レポートとする。受講人数によっては、発表も取り入れる。

これらの内容は、オンライン回の有無等によっても変更の可能性がある。何らかの変更がある場合には必ず受講生に確認と周知をする。※出席が2/3に満たない場合は自動的に「不可」となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

・学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。双方向の授業を心がけたい。

・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては初回授業で相談のうえクラス運営をする予定である。

**【学生が準備すべき機器他】**

実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや学習支援システム等を利用予定。

必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコンおよび周辺機器、ExcelとRのインストールが必須となる。インターネット通信のできる環境も必要になる。自宅にこれらを準備できない場合は学校の設備を利用するために登校するなどの必要がある。

授業予定の教室には、Rインストール済みのパソコンが準備される予定。各自のパソコンへのRのインストールは授業での案内後でもよい。

**【その他の重要事項】**

専門社会調査士資格認定のためのカリキュラム「I」科目に相当する。シラバス内容にある通り、多変量解析とその応用を扱う。社会調査法1～4あるいはそれ相当の内容を学習済みであることが望ましい。特に推測統計の基礎（社会調査法4相当）については理解していること、少なくとも履修済みのものとして授業を進めるため、未履修あるいは同時並行して学習することは望ましくない。ただし、自信がない程度であれば本講を是非履修して、分析技術を実用的なものとしてほしい。

オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。その他の機会については初回授業でお知らせします。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 社会意識、社会調査論、近代化論

<研究テーマ> 「幸福」の社会学

<主要研究業績>

『「幸福の基準」及びその設定における『近代化』の影響』『SSJDA Research Paper Series—World Values Survey (世界価値観調査)』を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA - 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年.

**【Outline (in English)】**

Advanced class: Social statistical analysis (multivariate data analysis)

We learn:

Interaction term through variance analysis and linear regression model, then logistic regression analysis, at last, exploratory analysis method – principal component analysis and factor analysis.

It is a practical class using a statistical package soft "R".

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution 20% and on tasks 80%; including assignments and end-term report, and maybe presentation (depends on class size).

SOC500P1 - 062 (社会学 / Sociology 500)

## 社会調査法 8

竹元 秀樹

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な質的データの分析法を実習体験を通じて理解する。特にKJ法、インタビュー分析、ドキュメント分析、内容分析、会話分析、アートベースリサーチ分析等における実践的な分析能力を、意識と感性の両レベルから習得する。

また、質的データの収集方法から分類化される、それぞれの質的調査手法の分析局面における限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てる能力を獲得する。

### 【到達目標】

1. 質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題について概要を説明できる。
2. KJ法、インタビュー分析、会話分析、内容分析、グラウンデッド・セオリー分析の特性を理解の上実践できる。
3. 質的データの分析結果を、中範囲の理論の構築へとつなげることができる。
4. 質的調査の各手法の限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

1. 総論として、質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題等、質的調査に関する基礎的な知識について解説する。
  2. グループワークによる実習を中心にして、フィールドワークの映像データ、先行研究の代表的論考、アートベースリサーチを活用しての質的分析を行う。
  3. 個別単位での実習を中心にして、ドキュメント分析、内容分析、会話分析を理解する。
- 授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらおう。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論1:質的調査とは何か	・社会調査／質的調査の意義・目的、量的調査との違い
第2回	総論2:質的調査の調査技法—質的データの収集とプロセス	・フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析
第3回	総論3:質的調査の分析技法—質的データの分析と知見の抽出	・インタビュー分析、内容分析、ライフヒストリー分析、会話分析、アートベースリサーチ
第4回	総論4:質的調査の倫理問題	・聞き取り調査でのラポール形成、参与観察での立ち位置
第5回	フィールドワークの映像データを活用しての質的分析1	・聞き取り調査／参与観察の疑似体験、フィールドノートの作成、収集したデータの把握
第6回	フィールドワークの映像データを活用しての質的分析2	・KJ法によるデータの整理と分析、分析結果の発表と討論

第7回	質的研究の代表的論考を活用しての質的分析1	・質的分析法の有効性と意義の考察—質的データと量的データの見せ方の工夫
第8回	質的研究の代表的論考を活用しての質的分析2	・質的研究における調査事例の典型性と研究成果の普遍性の事後的獲得の理解
第9回	アートベースリサーチを活用しての質的分析1	・他者の語りをなぞる演技—意識レベルから感性レベルでの体験からの把握
第10回	アートベースリサーチを活用しての質的分析2	・他者の語りをなぞる作画—作画意識の相対化から主体化への変容からの把握
第11回	内容分析の理解	・テレビドラマと原作の表現相違—映像データから見えてくるもの
第12回	ドキュメント分析の理解	地域活動家の語り—テキストデータから見えてくるもの
第13回	会話分析の理解	・社会構築主義に基づく論文—会話データから見えてくるもの
第14回	総合討論	・質的調査の分析における実践的課題と取り組みについて

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業1回につき4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。  
なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

### 【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、リアクションペーパー20%、レポート課題50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

質の高い論文作成のための質的研究の活用の仕方について、より理解が深まるように授業を展開する。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」  
関連科目「社会調査法1・2・3・5・6」

### 【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

### 【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析  
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

### 【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014年、新曜社。  
共著『よくわかる都市社会学』2013年、ミネルヴァ書房。  
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質なコミュニティ・ピロギングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第3巻第2号、2021年。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a performance in their qualitative research.

By the end of the course, students should be able to acquire the practical skills and knowledge in their qualitative research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report(50%), short report(20%) and in class contribution(30%).

POL500P1 - 063 (政治学 / Politics 500)

**政策分析評価技法**

阿部 一知

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

- ① 公的主体が実施する経済政策の効果について、経済学的な分析方法の枠組と手順を理解
- ② 日本あるいは海外の経済政策のいくつかの例を取り上げ、目的・効果の分析方法と結果を議論
- ③ 政策・プロジェクト評価手法の概略について理解

**【到達目標】**

公共経済学に基づいた政策評価の基本的枠組を入門的に理解する。代表的手法として費用便益分析の基本的考え方を学ぶ。政策評価の手順に慣れる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

全体7回程度の講義において、最初の4回程度は、公共的な政策の分析の枠組と手順について教科書に沿って紹介する。基本となるのは、厚生経済学を適用した公共経済学に基づいた理論である。また、その応用分野として、費用便益分析などのプロジェクト評価や、政策の評価手順などについても触れる。これらは講義と質疑を中心とする。

残り3回程度程度は、実際の政策を取り上げて、ディスカッションを行いながら事例研究する。具体事例は、学生の希望を取りながら選択する。原則として、1週間前に材料を示すので、それに基づいた準備があることを前提に講義する。

講義は原則対面で行う。毎回の講義で、学生の理解の確認のため課題を提示し、ディスカッションすることで理解を深める。また、フィードバックとして、メールで直接学生と質問応答や追加説明を行う。講義はオンラインで行う。毎回の講義で、学生の理解の確認のため課題を提示し、ディスカッションすることで理解を深める。また、フィードバックとして、メールで直接学生と質問応答や追加説明を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、政策分析の基本的な考え方	科目の全般的な内容、講義の進め方、教科書の説明。
第2回	分析の手順	ストーリー教科書第1章
第3回	政策分析の手法（外部性モデル、選好の定義など）	厚生経済学の基礎の説明。政策決定モデルの紹介。ストーリー教科書第2～3章、第6章。
第4回	政策分析の手法（外部性モデル、選好の定義など）	厚生経済学の基礎の説明（続き）政策決定モデルの紹介。ストーリー教科書第2～3章、第6章。
第5回	政策分析の手法（費用便益分析入門など）	費用便益分析一般の説明。ストーリー教科書8～10章。
第6回	政策分析の手法（費用便益分析入門など）	費用便益分析一般の説明（続き）ストーリー教科書8～10章。

第7回	政策分析の手順、公共選択、公共主体が政策を実施する根拠	公共選択理論の説明。ストーリー教科書11～13章。
第8回	事例研究の準備	事例研究のテーマ希望聴取など準備。
第9回	政策分析の手順など確認。	政策分析の手順（問題確定、選択肢提示、効果分析、評価）
第10回	事例研究(1)	事例研究：具体的な政策（教員が提示）を取り上げて研究
第11回	事例研究(2-1)	事例研究：具体的な政策を取り上げて研究
第12回	事例研究(2-2)	事例研究：具体的な政策を取り上げて研究
第13回	まとめ、補足的なディスカッション	全体のまとめ。
第14回	まとめ、補足的なディスカッション	全体のまとめ。レポートの作成についての説明

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

前の講義で、指示された資料・教科書該当ページを事前に読む。また、必要に応じて参考資料を参照する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

ストーリー、ゼックハウザー「政策分析入門」 勁草書房

**【参考書】**

指定教科書よりも網羅的・体系的でないが、より新しい教科書として、バーダック「政策立案の技法」東洋経済新報社、を勧める（講義でも一部使用する）。その他の資料は、授業中に適宜指示する。配布できる資料は、ウェブで公開する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の参加（20％）と、レポート（80％）

**【学生の意見等からの気づき】**

事例研究をより幅広く行うため、課題の学生からの希望聴取を、第2回目から口頭でも行うこととした。

**【担当教員の専門分野】**

経済政策（貿易投資の経済効果、マクロ経済対策など）、応用経済学（応用計量経済モデルを含む）。研究者データベース参照 <https://ra-data.dendai.ac.jp/tduhp/KgApp?kyoinId=ymkkgkysggg>

**【Outline (in English)】**

**【Course outline and Objectives】**

The students are:

1. to understand the framework and procedures to analyze the economic effects of public policies,
2. to discuss several examples of economic policies in Japan and other countries, on their objectives and scope,
3. to understand policy/project evaluation methods.

As the goal, the students are to understand the basic framework of the policy evaluation, based on the public enoconomics, including the cost-benefit analysis. In addition, the students are to be accustomed with the procedures of policy evaluation.

**【Learning activities outside of classroom】**

None

**【Grading Criteria /Policy】**

Participation in the class (20%), submission of a research report(80%)

POL500P1 - 064 (政治学 / Politics 500)

市民参加の理論と実践

杉崎 和久、小島 聡、谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市民参加は、政治学や行政学、さらに公共政策学の永遠のテーマといえるが、現代では、他の学問分野や個別の政策領域においても重要なテーマになっている。

この授業では、市民参加の理論と動向から現代の政策過程とガバナンスについて俯瞰した上で、市民参加の実践事例に関する検討を行う。この授業は、参加学生が、市民参加を通して、歴史・理論・実践動向を学びながら、制度・手続、社会技術の手法とその活用、参加のガバナンス・マネジメントなどについて、学際的かつ政策領域横断的な視野を身につけることが目的である。

【到達目標】

この授業に参加することによる学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ・市民参加の歴史・理論・実践に関する基礎知識と教養を習得する
- ・自治体政策と市民参加に関する基礎知識と教養を習得する。
- ・都市計画分野における市民参加の動向について理解する。
- ・市民参加の手法選択、市民参加の制度・手続の設計と運用、参加のガバナンス・マネジメントに関する政策思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

講義の前半は、市民参加総論として、デモクラシーと市民参加の歴史や、理論と実践の動向、自治体政策と市民参加に関する概説を扱う。講義の後半は市民参加各論として、都市計画分野における市民参加について、運動から参加への制度化、市民だけではなく企業なども含む民間主体による都市空間の管理・運営について扱う。また数名のゲストスピーカーを招き、実務上の経験知などについて講義と討論を行う。討論は質疑応答にとどまらず、市民参加に関する研究会のスタイルで行う。最終回は、総括的な講義を行い、今後を展望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	市民参加総論（1）	マスデモクラシーの形成史と市民参加、政策過程と市民参加の関係、熟議デモクラシーと現代の参加手法について検討する。 【小島】
第2回	市民参加総論（2）	日本の現代史における市民参加の軌跡、自治体政策をめぐる市民参加の動向と論点について検討する。【小島】
第3回	地方自治制度と市民参加	地方自治制度における市民参加の位置づけ等について検討する。 【谷本】
第4回	都市計画分野における参加の展開	法定都市計画への対抗概念としてのまちづくり運動から都市計画における参加の制度化の過程を検討する。【杉崎】

第5回	都市計画分野における参加事例	都市計画分野における市民参加の事例についてゲストから話題提供とそれを踏まえた議論を行う。【杉崎】
第6回	自治体における市民参加の実践	自治体の立場で市民参加を実践してきたゲストから話題提供とそれを踏まえた議論を行う。【谷本】
第7回	学生からの市民参加事例報告	市民参加事例に関する事例報告を行う。【杉崎】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。この授業に参加する学生は、以下の時間外学習を行う。

- ・事前に配布する資料を読む。
- ・事前に提示する事項について概略を調べる。
- ・授業内で提示するテーマについてレポートを執筆する。

【テキスト（教科書）】

特に用いない

【参考書】

- ①篠原一編『討議デモクラシーの挑戦 ミニ・パブリックスが拓く新しい政治』（岩波書店、2012）
  - ②米野史健ほか編『住民主体の都市計画 まちづくりへの役立て方』（学芸出版社、2009年）。
- 上記以外の参考文献については、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（80%）、最終レポート（20%）の総合評価とする。参加姿勢については、講義に対する履修態度、毎回行う質疑応答、討論への積極性等を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

・現代の市民参加はきわめて幅広い理論と実践領域にわたり、一人の教員がカバーしきれないのが実状です。こうしたことから、学際的なアプローチと専門家をゲストスピーカーとしてお招きすることで実践知を涵養する授業構成の有効性を実感しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、パソコンからプロジェクターに画像を投影する。

【小島 聡】

〈専門領域〉行政学、地方自治論  
 〈研究テーマ〉地域の持続可能性と自治体政策  
 〈主要研究業績〉  
 『自治体経営改革』（共著）（ぎょうせい、2004年）  
 『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）  
 『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして』（共編著）、（ミネルヴァ書房、2012）

【杉崎和久】

〈専門領域〉都市計画、市民参加手法  
 〈研究テーマ〉公共的意思決定における市民参加のあり方、まちづくりの現代史  
 〈主要研究業績〉  
 『市民参加と合意形成』（共著）（学芸出版社、2005年）  
 『住民主体の都市計画』（共著）（学芸出版社、2009年）

【谷本有美子】

〈専門領域〉行政学、地方自治、市民自治  
 〈研究テーマ〉中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制  
 〈主要研究業績〉  
 『地方自治の責任部局』の研究－その存続メカニズムと軌跡[1947-2000]』（公人の友社、2019年）  
 『分権社会と協働』（共著）（ぎょうせい、2001年）  
 『分権改革の動態』（共著）（東京大学出版会、2008年）  
 「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に」（2016）『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

【Outline (in English)】

This course deals with theory and trends of citizen participation. It also enhances the development of students' skill in citizen participation practice.

The purpose of this course is to acquire an interdisciplinary and cross-policy perspective on citizen participation systems, socio-technical methods, and governance management.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report (20%) and in-class contribution (80%) .

SOS500P1 - 066 (その他の社会科学 / Social science 500)

## 地域コンサルティング論

佐谷 和江

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①この授業では、実際の地域コンサルティング事例を通じて、その背景やプロセス、そして得られた成果や課題を学ぶ。
- ②また、コンサルティング技術の実践演習を行う。
- ③地域の人々による自治（地域レベル、市レベルなど）の枠組みの中で、コンサルティングがどのように機能するか、その役割と重要性について理解を深める。

### 【到達目標】

- ①ケーススタディの分析能力の向上：この授業を通じて、地域コンサルティングの基本理論と実践方法を学び、様々なケーススタディを分析する能力を養う。
- ②スキルの体験：基本的なコンサルティングスキルを体験し、将来のキャリア設計の一助とすることができる。
- ③ローカルガバナンスの理解と見解の形成：また、ディスカッションを通じて、地域コンサルティングの意義と地域の人々による自治（ローカルガバナンス）におけるその役割について自らの見解を形成し、表現する能力を高める。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

コンサルティングとは、専門性を活かして、企業や行政などに対して外部から客観的に現状を把握し、問題点を指摘し、対策案を提示する業務を行うことである。地域コンサルティングは、自治体や住民に対して行うことが多い。ローカルガバナンスの主体である住民、NPO、行政、企業とは異なり、意志決定に参画するものではないが、それらに与える影響は小さくない。

本講義ではケーススタディや手法のスタディ・演習を行う中で、地域コンサルティングに関する理論や方法論を実践的に学ぶ。

授業形式（対面）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義概論	授業の概要や地域コンサルティングにおいて重要なキーワードを紹介する。手法としては「話し方」を学ぶ。
2	全市レベルの計画作成を支援するコンサルティング	練馬区や港区をケースに全市レベルの計画作成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション」を学ぶ。
3	地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティング	新宿区落合三世モデル事業をケースに地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション・グラフィックス」を学ぶ。

4	地縁型・テーマ型コミュニティ組織のコンサルティング	横浜市まち普請事業をケースにコミュニティ組織のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ロールプレイング」を学ぶ。
5	地域活性化（コミュニティビジネス）のコンサルティング	墨田区玉の井地区をケースに地域活性化のためのコミュニティビジネスへのコンサルティングを学ぶ。手法としては「プロセス・デザイン」を学ぶ。
6	社会貢献する人材育成のコンサルティング	江戸川総合人生大学をケースに社会貢献する人材育成のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ワークショップのプログラム作成」を学ぶ。
7	講義の総括とレポート発表	これまでの講義の総括を行う。また、各自レポートを発表し、ディスカッションする。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ケースのURLを下記に示すので、事前に概要を把握する。

○第2回：練馬区都市計画マスタープラン改定支援

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/>

港区まちづくりマスタープラン改定支援

<https://www.city.minato.tokyo.jp/sougoukeikaku/kankyo-machi/toshikekaku/kekaku/master-plan.html>

○第3回：新宿区落合三世モデル事業

[https://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file03\\_04\\_00001.html](https://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file03_04_00001.html)

○第4回：横浜市まち普請事業 左近山地区

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/machibusin.html>

○第5回：墨田区玉の井地区

<https://teratama.tokyo/>

○第6回：江戸川総合人生大学

<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

### 【参考書】

①都市のイメージ/ケヴィン・リンチ/1960、翻訳1968、新版2007/岩波書店

②アメリカ大都市の死と生/ジェイン・ジェイコブス/1961、翻訳2010/鹿島出版会

③人間の街：公共空間のデザイン/ヤン・ゲール/2014/鹿島出版会

④都市計画とまちづくりがわかる本/2017/彰国社

⑤稼ぐまちが地方を変える 誰も言わなかった10の鉄則/木下 斉/2015/NHK出版新書

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%：地域コンサルティングに関する理論や方法論を積極的に学んでいるか。

討論への参加30%：基礎的なコンサルティング能力の習得のための演習等に積極的に取り組んでいるか。

レポート・発表30%：地域コンサルティングの位置づけなどについて、具体的なケースを踏まえて方向性を検討し、発表してもらうが、その際、適切なケースを把握し、十分に考察を行っているか。

### 【学生の意見等からの気づき】

紹介する事例を更新するとともに、それぞれのケースにおいて、各主体の関わり方をわかりやすく説明する。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

都市計画、地域計画、コミュニティマネジメント

<研究テーマ>

自治体の都市政策、コミュニティのエンパワーメント、地区計画制度

<主要研究業績>



- 「パンデミック×デジタル空間・グローバル社会」で続けるべきこと／2021／建築ジャーナル
- 都市計画の構造転換 整・開・保からマネジメントまで／2021／鹿島出版会
- BIOCITY No.74 特集 エコロジカル・デモクラシーのデザイナー―世界をつなぐ15の原則／2018／ブックエンド

**【Outline (in English)】**

● Course outline

- ① Through real-world regional consulting cases, this course will explore their backgrounds, processes, outcomes, and challenges.
- ② It will also include practical exercises in consulting techniques.
- ③ The course aims to deepen understanding of how consulting functions within the framework of local self-governance (at regional and city levels), focusing on its role and importance.

● Learning Objectives

- ① Case Study Analysis Skills: Learn basic theories and practical methods of regional consulting, and develop the ability to analyze various case studies.
- ② Skill Application: Gain experience in basic consulting skills, aiding future career planning.
- ③ Understanding and Formulating Opinions on Local Governance: Through discussions, enhance the ability to form and express personal views on the significance of regional consulting and its role in local governance.

● Learning activities outside of classroom

You are expected to understand the outline of each case in advance by referring to the Internet.

The standard preparation and review time for this class is 2hours each.

● Grading Criteria /Policy

Ordinary points (40%)

Evaluate by actively learning theory and methodology

Participation in discussion (30%)

Evaluate whether you are actively engaged in exercises for acquiring basic consulting skills

Report and presentation (30%)

The report will be considered based on specific cases of regional consulting. At that time, evaluate whether it is an appropriate case and whether it is sufficiently considered.

SOS500P1 - 067 (その他の社会科学 / Social science 500)

## ファシリテーション演習

徳田 太郎

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複雑化・多様化する社会における政策プロセスに必要なスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本科目においては、政策過程における参加や熟議の位置づけ、その中でファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

### 【到達目標】

- ・参加者主体の合意形成や課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・政策過程における参加や協働の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、多様な人々の個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようにする。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

- 対面授業にて実施する。各回とも、講義と演習を織り交ぜながら進める。
- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
  - ・第2回：講義と質疑応答を中心に、政策過程と参加・熟議の関連を学習する。
  - ・第3～4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
  - ・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
  - ・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
  - ・第14回：まとめの講義を行う。
- \*各回とも、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回(1-前)	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
第2回(1-後)	政策過程と参加・熟議	政策過程におけるファシリテーションの位置づけを確認する（講義）

第3回(2-前)	ファシリテーションとは何か	ファシリテーション・ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
第4回(2-後)	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
第5回(3-前)	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
第6回(3-後)	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
第7回(4-前)	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
第8回(4-後)	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
第9回(5-前)	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
第10回(5-後)	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約の技術を学ぶ	アイデアの発散～集約の技術を学ぶ（講義・演習）
第11回(6-前)	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ（講義・演習）
第12回(6-後)	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
第13回(7-前)	ファシリテーション実践	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
第14回(7-後)	まとめ	全体のまとめを行う（講義）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にする。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理する。（予習・復習各120分程度）
- ・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備する。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめる。（予習・復習各120分程度）
- ・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨む。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解する。（予習・復習各120分程度）

### 【テキスト（教科書）】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

### 【参考書】

- ・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』（岩波書店、2009年）
- ・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

### 【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、各回の振り返りシートの質と量（約60%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約40%）から、総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内でファシリテーター（進行役）を体験する機会を、より多く持てるように工夫する。

### 【その他の重要事項】

受講者同士の話しあいを中心にした体験型の授業です。受講希望者は、必ず第1回授業に出席してください。やむを得ない事情で第1回授業に出席できない場合には、事前にメールにて担当教員にご連絡ください（宛先：taro.tokuda.83@hosei.ac.jp、件名：法政大学大学院ファシリテーション演習）。

**【担当教員の専門分野等】**

＜専門領域＞

政治理論（デモクラシー論）／ファシリテーション論

＜研究テーマ＞

熟議デモクラシーの理論と実践／その中でのファシリテーションの位置づけ

＜主要研究業績＞

・「アイルランドの憲法改正における熟議と直接投票」『法學志林』118巻3-4号、2020-2021年

・「対話／熟議の場を生成するファシリテーション」『総合人間学』14号、2020年

・『はじめての地域づくり実践講座：全員集合！を生ま出す6つのテラシー』（分担執筆）北樹出版、2018年

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets necessary for the policy process in an increasingly complex and diverse society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this class, you will understand and acquire the position of participation and deliberation in the policy process, the significance of facilitation in this process, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered consensus building and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to participation and collaboration in the policy process.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of diverse people and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

short reports: 60%, in class contribution: 40%.

MAN500P1 - 224 (経営学 / Management 500)

CSR論

長谷川 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義ではサステナビリティを巡る国際的な動向を整理し、CSR、CSV、SDGsが時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。サステナビリティ経営の強化を求めるコーポレートガバナンス・コードや東証市場再編、影響力を強めているESGマネー（投資・融資・保険）が企業経営にもたらす影響について理解を深めることめざします。

【到達目標】

サステナビリティに関する国際的な政策動向に関する基本知識を習得し、国内外の企業および機関投資家の行動を理解し正しく評価する能力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻「CSR論」においては公共マネジメントコースの「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻「サステイナブル経営論」においては「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本のSDGs/CSRおよびBusiness Ethicsに関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	価値共創時代のサステナビリティ経営とは	サステナビリティ経営の概観
第2回	責任経営ケーススタディ①	住友財閥／伊庭貞剛・鈴木馬左也
第3回	サステナビリティ経営の最新動向「ガバナンス編」	日本型ガバナンスの現状 コーポレートガバナンスコード
第4回	責任経営ケーススタディ②	大日本報徳社／岡田良一郎
第5回	サステナビリティ経営の最新動向「環境編」	脱炭素経営の本質企業評価の新たな尺度となる炭素利益率
第6回	責任経営ケーススタディ③	豊田自動織機／豊田佐吉 スズキ／鈴木道雄
第7回	ESG経営の最新動向「社会編」	人権・ダイバーシティ 人的資本経営
第8回	責任経営ケーススタディ④	倉敷紡績・クラレ 大原孫三郎 大原総一郎
第9回	近代産業の勃興と経済倫理「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について

第10回	責任経営ケーススタディ⑤	ゲンゼ／波多野鶴吉 天竜木材／金原明善
第11回	日本社会における企業倫理の形成	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第12回	責任経営ケーススタディ⑥	第一生命／矢野恒太 東京海上／各務謙吉
第13回	ゲストスピーカーによる講義①	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します
第14回	ゲストスピーカーによる講義②	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

企業が発行する統合報告書やサステナビリティ報告書を参照しながら、SDGsやパリ協定と企業はどのように向き合おうとしているのかについて自己学習を深めて下さい。詳細については、初回授業において説明します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年  
毎回レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂, 2023年  
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会, 2023年  
Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan  
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂, 2019年  
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年  
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年  
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文真堂, 2016年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：80%  
発表・討議：20%

【学生の意見等からの気づき】

複雑な数式等は使わず、財務分析や証券投資に関する知識の無い方にも理解しやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー  
<研究テーマ>  
企業と社会のサステイナビリティ  
<主要研究業績>  
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年  
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年  
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI(社会的責任投資)ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG(非財務)側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連視角】

証券アナリスト検定会員 (CMA)

**【Outline (in English)】**

In this lecture, we will review how international trends in sustainability (CSR, CSV, SDGs) have been changing. We will also examine the impact of the Corporate Governance Code, the restructuring of the Tokyo Stock Exchange and ESG money (investment, financing and insurance) on corporate management. Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading will be based on the final report (80%) and presentation (20%).

POL502P1 - 068 (政治学 / Politics 500)

**政策研究概論 (外国語) ※中国語**

毛 桂榮

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

公共政策に関する基礎文献を中国語で講読することを中心に勉強し、院生が政策分析の基礎を修得できるように教授します。文献は、日本語、中国語、英語のものですが、履修者と相談しながら、適宜変更もします。しかし、基礎文献を理解することが大事で、じっくり資料を理解するように心がけていきます。なお、この科目は、公共政策論を中国語を利用して勉強するものです。公共政策論の専門知識を勉強するようにカリキュラムを設定しており、中国語を勉強することを目的にした授業ではありません。この点に関しては、十分理解してください。

**【到達目標】**

以下の内容、提示する基礎文献を基本にじっくり「読解」します。資料・論文を要約した上で議論をする形で進めます。半年、基本文献15本以上を熟読するようにします。公共政策分析・研究の手法を修得することを目指します。言葉・概念の問題だけではなく、社会科学における議論の仕方、論文の書き方も含めて、資料を利用しながら、解説・解説・討論します。ゼミの最終回 (この予定は履修者の数により適宜調整) においては、学生が関心する政策課題を事例として、研究発表を行う予定にしています。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

基本は、対面授業です。

- (1) 新型コロナウイルスの流行により、一部オンライン授業はあるが、本授業は、法政大学の方針に則り、「対面」を基本とする予定です。
- (2) もちろん、柔軟に「オンライン」も必要に応じて調整します。
- (3) また、ゼミの進め方は：基本文献の要約からスタートし、議論を深めていきます。資料の事前予習、また関連文献の復習・勉強も必要です。基本文献を中心に、関連する分野の研究資料なども、ある程度把握できるようにしていきます。最後は、各自の発表をもって基礎修得の確認をおこないます。
- (4) 勉強に関する質問は、(本システム、あるいはLINEを通じて)常時受付ます。また、ゼミでは質疑応答の時間も用意します。さらに、報告、提出するレポートに関しても、随時、コメントを返しますので、利用してください。

注意)メールで連絡する場合、[maoguirong@gmail.com](mailto:maoguirong@gmail.com)を使用する。法政大学から付与されたメールアドレスを使用していない。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	打ち合わせ。また大学院の勉強方法についても相談。	文献「若い大学院生へ」を事前配布、当日討論、勉強についての相談。学生のフィールドワークに関して相談も可能。
第2回	行政学の研究史、公共政策論の先行研究について	配布資料 (システムにアップ) の講読を中心に議論：資料「行政学の歴史」など資料を配布、中国語資料もある。
第3回	行政学の歴史における公共政策研究	西尾行政学第4章、日本語と中国語を講読。資料は事前配付。

第4回	さらにもう一つ専門文献を読む	西尾『行政学の基礎概念』所収「行政と組織」論文など行政、政策と管理などの論文を読む。今村『組織と行政』も必要文献。
第5回	USA PA 歴史。英文資料を読む。	英文資料をもって勉強。公共政策研究の歴史も確認。
第6回	公共政策論研究の歴史、並びにガバナンス概念に関する英文資料一つ読解	資料「アメリカ公共政策論の台頭」を講読。また英文：Reflections on governance。状況に応じて、この勉強を2回に分けて進めることも可能
第7回	日本の行政学研究と教育	中国語資料「日本行政学史」(公開資料論文、毛)
第8回	日本の公共政策研究の歴史	「日本の公共政策研究」論文を読む。日本公共政策学会の機関誌に掲載された論文に関する分析論文、中国語論文も参照。
第9回	「公共性」概念の研究	論文「公共性」に関する論文、または、「公共政策とは何か」を読む。
第10回	decision theory 「非決定」、「権力の3つの顔」の概念	英文資料、日本語資料を講読。
第11回	政策形成における政治家と官僚	Bureaucrats and Politicians in Western...1981の終章を読む。また、毛「政府と行政」も参照。
第12回	官僚制の概念	資料「官僚制への視点」今村「行政学の基礎理論」所収を読む。西尾「新版・行政学」官僚制論2章も参照。
第13回	政策リサーチ手法	東大出版「政策リサーチ入門」の文章2つ：事例研究
第14回	学生の研究発表。フィールドワーク調査がある場合、結果を踏まえて	研究発表。学生が関心する課題について分析・発表。修士論文などの検討・相談も可能。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

西尾『行政学の基礎概念』(東大出版)。この本は、(毛が参加した)中国語訳があり、法政大学の図書館にも所蔵あります。一部資料は配布する予定です。また、今村『行政学の基礎理論』(三領書房)、秋吉ほか「公共政策学の基礎」(有斐閣、最新版)、伊藤修一郎「政策リサーチ入門」(東大出版、新版)のほか、配布する資料を必ず読むこと。

**【参考書】**

日本公共政策学会の機関誌を読むこと

**【成績評価の方法と基準】**

授業での報告40%、討論60%を基本に、総合評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

事前の予習をしない場合、内容理解に困難を来すことがあります。全員は、予習するようにしてほしい。相談により、講読の資料を適宜調整します。

**【学生が準備すべき機器他】**

配布資料は、基本的にデータPDFの形式で渡します。本システムにアップした資料を確認してください。電子メールへの送信も可能ですが、別途相談の上、決めます。授業時、毎回PCを持参すること。

**【その他の重要事項】**

- 1、授業の担当者は、本務校が法政大学ではないので、連絡は、[maoguirong@gmail.com](mailto:maoguirong@gmail.com)を利用します。必要があれば、ラインも利用します。注意：法政大学から付与されたメールアドレスを使用していない。
- 2、注意：以上の予定は、適宜変更をします。履修者と相談しながら、やっています。
- 3、少人数のクラスですので、読書の負担がかなりあります。
- 4、成績は、討論、報告などを踏まえて総合判断します。

**【担当教員の専門分野等】**

行政学、日本行政などを研究。著書「日本の行政改革」「比較の中の日中行政」があり、また「行政の概念」、「公務員の用語と概念」の論文（中国語、日本語）などがあります。最近は、中国の公務員制度などを研究中、複数論文を公表しています。論文のほとんどは、ネットで検索・入手可能です。参考にしてください。

**【Outline (in English)】**

This course introduces students the basic literatures and knowledge on public policy and policy analysis. The literatures are papers and books on Chinese, Japanese, and English. This course will enhance students' skill in policy analysis.

Students will be expected to have completed the required assignments (read papers and prepare class report and so on) before each class meeting and then participate in discussions on each topic. Your study time will be more than three hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: (1)class reports 40%, (2) and in-class contribution (discussions) 60%.

BSP500P1 - 069 (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500)

## 公共政策論文技法1

白鳥 浩、菅米地 真理、宮崎 一徳

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策科学の先端的研究の現場に触れる。

### 【到達目標】

初学者にも論文の書き方がわかる。公共政策分野における学術論文の作法を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

初めて論文を書く方にはこちらをお勧めする。博士号を取得した政策研究を行っている研究者による、やさしく先端的研究の紹介を中心として、政策科学が抱えている現代の問題をアカデミックに理解することを旨とする本講義は、複数教員による分担講義として展開される。そこでは、現代の政策科学が抱える、アクチュアルな問題が提示される。学術的な価値の高い修士論文の執筆を目指す大学院生に、専門研究者レベルのスタンダードを明示することとなる。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	政策科学の最先端と政策へのアカデミックなアプローチ(白鳥)	政策科学の定義と歴史、政策と学術研究の関係
2	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析1(宮崎)	問題提起と分析
3	理論的フレームワークとデータの収集1(宮崎)	フレームワークの提示、データへのアクセス
4	分析結果と学会内での研究上の位置1(宮崎)	分析の位置、研究の意義
5	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析2(菅米地)	問題提起と分析
6	理論的フレームワークとデータの収集2(菅米地)	フレームワークの提示、データへのアクセス
7	分析結果と学会内での研究上の位置2(菅米地)	分析の位置、研究の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義中適宜指示

【参考書】

講義中適宜指示

【成績評価の方法と基準】

出席および毎回の講義への取り組み30%、レポート70%。レポートについては、各自の研究テーマの学術的価値を的確に表現できているかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

まずは入学してこちらを履修されることをおすすめする。初めて論文を書く初学者を対象に、論文執筆過程でのテーマ設定、データの収集、その他の課題をより具体的に解説する。

【担当教員の専門分野等】

白鳥 浩

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【担当教員の専門分野】

菅米地真理

<専門領域>政策過程。国際政治。

<研究テーマ>国際化時代の東アジアの分析。

<主要研究業績>

菅米地真理『尖閣問題 政府見解はどう変遷したのか』柏書房、2020年。ほか。

【担当教員の専門分野】

宮崎一徳

<専門領域>政策過程

<研究テーマ>議員立法、多元的政策提言、政治主導と国会の役割

<主要研究業績>

宮崎一徳『議員立法の役割』法政大学学術機関リポジトリ、2018年3月。

宮崎一徳「変換型」議会の表出『日本政治法律研究第3号』2021年3月。

宮崎一徳「附帯決議の分析」『法政論叢58巻1号』2022年。

【Outline (in English)】

This course offers our Ph.D. holder's knowledge on tips to write a thesis. The lecture is mainly on the framework of writing academic paper.

The goals of this course are to realize relationship between theory, research, and thesis.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 70%, and class contribution 30%.



SOS500P1 - 072 (その他の社会科学 / Social science 500)

**学術的文章作成演習 (基礎)**

淵元 初姫、西谷内 博美、宮川 路子、林 嶺那、竹元 秀樹

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

修士論文を執筆する上でのポイントとなる事項について、教員によるオムニバス講義と修士論文執筆者(修了生)の報告という形式で展開します。修士論文の執筆に向けて身につけておくべき基本的なスキルについて学ぶことを目的とします。具体的には、学術的文章を作成するための考え方や社会調査の基礎、研究倫理に関する事柄などについて取り上げます。修士課程1年生のうちに履修することを推奨しますが、2年次以上、また、博士後期課程在籍者の履修も可能です。

**【到達目標】**

- (1) 修士論文を執筆する上で求められる事柄について理解する。
- (2) 学術的文章とはどのようなものであるか理解する。
- (3) 文章をわかりやすく構成し、引用と出典の明記を適切に出来る。
- (4) 社会調査に関する基本的知識を習得する。
- (5) 責任ある研究活動を行うための研究倫理について理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻「学術的文章作成演習(基礎)」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

複数の教員によるオムニバス形式で講義を行うほか、ワークショップやディスカッションを行います。授業方式や事前の準備、事後の課題提出などは各回によって異なります。**Hoppi**(授業支援システム)を通してお知らせを致しますので各回の教員の指示に従ってください。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：研究へのいざない	講義の全体概要を示しながら修士論文の執筆に際して求められる基準や考え方について説明する。
第2回	修士論文の執筆に向けて	研究テーマの選定や、先行研究の調査等について説明する
第3回	論文の定義と構成	論文の必須要素と基本的な構成を知識のレベルで学ぶ。
第4回	論証エクササイズ1	第3回で学んだ知識を元に、論証の技術練習をする。具体的には、マインドマップを用いて思考を整理する。
第5回	論証エクササイズ2	第4回に引き続きマインドマップを用いて、文章を組み立てる練習をする。
第6回	引用とスタイルガイド	引用の原理と基本ルールを学ぶ。特定のスタイルガイドに則して引用処理の練習をする。
第7回	修士論文の執筆に向けて(1)	修士論文の執筆に際して習得すべき知識やスキル、作法について教授する。
第8回	公共政策研究科修士課程修了者による報告(1)	修士論文執筆に際する自身の経験に基づいた報告を行い、その内容について質疑・討論を行う。

第9回	修士論文の執筆に向けて(2)	修士論文の執筆に際して習得すべき知識やスキル、作法について教授する。
第10回	公共政策研究科修士課程修了者による報告(2)	修士論文執筆に際する自身の経験に基づいた報告を行い、その内容について質疑・討論を行う。
第11回	修士論文の執筆に向けて(3)	修士論文の執筆に際して習得すべき知識やスキル、作法について教授する。
第12回	公共政策研究科修士課程修了者による報告(3)	修士論文執筆に際する自身の経験に基づいた報告を行い、その内容について質疑・討論を行う。
第13回	修士論文のプロポーザル(仮)に関する検討	これまでの講義と報告に基づき、各自の研究における「問い」を明らかにし、それについて検討を加える
第14回	まとめ	総括討論を行い、各自の課題を明確にする。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。教員・テーマによっては、授業当日までに予め指示された課題を行うなどの準備学習が必要となります。また、授業中に課題を指示された場合は、期日までに提出してください。

**【テキスト(教科書)】**

教科書の指定は特にありません。必要に応じてレジュメを配布します。

**【参考書】**

参考書については必要に応じて授業内に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の質疑や討論における参加(30%) 課題の提出(30%)、期末レポート(40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

専攻やコースを超えた複数の教員や修了生から学ぶ機会のひとつとして活用されているようです。

**【学生が準備すべき機器他】**

Hoppi(授業支援システム) およびオンライン講義(zoom)へ接続するインターネット環境が必要となります。

**【Outline (in English)】**

MA or PhD students in their first year are welcome to sign up to this course. Each lecture will provide students with an understanding of writing a Masters dissertation or PhD thesis. The course will be able to help students raise their academic related competency in writing. Upon completion of this course, students should be able to develop good academic practice. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting. Students will be Assessed by; Reaction paper 30%, Reporting paper 40%, Class contribution 30%

SOS500P1 - 073 (その他の社会科学 / Social science 500)

## 学術的文章作成演習 (応用)

西谷内 博美

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学術論文の執筆能力を高めること、言い換えると「学術論文」を作成するための一般的な知識を体系的に学んだり、技術を習得したりすることが目的です。

### 【到達目標】

- 論文のかたちや構成要素などについての理解を深め、その知識を実践的に活用することができる。
- パラグラフ・ライティングにもとづく論証が出来る。
- 授業内容を踏まえて、自分の研究計画を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻「学術的文章作成演習 (応用)」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

この科目は演習です。つまり、講義よりも実践的な作業が多くなります。

より具体的には、宿題あるいは授業内で作業をしてもらい、その成果をグループワーク形式でピアインストラクションすることが主要な進め方です。また、ピアインストラクションの延長として講師からもフィードバックします。

なお以下の授業計画は暫定的なものです。実際には、受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとプレテスト	・授業の内容と進め方を共有する。 ・プレテストを実施する。
第2回	論文とは何か/論文の型	・論文の特徴を理解する (テキスト第1章) ・論文の型や意義を理解する (テキスト第2章)
第3回	論証とその技法	論証の技法を理解する (テキスト第9章)
第4回	論証の練習①思考の整理	論証の技法を用いて思考の整理をする。
第5回	論証の練習②議論	論証の技法を用いて議論を整理する。
第6回	主題と対象①理解	主題と対象の使い分けを理解する (テキスト第3章)
第7回	主題と対象②実践	主題と対象の使い分けを実践する
第8回	先行研究の特定/調査設計 (レシピ)	・主題を絞り、先行研究リストを作成する (テキスト第4章) ・調査設計の方法を理解し実践する (テキスト第5章)
第9回	学問体系と「先行研究の検討」	・学問体系と「先行研究の検討」についての理解を深める (テキスト第6章)

第10回	研究計画書/構成と仕上げ	・研究計画とプレゼンテーションについて理解を深める (テキスト第8章) ・最後のチェックポイントを確認する (テキスト第11章)
第11回	社会調査法	社会科学でよく使われる実証的調査の方法を概観する (テキスト第7章)
第12回	スタイルガイド	引用の方法を理解し練習する (テキスト第10章)
第13回	プレゼンテーション	研究計画をプレゼンテーションする
第14回	ポストテスト	ポストテストを実施する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎授業回に一定量の宿題 (予習課題や復習課題) があります。授業内では、持ち寄った宿題回答を用いて授業を進めることになるため、宿題は必ず実施してください (宿題を提出していない場合は授業参加が難しくなります)。

また、予習および復習としてテキストの該当箇所を読み、理解を深めてください。

### 【テキスト (教科書)】

小熊英二, 2022, 『基礎からわかる——論文の書き方』講談社。

### 【参考書】

佐渡島紗織・吉野亜矢子, 2021, 『これから研究を書くひとのためのガイドブック第2版』ひつじ書房。

井下千以子, 2019, 『思考を鍛えるレポート論文作成法第3版』慶應義塾大学出版会。

### 【成績評価の方法と基準】

研究計画書とプレゼンテーション20%、ポストテスト20%、平常点60%。平常点の内訳は以下の通り。ただし配分は受講人数等に応じて調整する場合があります (宿題30%、発言とグループワーク20%、リアクションペーパー10%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なPCをご準備ください。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、国際社会学、コミュニティ論  
<研究テーマ>廃棄物管理、開発援助、アカデミック・ライティング  
<主要研究業績>

2022「日本における大学ライティング教育の変遷」『東京電機大学総合文化研究』20：55-63

2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂。

2016『開発援助の介入論』東信堂。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

The objective of the course is to improve students' academic writing abilities. For this purpose, students are introduced to the basic concepts and conventions of academic writing.

(Learning Objectives)

Upon completion of the course, students should:

- ・ be aware of a series of writing processes.
- ・ gain practical experience of each process.
- ・ be able to write an effective research plan.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have completed their assignment(s) and read the relevant chapter(s) from the text. It is necessary for you to spend more than four hours studying for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Research plan 20%, Term examination 20%, Assignments 30%, Class contribution 30%

POL500P1 - 101 (政治学 / Politics 500)

**政策学研究**

淵元 初姫

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

政治学からの政策研究へのアプローチについて、政策過程研究の方法論のうち、実証的な政策研究に必要なものを取りあげ、修士課程での研究の中で活用できるよう、その特徴、適した分析対象、期待される分析結果などについて考察する。

**【到達目標】**

政策過程研究の主要な理論、枠組、モデルについて概要を把握し、研究テーマに応じた分析方法の的確な選択、応用ができるようになることを到達目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究一般におけるアプローチ方法について整理します。受講者は、個人の関心に沿って課題を設定し、政策研究の分析方法を応用して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実証的な政策研究とは何か。また、なぜ政策の分析に理論・モデル・フレームワークを用いる必要があるのかを論じる。
第2回	政策研究のフレームワーク	政策研究における理論・モデル・フレームワークの概念を整理し、現代の政策研究の枠組みがどのように展開してきたかを振り返る。
第3回	政策研究におけるモデルの基礎1	アクターに着目したモデルについて学ぶ。
第4回	政策研究におけるモデルの基礎2	方法論に着目したモデルについて学ぶ。
第5回	政策決定における合理性と不確実性	合理性とは何か、合理的な意思決定は可能か検討する。
第6回	政策決定と制度・利益・アイデア	政策決定における3つの「I」について学ぶ。
第7回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策決定と3つの「I」に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第8回	アリソンの3つのモデル	G. アリソンによる対外政策決定研究のための3つの概念レンズから学ぶ。
第9回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、アリソンの3つのモデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第10回	キングダンの政策の窓モデル	J. キングダンの政策の窓モデルから学ぶ。

第11回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、キングダンの政策の窓モデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第12回	政策とデータ	政策立案に際してその根拠となる政府統計について考える。
第13回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策とデータに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第14回	まとめ	講義のまとめを行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しません。

**【参考書】**

必要に応じて授業中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

課題報告（30%）及び期末レポート（40%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（30%）により評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生による課題報告については、少しテーマを絞ったほうがよいかと考えました。受講生の皆さんと相談しながら工夫したいと思います。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策  
 <研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権  
 <主要研究業績>  
 「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』 pp.81-118、日本評論社  
 「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』 pp.203-26、明石書店  
 「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』 pp.131-42、地域開発研究所

**【Outline (in English)】**

We now turn to more detail on how policies are actually made. The course will look at how policy agenda is set and how policy issues are constructed and framed. It will also explore how we can evaluate public policy. Important themes will include the role of ideas, institutions and interests in the policy-making process. The course will employ a number of case studies to give life to the theories and concepts explored. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting. Students will be Assessed by;  
 Course presentation 30%, Short Essay 50%, Class contribution 20%

POL500P1 - 128 (政治学 / Politics 500)

## 行政学事例研究の方法

林 嶺那

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになることを目的とする。なお、本講義では、事例研究を「より大きな事例の集合に、少なくとも部分的に光を当てることを目的とするような単一あるいは複数事例の研究」と定義する。

### 【到達目標】

行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究のタイプと研究論文の構造	記述的な研究と因果的な研究の区別を理解した上で、研究論文の基本的な構造を学ぶ。
第3回	事例研究のタイプ	事例研究のタイプに関する著作の一部を読む。
第4回	事例選択の基準	事例選択の基準に関する著作の一部を読む。
第5回	記述的な事例研究	記述的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第6回	因果的な事例研究	因果的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第7回	定性的研究と定量的研究の違い	定性的研究と定量的研究の違いを理解し、両者を組み合わせた混合手法について理解する。
第8回	事例研究の評価基準	事例研究の評価基準に関する著作の一部を読む。
第9回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。行政改革に関する論文を予定している。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。第一線公務員論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。リーダーシップに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。ガバナンスに関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。途上国の行政に関する論文を予定している。
第14回	研究構想の発表	事例研究に基づく研究計画の構想を発表する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

King, G., Keohane, R. O., & Verba, S., 1994, Designing social inquiry, Princeton university press.

Gerring, J., 2016, Case Study Research: Principles and Practices, Cambridge University Press.

Yin, R.K., 1994, Case Study Research: Design and Methods, Sage.

### 【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

### 【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学

<研究テーマ>人事行政

<主要研究業績>林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

### 【Outline (in English)】

This course aims to deepen students' understanding of the theory and practice of case studies in public administration and enable them to implement case studies. In this course, a case study is defined as a study on single or multiple cases that aims to shed light, at least partially, on a more extensive set of cases. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

POL500P1 - 104 (政治学 / Politics 500)

## 自治体議会論

鍵屋 一

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自治体議会の歴史、意義を学び、議会の課題、国内外における先進事例を調査研究することにより、二元代表機関としての議会・議員のあり方について理解を深める。これにより、執行機関との緊張関係の下で住民福祉の向上を図る議会・議員となることを目指す。

### 【到達目標】

研究活動の基本となる議会の意義、歴史、先進事例を調査研究し、学生間、講師とともに討議を行いそれぞれの問題意識に合わせて課題を深掘りしていく。これにより、現実の自治体議会の抱える課題と今後の議会改革方策を浮き彫りにできる。学生は洞察力を深め、討議による集合知を紡ぎだすことができる。学生が積極的に討議に参加し、自らと他者の理解を深める主体となっているかを評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業形式☑️対面授業。主として松下圭一「政策型思考と政治」の議会関係部分を講師が解説し、重要部分について討議、集合知の紡ぎ出しを行う。また、現実の自治体議会のニュース、トピックスを積極的に取り上げ、解説、討議を行うことで学生の洞察力を高める。授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後にメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	議会の成立、歴史、意義と歴史	議会の成立過程、歴史、意義を学ぶ
第3.4回	各国の議会	わが国、および各国の議会の歴史、意義を学ぶ
第5.6回	各国の自治体議会の歴史	わが国、および各国の自治体議会の歴史、意義を学ぶ
第7.8回	各国の自治体議会の課題	わが国、および各国の自治体議会の現状と課題を学ぶ
第9.10回	自治体議会のあり方について	現実の自治体議会の課題、今後の方向性を学ぶ
第11.12回	自治体議会改革について	自治体改革の歴史と概要を学ぶ
第13.14回	災害時の自治体議会・議員について	災害時の自治体議会・議員のありべき行動規範について考える

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の住む自治体議会のホームページ、直近の議事録を読む。直近の自治体改革の動向を示す書籍、ホームページ等を調査しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

政策型思考と政治、松下圭一、東京大学出版会、1991年、4,644円  
 なお、講師が必要な部分を資料として提供するので、購入する必要はない。

### 【参考書】

江藤俊昭「自治体議会学 議会改革の実践手法」等  
 自治体議会改革フォーラムホームページ、[www.gikai-kaikaku.net](http://www.gikai-kaikaku.net)

### 【成績評価の方法と基準】

討議への参加など平常点 70 %  
 振り返りシート 30 %

### 【学生の意見等からの気づき】

学生からは、講義内容が濃密であるとの意見があった。理解が難しいと思われる部分については、質疑を促すとともに丁寧に解説していきたい。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自治体、防災  
 <研究テーマ>自治体議会・議員の災害対策  
 <主要研究業績>紀要論文、議員研修

### 【Outline (in English)】

#### (Course outline)

The aim of this course is to help students acquire the history and significance of the local council.

#### (Learning Objectives)

The goals of this course are to deepen the understanding of the council and members of parliament as a dual representative body.

#### (Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

#### (Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports :30 %, in class contribution: 70%

POL500P1 - 105 (政治学 / Politics 500)

## 公務員制度研究

森谷 明浩

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年における国家公務員の勤務環境、人材確保のための取組、給与制度の見直し、政官関係の変遷などに触れながら、日本の国家公務員制度全般について研究し、新時代の公務員人事管理の在り方としてどのような方向性が考えられるかについて探求する。必要に応じて、主要諸外国（英米独仏）との比較などについても解説する。

### 【到達目標】

日本の国家公務員制度の具体的内容及び制度の背景にある事情について理解を深めるとともに、国際比較の中における日本の国家公務員制度の特色などについても考察する。これらを踏まえ、今後の国家公務員制度の在るべき姿について自ら考える力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

講義は対面で行う。日本の国家公務員制度の成り立ち、全体像について概観した上で、採用や昇任、人事評価の仕組み、給与制度、勤務環境などいくつかの主要分野に関する現行制度や運用状況を説明するとともに、そのような制度設計や運用状況となっている背景事情などの解説も行う。その中で、国際比較における日本の特色や近年の公務員制度改革の動向、政官関係の状況等についても言及していく。

各回の授業の前半では、教員がその回に取り上げる分野について解説を行い、後半では学生自らが考える問題点や今後考え得る方策などについて自由討議を行い、学生が更なる研究を進めるに当たっての視座を提供していくことを主眼とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回・第2回	国家公務員制度の全体像と採用、昇進、人事評価	日本の国家公務員制度の成り立ちや全体像を概観した後で、近年の人材確保方策、国家公務員の昇進実態、国家公務員の人事評価制度と近年の見直し等について解説し、国家公務員の人材確保策や人事評価の在り方などについて考える。
第3回	給与	国家公務員給与の決定過程、人事評価を用いた昇給やボーナスの決定方法、諸手当、近年の給与制度の見直し（人材確保や組織パフォーマンスの向上、働き方やライフスタイルの多様化への対応）等について解説し、国家公務員の適切な給与水準や給与制度の設計を考えるに当たってどのような視点が重要かを考える。
第4回		

第5回・第6回 勤務環境の整備

第7回・第8回 官民間の人事交流、非常勤職員の現状

第9回・第10回 シニア職員の活用、退職管理、研修

第11回・第12回 身分保障、服務、懲戒、公平審査

第13回・第14回 公務員制度改革、公務員制度の将来像

フレックスタイム制度やテレワークの現状、その他の働き方改革の推進など、職員の多様なワークスタイル・ライフスタイルも踏まえた勤務環境の整備のための取組等について解説し、国家公務員の勤務環境の更なる整備に向けてどのような事柄が考えられるかについて検討する。中途採用の拡大や任期付職員の積極的な活用など民間人材を公務に誘致するための取組やその現状、非常勤職員の制度等について解説する。その上で、複雑化・高度化する行政課題に対応するため、公務においてどのような人材確保策が求められるのか、官民の円滑な人材流動化のためにはどのようなことが必要かを考える。

定年年齢の60歳から65歳への引上げや再就職規制等について解説し、シニア職員の役割や活用方策としてどのようなことが考えられるか検討する。また、国家公務員に対してどのような研修が行われているかについて概観し、今後必要となってくる研修メニューなどについて考える。国家公務員の身分保障の在り方、国家公務員として守るべきルール（服務）やそれに反した場合の制裁（懲戒処分）、職員が懲戒処分等の不利益な処分を受けた際の人事院への不服申立制度等について解説し、中立・公正な人事管理を実現するためには何が必要かについて検討する。

1990年代以降の政官関係の変化、内閣人事局の設置（2014年）に至る公務員制度改革の動向等を中心に解説し、政治と行政の適切な関係とはどのようなものかについて考える。また、講義全体を振り返り、将来の在るべき公務員制度を設計するに当たり、どういった視点が必要かを考える。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

### 【参考書】

村松岐夫編著『公務員人事改革—最新米・英・独・仏の動向を踏まえて—』（2018年学陽書房）  
 村松岐夫編著『最新公務員制度改革』（2012年学陽書房）  
 西尾勝著『行政学 [新版]』（2001年有斐閣）  
 西尾隆著『公務員制』（行政学叢書⑩）（2018年東京大学出版会）  
 吉田耕三・尾西雅博編『逐条国家公務員法〈第2次全訂版〉』（2023年学陽書房）  
 吉田耕三編著『公務員給与法精義第五次全訂版』（2018年学陽書房）  
 嶋田博子著『職業としての官僚』（2022年岩波新書）  
 人事院HP <https://www.jinji.go.jp/top.html>  
 内閣官房内閣人事局 HP <https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjikyoku/index.html>  
 内閣官房（旧）国家公務員制度改革推進本部 HP <https://www.gyokaku.go.jp/koumuin/index.html>

**【成績評価の方法と基準】**

- 平常点50%（毎回の授業において、その回における課題を理解して自らの理解の上立って議論に参加・貢献しているか）
- 小論文（レポート）50%（自ら選択する課題について考察を行った小論文）

**【学生の意見等からの気づき】**

学生自らが問題点を発見し考察を深めることができるようになります。

**【その他の重要事項】**

教員は、人事院に在職し、国家公務員の人事行政の制度及びその運用を実際に担当している。さらに内閣人事局などへの出向経験を通じ、人事院以外の角度からも人事行政に関わってきている。

これらを通じた経験や知見を紹介し、近年の公務員制度の動向や将来の在るべき公務員像などについても幅広く議論していく。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>公務員制度

<研究テーマ>近年における我が国の公務員制度の動向

<主要研究業績>

森園幸男ほか編『逐条国家公務員法全訂版』（2015年学陽書房）（共著）

吉田耕三編著『公務員給与法精義第五次全訂版』（2018年学陽書房）（共著）

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire Japanese civil service system including international comparison(U.K.,U.S.A.,Germany and France).

This course deals with detailed explanation of the Japanese civil system and its actual implementation.

Your overall grade in this course will be decided based on the following

Short reports: 50%,In-class contribution: 50%

POL500P1 - 108 (政治学 / Politics 500)

## 都市政策概論

杉崎 和久

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、多様な主体が活動をする都市空間において、秩序ある土地利用を制御する仕組みである近代都市計画の構造、現代的な課題を理解することを目的とする。

### 【到達目標】

秩序ある土地利用を制御する仕組みである都市計画法等の仕組みを理解した上で現代都市において表出さびているさまざまな課題の構造を把握した上で対応方策を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

都市計画法など現在の都市における空間制御の仕組みを講義する。そして、受講生は身近な自治体における都市計画事例をとりあげ、授業の中で報告し、議論を行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「対面」で行うが、一部「オンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ／講義：都市計画法概要	授業の進め方、参考資料等についての説明を行う。また、都市計画法の概要を説明する。
第2回	講義：土地利用規制1、2	用途地域を含めた土地利用規制全般と地区計画制度について説明する。
第3回	講義：市街地開発事業／都市施設	都市再開発事業や土地区画整理事業などの市街地開発事業、道路や公園などの都市施設について説明する。
第4回	講義：都市計画マスタープラン／人口減少社会における都市計画	都市計画の方針となるマスタープランを説明する。また昨今の都市における課題、それに対する都市計画の対応について説明する。
第5回	課題報告1	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。
第6回	フィールドワーク	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。(7/15祝日午後を予定)
第7回	課題報告2	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

輪読する文献は、受講者の関心等を踏まえて、指定する。

### 【参考書】

必要に応じて、教員が参考資料の配布や参考文献の紹介をする。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、担当課題の発表内容（40%）で行う。

ただし、出席回数が過半数（4回）未満、あるいは授業内での報告をしない場合には評価しない（E評価）。

\*なお、オンラインでの実施回については、議論に参加し、発言をすることで平常点に加算する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義に対応するための通信機器と通信環境。リアル zoom によるオンライン講義、動画配信によるオンデマンド講義、学習支援システムを通じて資料・音声データを配布します。

### 【その他の重要事項】

この授業は対面授業とオンライン授業を組み合わせで行う。第1回講義は zoom によるオンラインで行います。履修を希望される方は、第1回講義前に仮登録あるいは本登録をしてください。必要なID等は学習支援システムに登録しているメールアドレスに連絡いたします。

### 【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

#### 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

#### 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Normal point(60%), and report(40%).



POL500P1 - 109 (政治学 / Politics 500)

**都市政策事例研究**

杉崎 和久

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

多様な主体が活動をする都市空間において、適切な都市施設配置や秩序ある土地利用を制御する仕組みである近代都市計画は、都市における活動などが成長することを前提としたシステムである。しかし、都市の成長とともに生活空間の環境に変化を与えるなど新たな地域課題が生じることがある。市民によるまちづくり活動はこれらを顕在化させ、都市計画を変化させる役割を果たしてきた。本講義では、市民によるまちづくり活動の経緯、事例等を把握し、これらの活動の果たした役割を理解することを目的とする。

**【到達目標】**

この授業を通じて、都市空間において発生する生活場の変化に対して、市民が主体となるまちづくり活動を通じて、都市空間に関する新たな課題や価値が提起され、法定都市計画に変化を与える過程を理解すること

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

最初は、市民まちづくりの具体的な事例紹介をオンラインで行う。その後、受講生が、分担して身近なまちづくりの事例を調査し、講義の中で報告し、議論を行う。また、必要に応じて教員は講評や話題提供を行う。

授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション (まちづくりの展開過程)	授業の進め方、参考資料等についての説明を行う。また、市民によるまちづくり活動の展開過程について説明する。(zoomを併用したハイブリッド形式)
第2回	市民まちづくりの事例紹介1	現代の都市空間に対する受講者の関心を共有する。(オンデマンド形式)
第3回	市民まちづくりの事例紹介2	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。(オンデマンド形式)
第4回	フィールドワーク	市民まちづくりの実践事例の現地見学を行う。(11/14祝日午後に実施)
第5回	事例発表1	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。(zoomを併用したハイブリッド形式)
第6回	事例発表2	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。(zoomを併用したハイブリッド形式)

第7回 総括議論

具体的な施策を踏まえて、今後必要となる対応について議論を行う。(zoomを併用したハイブリッド形式)

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

輪読する文献は、受講者の関心等を踏まえて、指定する。

**【参考書】**

必要に応じて、教員が参考資料の配布や参考文献の紹介をする。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(60%)、担当課題の発表(40%)で行う。ただし、出席回数が過半数(4回)未満、あるいは授業内での報告をしない場合には評価しない(E評価)。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン講義に対応するための通信機器と通信環境。zoomによるリアルタイムオンライン形式、動画配信によるオンデマンド形式、学習支援システムを通じて資料・音声データを配布します。

**【その他の重要事項】**

この授業は対面授業とオンライン授業を組み合わせで行う。第1回講義はzoomによるオンラインで行います。履修を希望される方は、第1回講義前に仮登録あるいは本登録をしてください。必要なID等は学習支援システムに登録しているメールアドレスに連絡いたします。

**【担当教員の専門分野等】**

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要（Course outline）】**

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

**【到達目標（Learning Objectives）】**

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.Understanding the system that controls the formation of urban space
- B.Recognizing the contemporary problems of urban space

**【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】**

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

**【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】**

Grading will be decided based on Normal point(60%), and report(40%).

POL500P1 - 110 (政治学 / Politics 500)

政策過程研究

土山 希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、こんにちの社会（都市型社会）で生きるひとびとの「いとなみの基盤」である。都市型社会の構造と特質を知り、こんにちにいたるまで歴史的にどのような政策類型が蓄積されてきたかを理解し、政策主体と〈政策・制度〉のありかたを理解する。そのうえで、政策過程がどのように進むのかを学ぶ。この講義を通じて、各自の研究対象とする政策分野を政策学からとらえるための視角を養うこととなる。

【到達目標】

この講義の到達目標は以下である。  
 ・公共政策が展開される前提であるこんにちの社会構造（都市型社会）の特質を理解する  
 ・歴史的に形成されてきた政策類型をふまへ  
 ・公共政策の過程の基礎を学び  
 ・各自の研究対象とする政策分野をとらえる政策学の視角を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストの読解と議論、考察により進行する。受講生はテキストの指定された章について分担して要点と論点をまとめ、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。必要に応じて補足資料が提供される。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。なお、原則として対面講義とする。  
 ※初回開講時にはテキスト1章を読了して参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	の講義の目的、テキストの概説と進めかた、報告の分担など
第2回	講義「政治・政策と市民」	都市型社会における〈政策・制度〉と市民の関係を学ぶ（第1章）
第3回	都市型社会の特性	都市型社会と政策の特性を学ぶ（第2章）
第4回	都市型社会の成立	政策の歴史と類型を学ぶ（第3章）
第5回	政策の多元化	政府の三層化と政策（第4章）
第6回	日本と近代化	日本の政策を条件づける近代化を整理（第5章）
第7回	政策の主体	都市型社会における政策主体の多様化を学ぶ（第6章）
第8回	政策の資源：政治技術と政策手法	政治技術と政策手法を学ぶ（第7章）
第9回	政策の資源：政府と資源の調達	政策の資源とその調達、政府の機能の転換を学ぶ（第8章）
第10回	政策型思考の特質	政策型思考の特質と論理を学ぶ（第9章）
第11回	政治思考の特質	政治思考と〈決断〉の特質を学ぶ（第10章）
第12回	政策型思考と政策主体	政策型思考の「習熟」を学ぶ（第11章）

第13回 政策の決定 政策の決定とその過程（第12章）  
 第14回 総括 振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキスト、配布資料、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

【テキスト（教科書）】

松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会、1991年。

【参考書】

石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。  
 土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。石

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：議論への参加（25%）、コメント（25%）の様子、授業の成果：授業内での報告（25%）、期末レポート（25%）の各評価により判断する。

【学生の意見等からの気づき】

講義中、また講義後にコメントを集め、その内容を反映させている。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学  
 〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。  
 〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】

Policies (and their systems) are the "foundation of life" for people living in today's society (urban-type society). We'll learn the structure and characteristics of urban-type society, and understand the policy process. It will develop your perspective for your research from the perspective of policy studies.  
 Learning Objectives;  
 - Understand the characteristics of today's social structure ('Urban-type Society'), which is the premise for public policy.  
 - Understand the policy types that have been formed historically.  
 - Understand the basics of the process of public policy and gain a policy studying' perspective.  
 Learning activities outside of classroom;  
 - Completion of textbook and related papers/books  
 Grading Criteria /Policy  
 - Participation 50% (discussion 25%, Presentation 25%)  
 - Achievement 50% (report on presentation 25%, the final report 25%)

SOW500P1 - 111 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## 自治体福祉政策論

### 鏡 論

その他属性：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国では、本格的な高齢社会を迎え、現在社会保障給付費は100兆円を超えている。国の予算においては、社会保障関係費として一般会計の4割近くを支弁している。さらに自治体においては、介護保険制度や高齢者福祉制度の現場で市民の生活を支えるための実務的運営が課題となっている。

高齢者や家族の生活を支える自治体福祉政策を通して、これから更なる高齢社会に向かって、人々の暮らしにおいて、どのような給付と負担の関係を構築していくのかを考える。

今日の社会保障制度改革においては、給付の縮減を是とした改正が続いている。しかし一方、安心できる暮らしを維持していく給付とは何かを議論する。財源負担の在り方や世代間の給付と負担のバランス等を学ぶ。

#### 【到達目標】

2000年に制度化された介護保険は23年を経過し、今や10兆円を超える規模の給付となった。この後もさらに拡大を続けようとしている。この介護保険制度を中心とした社会保障における給付と負担の形について研究をして、政策の在り方を理解する。

キーワードは次の通り。

- ・介護保険制度の課題と市町村対応
- ・地域包括ケアの課題
- ・介護殺人が示す現実
- ・介護と医療の連携の模索
- ・認知症高齢者に対する支援
- ・判断能力を欠く状況になった場合の意思決定
- ・成年後見制度の効果と課題

上記それぞれの項目について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

本授業はリモート方式で実施する。また、次の各項目等について講義と院生の発表により研究する。

授業においての質問やレポートにかかる解説は、質問等があった次の回の授業で対応する。

さらに、映像資料を用いた分かり易い説明を行う。

各項目については、以下の通り。

- ・日本の将来予測から社会保障のあり方について
- ・介護保険制度創設と自治体高齢者福祉行政の変化の理解
- ・措置制度から契約への変化が意味するものの理解
- ・2006年以降の制度改正の課題
- ・介護予防と地域支援事業の問題点
- ・介護殺人と認知症高齢者支援
- ・在宅医療と地域包括ケアの機能と役割の理解
- ・一人暮らし高齢者・認知症高齢者支援の実態把握
- ・意思能力のない人の医療同意についての問題提起

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1.2回	オリエンテーション & 高齢者を取りまく諸情報の整理と社会保障・自治体福祉政策	(1)社会変化と社会保障 (2)自治体福祉政策の必然性 (3)2023年介護保険改正後の議論
第3.4回	介護保険制度(1) ☆介護保険制度の理念と課題 (介護保険によって自治体福祉政策がどのように変わったか)	発表 A (1)措置から契約へ (2)介護の社会化 (3)サービスの質の担保と効率 (民間サービスの参入と課題・ケアマネジメントの課題) (4)介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画の策定 (5)給付と負担・保険料決定の仕組み (6)介護殺人の課題と対応
第5.6回	介護保険制度(2) ☆介護保険改正のめざしたもの (介護保険における給付と負担)	発表 B (1)介護保険と地方分権（三位一体改革の影響） (2)介護予防・日常生活支援総合事業とは何か（地域支援事業創設） (3)崩れた給付と負担のバランス (4)自立支援介護とは何か
第7.8回	介護保険制度(3) ☆地域包括支援センターと介護予防の政策的効果	発表 C (1)地域包括支援センターの創設 (2)地域包括ケアとは何か (3)介護予防・日常生活支援総合事業の課題 (4)医療との連携の形 (5)地域の見守りネットワーク (6)認知症高齢者が地域で暮らせるために
第9.10回	介護保険制度(4) ☆介護サービス事業の現状と課題 (介護保険外の高齢者ケアの課題は何か・地域ネットワークについて)	発表 D (1)高齢者虐待・介護放棄 (2)独居の認知症高齢者生活支援 (3)生活支援の難しさ (4)精神疾患者の支援
第11.12回	介護保険制度(5) ☆施設サービスと地域密着サービス (在宅と施設高齢者サービスの選択)	発表 E (1)高齢者福祉施設の種類と目的 (2)特養を利用する人とは (3)ユニット個室化の課題 (4)地域密着サービスとは (5)施設は生活の場か
第13.14回	高齢者ケア ☆判断能力を欠く状況における権利擁護 (介護保険外の高齢者ケアの課題と地域ネットワークについて)	発表 F (1)成年後見制度の概要 (2)成年後見制度利用支援事業・生活支援事業（旧地域福祉権利擁護制度） (3)市民後見制度の課題 (4)任意後見制度と法人後見 (5)判断能力を欠く者の医療侵襲行為の阻却事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

内容としては、テキストを読み教員からの質問に答え、問題点や課題について思考する。

事後学習は、授業の内容から質問をまとめ、次回の授業時に質問をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は、「介護保険制度の強さと脆さ」、鏡論編著、公人の友社刊、2017年4月発行、定価2600円+税を使用する。

さらに適宜参照資料としてプリント配布する。

【参考書】

「総介護社会」岩波新書刊 小竹雅子著

「総括・介護保険の10年～2012年改正の論点～」 公人の友社刊 鏡  
論編著

「自治体現場から見た介護保険」 公人の友社刊 鏡 論著

**【成績評価の方法と基準】**

授業での発表及びディスカッションによる総合評価とする。課題発表については、70%の配点とする。その他は講義中の発言及び質問、さらにディスカッション等を30%の評価対象とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケートによる要望に沿うように対応する。また、初回のオリエンテーションの際に、院生からの要望について意見を聞く。

**【学生が準備すべき機器他】**

PC。リモート授業のため、必ず必要となる。また適宜映像資料を活用する。

**【その他の重要事項】**

オフィスアワーは、授業開始前及び終了後に実施する。  
自治体福祉行政に身を置き、介護保険制度の創設及び運営にかかわった実務経験を生かして、現場での知見を基に院生に情報提供していく。

**【担当教員の専門分野】**

自治体福祉政策、介護保険制度、地方自治

**【Outline (in English)】**

授業概要 (Course outline) :This course introduces We discuss and understand issues and responses based on actual issues in local government sites on the issues of care insurance system and the elderly care of local governments and The social welfare policy in the municipality begins with the history that the benefit is provided to the poor and the anti-poverty as the agency delegation clerical work and measures are limited to the target person to students taking this course.

到達目標 (Learning Objectives) : The goals of this course are to The policy that the elderly can live with peace of mind is about the balance of benefits and burdens between generations, In local Government policy "Benefits and Burdens", and discuss the relationship between.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)  
: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies) : Final grade will be calculated according to the following process in-class report (70%), and in-class contribution.

POL500P1 - 113 (政治学 / Politics 500)

## コミュニティ制度論

名和田 是彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティとは、合併によって制度的枠組を失った身近な地域のまとまりである、という観点から、このコミュニティを再制度化する政策ないし制度である都市内分権や小規模町村の連携制度などを国際比較的に考察する。これによってコミュニティ政策というものについて基礎的な理解を得ることが目的である。

### 【到達目標】

「地域的まとまり」論、地域社会運営の制度的条件論を基礎に、現代コミュニティ政策の諸相を理解すること。特に、「地域的まとまり」とその重層構造という理論枠組を基礎として理解した上で、合併によって市町村としての制度的枠組を失う身近な地域的まとまりが制度的にどのように取り扱われたかを国際比較的に検討する。日本では、合併によって失われた制度枠組を自治会・町内会が民間的に回復するという特異な経過を辿ったが、1970年代からいわゆるコミュニティ政策によって再制度化が開始され、1990年代以降は新たな段階を迎える。そこにおいては、「協働」や「新しい公共」という政策理念が採用された点に、ヨーロッパと比較したときに大きな特徴があることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

公共政策研究科のこの修士課程科目「コミュニティ制度論」は、同博士後期課程科目「コミュニティ政策特殊研究」及び政治学研究科の「コミュニティ論研究1」との合併開講である。授業の進め方は、開講時に相談して決めたい。基本的には講義形式で進めていくが、各回とも、受講者自らが考えることのできるような材料（政策文書や事例）を提示して進め、受講者に報告してもらうという形式を取り入れる、というやり方を想定している。1回あたり2コマを使用する4期制科目であるが、以下の「授業計画」では、一コマずつ14回分の内容を示している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域的まとまり論の着想	「地域的まとまり」とその重層構造。その日本の特質。
第2回	地域的まとまりを「運営」するための制度的条件について	ミルトン・コトラーに学びつつ、地域社会運営の制度的必要上条件として、管轄領域の公的画定、法人格、課税権、条例制定権を析出する。また、これを失った地域社会がこれを回復するためにコトラーが考えた戦略を、日本の観点から検討する。
第3回	地域的まとまり論の理論史と理論構成	オッター・ギールケ、フーゴ・プロイス、マックス・ヴェーバーらの諸説を参考に、理論的概念としての「地域的まとまり」を構成する。
第4回	自治会・町内会論	コトラーの4条件を民間的原理の上に回復する地域組織として自治会・町内会を捉え、その組織的特質と歴史とを論ずる。

第5回	コミュニティ政策の歴史 開始から1980年代まで	1969年の国民生活審議会の著名な文書を端緒として、その後展開されたいくつかの分野のコミュニティ政策を分析する。
第6回	コミュニティセンター自主管理政策	1980年代までの定番政策であったコミュニティ・センターを核とするコミュニティ形成の政策が持った意味を考える。
第7回	1990年代のコミュニティ政策	地域福祉的な新しい様を持ったコミュニティ政策が登場し始める場面を、具体的な事例をもとに検討する。
第8回	第27次地方制度調査会答申と地域自治区制度の成立	地域自治区制度の設計思想を分析し、今世紀のコミュニティ政策の基本的傾向を探る。
第9回	日本型都市内分権の現代的傾向	地域自治区制度や独自条例方式など、様々な現代の事例を通じて現在の都市内分権の共通の特徴を探る。
第10回	日本の都市内分権制度の事例研究	いくつかの自治体で実践されている都市内分権の事例を分析する。
第11回	ドイツ都市内分権	日本の協働型都市内分権とは対極にあるといえるドイツの参加型都市内分権を紹介する。
第12回	その他の国の都市内分権	ドイツの都市内分権は、特にその政治的性格においてかなり特異であるので、それ以外の国、例えばイギリス、スコットランド、フランスといった国々、あるいはフィリピンなどのアジア諸国の都市内分権制度を取り上げ、国際比較的に位置づけておく作業を行う。
第13回	まちづくり条例論	普遍的な都市内分権制度とはいえないが、コミュニティ・レベルに決定権を分散しているといえる事例として、都市計画分野のまちづくり条例を取り上げ、いくつかの事例を検討することを通じて、コミュニティ制度論の視野を広げる。
第14回	個別分野のコミュニティ政策	さらに、地域福祉、社会教育、学校教育などの分野にも目を広げ、コミュニティ政策の現代的様相を分析する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で述べた内容を十分に復習し、関連参考文献を読むこと。また、ほぼ毎回、事前に授業支援システムを通じて読んでおいてほしい文献を提供するので、これを読んで授業に臨んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。また、授業で報告をすることになったときには、とりわけ十分に準備を行なってください。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

授業中に指示するが、拙著の『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）や『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）に、本科目の基本的なアイデアが展開されている。また、拙著『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）は、一般向けのブックレットで、平易に解説されている。

### 【成績評価の方法と基準】

開講時に相談して決めたいが、受講者が一度ずつ授業中に報告をしてもらうことを想定しており、その場合には授業での報告80%、授業中での討論・発言20%と考えている。期末レポート方式になった場合には、そのレポートが80%としたい。

**【学生の意見等からの気づき】**

この授業を担当するのは久しぶりであるから、学生・院生からの直接の反応から気づいたことというものはない。このところ院生たちの中でコミュニティ政策への関心はやや強まっていると感じているので、ここ数年の研究を活かし、またこの数年の新しい動きにも留意していきたい。

**【担当教員の専門分野等】**

＜専門領域＞コミュニティ政策、公共哲学、法社会学

＜研究テーマ＞都市内分権。地域法人制度。コミュニティカフェ。

「領域団体」及び「市民社会」の概念史。

＜主要研究業績＞

単著『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

単著『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）

**【Outline (in English)】**

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination or Reporting in the class: 80%、  
Discussions in the class : 20%.

POL500P1 - 114 (政治学 / Politics 500)

## 日本政治史研究

明田川 融

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、あらためて日本政治史において対日占領期の持つ意味を問う研究が上梓されている。本授業は、連合国—といっても主力は米国であったが—による対日占領と、米国による琉球／沖縄占領とを比較しながら、第二次大戦後の日本占領について再検討・再評価を試みるものである。いわゆる日本本土占領および琉球／沖縄占領にかかわる一次資料・研究論文・文献の精読を踏まえたうえで、受講生と議論を行いたい。

### 【到達目標】

受講生は、占領史に関する先行研究を踏まえたうえで、日本政治史における対日、対琉球／沖縄占領の光と影の所産を的確に把握・評価できるようにすることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

テキストとしては、福永文夫『日本占領史 1945-1952 東京・ワシントン・沖縄』（中央公論新社、2014年）および櫻澤 誠『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』（中央公論新社、2015年）を精読し、議論する。なお、2回目以降となるが、授業のはじめに課題（試験やレポート等）に対して講評し、受講生に対してフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	対日占領性政策の立案	SWINCC150 シリーズ、JCS1380 シリーズ、ポツダム宣言、ブラックリスト作戦の形成
第2回	対日占領のはじまり	その究極目的
第3回	統治体制の変革	象徴天皇制と主権在民への道
第4回	双面神の憲法構想	「平和憲法」と沖縄要変化の相関
第5回	対日早期講和の提唱と安保問題	いわゆる芦田メモと沖縄の将来に関する昭和天皇メッセージ
第6回	戦後政党政治の起動	占領初期における本土と沖縄の政党活動
第7回	対日政策の転換	PPS28 シリーズ～NSC13 シリーズの形成
第8回	講和論争	日米で二分される国論
第9回	講和準備研究作業	NSC60/1 への道、A・B・C・D 作業
第10回	講和交渉	日米の外交指導
第11回	対日講和条約の成立	第3条（潜在主権方式）の形成を中心に
第12回	日米安保条約の成立	「安保条約の論理」を中心に
第13回	サンフランシスコ体制	その光と影を考察する
第14回	日本、琉球／沖縄占領とは何だったのか	日本政治史における占領の意味を考察する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する大学院生は、自ら関連する文献や資料を読んだり、レポート課題に取り組んだりすることにより、各々が適当と判断する時間の、授業時間外学習が必要となる。参考までに、本学学則に鑑みた場合、この授業の準備学習・復習時間は4時間以上が標準となる。

### 【テキスト（教科書）】

福永文夫『日本占領史 1945-1952 東京・ワシントン・沖縄』中央公論新社、2014年。  
櫻澤 誠『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』中央公論新社、2015年。

### 【参考書】

思想の科学研究会編『共同研究／日本占領』徳間書店、1972年。  
竹前栄治『GHQ』岩波書店、1983年。  
五百旗頭真『米国の日本占領政策 戦後日本の設計図』上・下、中央公論社、1985年。  
坂本義和・R. E. ウォード編『日本占領の研究』東京大学出版会、1987年。  
袖井林二郎『吉田茂＝マッカーサー＝往復書簡集 1945-1951』法政大学出版局、2000年。  
賀茂道子『ウォー・ギルト・プログラム GHQ 情報教育政策の実像』法政大学出版局、2018年。  
前田勇樹・古波藏契・秋山道宏編『つながる沖縄近現代史—沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』ポーターインク、2021年。

平良好利・高江洲昌哉編『戦後沖縄の政治と社会 「保守」と「革新」の歴史的位相』吉田書店、2022年。

沖縄県教育庁文化財史料編纂班『沖縄県史 各論編 第七巻 現代』沖縄県教育委員会、2022年。

宮城 修『ドキュメント 〈アメリカ世〉の沖縄』岩波書店、2022年。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点のみ（100%）。やや詳しくは、授業への積極的な貢献度（出席等）、報告（レジュメ）の内容やプレゼンテーションぶり、議論のようすなどをみて総合的に判断する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできるような機器およびネット環境

### 【その他の重要事項】

受講生は学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日米関係史、日本政治外交史

<研究テーマ> 日米地位協定の成立過程

沖縄と日米安保体制の歴史

日本と核兵器との関係史

<主要研究業績および刊行物>

・『日米行政協定の政治史—日米地位協定研究序説—』法政大学出版局、1999年。

・『沖縄基地問題の歴史—非武の島、戦の島—』みすず書房、2008年（第30回沖縄協会・沖縄研究奨励賞[社会科学部門]受賞）。

・『日米地位協定—その歴史と現在—』みすず書房、2017年。

・波多野澄雄・河野康子監修（明田川補）『沖縄返還関係資料』（第1回配本分、全7巻）現代史料出版、2017年。

・『核兵器と『国民の特殊な感情』1～6（雑誌『みすず』に2013年6月号より2015年8月まで不定期連載）。

・ジョン・ハーシー『ヒロシマ 増補版』法政大学出版局、2003年（共訳）。

・ジョン・W. ダワー著『昭和 戦争と平和の日本』みすず書房、2010年（監訳）。

・ジョン・W. ダワー／ガバン・マコーマック著『転換期の日本へ 「バックス・アメリカナ」か「バックス・アジア」か』NHK出版、2014年（共訳）。

・『占領期年表 1945-1952年 沖縄・憲法・日米安保』創元社、2015年（監修）。

近年、広島・長崎・ビキニを経験した日本の核兵器に対する「国民感情」と政府の安全保障政策との連関について研究をまとめるべく、資料収集や分析視覚の検討を行っている。

また、1950年代半ばの沖縄で米軍により強行された土地強制収用にさいして、住民代表である立法院（県議会のような組織）がなしたことを、なしえなかったことの実証にも取り組んできた。

現在は、波多野澄雄・筑波大学名誉教授および河野康子・法政大学名誉教授ならびに平良好利・中京大学准教授らによる監修で刊行が進められている沖縄施政権返還交渉関係資料集の編集補佐がおもな仕事となっている。この仕事においては、第1回配本（全7巻）および第5回配本（全6巻）の解説を執筆した。

現在、波多野澄雄・筑波大学名誉教授および河野康子・法政大学名誉教授ならびに平良好利・中京大学准教授らによる監修で刊行が進められている沖縄施政権返還交渉関係資料集の編集補佐がおもな仕事となっている。この仕事においては、第1回配本（全7巻）および第5回配本（全6巻）の解説を執筆した。

現在、波多野澄雄・筑波大学名誉教授および河野康子・法政大学名誉教授ならびに平良好利・中京大学准教授らによる監修で刊行が進められている沖縄施政権返還交渉関係資料集の編集補佐がおもな仕事となっている。この仕事においては、第1回配本（全7巻）および第5回配本（全6巻）の解説を執筆した。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In recent years, remarkable literatures on Allied occupation of Japan proper and American occupation of Ryukyu (Okinawa) islands have been published. Political history of Japan 1 is an essay to revise and re-evaluate occupation of Japan. In this class, comparison perspective between occupation of Japan proper and that of Ryukyu (Okinawa) is used. Students must read a lot of articles, literatures, and historical documents.

#### 【Learning objectives】

The goal of this course is to understand political process of the Allied Occupation of Japan.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
In class contribution: 100%

POL500P1 - 115 (政治学 / Politics 500)

地方自治論

渡部 朋宏

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・日本においては、いつどこで大規模災害が発生してもおかしくない状況にある。大規模災害や事故により住民の避難を要する事態が発生したとき、地方自治の意義が改めて問われる。  
 ・本授業の前半では、福島原発事故を題材として、自治の現場で発生している様々な課題についてのゲストスピーカーによる報告を踏まえ、ディスカッションを行う。  
 ・授業の後半では、テキスト「地方自治講義」から受講者が興味のある地方自治の分野を選択し、その内容の報告を基にディスカッションを行い、地方自治の意義について学ぶ。

【到達目標】

・他者の報告に対して、自分の意見を的確に述べるができる。  
 ・地方自治の書籍を精読し、著者の意見を整理した上で、自らの意見と根拠を明確に述べるとともに、論点を示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては、「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

・第1回から第8回までは講師及びゲストスピーカーによる報告を踏まえたディスカッションを中心に授業を進める。  
 ・第9回から第14回までは指定されたテキストの精読を前提として、担当する項目において「著者の意図」「報告者の意見とその根拠」「論点」の報告を踏まえたディスカッションにより授業を進める。  
 ・授業の主体は受講者であり、積極的な発言を望む。また、事前に参考書を読んでおくなど、関連する情報を集め、問題意識を高めておくことを推奨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業全体の概要、目的を説明した上で、授業後半の報告担当分野を設定する。
第2回	福島第一原発事故と地方自治①（避難者受入自治体の事例）	福島原発事故における避難者受入自治体職員からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第3回	福島第一原発事故と地方自治②（避難自治体の事例）	福島原発事故における避難自治体職員からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第4回	福島第一原発事故と地方自治③（分断された自治体の事例）	福島原発事故における市町村合併により広域化された自治体職員からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第5回	福島第一原発事故と地方自治④（避難住民の視点）	福島原発事故における避難住民からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第6回	福島第一原発事故と地方自治⑤（報道記者の視点）	福島原発事故における報道記者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第7回	原発避難と地方自治の論点	これまでのゲストスピーカー等の報告を踏まえ、地方自治の論点を整理する。

第8回	住民登録制度と自治	福島原発事故と地方自治についての論点を踏まえ、住民概念に着目し、講義、ディスカッションを行う。
第9回	自治体の多様な側面	自治体の多様な側面に着目し、受講者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第10回	地方自治の原理と歴史	地方自治の原理と歴史に着目し、受講者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第11回	公共政策と行政改革	公共政策を行政改革に着目し、受講者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第12回	地域社会と市民参加	地域社会と行政改革に着目し、受講者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第13回	憲法と地方自治	憲法と行政改革に着目し、受講者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第14回	縮小社会の中の自治体 まとめ	縮小社会の中の自治体に着目し、受講者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行い、全体のまとめを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・第1回から第8回までは準備学習・復習時間は特に必要としないが、授業時間内は集中し、積極的に質問や意見を述べ、ディスカッションに参加すること。  
 ・第9回から第14回までは指定されたテキストの精読を前提として、担当する分野において「筆者の意図」「報告者の意見とその根拠」「論点」の整理と報告を求める。  
 ・各人が各回のテーマに関連する情報を集め問題意識を高めておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

・今井照（2017）『地方自治講義』 筑摩書房（後半に使用する）

【参考書】

・今井照・自治体政策研究会・編著（2016）『福島インサイドストーリー 現場職員が見た原発避難と震災復興』 公人の友社  
 ・渡部朋宏著（2020）『住民論 統治の対象としての住民から自治の主体としての住民へ』 公人の友社

【成績評価の方法と基準】

授業中の意見発表や議論参加への積極性（50%）、報告資料及び説明（50%）

【学生の意見等からの気づき】

・学生の論文作成テーマと関わるかどうかに限らず、学生による様々な質問・意見から相互に学びあうことができる。講義中の質疑による理解の深まりに期待したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【渡部】

〈専門領域〉  
 地方自治、公共政策、住民論  
 〈研究テーマ〉  
 住民概念、地方自治、原発避難  
 〈研究業績〉  
 ①『住民論 統治の対象としての住民から自治の主体としての住民へ』 公人の友社（2020.12）自治体学会【研究論文賞受賞】  
 ②「福島原発事故避難の実態と「住民」概念の転換—統治のための住民から住民による自治へ—」自治体学vol.31-1（2017.11）自治体学会【自治体学研究奨励賞受賞】  
 ③「震災復興の現状と課題」地方自治職員研修通巻708号（2018.3）公職研  
 ④「人口減少社会における「住民」概念の考察～福島原発事故避難自治体の実態から～」自治実務セミナー2018年12月 第一法規  
 ⑤「「住民」概念の研究～統治される対象としての住民から自治の主体としての住民へ～」公共政策志林第7号2019年3月 法政大学大学院公共政策研究科



**[Outline (in English)]**

**[Course Outline]**

· In Japan, a large-scale disaster could occur anytime and anywhere. When a large-scale disaster or accident occurs, requiring the evacuation of residents, the significance of local autonomy is once again called into question.

· In the first half of this class, we will discuss the Fukushima nuclear power plant accident based on reports from guest speakers about various issues occurring in the local government field.

· In the second half of the class, participants select an area of local government that they are interested in from the textbook “Lecture on Local Government,” and have a discussion based on the report to learn about the significance of local government.

**[Learning Objectives]**

· Able to accurately express one’s opinion in response to reports from others.

· After reading books on local autonomy and organizing the author’s opinions, you will be able to clearly state your opinion with evidence and present the points at issue.

**[Learning activities outside of classroom]**

· No special preparation study or review time is required from the 1st to the 8th class, but students should concentrate during class, actively ask questions and express their opinions, and participate in the discussion.

· From the 9th to the 14th sessions, participants are asked to organize and report on “the author’s intent”, “their own opinion and its basis”, and “points at issue” in their field of expertise.

· The participants are the main actors in the class, and they are expected to actively speak out. We also recommend that you read reference books in advance to gather relevant information and increase your awareness of the issues.

**[Grading Criteria /Policy]**

· Activeness in expressing opinions and participating in discussions during class (50%), reporting materials and explanations (50%).

POL500P1 - 116 (政治学 / Politics 500)

自治体経営論

谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自治体経営」が意味する領域は幅広い。1990年代以降、自治体において「経営」の概念が積極的に登場したのは、NPM理論の影響が多である。それらは主に行政改革の側面から、民間企業の経営手法を新たな行政スタイルとして導入を図る動きとして活発化した。また、大都市による「都市経営」や地域開発に伴う「地域経営」など、自治体の事業者的な側面に着目した概念も広義の「自治体経営」と解しうる。加えて、2000年代以降は政策実施を民間セクターが担う例が拡大し、政府セクターと民間セクターとの境界線が曖昧となりつつあることから、近年の自治体経営は「公共経営」としての色彩を強めている。

そこでこの授業では、まず「公共経営」に関連する理論を学び、自治体が政策実施にあって実際に運用している制度との関連について理解を深める。

その上で、非営利を含む民間セクターとの連携を前提にしながら、自治体が直面する「地域の持続可能性」や「デジタル・トランスフォーメーション（DX）」等の問題を視野に入れ、政府の政策責任や民主的統制の観点から自治体経営のあり方を総合的に検討する。

【到達目標】

- ・自治体経営に関わる理論と実際を理解する
- ・制度運用を多角的な観点から研究するスキルを身につける
- ・公共政策に対する理念的な思考力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業で行う。

前半は、受講生で報告を分担してテキストを講読しながら、討議も交えて公共経営に関わる理論についての理解を深める。中盤からは、現実の自治体経営で指摘される論点に理論的考察も交え、多角的な観点で自治体経営の可能性について討議する。

受講者数に応じ、授業内容や取り扱うテーマの順序に変更があり得るので、その際は前半の授業時に変更スケジュールを案内します。発表やレポート等に対する講評は授業内に適宜行い、全体にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション-自治体経営と公共経営	授業の進め方についての説明をした上で、テキストの序章を参照しながら、1990年代以降の自治体経営論や公共経営論の視座を俯瞰する
第2回	「官僚制」の理論と現代の自治体公務	ベーシックな「官僚制」理論を踏まえつつ、現代の自治体公務や組織マネジメント、公務人材の課題について討議する
第3回	公式組織の改革	テキスト第1章「公式組織モデル」を参照しながら、公式組織の改革をテーマに討議する

第4回	公的部門改革と「本人＝代理人」	テキスト第2章「情報非対称モデル」を参照しながら、公的部門改革と「本人＝代理人」の枠組みをテーマに討議する
第5回	公共経営と政策の合理性	テキスト第3章「政策モデル」を参照しながら、公共経営と政策の合理性をテーマに討議する
第6回	政策実施とアウトカム	テキスト第4章「実施モデル」を参照しながら、政策実施とアウトカムをテーマに討議する
第7回	公的部門改革とエージェンシー	テキスト第5章「独立エージェンシー」を参照しながら、日本の地方独立行政法人制度の運用の実際を検討する
第8回	政策ネットワークモデル	テキスト第6章「政策ネットワークモデル」を参照しながら、日本の自治体と非営利組織とのパートナーシップの実際について討議する
第9回	市場化モデル	テキスト第7章「市場化モデル」を参照しながら、日本の指定管理者制度やPFI制度の運用の実際について討議する
第10回	戦略としての企業化	テキスト第8章「戦略としての企業化」を参照しながら、日本の地方公営企業や第3セクターが担ってきたインフラサービスの供給のあり方について討議する
第11回	公共サービスにおける契約的手法	自治体における民間委託の歴史を踏まえつつ、公民パートナーシップ型の公共サービス供給の観点から、契約的手法のあり方について検討する
第12回	公民連携のガバナンスとガバメント	PFIやPPPをはじめ、政策提案制度など、さまざまな公民連携スタイルのガバナンスに着目し、多様な主体とガバメントとの関係について、理論モデルから検討する
第13回	行政のリーダーシップと議会の役割	自治体における行政のリーダーシップと二元代表制を担う議会によるガバナンスとの関係性について考察する
第14回	自治体の政策責任と民主的統制	自治体による政策責任や民主的統制についての理念を踏まえ、これからの自治体経営のあり方について、総合的に検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを通読し、複数の参考書を読む。報告や論点提起のための準備を行う。討議の論点事項を中心に追加情報を収集し、精査する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ヤン＝エリック・レーン／稲継裕昭訳(2017)『テキストブック 政府経営論』勁草書房

【参考書】

稲継裕昭(2013)『自治体行政の領域－「官」と「民」の境界線を考える』ぎょうせい  
 今井照(2024)『未来の自治体論 デジタル社会と地方自治』第一法規出版  
 片木淳・藤井浩司(2012)『自治体経営学入門』一藝社  
 トニー・ポペール、エルク・ラフラー／みえガバナンス研究会訳(2008)『公共経営入門 公共領域のマネジメントとガバナンス』公人の友社  
 外山公美ほか(2014)『日本の公共経営－新しい行政』北樹出版  
 その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内報告30%、平常点20%、最終レポート50%

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生からの質疑を踏まえ、後日授業で補足説明や追加資料の提供を行います。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して資料配布を行うことがあります。

### 【その他の重要事項】

・受講者は、初回授業日からテキストを持参してください。  
・授業では、行政や地方自治に関わる基本的な事項を習得していることを前提に討議を行います。受講生には「行政学基礎」や「地方自治論」を履修済み、あるいは、当該科目のテキストを通読していることを求めます。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治  
<研究テーマ>中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制  
<主要研究業績>  
『地方自治の責任部局』の研究－その存続メカニズムと軌跡[1947-2000] (2019) 公人の友社  
『透明性』・『誠実性』・『戦術性』－“転職”を迫られる地方公務員 (2001) 『分権社会と協働』(共著) ぎょうせい  
『国による『上から』の自治体統制の持続と変容』(2008) 『分権改革の動態』(共著) 東京大学出版会  
『大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に』(2016) 『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

### 【Outline (in English)】

The territory of “management of the local government” is broad. The NPM theory which was introduced to Japan in the 1990s, a new administrative style, were made use of mainly in the aspect of administrative reform, as a movement to introduce the management methods of private companies. Such as “city management” by large cities and “regional management” accompanying regional development, although they are focus on the business aspects of local governments, can also be interpreted as “management of local government” in a broad sense. The phenomenon that private sector and the voluntary sector has been taking charge of policy implementation since the 2000s raised needs of the local governments to work on “public management”.

Therefore, in this class, students will first learn theories related to “public management” and deepen their understanding of the relationship with the systems that local governments actually operate in implementing policies.

Then, based on the premise of such collaboration with the private sector and the nonprofit sector, we will comprehensively examine the management of the local government from the point of policy responsibility and democratic control, taking into account issues such as “regional sustainability” and “Digital Transformation”.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. To understand the theory and practice of “management of the local government”

-B. To acquire the skill of research the way of public management and enforcement from various point of view

-C. To develop the ability to think based on the philosophy of public policy

Students will be expected to prepare for case reports and for raising issues, besides read through the text in advance and read multiple reference books. After the class meeting to gather and scrutinize additional information, focusing on the issues of discussion. Before/after each class meeting, your study time will be about two hours.

Your overall grade will be decided based on the following Term-end report (50%), in-class presentation (30%), and participation in discussions (20%).

POL500P1 - 119 (政治学 / Politics 500)

## 防災危機管理研究

鍵屋 一

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東日本大震災の発生以後、国土強靱化など防災対策の重要性が叫ばれている。そして、災害には大地震、風水害、火山など自然災害、原子力災害など大規模な事故、テロなど人為的災害など多様に存在する。現代は危機の時代であり、防災危機管理は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマとなっている。本授業は、大学院生が防災危機管理に強い人材になるよう支援する。

### 【到達目標】

- ①日本の国・自治体の防災危機管理の現状と課題を理解する。
- ②現状の政策と被害軽減の具体例を研究する。
- ③今後の国・自治体の防災危機管理政策のあるべき姿を研究する。
- ④大学院生自身の危機対応力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業形式☑️対面授業

授業では、自然災害を中心に防災対策の現状と課題を理解し、現実的な解決政策を研究する。その際、わが国の防災文化、法制度、行政構造、市民意識を念頭において政策的アプローチを重視した講義を行う。

また、ワークショップ形式も併用し、自らの頭で考え、仲間や講師と議論することで、より深い理解につながるように努めていく。授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後であってもメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回・2回	ガイダンス及び国・自治体の防災危機管理政策の概観	講師の自己紹介、防災危機管理の講義の狙い、概要の説明。 PPTおよび中央防災会議資料を使用して国、自治体の防災危機管理政策の全体像を説明する。
第3回・4回	大災害時の市民、行政の活動	阪神淡路大震災時の対応をした行政職員の生々しい記録を読む。その後、グループワークでKJ法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
第5回・6回	地震防災と耐震化	地震防災の最重要課題である耐震化の政策の変遷について解説する。現在の、専門家や地域の取り組みを紹介しながら、今後の推進方策を検討する。
第7回・8回	災害時の要配慮者支援	高齢者や障害者は、災害時には特別な支援が必要である。事前にどのような準備が必要かを説明し、それが日常生活の延長上にあり、また地域コミュニティの絆を高めた事例を検討する。

第9回・10回 防災教育、ボランティア

東日本大震災では、防災教育に取り組んだ岩手県沿岸地域の子どもの生存率が極めて高かった。防災教育の内容と効果を考える。また被災地においてボランティアの存在感が高まっている。ボランティアがどのように進化したかを議論する。

第11回・12回 地域防災計画、防災条例、政策評価

東日本大震災を受けて地域防災計画の見直しが進んでいる。その具体例を検討する。また防災条例の制定過程とその効果について議論する。防災の政策評価のあり方と活用について検討する。

第13回・14回 企業、行政等の事業継続（BC）

企業や行政等は災害時に災害対応するだけでなく、自らの事業を継続していかなければならない。その計画がBCPであり、その内容と効果について検討する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

防災政策は生きているものであり、最新の状況を把握することが重要である。内閣府「防災情報のページ」「防災白書」を事前に見ておいていただきたい。

また、ボランティアなどの活動体験があれば望ましい。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業では、PPTや論文を使用するが、その資料を毎回配付する。

### 【参考書】

鍵屋一「地域防災力強化宣言」ぎょうせい・2005年

鍵屋一「よくわかる自治体の地域防災・危機管理」学陽書房・2019年令和4年「防災白書」

### 【成績評価の方法と基準】

質疑への参加 70%（講義中の質疑、意見表明などを積極的に行ったものを高く評価する）

リアクションペーパー等 30%

### 【学生の意見等からの気づき】

実務体験が評価されているので、今後もリアリティある講義を行いたい。また、学生と積極的に議論していきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

地域防災、危機管理

<研究テーマ>

防災危機管理政策、建築物の耐震化、災害時要援護者支援、防災教育、人材育成、事業継続（BCP）

<主要研究業績>

・『都市災害を生き残る』『現代用語の基礎知識2009』2008年、自由国民社

・『ひな型でつくる福祉防災計画』（共著）2020年、東京都福祉保健財団

・『地域防災力強化宣言』2005年、ぎょうせい

### 【Outline (in English)】

(Course outline) The modern age is an age of crisis, and disaster risk management has become an unavoidable theme for citizens, governments, organizations, and businesses.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help graduate students to become strong in disaster prevention and crisis management.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports :30 %, in class contribution: 70%

POL500P1 - 120 (政治学 / Politics 500)

## 雇用労働政策研究

濱口 桂一郎

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公労使三者構成の審議会において労使団体と政府(厚生労働省)の間で行われる対立と妥協のメカニズムを中心に、その延長戦としての国会における審議や修正も含め、具体的な労働立法の政策決定過程を跡づける形で、労働法制の内容を説明する。いわば、完成品としての労働法ではなく、製造過程に着目した労働法の講義である。

### 【到達目標】

現代日本におけるさまざまな雇用労働問題を、表層的なマスコミ報道等に踊らされることなく、雇用システムと労働法制の複雑な関係を踏まえて理解し、説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン授業を予定している。  
各コマとも、前半は下記テキスト（『日本の労働法政策』）に沿って概略の説明を行い、後半はそれに基づきフリーディスカッションとする。  
あらかじめテキストを読んできたことを前提に、毎回のトピックについて各自の職業経験に基づく意見を尋ねることがあるので、各自用意しておくことが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1.2回	イントロダクション、労働力需給調整システム、労働市場のセーフティネット	全体の概観、労働者派遣事業と職業紹介事業、雇用保険、生活保護、求職者支援制など
第3.4回	雇用政策の諸相、高齢者・障害者の雇用就業政策	雇用政策思想、外国人雇用対策、高齢者、障害者など
第5.6回	職業教育訓練政策、労働基準監督システム、労災保険、労働安全衛生政策	職業訓練、職業教育、若年者、過労死・過労自殺、過重労働・メンタルヘルス・受動喫煙など
第7.8回	労働時間政策、賃金処遇政策	時間外・休日労働、年休、裁量労働制、最低賃金など
第9.10回	賃金処遇政策、労働契約政策	非正規均等待遇、解雇規制、有期契約、労働条件変更、フリーランスなど
第11.12回	男女平等政策、ワークライフバランス、ハラスメント	男女平等、育児・介護休業、セクハラ・パワハラなど
第13.14回	集団的労使関係システム	労働組合、労使協議制、個別労使紛争など

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

『日本の労働法政策』労働政策研究・研修機構(2018年)  
なお、刊行からかなり時間が経っているため、アップデートしたPDFファイルを受講者に配布する予定。

### 【参考書】

濱口桂一郎『新しい労働社会』岩波新書(2009年)  
濱口桂一郎『日本の雇用と労働法』日経文庫(2011年)  
濱口桂一郎『若者と労働』中公新書ラクレ(2013年)  
濱口桂一郎『日本の雇用と中高年』ちくま新書(2014年)  
濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書(2015年)  
濱口桂一郎・海老原嗣生『働き方改革の世界史』ちくま新書(2020年)  
濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書(2021年)  
なお、関連する論文等が講師ホームページにアップされているので、適宜読むこと。  
<http://hamachan.on.coocan.jp/>

### 【成績評価の方法と基準】

参加人数にもよるが、今のところレポート作成を予定している。レポートの提出先は、次の講師メールアドレスとする。  
SGB00231@nifty.com

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >  
労働法政策  
< 研究テーマ >  
日本とEUの労働法政策、日本の個別労働紛争の分析  
< 主要研究業績 >  
『EUの労働法政策』、『日本の労働法政策』、『日本の雇用終了』、『日本の雇用紛争』、『団結と参加』（いずれも労働政策研究・研修機構）

### 【Outline (in English)】

It is not a lecture on labor law as a finished product, but one on labor law focusing on the manufacturing process.  
The goal of this course is to explain the contents of labor legislation in such a way as to trace the decision making process.  
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.  
: Grading will be decided based on short reports.

POL500P1 - 121 (政治学 / Politics 500)

**政策過程事例研究**

鄭 智允

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、政策過程理論を応用して個別行政分野の政策を考察する。まず、『政策形成の過程：民主主義の公共性』を用いて基本的な理論を確認する。次に事例研究を通じて政策過程についての理解を深める。例えば、市町村合併、防災対策、廃棄物処理などの事例から、各々のアクターが制度の中でどのように責任を負い対応していくのか。また、既存制度の中でアクターが外部もしくは内部の環境要因によって政策をどのように形成・漸進させていくのかを分析する。この過程を通じて政策過程に関する理解を高める。

**【到達目標】**

既存の政策形成過程の理法を理解し、個々の政策過程事例を考察する中で政策過程の視点・考え方など、政策過程に関する幅広い知識を習得することを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

授業は対面で行う。まず政策過程の全対象について、事例を用いて復習する。その後、参加者の報告順を決め、報告およびそれについて質疑・討論の方法を進める。また、リアクションペーパーにおける質問事項等に対しては、次の授業で説明する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1.2回	ガイダンス	授業の概要を説明し、講義の狙いとテーマを確認する。受講生各自の研究テーマ・関心分野を紹介する。
第3.4回	政策過程とその主体について	政策過程の理論を確認する。政策過程に参加する主体とその行動について各政策段階で検討する。
第5.6回	政策と官僚、そして規制	官僚はなぜ規制したがるのか、その原因について考える。
第7.8回	政策事例① 市町村合併と公共施設の再編	市町村合併がもたらしたことについて、公共施設の統廃合問題から考察する。
第9.10回	政策事例② 大都市制度と行政区	政令指定都市を事例として行政区のあり方を考察する。
第11.12回	政策事例③ 自治体と廃棄物問題	自治体における廃棄物の処理と課題について考察する。
第13.14回	政策事例④ ヤングケアラー問題	ヤングケアラーに関する対策と課題について考察する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

最初の授業で指示する。

**【参考書】**

C.E. リンドブロム、E.J. ウッドハウス著『政策形成の過程：民主主義と公共性』（東京大学出版会、2004年）  
ハーバート・カウフマン著『官僚はなぜ規制したがるのか』（勁草書房、2015年）

松本三和夫『構造災』（岩波新書、2012年）

その他、必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業における積極的議論参加（60%）、レポート（40%）を判断して、評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

特になし

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 行政学、地方自治、環境政策

<研究テーマ> 国策と地方自治

<主要研究業績>

「合併政令市の引力と遠心力浜松市行政区再編住民投票で問われた行草と自治区意識」『自治総研』2020年（第499号 pp.86-122）

「土砂災害危険区域と行政改革による行政の撤退戦略—浜松市北区引佐町鎮玉地域を事例に一」『年報中部の経済と社会』2019年（pp.69-80）

「指定廃棄物処理における自治のテリトリー」『自治総研』2019年（第489号 pp.45-82）

「『自区内処理の原則』と広域処理」『自治総研』2014年（第428号 pp.29-46、第429号 pp.45-65、第430号 pp.35-53）

「災害廃棄物の処理をめぐる」『月刊自治研』2012年（第637号 pp.56-65）

「『漂着ごみ』に見る古くて新しい公共の問題」小原・寄本編著『新しい公共と自治の現場』コモンズ2011年（pp.202-216）

「廃棄物問題から考える合併・参加・住民組織の論点」『環境自治体白書2008年版』環境自治体会議編2008年（pp.40-52）

『市民参加・合意形成手法事例とその検証』（共著）市民がつくる政策調査会2005年

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire knowledge about policy process. First, we confirm the basic theory by using "Policy-Making Process" (Charles E. Lindblom and Edward J. Woodhouse 2004). Next, we will deepen our understanding of policy processes through case studies. We analyze what kind of responsibility is taken care of in the system and how the main actor forms and progresses policies by external or internal environmental factors in existing system. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end reports : 40%, in class contribution: 60%.

POL500P1 - 122 (政治学 / Politics 500)

政策開発実践論

清水 英弥、富澤 守、高橋 良一、藤原 大

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自治体の政策・制度設計と行政技術の開発手法を研究します。

【到達目標】

人口減少時代への対応に迫られた自治体政策について、先駆自治体の実践例を考察するとともに、市民本位の政策づくりについて研究します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

自治体政策の実践例を基調に、「対面」（ハイフレックス含む）にて講義を実施します。

受講者からの質疑・討論を含め、授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個人情報保護と情報公開（富澤 守）	個人情報保護・情報公開の法律、条例の意義と課題。
第2回	地方財政（富澤 守）	収入、租税の役割、単年度予算と債務負担。
第3回	自治基本条例と総合計画（藤原 大）	自治体経営における自治基本条例、総合計画の意義、有効な活用方について考察する。
第4回	新たなまちづくりの潮流（藤原 大）	公民連携の取組など自治体における新たなまちづくりの潮流を考察する。
第5回	変わる自治体運営（藤原 大）	コロナ禍が与えた自治体への影響を考察するとともに、これからの自治体運営を展望する。
第6回	自治体の都市政策（清水英弥）	解決策の見えない自治体の都市政策について考察する。
第7回	自治体の環境政策（清水英弥）	自治体の環境政策について、具体例をあげながら考察する。
第8回	自治体の開発政策（清水英弥）	自治体の開発政策について、具体例をあげながら考察する。
第9回	自治体の財産と危機管理（富澤 守）	公有財産管理と損失補。具体的な訴訟や行政救済。
第10回	社会的価値と自治体契約（富澤 守）	法務契約を基点とした公契約条例から契約手法による政策の実現。
第11回	公共政策と財政計画（高橋良一）	様々な市民ニーズに対応するため各々の自治体政策が構築されてきたが、総合計画と表裏一体をなす財政計画について考察する
第12回	地域づくりと財政の役割（高橋良一）	連携や協働、行財政改革をキーワードにしながら、財政の観点から国と地方自治体、規模が異なる自治体同士などの今後の地域づくりを考える。

第13回	自治体の監査制度①（高橋良一）	自治体の財務や業務の適正性を住民に保証する監査の重要性が注目されている。自治体における監査や内部統制について考察する。
第14回	自治体の監査制度②（高橋良一）	自治体の監査制度の今日的な課題や住民訴訟の前置制度としての住民監査請求について、事例を見ながら考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。本授業のテーマに関する著書・論文等を可能な限り熟読し、事前に学習してください。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業の前に、レジュメを配布します。

【参考書】

富澤守、『保育問題の本質を問う』（共著）、都市問題、2017年所収  
 富澤守、『法務契約を基点とした公契約条例』、イマジン出版、2017年所収  
 富澤守、『選挙をめぐる事件と制度の見直し』イマジン出版、2019年所収  
 高橋良一、「自治体監査の現場から－監査委員監査の今日的課題、2」、イマジン出版、『実践自治ビーコンオーソリティ』、2017年Vol. 70（夏号）、71（秋号）所収  
 高橋良一、「住民監査請求・住民訴訟の諸課題」、イマジン出版、『実践自治ビーコンオーソリティ』、2020年Vol. 81（春号）所収  
 藤原大、「市町村の総合計画づくり～国分寺市総合ビジョンの紹介」、イマジン出版、『実践自治ビーコンオーソリティ』、2016年Vol. 76（冬号）所収  
 清水英弥、「人口減少時代における都市計画行政－入間市の取組み事例をみる－」、イマジン出版、『実践自治ビーコンオーソリティ』、2016年Vol. 65（春号）所収

【成績評価の方法と基準】

授業における積極的議論への参加（70%）、期末レポート（30%）を総合的に判断して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

内容を検討のうえ、可能なものは授業に反映します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

必要な時は授業で説明します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
 <研究テーマ>  
 <主要研究業績>

【富澤 守】

自治体政策（行政法務・財務・契約）  
 再開発（再開発・まちづくり）

【高橋 良一】

自治体政策（財政計画、行財政改革）  
 自治体監査（住民監査請求、行政不服審査）

【藤原 大】

自治体経営（総合計画、まちづくり）

【清水 英弥】

自治体政策（都市、開発、建築、環境）

【Outline (in English)】

Study policy and institution design of municipalities and development method of administrative technology.  
 Regarding local government policies that have been forced to respond to the era of depopulation, we will consider practical examples of pioneering local governments and consider citizen-oriented policy planning.  
 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.  
 Your overall grade in the class will be decided based on the

following.

Term-end reports:30%、in class contribution: 70%.



POL500P1 - 125 (政治学 / Politics 500)

**公共政策実践論1 (地方自治研究)**

渡部 朋宏、伊藤 哲也、小西 真樹

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

・地方自治体が政策を進めていくうえで重要なまちづくり行政、地方議会、住民論の3つのテーマについて、地方自治体での実務経験のある3名の講師がオムニバス形式で授業を行う。地方自治体にとって不可欠な構成要素である「住民」の概念や制度、「地方議会」の分析を通じてその状況や制度について講義を行うと共に、地方自治体の公共政策の一分野であるまちづくり行政について、実例等の紹介により講義を行う。

3つのテーマを通じて、公共政策及び地方自治を研究・分析する視点を学び、研究課題の設定につなげる。

・各テーマの概要は以下の通り。

・自治体のまちづくり行政：自治体が法令や行政制度を活用しながら行うまちづくりについて、自治体のまちづくり行政と称し、講義を行う。その詳細や実例について体系的に学ぶことを目的とする。

・地方議会の分析：重要な公共政策の決定を行う地方議会の分析を通じて、地方自治の研究手法としての計量分析の初歩について学ぶとともに、その状況や制度について理解することを目的とする。

・住民論：東日本大震災及び福島原発事故により避難生活を余儀なくされた住民をテーマとして「住民論」の基礎を学ぶとともに、自治の現場で発生している課題を研究につなげる手法の修得を目的とする。

**【到達目標】**

・自治体の都市政策、公共政策の実践としてのまちづくり行政の手法について学び、公共政策における役割や効果について学ぶことができる。自治体でまちづくり行政に携わっている方や今後携わりたいと考えている方々に対し、公共政策を実践していくための知識や課題認識の設定につなげる。

・地方議会の分析を通じて、重要な公共政策を決定する地方議会の状況や制度について理解をするとともに、地方自治の研究手法としての計量分析の初歩(統計的推定、統計的仮説検定等)について理解をした上で、必要に応じて自己の研究への活用が行えるようになる。

・住民に関する先行研究、関連する各種判例、住民登録制度の歴史的経過を踏まえ、住民概念の形成過程を理解する。また、より実践に即した研究課題へのアプローチ、方法論を学び、自己の研究テーマを深化させる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

・原則として対面で授業を実施する。

・3人の講師によるオムニバス形式での講義を行う。毎回、講師がパワーポイントなどの資料を準備して講義を行い、原則としてディスカッションにより授業を進める。授業の主体は受講者であり、積極的な発言を求める。また、テーマにより、事前に参考書を読んでおくなど、関連する情報を集め、問題意識を高めておくことを推奨する。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自治体のまちづくり行政とは(小西)	イントロとして、自治体のまちづくり行政の概念について説明し、自治体が公共政策の実践として行うまちづくりの手法について概説する。

第2回	まちづくりの計画・立法行政(小西)	自治体のまちづくりにおける計画行政(都市計画等)や立法行政(条例、基準等)について説明し、理解を深める。
第3回	まちづくりの規制行政(小西)	自治体のまちづくりにおける規制行政について説明し、理解を深める。
第4回	まちづくりの誘導行政(小西)	自治体のまちづくりにおける誘導行政について説明し、理解を深める。
第5回	公共施設の整備、公共施設マネジメント(小西)	自治体がまちづくりとして行う公共施設の整備及びマネジメントについて説明し、理解を深める。
第6回	地方自治研究における計量分析の意義、地方議会制度等①(伊藤)	地方自治の研究における計量分析の意義について理解するとともに、本講義において分析の題材とする地方議会の議会費の概観や地方議会の権限などについて理解をする。
第7回	地方議会制度等②(伊藤)	地方議会の議員定数制度等を理解するとともに、行政改革が地方議会に与えた影響を理解する。
第8回	議会費の変化の状況とその理由の考察(伊藤)	2000年地方分権改革の前後の一定期間において、地方議会に要する経費である議会費の決算などがどのように変化をしていったかを理解し、その変化の理由について考察をする。
第9回	地方議会の計量分析①(伊藤)	地方議会の分析を通じて、地方自治の研究における計量分析手法の初歩について理解をする。具体的には、記述統計、データの可視化・視覚化、相関分析、回帰分析等について学術論文にどのように用いるかを理解する。
第10回	地方議会の計量分析②、第6回から第10回までのまとめ(伊藤)	第9回に引き続き地方議会の分析を通じて、地方自治の研究における計量分析手法の初歩について理解をする。具体的には、統計的推定、統計的仮説検定等について学術論文にどのように用いるかを理解する。第8回及び第9回の講義を踏まえ地方自治の計量分析を受講者が実際に行うとともに、第6回から第10回までの講義のまとめを行う。
第11回	東日本大震災と福島原発事故避難の実態(渡部)	本講義の問題意識の原点となる東日本大震災と福島原発事故による全域避難自治体の一つを詳細に検証し、基礎的自治体が直面している様々な行政課題について考察する。
第12回	住民概念の考察①(渡部)	住民概念の法的位置づけを整理したうえで、住民の基礎となる「住所」について先行研究や判例をもとに考察を加える。
第13回	住民概念の考察②(渡部)	住民概念の先行研究や「住民」についての判例研究を踏まえ、住民の基礎的概念について理解を深めるとともに、原発避難者に対する現行制度の問題点を考察する
第14回	住民登録制度の歴史的考察(渡部)	住民登録制度の歴史的経過を踏まえ、今後のあるべき住民登録制度について考察する。また、これまでの講義で取り上げた「住民」についての論点を踏まえ、ディスカッションにより全体のまとめを行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

・準備学習・復習時間は特に必要ないが、時間内は集中し、積極的に質問や意見提出を行い、ディスカッションに参加する。報告、ディスカッションを行う場合は、調査・取りまとめで2~4時間程度。  
・各人が各回のテーマに関連する情報を集め問題意識を高めておくことが望ましい。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。各回、レジュメや資料を配布する。

**【参考書】**

(小西)

・伊藤雅春ほか編著（2017）『都市計画とまちづくりがわかる本 第二版』 彰国社  
・橋本隆（2022）『自治体の都市計画担当になったら読む本』 学陽書房  
・都市計画法制研究会（2022）『都市計画法令要覧（令和5年版）』 ぎょうせい

(伊藤)

・大森彌（2004）『新版分権改革と地方議会』 ぎょうせい  
・河村和徳（2015）『政治の統計分析』 共立出版  
・数理社会学会（監修）筒井淳也・神林博史・長松奈美江・渡邊大輔・藤原翔（編）（2015）『計量社会学入門—社会をデータでよむ』 世界思想社  
・松本英昭（2015）『新版 逐条地方自治法<第8次改訂版>』 学陽書房  
・浅野正彦・矢内勇生（2018）『Rによる計量政治学』 オーム社

(渡部)

・今井照・自治体政策研究会・編著（2016）『福島インサイドストーリー 役場職員が見た原発避難と震災復興』 公人の友社  
・渡部朋宏著（2020）『住民論 統治の対象としての住民から自治の主体としての住民へ』 公人の友社

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の意見発表や議論の積極性（80%）、レポート提出・発表（20%）

**【学生の意見等からの気づき】**

・学生の論文作成テーマとかかわることから履修する場合もそうでない場合も、講義テーマと学生の関心が重なり、様々な質問・意見から相互に学びあうことができる。講義中の質疑による理解の深まりに期待したい。

**【学生が準備すべき機器他】**

第10回の講義のみExcelが使用できるパソコンを準備すること。その他の回については、なし。

**【その他の重要事項】**

・多様な講師による講義であることを活かし、可能な限り、受講者の学位論文の核となるリサーチクエスチョン等についての問いにも応えていく。  
・住民論及び自治体のまちづくり行政の講師は現職の自治体職員であり、地方議会の分析の講師は元自治体職員でもあることから、地方自治の研究について問題意識を明確にして授業に臨んでいただければ、実践的・実務的な情報を得て、議論を交わすことができる。また、実務の傍ら、自らの問題意識を基に学位論文を執筆した経験をふまえ、修士論文執筆のための手がかりを提供する。  
・地方議会の分析の講義においては、統計学で扱うような内容については最小限に留め、地方議会を含めた地方自治の研究において計量分析をどのように活用するかについて重点的に講義をする。社会調査法の量的分析に関する科目を履修していることが望ましいが必須ではない。

**【小西】**

≪略歴≫

現職自治体職員（建築技術職）として、まちづくり行政関連の業務を長く経験

≪専門領域≫

都市計画、都市計画行政、まちづくり、行政制度、地方自治

≪資格等≫

一級建築士、建築基準適合判定資格

≪研究テーマ≫

自治体の都市計画・まちづくり行政、都市計画・まちづくり分野の地方分権

≪主要研究業績≫

- ①「日本の都市計画法の分権改革に関する研究」法政大学博士学位論文（2022.3）
- ②「都市計画決定に対する国の関与の範囲の縮減化に関する研究：新都市計画法以降の分権改革の経過について」『都市計画論文集』Vol.47 No.2（2012.10）
- ③「国と自治体の建築・まちづくり行政における役割分担に関する考察—建築基準法の指定道路図及び指定道路調書制度を題材として—」『公共政策研究』第11号（2011.12）

**【伊藤】**

≪専門領域≫

地方自治、地方財政、地方議会

≪研究テーマ≫

地方議会の計量分析、地方財政

≪主要研究業績≫

- ①「議会費の状況と自治体運営—決算統計等から分析する平成の市区町村議会—」法政大学博士学位論文（2022.3）
- ②「財政及び人口の観点からみた市区町村の議員定数の決定要因」自治体学 vol.33-1（2019.11）
- ③「普通交付税措置と議会費の関係可能性」自治体学 vol.37-1（2023.12）

**【渡部】**

≪専門領域≫

地方自治、公共政策、住民論

≪研究テーマ≫

住民概念、地方自治、原発避難

≪研究業績≫

- ①『住民論 統治の対象としての住民から自治の主体としての住民へ』 公人の友社（2020.12）自治体学会【研究論文賞受賞】
- ②「福島原発事故避難の実態と「住民」概念の転換—統治のための住民から住民による自治へ—」自治体学 vol.31-1（2017.11）自治体学会【自治体学研究奨励賞受賞】
- ③「震災復興の現状と課題」地方自治職員研修通巻708号（2018.3）公職研
- ④「人口減少社会における「住民」概念の考察—福島原発事故避難自治体の実態から—」自治実務セミナー2018年12月 第一法規
- ⑤「「住民」概念の研究—統治される対象としての住民から自治の主体としての住民へ—」公共政策志林第7号2019年3月 法政大学大学院公共政策研究科

**【Outline (in English)】**

**【Course Outline】**

Three instructors with practical experience in local governments will give classes in an omnibus format on three themes that are important for local governments to advance their policies: town planning and development administration, local assemblies, and resident theory. Lectures will be given on the concept and system of "residents" who are an essential component of local governments, and the situation and system through analysis of "local councils", as well as practical examples of town planning and development administration, which is a field of public policy of local governments.

**【Learning Objectives】**

The goal of this subject is to learn and acquire the basics of town planning and development administration, analysis of local councils, and resident theory.

**【Learning activities outside of classroom】**

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

**【Grading Criteria /Policy】**

Activeness in presenting opinions and discussions during class (80%), submitting and presenting reports (20%).

POL500P1 - 126 (政治学 / Politics 500)

## 公共政策実践論2 (公共政策の基礎)

鈴木 良祐、栗田 昌之

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

限られた時間の中で、様々な制約を抱えている大学院生が、公共政策研究の学位論文執筆に取り組むにあたって、効率的かつ制約を回避した執筆ができるよう工夫しながら、公共政策の本質・理論・実践の基礎を学び、それらを論文に展開できることを目的とする。授業は、「公共政策研究の基礎(1)」および「公共政策研究の基礎(2)」で構成され、オムニバス形式の授業で学ぶ。それぞれの概要は次のとおりである。

「公共政策研究の基礎(1)」では、公共政策の中核である政府政策の立案プロセス・政府事業の実現を支える行政と企業の間を軸に、歴史的な事実と背景・先行研究・政府活動のトピックス・現場のエピソード等を提供し、短期間で質の高い学位論文を執筆する方法を探っていく。詳細については、学習支援システムの授業情報表示を参考にされたい。

「公共政策研究の基礎(2)」では、我が国の防災政策の仕組みに焦点をあて、政府や自治体は、大規模災害などの危機事態にどのように対応したのか、特にあの衝撃的だった東日本大震災を事例に、特に政策実施における課題について考えたいと思います。本講義で我が国の危機管理体制、防災政策に関する理解を深めてもらいたいと思います。なお、併せて、学位論文の執筆やその研究方法についてお話をさせていただきたいと考えています。

本各講座は、研究対象が多様となる各参加者に対し、幅広く有益なものになると考える。そこで、本講義は、修士課程の院生だけでなく、広く博士課程の院生や学部学生の参加も可能としています。

### 【到達目標】

- ・政府事業の理想と現状を理解した上で、その課題を指摘し、政策案の創造、制度改革の提案、ビジネスモデルの開発ができる。
- ・日本の防災政策の基礎的な構造を考察し、その課題や限界について理解する。そのうえで、災害に限らず、危機管理に関する基本的な考え方が身に付く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

- ・原則として、対面で授業を実施する。なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンライン授業に切り替える。

- ・2人の教員によるオムニバス形式で毎回、教員の準備するレジュメや資料で講義を行う。

- ・毎回の授業テーマについて、学生と教員との意見交換、学生同士の討論を組み入れたアクティブラーニングを織り交ぜた授業とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	公共政策研究の基礎(1)イントロダクション	公共政策研究の取り組み方法について考える。
第2回	公共の目指す社会	公平性、公正性、公益性を確保する制度について考える。
第3回	職能別分業組織	公共を支える官民の組織の特性を考える。
第4回	政府事業のプロセス	政府事業実現のフレームワークを考える。
第5回	政府調達の世界	政府調達の制度と官民それぞれの役割を考える。

第6回	企業力 (競争と協調)	政府事業を支える企業の価値観と行動特性を考える。
第7回	官庁ビジネスの現状	官庁ビジネスの本質と展望について考える。
第8回	公共政策研究の基礎(2)イントロダクション	講義の進め方について。公共政策研究と論文執筆の基礎について。
第9回	危機と災害	危機とは。自然災害と人為災害について理解する。
第10回	危機管理と防災政策	防災政策を概観する。政策サイクルの理解。危機管理サイクルと防災政策を理解する。
第11回	災害対処システム	日本の災害対処とその構造について考える。特に大規模災害に対してどのような準備がなされているのか概観する。
第12回	東日本大震災への対処	大規模災害への対応について。(政策実施としての災害対処) 災害対処システムは有効に機能したのか考える。
第13回	危機管理、特に防災政策の課題と限界	危機管理、特に防災政策の持つ構造的な特徴について考える。
第14回	まとめ	これからの防災について考える。全体のまとめと公共政策を研究するということについて考える。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・原則、毎回授業の1週間前までにレジュメや資料を学習支援システムにアップするので、準備学習をした上で、授業に出席すること。なお、本授業の準備学習は1時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。毎回、レジュメや資料を配付またはオンラインで提示する。

### 【参考書】

(公共政策研究の基礎(1))

鈴木良祐、(監)武藤博己法政大学名誉教授(2021)『入札改革へのアプローチ 予定価格論』太郎丸出版。

鈴木良祐、(監)武藤博己法政大学名誉教授(2021)『高校生からの公共 適正価格』太郎丸出版。

(公共政策研究の基礎(2))

永松伸吾(2008)『減災政策論入門』弘文堂。

生田長人(2013)『防災法』信山社。

栗田昌之(2024)『政策と災害 ~あの日、政策は命を救えたのか』ブイツーソリューション。

### 【成績評価の方法と基準】

授業中の意見発表や議論の積極性 (70%)

レポート (30%)

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【学生が準備すべき機器他】

レジュメやインターネット情報を閲覧するため、PDFを読めるパソコンあるいはタブレットを持参が望ましい。

### 【その他の重要事項】

- ・「公共政策研究の基礎(1)」を担当する教員は、官庁ビジネスを専業とする企業人であり、事業の抱える問題の本質、事業化推進制度、官民それぞれの抱えている事情・価値観、学術的理論と実践、押さえるべきポイント等を交えるなどして、効率的な修士論文執筆のヒントを提供する。

- ・「公共政策研究の基礎(2)」を担当する教員は、企業での経営サポート、人材育成等の経験や、BCP (事業継続計画) 作成を支援する経験をもつ。一般企業と行政機関を俯瞰して危機管理、防災研究を行っている。学位論文を執筆した自らの経験も踏まえ、論文完成に向けての研究手法、論文執筆のヒントを提供する。

### 【鈴木良祐】

<専門領域>

政府事業論、政府調達制度論、原価計算制度論、公契約論

<研究テーマ>

予定価格（適正価格決定のメカニズム）、組織における意思決定と行動選択、デジタル・トランスフォーメーション（デジタル・ガバメント）

<主要研究業績>

『入札改革へのアプローチ 予定価格論 第2版』（2021、単著）

『高校生からの公共 適正価格』（2021、単著）

「事業プロセスから見た調達改善の課題解決に向けての一考察」公共政策志林第8号（2019〔令和元〕年度）

**【栗田昌之】**

<専門領域>

行政学、公共政策学、防災政策、危機管理論

<研究テーマ>

防災政策研究、危機管理、リスクマネジメント、組織研究

<主要研究業績>

「我が国の災害政策と危機管理研究の一考察」～「危機」への認識の変化と「災害政策」の変化『公共政策志林』第3号 pp.29-45、2015年3月

「危機管理の拡大と行政による危機管理」『安全保障と危機管理』vol.34 2015年冬号 pp.46-49 2015年12月

「危機管理における危機の定義と段階的把握」『安全保障と危機管理』vol.46 2018年冬号 pp.31-34 2018年12月

『政策と災害 ～あの日、政策は命を救えたのか』（2024、単著）

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of public policy research. The course also aims to improve students' ability to write thesis.

POL500P1 - 127 (政治学 / Politics 500)

### 公共政策実践論3 (人材育成と専門教育)

折田 朋美、宇佐美 淳、鳥山 亜由美

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界をめぐる今日の状況は、新型コロナウイルス感染症、気候変動による自然災害の激甚化、ウクライナ情勢の影響など、複合的危機を迎えているといえる。日本においては、少子高齢化とそれに伴う人材不足、急速なデジタル化への対応、経済活力の低下などの課題に直面している。これらの課題は、世界から日本まで、それも国内の自治体や地域といった細かなコミュニティの現状に至るまで密接にかつ複雑に関係している。

かかる状況において、今公共政策の役割の重要性が再認識され、新たな公共政策展開の必要性が高まっている。地域、自治体、国、そして国際社会は、複雑な社会課題の解決に向けた複層的な取り組みを行っていくことが必要である。

本講義では、これら現代的諸課題が、地域・自治体・国・国際社会を通してつながっている構造にあること、また、各層における取り組みについて、特に課題解決の鍵ともなる人材育成や専門教育を軸とし、理解・考察することを目的とする。

具体的には、まず、地域コミュニティ及び自治体行政（地方政府）の観点から、宇佐美は、ローカル・ガバナンスが重視される時代の地域コミュニティにおける自治体職員、人材育成方針と地域コミュニティにおける活動との関係性や、若手・女性職員の早期離職等をテーマに、特に、自治体内の最前線の地域コミュニティを現場として活動する自治体職員に着目しつつ、自治体行政（地方政府）と地域コミュニティで活動する各種アクターとの関係性等に関する理解を目指す。

次に、自治体における人材育成に関し、宇佐美に続いて鳥山が、高等教育の視点から公立大学の実践に着目し解説する。その後、公立大学のほか、国立大学、私立大学も含め、国の高等教育全体に目を向け、それらの成り立ち、高等教育行政との関わり等について、設置者別に解説のうえ、答申等に示される、政府、行政が高等教育に求める人材育成に関する理解を目指す。

そして折田は、途上国にとっての公共政策、同時に日本政府にとっての公共政策としての政府開発援助（ODA）を取り上げる。SDGsの文脈にもからめながら、特に人材育成・教育セクターに着眼し、政策実施と取り組みの構造理解を目指す。可能な限り具体事例を挙げながら、宇佐美の考察に呼応し、ODAにおける自治体との最近の新しい連携や、鳥山の事例を受け、国際協力における教育協力など、多様な切り口でひもとくことを試みる。

なお、本講座では全講義を通して、学術論文の技法等について、各担当者より適宜指導説明を行う予定である。

#### 【到達目標】

まず、参加者が、現代社会における諸課題に対し、地域・自治体・国・国際社会における公共セクターの役割を概観し理解することを目標とする。本講義では、人材育成や専門教育を軸に、講義全体を通して、それぞれの研究対象の背景にある社会の動きについて、自ら主体的に考えを深め、既定概念や固定概念にとらわれず、新たな視点からの研究の展開をもたらすことを目指す。各講師による地域・自治体・国・国際社会という異なった層から考察する講義内容は、研究対象が多様となる各参加者に対し、幅広く有益なものになると考える。そこで、本講義は、修士課程の院生だけでなく、広く博士課程の院生や学部の学生の参加も可能としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式は対面方式を原則とするが、状況によりオンライン併用によるハイフレックス方式もあり得る。各参加者の知識の蓄積状況に応じ、グループディスカッションを行い、プレゼンテーション能力等の育成を図る。また、必要に応じて、各講師から論文作成の技法等についてアドバイスをを行う。その他、講義内で適宜、各参加者の研究における関心事項について、講義で得た知見との関係等について発表してもらい、それに各講師が所見を述べることや、レポート作成に関して個別に協議を行うこと等で、各参加者へのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域・自治体・国・国際社会をめぐる現代的諸課題（折田・宇佐美・鳥山）	イントロダクション（3講師から講義の全体構想と担当概要等を説明）
第2回	導入としてのガバナンスとコミュニティ（宇佐美）	①ガバナンスとは ②コミュニティとは ③ガバメントに求められる役割—行政サービスから公共サービスへ
第3回	メタ・ガバナンスとしての役割を担うのは誰？—NPO編（宇佐美）	①メタ・ガバナンスとは ②NPOをめぐる現状 ③ローカル・ガバナンスにおけるNPO—山梨県の事例
第4回	メタ・ガバナンスとしての役割を担うのは誰？—自治体職員編（宇佐美）	①最前線の地域コミュニティを現場とする自治体行政職員の役割—「地域担当職員制度」 ②最新研究の報告 ③教育分野における地域学校協働活動推進員
第5回	自治体行政における人材育成方針と若手・女性職員をめぐる労務環境（宇佐美）	①自治体行政における人材育成方針の現状と課題 ②若手・女性職員の早期退職をめぐる問題—全国調査結果を踏まえて ③行政事務職と専門職（保健師や教育職）との違い
第6回	公立大学が地域に果たす役割（鳥山）	①公立大学の設置目的 ②自治体と公立大学の関係 ③地域の人材育成における公立大学の役割
第7回	地域における大学設置政策（鳥山）	①国が大学に期待した役割 ②大学設置政策の変遷 ③公私協力大学、公設民営大学の誕生
第8回	大学を通じた地域活性化（鳥山）	①補助事業と地域活性化 ②地域系学部の設置 ③他大学や産業界との連携
第9回	国における大学政策（鳥山）	①大学設置基準の改定の経緯（大綱化以降） ②骨太の方針に見る大学の言及 ③法改正（国立、私立）
第10回	国際公共政策としてのODA概説（折田）	①3重の公共政策としてのODA：国際規範と日本の行政 ②なぜ国際協力は必要なのか ③社会課題への対応：SDGsとODA、人造りと国造り
第11回	国際協力の構造理解：具体事例とともに（折田）	①ステークホルダー構造の理解、パートナーとの連携：民間、市民社会 他 ②地域別戦略、セクター別戦略 ③能力開発の手法
第12回	テーマ別理解：国際教育協力（折田）	①国際教育協力の概要 ②研修・留学生事業 他

- 第13回 社会課題解決へのグローバルな地平（折田）
- 第14回 地域・自治体・国・国際社会における人材育成・専門教育（折田・宇佐美・鳥山）

- ①内外一元化：日本の地域コミュニティと国際の関係
- ②新しい潮流：環流人材、DX
- ③開発教育／国際理解教育
- まとめ（講義全体の振り返り、各参加者の問題意識の変化、課題提出方法の説明等）

<主要研究業績>

- ①「地域で、地域と、人材を育てる公立大学—直近の設置事例を参照して」齊藤俊幸編著『地域活性化未来戦略』ぎょうせい、2024年。
- ②『「公立大学化」の政策過程—公私協力大学を事例—』博士学位論文、2023年。
- ③「私立大学の公立大学化に関する意思決定要因についての一考察：一般市を事例として」『自治体学』36巻1号、自治体学会、2022年12月、pp.55-60。

【Outline (in English)】

The world is facing compounded crises, due to the remaining influence of the COVID-19 pandemic, the intensification of natural disasters caused by climate change, the impact of the situation in Ukraine, among others. In Japan, the society is facing challenges owing to a declining birth rate, an aging population and a resulting shortage of human resources, the need to respond to rapid digitalization, as well as the prolonged economic slump.

These issues are closely and intricately related from the world and to Japan, even down to the present conditions of local governments and communities.

In this context, the importance of the public policy's role has been reaffirmed, and the need for the development of new public policy is significantly increasing. The local, regional, national, and international communities need to work together in a multi-layered approach to solve complex social issues.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書を事前に読むほか、講義資料に関連する案件につき、調査・検索し、まとめる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜講師が資料配付を行う。

【参考書】

- ・折田朋美『日本の政府開発援助（ODA）の目的と国益—ODA大綱を軸とした政策と実施の変遷から—』博士学位論文、2022年。
- ・宇佐美淳「地域コミュニティの活性化」武藤博己監修、南島和久・堀内匠編著『自治体政策学』法律文化社、2024年。
- ・鳥山亜由美『「公立大学化」の政策過程：公私協力大学を事例に』博士学位論文、2023年。

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度である「平常点」70%、期末試験（レポート）30%。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、参加学生との双方向で行われることから、学生から寄せられる気付きや所感等から、逐次講義のブラッシュアップを行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。なお、本授業を担当する講師の折田は高校・大学院で米国に学び、フィリピン・スリランカにおける駐在他、政府開発援助の実施機関（JICA）の職員として幅広い経験を有するとともに、宇佐美は市役所や地域シンクタンクにて勤務の経験を有し、自治体行政職員とシンクタンク研究員として、鳥山は大学団体職員として高等教育政策の変遷に身近に触れてきたほか、新設公立大学職員として、各々の経験を踏まえた実務的観点からの内容を交えて講義を行う。

【折田 朋美】

<専門領域> 行政学、公共政策、国際協力・政府開発援助（ODA）  
<研究テーマ> ODA政策と実施、ガバナンス、国際協力・多文化共生

<主要業績（企画・全体編集・部分執筆）>

- ①国際協力機構（JICA）地球ひろば・国際開発センター（IDCJ）、「文部科学省国立教育政策研究所・JICA 地球ひろば共同プロジェクト グローバル化時代の国際教育のあり方国際比較調査（第一文冊、第二分冊）」、東京、2014
- ②国際協力機構、「日本・途上国相互依存度調査（要約、本編、資料編）」、東京、2009
- ③国際協力機構、フィリピン共和国地方分権・地方開発／地方自治体行政能力向上プロジェクト形成調査、東京、2005

【宇佐美 淳】

<専門領域> 行政学、公共政策学  
<研究テーマ> 地方自治論、ガバナンス論

<主要研究業績>

- ①『コミュニティ・ガバナンスにおける自治体職員の役割—「地域密着型公務員」としての「地域担当職員制度」—』公人の友社、2023年。
- ②「地域コミュニティの活性化」武藤博己監修、南島和久・堀内匠編著『自治体政策学』法律文化社、2024年、pp.198-208。
- ③「研究報告 コミュニティ・ガバナンスにおける地域活動拠点としての公民館と自治体職員—地域担当職員としての社会教育職員の役割を踏まえて—」『都市政策研究』第25号、2024年2月、公益財団法人福岡アジア都市研究所、pp.23-32。

【鳥山 亜由美】

<専門領域> 公共政策学（特に高等教育政策、自治体政策）  
<研究テーマ> 地域における大学の役割

POL500P1 - 201 (政治学 / Politics 500)

## ガバナンス研究

芦立 秀朗

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる「ガバナンス論」の第一人者の著作を英語・日本語で講読し、最終的にはそれらの理論枠組みを用いて学生が実際の政策形成過程を分析し、授業内で発表する。

### 【到達目標】

近年の行政改革で散見される参加型（住民参加・国民参加）とも関係の深い、「ネットワークによるガバナンス」の議論を自分なりに説明できるようになること。それらの議論を実際の政策形成過程に当てはめて説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面で実施される。この授業では「ガバナンス論」の第一人者の著作を英語・日本語で講読する。受講生は要点を日本語のレジュメにまとめて、発表することが求められる。補足の解説や著作の内容に関する議論も行う。最終的にはそれらの理論枠組みを用いて実際の政策形成過程を分析し、発表してもらう。課題については、次回の授業あるいはメールにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「ガバナンス論」とは何か（1）	この授業の目的と進め方について解説し、到達目標を確認する。
第2回	「ガバナンス論」とは何か（2）	「ガバナンス論」について説明した短い文献を講読し、レジュメの作り方について学ぶ。
第3回	「政府の道具」の議論	「ガバナンス論」の前提としてフッドらによる「政府の道具」の議論について学ぶ。
第4回	行政改革に関する議論	「ガバナンス論」の前提としてガイ・ピーターズによる「政府の道具」の議論や行政改革について学ぶ。
第5回	第一世代の「ガバナンス論」（1）	ローズの著作（英書）を講読し、第一世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第6回	第一世代の「ガバナンス論」（2）	ガイ・ピーターズの著作（英書）を講読し、第一世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第7回	第二世代の「ガバナンス論」（1）	トルフィングの著作（英書・和訳）を講読し、第二世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第8回	第二世代の「ガバナンス論」（2）	ソレンセンの著作（英書・和訳）を講読し、第二世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第9回	期末レポートについての構想の中間報告とそれに基づく議論	各自が関心のある問題の一つ取り上げ、各自がその見解を討議する。

第10回	「ガバナンス論」の最前線	「ガバナンス論」をはじめとする政治・法律・公共政策のキーコンセプトを理解する。各自が関心のある問題の一つ取り上げ、各自がその見解を討議する。
第11回	ローカル・ガバナンスの最前線（1）	各自が関心のある自治体を事例に、地方政治と国政の関係を理解する。
第12回	ローカル・ガバナンスの最前線（2）	各自が関心のある自治体を事例に、地方行政について理解する。
第13回	具体的な社会問題の検証（1）	これまで学んだ「ガバナンス論」を実際の分析に用いるとどうなるか、担当者が執筆した論文を講読しながら、考える。
第14回	具体的な社会問題の検証（2）	現在問題となっている社会問題を取り上げ、各自がその見解を討議する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間（合計4時間）を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

様々な著作の一部を扱うのでテキストは特に指定しない。初回に文献リストを配布するので、図書館で借りる等すること。

### 【参考書】

岩崎正洋 [編著] (2011) 『ガバナンス論の現在』 東京：勁草書房  
村上弘・佐藤満 [編著] (2016) 『よくわかる行政学 第2版』 京都：ミネルヴァ書房

### 【成績評価の方法と基準】

期末レポート40%と平常点60%で評価する。平常点は文献の理解の程度、授業への貢献、報告内容で総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

2019年度より授業を担当しているが、過年度の受講生からは英語で文献を読む習慣付けになったとコメントを得ている。

### 【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後に実施するが、メールでの相談も行う。

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 行政学  
〈研究テーマ〉 ガバナンス、援助行政  
〈主要研究業績〉  
・「援助行政への参加と政策への支持の関係-JGSS-2006データから-」『産大法学』第48巻、第1・2号、2015年。  
・「幹部人事と政治介入制度」大谷基道・河合晃一編『現代日本の公務員人事』第一法規、2019年。  
・「与野党激突型なき選挙戦における野党勝利-京都一区〜六区-」白鳥浩編著『二〇二一年衆院選：コロナ禍での模索と「野党共闘」の限界』法律文化社、2022年。

### 【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In this class, students will first learn theories of “governance,” and be asked to apply them to the current policies in Japan.

### 【到達目標（Learning Objectives）】

The goals of this course are to be familiar with theories of “governance,” and to understand Japanese politics by using those frameworks.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

### 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report : 40%, in class contribution: 60%.

POL500P1 - 202 (政治学 / Politics 500)

## リージョナリズムと非政府組織

上原 史子

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

当授業ではEUやASEANなどの地域統合やNGOの誕生から現在までの変遷を学習します。その際、こうした非政府組織の活動の現状と課題について、関連するニュース報道や論文などの資料を用いながら、受講生のみなさんと議論していきます。

### 【到達目標】

国際関係における非政府組織(国際組織やNGO)の活動・課題を理解することをめざします。また、非政府組織の活動の意味・意義について、リージョナリズム、グローバリズムおよびトランスナショナルリズムという概念に照らして自分なりの考えをもつことをめざします。

こうして国際関係の変容を理解することで、激動の21世紀世界の諸問題について、現実的な解決策を考察することができるようになれば、この講義の目的は達成できたことになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎回の授業テーマについて、授業担当者が概説し、受講生の皆さんとの予備知識をすり合わせます。その後、関連する資料(映像・論文等)を活用しながら、皆で議論することを想定しており、一方的な講義形式ではなく、対話式ですすめていきます。

履修するみなさんには、議論に積極的に参加してもらうべく、授業の主題に関するニュースや資料を要約し、集点提示をお願いします。履修者による要約と集点提示の回数などは、集中講義であることを配慮して、履修者と協議して決めたいと思います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的等の説明・アイスブレイク
第2回	with コロナ&戦争時代の世界	2024年の世界を俯瞰し、世界共通益であるはずの平和・安定を築くことが難しい実態を理解する。
第3回	リージョナリズムとは	世界に存在する多様な形態のリージョナリズムについて考える。
第4回	非政府組織とは	21世紀の世界で活動するNGOの様々な形態を学ぶ。
第5回	リージョナリズムの諸形態①ヨーロッパ	ヨーロッパにおける地域主義をEUの史的展開から学ぶ。
第6回	リージョナリズムの諸形態②アジア	アジアにおけるリージョナリズムをASEANの史的展開から学ぶ。
第7回	リージョナリズムの諸形態③大西洋を越えて	安全保障政策としてのリージョナリズムの動向をNATOの史的展開から学ぶ。
第8回	小括	映像資料を活用しながら、授業前半の学びを全員で振り返り、議論する。
第9回	ヨーロッパの統合と分裂	EUの現状と課題を整理しながら、ヨーロッパにおける地域主義の将来を検討する。
第10回	アジアの統合可能性	ASEANを中心とするアジアの地域統合の現状と課題を整理する。
第11回	国境を越えた主体による活動の多様性	国際的に活動する様々な主体があり、それらが扱う問題領域も多様であることを理解する。

第12回	核をめぐる世論とNGOの活動	核をめぐる非政府組織の動きをHibakushaとICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)の活動から検討する。
第13回	地球環境問題へのNGO・多国籍企業の取り組み	地球環境問題の史的展開を追いながら、市民社会の役割を理解する。
第14回	総括	当授業での議論を整理しながら、ウクライナ危機後の世界はどうなっていくのか、考察する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回とりあげるトピックについて、事前に調べてみることをおすすめします。なお、本授業の準備学習・復習時間は各45分を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

授業で取り上げる資料については、事前に配布、または入手するためのURL等をお伝えしたいと思います。

### 【参考書】

国際政治学や国際関係論を既習済みであれば当該講義のテキストや参考文献を活用してください。未修の方も多いと思うので、初日は自己紹介を兼ねて国際関係論の全体像を概説する予定です。

(参考) 有信堂高文社「国際関係学第三版補訂版」

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の議論と授業への積極性に基づいて成績を評価する予定です。

### 【学生の意見等からの気づき】

これまでの経験から、国際関係の実態をより理解しやすくするため、ドキュメンタリーなどの映像資料も積極的に活用します。

毎週とりあげるテーマに関連するニュースや資料を自主的に調べ、授業の際に、簡単に報告することを歓迎します。事前学習でインプットを増やし、授業中のおしゃべり(ディスカッション)でアウトプットするようにしてください。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業時にニュース等のチェックを各自してもらってもあるかと思うので、オンライン接続できるPCやタブレットをお持ちになることをおすすめします。

### 【その他の重要事項】

対面授業を希望していますが、担当教員の本拠地が北東北であることから、コロナ感染状況や自然災害の影響でオンライン授業となる日もあるかもしれません。

集中講義の具体的日程については、大学で指定する集中講義期間を想定しており、履修予定者が確定した段階で、受講希望の皆さんとメールで日程調整を行い、皆さんが参加可能な日程を決定しましょう。

担当教員も勤務学生もどきを経験しておりますので、社会人学生さんたちが参加しやすいよう、柔軟に対応したいと思います。

なお、当授業は「世界のいま」を扱う性質上、世界情勢のハブニングに応じて、授業内容や順序が変更となる可能性が高いことを承知しておいてください。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> EU小国の外交・安全保障、ヨーロッパ地域研究、国際安全保障(気候変動・資源エネルギー問題等も含む)、観光・文化・平和の観点からの国際関係研究

<授業に関連する研究業績> 「EU」「ASEAN」(滝田・大芝・都留編著『国際関係学第三版補訂版』有信堂高文社、2023年)、『ロシア・ウクライナ危機にみる中立オーストリアの「不戦の手紙」外交』(拓殖大学海外事情、2023年)、『オーストリアの中立——NATOとロシアの狭間で揺らぐ小国のサバイバル外交』(広瀬佳一編著『NATOを知るための71章』明石書店、2023年)など。

### 【Outline (in English)】

The goal of the course is to understand the basic structure of international relations focusing on regionalism(e.g.EU, NATO and ASEAN) and NGOs.Participants are also expected to examine the roles of these non-state actors in global politics. We discuss the non-state actors' activities and the usefulness of globalism, regionalism and transnationalism through the discussion on articles/documentaries.



MAN500P1 - 203 (経営学 / Management 500)

## 企業論

加藤 寛之

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究の技法、研究戦略、企業を視る、戦略を視る

### 【到達目標】

研究論文を自分でかけるようになること

現代の問題に対し具体的かつ現実的な解決代替案ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

事前課題を元にディスカッション中心

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リサーチ・メソッド	研究とは、論文を書くとは
第2回	研究戦略	研究戦略
第3回	世界標準の経営理論 1部	経済学ディシプリンの経営理論
第4回	世界標準の経営理論 2部	マクロ心理学ディシプリンの経営理論
第5回	世界標準の経営理論 3部	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論
第6回	世界標準の経営理論 4部	社会学ディシプリンの経営理論
第7回	世界標準の経営理論 5部	ビジネス現象と理論のマトリクス
第8回	世界標準の経営理論 第6部	経営理論の組み立て方・実証の仕方
第9回	工場見学法	生産現場をどうみるか
第10回	会計と財務	財務分析
第11回	ファイナンス	株価の決まり方
第12回	研究戦略2	論文を書くための戦略
第13回	各自の論文発表1	各自発表してもらおう
第14回	各自の論文発表2	各自発表してもらおう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低2時間の自宅学習

毎回の事前課題

【テキスト（教科書）】

リサーチ・メソッド

世界標準の経営理論

リサーチ・マインド経営学研究法

【参考書】

適時指摘

【成績評価の方法と基準】

事前課題40、当日のディスカッションへの参加60

【学生の意見等からの気づき】

課題が多いとの感想があります

ディスカッションを重視するのは好評のようです

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

適宜、ケース・メソッドを導入します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 地域産業論・戦略論・企業論

<研究テーマ> 造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究  
<主要研究業績>

「船舶開発と造船産業——ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）

「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析—国際競争力構図の変化と新たな取り組み—」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）

「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）

「日韓競争力転換のメカニズム—造船産業の事例—」（『組織科学』）

「資源蓄積の機能不全—成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】

Research techniques, research strategies, looking at companies, looking at strategies

MAN500P1 - 204 (経営学 / Management 500)

## グローバル企業戦略論

多田 和美

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、グローバル企業の経営戦略に関する基本理論を学びます。今日、市場や経済のグローバル化はたしかに進展する一方で、各国・各地域の相違も根強く存在します。このような経営環境において、グローバル企業にはいかなる戦略が必要なのか。この問題に関して、理論的・実践的に分析するための基本概念を学ぶことを目的とします。

### 【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) グローバル企業の戦略に関する基本理論を理解し、活用できる。
- 2) 授業で学んだ知識をもとに、グローバル企業の戦略を論理的かつ実証的に分析できる。

The goals of this course are the followings.

- 1) Understanding of basic theories of International Business,
- 2) Empirical analysis of strategies of MNCs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は、教科書を使用し演習形式によって実施します。受講生全員で教科書を輪読していただく予定です。授業に関するお知らせは、学習支援システム上で行います。なお、適宜、ハイフレックスもしくはオンライン形式も取り入れて授業を実施する予定です。また、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	① イントロダクション	グローバル企業による戦略の概要
第3回	② 国際経営環境の分析	CAGE フレーム・ワーク
第4回	グローバル企業の変遷	優位性の命題, 内部化理論, OLIパラダイム
第5回	グローバル企業の国際競争の歴史	グローバル企業の変遷
第6回	グローバル企業の組織デザイン	グローバル企業の発展と組織構造
第7回	トランスナショナル経	グローバル統合とローカル適応
第8回	海外子会社の経営	海外子会社特有の優位性と経営課題
第9回	国際マーケティング	国際的なSTP
第10回	ものづくりの国際拠点展開	海外生産ネットワーク
第11回	研究開発の国際化	HBE型とHBA型
第12回	国際的な人的資源管理	EPRGプロファイル
第13回	国際パートナーシップ	メリットと留意点
第14回	日本企業のさらなる国際化のために	企業の社会的責任

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。特に、プレゼンテーションを担当する回は入念な準備が必要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

### 【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

### 【参考書】

浅川和宏（2003）『グローバル経営入門』日本経済新聞社。

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。

吉原英樹（2021）『国際経営（第5版）』有斐閣。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献：50%、期末レポート:50%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contribution: 50% and Term paper: 50%.

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果をはじめ、学生からの意見や要望は、随時、授業改善に活かすように努めます。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営論

<研究テーマ>

国際研究開発、新興市場戦略

<主要研究業績>

法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the basic of international business from the theoretical and practical points of view. The course is mainly composed of the followings:

- 1) Basic theory of international business,
- 2) Basic framework of international business,
- 3) Advantages/disadvantages of international business.

SOC500P1 - 207 (社会学 / Sociology 500)

**NPO論**

池本 修悟

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

連帯社会インスティテュートでは連帯社会をベースにした市場経済、社会システムのあり方、サードセクターの形成発展の課題を研究していきます。その中で本講座ではNPO（民間非営利組織）が現代地域・社会の課題解決と社会システム変革においてどのような役割を担っているのかNPOの理論と歴史、ネットワーク論、協働、社会的企業など、NPO発展のための社会的関係性について学んでいきます。

**【到達目標】**

NPOに関する歴史や制度、社会的な役割、企業や行政との協働を含めた活動の形態などについて基本的な知識を獲得することができる。またNPOのポテンシャルを理解した上で、労働組合や協同組合とNPOが連携しどのような社会活動を行っていけるかを想定することが出来るようになっていく。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

・教員による講義  
各回の講義の資料は、事前に学習支援システムにアップする。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で学生との質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめる。  
・学生の発表

講義への理解度を確保するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを2回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジюмеに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。

・オフィス・アワー  
講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。

・授業の形式  
授業は、対面形式で行う予定。ただし、学生の希望や新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインで実施する可能性がある。その場合、ZoomのID・パスワード等を学習支援システムにアップする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生のNPOに関する知識や関心聞き、今後の授業に反映させる。
第2回	NPOの概要説明①	NPOの定義・歴史について古典を学ぶことでベースの考え方について知る。 ・NPOであるための5つの要件 ・ベストフの三角形 ・特定非営利活動法人のあらまし
第3回	NPOの概要説明②	NPOの現状について最新のデータを紐解くことで理解を深める。 ・データでみるNPO ・NPO関連施策

第4回	ソーシャルキャピタル	内閣府『平成14年度 ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』をベースにソーシャルキャピタルについて検討する。
第5回	非営利組織のマーケティング、戦略論	コトラーの非営利組織のマーケティングやポーターの戦略論について学ぶ
第6回	コミュニティ・ソリューションとコミュニティ・オーガナイズ	コミュニティ・オーガナイズの歴史や理論について学ぶ。
第7回	課題発表①	履修者の興味関心があるNPOについて発表を行う。
第8回	NPOのマネジメント①	ドラッカー『非営利組織のマネジメント』について学ぶ。
第9回	NPOのマネジメント②	NPO法を作った松原明氏が提唱する協力のテクノロジーを学ぶ。理論編。
第10回	NPOのマネジメント③	PO法を作った松原明氏が提唱する協力のテクノロジーを学ぶ。実践編。
第11回	社会的連帯経済とNPO①	ゲスト講師を招き、労働組合・協同組合・NPOの協働事例を学ぶ。
第12回	社会的連帯経済とNPO②	履修者がチャレンジしたい社会課題を解決するために労働組合・協同組合・NPOが連携することでどのようなことが行えるかディスカッションを行う。
第13回	ポストコロナ時代のNPO	クラウドファンディングや休眠預金制度等がNPOセクターで影響力が強める中で最新の取り組みを紹介を行う。
第14回	課題発表②	労働組合、協同組合、NPOが連携して取り組むべき社会課題について発表してもらう。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特定のテキストは定めない。授業中に配布する資料を用いて、授業を行う。

**【参考書】**

内閣府『特定非営利活動法人のあらまし』（2023）  
金子郁香『ボランティア』岩波新書（1992）  
金子郁香『新版 コミュニティ・ソリューション：ボランティアな問題解決にむけて』岩波書店（2002）  
レスリー・R・クラッチフィールド他『世界を変える偉大なNPOの条件——圧倒的な影響力を発揮している組織が実践する6つの原則』ダイアモンド社（2012）  
室田信一他『コミュニティ・オーガナイズの理論と実践：領域横断的に読み解く』有斐閣（2023）

**【成績評価の方法と基準】**

配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50%、「ふりかえり」とレポート50%。  
レポートの評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、表記、論旨。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

前述のように授業は対面で実施する予定だが、オンライン授業になる可能性もある。オンライン事業の場合は、必要なPCやWi-Fi設備などを用意したうえで、学習支援システム利用できる環境の準備が必要。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【担当教員の専門分野等】**

ボランティア  
NPO  
福祉  
社会的養護  
コミュニティ・オーガナイズ  
ソーシャルビジネス  
<研究テーマ>  
・サードセクターにおけるリーダーシップの研究と協働の促進

- ・コミュニティ・オーガナイズンについての比較研究
- ・コミュニティ・オーガナイズン以外の連帯・協働を促す手法の研究

<主要研究業績>

- 著書（共著）共助と連帯—労働者自主福祉の課題と展望（第一書林）  
論文（共著）日本大震災における支援団体のICTの活用状況と課題（日本NPO学会）  
著書（共著）ソーシャルインパクト（産学社）  
著書（共著）共助と連帯—労働者自主福祉の意義と課題 改訂版（明石書店）  
著書（共著）ソーシャルパワーの時代（産学社）  
論文（共著）社会的養護分野での制度改革における市民側のアプローチ（武蔵野大学アントレプレナーシップ研究所紀要）

**【Outline (in English)】**

We will research market economies, social systems and the formation and development of the third sector based on solidarity society. In this course, we will explore the role of non-profit organizations (NPOs) in solving contemporary regional and social issues, and in transforming social systems. We will study the theoretical and historical aspects of NPOs, network theory, collaboration, and social enterprises, focusing on social relationships for the development of NPOs.

SOC500P1 - 210 (社会学 / Sociology 500)

市民社会とコミュニティ

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「コミュニティ制度論」が主として制度的側面を対象にしたのに対して、本科目ではコミュニティ・レベルで展開している民間諸主体の公共的な動きを、事例研究を通じて考え、理論的な整理を行う。

【到達目標】

地域的まとまり論という基本枠組、日本のコミュニティの基礎的組織 (自治会・町内会や地区社会福祉協議会、地区民生委員協議会、消防団など) や地域で活動する NPO などについて理解し、その現代的、日本の特徴を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究科修士課程のこの「市民社会とコミュニティ」は、同博士後期課程の「コミュニティ構造特殊研究」及び政治学研究科の「コミュニティ論研究2」との合併開講である。進め方は開講時に相談して決めたいが、講義形式のほか受講者による報告形式を取り入れることを想定している。「地域的まとまり」とその重層構造という理論枠組を基礎として理解した上で、日本では、合併によって失われた制度枠組を自治会・町内会が民間的に回復するという特異な経過を辿ったほか、民間 (「市民社会」) 側の多彩な営為が生活を支えてきたことを論じていく。特に今世紀に入って多様に展開されている事例、コミュニティ・ビジネスの事例や協働事業の事例などを事例研究として取り上げる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域的まとまり論とコミュニティの定義	「地域的まとまり」とその重層構造とその日本の特質を理解する。ミルトン・コトラーに学びつつ、地域社会運営の制度的必要条件として、管轄領域の公的画定、法人格、課税権、条例制定権を析出し、これを失った地域社会がこれを回復するためにコトラーが考えた私法人での実績を積み上げるといふ戦略に注目する。
第2回	市民社会組織が織りなす日本の地域コミュニティ	日本のありふれた地域コミュニティは、地縁型及びテーマ型の市民社会組織が連関している姿としてイメージできる。
第3回	自治会・町内会論	上記4条件を民間的原理の上に回復する地域組織として自治会・町内会を捉え、その組織的な基本的特質と歴史とを論ずる。
第4回	日本の地縁組織の現在	自治会・町内会が現在抱えている困難を分析する。

第5回	テーマ型市民活動の特徴と現代的傾向	地縁型の組織とテーマ型の組織との緊張関係をパーソナリティの類型論という観点から解明するほか、テーマ型市民活動の中にも、相異なる類型があることを、アンケート調査に基づいて明らかにする。また、最近では、市民活動が事業化、専門化している様子にも注意を払う。
第6回	市民活動事例研究 1 市民活動の専門化・事業化	この20年ほどの間に、ボランティアベースで始まった市民活動が、次第に専門化・事業化を遂げた事例をいくつか分析する。
第7回	現代の「公共空間」とコミュニティカフェ	居場所づくりを志向する市民活動は意外に多い。中でもコミュニティカフェに焦点をあて、公共空間というものについて考える。
第8回	市民活動事例研究 2 コミュニティカフェのビジネスモデル	とりわけ「港南台ファウンカフェ」に焦点を当てて、コミュニティカフェとそのビジネスモデルを分析する。
第9回	協働事業提案制度	市民活動支援として行なわれている協働事業提案制度を分析し、市民活動の資金問題についても考える。
第10回	市民活動事例研究 3 ヨコハマ市民まち普請事業	協働事業提案制度の中でも特異な存在である横浜市のヨコハマ市民まち普請事業を検討する。
第11回	コミュニティワークの専門性	昨今は「コーディネーター」と称する支援者を置く仕組みが増えている。「コーディネーター」というものの専門性に迫ることを試みる。
第12回	市民活動事例研究 4 冒険遊び場づくり	冒険遊び場づくりを特に取り上げ、いくつかの事例に則して、その「プレイヤー」の専門性を具体的に分析してみる。
第13回	市民活動の法人論	雲南市等のいわゆる4市協議体が提唱した「スーパーコミュニティ法人」をきっかけにコミュニティにおいて使いやすい法人に関する議論が高まった。その腫瘍論点を整理する。
第14回	市民活動事例研究 5 労働者協同組合の可能性	2020年に労働者協同組合法が制定され、市民活動が選択できる法人形態がまた一つ増えた。その持っている可能性や位置づけについて考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の内容と授業で提示された文献や資料について、よく復習をすること。事前に提示された資料がある場合は、予習を行なうこと。それぞれにおおむね2時間程度をかけることを想定している。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に指示するが、拙著の『コミュニティの法理論』(創文社、1998年)や『コミュニティの自治』(日本評論社、2009年)、『自治会・町内会と都市内分権を考える』(東信堂、2021年)に、本科目の基本的なアイデアが展開されている。

【成績評価の方法と基準】

開講時に相談して決めたいが、受講者が一度ずつ授業中に報告をしてもらうことを想定しており、その場合には授業での報告 80%、授業中での討論・発言 20% m と考えている。期末レポート方式になった場合には、そのレポートが 80% としたい。

**【学生の意見等からの気づき】**

この授業を担当するのは久しぶりであるから、学生・院生からの直接の反応から気づいたことというものはない。このところ院生たちの中でコミュニティ政策への関心はやや強まっていると感じているので、ここ数年の研究を活かし、またこの数年の新しい動きにも留意していきたい。

**【担当教員の専門分野等】**

コミュニティ政策、公共哲学、法社会学

**【Outline (in English)】**

Different types of so-called civil society organizations in Japan , which are active mainly in the local community, are analyzed in this class.

Term-end examination or Repoting in the class: 80%、  
Discussions in the class : 20%.

SOC500P1 - 211 (社会学 / Sociology 500)

都市ガバナンス論

植木 豊

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では、公共性と「都市ガバナンス」をテーマに講義を行う。今日、公共的な問題を解決するためには、中央政府といった単独主体だけでは不十分になりつつある。都市の問題を、地方政府・企業・非営利組織・自治会等の連繋によって解決する様式が求められつつある。このように、公共的な問題を、地元地域の複数主体連繋(ガバナンス)によって解決していく様式の成立如何を議論していく。

【到達目標】

複数主体間連携による問題解決(ガバナンス型問題解決)の成否要因を分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

対面講義形式。配布資料に基づいて講義を進めていき、合わせて、扱った問題について、議論していく。その際、講義内容に基づいた論文作成/アウトライン作成演習等の課題を課し、返却時に議論を含めたフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	I ガバナンスとは何か—総論—	ガバナンス論をめぐる概観
第2回	(1) ガバナンスをめぐる様々な議論	
第2回	(2) 公共性とガバナンスの実際—思考実験による例解—	具体的な事例を基にして、ガバナンス論の分析枠組みの概略を知る。
第3回	II ガバナンス論登場の社会的背景	ガバナンス論が登場した背景を「制度の失敗」という観点から捉え返す。
第3回	(1) 「制度の失敗」総論	
第4回	(2) 「市場の失敗」	「市場の失敗」を社会学の観点から考察する。
第5回	(3) 「市場の失敗」に対する国家の介入	福祉国家論と「土建国家」論の具体的事例を理解する。
第6回	(4) 「国家の失敗」	福祉国家の失敗と「土建国家」の失敗の要因を把握する。
第7回	(5) 「国家の失敗」に対する新自由主義的処方箋の失敗	欧米、日本における新自由主義の登場とその帰結を考察する。
第8回	III 中間考察—公共性とガバナンス	ガバナンス論登場の背景を把握した上で、ガバナンス論の課題・分析枠組みを理解する。
第9回	(1) ガバナンスにおけるデューイ的公共性とハーバーマスの公共圏の交差—その	ガバナンス型問題解決は、デューイ的公共性とハーバーマスの公共圏との交差場面で主題化されることを把握する。

第10回	(2) ガバナンスにおけるデューイ的公共性とハーバーマスの公共圏の交差—その	デューイ的公共性とハーバーマスの公共圏の分析枠組みを理解する。
第11回	IV ガバナンスの実際	ガバナンス論の現状を、規範理論と経験理論の観点から考察する。
第12回	(1) ガバナンスの分析枠組み	具体的な事例を念頭に、何をどう分析すべきかを考察する。
第13回	(2) 複数主体間連携による問題解決の実際	具体的な事例をガバナンス論の分析枠組みを用いて考察する。
第14回	まとめ	ガバナンス型問題解決の行方と課題を考える。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

配布資料(専門書・論文・新聞記事等のコピー)を予習・復習に用いること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

なし。毎回、論文・新聞記事等のコピーを配布。

【参考書】

Mark Bevir ed. (2011) The Sage Handbook of Governance, Sage.  
マーク・ベヴィア『ガバナンスとは何か』NTT出版。

【成績評価の方法と基準】

ガバナンスに関する小論文を学期末に提出してもらい、この小論文(2,000字以上)で成績を評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の問題関心は、理論志向、事例志向など様々であると思われるので、受講生の要望に適応していく予定。  
たとえば、2019年度は事例分析を多くし、2020年度2021年度2022年度は理論分析を多くした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学  
<研究テーマ>社会理論、都市論  
<主要研究業績>  
著書  
植木豊『プラグマティズムとデモクラシー— デューイの公衆と「知性の社会的使用」』ハーベスト社  
「社会的プラグマティズムと『探究者たちのコミュニティ』」(吉原直樹ほか編『コミュニティ思想と社会理論』東信堂所収)  
訳書  
ジョン・デューイ『公衆とその諸問題』ハーベスト社  
『プラグマティズム古典集成— パース、ジェイムズ、デューイ』作品社  
『G・H・ミード著作集成— プラグマティズム、社会、歴史』作品社

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to provide an analytical framework for urban governance. Given that a single governmental body is not sufficient to solve public problems under today's complicated urban conditions, it is worth noting that co-operations of different kinds of urban associations are emerging as means for solving urban problems. The lecture discusses in what way urban governance can solve them.  
The evaluation of learning results will be based on a term-end paper with more than 2,000 characters (100%).  
The paper requires research on governance studies and technical writing expertise.

SOC500P1 - 213 (社会学 / Sociology 500)

文化政策研究

松本 茂章

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自治体の文化政策についての理解を深め、論議することをテーマとする。狭義の自治体文化政策は文化施設の設置と運営、文化事業の実施等が中心になるだろうが、本授業では、広義の自治体文化政策に話を広げる。具体的には、観光、まちづくり、福祉、教育、産業振興など、文化芸術を通じた地域創生政策に言及する。

【到達目標】

中央政府の文化政策を総括したうえで、近年に展開されてきた自治体文化行政、あるいは文化政策の現状を修得する。その後、全国各地で試みられている自治体文化政策の実例を学ぶ。さらに都内の文化施設等を踏査することで、現状の把握に努める。視察をもとに、受講生は自らの出身地、あるいは現在の居住地のありようについて調べ、討議し、21世紀の地域創生の将来像を考える。観光、まちづくり、福祉、教育、産業振興など幅広い取り組みを紹介し、受講生の視野を広げたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教科書を読みながら進める。積極的に広義の文化政策を取り上げていく。文化芸術を活かした観光、まちづくり、社会包摂、福祉、教育、産業振興などである。地域にある文化資源を活かす試みを通じて、まちの空気が変わっていく……。このような全国の先駆的事例を紹介しつつ、都内を歩いて文化の現場を体験したいと想定している。できるだけ、身近で具体的な事例を紹介することで、受講生とともに、21世紀の文化芸術を活かした地域創生のありようを考えていく。しかし、政策は「生きもの」なので、適宜、新しいニュースが入れば、授業計画を変更して、新たなことに言及する可能性があることを了承願いたい。

まち歩き（フィールドワーク、視察）を行う予定にしているが、シラバス作成時で具体的な場所を明記できない。（これまで杉並区・高円寺の文化施設などを訪ねてきた）市ヶ谷という都心に立地する法政大学の地理的利点を生かしたいと考えている。

受講生は自らの関心のある都市、たとえば出身地や居住地の取り組みについて調査を行い、適宜、発表することで、討議の材料を提供する。

原則、対面授業を行う。

（感染の広がり次第では、大学の方針に従い、オンライン授業になる可能性もある）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	◆文化芸術基本法の制定	・2017年に制定された文化芸術基本法の意義や特色について説明する。
第2回	◆身近な地域の資源で交流を生み出す	・地元の食文化から生まれた小田原かまぼこ通り、回遊型まち歩きルートをつくらうとする奈良市写真美術館、など。

第3回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪ね、実態を把握する。 (シラバス作成時では未定) (交通費、入場料は自己負担であることをあらかじめ了承する)
第4回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪ね、実態を把握する。 (シラバス作成時では未定) (交通費、入場料は自己負担であることをあらかじめ了承する)
第5回	◆文化芸術と市街地活性化をつなげる	・音楽文化を育む姫路駅前芝生広場、ビルの公開空地を活用した横浜市の芸術創造の場づくり、など。
第6回	◆既に地域にあるものが創造人材を呼ぶ	・清流や湧き水を活かした福井県若狭町の移住促進策、空き家を活用した千葉県松戸市における一テイスト滞在制作と芸術家移住、など。
第7回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪ね、実態を把握する。 (シラバス作成時では未定) (交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する)
第8回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪ね、実態を把握する。 (シラバス作成時では未定) (交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する)
第9回	◆まちの個性を市民の誇りに育てる	・都市の記憶をつなぎ、まちの個性を伝える鎌倉市の映画記念館、被災建物の保存で地域の記憶をつなぐ仙台市の震災遺構(元小学校校舎)、など。
第10回	◆文化と学びでまちの未来をつくる	・子どもたちと共に歩む演劇教育を進めてきた福岡県筑後市の公立文化施設、運営ボランティアが地域環境活動の担い手に育つ京エコロジーセンター、など。
第11回	◆都内での現地調査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪ね、実態を把握する。 (シラバス作成時では未定) (交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する)
第12回	◆都内での現地調査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪ね、実態を把握する。 (シラバス作成時では未定) (交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する)
第13回	◆文化芸術の分野から誰もが参画できる社会をつくる	・視覚障害者の映画鑑賞支援や交流事業に取り組む横浜市の映画館、俳優による視覚障害者への鑑賞サポート事業を展開する兵庫県立尼崎青少年創造劇場、など。
第14回	◆地域に開く新しい文化施設のかたち	・廃校になった小学校校舎を芸能文化拠点にした新宿区の芸能花伝舎、大阪府八尾市で展開される自治体ホールで「コモンズ」を創出する試み、など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松本茂章著『地域創生は文化の現場から始まる 社会の課題解決と文化をつなぐ現場から』(学芸出版社、2024年2月発行)  
同書を教科書に用い、受講生と教員が一緒に読みながら授業を進める。

【参考書】

・松本茂章著『日本の文化施設を歩く 官民協働のまちづくり』(水曜社、2015年)



・松本茂章編著『岐路に立つ指定管理者制度 変容するパートナーシップ』（水曜社、2019年）  
・松本茂章編著『文化で地域をデザインする 社会の課題解決と文化をつなぐ現場から』（学芸出版社、2020年）  
・松本茂章編著『はじまりのアートマネジメント』（水曜社、2021年）  
・松本茂章編著『ヘリテージマネジメント 地域を変える文化遺産の活かし方』（学芸出版社、2022年）  
など。  
必要があれば、授業中に指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

単位取得には、授業の3分の2以上に参加することが前提となる。不足する場合、学期末レポートの提出資格を得られない。  
配布するコメントペーパーへの記入状況 50%  
授業中の発言など授業参加の姿勢 20%  
期末レポート30%

#### 【学生の意見等からの気づき】

公立文化施設等を訪ねるまち歩き（フィールドワーク）は、毎年好評なので継続したい。  
法政大学公共政策研究科は都心にあり、地理的に恵まれている。この環境を生かして都内各地に足を運ぶ予定である。  
（これまでは杉並区・高円寺の文化施設等を訪れてきた）  
授業中に改めて指示を行う。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

文化政策研究は、「市民社会ガバナンスコース」の専門科目に含まれているものの、自治体文化政策を主に取り上げるので、ぜひ「公共マネジメントコース」の院生にも受講していただきたい。  
自治体職員、自治体文化財団職員、NPO職員、あるいはこれらを目指す院生にも参考になる、と考えている。  
政策は日々動いているので、新たな取り組みが展開したり話題になったりした場合、ニュースとして直近の動きを取り上げる場合がある。視察に関しても、ゲストの都合や天候などを考慮して変更される場合がある。このため、上記の授業計画の内容や順番は変更される可能性があることを事前に了承願いたい。  
視察に関しては、交通費、入館料は自己負担であることを、あらかじめ了承して受講すること。  
社会人受講生の場合、仕事に追われるため、日々の通学は大変だと思われるが、頑張って出席していただければ……と願う。やる気のある院生の受講を期待する。  
授業中に教員の連絡先を伝えることで、積極的にフィードバックや意思疎通を図る。  
講義のなかで、おりをみて、修士論文作成に臨む姿勢や図書館の利用等についても助言できれば、と考えている。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

政策科学、自治体文化政策、文化施設の管理と運営、アートマネジメント

<研究テーマ>

自治体文化政策の現状と課題、文化による地域デザイン、文化施設研究、指定管理者制度、ヘリテージマネジメント

（日本アートマネジメント学会や日本文化政策学会などに所属）

（全国紙記者・デスク・支局長を経て大学教員に転じた）

<主要研究業績>

#### ◆単著

松本茂章『芸術創造拠点と自治体文化政策 京都芸術センターの試み』（水曜社、2006年）

松本茂章『官民協働の文化政策 人材・資金・場』（水曜社、2011年）

松本茂章『日本の文化施設を歩く 官民協働のまちづくり』（水曜社、2015年）

松本茂章『地域創生は文化の現場から始まる』（学芸出版社、2024年）

#### ◆単独編著

松本茂章編『岐路に立つ指定管理者制度』（水曜社、2019年）

松本茂章編『文化で地域をデザインする』（学芸出版社、2020年）

松本茂章編『はじまりのアートマネジメント』（水曜社、2021年）

松本茂章編『ヘリテージマネジメント』（学芸出版社、2022年）

#### ◆共編著

中川幾郎、松本茂章編『指定管理者は今どうなっているのか』（水曜社、2007年）

など

#### ◆共著

『入門 文化政策』（ミネルヴァ書房、2008年）

『地域の自律的蘇生と文化政策の役割』（学文社、2011年）

『都市自治体の文化芸術ガバナンスと公民連携』（公益財団法人日本都市センター、2018年）

など

#### 【Outline (in English)】

This course is designed for students who want to learn the actual situation and problems of community development with cultural activities in Japan. We are going to focus especially on municipal cultural policies, including tourism promotion, landscape conservation, and revitalization of central urban area. At the same time, however, it is possible to deepen your understanding of governmental cultural policies, with which municipalities have to build a mutually complementary relationship in order to realize these policies. Each of the cities or towns familiar to students is an important subject for our study. The main objective of this course is to extend the whole knowledge of cultural policies through concrete examples enough to discuss with each other and consider together the community development with arts and culture in the 21st century. Sometimes field research in Tokyo will be conducted.

#### Grading criteria

・ Class attendance (50%)

・ Attitude in class (20%)

・ Term-end examination (30%)

SOC500P1 - 214 (社会学 / Sociology 500)

## シンクタンク論

蒔田 純

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策形成過程、統治機構、政官関係、国家-社会関係等、公共政策に関わる基礎的要素の概念的な意味と具体的な成り立ちに関する理解を踏まえ、それらにおいてシンクタンクがどのように位置づけられ、どのような役割を果たしているか、について考察する。

### 【到達目標】

- ・海外および国内の主要なシンクタンクについて、その機能と政策形成過程における役割について把握することができる。
- ・政策形成過程、統治機構、政官関係、国家-社会関係等、公共政策に関わる基礎的概念を踏まえた上で、シンクタンクという視点を通して、それらの仕組みや特徴、課題等について理解することができる。
- ・「仮説」⇒「検証」という科学的思考の基礎を踏まえて、公共政策の文脈の中で、シンクタンクと他の諸要素との因果関係について論理的に説明することができる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業前半では、「シンクタンクとは何か」「シンクタンク論を学ぶ意義とは何か」について踏まえた上で、国家-社会間関係や政策形成過程等、公共政策の概念をシンクタンクの視点から考察し、加えて、政策形成への人材供給や資金の在り方等、シンクタンクをめぐる主要な論点について検討する。これに基づき後半では、機能や母体等の観点からシンクタンクを分類した上で、海外・日本のそれぞれにおけるシンクタンクについて、その政策形成における位置づけや役割について具体的に論ずる。

特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメを配布する。授業を行う上では、概念的な説明のみではなく、できるだけ具体的に現実における動きを踏まえた講義とすることを心掛けたい。場合によっては、実際にシンクタンクで働く方やその関係者等、各回のテーマに沿うゲストスピーカーを招聘し、実際におけるシンクタンクの働きをお話しいただく。

授業は一方的な講義ではなく、受講者による質問・意見交換を歓迎する。一つの質問を基に教室中に議論が起こるような、参加型の学習空間としたい。授業後半では受講者に何らかのプレゼンテーションを行ってもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容・日程等の説明、講師の自己紹介など
第2回	シンクタンクとは	シンクタンクの定義、歴史、機能など
第3回	国家と社会	国家-社会間関係、「政策ネットワーク論」など
第4回	政策形成とシンクタンク	政策形成過程の基礎、シンクタンクから見た政策形成過程
第5回	シンクタンクの人材	リボルビングドア、政治任用など
第6回	シンクタンクの資金	フィランソロピー、501(C)3など

第7回	シンクタンクの分類	コントラクト、アカデミック、アドボカシーなど
第8回	海外のシンクタンク①	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第9回	海外のシンクタンク②	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第10回	日本のシンクタンク	日本のシンクタンクについて
第11回	立法補佐機関とシンクタンク	議会の立法活動を補佐する機関としての立法補佐機関とシンクタンクの関係性について
第12回	団体とシンクタンク	利益集団・圧力団体とシンクタンクの関係性について
第13回	自治体シンクタンク	自治体が創設したシンクタンクについて
第14回	まとめ	全体のまとめと今後の展望

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

### 【参考書】

Alex Abella, 2009. *Soldiers of Reason: The RAND Corporation and the Rise of the American Empire*, Mariner Books.

飯尾潤. 2007. 『日本の統治構造』中央公論新社.

小池洋次 (編著). 2010. 『政策形成』ミネルヴァ書房.

Shimizu, Mika. 2015 "Think Tanks and Policy Analysis: Meeting the Challenges of Think Tanks in Japan", in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, Chap.14.

Smith, James A. 1991. *The Idea Brokers: Think Tanks and the Rise of the New Policy Elite*, Free Press.

鈴木崇弘. 2007. 『日本に民主主義を起業する—自伝的シンクタンク論』第一書林.

鈴木崇弘. 2011. 「日本になぜ（米国型）シンクタンクが育たなかったのか？」『季刊政策・経営研究』pp.30-50.

鈴木崇弘・上野真城子. 1993. 『世界のシンク・タンク—「知」と「治」を結ぶ装置』サイマル出版会.

鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎. 2005. 『シチズン・リテラシー—社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版

Smith, James, 1993. *The Idea Brokers: ThinkTanks And The Rise if The New Policy Elite*, Free Press.

Suzuki, Takahiro. 2015. "Policy Analysis and Policymaking by Japanese Political Parties", in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, Chap.11.

建林正彦・曾我謙吾・待鳥聡史. 2008 『比較政治制度論』有斐閣.

横江公美. 2008. 『アメリカのシンクタンク 第五の権力の実相』ミネルヴァ書房.

横江公美. 2004. 『第五の権力 アメリカのシンクタンク』文藝春秋.

宮田智之. 2017. 『アメリカ政治とシンクタンク—政治運動としての政策研究機関—』東京大学出版会.

Weaver, R., 2002. *Think Tanks and Civil Societies: Catalysts for Ideas and Action*, Routledge.

### 【成績評価の方法と基準】

出席・質疑・討論参加45%、レポート35%、プレゼンテーション20%

<評価基準>

質疑・討論参加：積極性、分析力、批判力等

レポート・プレゼンテーション：分析力、論理性、新規性、簡潔性等

### 【学生の意見等からの気づき】

基本的な政治学用語、政治学的な考え方についても適宜、解説を行う。

### 【その他の重要事項】

レポートの提出期限、内容等については適宜指定する。

やむを得ず授業を欠席する際は、事前あるいは事後にその理由につき連絡すること。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治過程、議会、官僚機構、利益団体、地域政策

<研究テーマ>政治過程における民間アクターの役割、議会における立法補佐機関の機能、政策形成における政策ネットワークの役割など

<主要研究業績>

"Institutional development of legislative supporting agencies (LSAs) from a perspective of difference between presidential and parliamentary systems,"

Asian Journal of Comparative Politics, 2022 (<https://journals.sagepub.com/doi/pdf/10.1177/20578911221138475>).

"The institutional development of Legislative Supporting Agencies (LSAs) focusing on the differences among parliamentary-system countries," *Parliaments, Estates and Representation*, 42(3), 2022, pp.324-340.

"A Study of the Functions of Political Appointees from a Comparative Perspective," *Asian Journal of Comparative Politics*, 7(1), 2022, pp.146-161.

『立法補佐機関の制度と機能－各国比較と日本の実証分析』晃洋書房、2013年。

**【Outline (in English)】**

Examining how think-tanks play a role in the political process, based on the understandings regarding the concept meanings and concrete structures of fundamental factors about public policy including policy process, political structure, politician-bureaucrats relationship, nation-society relationship.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Class contribution: 45%、Reports : 35%、Presentation: 20%

< Evaluation standards >

Class contribution: positiveness, analytical capability, critical capability

Reports and presentation: analytical capability, logicity, novelty, simplicity

LAW500P1 - 215 (法学 / law 500)

## 行政法研究

天本 哲史

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や公共団体の行政活動は社会の中で生きる私たちの市民生活の隅々にまで影響を及ぼします。この授業では、大学院における研究活動に役立つ法的規律の基本的な法理論を学習します。

### 【到達目標】

- ・行政法の基本的な法理論を理解する。
- ・行政活動の種類と法的統制を理解し、説明できる。
- ・行政法の理論を用いて、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は少人数での対面形式での実施を予定しています。受講生は指定された学習テーマや判例等について報告をし、それを基に全員で議論をしてもらいます。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 行政と行政法	この授業の進め方を説明します。 行政と行政法の概念を学習します。
第2回	行政法の法源 法律による行政の原理	行政法の法源とその種類を学習します。法律による行政の原理を学習します。
第3回	行政組織 行政立法	行政主体、行政組織を学習します。行政立法を学習します。
第4回	行政行為①	行政行為を学習します。
第5回	行政行為②	行政行為の行政裁量と附款、瑕疵を学習します。
第6回	行政強制	義務履行強制、即時強制、行政調査を学習します。
第7回	行政上の制裁	行政罰その他の制裁を学習します。
第8回	行政指導	行政指導を学習します。
第9回	行政計画 行政契約	行政計画、行政契約を学習します。
第10回	行政手続法	行政手続法を学習します。
第11回	行政不服審査法	行政不服審査法を学習します。
第12回	行政事件訴訟法	行政事件訴訟法を学習します。
第13回	国家賠償法	国家賠償法を学習します。
第14回	損失補償	損失補償を学習します。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

### 【参考書】

天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』（日本評論社、2019）  
 宇賀克也『判例で学ぶ行政法』（第一法規出版、2015）  
 大橋洋一ほか編『行政法判例集Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2018・2019）  
 齊藤誠＝山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、第8版、2023）

芝池義一ほか編『判例行政法入門』（有斐閣、第6版、2017）

中原茂樹『基本行政法判例演習』（日本評論社、2023）

山本隆司『判例から探求する行政法』（有斐閣、2012）

その他、授業内において適宜指定します。

### 【成績評価の方法と基準】

この授業は下記のように成績評価をします。  
レポート（50%）、平常点（50%）を総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政法

<研究テーマ> ①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)

<主要研究業績>天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』（日本評論社、2019）

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

There are various administrative activities, such as regulation and guidance. Students will learn the basic legal theory of legal discipline that is useful for research activities in graduate school.

(Learning Objectives)

・ Students understand the basic legal theory of administrative law.

・ Students can understand and explain the types of administrative activities and legal controls.

・ Students can consider social issues using the theory of administrative law.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50%, Reports : 36%, Usual performance score : 14%

GDR500P1 - 221 (ジェンダー / Gender 500)

ジェンダー政策研究

中野 洋恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ジェンダーの視点から政策について考察することを目的とする。1999年に男女共同参画社会基本法が施行されてから様々な分野でジェンダー政策が進められている。しかしGGGI（グローバルジェンダーギャップ指数）で比較すると日本の順位は100位以下が続いている。2022年7月に発表されたランキングは146ヶ国中116位である。政府が出している骨太方針でも男女の賃金格差の是正が課題となっている。また「異次元の少子化対策」も進められ、LGBTQなど多様性に関する議論も進んでいる。本講義では、現在の日本のジェンダー政策の現状と課題を把握し、その要因を分析した上で課題解決の方策についてディスカッションを行う。ディスカッションを通じて考えたことを振り返り、ジェンダー政策の理解を深めるとともに今後を展望する。

【到達目標】

- ・21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけられた男女共同参画社会を実現するための基本法である「男女共同参画基本法」と基本法に基づいて5年ごとに定められる「男女共同参画基本計画」について理解する。
- ・2020年12月に策定された「第5次男女共同参画基本計画」で強調されている視点、「あらゆる分野における女性の活躍」、「安全・安心な暮らしの実現」、「男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備」、「推進体制の整備・強化」について理解する。
- ・現在の政策を理解した上で、国際的な動向も踏まえディスカッションにおいて課題を把握し、今後必要とされる改善策を提案する。特に今年度は「多様性」困難な問題を抱える女性への支援に関する法律「異次元の少子化対策」「賃金格差」についても言及する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進める。課題ごとのレポートを提出する。提出されたレポートをもとにプレゼンテーションとディスカッションで理解を深める。レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的、進め方を説明する

第2回 国内外の男女共同参画に関する動向を理解する

○第2次世界大戦以降の国際社会の動き  
国連女性の地位委員会（CSW）、女子差別撤廃条約（CEDAW）  
国際婦人年（1975年）以降の世界女性会議 持続可能な開発目標（SDGs）世界経済フォーラムが発表するGGGIなどから国際社会の変遷を捉える。  
○国内の動向

1975年に総理府に設置された婦人問題企画推進本部、女子差別撤廃条約の批准、国内行動計画、雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、女性の職業生活における活躍推進に関する法律、政治分野における男女共同参画の推進に関する法律などから国内の変遷を捉える。

第3回 女共同参画基本法と男女共同参画基本計画①

1999年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、2020年12月に策定された第5次男女共同参画基本計画の12分野のうち一つの分野を選んで報告し議論する。

第4回 女共同参画基本法と男女共同参画基本計画②

1999年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、2020年12月に策定された第5次男女共同参画基本計画の12分野のうち一つの分野を選んで報告し議論する。勤続年数を重視しがちな年功序列的な処遇、長時間労働や転勤が当然というこれまでの男性中心の働き方を前提とする労働慣行（男性中心型労働慣行）について考える。

第5回 ワーク・ライフ・バランス 働き方改革①

また、いわゆる女性のM字カーブ問題等がまだに解決しない要因を考える。女性活躍推進法の改正によって、2022年から条件に該当する企業は「男女の賃金の差異」情報の公表が義務付けられることとなった。また、「年取の壁」を意識せず働くことができる環境づくりも進められている。このような動きの中で男女賃金格差問題を考える。

第6回 ワーク・ライフ・バランス 働き方改革②

女性も男性もワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するためにはどのような解決策があるのか、実態や政策を踏まえて議論する。2021年育児・介護休業法が改正され男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設された。現在政策的課題として関心が高まっている男性の育児休業についても検討する。

第7回	女性の活躍推進	003年、男女共同参画推進本部は「社会のあらゆる分野において2020年までに、指導的地位に占める女性の割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する(202030)」との目標を設定した。その後の動向を踏まえて、クォータ制やポジティブアクションについて議論する。	第14回 ジェンダーと政治	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。
第8回	女性に対する暴力①	重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。配偶者等からの暴力、ストーカーなどに加えて、最近ではデートDV、デートレイプドラッグ、JKビジネス、AV出演強要など問題が多様化している。こうした状況を踏まえ、暴力の根絶を図るための方策について議論する。		【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
第9回	女性に対する暴力②	重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。その予防と被害からの回復、暴力の根絶を葉えるためにはどうすべきかを考える。改正された刑法について説明し「性的同意」を考える。		【テキスト（教科書）】 毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。
第10回	教育・メディア①	男女共同参画を推進し多様な選択を可能にするために学校教育はどうすればいいのか、教育現場をジェンダーの視点で見たときの課題を捉える。理工系を選択する女子学生が少なく研究者、技術者の女性割合が少ない状況を踏まえ、女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成のための方策を考える。また学校現場の管理職の女性割合が少ない要因についても考える。		【参考書】 ・第5次男女共同参画基本計画 <a href="http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html">http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html</a> ・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて <a href="http://www.cao.go.jp/wlb/index.html">http://www.cao.go.jp/wlb/index.html</a> ・女性に対する暴力 若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材 <a href="http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html">http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html</a> NWEC実践研究第9号「ジェンダーに基づく暴力」 ・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト <a href="http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html">http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html</a> ・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html</a> ・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ） <a href="http://www.gender.go.jp/c-challenge/">http://www.gender.go.jp/c-challenge/</a> ・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進 <a href="http://www.jst.go.jp/diversity/index.html">http://www.jst.go.jp/diversity/index.html</a> ・初等中等教育における男女共同参画 国立女性教育会館 <a href="https://www.nwec.jp/research/hqtuvq000002ko2.html">https://www.nwec.jp/research/hqtuvq000002ko2.html</a>
第11回	教育・メディア②	その背景にあるアンコンシャスバイアスについても説明する。意識形成にメディアの与える影響は大きい。メディアの中で女性がどのように描かれているかについて広報媒体や映像を見ながら分析し、性別役割分担意識の解消のための広報・啓発のあり方について議論する。		【成績評価の方法と基準】 授業参加（ディスカッションでの発言）と課題ペーパーの提出（40%）レポート（60%）  【学生の意見等からの気づき】 多様な生活経験を持つ受講生がいるので、それぞれの経験を共有することによって、ディスカッションの充実を目指す。
第12回	新たな課題①－自然災害やコロナなどのリスクに対応するジェンダー政策	東日本大震災等の経験から、性別、年齢や障害の有無等社会的立場によって影響が異なることが明らかにされたことから女性と男性で災害から受ける影響に配慮し、ジェンダーの視点から防災復興体制を確立することが求められている。何が問題だったのかを踏まえ、解決の方策について議論する。		【担当教員の専門分野等】 ＜専門領域＞ジェンダー論 ＜研究テーマ＞ジェンダーと家族 ジェンダーと教育・学習 ＜主要研究業績＞ 『教育と学習』『男女共同参画データブック2015』男女共同参画統計研究会編 ぎょうせい 2015 『国際比較にみる再開の家族と子育て』（編著）ミネルヴァ書房 2010
第13回	新たな課題②－多様性に対応するジェンダー政策	選択的夫婦別姓や同性結婚、LGBTQをどのように考えるかが政策的な課題となっている。どのような政策的議論が進んでいるのか、どのような方向性を考えればいいのかを議論する。2023年に成立したLGBT理解増進法について説明する。		【Outline (in English)】 Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens. Course outline This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course. Learning Objectives The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena. Lecture/Exercise (two-credits) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading Criteria /Policies Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、in class contribution: 20%

POL500P1 - 222 (政治学 / Politics 500)

公共哲学研究

西谷内 博美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に1970年頃に環境主義が高揚しました。その環境主義についての理解を深めるための重要文献を講読します。

【到達目標】

・現在当然視されつつある環境主義の言説について、その展開、背景、論理などについて説明できる。  
 ・「持続可能な開発」の含意について、批判的（critical）に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講読対象の文献は『地球の未来を守るために』（1987）を予定しています。この図書は、目下世界的に取り組まれているSDGsが目指す「持続可能な開発」という概念を定義した国連の報告書『our common future』の和訳です。ただし、当図書は入手が困難なため、受講人数や受講者の意向によっては文献を変更する可能性があります。その場合の候補としてはローマクラブの『成長の限界』（1972）を想定しています。

以下の授業計画では、『地球の未来を守るために』を講読する場合の予定を記入しています。文献を変更する場合、授業計画は全く異なった進行になります。

原則として授業では、受講者がそれぞれ章ごとにレジュメを作成し、各授業ではその報告に基づいて文献の検討を行います。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入的講義	・授業の内容と進め方を共有する ・SDGsの二本柱となっている環境主義と南北問題の大きな流れを確認する ・テキストの「監修者はしがき」と「ブルントラント委員長の緒言」から当該報告書の背景・意義・成り立ちなどについて考察する
第2回	文献購読：『地球の未来を守るために』序章	『『地球は一つ』から『世界は一つ』へ』
第3回	文献購読：『地球の未来を守るために』第1章	「脅かされる未来」
第4回	文献購読：『地球の未来を守るために』第2章	「持続的な開発に向けて」
第5回	文献購読：『地球の未来を守るために』第3章～6章までのいずれかから2つの章	経済、人口、食糧安全保障、生態系

第6回	文献購読：『地球の未来を守るために』第7章～11章までのいずれかから2つの章	エネルギー、工業、都市問題、コモンズ、安全保障
第7回	文献購読：『地球の未来を守るために』第12章	「共同の行動に向けて——組織と法制度の変革に関する提案」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に精読してください。授業の後は、その内容について復習を行ってください。  
 文献の内容報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

the World Commission on Environment and Development, 1987, "Our Common Future" Oxford University Press (=1987, 大来佐武郎監訳『地球の未来を守るために』福武書店.)

【参考書】

Meadows, Donella H., Dennis L. Meadows, Jorgen Randers, and William W. Behrens III, 1972, "The Limits to growth: A report for the Club of Rome's Project on the Predicament of Mankind" New York: Universe Books. (=1972, 大来佐武郎監訳『成長の限界—ローマ・クラブ「人類の危機」レポート』ダイヤモンド社.)

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（30%）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにアクセス可能なデバイス

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、国際社会学、コミュニティ論  
 <研究テーマ>廃棄物管理、開発援助、アカデミック・ライティング  
 <主要研究業績>

2022「日本における大学ライティング教育の変遷」『東京電機大学総合文化研究』20：55-63

2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂。

2016『開発援助の介入論』東信堂。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course's objective is to improve students' ability to comprehend and discuss environmental public policy by critical reading of relevant original literature.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students should be able to :

- ・ explain the recent environmental policies in terms of their historical background, achievements, limitations, and so on.
- ・ take a critical look at the meaning of "sustainable development".

(Learning activities outside of classroom)

Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

MAN500P1 - 223 (経営学 / Management 500)

## イノベーション政策論

糸久 正人

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、1) 企業におけるイノベーションマネジメントと2) 国のイノベーション政策について学びます。イノベーションとは新結合による創造的破壊を意味し、経済発展の原動力となります。しかし、近年、グローバル化とIoT化を背景としてイノベーションをめぐる環境は大きく変容し、こうした変化に対応したマネジメントや政策が求められています。本授業では、こうした比較的新しいトピックスも踏まえつつ、イノベーションに関する理解を深めます。

### 【到達目標】

- ・イノベーションに対する理解
- ・企業におけるイノベーションマネジメントに関する理解
- ・国のイノベーション政策に関する理解
- ・企業や公共組織においてイノベーションを推進するための実践知

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業形式は、教員による講義と参加者全員のディスカッションをひとつのセットとして、各回に取り上げたテーマを多面的理解することを目指します。ディスカッションでは主体的な発言が求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は原則対面で実施する予定です。（都合によりオンラインで実施する場合があります）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	イノベーションとは？	イノベーションの定義、類型、課題について
第3回	製品アーキテクチャ論（1）	製品アーキテクチャ（インテグラル型、モジュラー型）の理解、企業におけるアーキテクチャの位置取り戦略、国の競争力
第4回	製品アーキテクチャ論（2）	製品アーキテクチャ（インテグラル型、モジュラー型）の理解、企業におけるアーキテクチャの位置取り戦略、国の競争力
第5回	ビジネスエコシステムとプラットフォーム戦略（1）	企業の枠を超えたビジネスエコシステム（ビジネスの生態系）という発想を理解し、価値獲得のためのプラットフォーム戦略について理解する
第6回	ビジネスエコシステムとプラットフォーム戦略（2）	企業の枠を超えたビジネスエコシステム（ビジネスの生態系）という発想を理解し、価値獲得のためのプラットフォーム戦略について理解する
第7回	ルール形成とイノベーション（1）	ルール形成の基本的意義とイノベーションの関係について理解する
第8回	ルール形成とイノベーション（2）	ルール形成の基本的意義とイノベーションの関係について理解する

第9回	イノベーションの実践（1）	イノベーション活動を実践する上での課題について考える
第10回	イノベーションの実践（2）	イノベーション活動を実践する上での課題について考える
第11回	つながる世界のイノベーション政策（1）	製品やサービスがつながる世界を想定し、具体的なイノベーション政策について理解する
第12回	つながる世界とイノベーション政策（2）	製品やサービスがつながる世界を想定し、具体的なイノベーション政策について理解する
第13回	中小企業政策とイノベーション（1）	中小企業政策の歴史を概観し、中小企業の活性化について考える
第14回	中小企業政策とイノベーション（2）	中小企業政策の歴史を概観し、中小企業の活性化について考える

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

議論に参加するために、予習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

### 【参考書】

授業内で指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

議論への参加：60%、期末レポート：40%

### 【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くの事例を取り上げたいと思います。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究  
自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究  
日本の生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』

糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Mischczynski, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文溥・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）「コア・テキスト生産管理」新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』



**【Outline (in English)】**

This lecture aims to provide you with a comprehensive understanding of innovation policy in terms of 1) innovation management at a firm level and 2) innovation policy at the national level. Innovation involves the concept of creative destruction through new combinations of technology, markets, processes, and more; therefore, it serves as an engine for economic growth. However, the landscape of innovation is rapidly changing due to globalization and the Internet of Things (IoT). It is essential for both management and policy to take these factors into consideration. Your overall grade in the class will be determined by the following: 1) in-class contribution (60%), 2) short reports (40%).

POL500P1 - 225 (政治学 / Politics 500)

## 外交政策論

宮本 悟

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の戦後外交史や領土問題、外交政策理論について学んだうえで、外交政策がどのようにして決定されるのかについて理解していく。重要なことは、国際社会や日本が直面している外交問題や領土問題について知識を深め、国際政治学における外交政策論を理解した上で、現実の外交政策を考察する際に応用できるようになることである。

### 【到達目標】

外交政策について、(1) 日本の外交政策の歴史的な経緯と現状の説明ができ、(2) 日本が置かれている領土や外交上の問題とその対処について理解を深め、(3) 実際の外交政策の決定過程について学んだうえで、その理論的な知識を実際の問題に応用できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

2024年度は対面を実施する予定である。戦後日本外交史と日本の領土については、全体的に理解していくことが目的であり、基本的には講義形式によって授業を進めていくが、教員側の一方的な講義ではなく、受講者と対話をしながら授業を進めることを重視する。質問があれば、講義の途中でも遠慮なく質問してかまわないし、教員側からも積極的に受講者に問いかける。

対外政策の選択については、受講者側の発表について教師も含めて討議しながら、理解を深めていく。従って、授業が充実したものになるかは、受講者側の積極的な参加にかかっている。受講者の発表に対するフィードバックは、その都度、授業内でコメントすることにする。重要なことは、領土や安全保障上の問題に対して、外交政策が必ずしも合理的に決定されるわけではないことを理解し、実際の外交政策を理解するための応用力をつけることである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後日本外交史 (1)	戦後日本外交史のあらましと占領期における日本とGHQの交渉について学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第2回	戦後日本外交史 (2)	戦後日本外交史について50年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第3回	戦後日本外交史 (3)	戦後日本外交史について60年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第4回	戦後日本外交史 (4)	戦後日本外交史について70年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。

第5回	戦後日本外交史 (5)	戦後日本外交史について80年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第6回	戦後日本外交史 (6)	戦後日本外交史について冷戦後を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第7回	戦後日本外交史 (7)	戦後日本外交史について全体像を議論する。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第8回	日本の領土 (1)	領土の概念や北方領土問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第9回	日本の領土 (2)	竹島問題と尖閣諸島問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第10回	対外政策の選択(1)	外交とは何かを学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第11回	対外政策の選択(2)	国内政治と対外政策の連関について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第12回	対外政策の選択(3)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第13回	対外政策の選択(4)	国際情勢についての認識と行動から戦争が勃発する原因について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第14回	対外政策の選択(5)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

『戦後日本外交史』第三版補訂版、五百旗頭真編、有斐閣、2014年、2,200円  
『日本の領土』 芹田健太郎、中央公論新社、2010年、755円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は授業でパワーポイントやレジュメで解説します。  
『国際政治学』 中西寛、石田淳、田所昌幸、有斐閣、2013年、3,520円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は最初の授業で配布する。

### 【参考書】

『新訂第5版 安全保障学入門』防衛大学校安全保障学研究会編、株式会社亜紀書房。  
『決定の本質—キューバ・ミサイル危機の分析』 グレアム T. アリソン(著)、宮里 政玄(訳)、中央公論新社、1977年。絶版。

### 【成績評価の方法と基準】

70%：平常点と、授業における発言内容の充実度  
30%：発表：「対外政策の選択」に関して、自分の研究にどのように応用できるのか最後の授業で一人一人発表してもらう。

### 【学生の意見等からの気づき】

過度な学生の負担はない授業内容にしています。受講者の発表は短い時間でかまいません。勤務後に授業に来られる方がおられたら、時間を考慮しますので、申し出てください。

### 【学生が準備すべき機器他】

対面授業では授業支援システムは使いません。オンライン授業ではZOOMを使います。

**【その他の重要事項】**

大学院の方針によって全てオンライン授業になる可能性があります。対面授業でも第8回の講義ではパワーポイントを使って説明します。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 国際政治学、比較政治学、政軍関係論、安全保障論

<研究テーマ> 東アジアの安全保障、経済制裁、北朝鮮研究

<主要研究業績>

「北朝鮮の世界観から見た世界の対立」川島真、鈴木絢女、小泉悠編著、池内恵監『ユーラシアの自画像「米中対立／新冷戦」論の死角』2023年、PHP研究所。

「日朝和解の困難」波多野澄雄編『国家間和解の揺らぎと深化：講和体制から深い和解へ』2022年、明石書店。

"North Korea's Foreign Policy: A Non-isolated Country with Expanding Relations" Takashi Inoguchi ed., The SAGE Handbook of Asian Foreign Policy, Dec. 2019, Sage Publishing.

「北朝鮮流の戦争方法-軍事思想と軍事力、テロ方針」川上高司編『新しい戦争』とは何か-方法と戦略-』2016年1月、ミネルヴァ書房。

「北朝鮮の軍事・国防政策」木宮正史編『朝鮮半島と東アジア』2015年6月、岩波書店。

『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか？ 政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』2013年10月、潮書房光人社。

**【Outline (in English)】**

The objectives of the class is to understand how foreign policy is decided, while leaning Japanese postwar diplomatic history, territorial issues and foreign policy theory. The important point is the applying foreign policy theory in considering real foreign policy, while deepening the knowledge of the territorial issues and diplomatic issues facing Japan and international society, understanding the foreign policy theory in international politics. The prior learning and review are need each 2 hours. The distribution of score is as follows: class participation remarks: 70%, presentation: 30%

SOC500P1 - 226 (社会学 / Sociology 500)

**国際環境政策の社会学**

島田 昭仁

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

主に、日本とドイツのエネルギーシフト政策の違いについて学ぶ。違いの要因を知るためにコミュニティや労働に対する考え方の違いを学ばなくてはならない。そしてドイツの政策、次に日本の政策、そしてEUとアジアの違いについて説明する。5Gを活用したスマートシティ等、今後のトピックについても扱う。

**【到達目標】**

エネルギーシフト政策を通して、ドイツと日本、及びEUとアジアのコミュニティの意識の違いについて理解できることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

対面式で行う。毎回、テキストと参考書に沿って進め、PPTで解説を行い、ディスカッションを行う。さらに授業でリアクションペーパーを配布し、その結果を授業にフィードバックする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに EUにおけるドイツとは	EUにおいて緑の党が果たした役割について…なぜ脱炭素なのか？
第2回	脱炭素と労働概念	労働と組合とコミュニティと自由の関り
第3回	独のE政策(福島の影響)	日独「エネルギー転換」比較分析 C1
第4回	独のE政策(草創期)	日独「エネルギー転換」比較分析 C2
第5回	独のE政策(討議主義)	日独「エネルギー転換」比較分析 C3
第6回	独のE政策(核エネルギー)	日独「エネルギー転換」比較分析 C4
第7回	独のE政策(政策の結末)	日独「エネルギー転換」比較分析 C5,6
第8回	独日E政策比較(電力供給)	市民電力とは何か…フィールドワークあり
第9回	独日E政策比較(建築)	ZEB、ZEH…ゼロエネルギーとは
第10回	国際E政策(運輸交通)	運輸・航空業界における実態
第11回	国際E政策(都市計画)	スマートシティと5Gで、都市はどうなる？
第12回	EU政策分析(資本主義経済とピグー税)	環境税とは何か 経済学におけるピグー税の適用限界
第13回	EU政策分析(世界戦略としての炭素税)	なぜ炭素排出税はあって森林破壊税はないのか
第14回	まとめ 独日、EUとアジアはなぜちがう	労働とコミュニティの考え方の違いについてディスカッション

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

以下のテキストは授業内で配布します（購入する必要はありません）。  
・『日独「エネルギー転換」の比較分析』2019, 壽福

**【参考書】**

以下の参考書は授業内で配布します（購入する必要はありません）。  
・『資料で見るドイツ「エネルギー転換」の歩み』2019, 壽福  
・『ゼックプロジェクト調査・研究報告書』2019, 谷口・島田

**【成績評価の方法と基準】**

- ①期末試験期間内に提出するレポート課題によって評価する。
- ②課題は第14回の授業内で示す。自分の意見を論文形式で記述する。
- ③評価基準は課題把握の的確さ(30%)、論理一貫性(30%)、論拠の正当性(30%)、誠実性(10%)とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

大事なことは何度も繰り返して説明する。

**【学生が準備すべき機器他】**

状況によってはZoom環境(端末、Wifi)が必要となる。

**【その他の重要事項】**

国や自治体の政策に25年間関わった教員が、関連法規や施策の解説を行う。

**【担当教員の専門分野等】**

- <専門領域>都市計画
- <研究テーマ>住民の合意形成
- <主要研究業績>『住民主権の都市計画』自治体研究社,2019

**【Outline (in English)】**

Learn about the difference between Japan and German energy shift policy mainly. The goal is to have knowledge of the difference in way of the community and the labor. Students will be expected to read the text book and prepare reporting for the next. Your overall grade in this class will be decided based on in class contribution 50% and qualities of reports.

POL500P1 - 229 (政治学 / Politics 500)

比較公共政策論

桐谷 仁

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、欧米を中心とする主要OECD諸国という一見類似した国々を対象にして、比較の観点から、広義の政治体制の相違が、政策結果や経済実績の各国間の差異にどのように影響を与えているのかという問題を学びます。これによって、これまでの先行研究等の理解が深まり、公共政策への視野が広がります。

【到達目標】

前述の概要と目的に従って、本授業では、比較分析モデルの理論的な側面と経験的側面の両面での認識を深めることが到達目標です。

ひとつは、政治体制(political regime)の概念をめぐる種々の先行研究についての認識が深まります。もうひとつは、そうした政治体制と政策結果や経済実績との関係をめぐる先行研究について比較の観点からの理解が広がること、この二つが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

・毎回、受講者による報告と、教員による説明・解説と、その後の質疑応答や討論という進め方をします。とくに授業内での報告に基づいた討論を方法として重視します。

・期末までに、1回大きな課題でのレポートを作成してもらい、それについてコメントをするというフィードバックの方法を実施する予定です。

・原則対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論（導入）	政治体制と政策結果・経済実績との関係についての比較政治分析に向けての本授業の概要
第2回	比較政治体制論（1）	比較分析のための準拠枠組としての政治体制概念とその展開についての概要
第3回	比較政治体制論（2）	政治体制の諸類型：多元主義論/コーポラティズム論/「資本主義の多様性論」などについての解説
第4回	政策レジーム（1）	政策の立案と執行・実施をめぐる種々の議論の展開（政策フィードバック論等）についての概説
第5回	政策レジーム（2）	政府能力：政府の抽出能力・転換能力・執行能力についての考察
第6回	政治制度（1）	ウェストミンスターモデルとコンセンサスモデルの比較と考察
第7回	政治制度（2）	議会－執行府関係/政権形態/政権構成、および選挙制度についての概要
第8回	政策・経済実績（1）	所得政策とインフレ・賃金問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察

第9回	政策・経済実績（2）	所得格差と所得再分配の問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第10回	政策・経済実績（3）	雇用規制と失業・就労問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第11回	政策・経済実績（4）	労働市場政策と技能形成の問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第12回	政策・経済実績（5）	福祉国家ならびに比較福祉レジーム論についての先行研究の整理と課題についての考察
第13回	政策・経済実績（6）	財政・金融政策と経済成長（中央銀行の独立性の問題を含む）政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第14回	総括（まとめと解説）	主要OECD諸国の政治体制および政策結果・経済実績の多様性をめぐる議論の課題と展望を議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、①新川敏光・宮本太郎・眞柄秀子『比較政治経済学』（有斐閣）、②田中拓道・近藤正基・矢内勇生・上川龍之進『政治経済学』（有斐閣）③建林正彦・曾我謙吾・待鳥聡史『比較政治制度論』（有斐閣）の三冊は事前に読了しておくことが望ましいと考えています。また、できれば④田中拓道『福祉政治史』（勁草書房）にも事前に目を通していただければ幸いです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書としては、前述の

・新川敏光・宮本太郎・眞柄秀子『比較政治経済学』（有斐閣）  
 ・田中拓道・近藤正基・矢内勇生・上川龍之進『政治経済学』（有斐閣）の二冊を挙げておきます。この二冊は、毎回の授業で該当箇所を提示します。

また、随時、文献・資料等は提示します。

【参考書】

特定の参考書としては、前述の

・建林正彦・曾我謙吾・待鳥聡史『比較政治制度論』（有斐閣）  
 ・田中拓道『福祉政治史』（勁草書房）の二冊を挙げておきます。  
 ・また随時、文献・資料等は提示します。

【成績評価の方法と基準】

出席30%、授業中の討論等への参加と小テスト20%、レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

開講時に、受講生の要望等を考慮する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

政治学、比較政治学、比較政治経済学

<研究テーマ>

比較政治体制論/比較コーポラティズム体制論/国家論。

政治体制と政策・経済実績との関係についての比較政治学的研究

<主要研究業績>

<論文>桐谷仁「政策協調から社会協定へ：コーポラティズムの新たな展開？」(1)(2)(3)(4)(5)『法政研究』(静岡大学)第22・23・24巻2018・19・20年。

<論文>桐谷仁「社会コーポラティズムから政策協調へ」『法政研究』(静岡大学)第19巻2014年。

桐谷仁「コーポラティズム論から『資本主義の多様性論』へ？」『慶應義塾大学-

150周年記念法学部論文集』(慶應義塾大学出版会)2008年。

桐谷仁「OECD諸国の所得格差と政治-制度編成との関係についての比較分析」『法政研究』(静岡大学)第10巻、2005年。

桐谷仁「先進諸国における制度の補完性と調整行為」『法政研究』(静岡大学)第9巻2004年。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this class is to study the causal relationships between political institutional factors and public policy outcomes or economic performance from comparative political perspectives. The class will begin with reviewing the relevant literature and then argue about the theoretical accounts.

First, we shed light on the elements of political institutional arrangements such as interest organizational configurations, electoral systems, party systems, and parliament government linkages.

Second, we pick up some of public policy areas (ex., industrial policies, financial policies, welfare policies and so on) and compare the differences of economic performance among the main OECD countries, 1960-2015.

Third, the impacts of the above political institutional variable on these policy outcomes and economic performance are examined and assessed by using various quantitative and qualitative methodologies.

Finally, the class will discuss about the comparative methods for explaining political dimensions of the economic-policy results.

The aim of this course is to help students acquire A. After each class meeting, students will be expected to understand the relevant chapters from the texts.

Final grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (50%), Short report(20%), and in-class contribution(30%).

SOS600P1 - 501 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 A

杉崎 和久

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程1年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

### 【到達目標】

各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程1年目の課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを発見すること、(2) その研究テーマを追求できる適切な理論枠組や方法を習得すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解すること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、1年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1.2回	オリエンテーション	最初に当たって、大学院でのコースワークを経ながら自分固有の研究を論文として著していくことのイメージをつかむ。
第3.4回	関心のある研究テーマ案の検討	関心のあるテーマを発表する。
第5.6回	図書館を利用した資料探索	図書館の利用の仕方、オンラインデータベースの利用の仕方の基礎を学ぶ。
第7.8回	論文構成の技法 その1 基礎編	論文の構成の仕方の基礎を指導する。
第9.10回	論文構成の技法 その2 発展編	し、かつ構成のすっきりした良質な学術論文を選定し、これを実際に講読することを通じて、論文の構成の仕方を学ぶ。
第 11.12回	既往研究リストの作成	関心のあるテーマに関する既往研究リストを作成する。
第 13.14回	研究計画の確認	研究の進捗状況を発表し、夏季休暇期間の研究計画を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取り組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した4つの項目に沿って、具体的にこなしておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

#### 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

#### 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%) ,and reports (40%) .

SOS600P1 - 502 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 B

杉崎 和久

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程1年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

### 【到達目標】

各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程1年目の課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを発見すること、(2) その研究テーマを追求できる適切な理論枠組や方法を習得すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解すること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、1年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1.2回	研究進捗状況の報告	夏季休暇期間中の研究活動の進捗状況を発表する。
第3.4回	研究スケジュールの検討	1年半後の論文提出に向けたスケジュールを確認する。
第5.6回	研究テーマの精査	研究テーマ・論点の絞込みを行う、
第7.8回	目次案の作成	論文全体の構成を検討する。
第9.10回	調査企画の検討	調査等の作業内容を検討する。
第11.12回	研究スケジュールの確認	論文執筆までのスケジュール（特に春季休暇期間の研究活動予定）を検討する
第13.14回	中間発表に向けた準備	中間発表の発表内容を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取り組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した4つの項目に沿って、具体的にこなしておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

#### 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

#### 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%) ,and reports (40%) .



SOS600P1 - 501 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 A

土山 希美枝

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士過程1年生にむけた、論文作成のための起点となる科目。自身の研究テーマを明確にし、修士論文としての構想を練ることをめざす。また、修士論文作成のために必要な資料や文献をどのように収集し読解していくか、どのようにテーマを章立てていくかというリテラシーも学ぶ。

### 【到達目標】

この講義の到達目標は以下である。

- ・修士論文のテーマを明確にする
- ・修士論文の作成に必要な、情報、資料また文献の検索、収集の技法を学ぶ
- ・修士論文の作成に必要な、情報、資料また文献の読解をすすめる
- ・修士論文の章節構成を検討する
- ・秋学期以降の研究計画をたてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講生との面談を通じて、テーマの明確化、技法の習得、修論の章節構成の作成を指導していく。報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義の目標や進めかたについて確認する
第2回	テーマを検討する	修士論文のテーマと想定している内容について報告をうけ、議論する
第3回	情報検索を学ぶ	テーマをめぐる情報を検索する方法を学ぶ
第4回	文献検索を学ぶ	テーマをめぐる文献、資料を検索する方法を学ぶ
第5回	テーマを仮定する	修士論文のテーマを仮定したものを報告し、その内容について議論する
第6回	テーマを具体化する	修士論文のテーマをより具体化するために、報告を受け、議論する
第7回	テーマをめぐる情報を整理する	修士論文のテーマをめぐる収集した情報を整理し、報告する
第8回	テーマをめぐる事実を確認する	修士論文のテーマをめぐる、経緯や状況などを整理し、報告する
第9回	テーマを明確にする	それまでの蓄積をふまえて、修士論文のテーマを明確にする
第10回	テーマについて議論する	修士論文のテーマをめぐる、論の展開などの方向性を議論する
第11回	論文作成の技法の基礎を学ぶ	注のつけかた、参考文献の引用のしかたを学ぶ
第12回	論文作成の技法の基礎を習得する	注のつけかた、参考文献の引用の仕方習得する

第13回 修士論文の構成を検討する 修士論文のテーマに即し、論文の章・節構成を仮定する

第14回 修士論文の作成に向けて 夏季休暇中の目標を設定する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐる、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

### 【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

### 【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、  
当日報告と説明 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉 社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

### 【Outline (in English)】

This lecture is designed for first-year students in master course to start writing their thesis. Students aim to clarify their research topic and develop a concept for their master's thesis. They also learn writing techniques, such as how to collect and read the materials and literature necessary for writing a master's thesis and how to formulate chapters.

Learning Objectives;

- Clarify the topic of the master's thesis.

- Learn the techniques of searching and collecting information, documents and literature necessary for writing a master's thesis.

- To read and understand the information, documents and literature necessary for the preparation of a master's thesis

- Review the chapter and section structure of the master's thesis

- Research plans for the autumn term and beyond

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS600P1 - 502 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 B

土山 希美枝

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文研究指導 1 A から続く、修士論文作成のための科目。明確になったテーマについて、先行研究の調査、論文で示す事実 (fact) の収集、整理、分析をすすめ、論文作成をより具体的なものとする。

### 【到達目標】

この講義の獲得目標は以下である。

- ・明確になったテーマを章節構成に反映させていく
- ・論文で示すための情報、資料の収集、整理、分析
- ・先行研究の収集と整理
- ・テーマについてのより深い考察
- ・春季休暇と次年度の研究計画の策定

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講生との面談を通じて、テーマの明確化、技法の習得、修論の章節構成の作成を指導していく。報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	報告	夏季休暇中の研究活動を報告する
第2回	論文構成の検討	章、節構成を検討する
第3回	研究テーマを深く考察する	研究テーマについての意見交換
第4回	研究テーマの論点を整理する	研究テーマについての意見交換をふまえて、今後検討すべき論点を整理する
第5回	研究計画の更新	これまでの検討をふまえ、研究計画を更新する
第6回	先行研究の報告	先行研究について報告する
第7回	先行研究の検討	先行研究の論旨について検討する
第8回	研究テーマをめぐる事実 (fact) の整理	研究テーマの現状を示す事実 (fact) を検討する
第9回	研究テーマをめぐる事実 (fact) の分析	研究テーマの経緯を示す事実 (fact) を検討する
第10回	研究テーマをめぐる国内事例を検討する	研究テーマにかんする事例を検討する
第11回	研究テーマの論点の一部を検討する	研究テーマの論点のいくつかを検討する
第12回	研究テーマの論点の一部を検討する	研究テーマの論点のいくつかを検討する
第13回	論文構成の確認	論文の章節構成を確認し、更新する
第14回	春季休暇、次年度にむけての研究計画の作成	春季休暇、次年度にむけて、研究計画を検討し作成する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

### 【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

### 【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、  
当日の報告、説明 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聞いた。

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

### 【Outline (in English)】

This lecture is designed for first-year students in master course to start writing their thesis. Students aim to clarify their research topic and develop a concept for their master's thesis. They also learn writing techniques, such as how to collect and read the materials and literature necessary for writing a master's thesis and how to formulate chapters.

Learning Objectives;

- Clarify the topic of the master's thesis.

- Learn the techniques of searching and collecting information, documents and literature necessary for writing a master's thesis.

- To read and understand the information, documents and literature necessary for the preparation of a master's thesis

- Review the chapter and section structure of the master's thesis

- Research plans for the autumn term and beyond

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS600P1 - 501 (その他の社会科学 / Social science 600)

論文研究指導 1 A

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程1年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】

各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程1年目の課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを発見すること、(2) その研究テーマを追究できる適切な理論枠組や方法を習得すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解すること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローする時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、どんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

原則として対面により行うことを考えている。また、授業で報告をしてもらった場合には、原則としてその場で、場合によっては次回に、コメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	一個の研究を作り上げていく心構え	最初に当たって、大学院でのコースワークを経ながら自分固有の研究を論文として著していくことのイメージをつかむ。
第2回	図書館を利用した資料探索 その1 基本編	図書館の利用の仕方、オンラインデータベースの利用の仕方の基礎を学ぶ。
第3回	図書館を利用した資料探索 その2 発展編	図書館の閉架部分を見ながらどんな資料があるかを実感すること、それから、オンラインデータベースの様々な使い方を知ること。
第4回	研究企画の立案	さしあたりこの時点で持っている研究テーマ、仮説、それを追究する具体的な方法、理論枠組、先行研究、などをフォーマットに記載してもらい、これに基づいて指導を行なう。
第5回	論文構成の技法 その1 基礎編	論文の構成の仕方の基礎を指導する。
第6回	論文構成の技法 その2 発展編	院生の研究関心にも合致し、かつ構成のすっきりした良質な学術論文を選定し、これを実際に講読することを通じて、論文の構成の仕方を学ぶ。

第7回	論文構成の技法 その3 レジュメの作り方	大学院の授業では、レジュメを作成して発表するという機会が多くあるだろう。論文の構成を読み解き、簡略で分かりやすいレジュメを作成して通じて、論文の構成の仕方を学ぶと同時に、レジュメの上手な作り方をも習得できるようにしたい。
第8回	フィールド調査の基礎	論文を作成していく上で、様々な形で外に出て人の話を聞いたり資料の提供をお願いしたりする場面があるだろう。このようなフィールド調査の基礎について指導する。
第9回	研究企画の推進	第4回の研究企画の立案でさしあたり取組むこととした方向に従った結果を報告してもらい、研究の進め方について指導する。
第10回	先行研究のフォロー	論文では先行研究をきちんとフォローしてあることが大事である。先行研究の見つけ方、整理の仕方について、具体的に指導する。
第11回	先行研究の整理	それぞれの院生がさしあたり設定している研究企画に沿って、できる範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行なう。
第12回	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの院生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える。
第13回	論文の理論枠組の設定	理論枠組とは、社会認識上の大理論だけではなく、それぞれの研究の基本的な枠組をも含めて考えている。さしあたり設定している研究企画に沿って、どんな枠組によって説得的な論文を書こうとしているかを報告してもらい、指導を行なう。
第14回	論文の基本ルール	論文を書くことへの意欲が高まった時期を捉えて、論文の形式上のスタイル、例えば、注の付け方とか文献表の作り方、更には学会誌への投稿の際の様々なルールなどについて、一通りの指導を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した4つの項目に沿って、具体的にこなしておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

「授業の到達目標」欄に記した4つの項目を果たしてまたどの程度身につけたかを評価基準とする（各項目25%ずつ）。

【学生の意見等からの気づき】

該当せず。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>コミュニティ政策論  
<研究テーマ>都市内分権（特に日本とドイツ）、自治会・町内会の研究  
<主要研究業績>  
編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』日本評論社、2018年、257～287頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性 —宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第118巻第3号、2020年、1～88頁。

単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望 ～高松市を素材として～」『法学志林』第119巻第2号、2021年、57～104頁。

**【Outline (in English)】**

This is part of the research-training program for master course 1st semester students working in the area of public policy studies. The workshop's principal objective is to foster intellectual exchange by showcasing work from leading and emerging scholars. The workshop will provide a forum in which research students can present their work, discuss the theoretical and methodological problems involved, discuss common challenges in conducting research in this area and obtain feedback on their work. Every student must give a report of his/her own research at least once a semester. Throughout the semester he/she must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' own research theme and the adequate theoretical framework for it as well as to learn how to construct an academic research paper and how to collect necessary materials, which are also the grading criteria.

SOS600P1 - 502 (その他の社会科学 / Social science 600)

論文研究指導 1 B

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程1年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】

各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程1年目の課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意をもって取組める研究テーマを発見すること、(2) その研究テーマを追究できる適切な理論枠組や方法を習得すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解すること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、どんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

原則として対面により行うことを考えている。

原則として対面により行うことを考えている。また、授業で報告をしてもらった場合には、原則としてその場で、場合によっては次回に、コメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの本格的設定	修士課程でまとめようとしている論文の基本的なテーマを設定する。もちろんあとで変更可能であるし、研究の進展によって微修正していくものであることを前提とする。
第2回	研究テーマに即した具体的な研究スケジュールについての検討	前回を受けて、今後ほぼ1年半で論文を書き上げていくことを目標に、どんな内容の研究をどんなペースで進めていくかを確認する。
第3回	研究の現状の整理	設定した研究テーマについて、現在の学界や実務界での認識の現状がどのようになっているか、先行研究はどんな状態か、を整理してもらい、指導を行なう。
第4回	主要な先行研究の検討	研究テーマにとってベーシックな意義を有する著書や論文を取り上げ、その内容を報告してもらう。
第5回	主要な資料の検討	研究テーマにとってベーシックな意義を有する資料を取り上げ、その内容を報告してもらう。
第6回	研究推進上の悩みの解決	現時点で抱えている研究上の悩みを話してもらい、解決の方策を相談する。

第7回	論文の理論的筋道の整理	ベーシックな情報が得られた段階で、あくまで暫定的なものではあるが、論文の全体を貫く仮説となる理論枠組を考えてもらい、指導を行なう。
第8回	論文の目次	あくまで暫定的なものだが、論文の目次を作成してみることで、研究テーマに関する認識を整理し深める。
第9回	論文の一部を書いてみる	はしがきでもどれか一つの章でもかまわないが、論文の一部を書いてみる。実際に一定の長さの文章を書くことは多くの人にとってハードルが高い。その経験をこの段階でもしてもらうためのものである。
第10回	文章の推敲 基礎編 その1	書いてみた論文の一部について、論理構成（起承転結）、論理的整合性、ていをは、表現、言葉遣いなどについて細かく指導する。まず、その1として、総括的な指摘を行ない、課題を明確にする。
第11回	文章の推敲 完成編 その2	書いてもらっている論文の一部を素材に、学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるようにする。
第12回	英文サマリーの作り方 基礎編 その1	学会誌への投稿などに際して、英文サマリーの作成を求められることが多い。年度の最後にこの練習をしておく。まず基礎的な事項を指導し、英作文をしてもらう。
第13回	英文サマリーの作り方 実践編 その2	なれない外国語で自分の考えていることの細かいニュアンスを伝えるのは難しいことである。自らの語学力の範囲でそれをどう工夫したらいいかを考えていく。
第14回	英文サマリーの作り方 完成編 その3	自らの研究テーマに即して一応の英文サマリーを完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取り組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した4つの項目に沿って、具体的にこなしておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

「授業の到達目標」欄に記した4つの項目を果たしてまたどの程度身につけたかを評価基準とする（各項目25%ずつ）。

【学生の意見等からの気づき】

該当せず。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > コミュニティ政策論  
 < 研究テーマ > 都市内分権(特に日本とドイツ)、自治会・町内会の研究  
 < 主要研究業績 >  
 編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）  
 単著論文「プレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』日本評論社、2018年、257~287頁。  
 単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性——宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第118巻第3号、2020年、1~88頁。

単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望 ～高松市を素材として～」『法学志林』第119巻第2号、2021年、57～104頁。

**【Outline (in English)】**

This is part of the research-training program for master course 2nd semester students working in the area of public policy studies. The workshop's principal objective is to foster intellectual exchange by showcasing work from leading and emerging scholars. The workshop will provide a forum in which research students can present their work, discuss the theoretical and methodological problems involved, discuss common challenges in conducting research in this area and obtain feedback on their work. Every student must give a report of his/her own research at least once a semester. Throughout the semester he/she must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' own research theme and the adequate theoretical framework for it as well as to learn how to construct an academic research paper and how to collect necessary materials, which are also the grading criteria.

SOS600P1 - 501 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 A

林 嶺那

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

### 【到達目標】

論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。 <b>Public Service Motivation</b> に関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学

<研究テーマ> 人事行政

<主要研究業績> 林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】

This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS600P1 - 502 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 B

林 嶺那

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

### 【到達目標】

論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。 <b>Public Service Motivation</b> に関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学

<研究テーマ> 人事行政

<主要研究業績> 林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】

This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.



SOS600P1 - 501 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 A

廣瀬 克哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程2年目の院生を対象に、修士論文の執筆を着実に進めるための指導を行うものである。

### 【到達目標】

院生は、1年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスション（問い）を明確にしなが、引き続き（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、リライトされたリサーチ・プロポーザルを共有する。
第2回	研究スケジュールの確認	今後の研究に向けたスケジュールを設定し、共有する。
第3回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第4回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第5回	研究倫理の理解	研究を遂行する上で留意すべき研究倫理について演習形式で学ぶ。
第6回	論文の部分的な試作	暫定的に設定された目次に従い、そのうちの1章について執筆を試みる。
第7回	文章の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第8回	概要（要旨）の作成	草稿の執筆に先立ち、現時点における構想を元に、1,000文字程度で修士論文の概要を表すことを試みる。
第9回	概要（要旨）の推敲	各自が執筆した概要を報告し、相互に検討しながら推敲する。
第10回	英文サマリー作成の基礎	英文サマリーの作成に関する基本的事項を学ぶ。
第11回	英文サマリーの執筆	各自の修士論文の概要を英文で執筆する。英文サマリーの推敲
第12回	英文サマリーの推敲	各自が執筆した英文サマリーを報告し、相互に検討しながら推敲する。

第13回 リサーチ・プロポーザルの報告 各自の研究の進捗に基づき、リライトしたリサーチ・プロポーザルについて、相互に批判的な検討を加える。

第14回 研究課題の明確化 修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料共有のため、Google Classroomを利用できる環境。オンラインでおこなう場合にはZoomに参加できる情報機器や通信手段。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、公共政策学

<研究テーマ> 二元代表制の理念と実態

<主要研究業績>

編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018年）

編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009年～2016年）

### 【Outline (in English)】

(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.

(Learning Objectives) To be ready to start writing master's thesis.

(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.

(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 - 502 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 B

廣瀬 克哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程2年目の院生を対象に、修士論文の執筆を完成させるための指導を行うものである。

### 【到達目標】

院生は、1年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確にしながら、引き続き（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深め、修士論文を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、提出までのスケジュールを確認する。
第2回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第3回	主要な資料の報告	論文を作成する上で最も重要な資料について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第4回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第5回	論文の目次の確認	現時点における論文の構成について報告する。
第6回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第7回	第1稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第8回	第1稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第9回	第2稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第10回	第2稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第11回	要旨の推敲	修士論文の要旨を推敲する。
第12回	進捗の確認	修士論文の提出に向けた事務的な諸注意を行う。
第13回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第14回	論点に関する質疑	口述試験のための準備として、重要な論点について質疑を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。

オンラインでおこなう場合にはZoomに参加できる情報機器や通信手段。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、公共政策学

<研究テーマ> 二元代表制の理念と実態

<主要研究業績>

編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版社、2018年）

編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009年～2016年）

### 【Outline (in English)】

(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.

(Learning Objectives) To be ready to complete master's thesis. (Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.

(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 - 501 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 A

天本 哲史

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、修士論文を作成するための研究指導を行います。

### 【到達目標】

- ・学習や研究に資する知識を修得する。
- ・情報の検索、文献の読解、報告の作成、発表をできる。
- ・現実の社会的問題に対する新しい解決策を提言できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式で実施します。院生による研究報告と教員とのディスカッションをします。授業中に提示した課題等に対するフィードバックは、随時あるいは次の回で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション
第2回	学術論文の作法①	学術論文について解説をします。
第3回	学術論文の作法②	学術論文についてディスカッションをします。
第4回	研究の方法①	研究課題の方法を解説します。
第5回	研究の方法②	研究の方法についてディスカッションをします。
第6回	研究課題の発見①	研究課題の発見の方法等を解説します。
第7回	研究課題の発見②	研究課題についてディスカッションをします。
第8回	研究課題の発見③	研究課題についてディスカッションをします。
第9回	研究課題の発見④	研究課題の内容を報告してもらいます。
第10回	研究計画①	研究計画の作成方法を解説します。
第11回	研究計画②	研究計画の内容を報告してもらいます。
第12回	先行研究の検討①	先行研究の検索方法を解説します。
第13回	先行研究の検討②	先行研究の内容を報告してもらいます。
第14回	研究成果の報告	当時点における研究成果を報告してもらいます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出します。この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

### 【参考書】

特に指定しません。

### 【成績評価の方法と基準】

この授業は下記のように成績評価をします。  
レポート（50%）、平常点（50%）を総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

### 【その他の重要事項】

特にありません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政法

<研究テーマ> ①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)

<主要研究業績>天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』（日本評論社、2019）

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students will acquire knowledge that contributes to research.
- ・ Students can search for information, read literature, write reports, and make presentations.
- ・ Students can propose new solutions to social problems.

#### 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

SOS600P1 - 502 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 B

天本 哲史

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、修士論文を作成するための研究指導を行います。

### 【到達目標】

- ・学習や研究に資する知識を修得する。
- ・情報の検索、文献の読解、報告の作成、発表をできる。
- ・現実の社会的問題に対する新しい解決策を提言できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式で実施します。院生による研究報告と教員とのディスカッションをします。授業中に提示した課題等に対するフィードバックは、随時あるいは次の回で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション
第2回	研究指導①	院生による発表とディスカッション
第3回	研究指導②	院生による発表とディスカッション
第4回	研究指導③	院生による発表とディスカッション
第5回	研究指導④	院生による発表とディスカッション
第6回	研究指導⑤	院生による発表とディスカッション
第7回	研究指導⑥	院生による発表とディスカッション
第8回	研究指導⑦	院生による発表とディスカッション
第9回	研究指導⑧	院生による発表とディスカッション
第10回	研究指導⑨	院生による発表とディスカッション
第11回	研究指導⑩	院生による発表とディスカッション
第12回	研究指導⑪	院生による発表とディスカッション
第13回	研究指導⑫	院生による発表とディスカッション
第14回	研究報告	院生による発表とディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出します。この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

### 【参考書】

特に指定しません。

### 【成績評価の方法と基準】

この授業は下記のように成績評価をします。

レポート（50%）、平常点（50%）を総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

### 【その他の重要事項】

特にありません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政法

<研究テーマ> ①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)

<主要研究業績>天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』（日本評論社、2019）

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students will acquire knowledge that contributes to research.
- ・ Students can search for information, read literature, write reports, and make presentations.
- ・ Students can propose new solutions to social problems.

#### 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

SOS600P1 - 501 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 A

糸久 正人

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。主な対象は「イノベーション政策」になります。

### 【到達目標】

修士論文または政策研究論文を完成させ、修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。受講生は与えられた課題を準備して臨み、積極的にディスカッションに参加してください。また、他の受講生の発表に対するコメントも求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方の確認
第2回	演習	院生の報告と討論
第3回	演習	院生の報告と討論
第4回	演習	院生の報告と討論
第5回	演習	院生の報告と討論
第6回	演習	院生の報告と討論
第7回	演習	院生の報告と討論
第8回	演習	院生の報告と討論
第9回	演習	院生の報告と討論
第10回	演習	院生の報告と討論
第11回	演習	院生の報告と討論
第12回	演習	院生の報告と討論
第13回	演習	院生の報告と討論
第14回	演習	院生の報告と討論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて指示する。

### 【参考書】

研究テーマに応じて指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、研究報告50%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究

自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』

糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczyński, M., and Itohisa, M. (2019) "Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes," *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) "Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach," *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互惠性の達成」『研究技術計画』

### 【Outline (in English)】

This lecture aims to guide you on writing a master's thesis and research policy paper tailored to your specific interests, particularly focusing on innovation policy. Your overall grade in the class will be determined based on the following criteria: 1) In-class contributions (50%), and 2) Short reports (50%).

SOS600P1 - 502 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 B

糸久 正人

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行う。主な対象はイノベーション政策になります。

### 【到達目標】

修士論文または政策研究論文を完成させ、修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。受講生は与えられた課題を準備して臨み、積極的にディスカッションに参加してください。また、他の受講生の発表に対するコメントも求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方の確認
第2回	演習	院生の報告と討論
第3回	演習	院生の報告と討論
第4回	演習	院生の報告と討論
第5回	演習	院生の報告と討論
第6回	演習	院生の報告と討論
第7回	演習	院生の報告と討論
第8回	演習	院生の報告と討論
第9回	演習	院生の報告と討論
第10回	演習	院生の報告と討論
第11回	演習	院生の報告と討論
第12回	演習	院生の報告と討論
第13回	演習	院生の報告と討論
第14回	演習	院生の報告と討論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて指示する。

### 【参考書】

研究テーマに応じて指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、研究報告50%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究

自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』

糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczyński, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互惠性の達成」『研究技術計画』

### 【Outline (in English)】

This lecture aims to guide you on writing a master’s thesis and research policy paper tailored to your interests, with a primary focus on innovation policy. Your overall grade in the class will be determined based on the following criteria: 1) In-class contribution (50%), and 2) Short reports (50%).

SOS600P1 - 501 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 A

加藤 寛之

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として〔論文研究指導1A・1B〕と〔論文研究指導2A・2B〕は存在する。これらは、企業論領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。(いずれも、1は1年次、2は2年次に対応する。)

各人の問題関心を大切に、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

### 【到達目標】

アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせることを促進する。原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左・ディスカッション
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左・ディスカッション
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左・ディスカッション
4回	論文構成の基礎的技法	同左・ディスカッション
5回	論文構成の応用的技法	同左・ディスカッション
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左・ディスカッション
7回	研究テーマ企画の立案	同左・ディスカッション
8回	研究テーマ企画の修正	同左・ディスカッション
9回	先行研究の検討	同左・ディスカッション
10回	先行研究の整理	同左・ディスカッション
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左・ディスカッション
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左・ディスカッション
13回	論文の研究対象の確認	同左・ディスカッション
14回	論文の構成の確認	同左・ディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

### 【テキスト（教科書）】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

### 【参考書】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

課題の提出50と講義での参加意欲50

### 【学生の意見等からの気づき】

社会人学生が多く、自社の状況を反映した意見交換が活発です。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>地域産業論・戦略論・企業論

<研究テーマ>造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究

<主要研究業績>

「船舶開発と造船産業——ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）

「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析—国際競争力構図の変化と新たな取り組み—」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）

「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）

「日韓競争力転換のメカニズム—造船産業の事例—」（『組織科学』）

「資源蓄積の機能不全—成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

### 【Outline (in English)】

The courses [Thesis Research Guidance 1A and 1B] and [Thesis Research Guidance 2A and 2B] are designed to teach master's students how to write academic papers. In these courses, students collect and analyze data to help them write their master's theses in the area of corporate theory, and formulate a logic for the issues surrounding policy problems. (In both cases, 1 corresponds to the first year and 2 to the second year.

Course Outline: The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory,

Learning Objectives: To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

Students will be guided by a faculty member who is most appropriate for each theme, and will be advised on the methods of research and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. Students will be advised on how to search for necessary materials in relation to their problem interest, narrow down their research theme, and conduct research.

SOS600P1 - 502 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 B

加藤 寛之

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として「論文研究指導 1A・1B」と「論文研究指導 2A・2B」は存在する。これらは、企業論領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、1は1年次、2は2年次に対応する。）

各人の問題関心を大切に、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

### 【到達目標】

アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせることを促進する。原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左・ディスカッション
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左・ディスカッション
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左・ディスカッション
4回	論文構成の基礎的技法	同左・ディスカッション
5回	論文構成の応用的技法	同左・ディスカッション
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左・ディスカッション
7回	研究テーマ企画の立案	同左・ディスカッション
8回	研究テーマ企画の修正	同左・ディスカッション
9回	先行研究の検討	同左・ディスカッション
10回	先行研究の整理	同左・ディスカッション
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左・ディスカッション
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左・ディスカッション
13回	論文の研究対象の確認	同左・ディスカッション
14回	論文の構成の確認	同左・ディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進捗を確認しながら指示する。

### 【テキスト（教科書）】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

### 【参考書】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

出席50%、調査研究活動および報告50%

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>地域産業論・戦略論・企業論

<研究テーマ>造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究<主要研究業績>

「船舶開発と造船産業——ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）

「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析—国際競争力構図の変化と新たな取り組み—」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）

「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）

「日韓競争力転換のメカニズム—造船産業の事例—」（『組織科学』）

「資源蓄積の機能不全—成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

### 【Outline (in English)】

This course is designed to teach master's students how to write an academic paper. In these courses, students collect and analyze data to help them write their master's theses in the area of corporate theory, and formulate a logic for the issues surrounding policy problems. (In both cases, 1 corresponds to the first year and 2 to the second year.)

Students will be guided by a faculty member who is most appropriate for each theme, and will be advised on the methods of research and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. In addition, students are advised on the methods of survey and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. The series of work includes searching for necessary materials in relation to the problem interest, narrowing down the research theme, selecting the research target, creating the research plan, creating the questionnaire and questionnaire items, collecting and organizing the data, and analyzing the data. In principle, the goal of the second year is to complete a master's thesis or policy research paper.

Learning Objectives: To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner. Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)



SOS600P1 - 501 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 A

白鳥 浩

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として「論文研究指導1A・1B」と「論文研究指導2A・2B」は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。(いずれも、1は1年次、2は2年次に対応する。)

各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

### 【到達目標】

アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	研究仮説の確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

### 【テキスト（教科書）】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

### 【参考書】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

出席 20%、調査研究活動および報告 80%

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

### 【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 - 502 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 B

白鳥 浩

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として「論文研究指導 1A・1B」と「論文研究指導 2A・2B」は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐら問題についてのロジックを形成する。(いずれも、1は1年次、2は2年次に対応する。)

各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

### 【到達目標】

アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、報告、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	研究仮説の確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進捗を確認しながら指示する。

### 【テキスト（教科書）】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

### 【参考書】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

出席 20%、調査研究活動および報告 80%

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

### 【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 - 501 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 A

多田 和美

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次の院生を対象に、修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

### 【到達目標】

本授業では、次の3点に到達することを目標とします。

- 1) 修士論文を完成できる。
- 2) 厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
- 3) 設定された課題について実証的に分析できる。

The goals of this course are the followings.

- 1) Writing of your thesis,
- 2) Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

演習形式を中心に実施し、各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより、研究を深化させていきます。なお、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	実証分析①	院生による発表とディスカッション
第3回	実証分析②	院生による発表とディスカッション
第4回	実証分析③	院生による発表とディスカッション
第5回	実証分析④	院生による発表とディスカッション
第6回	実証分析⑤	院生による発表とディスカッション
第7回	実証分析⑥	院生による発表とディスカッション
第8回	実証分析⑦	院生による発表とディスカッション
第9回	考察①	院生による発表とディスカッション
第10回	考察②	院生による発表とディスカッション
第11回	考察③	院生による発表とディスカッション
第12回	考察④	院生による発表とディスカッション
第13回	考察⑤	院生による発表とディスカッション
第14回	中間報告	院生による発表とディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。修士論文の完成に向けて、入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

### 【参考書】

田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。  
その他、適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況：80%、ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

### 【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営論

<研究テーマ>

国際研究開発、新興国市場戦略

<主要研究業績>

法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

SOS600P1 - 502 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 B

多田 和美

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次の院生を対象に、修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

### 【到達目標】

本授業では、次の3点に到達することを目標とします。

- 1) 修士論文を完成できる。
- 2) 厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
- 3) 設定された課題について実証的に分析できる。

The goals of this course are the followings.

- 1) Writing of your thesis,
- 2) Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

演習形式を中心に実施し、各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより、研究を深化させていきます。なお、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の執筆と報告①	院生による発表とディスカッション
第2回	修士論文の執筆と報告②	院生による発表とディスカッション
第3回	修士論文の執筆と報告③	院生による発表とディスカッション
第4回	修士論文の執筆と報告④	院生による発表とディスカッション
第5回	修士論文の執筆と報告⑤	院生による発表とディスカッション
第6回	修士論文の執筆と報告⑥	院生による発表とディスカッション
第7回	修士論文の執筆と報告⑦	院生による発表とディスカッション
第8回	修士論文の執筆と報告⑧	院生による発表とディスカッション
第9回	修士論文の執筆と報告⑨	院生による発表とディスカッション
第10回	修士論文の執筆と報告⑩	院生による発表とディスカッション
第11回	修士論文の執筆と報告⑪	院生による発表とディスカッション
第12回	修士論文の執筆と報告⑫	院生による発表とディスカッション
第13回	修士論文の執筆と報告⑬	院生による発表とディスカッション
第14回	最終報告	院生による発表とディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。修士論文の完成に向けて、入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

### 【参考書】

田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。  
その他、適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況：80%、ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

### 【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営論

<研究テーマ>

国際研究開発、新興国市場戦略

<主要研究業績>

法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

SOS600P1 - 501 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 A

谷本 有美子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士1年の院生を対象とする。院生は、修士論文作成のために必要な資料収集方法や準備作業等について基礎的な知識を身につけ、調査研究計画を作成する。

### 【到達目標】

- ・ 学術論文の技法や資料収集の方法についての知識を習得する
- ・ 先行研究を踏まえて、研究テーマに関わる論点を提起する
- ・ 論文構成に即した調査研究計画を組み立てる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は原則対面で行う。

論文作成のための基礎的な情報提供を行いながら、各院生の研究テーマの決定と研究計画作成までの過程を指導する。院生が相互に学ぶ機会として適宜、演習を取り入れていく。発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学術論文の目的や特質を理解した上で、院生の論文作成目的を確認する
第2回	研究関心の表明	院生各自が現時点で論文テーマと考えている問題について、レジュメを作成して報告する
第3回	研究テーマの仮決定	研究関心事項を整理し研究テーマを仮決定する
第4回	資料探索の基礎	図書館やデータベース等を活用した基本的な資料の探索方法について学ぶ
第5回	資料探索の実践	仮決定した研究テーマに関連する資料を探索し、リストアップする
第6回	主要な先行研究の調査	院生の研究テーマと関連する先行研究を抽出する
第7回	主要な先行研究の報告	主要な先行研究の概要を報告する
第8回	論文構成の基礎	論文の構成や体裁、文章等の基本を学ぶ
第9回	問題認識の文章化	仮決定した研究テーマについて、先行研究を踏まえた問題認識を文章化する
第10回	調査研究事項の整理	調査研究の対象事項を整理する
第11回	研究テーマの決定	各自の研究テーマを決定する
第12回	関連文献リストの作成	論文テーマに関連した文献のリストを作成する
第13回	論文作成の作業整理	論文作成に必要な作業を抽出、整理する
第14回	調査研究計画の確定	調査研究計画を確定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成に必要な調査、資料や文献の収集等の準備作業を行う。授業内報告のレジュメを作成する。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

先行研究調査の必要に応じて、適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業内報告40%、討議への参加姿勢30%、課題提出30%の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、市民自治  
<研究テーマ>

中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績> 『地方自治の責任部局』の研究－その存続メカニズムと軌跡[1947-2000] (2019) 公人の友社

『『透明性』・『誠実性』・『戦術性』－“転職”を迫られる地方公務員』(2001) 『分権社会と協働』(共著) ぎょうせい

『国による『上から』の自治体統制の持続と変容』(2008) 『分権改革の動態』(共著) 東京大学出版会

『大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダー 神奈川県内の指定都市を題材に』(2016) 『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

### 【Outline (in English)】

This seminar is intended for the graduate students in the first year of master course. Graduate students acquire basic knowledge on collecting data and on preparation for the master's thesis, then make a research plan.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To acquire the knowledge on the technique of a dissertation and the way of collecting materials and data for research
- B. To raise points at research issue on basis of preceding studies
- C. To make a research plan in according to the structure of thesis

Students will be expected to to make summary for presentation in class, besides make preparation for your thesis by research, collecting materials, the literature, and data etc.

Your overall grade will be decided based on the following Presentation (40%), participation in discussions (30%), and the task of assignment (30%).

SOS600P1 - 502 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 B

谷本 有美子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士1年の院生を対象とする。院生は、修士論文作成のために必要な技法を習得し、先行研究や資料を収集しながら論文の枠組みを構築する。

### 【到達目標】

- ・ 学術論文作成の技法を習得する
- ・ 修士論文作成に必要な先行研究や資料を収集し、整理する
- ・ 調査研究をもとに修士論文の枠組みをつくる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

春学期に確定した研究計画に沿って、院生が進めている研究内容について報告を受けながら、修士論文の枠組みづくりを指導する。小論文による報告を通じて、文章の指導を行う。院生相互が学び合う機会として適宜、演習を取り入れる。

発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査研究の報告①	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第2回	論文の枠組みと目次の作成	現時点で予定した素材をもとに修士論文の枠組みと目次を作成する
第3回	先行研究に基づく報告	先行研究や資料から得た知見とともに研究課題を報告する
第4回	小論文の報告①	論文の一部を構成する内容について小論文を作成し、報告する
第5回	小論文の推敲	実際に書いた小論文を基に論述のスタイルや体裁等を確認する
第6回	調査研究の報告②	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第7回	小論文の報告②	論文の一部を構成する内容について小論文を作成し、報告する
第8回	調査研究の報告③	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第9回	小論文の報告③	論文の一部を構成する内容について小論文を作成し、報告する
第10回	調査研究の報告④	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第11回	小論文の報告④	論文の一部を構成する内容について小論文を作成し、報告する
第12回	理論枠組みの検討	ここまで得られた素材をもとに、論文の理論枠組みについて検討する
第13回	研究課題の整理	この時点で不足している調査研究や文献資料収集の状況を整理する

第14回 論文構成の修正 1年次終了時までの進捗を踏まえて、論文の構成を修正する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成に必要な調査、資料や文献の収集等の作業を進める。調査研究の報告準備や小論文を作成する。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

論文作成の必要に応じて、適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業内報告40%、討議への参加姿勢30%、課題提出30%の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>

中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>

『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡[1947-2000]』（2019）公人の友社

『「透明性」・『誠実性」・『戦術性」－「転職」を迫られる地方公務員』（2001）『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい

「国による『上から』の自治体統制の持続と変容」（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会

「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダー－神奈川県内の指定都市を題材に」（2016）『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

### 【Outline (in English)】

This seminar is intended for the graduate students in the first year of master course. Graduate students acquire the techniques necessary for the master's thesis and construct a framework for the thesis while collecting preceding studies and materials.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To master the technique of a dissertation
  - B. To collect and organize materials for research
  - C. To construct the framework of the thesis on your research
- Students will be expected to make summary for presentation in class and to write essay, besides to work on your thesis by research, collecting materials, the literature, and data etc. Your overall grade will be decided based on the following Presentation (40%), participation in discussions (30%), and the task of assignment (30%).

SOS600P1 - 501 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 A

北浦 康嗣

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共経済学および経済成長理論を理解した上で、現実の社会課題に対して、どのように取り組みことが望ましいかについて、経済理論的に検討することを目的とする。

### 【到達目標】

- (1) 経済成長理論が説明できる。
- (2) 現実の社会課題を経済理論的に説明できる。
- (3) 先行研究と自身の社会課題の違いが説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

修士課程では、関心のある社会課題に対して、公共経済学および経済成長理論では、どのようなアプローチがとられるかについて、先行研究となる論文報告を行う。その上で、先行研究について、分析・考察を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後、読むべき先行研究を報告してもらいます。
第2回	先行研究の報告（1）	1本目の先行研究を報告してもらいます。
第3回	先行研究の分析（1）	1本目の先行研究における分析方法を報告してもらいます。
第4回	先行研究の課題（1）	1本目の先行研究における課題を報告してもらいます。
第5回	先行研究の評価（1）	1本目の先行研究における評価を行います。
第6回	先行研究の報告（2）	2本目の先行研究を報告してもらいます。
第7回	先行研究の分析（2）	2本目の先行研究における分析方法を報告してもらいます。
第8回	先行研究の課題（2）	2本目の先行研究における課題を報告してもらいます。
第9回	先行研究の評価（2）	2本目の先行研究における評価を行います。
第10回	先行研究の報告（3）	3本目の先行研究を報告します。
第11回	先行研究の分析（3）	3本目の先行研究における分析方法を報告してもらいます。
第12回	先行研究の課題（3）	3本目の先行研究における課題を報告してもらいます。
第13回	先行研究の評価（3）	3本目の先行研究における評価を行います。
第14回	先行研究における論点整理	これまで読んだ先行研究との違いについて報告してもらいます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、先行研究（英文）を読み込んでください。

### 【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

### 【参考書】

授業中に指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

先行研究と関心がある社会課題との違いを分析した論文10,000字で評価します（100％）。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めてです。

### 【その他の重要事項】

経済成長理論に基づいた経済理論的な分析を行います。それ以外は一切認めません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
マクロ経済学、公共経済学  
<研究テーマ>  
開発途上国における教育の役割  
<主要研究業績>

Kitaura, Koji & Miyazawa, Kazutoshi, 2021. "Inequality and conditionality in cash transfers: Demographic transition and economic development," *Economic Modelling*, Elsevier, vol. 94(C), pages 276-287.

### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to understand public economics and economic growth theory, and then consider from an economic theoretical point of view how it is desirable to address actual social issues.

SOS600P1 - 502 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 1 B

北浦 康嗣

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共経済学および経済成長理論を理解した上で、現実の社会課題に対して、どのように取り組みことが望ましいかについて、経済理論的に検討することを目的とする。

### 【到達目標】

- (1) 先行研究と修士論文案との違いが説明できる。
- (2) 執筆した修士論文に基づいて社会課題の議論ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

修士課程では、関心のある社会課題に対して、公共経済学および経済成長理論に基づいて、先行研究と自身の考えを比較しつつ報告を行う。その上で、修士論文としてまとめあげる能力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	先行研究の論点整理について説明します。
第2回	先行研究における論点整理の報告（1）	先行研究の論点整理について、修士論文との共通点について報告してもらいます。
第3回	先行研究における論点整理の報告（2）	先行研究の論点整理について、修士論文と異なる点について報告してもらいます。
第4回	先行研究における論点整理の報告（3）	先行研究の論点整理について、残された課題について報告してもらいます。
第5回	先行研究における論点整理の報告（4）	先行研究の論点整理について、修士論文における位置づけについて報告してもらいます。
第6回	修士論文の報告（1）	修士論文のアイデアについて報告してもらいます。
第7回	修士論文の報告（2）	修士論文の分析方法について報告してもらいます。
第8回	修士論文の報告（3）	修士論文の考察について報告してもらいます。
第9回	修士論文の報告（4）	修士論文の残された課題について報告してもらいます。
第10回	修士論文の改善報告（1）	修士論文のアイデアについて改善報告してもらいます。
第11回	修士論文の改善報告（2）	修士論文の分析方法について改善報告してもらいます。
第12回	修士論文の改善報告（3）	修士論文の考察について改善報告してもらいます。
第13回	修士論文の改善報告（4）	修士論文の残された課題について改善報告してもらいます。
第14回	修士論文の最終報告	修士論文について最終報告してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、先行研究（英文）を読み込んでください。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の執筆で評価します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めてです。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

経済成長理論に基づいた経済理論的な分析を行います。それ以外は一切認めません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学、公共経済学

<研究テーマ>

開発途上国における教育の役割

<主要研究業績>

Kitaura, Koji & Miyazawa, Kazutoshi, 2021. "Inequality and conditionality in cash transfers: Demographic transition and economic development," *Economic Modelling*, Elsevier, vol. 94(C), pages 276-287.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to understand public economics and economic growth theory, and to think about how it is desirable to deal with actual social issues from the perspective of economic theory.



SOS600P1 - 503 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 A

土山 希美枝

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士過程1年生にむけた、論文作成のための起点となる科目。自身の研究テーマを明確にし、修士論文としての構想を練ることをめざす。また、修士論文作成のために必要な資料や文献をどのように収集し読解していくか、どのようにテーマを章立てていくかというリテラシーも学ぶ。

### 【到達目標】

- この講義の到達目標は以下である。
- ・修士論文のテーマを明確にする
  - ・修士論文の作成に必要な、情報、資料また文献の検索、収集の技法を学ぶ
  - ・修士論文の作成に必要な、情報、資料また文献の読解をすすめる
  - ・修士論文の章節構成を検討する
  - ・秋学期以降の研究計画をたてる

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講生との面談を通じて、テーマの明確化、技法の習得、修論の章節構成の作成を指導していく。報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義の目標や進めかたについて確認する
第2回	テーマを検討する	修士論文のテーマと想定している内容について報告をうけ、議論する
第3回	情報検索を学ぶ	テーマをめぐる情報を検索する方法を学ぶ
第4回	文献検索を学ぶ	テーマをめぐる文献、資料を検索する方法を学ぶ
第5回	テーマを仮定する	修士論文のテーマを仮定したものを報告し、その内容について議論する
第6回	テーマを具体化する	修士論文のテーマをより具体化するために、報告を受け、議論する
第7回	テーマをめぐる情報を整理する	修士論文のテーマをめぐる収集した情報を整理し、報告する
第8回	テーマをめぐる事実を確認する	修士論文のテーマをめぐる、経緯や状況などを整理し、報告する
第9回	テーマを明確にする	それまでの蓄積をふまえて、修士論文のテーマを明確にする
第10回	テーマについて議論する	修士論文のテーマをめぐる、論の展開などの方向性を議論する
第11回	論文作成の技法の基礎を学ぶ	注のつけかた、参考文献の引用のしかたを学ぶ
第12回	論文作成の技法の基礎を習得する	注のつけかた、参考文献の引用の仕方習得する

第13回	修士論文の構成を検討する	修士論文のテーマに即し、論文の章・節構成を仮定する
第14回	修士論文の作成に向けて	夏季休暇中の目標を設定する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐる、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要なものである。

### 【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

### 【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、  
当日報告と説明 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 公共政策、地方自治、政治学  
 〈研究テーマ〉 社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。  
 〈主要研究業績〉 『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

### 【Outline (in English)】

This lecture is designed for first-year students in master course to start writing their thesis. Students aim to clarify their research topic and develop a concept for their master's thesis. They also learn writing techniques, such as how to collect and read the materials and literature necessary for writing a master's thesis and how to formulate chapters.

Learning Objectives;

- Clarify the topic of the master's thesis.
  - Learn the techniques of searching and collecting information, documents and literature necessary for writing a master's thesis.
  - To read and understand the information, documents and literature necessary for the preparation of a master's thesis
  - Review the chapter and section structure of the master's thesis
  - Research plans for the autumn term and beyond
- Learning activities outside of classroom;  
 Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis
- Grading Criteria /Policy;  
 Advance preparation 50%.  
 Report and presentation 50%.

SOS600P1 - 504 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 B

土山 希美枝

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文研究指導 1 A から続く、修士論文作成のための科目。明確になったテーマについて、先行研究の調査、論文で示す事実 (fact) の収集、整理、分析をすすめ、論文作成をより具体的なものとする。

### 【到達目標】

この講義の獲得目標は以下である。

- ・ 明確になったテーマを章節構成に反映させていく
- ・ 論文で示すための情報、資料の収集、整理、分析
- ・ 先行研究の収集と整理
- ・ テーマについてのより深い考察
- ・ 春季休暇と次年度の研究計画の策定

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講生との面談を通じて、テーマの明確化、技法の習得、修論の章節構成の作成を指導していく。報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報告	夏季休暇中の研究活動を報告する
第2回	論文構成の検討	章、節構成を検討する
第3回	研究テーマを深く考察する	研究テーマについての意見交換
第4回	研究テーマの論点を整理する	研究テーマについての意見交換をふまえて、今後検討すべき論点を整理する
第5回	研究計画の更新	これまでの検討をふまえ、研究計画を更新する
第6回	先行研究の報告	先行研究について報告する
第7回	先行研究の検討	先行研究の論旨について検討する
第8回	研究テーマをめぐる事実 (fact) の整理	研究テーマの現状を示す事実 (fact) を検討する
第9回	研究テーマをめぐる事実 (fact) の分析	研究テーマの経緯を示す事実 (fact) を検討する
第10回	研究テーマをめぐる国内事例を検討する	研究テーマにかんする事例を検討する
第11回	研究テーマの論点の一部を検討する	研究テーマの論点のいくつかを検討する
第12回	研究テーマの論点の一部を検討する	研究テーマの論点のいくつかを検討する
第13回	論文構成の確認	論文の章節構成を確認し、更新する
第14回	春季休暇、次年度にむけての研究計画の作成	春季休暇、次年度にむけて、研究計画を検討し作成する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要なものである。

### 【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

### 【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、  
当日の報告、説明 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聞いた。

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉 社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

### 【Outline (in English)】

This lecture is designed for first-year students in master course to start writing their thesis. Students aim to clarify their research topic and develop a concept for their master's thesis. They also learn writing techniques, such as how to collect and read the materials and literature necessary for writing a master's thesis and how to formulate chapters.

Learning Objectives;

- Clarify the topic of the master's thesis.

- Learn the techniques of searching and collecting information, documents and literature necessary for writing a master's thesis.

- To read and understand the information, documents and literature necessary for the preparation of a master's thesis

- Review the chapter and section structure of the master's thesis

- Research plans for the autumn term and beyond

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS600P1 - 503 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 A

名和田 是彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文研究指導1に引き続き、修士論文の完成を目指して、各自のテーマに則して現実の諸問題に関するデータ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題状況を総合的に把握すること、および、その解決策を検証することを課題とする。

### 【到達目標】

修士論文の構想と章構成の確定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の問題関心を大切に、調査やデータ分析の手法について研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。

なお原則として、論文研究指導1の受講を前提とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題設定	問題意識の再確認、研究スケジュール
2	研究計画	計画案の報告と質疑
3～13	調査研究の実施	必要な助言等
14	中間報告	成果の報告と質疑

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

### 【テキスト（教科書）】

各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

### 【参考書】

各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

議論への参加（20%）、論文執筆のための調査活動および報告（80%）

### 【学生の意見等からの気づき】

なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>コミュニティ政策、公共哲学、法社会学  
<研究テーマ>都市内分権。地域法人制度。コミュニティカフェ。「領域団体」及び「市民社会」の概念史。

<主要研究業績>

単著『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

単著論文「プレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』日本評論社、2018年、257～287頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性——宮崎市の地域自治制度の運用を素材として」『法学志林』第118巻第3号、2020年、1～88頁。

単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望——高松市を素材として～」『法学志林』第119巻第2号、2021年、57～104頁。

### 【Outline (in English)】

Students in the third semester should subscribe to this subject.

Each student should prepare for her/his master paper, collecting and analyzing data and materials, trying to understand the current situation of policy making in the field of her/his own research theme as well as trying to propose her/his own solution. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her master paper, which is also the grading criterion.

SOS600P1 - 504 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 B

名和田 是彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文指導 1 に引き続いて、修士論文の完成を目指して、各自のテーマに則して現実の諸問題に関するデータ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題状況を総合的に把握すること、および、その解決策を検証することを課題とする。

### 【到達目標】

十分な水準の修士論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の問題関心を大切に、調査やデータ分析の手法について研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。

なお原則として、論文研究指導 2 A を履修していることを前提とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究評価（3回目）	到達状況の確認と課題の明確化
2-12	調査研究の実施	必要な助言等
13	論文報告	報告と質疑
14	研究評価（最終）	成果の確認と残された課題の明確化

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

### 【テキスト（教科書）】

各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

### 【参考書】

各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

議論への参加（20%）、論文執筆のための調査活動および報告（80%）

### 【学生の意見等からの気づき】

なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> コミュニティ政策、公共哲学、法社会学

<研究テーマ> 都市内分権。地域法人制度。コミュニティカフェ。「領域団体」及び「市民社会」の概念史。

<主要研究業績>

単著『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

単著論文「プレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』日本評論社、2018年、257～287頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性—宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第118巻第3号、2020年、1～88頁。

単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望—高松市を素材として—」『法学志林』第119巻第2号、2021年、57～104頁。

### 【Outline (in English)】

Students in the fourth semester should subscribe to this subject.

Each student should prepare for, and at the end of the semester complete, her/his master paper, collecting and analyzing data and materials, trying to understand the current situation of policy making in the field of her/his own research theme as well as trying to propose her/his own solution. The goal is that each student completes his/her master paper. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria.

SOS600P1 - 503 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 A

廣瀬 克哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程2年目の院生を対象に、修士論文の執筆を着実に進めるための指導を行うものである。

### 【到達目標】

院生は、1年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスション（問い）を明確にしなが、引き続き（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、リライトされたリサーチ・プロポーザルを共有する。
第2回	研究スケジュールの確認	今後の研究に向けたスケジュールを設定し、共有する。
第3回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第4回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第5回	研究倫理の理解	研究を遂行する上で留意すべき研究倫理について演習形式で学ぶ。
第6回	論文の部分的な試作	暫定的に設定された目次に従い、そのうちの1章について執筆を試みる。
第7回	文章の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第8回	概要（要旨）の作成	草稿の執筆に先立ち、現時点における構想を元に、1,000文字程度で修士論文の概要を表すことを試みる。
第9回	概要（要旨）の推敲	各自が執筆した概要を報告し、相互に検討しながら推敲する。
第10回	英文サマリー作成の基礎	英文サマリーの作成に関する基本的事項を学ぶ。
第11回	英文サマリーの執筆	各自の修士論文の概要を英文で執筆する。英文サマリーの推敲
第12回	英文サマリーの推敲	各自が執筆した英文サマリーを報告し、相互に検討しながら推敲する。

第13回 リサーチ・プロポーザルの報告 各自の研究の進捗に基づき、リライトしたリサーチ・プロポーザルについて、相互に批判的な検討を加える。

第14回 研究課題の明確化 修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料共有のため、Google Classroomを利用できる環境。オンラインでおこなう場合にはZoomに参加できる情報機器や通信手段。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、公共政策学

<研究テーマ> 二元代表制の理念と実態

<主要研究業績>

編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版社、2018年）

編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009年～2016年）

### 【Outline (in English)】

(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.

(Learning Objectives) To be ready to start writing master's thesis.

(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.

(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 - 504 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 B

廣瀬 克哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程2年目の院生を対象に、修士論文の執筆を完成させるための指導を行うものである。

### 【到達目標】

院生は、1年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確にしながら、引き続き（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深め、修士論文を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、提出までのスケジュールを確認する。
第2回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第3回	主要な資料の報告	論文を作成する上で最も重要な資料について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第4回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第5回	論文の目次の確認	現時点における論文の構成について報告する。
第6回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第7回	第1稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第8回	第1稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第9回	第2稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第10回	第2稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第11回	要旨の推敲	修士論文の要旨を推敲する。
第12回	進捗の確認	修士論文の提出に向けた事務的な諸注意を行う。
第13回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第14回	論点に関する質疑	口述試験のための準備として、重要な論点について質疑を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。

オンラインでおこなう場合にはZoomに参加できる情報機器や通信手段。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、公共政策学

<研究テーマ> 二元代表制の理念と実態

<主要研究業績>

編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版社、2018年）

編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009年～2016年）

### 【Outline (in English)】

(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.

(Learning Objectives) To be ready to complete master's thesis. (Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.

(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 - 503 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 A

糸久 正人

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。主な対象は「イノベーション政策」になります。

### 【到達目標】

修士論文または政策研究論文を完成させ、修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。受講生は与えられた課題を準備して臨み、積極的にディスカッションに参加してください。また、他の受講生の発表に対するコメントも求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方の確認
第2回	演習	院生の報告と討論
第3回	演習	院生の報告と討論
第4回	演習	院生の報告と討論
第5回	演習	院生の報告と討論
第6回	演習	院生の報告と討論
第7回	演習	院生の報告と討論
第8回	演習	院生の報告と討論
第9回	演習	院生の報告と討論
第10回	演習	院生の報告と討論
第11回	演習	院生の報告と討論
第12回	演習	院生の報告と討論
第13回	演習	院生の報告と討論
第14回	演習	院生の報告と討論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて指示する。

### 【参考書】

研究テーマに応じて指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、研究報告50%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究

自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』

糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczyński, M., and Itohisa, M. (2019) "Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes," *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) "Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach," *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互惠性の達成」『研究技術計画』

### 【Outline (in English)】

This lecture aims to guide you on writing a master's thesis and research policy paper tailored to your specific interests, particularly focusing on innovation policy. Your overall grade in the class will be determined based on the following criteria: 1) In-class contributions (50%), and 2) Short reports (50%).

SOS600P1 - 504 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 B

糸久 正人

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行う。主な対象はイノベーション政策になります。

### 【到達目標】

修士論文または政策研究論文を完成させ、修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。受講生は与えられた課題を準備して臨み、積極的にディスカッションに参加してください。また、他の受講生の発表に対するコメントも求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方の確認
第2回	演習	院生の報告と討論
第3回	演習	院生の報告と討論
第4回	演習	院生の報告と討論
第5回	演習	院生の報告と討論
第6回	演習	院生の報告と討論
第7回	演習	院生の報告と討論
第8回	演習	院生の報告と討論
第9回	演習	院生の報告と討論
第10回	演習	院生の報告と討論
第11回	演習	院生の報告と討論
第12回	演習	院生の報告と討論
第13回	演習	院生の報告と討論
第14回	演習	院生の報告と討論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて指示する。

### 【参考書】

研究テーマに応じて指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、研究報告50%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究

自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』

糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczyński, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互惠性の達成」『研究技術計画』

### 【Outline (in English)】

This lecture aims to guide you on writing a master’s thesis and research policy paper tailored to your interests, with a primary focus on innovation policy. Your overall grade in the class will be determined based on the following criteria: 1) In-class contribution (50%), and 2) Short reports (50%).



SOS600P1 - 503 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 A

白鳥 浩

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として「論文研究指導 1A・1B」と「論文研究指導 2A・2B」は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。(いずれも、1は1年次、2は2年次に対応する。)

各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

### 【到達目標】

アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、報告、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進捗を確認しながら指示する。

### 【テキスト（教科書）】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

### 【参考書】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

出席 20%、調査研究活動および報告 80%

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

### 【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 - 504 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 B

白鳥 浩

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として「論文研究指導 1A・1B」と「論文研究指導 2A・2B」は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、1は1年次、2は2年次に対応する。）

各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

### 【到達目標】

アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

### 【テキスト（教科書）】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

### 【参考書】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

出席 20%、調査研究活動および報告 80%

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

### 【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 - 503 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 A

多田 和美

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次の院生を対象に、修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

### 【到達目標】

本授業では、次の3点に到達することを目標とします。

- 1) 修士論文を完成できる。
- 2) 厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
- 3) 設定された課題について実証的に分析できる。

The goals of this course are the followings.

- 1) Writing of your thesis,
- 2) Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

演習形式を中心に実施し、各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより、研究を深化させていきます。なお、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	実証分析①	院生による発表とディスカッション
第3回	実証分析②	院生による発表とディスカッション
第4回	実証分析③	院生による発表とディスカッション
第5回	実証分析④	院生による発表とディスカッション
第6回	実証分析⑤	院生による発表とディスカッション
第7回	実証分析⑥	院生による発表とディスカッション
第8回	実証分析⑦	院生による発表とディスカッション
第9回	考察①	院生による発表とディスカッション
第10回	考察②	院生による発表とディスカッション
第11回	考察③	院生による発表とディスカッション
第12回	考察④	院生による発表とディスカッション
第13回	考察⑤	院生による発表とディスカッション
第14回	中間報告	院生による発表とディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。修士論文の完成に向けて、入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

### 【参考書】

田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。  
その他、適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況：80%、ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

### 【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営論

<研究テーマ>

国際研究開発、新興国市場戦略

<主要研究業績>

法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

SOS600P1 - 504 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 B

多田 和美

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程2年次の院生を対象に、修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

### 【到達目標】

本授業では、次の3点に到達することを目標とします。

- 1) 修士論文を完成できる。
- 2) 厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
- 3) 設定された課題について実証的に分析できる。

The goals of this course are the followings.

- 1) Writing of your thesis,
- 2) Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

演習形式を中心に実施し、各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより、研究を深化させていきます。なお、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の執筆と報告①	院生による発表とディスカッション
第2回	修士論文の執筆と報告②	院生による発表とディスカッション
第3回	修士論文の執筆と報告③	院生による発表とディスカッション
第4回	修士論文の執筆と報告④	院生による発表とディスカッション
第5回	修士論文の執筆と報告⑤	院生による発表とディスカッション
第6回	修士論文の執筆と報告⑥	院生による発表とディスカッション
第7回	修士論文の執筆と報告⑦	院生による発表とディスカッション
第8回	修士論文の執筆と報告⑧	院生による発表とディスカッション
第9回	修士論文の執筆と報告⑨	院生による発表とディスカッション
第10回	修士論文の執筆と報告⑩	院生による発表とディスカッション
第11回	修士論文の執筆と報告⑪	院生による発表とディスカッション
第12回	修士論文の執筆と報告⑫	院生による発表とディスカッション
第13回	修士論文の執筆と報告⑬	院生による発表とディスカッション
第14回	最終報告	院生による発表とディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。修士論文の完成に向けて、入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

### 【参考書】

田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。

その他、適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況：80%、ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

### 【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営論

<研究テーマ>

国際研究開発、新興国市場戦略

<主要研究業績>

法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

SOS600P1 - 503 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 A

谷本 有美子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士2年の院生を対象とする。院生は、調査研究内容の報告と指導教員との討議を通じて考察を深めながら修士論文を執筆する。

### 【到達目標】

- ・ 修士論文作成に必要な調査研究資料を収集し、整理する
- ・ 調査研究内容を文章化し、修士論文を構成する
- ・ 論理的思考力を高める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

1年次に作成した修士論文の構成に沿って院生が進める研究内容について報告を受けながら、修士論文の内容について指導を行う。提出された小論文に対し文言や文章の体裁を指導する。また、院生相互が学び合う機会として適宜、演習を取り入れる。発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文構成と作業スケジュールの作成	1年次最後に作成した論文構成の確認とともに、春学期の研究・執筆スケジュールを作成する
第2回	調査研究の報告①	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第3回	小論文の報告①	前回報告内容を基に論文の一部をなす小論文を作成し報告、提出する
第4回	小論文の推敲①	前回提出した小論文を推敲し、加筆・修正を行う
第5回	調査研究の報告②	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第6回	小論文の報告②	前回報告内容を基に論文の一部をなす小論文を作成し報告、提出する
第7回	小論文の推敲②	前回提出した小論文を推敲し、加筆・修正を行う
第8回	調査研究の報告③	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第9回	小論文の報告③	前回報告内容を基に論文の一部をなす小論文を作成し報告、提出する
第10回	小論文の推敲③	前回提出した小論文を推敲し、加筆・修正を行う
第11回	調査研究の報告④	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第12回	小論文の報告④	前回報告内容を基に論文の一部をなす小論文を作成し報告、提出する

第13回	小論文の推敲④	前回提出した小論文を推敲し、加筆・修正を行う
第14回	進捗の確認と追加調査等の洗い出し	春学期の執筆状況を踏まえて、夏休み中に必要な追加作業等を洗い出し、その準備を行う

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成に必要な調査、資料や文献の収集等の作業を進める。調査研究の報告準備や小論文の作成・加筆修正作業等を行う。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

論文執筆の必要に応じて、適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業内報告40%、討議への参加姿勢30%、課題提出30%の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>

中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>

『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡[1947-2000]』（2019）公人の友社

『「透明性」・「誠実性」・「戦術性」－「転職」を迫られる地方公務員』（2001）『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい

『国による「上から」の自治体統制の持続と変容』（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会

『大都市行政区の「区民会議」と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に』（2016）『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

### 【Outline (in English)】

This seminar is intended for the graduate students in the second year of master course. Graduate students write thesis while considering the idea from your research deeply and discussing to teacher.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. To collect and organize materials and data for research

-B. To construct the framework of the thesis by writing

-C. To improve the skill of a logical thinking

Students will be expected to make summary for presentation in class and to write essay and correct them, besides to work on your thesis by research, collecting materials, the literature, and data etc.

Your overall grade will be decided based on the following Presentation (40%), participation in discussions (30%), and the task of assignment (30%).

SOS600P1 - 504 (その他の社会科学 / Social science 600)

## 論文研究指導 2 B

谷本 有美子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士2年の院生を対象とする。院生は、調査研究内容の報告と指導教員との討議を通じて考察を深めながら修士論文を完成する。

### 【到達目標】

- ・ 修士論文作成に必要な調査研究資料を収集・整理する
- ・ 論理的思考力を高める
- ・ 調査研究をもとに修士論文を完成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

修士論文の構成に沿って、院生が執筆中の論文について報告を受けながら、修士論文の完成に向けた指導を行う。論文に使用する文言や文章の体裁等について指導する。院生相互が学び合う機会として適宜、演習を取り入れる。

発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文構成の再検討	夏休み中に獲得した新たな知見を用いて、論文の構成を再検討する
第2回	論文の執筆と報告①	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第3回	論文の執筆と報告②	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第4回	論文の執筆と報告③	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第5回	論文の執筆と報告④	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第6回	論文の執筆と報告⑤	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第7回	論文の執筆と報告⑥	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第8回	論文の執筆と報告⑦	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第9回	論文の執筆と報告⑧	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第10回	論文の執筆と報告⑧	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第11回	修士論文の推敲①	仕上げに向けた推敲を行う
第12回	修士論文の推敲②	仕上げに向けた推敲を行う
第13回	修士論文の推敲③	仕上げに向けた推敲を行う
第14回	修士論文の最終確認	提出までに必要な修正について指示する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の完成に向けて計画的に執筆を進める。

論文審査に必要な報告資料を作成する。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

論文執筆の必要に応じて、適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業内報告40%、討議への参加姿勢30%、課題提出30%の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>

中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>

『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡[1947-2000]』（2019）公人の友社

『「透明性」・「誠実性」・「戦術性」－“転職”を迫られる地方公務員』（2001）『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい

『国による「上から」の自治体統制の持続と変容』（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会

『大都市行政区の「区民会議」と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に』（2016）『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

### 【Outline (in English)】

This seminar is intended for the graduate students in the second year of master course. Graduate students finish thesis while considering the idea from your research deeply and discussing to teacher.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To collect and organize materials for research
- B. To improve the skill of a logical thinking
- C. To finish the thesis on your research

Students will be expected to make summary for presentation in examination, besides to write thesis while keeping your plan.

Your overall grade will be decided based on the following Presentation (40%), participation in discussions (30%), and the task of assignment (30%).

## 修士論文

### 公共政策研究科論文指導教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

## 政策研究論文

### 公共政策研究科論文指導教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>



SOS700P1 - 001 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 A

杉崎 和久

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

### 【到達目標】

都市政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成することを目標とする。特に3年春学期は、博士論文本論執筆に向けて、学会論文等の投稿を行うこととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	春季休暇期間の進捗状況の報告をし、研究計画を検討する。
第 3.4 回	論文投稿の準備	学会等への論文投稿のための報告を行い、指導をする。
第 5.6 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 7.8 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 9.10 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 11.12 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 13.14 回	ふりかえり	夏季休暇期間中の研究計画の検討を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

### 【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

### 【参考書】

適宜、推薦する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

論文研究指導科目については、授業改善アンケートを実施していない。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】  
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

#### 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%) ,and reports (40%) .

SOS700P1 - 002 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 B

杉崎 和久

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

### 【到達目標】

都市政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成する能力を獲得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1.2回	オリエンテーション	夏季休暇期間中の進捗状況の報告、今後の研究計画を検討する。
第3.4回	都市政策セミナー大学院生セッションの投稿	都市政策セミナー大学院生セッションに投稿する論文の確認をする。
第5.6回	博士論文執筆状況の報告	都市政策セミナー大学院生セッションにおける発表の練習をする。。
第7.8回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第9.10回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第11.12回	博士論文の提出確認	博士論文の提出に向けた、作業報告を行い、指導をうける。
第13.14回	博士論文口述試験の準備	口述試験に向けた発表準備を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

### 【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

### 【参考書】

適宜、推薦する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

論文研究指導科目については、授業改善アンケートを実施していない。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

### 【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%), and reports (40%).

SOS700P1 - 001 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 A

土山 希美枝

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程の1年めにあたり、博士論文作成のためのテーマを念頭において、研究計画をたて、そのテーマをめぐる情報、資料、文献の収集と調査をすすめる、テーマについての知見を醸成し、自らの独創性を模索していく。

### 【到達目標】

この講義は以下を到達目標とする。

- ・博士論文のテーマを念頭に置いて、3年間の研究計画を立てる
- ・テーマをめぐる情報、資料、文献の収集と調査を進める
- ・テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義の進めかた、博士論文の指導の方法の確認
第2回	博士論文のテーマの検討	博士論文テーマとして検討しているものについて報告する
第3回	博士論文のテーマの構想	博士論文テーマについて、検討をふまえた構想を報告する
第4回	意見交換	意見交換と今後の作業の確認
第5回	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究について収集し、状況を報告する
第6回	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究について収集し、状況を報告する
第7回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実 (fact)、先行研究をふまえて議論し、考察を深める
第8回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実 (fact)、先行研究をふまえての議論、考察をさらに深める
第9回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実 (fact)、先行研究をふまえての議論、考察をさらに深める
第10回	研究計画を更新する	これまでの講義をふまえて、博士論文の研究計画を更新する
第11回	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究について収集し、状況を報告する
第12回	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究について収集し、状況を報告する
第13回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実 (fact)、先行研究をふまえての議論、考察をさらに深める
第14回	研究計画を更新する	夏季休暇中の研究計画を検討し、研究計画を更新する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐる、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。

### 【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、  
報告と説明 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

### 【担当教員の専門分野等】

専門領域) 公共政策、地方自治、政治学  
(研究テーマ) 社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。  
(主要研究業績) 『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

### 【Outline (in English)】

This lectures would be taken by first-year doctor-course students.

Students will make a research plan with a theme for their doctoral thesis in mind. Students collect information, materials, papers and studies on the theme, develop their knowledge of the theme and search for their own originality.

Learning Objectives;

- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.

- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.

- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS700P1 - 002 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 B

土山 希美枝

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程の1年めの後期に求められる研究活動の展開を確認するための科目。博士論文作成のためのテーマをめぐる知見の涵養、研究計画にそった研究活動の展開をすすめる、ひきつづき情報、資料、文献の収集と調査し、自らの独創性を模索していく。

### 【到達目標】

この講義は以下を到達目標とする。

- ・博士論文のテーマを念頭に置いて、研究計画を進める
- ・テーマをめぐる情報、資料、文献の収集と調査を進める
- ・テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報告	夏季休暇までの研究活動の到達点を報告する
第2回	後期の研究計画を立てる	これまでの研究の進捗をふまえ、研究計画を更新する
第3回	テーマについて報告	テーマについて報告する
第4回	テーマについて議論	テーマについての報告を踏まえ、議論し、次回の目標を設定する
第5回	テーマをめぐる論点の検討	テーマをめぐる論点を検討する
第6回	テーマをめぐる論点の整理	テーマをめぐる論点を整理し、それら論点の検討スケジュールをたてる
第7回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について報告する
第8回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について議論する
第9回	研究計画の更新	これまでの講義をふまえ、研究計画を見直す
第10回	論文テーマとその独創性	論文のテーマを前提に、研究の独創性について議論する
第11回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について報告する
第12回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について報告する
第13回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について報告する
第14回	春季休暇中、来年度の研究計画を更新する	研究計画を見直し、更新する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐる、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、  
報告と説明 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉 社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

### 【Outline (in English)】

Course outline;

In this lecture, students will make the necessary research progress in the second semester of the first year of the doctor-course.

Students will cultivate their knowledge on the topic for the preparation of their doctoral thesis.

The students will continue their research activities according to their research plan and will continue to collect and research information, materials, studies and literature and to search for their own originality.

Learning Objectives;

- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.

- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.

- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS700P1 - 001 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 A

名和田 是彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程一年目の院生を対象に、学界に新しい知見をもたらすオリジナルな研究を行なって博士論文にまとめていくために、一年目になすべきことを自ら考え、実行することを目的とする。

### 【到達目標】

博士論文の完成と博士号の取得という究極の目的を見据え、まずは一年目に幅広い文献研究とフィールド調査を行ない、博士論文に向けた研究テーマを設定すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

博士後期課程の研究は、博士論文の執筆をはじめとして、学界に新たな知見をもたらすオリジナルな研究であるから、各院生の個性を十分に発揮してもらう必要がある。定まった進め方や方法はないと言ってもよく、院生相互の及び教員との議論から学ぶことが、授業としては本来的なあり方である。

原則として対面により行うことを考えている。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究関心とさし当りの作業の確認	最初の時点での研究関心を言葉に出してみ、さしあり2、3ヶ月程度の間の研究作業を試行的に設定してみる。
第2回～ 第5回	試行的研究作業の報告と討論	さしあり試行的に行なう研究作業を逐次報告し、討論の中で必要な軌道修正をしていく。
第6回	中間総括	試行的な研究作業を総括し、秋までに追究していくテーマを確認する。
第7回～ 第13回	研究の推進	各自テーマに沿った研究を推進していく。
第14回	春学期の総括と今後の研究計画の確認	夏休み中の研究計画を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士後期課程の院生としての自覚を持って、それぞれの研究テーマを追究していくこと。

### 【テキスト（教科書）】

決まった教科書は特になし。

### 【参考書】

各自の研究テーマが設定された時点で、さらに研究が深化した時点で、それぞれに対して指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究テーマの設定や研究状況の報告などによって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> コミュニティ政策論

<研究テーマ> 都市内分権(特に日本とドイツ)、自治会・町内会の研究

<主要研究業績>

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』日本評論社、2018年、257～287頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性—宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第118巻第3号、2020年、1～88頁。

単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望—高松市を素材として—」『法学志林』第119巻第2号、2021年、57～104頁。

### 【Outline (in English)】

This is a part of the research-training program for Ph.D research students working in the area of public policy studies. The workshop's principal objective is to foster intellectual exchange by showcasing work from leading and emerging scholars. The workshop will provide a forum in which research students can present their work, discuss the theoretical and methodological problems involved, discuss common challenges in conducting research in this area and obtain feedback on their work. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it, which are also the grading criteria. Each student should obtain the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 002 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 B

名和田 是彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程一年目の院生を対象に、学界に新しい知見をもたらすオリジナルな研究を行なって博士論文にまとめていくために、一年目になすべきことを自ら考え、実行することを目的とする。

### 【到達目標】

博士論文の完成と博士号の取得という究極の目的を見据え、まずは一年目に幅広い文献研究とフィールド調査を行ない、博士論文に向けた研究テーマを設定すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

博士後期課程の研究は、博士論文の執筆をはじめとして、学界に新たな知見をもたらすオリジナルな研究であるから、各院生の個性を十分に発揮してもらう必要がある。定まった進め方や方法はないと言ってもよく、院生相互の及び教員との議論から学ぶことが、授業としては本来的なあり方である。

原則として対面により行うことを考えている。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期までの研究の到達点の確認	研究テーマと研究仮説をどのくらい深めることができたかを確認する。
第2回～第5回	研究テーマに関する先行研究の到達点に学ぶ	これまでに参照した先行研究の中で特に重要なものを紹介・報告し、討論する。
第6回～第10回	一年目の研究の中間総括	研究のプロセスにおいて行なったフィールド調査や思索を取りまとめて報告し、討論する。今後の研究作業の計画を設定する。
第11回～第13回	研究の推進	各自テーマに沿った研究を推進していく。
第14回	秋学期の総括と今後の研究計画の確認	一年目の研究の成果を振り返り、二年目に向けての展望を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士後期課程の院生としての自覚を持って、それぞれの研究テーマを追究していくこと。

### 【テキスト（教科書）】

決まった教科書は特になし。

### 【参考書】

各自の研究テーマが設定された時点で、さらに研究が深化した時点で、それぞれに対して指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究テーマの設定や研究状況の報告などによって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > コミュニティ政策論

< 研究テーマ > 都市内分権(特に日本とドイツ)、自治会・町内会の研究

< 主要研究業績 >

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』日本評論社、2018年、257～287頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性—宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第118巻第3号、2020年、1～88頁。

単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望～高松市を素材として～」『法学志林』第119巻第2号、2021年、57～104頁。

### 【Outline (in English)】

This is a part of the research-training program for Ph.D research students working in the area of public policy studies. The workshop's principal objective is to foster intellectual exchange by showcasing work from leading and emerging scholars. The workshop will provide a forum in which research students can present their work, discuss the theoretical and methodological problems involved, discuss common challenges in conducting research in this area and obtain feedback on their work. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. Each student should obtain the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 001 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 A

林 嶺那

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

### 【到達目標】

論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。 <b>Public Service Motivation</b> に関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

適宜、指定する。

### 【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

### 【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学

<研究テーマ> 人事行政

<主要研究業績> 林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

### 【Outline (in English)】

This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS700P1 - 002 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 B

林 嶺那

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

## 【到達目標】

論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

## 【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。 <b>Public Service Motivation</b> に関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学

<研究テーマ>人事行政

<主要研究業績>林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】

This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.



SOS700P1 - 001 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 A

廣瀬 克哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程3年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

### 【到達目標】

院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第3回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第4回	研究報告1	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第5回	研究報告2	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第6回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究計画の作成	これまでの研究を振り返り、3年目の研究計画を定める。
第8回	先行研究の整理	先行研究のレビューを完成させる。
第9回	現地調査の整理1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第10回	現地調査の整理2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第11回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。
第12回	研究報告4	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第13回	研究報告5	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第14回	研究報告6	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

行政学、公共政策学

### 【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 002 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 B

廣瀬 克哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程3年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

### 【到達目標】

院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	章立てに沿った執筆1	執筆を進める。
第3回	章立てに沿った執筆2	執筆した原稿の推敲を進める。
第4回	文献報告1	3年目の院生として文献報告を行い、その内容について相互に論評する。
第5回	文献報告2	2年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第6回	文献報告3	1年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第8回	理論枠組みの明確化	論文の理論枠組みを深める。
第9回	論文のオリジナリティの明確化	各自の研究における独自性について議論する。
第10回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第11回	英文によるサマリーの執筆	思考の明確化・訓練のために英文による文章作成を試みる。
第12回	研究報告1	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第13回	研究報告2	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第14回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

行政学、公共政策学

### 【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student completes his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 001 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 A

天本 哲史

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、博士論文を作成するための研究指導を行います。

### 【到達目標】

- ・学習や研究に資する知識を修得する。
- ・情報の検索、文献の読解、報告の作成、発表をできる。
- ・現実の社会的問題に対する新しい解決策を提言できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式で実施します。院生による研究報告と教員とのディスカッションをします。授業中に提示した課題等に対するフィードバックは、随時あるいは次の回で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション
第2回	研究指導①	院生による報告とディスカッション
第3回	研究指導②	院生による報告とディスカッション
第4回	研究指導③	院生による報告とディスカッション
第5回	研究指導④	院生による報告とディスカッション
第6回	研究指導⑤	院生による報告とディスカッション
第7回	研究指導⑥	院生による報告とディスカッション
第8回	研究指導⑦	院生による報告とディスカッション
第9回	研究指導⑧	院生による報告とディスカッション
第10回	研究指導⑨	院生による報告とディスカッション
第11回	研究指導⑩	院生による報告とディスカッション
第12回	研究指導⑪	院生による報告とディスカッション
第13回	研究指導⑫	院生による報告とディスカッション
第14回	研究報告	院生による報告とディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は演習形式で実施します。院生による研究報告と教員とのディスカッションをします。授業中に提示した課題等に対するフィードバックは、随時あるいは次の回で行います。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

### 【参考書】

特に指定しません。

### 【成績評価の方法と基準】

この授業は下記のように成績評価をします。

レポート（50%）、平常点（50%）を総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

### 【その他の重要事項】

特にありません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政法

<研究テーマ> ①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)

<主要研究業績>天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』（日本評論社、2019）

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students will acquire knowledge that contributes to research.
- ・ Students can search for information, read literature, write reports, and make presentations.
- ・ Students can propose new solutions to social problems.

#### 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

SOS700P1 - 002 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 B

天本 哲史

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、博士論文を作成するための研究指導を行います。

### 【到達目標】

- ・学習や研究に資する知識を修得する。
- ・情報の検索、文献の読解、報告の作成、発表をできる。
- ・現実の社会的問題に対する新しい解決策を提言できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式で実施します。院生による研究報告と教員とのディスカッションをします。授業中に提示した課題等に対するフィードバックは、随時あるいは次の回で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション
第2回	研究指導①	院生による発表とディスカッション
第3回	研究指導②	院生による発表とディスカッション
第4回	研究指導③	院生による発表とディスカッション
第5回	研究指導④	院生による発表とディスカッション
第6回	研究指導⑤	院生による発表とディスカッション
第7回	研究指導⑥	院生による発表とディスカッション
第8回	研究指導⑦	院生による発表とディスカッション
第9回	研究指導⑧	院生による発表とディスカッション
第10回	研究指導⑨	院生による発表とディスカッション
第11回	研究指導⑩	院生による発表とディスカッション
第12回	研究指導⑪	院生による発表とディスカッション
第13回	研究指導⑫	院生による発表とディスカッション
第14回	研究報告	院生による発表とディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出します。この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

### 【参考書】

特に指定しません。

### 【成績評価の方法と基準】

この授業は下記のように成績評価をします。

レポート（50%）、平常点（50%）を総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

### 【その他の重要事項】

特にありません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政法

<研究テーマ> ①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)

<主要研究業績>天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』（日本評論社、2019）

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students will acquire knowledge that contributes to research.
- ・ Students can search for information, read literature, write reports, and make presentations.
- ・ Students can propose new solutions to social problems.

#### 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

SOS700P1 - 001 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 A

糸久 正人

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文は概ね3本の学術論文から構成されます。本講義では、学術論文を書くためのアカデミックな作法を学び、ディスカッションを通じて研究のブラッシュアップを行います。最終的なゴールは、博士論文を完成させることです。

### 【到達目標】

- ・学術論文を書けるようになること
- ・学会発表を行えるようになること
- ・博士論文を完成させること
- ・研究者として自立すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎回、論文の進捗状況について報告し、必要な論点について議論します。議論の内容をもとに、調査分析を進めてください。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文とは何か	学問研究の観点から博士論文の意味を考えます。
第2回	先輩の意見を聞く	すでに博士号を取得した先輩に意見を聞きます。
第3回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第4回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第5回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第6回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第7回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第8回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第9回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第10回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第11回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第12回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第13回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第14回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

とくになし。

### 【参考書】

必要に応じて指定します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、研究報告50%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究  
自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究  
日本の生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』

糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczynski, M., and Itohisa, M. (2019) "Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes," *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) "Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach," *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

### 【Outline (in English)】

The dissertation typically comprises three academic papers. This seminar aims to equip you with the skills necessary to write academic papers and refine your research through ongoing discussions. The ultimate objective is to complete your dissertation.

Your overall grade in the class will be determined by the following criteria: 1) In-class contribution (50%), and 2) Short reports (50%).

SOS700P1 - 002 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 B

糸久 正人

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文は概ね3本の学術論文から構成されます。本講義では、学術論文を書くためのアカデミックな作法を学び、ディスカッションを通じて研究のブラッシュアップを行います。最終的なゴールは、博士論文を完成させることです。

### 【到達目標】

- ・学術論文を書けるようになること
- ・学会発表を行えるようになること
- ・博士論文を完成させること
- ・研究者として自立すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

論文の進捗状況を報告すること、必要な論点について議論すること、議論の結果を元に再度調べて報告すること、この繰り返しです。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の現在の進捗状況について報告する。	報告と討論。
第2回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第3回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第4回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第5回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第6回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第7回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第8回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第9回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第10回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第11回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第12回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第13回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第14回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストはなし。

### 【参考書】

討論の中で必要な文献を指定します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、研究報告50%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究

自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

日本の生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』

糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczynski, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

### 【Outline (in English)】

The dissertation typically comprises three academic papers. This seminar is designed to instruct you in the process of writing an academic paper and to refine your research skills through ongoing discussions. The ultimate objective is to complete your dissertation. Your overall grade in the class will be determined by the following criteria: 1) In-class contribution (50%), and 2) Short reports (50%).

SOS700P1 - 001 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 A

加藤 寛之

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

### 【到達目標】

公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジュメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

### 【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程1年目においては、研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として、その研究の進展を勘案して評価する。つづく2年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスションの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる3年目においては、博士學位論文の完成を到達目標とし、その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点100%。

### 【学生の意見等からの気づき】

双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

地域産業論、戦略論、生産管理、ファイナンス

### 【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 - 002 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 B

加藤 寛之

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を執筆するためのストラテジーを重視する

### 【到達目標】

公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

博論を書き進めてもらう。進捗管理

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

### 【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程1年目においては、研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として、その研究の進展を勘案して評価する。つづく2年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスションの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる3年目においては、博士學位論文の完成を到達目標とし、その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点100%。

### 【学生の意見等からの気づき】

双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

地域産業論、戦略論、生産管理、ファイナンス

### 【Outline (in English)】

Focus on strategies for writing a doctoral dissertation



SOS700P1 - 001 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 A

白鳥 浩

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

### 【到達目標】

公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジュメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

### 【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程1年目においては、研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として、その研究の進展を勘案して評価する。つづく2年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスションの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる3年目においては、博士学位論文の完成を到達目標とし、その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点100%。

### 【学生の意見等からの気づき】

双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

### 【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 - 002 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 B

白鳥 浩

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

### 【到達目標】

公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジュメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

### 【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程1年目においては、研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として、その研究の進展を勘案して評価する。つづく2年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスションの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる3年目においては、博士学位論文の完成を到達目標とし、その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点100%。

### 【学生の意見等からの気づき】

双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

### 【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 - 001 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 A

多田 和美

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程1年次の院生を対象に、博士論文を作成するための研究指導を行います。個々の院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に応じて指導しますが、1年次は主に研究計画の立案と理論研究を実施します。また、必要に応じて研究調査にも着手します。

### 【到達目標】

本授業では、次の3点に到達することを目標とします。

- 1)博士課程修了までに博士論文を完成できる。
- 2)博士論文の完成に向けて、適切な研究計画を立案できる。
- 3)研究計画にもとづいて調査を実施し、研究データを収集できる。

The goals of this course are the followings.

- 1)Writing of your thesis,
- 2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

演習形式を中心に実施し、各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより、研究を深化させていきます。なお、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	院生による報告とディスカッション
第2回	演習	院生による報告とディスカッション
第3回	演習	院生による報告とディスカッション
第4回	演習	院生による報告とディスカッション
第5回	演習	院生による報告とディスカッション
第6回	演習	院生による報告とディスカッション
第7回	演習	院生による報告とディスカッション
第8回	演習	院生による報告とディスカッション
第9回	演習	院生による報告とディスカッション
第10回	演習	院生による報告とディスカッション
第11回	演習	院生による報告とディスカッション
第12回	演習	院生による報告とディスカッション
第13回	演習	院生による報告とディスカッション
第14回	演習	院生による報告とディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。博士論文の完成に向けて、入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

### 【参考書】

多田和美（2014）『グローバル製品開発戦略』有斐閣。

この他、適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況：80%、ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

### 【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営論

<研究テーマ>

国際研究開発、新興国市場戦略

<主要研究業績>

法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

SOS700P1 - 002 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 B

多田 和美

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程1年次の院生を対象に、博士論文を作成するための研究指導を行います。個々の院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に応じて指導しますが、1年次は主に研究計画の立案と理論研究を実施します。また、必要に応じて研究調査にも着手します。

### 【到達目標】

本授業では、次の3点に到達することを目標とします。

- 1) 博士課程修了までに博士論文を完成できる。
- 2) 博士論文の完成に向けて、適切な研究計画を立案できる。
- 3) 研究計画にもとづいて調査を実施し、研究データを収集できる。

The goals of this course are the followings.

- 1) Writing of your thesis,
- 2) Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

演習形式を中心に実施し、各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより、研究を深化させていきます。なお、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	院生による報告とディスカッション
第2回	演習	院生による報告とディスカッション
第3回	演習	院生による報告とディスカッション
第4回	演習	院生による報告とディスカッション
第5回	演習	院生による報告とディスカッション
第6回	演習	院生による報告とディスカッション
第7回	演習	院生による報告とディスカッション
第8回	演習	院生による報告とディスカッション
第9回	演習	院生による報告とディスカッション
第10回	演習	院生による報告とディスカッション
第11回	演習	院生による報告とディスカッション
第12回	演習	院生による報告とディスカッション
第13回	演習	院生による報告とディスカッション
第14回	演習	院生による報告とディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。博士論文の完成に向けて、入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

### 【参考書】

多田和美（2014）『グローバル製品開発戦略』有斐閣。

この他、適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況：80%、ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

### 【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

博士論文の完成に向けて、入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営論

<研究テーマ>

国際研究開発、新興国市場戦略

<主要研究業績>

法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

SOS700P1 - 001 (その他の社会科学 / Social science 700)

公共政策学特殊研究 1 A

谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程1年目の院生を対象とする。院生は、自ら研究材料を獲得し、教員の指導と演習を通して研究の知見を積み重ねながら、博士論文のテーマ設定とフレーム構築をすすめる。

【到達目標】

- ・博士論文の研究テーマを確定する
- ・先行文献研究に着手する
- ・研究構想案を作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

院生の研究関心や調査研究の成果等についての報告を受けながら、研究の進捗に応じて博士論文執筆に必要な指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。

発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	当初の研究関心を表明し、その問題認識や研究のフレームについての討議を行う
第2回	研究ストックの報告	修士論文または現時点での研究関心に即した自身の研究成果を報告し、研究課題を整理する
第3回	研究構想の検討(1)	当初の問題関心に沿って、主要な先行研究のリサーチを進め、研究構想(案)を練る
第4回	研究構想の検討(2)	当初の問題関心に沿って、主要な先行研究のリサーチを進め、研究構想(案)を練る
第5回	研究構想の検討(3)	当初の問題関心に沿って、主要な先行研究のリサーチを進め、研究構想(案)を練る
第6回	研究構想の検討(4)	当初の問題関心に沿って、主要な先行研究のリサーチを進め、研究構想(案)を練る
第7回	研究構想(案)の報告	構想案の報告を受け、研究の意義や実現可能性を検討する
第8回	研究テーマの検討	研究テーマの変更も視野に入れながら、テーマ設定の方向性を確認する
第9回	研究の推進(1)	構想案に沿って、各自の研究作業を進める
第10回	研究の推進(2)	構想案に沿って、各自の研究作業を進める
第11回	研究の推進(3)	構想案に沿って、各自の研究作業を進める
第12回	研究成果の中間報告	研究作業で獲得した内容を報告し、討議を行う

第13回	研究成果の整理	春学期に獲得した研究成果について、リサーチペーパーをまとめる
第14回	研究作業計画の作成	春学期の研究作業状況を踏まえて、今年度後半の研究行程について計画を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生自身が設定したテーマに即し、自主的に研究課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究状況の報告70%、討議への参加姿勢30%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制  
<主要研究業績>

『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡[1947-2000]』(2019) 公人の友社

『「透明性」・『誠実性」・『戦術性」－“転職”を迫られる地方公務員』(2001)『分権社会と協働』(共著) ぎょうせい

『国による「上から」の自治体統制の持続と変容』(2008)『分権改革の動態』(共著) 東京大学出版会

『大都市行政区の「区民会議」と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に』(2016)『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

【Outline (in English)】

For graduate students in the first year of doctoral course. Graduate students acquire the research materials themselves, accumulate their research knowledge through the guidance and exercises of faculty members, and advance the theme setting and frame construction of doctoral dissertations.

By the end of the course students, should be able to do the followings:

- A. To decide the research theme
- B. To set about the research on preceding studies
- C. To design your research plan

Students will be expected to work on the research spontaneously.

Your overall grade will be decided based on the following Presentation (70%), participation in discussions (30%).

SOS700P1 - 002 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 B

谷本 有美子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程1年目の院生を対象とする。院生は、自ら研究材料を獲得し、教員の指導と演習を通して研究の知見を積み重ねながら、博士論文の素材を蓄積し、フレームを構築する。

### 【到達目標】

- ・先行文献研究のリサーチペーパーを作成する
- ・予備的現地調査等を行う
- ・1年次に探索した文献や資料の検討を通じ論点を提起する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。院生が獲得した研究成果についての報告を受けながら、研究の進捗に応じて、博士論文執筆に必要な指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの成果の確認	夏休みまでに獲得した研究成果を確認する
第2回	主要な先行研究の検証(1)	研究テーマに不可欠な重要な先行研究を題材に議論する
第3回	主要な先行研究の検証(2)	研究テーマに不可欠な重要な先行研究を題材に議論する
第4回	文献と資料の探索と要点整理(1)	研究テーマに関連する文献や資料を探索し、それぞれの要点を整理する
第5回	文献と資料の探索と要点整理(2)	研究テーマに関連する文献や資料を探索し、それぞれの要点を整理する
第6回	文献と資料の探索と要点整理(3)	研究テーマに関連する文献や資料を探索し、それぞれの要点を整理する
第7回	探索からの論点提起	既存の文献や資料の整理により導き出された論点を報告する
第8回	研究の推進(1)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第9回	研究の推進(2)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第10回	研究の推進(3)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第11回	研究の推進(4)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第12回	研究の推進(5)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第13回	研究成果の報告	秋学期に獲得した研究成果について、リサーチペーパーにまとめて報告する
第14回	1年次の総括と次年度研究作業計画の作成	初年度に獲得した研究成果を踏まえ、次年度の研究計画を作成する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生自身が設定したテーマに即して、自主的に研究課題に取り組む。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究状況の報告70%、討議への参加姿勢30%の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治  
 <研究テーマ>中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制  
 <主要研究業績>  
 『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡[1947-2000]』(2019) 公人の友社  
 『「透明性」・「誠実性」・「戦術性」－“転職”を迫られる地方公務員』(2001)『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい  
 『国による「上から」の自治体統制の持続と変容』（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会  
 『大都市行政区の「区民会議」と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に』（2016）『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

### 【Outline (in English)】

For graduate students in the first year of doctoral course. Graduate students acquire research materials themselves, accumulate research knowledge through the guidance and exercises of faculty members, and build frames while examining information and data for doctoral dissertations.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To make the research paper on preceding studies
  - B. To do preliminary survey on field or case study
  - C. To raise issues from the research in the first year
- Students will be expected to work on the research spontaneously.

Your overall grade will be decided based on the following Presentation (70%), participation in discussions (30%).

SOS700P1 - 001 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 A

北浦 康嗣

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共経済学および経済成長理論を理解した上で、現実の社会課題に対して、どのように取り組みことが望ましいかについて、経済理論的に検討することを目的とする。

### 【到達目標】

- (1) 現実の社会課題を経済理論的に説明できる。
- (2) 先行研究と自身の社会課題の違いが説明できる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

博士課程では、関心のある社会課題に対して、修士論文に基づいて、先行研究と自身の考えを比較しつつ報告を行う。その上で、学会や研究集会で報告できる能力を養う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後、読むべき先行研究を報告してもらいます。
第2回	先行研究の報告（1）	1本目の先行研究を報告してもらいます。
第3回	先行研究の分析（1）	1本目の先行研究における分析方法を報告してもらいます。
第4回	先行研究の課題（1）	1本目の先行研究における課題を報告してもらいます。
第5回	先行研究の評価（1）	1本目の先行研究における評価を行います。
第6回	先行研究の報告（2）	2本目の先行研究を報告してもらいます。
第7回	先行研究の分析（2）	2本目の先行研究における分析方法を報告してもらいます。
第8回	先行研究の課題（2）	2本目の先行研究における課題を報告してもらいます。
第9回	先行研究の評価（2）	2本目の先行研究における評価を行います。
第10回	先行研究の報告（3）	3本目の先行研究を報告してもらいます。
第11回	先行研究の分析（3）	3本目の先行研究における分析方法を報告してもらいます。
第12回	先行研究の課題（3）	3本目の先行研究における課題を報告してもらいます。
第13回	先行研究の評価（3）	3本目の先行研究における評価を行います。
第14回	先行研究における論点整理	これまで読んだ先行研究との違いについて報告してもらいます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、先行研究（英文）を読み込んでください。

### 【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

### 【参考書】

授業中に指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

先行研究と関心がある社会課題との違いを分析した論文10,000字で評価します（100%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めてです。

### 【その他の重要事項】

経済成長理論に基づいた経済理論的な分析を行います。それ以外は一切認めません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学、公共経済学

<研究テーマ>

開発途上国における教育の役割

<主要研究業績>

Kitaura, Koji & Miyazawa, Kazutoshi, 2021. "Inequality and conditionality in cash transfers: Demographic transition and economic development," *Economic Modelling*, Elsevier, vol. 94(C), pages 276-287.

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to understand public economics and economic growth theory, and to think about how it is desirable to deal with real-world social problems from the perspective of economic theory.

SOS700P1 - 002 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 1 B

北浦 康嗣

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共経済学および経済成長理論を理解した上で、現実の社会課題に対して、どのように取り組みことが望ましいかについて、経済理論的に検討することを目的とする。

### 【到達目標】

- (1) 先行研究と博士文案との違いが説明できる。
- (2) 執筆した博士論文に基づいて社会課題の議論ができる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

博士課程では、関心のある現実の社会課題に対して、修士論文に基づいて、自身の考えを深めつつ報告を行う。その上で、博士論文としてまとめあげる能力を養う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	先行研究の論点整理について説明します。
第2回	先行研究における論点整理の報告（1）	先行研究の論点整理について、博士論文との共通点について報告してもらいます。
第3回	先行研究における論点整理の報告（2）	先行研究の論点整理について、博士論文と異なる点について報告してもらいます。
第4回	先行研究における論点整理の報告（3）	先行研究の論点整理について、残された課題について報告してもらいます。
第5回	先行研究における論点整理の報告（4）	先行研究の論点整理について、博士論文における位置づけについて報告してもらいます。
第6回	博士論文の報告（1）	博士論文のアイデアについて報告してもらいます。
第7回	博士論文の報告（2）	博士論文の分析方法について報告してもらいます。
第8回	博士論文の報告（3）	博士論文の考察について報告してもらいます。
第9回	博士論文の報告（4）	博士論文の残された課題について報告してもらいます。
第10回	博士論文の改善報告（1）	博士論文のアイデアについて改善報告してもらいます。
第11回	博士論文の改善報告（2）	博士論文の分析方法について改善報告してもらいます。
第12回	博士論文の改善報告（3）	博士論文の考察について改善報告してもらいます。
第13回	博士論文の改善報告（4）	博士論文の残された課題について改善報告してもらいます。
第14回	博士論文の最終報告	博士論文について最終報告してもらいます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、先行研究（英文）を読み込んでください。

### 【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

### 【参考書】

授業中に指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

博士論文の執筆で評価します（100％）。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めてです。

### 【その他の重要事項】

経済成長理論に基づいた経済理論的な分析を行います。それ以外は一切認めません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
マクロ経済学、公共経済学  
<研究テーマ>  
開発途上国における教育の役割  
<主要研究業績>

Kitaura, Koji & Miyazawa, Kazutoshi, 2021. "Inequality and conditionality in cash transfers: Demographic transition and economic development," *Economic Modelling*, Elsevier, vol. 94(C), pages 276-287.

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to gain an understanding of public economics and economic growth theory, and then consider how it is desirable to address actual social issues from the perspective of economic theory.



SOS700P1 - 003 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 2 A

杉崎 和久

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

### 【到達目標】

都市政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成することを目標とする。特に3年春学期は、博士論文本論執筆に向けて、学会論文等の投稿を行うこととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	春季休暇期間の進捗状況の報告をし、研究計画を検討する。
第 3.4 回	論文投稿の準備	学会等への論文投稿のための報告を行い、指導をする。
第 5.6 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 7.8 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 9.10 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 11.12 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 13.14 回	ふりかえり	夏季休暇期間中の研究計画の検討を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

### 【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

### 【参考書】

適宜、推薦する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

論文研究指導科目については、授業改善アンケートを実施していない。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】  
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

#### 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%) ,and reports (40%) .

SOS700P1 - 004 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 2 B

杉崎 和久

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

### 【到達目標】

都市政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成する能力を獲得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1.2回	オリエンテーション	夏季休暇期間中の進捗状況の報告、今後の研究計画を検討する。
第3.4回	都市政策セミナー大学院生セッションの投稿	都市政策セミナー大学院生セッションに投稿する論文の確認をする。
第5.6回	博士論文執筆状況の報告	都市政策セミナー大学院生セッションにおける発表の練習をする。。
第7.8回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第9.10回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第11.12回	博士論文の提出確認	博士論文の提出に向けた、作業報告を行い、指導をうける。
第13.14回	博士論文口述試験の準備	口述試験に向けた発表準備を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

### 【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

### 【参考書】

適宜、推薦する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

論文研究指導科目については、授業改善アンケートを実施していない。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

### 【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%), and reports (40%).

SOS700P1 - 003 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 2 A

土山 希美枝

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程の2年め前期に求められる研究活動の展開を確認するための科目。学生は、博士論文作成のためのテーマをめぐり、知見の涵養、研究計画にそった研究活動の展開をすすめる、ひきつづき情報、資料、論文、文献の収集と調査により考察を深め、自らの独創性を模索する。

### 【到達目標】

この講義は以下を到達目標とする。

- ・研究計画を確認、必要があれば調整し、計画に沿って研究を進める
- ・テーマをめぐり、情報、資料、論文、文献の収集と調査を進める
- ・テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の確認	研究計画を確認し、必要であれば調整を加える
第2回～ 第5回	知見の整理	先行研究や資料収集の状況を確認する
第6回～ 第13回	執筆を進める	研究計画や論文の基本的方向に基づいて執筆を進める
第14回	春学期の総括、秋学期の構想	計画とその進捗を振り返り、夏季休暇と秋学期の研究計画を検討する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要なものである。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

研究の進展に応じて適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

### 【Outline (in English)】

Course outline;

In this lecture, students will make the necessary research progress in the spring semester of the 2nd year of the doctor-course.

Students will cultivate their knowledge on the topic for the preparation of their doctoral thesis.

Students will continue their research activities according to their research plan and will continue to collect and research information, materials, studies and literature and to search for their own originality.

Courses to check the development of research activities required in the first semester of the second year of the doctoral programme.

Students will review their research plan, make adjustments if necessary, and carry out their research in accordance with the plan.

Gathering and researching information, documents, materials, studies and literature on the subject

Discussing the topic, fostering knowledge and seeking their own originality approach to the thesis

Learning Objectives;

- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.

- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.

- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.

SOS700P1 - 004 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 2 B

土山 希美枝

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程の2年め後期に求められる研究活動の展開を確認するための科目。学生は、博士論文作成のためのテーマをめぐり、知見の涵養、研究計画にそった研究活動の展開をすすめる、ひきつづき情報、資料、論文、文献の収集と調査により考察を深め、自らの独創性を模索する。

### 【到達目標】

この講義は以下を到達目標とする。

- ・ 研究計画を確認、必要があれば調整し、計画に沿って進める
- ・ テーマをめぐり、情報、資料、文献の収集と調査を進める
- ・ テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の確認	研究の進捗を振り返り、調整し、計画に沿って秋学期のタスクを確認する
第2回～ 第13回	研究活動の展開について報告	研究活動を進め、進捗を報告する
第14回	総括と研究計画の確認	秋学期の研究の到達点を確認し、今後の進め方を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。

### 【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、  
報告と説明 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 公共政策、地方自治、政治学  
 〈研究テーマ〉 社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。  
 〈主要研究業績〉 『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

### 【Outline (in English)】

Course outline;

In this lecture, students will make the necessary research progress in the autumn semester of the 2nd year of the doctor-course.

Students will cultivate their knowledge on the topic for the preparation of their doctoral thesis.

Students will continue their research activities according to their research plan and will continue to collect and research information, materials, studies and literature and to search for their own originality.

Courses to check the development of research activities required in the first semester of the second year of the doctoral programme.

Students will review their research plan, make adjustments if necessary, and carry out their research in accordance with the plan.

Gathering and researching information, documents, materials, studies and literature on the subject

Discussing the topic, fostering knowledge and seeking their own originality approach to the thesis

Learning Objectives;

- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.

- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.

- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS700P1 - 003 (その他の社会科学 / Social science 700)

公共政策学特殊研究 2 A

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程2年目の院生を対象に、公共政策学に新たな知見を与え得る博士論文を執筆すべく指導を行うものである。

【到達目標】

受講生に自らの研究テーマに関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得させ、専門的な学会や学術雑誌での発表や投稿を経験させたくて、最終的に博士論文を完成させるに足る研究力量を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。

各履修者の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるが、まさに目安として、1年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。

基本的には対面で行うことを予定しているが、感染状況によってZoomによるオンラインに切りかえて行う場合がある。指導学生を登録したGoogle Classroomを設定する予定であり、発表資料等はそれを使って共有する。

学生へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第3回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第4回	研究報告1	3年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第5回	研究報告2	2年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第6回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究計画の作成	1年目の研究計画を振り返り、2～3年目の研究計画を定める。
第8回	先行研究の整理	先行研究のレビューに関する章の執筆を試みる。
第9回	現地調査の整理1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第10回	現地調査の整理2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第11回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。

第12回 研究報告4

3年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

第13回 研究報告5

2年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。

第14回 研究報告6

1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】  
各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】  
教科書は使用しない。

【参考書】  
なし。

【成績評価の方法と基準】  
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】  
特になし。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > コミュニティ政策論

< 研究テーマ > 都市内分権（特に日本とドイツ）、自治会・町内会の研究、地域集会所の施設の研究。

< 主要研究業績 >

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』日本評論社、2018年、257～287頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性—宮崎市の地域自治制度の運用を素材として」『法学志林』第118巻第3号、2020年、1～88頁。単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望—高松市を素材として～」『法学志林』第119巻第2号、2021年、57～104頁。

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. Each student should obtain the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 004 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 2 B

名和田 是彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程2年目の院生を対象に、公共政策学に新たな知見を与え得る博士論文を執筆すべく指導を行うものである。

### 【到達目標】

受講生に自らの研究テーマに関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得させ、専門的な学会や学術雑誌での発表や投稿を経験させたい。最終的に博士論文を完成させるに足る研究力量を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。

各履修者の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるが、まさに目安として、1年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

基本的には対面で行うことを予定しているが、感染状況によってZoomによるオンラインに切りかえて行う場合がある。指導学生を登録したGoogle Classroomを設定する予定であり、発表資料等はそれを使って共有する。

学生へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	資料の収集	研究対象とする資料にアクセスする。
第3回	基本的な文献の検討	基本的な文献を批判的に検討する。
第4回	文献報告1	3年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第5回	文献報告2	2年目の院生として文献報告を行い、その内容について相互に論評する。
第6回	文献報告3	1年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第8回	理論枠組みの明確化	論文の基本的な理論枠組みを検討する。
第9回	論文のオリジナリティの明確化	各自の研究における独自性について議論する。
第10回	リサーチ・プロポーザルの作成	プロポーザルを更新する。
第11回	英文によるサマリーの執筆	思考の明確化・訓練のために英文による文章作成を試みる。
第12回	研究報告1	3年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

第13回	研究報告2	2年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第14回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】  
各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】  
教科書は使用しない。

【参考書】  
なし。

【成績評価の方法と基準】  
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】  
特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > コミュニティ政策論

< 研究テーマ > 都市内分権（特に日本とドイツ）、自治会・町内会の研究

< 主要研究業績 >

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）単著論文「プレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』日本評論社、2018年、257～287頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性—宮崎市の地域自治制度の運用を素材として」『法学志林』第118巻第3号、2020年、1～88頁。単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望～高松市を素材として～」『法学志林』第119巻第2号、2021年、57～104頁。

### 【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. Each student should obtain the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 003 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 2 A

廣瀬 克哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程3年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

### 【到達目標】

院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第3回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第4回	研究報告1	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第5回	研究報告2	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第6回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究計画の作成	これまでの研究を振り返り、3年目の研究計画を定める。
第8回	先行研究の整理	先行研究のレビューを完成させる。
第9回	現地調査の整理1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第10回	現地調査の整理2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第11回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。
第12回	研究報告4	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第13回	研究報告5	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第14回	研究報告6	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

行政学、公共政策学

### 【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 004 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 2 B

廣瀬 克哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程3年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

### 【到達目標】

院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	章立てに沿った執筆1	執筆を進める。
第3回	章立てに沿った執筆2	執筆した原稿の推敲を進める。
第4回	文献報告1	3年目の院生として文献報告を行い、その内容について相互に論評する。
第5回	文献報告2	2年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第6回	文献報告3	1年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第8回	理論枠組みの明確化	論文の理論枠組みを深める。
第9回	論文のオリジナリティの明確化	各自の研究における独自性について議論する。
第10回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第11回	英文によるサマリーの執筆	思考の明確化・訓練のために英文による文章作成を試みる。
第12回	研究報告1	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第13回	研究報告2	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第14回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

行政学、公共政策学

### 【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student completes his/her doctoral dissertation.



SOS700P1 - 005 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 3 A

杉崎 和久

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

### 【到達目標】

都市政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成することを目標とする。特に3年春学期は、博士論文本論執筆に向けて、学会論文等の投稿を行うこととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	春季休暇期間の進捗状況の報告をし、研究計画を検討する。
第 3.4 回	論文投稿の準備	学会等への論文投稿のための報告を行い、指導をする。
第 5.6 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 7.8 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 9.10 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 11.12 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 13.14 回	ふりかえり	夏季休暇期間中の研究計画の検討を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

### 【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

### 【参考書】

適宜、推薦する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

論文研究指導科目については、授業改善アンケートを実施していない。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】  
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%) ,and reports (40%) .

SOS700P1 - 006 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 3 B

杉崎 和久

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

### 【到達目標】

都市政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成する能力を獲得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1.2回	オリエンテーション	夏季休暇期間中の進捗状況の報告、今後の研究計画を検討する。
第3.4回	都市政策セミナー大学院生セッションの投稿	都市政策セミナー大学院生セッションに投稿する論文の確認をする。
第5.6回	博士論文執筆状況の報告	都市政策セミナー大学院生セッションにおける発表の練習をする。。
第7.8回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第9.10回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第11.12回	博士論文の提出確認	博士論文の提出に向けた、作業報告を行い、指導をうける。
第13.14回	博士論文口述試験の準備	口述試験に向けた発表準備を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

### 【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

### 【参考書】

適宜、推薦する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

論文研究指導科目については、授業改善アンケートを実施していない。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

### 【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%), and reports (40%).

SOS700P1 - 005 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 3 A

土山 希美枝

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程の3年め春学期に求められる研究活動の展開を確認するための科目。学生は、論文の完成を視野において執筆を進める。

### 【到達目標】

学生は、研究計画に沿って、論文構想に基づいて、論文執筆を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究計画と進捗の確認	執筆の完成に向けて、タスクを整理する
2-6	先行研究、歴史的展開などのfact部分の論述	執筆を進める
7-11	分析、考察部分の論述	執筆を進める
12-14	独自性の確認、補強	執筆を進める

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要なものである。

### 【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、  
報告と説明 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かす。

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学  
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

### 【Outline (in English)】

Course outline;

This lecture is designed to develop of research activities in the spring semester of the 3rd year student of the doctor-course. Students proceed with their writing with a view to completing their dissertation.

Learning Objectives;

- The student proceeds with the thesis concept in accordance with the research plan.

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS700P1 - 006 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 3 B

土山 希美枝

その他属性：

- Students submit the first draft of their doctor thesis early in the autumn term.  
 - The student completes the doctoral thesis by making revisions to the submitted draft.  
 Learning activities outside of classroom;  
 Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their doctor thesis

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士後期課程 3 年次向けの論文指導科目として、博士論文の完成を図る。

### 【到達目標】

本講義の到達目標は以下である；

- ・ 秋学期の早い時期に博士論文の第一稿を提出する
- ・ 必要な修正を行い、博士論文を完成させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	論文第一稿の検討、修正点の確認	全体を通読し、審査委員会の指摘も踏まえ、必要な修正点を確認する
3-7	修正作業を進める	博士論文第一稿の修正作業を進める
8	論文修正稿の検討、追加修正や補完点の確認	全体を通読し、審査委員会の指摘を踏まえ、必要な修正や補完点を確認する
9-13	修正作業を進める	修正作業を進める
14	完成原稿の確認	博士論文の完成

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない

### 【参考書】

適宜指示する

### 【成績評価の方法と基準】

博士論文の第一稿から完成までの内容 100%

### 【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かす

### 【担当教員の専門分野】

〈専門領域〉 公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉 社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉 『高度成長期「都市政策」の政治過程』 日本評論社、2007年。『質問力をつくる政策議会』 公人の友社、2017年。

### 【Outline (in English)】

Course outline;

This lecture is designed to develop of research activities in the autumn semester of the 3rd year student of the doctor-course. Students are expected to complete a doctor thesis.

Learning Objectives;

SOS700P1 - 005 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 3 A

名和田 是彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程3年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

### 【到達目標】

院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第3回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第4回	研究報告1	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第5回	研究報告2	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第6回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究計画の作成	これまでの研究を振り返り、3年目の研究計画を定める。
第8回	先行研究の整理	先行研究のレビューを完成させる。
第9回	現地調査の整理1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第10回	現地調査の整理2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第11回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。
第12回	研究報告4	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第13回	研究報告5	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第14回	研究報告6	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > コミュニティ政策論

< 研究テーマ > 都市内分権（特に日本とドイツ）、自治会・町内会の研究、地域集会施設の研究。

< 主要研究業績 >

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』日本評論社、2018年、257~287頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性—宮崎市の地域自治制度の運用を素材として」『法学志林』第118巻第3号、2020年、1~88頁。単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望—高松市を素材として—」『法学志林』第119巻第2号、2021年、57~104頁。

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 006 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 3 B

名和田 是彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程3年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

### 【到達目標】

院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	章立てに沿った執筆1	執筆を進める。
第3回	章立てに沿った執筆2	執筆した原稿の推敲を進める。
第4回	文献報告1	3年目の院生として文献報告を行い、その内容について相互に論評する。
第5回	文献報告2	2年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第6回	文献報告3	1年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第8回	理論枠組みの明確化	論文の理論枠組みを深める。
第9回	論文のオリジナリティの明確化	各自の研究における独自性について議論する。
第10回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第11回	英文によるサマリーの執筆	思考の明確化・訓練のために英文による文章作成を試みる。
第12回	研究報告1	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第13回	研究報告2	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第14回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > コミュニティ政策論

< 研究テーマ > 都市内分権（特に日本とドイツ）、自治会・町内会の研究、地域集会施設の研究。

< 主要研究業績 >

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』日本評論社、2018年、257~287頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性—宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第118巻第3号、2020年、1~88頁。単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望—高松市を素材として—」『法学志林』第119巻第2号、2021年、57~104頁。

### 【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student completes his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 005 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 3 A

廣瀬 克哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程3年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

### 【到達目標】

院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第3回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第4回	研究報告1	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第5回	研究報告2	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第6回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究計画の作成	これまでの研究を振り返り、3年目の研究計画を定める。
第8回	先行研究の整理	先行研究のレビューを完成させる。
第9回	現地調査の整理1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第10回	現地調査の整理2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第11回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。
第12回	研究報告4	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第13回	研究報告5	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第14回	研究報告6	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

行政学、公共政策学

### 【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 006 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 3 B

廣瀬 克哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程3年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

### 【到達目標】

院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	章立てに沿った執筆1	執筆を進める。
第3回	章立てに沿った執筆2	執筆した原稿の推敲を進める。
第4回	文献報告1	3年目の院生として文献報告を行い、その内容について相互に論評する。
第5回	文献報告2	2年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第6回	文献報告3	1年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第8回	理論枠組みの明確化	論文の理論枠組みを深める。
第9回	論文のオリジナリティの明確化	各自の研究における独自性について議論する。
第10回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第11回	英文によるサマリーの執筆	思考の明確化・訓練のために英文による文章作成を試みる。
第12回	研究報告1	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第13回	研究報告2	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第14回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

行政学、公共政策学

### 【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student completes his/her doctoral dissertation.



SOS700P1 - 005 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 3 A

白鳥 浩

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

### 【到達目標】

公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジュメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

### 【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程1年目においては、研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として、その研究の進展を勘案して評価する。つづく2年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスションの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる3年目においては、博士学位論文の完成を到達目標とし、その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点100%。

### 【学生の意見等からの気づき】

双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

### 【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 - 006 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 3 B

白鳥 浩

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

### 【到達目標】

公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジュメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

### 【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程1年目においては、研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として、その研究の進展を勘案して評価する。つづく2年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスションの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる3年目においては、博士学位論文の完成を到達目標とし、その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点100%。

### 【学生の意見等からの気づき】

双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

### 【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 - 005 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 3 A

谷本 有美子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程3年次以上の院生を対象とする。院生は、自らの論文構想に沿って執筆作業をすすめ、教員に成案を提出する。

### 【到達目標】

博士論文の成案を作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

院生から論文草稿の報告を受け、教員が進捗に応じた指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。

報告に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	執筆スケジュールの確認	各自の論文構想に従い、年間の論文執筆スケジュールを作成する
第2回	論文草案の執筆(1)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第3回	論文草案の執筆(2)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第4回	論文草案の執筆(3)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第5回	論文草案の執筆(4)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第6回	論文草案の報告と討議(1)	論文草案を報告し、教員と討議を行う
第7回	論文草案の執筆(5)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第8回	論文草案の執筆(6)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第9回	論文草案の執筆(7)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第10回	論文草案の報告と討議(2)	論文草案を報告し、教員と討議を行う
第11回	論文草案の執筆(8)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第12回	論文草案の執筆(9)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第13回	論文草案の執筆(10)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第14回	草案の報告・討議と成案作成工程の確認	論文草案の報告、教員との討議を行った上で、成案作成工程を確認する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生自身が設定した論文構想・スケジュールに沿って、自主的に論文執筆に取り組む。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究状況の報告70%、討議への参加姿勢30%の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>

『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡[1947-2000]』(2019) 公人の友社

『「透明性」・『誠実性」・『戦術性」－“転職”を迫られる地方公務員』(2001)『分権社会と協働』(共著) ぎょうせい

『国による「上から」の自治体統制の持続と変容』(2008)『分権改革の動態』(共著) 東京大学出版会

『大都市行政区の「区民会議」と市民参加のアジェンダー 神奈川県内の指定都市を題材に』(2016)『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

### 【Outline (in English)】

For graduate students in and over the third year of doctoral course. Graduate students advance the writing work according to their thesis concept and submit a draft to the faculty member.

By the end of the course, students should be able to draft of doctoral dissertation.

Students will be expected to work on research subjects voluntarily according to the schedule set by the graduate students themselves.

Your overall grade will be decided based on the following Presentation (70%), participation in discussions (30%).

SOS700P1 - 006 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 3 B

谷本 有美子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程3年次以上の院生を対象とする。院生は、自らの論文構想に沿って博士論文を仕上げる。

### 【到達目標】

博士論文を完成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

院生が提出した論文成案についての報告を受け、適宜修正等の指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。

発表に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文仕上げに必要な諸事項の確認	夏休みに提出した論文成案について、修正事項や仕上げまでの作業を確認する
第2回	論文の仕上げ(1)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第3回	論文の仕上げ(2)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第4回	論文の仕上げ(3)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第5回	論文の仕上げ(4)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第6回	討論(1)	執筆済みの論文内容について教員と討論する
第7回	論文の仕上げ(5)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第8回	論文の仕上げ(6)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第9回	論文の仕上げ(7)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第10回	論文の仕上げ(8)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第11回	討論(2)	執筆済みの論文内容について教員と討論する
第12回	論文の仕上げ(9)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第13回	論文の仕上げ(10)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第14回	討論(3)	論文完成稿に基づき教員と討論を行う

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生自身が設定したスケジュールに沿って、自主的に論文執筆に取り組む。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究状況の報告70%、討議への参加姿勢30%の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制  
<主要研究業績>

『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡[1947-2000]』(2019) 公人の友社

『「透明性」・『誠実性」・『戦術性」－“転職”を迫られる地方公務員』(2001)『分権社会と協働』(共著) ぎょうせい

『国による「上から」の自治体統制の持続と変容』(2008)『分権改革の動態』(共著) 東京大学出版会

『大都市行政区の「区民会議」と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に』(2016)『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

### 【Outline (in English)】

For graduate students in and over the third year of doctoral course. Graduate students complete a doctoral dissertation according to the concept of one's own thesis.

By the end of the course, students should be able to complete the thesis.

Students will be expected to work on research subjects voluntarily according to the schedule set by the graduate students themselves.

Your overall grade will be decided based on the following Presentation (70%), participation in discussions (30%).

POL700P1 - 107 (政治学 / Politics 700)

地方自治特殊研究

渡部 朋宏

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・日本においては、いづれどこで大規模災害が発生してもおかしくない状況にある。大規模災害や事故により住民の避難を要する事態が発生したとき、地方自治の意義が改めて問われる。  
 ・本授業の前半では、福島原発事故を題材として、自治の現場で発生している様々な課題についてのゲストスピーカーによる報告を踏まえ、ディスカッションを行う。  
 ・授業の後半では、テキスト「地方自治講義」から受講者が興味のある地方自治の分野を選択し、その内容の報告を基にディスカッションを行い、地方自治の意義について学ぶ。

【到達目標】

・他者の報告に対して、自分の意見を的確に述べるができる。  
 ・地方自治の書籍を精読し、著者の意見を整理した上で、自らの意見と根拠を明確に述べるとともに、論点を示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

・第1回から第8回までは講師及びゲストスピーカーによる報告を踏まえたディスカッションを中心に授業を進める。  
 ・第9回から第14回までは指定されたテキストの精読を前提として、担当する項目において「著者の意図」「報告者の意見とその根拠」「論点」の報告を踏まえたディスカッションにより授業を進める。  
 ・授業の主体は受講者であり、積極的な発言を望む。また、事前に参考書を読んでおくなど、関連する情報を集め、問題意識を高めておくことを推奨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業全体の概要、目的を説明した上で、授業後半の報告担当分野を設定する。
第2回	福島第一原発事故と地方自治①（避難者受入自治体の事例）	福島原発事故における避難者受入自治体職員からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第3回	福島第一原発事故と地方自治②（避難自治体の事例）	福島原発事故における避難自治体職員からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第4回	福島第一原発事故と地方自治③（分断された自治体の事例）	福島原発事故における市町村合併により広域化された自治体職員からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第5回	福島第一原発事故と地方自治④（避難住民の視点）	福島原発事故における避難住民からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第6回	福島第一原発事故と地方自治⑤（報道記者の視点）	福島原発事故における報道記者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第7回	原発避難と地方自治の論点	これまでのゲストスピーカー等の報告を踏まえ、地方自治の論点を整理する。
第8回	住民登録制度と自治	福島原発事故と地方自治についての論点を踏まえ、住民概念に着目し、講義、ディスカッションを行う。

第9回	自治体の多様な側面	自治体の多様な側面に着目し、受講者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第10回	地方自治の原理と歴史	地方自治の原理と歴史に着目し、受講者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第11回	公共政策と行政改革	公共政策を行政改革に着目し、受講者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第12回	地域社会と市民参加	地域社会と行政改革に着目し、受講者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第13回	憲法と地方自治	憲法と行政改革に着目し、受講者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行う。
第14回	縮小社会の中の自治体 まとめ	縮小社会の中の自治体に着目し、受講者からの報告を踏まえ、ディスカッションを行い、全体のまとめを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・第1回から第8回までは準備学習・復習時間は特に必要としないが、授業時間内は集中し、積極的に質問や意見を述べ、ディスカッションに参加すること。  
 ・第9回から第14回までは指定されたテキストの精読を前提として、担当する分野において「筆者の意図」「報告者の意見とその根拠」「論点」の整理と報告を求める。  
 ・各人が各回のテーマに関連する情報を集め問題意識を高めておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

・今井照（2017）『地方自治講義』 筑摩書房（後半に使用する）

【参考書】

・今井照・自治体政策研究会・編著（2016）『福島インサイドストーリー 役場職員が見た原発避難と震災復興』 公人の友社  
 ・渡部朋宏著（2020）『住民論 統治の対象としての住民から自治の主体としての住民へ』 公人の友社

【成績評価の方法と基準】

授業中の意見発表や議論参加への積極性（50%）、報告資料及び説明（50%）

【学生の意見等からの気づき】

・学生の論文作成テーマと関わるかどうかに限らず、学生による様々な質問・意見から相互に学びあうことができる。講義中の質疑による理解の深まりに期待したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【渡部】

〈専門領域〉  
 地方自治、公共政策、住民論  
 〈研究テーマ〉  
 住民概念、地方自治、原発避難  
 〈研究業績〉  
 ①『住民論 統治の対象としての住民から自治の主体としての住民へ』 公人の友社（2020.12）自治体学会【研究論文賞受賞】  
 ②「福島原発事故避難の実態と「住民」概念の転換－統治のための住民から住民による自治へ－」自治体学vol.31-1（2017.11）自治体学会【自治体学研究奨励賞受賞】  
 ③「震災復興の現状と課題」地方自治職員研修通巻708号（2018.3）公職研  
 ④「人口減少社会における「住民」概念の考察～福島原発事故避難自治体の実態から～」自治実務セミナー2018年12月 第一法規  
 ⑤「「住民」概念の研究～統治される対象としての住民から自治の主体としての住民へ～」公共政策志林第7号2019年3月 法政大学大学院公共政策研究科

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・ In Japan, a large-scale disaster could occur anytime and anywhere. When a large-scale disaster or accident occurs, requiring the evacuation of residents, the significance of local autonomy is once again called into question.

・ In the first half of this class, we will discuss the Fukushima nuclear power plant accident based on reports from guest speakers about various issues occurring in the local government field.

・ In the second half of the class, participants select an area of local government that they are interested in from the textbook “Lecture on Local Government,” and have a discussion based on the report to learn about the significance of local government.

**【Learning Objectives】**

・ Able to accurately express one’s opinion in response to reports from others.

・ After reading books on local autonomy and organizing the author’s opinions, you will be able to clearly state your opinion with evidence and present the points at issue.

**【Learning activities outside of classroom】**

・ No special preparation study or review time is required from the 1st to the 8th class, but students should concentrate during class, actively ask questions and express their opinions, and participate in the discussion.

・ From the 9th to the 14th sessions, participants are asked to organize and report on “the author’s intent”, “their own opinion and its basis”, and “points at issue” in their field of expertise.

・ The participants are the main actors in the class, and they are expected to actively speak out. We also recommend that you read reference books in advance to gather relevant information and increase your awareness of the issues.

**【Grading Criteria /Policy】**

・ Activeness in expressing opinions and participating in discussions during class (50%), reporting materials and explanations (50%).

POL700P1 - 108 (政治学 / Politics 700)

**政策過程特殊研究**

土山 希美枝

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

政策は、こんにちの社会（都市型社会）で生きるひとびとの「いとなみの基盤」である。都市型社会の構造と特質を理論的にも深く知り、都市型社会という基盤の上に、こんにちにいたるまで歴史的にどのような政策類型が蓄積されてきたかを理解し、政策主体と〈政策・制度〉のありかたを理解する。そのうえで、政策過程がどのように進むのかを学ぶ。この講義を通じて、各自の研究対象とする政策分野を政策学として捉え論じる資格を得ることをめざす。

**【到達目標】**

この講義の到達目標は以下である。  
 ・公共政策が展開される前提であるこんにちの社会構造（都市型社会）の特質を理論的にも理解する  
 ・歴史的に形成されてきた政策類型をふまえ  
 ・公共政策の過程を学理解し  
 ・各自の研究対象とする政策分野を政策学として論じる視角を得る

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

テキストの読解と議論、考察により進行する。受講生はテキストの指定された章について分担して要点と論点をまとめ、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。必要に応じて補足資料が提供される。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。なお、原則として対面講義とする。  
 ※初回開講時にはテキスト1章を読了して参加すること。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	の講義の目的、テキストの概説と進めかた、報告の分担など
第2回	講義「政治・政策と市民」	都市型社会における〈政策・制度〉と市民の関係を学ぶ（第1章）
第3回	都市型社会の特性	都市型社会と政策の特性を学ぶ（第2章）
第4回	都市型社会の成立	政策の歴史と類型を学ぶ（第3章）
第5回	政策の多元化	政府の三層化と政策（第4章）
第6回	日本と近代化	日本の政策を条件づける近代化を整理（第5章）
第7回	政策の主体	都市型社会における政策主体の多様化を学ぶ（第6章）
第8回	政策の資源：政治技術と政策手法	政治技術と政策手法を学ぶ（第7章）
第9回	政策の資源：政府と資源の調達	政策の資源とその調達、政府の機能の転換を学ぶ（第8章）
第10回	政策型思考の特質	政策型思考の特質と論理を学ぶ（第9章）
第11回	政治思考の特質	政治思考と〈決断〉の特質を学ぶ（第10章）
第12回	政策型思考と政策主体	政策型思考の「習熟」を学ぶ（第11章）
第13回	政策の決定	政策の決定とその過程（第12章）
第14回	総括	振り返りとまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキスト、配布資料、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

**【テキスト（教科書）】**

松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会、1991年。

**【参考書】**

石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。  
 土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。  
 武藤博己監修、南島和久・堀内匠編著『自治体政策学』法律文化社、2024年。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加：議論への参加（25%）、コメント（25%）の様子、授業の成果：授業内での報告（25%）、期末レポート（25%）の各評価により判断する。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義中、また講義後にコメントを集め、その内容を反映させている。

**【担当教員の専門分野等】**

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学  
 〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。  
 〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

**【Outline (in English)】**

Policies (and their systems) are the "foundation of life" for people living in today's society (urban-type society). We'll learn the structure and characteristics of urban-type society with theory, and understand the policy process. It will develop your perspective for your research from the perspective of policy studies.  
**Learning Objectives;**  
 - Understand the characteristics of today's social structure ('Urban-type Society'), which is the premise for public policy.  
 - Understand the policy types that have been formed historically.  
 - Understand the basics of the process of public policy and gain a policy studying' perspective.  
**Learning activities outside of classroom;**  
 - Completion of textbook and related papers/books  
**Grading Criteria /Policy**  
 - Participation 50% (discussion 25%, Presentation 25%)  
 - Achievement 50% (report on presentation 25%, the final report 25%)

SOS700P1 - 005 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策学特殊研究 3 A

淵元 初姫

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程3年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

### 【到達目標】

院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第3回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第4回	研究報告1	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第5回	研究報告2	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第6回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究計画の作成	これまでの研究を振り返り、3年目の研究計画を定める。
第8回	先行研究の整理	先行研究のレビューを完成させる。
第9回	現地調査の整理1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第10回	現地調査の整理2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第11回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。
第12回	研究報告4	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第13回	研究報告5	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第14回	研究報告6	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権

<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』 pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』 pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』 pp.131-42、地域開発研究所

### 【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Seminar presentation 60%, Class contribution 40%



POL700P1 - 109 (政治学 / Politics 700)

## 行政学特殊研究

林 嶺那

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。

### 【到達目標】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第2回	論文の報告①	割り当てられた論文についての報告
第3回	「論文の報告①」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第4回	論文の報告②	割り当てられた論文についての報告
第5回	「論文の報告②」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第6回	論文の報告③	割り当てられた論文についての報告
第7回	「論文の報告③」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第8回	論文の報告④	割り当てられた論文についての報告
第9回	「論文の報告④」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第10回	論文の報告⑤	割り当てられた論文についての報告
第11回	「論文の報告⑤」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第12回	論文の報告⑥	割り当てられた論文についての報告
第13回	「論文の報告⑥」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第14回	まとめ	これまで扱った論文について振り返る

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、割り当てられた論文の読解60分、論文報告資料準備120分で、合計180分を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価4290円  
曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価2970円

### 【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーの提出（50%）  
論文の報告（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

行政や政策に関するニュースを見る。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学  
<研究テーマ>人事行政  
<主要研究業績>林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

### 【Outline (in English)】

The course aims to give students an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL700P1 - 110 (政治学 / Politics 700)

## 行政学事例特殊研究

林 嶺那

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになることを目的とする。なお、本講義では、事例研究を「より大きな事例の集合に、少なくとも部分的に光を当てることを目的とするような単一あるいは複数事例の研究」と定義する。

### 【到達目標】

行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告を軸とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究のタイプと研究論文の構造	記述的な研究と因果的な研究の区別を理解した上で、研究論文の基本的な構造を学ぶ。
第3回	事例研究のタイプ	事例研究のタイプに関する著作の一部を読む。
第4回	事例選択の基準	事例選択の基準に関する著作の一部を読む。
第5回	記述的な事例研究	記述的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第6回	因果的な事例研究	因果的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第7回	定性的研究と定量的研究の違い	定性的研究と定量的研究の違いを理解し、両者を組み合わせた混合手法について理解する。
第8回	事例研究の評価基準	事例研究の評価基準に関する著作の一部を読む。
第9回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。行政改革に関する論文を予定している。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。第一線公務員論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。リーダーシップに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。ガバナンスに関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。途上国の行政に関する論文を予定している。
第14回	研究構想の発表	事例研究に基づく研究計画の構想を発表する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

King, G., Keohane, R. O., & Verba, S., 1994, Designing social inquiry, Princeton university press.

Gerring, J., 2016, Case Study Research: Principles and Practices, Cambridge University Press.

Yin, R.K., 1994, Case Study Research: Design and Methods, Sage.

### 【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

### 【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学

<研究テーマ> 人事行政

<主要研究業績> 林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

### 【Outline (in English)】

This course aims to deepen students' understanding of the theory and practice of case studies in public administration and enable them to implement case studies. In this course, a case study is defined as a study on single or multiple cases that aims to shed light, at least partially, on a more extensive set of cases. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

POL700P1 - 111 (政治学 / Politics 700)

## 都市政策特殊研究

杉崎 和久

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程科目として、現在、多様な主体が活動をする都市空間において、秩序ある土地利用を制御する仕組みである近代都市計画の構造、現代的な課題を理解することを目的とする。

### 【到達目標】

秩序ある土地利用を制御する仕組みである都市計画法等の仕組みを理解した上で現代都市において表出さひているさまざまな課題の構造を把握した上で対応方策を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

都市計画法など現在の都市における空間制御の仕組みを講義する。そして、受講生は身近な自治体における都市計画事例をとりあげ、授業の中で報告し、議論を行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「対面」で行うが、一部「オンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ／講義：都市計画法概要	授業の進め方、参考資料等についての説明を行う。また、都市計画法の概要を説明する。
第2回	講義：土地利用規制1、2	用途地域を含めた土地利用規制全般と地区計画制度について説明する。
第3回	講義：市街地開発事業／都市施設	都市再開発事業や土地区画整理事業などの市街地開発事業、道路や公園などの都市施設について説明する。
第4回	講義：都市計画マスタープラン／人口減少社会における都市計画	都市計画の方針となるマスタープランを説明する。また昨今の都市における課題、それに対する都市計画の対応について説明する。
第5回	課題報告1	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。
第6回	フィールドワーク	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。(7/15祝日午後を予定)
第7回	課題報告2	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

輪読する文献は、受講者の関心等を踏まえて、指定する。

### 【参考書】

必要に応じて、教員が参考資料の配布や参考文献の紹介をする。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、担当課題の発表内容（40%）で行う。ただし、出席回数が過半数（4回）未満、あるいは授業内での報告をしない場合には評価しない（E評価）。

\*なお、オンラインでの実施回については、議論に参加し、発言をすることで平常点に加算する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義に対応するための通信機器と通信環境。  
リアル zoom によるオンライン講義、動画配信によるオンデマンド講義、学習支援システムを通じて資料・音声データを配布します。

### 【その他の重要事項】

この授業は対面授業とオンライン授業を組み合わせで行う。  
第1回講義はzoomによるオンラインで行います。履修を希望される方は、第1回講義前に仮登録あるいは本登録をしてください。必要なID等は学習支援システムに登録しているメールアドレスに連絡いたします。

### 【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Normal point(60%), and report(40%).

POL700P1 - 112 (政治学 / Politics 700)

都市政策事例特殊研究

杉崎 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は博士課程科目である。多様な主体が活動をする都市空間において、適切な都市施設配置や秩序ある土地利用を制御する仕組みである近代都市計画は、都市における活動などが成長することを前提としたシステムである。しかし、都市の成長とともに生活空間の環境に変化を与えるなど新たな地域課題が生じることがある。市民によるまちづくり活動はこれらを顕在化させ、都市計画を変化させる役割を果たしてきた。本講義では、市民によるまちづくり活動の経緯、事例等を把握し、これらの活動の果たした役割を理解することを目的とする。

【到達目標】

この授業を通じて、都市空間において発生する生活の変化に対して、市民が主体となるまちづくり活動を通じて、都市空間に関する新たな課題や価値が提起され、法定都市計画に変化を与える過程を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

最初は、市民まちづくりの具体的な事例紹介をオンラインで行う。その後、受講生が、分担して身近なまちづくりの事例を調査し、講義の中で報告し、議論を行う。また、必要に応じて教員は講評や話題提供を行う。

授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション (まちづくりの展開過程)	授業の進め方、参考資料等についての説明を行う。また、市民によるまちづくり活動の展開過程について説明する。(zoomを併用したハイブリッド形式)
第2回	市民まちづくりの事例紹介1	現代の都市空間に対する受講者の関心を共有する。(オンデマンド形式)
第3回	市民まちづくりの事例紹介2	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。(オンデマンド形式)
第4回	フィールドワーク	市民まちづくりの実践事例の現地見学を行う。(11/14 祝日午後実施)
第5回	事例発表1	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。(zoomを併用したハイブリッド形式)
第6回	事例発表2	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。(zoomを併用したハイブリッド形式)
第7回	総括議論	具体的な施策を踏まえて、今後必要となる対応について議論を行う。(zoomを併用したハイブリッド形式)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読する文献は、受講者の関心等を踏まえて、指定する。

【参考書】

必要に応じて、教員が参考資料の配布や参考文献の紹介をする。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%)、担当課題の発表 (40%) で行う。ただし、出席回数が過半数 (4回) 未満、あるいは授業内での報告をしない場合には評価しない (E評価)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義に対応するための通信機器と通信環境。zoomによるリアルタイムオンライン形式、動画配信によるオンデマンド形式、学習支援システムを通じて資料・音声データを配布します。

【その他の重要事項】

この授業は対面授業とオンライン授業を組み合わせで行う。第1回講義はzoomによるオンラインで行います。履修を希望される方は、第1回講義前に仮登録あるいは本登録をしてください。必要なID等は学習支援システムに登録しているメールアドレスに連絡いたします。

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be decided based on Normal point(60%), and report(40%).

POL700P1 - 113 (政治学 / Politics 700)

コミュニティ政策特殊研究

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティとは、合併によって制度的枠組を失った身近な地域のまとまりである、という観点から、このコミュニティを再制度化する政策ないし制度である都市内分権や小規模町村の連携制度などを国際比較的に考察する。これによってコミュニティ政策というものについて基礎的な理解を得ることが目的である。

【到達目標】

「地域的まとまり」論、地域社会運営の制度的条件論を基礎に、現代コミュニティ政策の諸相を理解すること。特に、「地域的まとまり」とその重層構造という理論枠組を基礎として理解した上で、合併によって市町村としての制度的枠組を失う身近な地域のまとまりが制度的にどのように取り扱われたかを国際比較的に検討する。日本では、合併によって失われた制度枠組を自治会・町内会が民間的に回復するという特異な経過を辿ったが、1970年代からいわゆるコミュニティ政策によって再制度化が開始され、1990年代以降は新たな段階を迎える。そこにおいては、「協働」や「新しい公共」という政策理念が採用された点に、ヨーロッパと比較したときに大きな特徴があることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究科のこの博士後期課程科目「コミュニティ政策特殊研究」は、同修士課程科目「コミュニティ制度論」及び政治学研究科の「コミュニティ論研究1」との合併開講である。授業の進め方は、開講時に相談して決めたい。基本的には講義形式で進めていくが、各回とも、受講者自らが考えることのできるような材料（政策文書や事例）を提示して進め、受講者に報告してもらうという形式を取り入れる、というやり方を想定している。1回あたり2コマを使用する4期制科目であるが、以下の「授業計画」では、一コマずつ14回分の内容を示している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域的まとまり論の着想	「地域的まとまり」とその重層構造。その日本の特質。
第2回	地域的まとまりを「運営」するための制度的条件について	ミルトン・コトラーに学びつつ、地域社会運営の制度的必要上条件として、管轄領域の公的画定、法人格、課税権、条例制定権を析出する。また、これを失った地域社会がこれを回復するためにコトラーが考えた戦略を、日本の観点から検討する。
第3回	地域的まとまり論の理論史と理論構成	オッター・ギールケ、フーゴ・プロイス、マックス・ヴェーバーらの諸説を参考に、理論的概念としての「地域的まとまり」を構成する。
第4回	自治会・町内会論	コトラーの4条件を民間的原理の上に回復する地域組織として自治会・町内会を捉え、その組織的特質と歴史とを論ずる。

第5回	コミュニティ政策の歴史 開始から1980年代まで	1969年の国民生活審議会の著名な文書を端緒として、その後展開されたいくつかの分野のコミュニティ政策を分析する。
第6回	コミュニティセンター自主管理政策	1980年代までの定番政策であったコミュニティ・センターを核とするコミュニティ形成の政策が持った意味を考える。
第7回	1990年代のコミュニティ政策	地域福祉的な新しい様相を持ったコミュニティ政策が登場し始める場面を、具体的な事例をもとに検討する。
第8回	第27次地方制度調査会答申と地域自治区制度の成立	地域自治区制度の設計思想を分析し、今世紀のコミュニティ政策の基本的傾向を探る。
第9回	日本型都市内分権の現代的傾向	地域自治区制度や独自条例方式など、様々な現代の事例を通じて現在の都市内分権の共通の特徴を探る。
第10回	日本の都市内分権制度の事例研究	いくつかの自治体で実践されている都市内分権の事例を分析する。
第11回	ドイツ都市内分権	日本の協働型都市内分権とは対極にあるといえるドイツの参加型都市内分権を紹介する。
第12回	その他の国の都市内分権	ドイツの都市内分権は、特にその政治的性格においてかなり特異であるので、それ以外の国、例えばイギリス、スコットランド、フランスといった国々、あるいはフィリピンなどのアジア諸国の都市内分権制度を取り上げ、国際比較的に位置づけておく作業を行う。
第13回	まちづくり条例論	普遍的な都市内分権制度とはいえないが、コミュニティ・レベルに決定権を分散しているといえる事例として、都市計画分野のまちづくり条例を取り上げ、いくつかの事例を検討することを通じて、コミュニティ制度論の視野を広げる。
第14回	個別分野のコミュニティ政策	さらに、地域福祉、社会教育、学校教育などの分野にも目を広げ、コミュニティ政策の現代的様相を分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で述べた内容を十分に復習し、関連参考文献を読むこと。また、ほぼ毎回、事前に授業支援システムを通じて読んでおいてほしい文献を提供するので、これを読んで授業に臨んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。また、授業で報告をすることになったときには、とりわけ十分に準備を行なってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に指示するが、拙著の『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）や『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）に、本科目の基本的なアイデアが展開されている。また、拙著『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）は、一般向けのブックレットで、平易に解説されている。

【成績評価の方法と基準】

開講時に相談して決めたいが、受講者が一度ずつ授業中に報告をしてもらうことを想定しており、その場合には授業での報告80%、授業中での討論・発言20%と考えている。期末レポート方式になった場合には、そのレポートが80%としたい。

**【学生の意見等からの気づき】**

この授業を担当するのは久しぶりであるから、学生・院生からの直接の反応から気づいたことというものはない。このところ院生たちの中でコミュニティ政策への関心はやや強まっていると感じているので、ここ数年の研究を活かし、またこの数年の新しい動きにも留意していきたい。

**【担当教員の専門分野等】**

＜専門領域＞コミュニティ政策、公共哲学、法社会学  
＜研究テーマ＞都市内分権。地域法人制度。コミュニティカフェ。「領域団体」及び「市民社会」の概念史。  
＜主要研究業績＞  
単著『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）  
編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）  
単著『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）

**【Outline (in English)】**

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination or Reporting in the class: 80%、  
Discussions in the class : 20%.

SOC700P1 - 114 (社会学 / Sociology 700)

コミュニティ構造特殊研究

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コミュニティ政策特殊研究」が主として制度的側面を対象にしたのに対して、本科目ではコミュニティ・レベルで展開している民間諸主体の公共的な動きを、事例研究を通じて考え、理論的な整理を行う。

【到達目標】

地域的まとまり論という基本枠組、日本のコミュニティの基礎的組織（自治会・町内会や地区社会福祉協議会、地区民生委員協議会、消防団など）や地域で活動するNPOなどについて理解し、その現代的、日本の特徴を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究科博士後期課程のこの「市民社会とコミュニティ」は、同修士課程の「市民社会とコミュニティ」及び政治学研究科の「コミュニティ論研究2」との合併開講である。進め方は開講時に相談して決めたいが、講義形式のほか受講者による報告形式を取り入れることを想定している。「地域的まとまり」とその重層構造という理論枠組を基礎として理解した上で、日本では、合併によって失われた制度枠組を自治会・町内会が民間的に回復するという特異な経過を辿ったほか、民間（「市民社会」）側の多彩な営為が生活を支えてきたことを論じていく。特に今世紀に入って多様に展開されている事例、コミュニティ・ビジネスの事例や協働事業の事例などを事例研究として取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域的まとまり論とコミュニティの定義	「地域的まとまり」とその重層構造とその日本の特質を理解する。ミルトン・コトラーに学びつつ、地域社会運営の制度的必要条件として、管轄領域の公的画定、法人格、課税権、条例制定権を析出し、これを失った地域社会がこれを回復するためにコトラーが考えた私法人での実績を積み上げるとい戦略に注目する。
第2回	市民社会組織が織りなす日本の地域コミュニティ	日本のありふれた地域コミュニティは、地縁型及びテーマ型の市民社会組織が連関している姿としてイメージできる。
第3回	自治会・町内会論	上記4条件を民間的原理の上に回復する地域組織として自治会・町内会を捉え、その組織的な基本的特質と歴史とを論ずる。
第4回	日本の地縁組織の現在	自治会・町内会が現在抱えている困難を分析する。
第5回	テーマ型市民活動の特徴と現代的傾向	地縁型の組織とテーマ型の組織との緊張関係をパーソナリティの類型論という観点から解明するほか、テーマ型市民活動の中にも、相異なる類型があることを、アンケート調査に基づいて明らかにする。また、最近では、市民活動が事業化、専門化している様子にも注意を払う。

第6回	市民活動事例研究 1 市民活動の専門化・事業化	この20年ほどの間に、ボランティアベースで始まった市民活動が、次第に専門化・事業化を遂げた事例をいくつか分析する。
第7回	現代の「公共空間」とコミュニティカフェ	居場所づくりを志向する市民活動は意外に多い。中でもコミュニティカフェに焦点をあて、公共空間というものについて考える。
第8回	市民活動事例研究 2 コミュニティカフェのビジネスモデル	とりわけ「港南台ファウンカフェ」に焦点を当てて、コミュニティカフェとそのビジネスモデルを分析する。
第9回	協働事業提案制度	市民活動支援として行なわれている協働事業提案制度を分析し、市民活動の資金問題についても考える。
第10回	市民活動事例研究 3 ヨコハマ市民まち普請事業	協働事業提案制度の中でも特異な存在である横浜市のヨコハマ市民まち普請事業を検討する。
第11回	コミュニティワークの専門性	昨今は「コーディネーター」と称する支援者を置く仕組みが増えている。「コーディネーター」というものの専門性に迫ることを試みる。
第12回	市民活動事例研究 4 冒険遊び場づくり	冒険遊び場づくりを特に取り上げ、いくつかの事例に則して、その「プレイヤー」の専門性を具体的に分析してみる。
第13回	市民活動の法人論	雲南市等のいわゆる4市協議体が提唱した「スーパーコミュニティ法人」をきっかけにコミュニティにおいて使いやすい法人に関する議論が高まった。その腫瘍論点を整理する。
第14回	市民活動事例研究 5 労働者協同組合の可能性	2020年に労働者協同組合法が制定され、市民活動が選択できる法人形態がまた一つ増えた。その持っている可能性や位置づけについて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容と授業で提示された文献や資料について、よく復習をすること。事前に提示された資料がある場合は、予習を行なうこと。それぞれにおおむね2時間程度をかけることを想定している。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に指示するが、拙著の『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）や『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）、『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）に、本科目の基本的なアイデアが展開されている。

【成績評価の方法と基準】

開講時に相談して決めたいが、受講者が一度ずつ授業中に報告をしてもらうことを想定しており、その場合には授業での報告 80%、授業中での討論・発言 20% m と考えている。期末レポート方式になった場合には、そのレポートが 80% としたい。

【学生の意見等からの気づき】

この授業を担当するのは久しぶりであるから、学生・院生からの直接の反応から気づいたことというものはない。このところ院生たちの間でコミュニティ政策への関心はやや強まっていると感じているので、ここ数年の研究を活かし、またこの数年の新しい動きにも留意していきたい。

【担当教員の専門分野等】

コミュニティ政策、公共哲学、法社会学

【Outline (in English)】

Different types of so-called civil society organizations in Japan, which are active mainly in the local community, are analyzed in this class.

Term-end examination or Repoting in the class: 80%、  
Discussions in the class : 20%.



POL700P1 - 101 (政治学 / Politics 700)

公共政策ワークショップ (公共) 1 A

名和田 是彦

備考 (履修条件等) : 隔週授業

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2023年度以前の博士後期課程入学者向けに、ゼミ横断的に集まり、博士論文の完成に向けて、いつも指導を受けている指導教員以外の教員やそのほかの院生などからのコメントをもらい、研鑽する。

【到達目標】

博士論文をまとめていくに必要な学術的諸能力を身につけること。3年目については、博士論文全体の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、院生の報告に対して、参加院生との質疑、担当教員からのコメント、という方法で進めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	院生 1 の報告	院生 1 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第2回	院生 2 の報告	院生 2 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第3回	院生 3 の報告	院生 3 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第4回	院生 4 の報告	院生 4 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第5回	院生 5 の報告	院生 5 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第6回	院生 6 の報告	院生 6 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第7回	院生 7 の報告	院生 7 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第8回	院生 8 の報告	院生 8 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第9回	院生 9 の報告	院生 9 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第10回	院生 10 の報告	院生 10 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第11回	院生 11 の報告	院生 11 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第12回	院生 12 の報告	院生 12 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第13回	院生 13 の報告	院生 13 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第14回	院生 14 の報告	院生 14 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

博士論文完成に向けて、資料の収集・読込・考察を常におこなう。本授業そのものの準備学習・復習時間は、2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】

博士論文の完成にむけての作業を真剣に取り組んでいるかどうかを判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっている。

【担当教員の専門分野等】

コミュニティ政策論。

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of a supervisor of this class. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. Each student should obtain the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

POL700P1 - 102 (政治学 / Politics 700)

## 公共政策ワークショップ (公共) 1 B

名和田 是彦

備考 (履修条件等) : 隔週授業

その他属性 :

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2023年度以前の博士後期課程入学者向けに、ゼミ横断的に集まり、博士論文の完成に向けて、いつも指導を受けている指導教員以外の教員やそのほかの院生などからのコメントをもらい、研鑽する。

### 【到達目標】

博士論文をまとめていくに必要な学術的諸能力を身につけること。3年目については、博士論文全体の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は、院生の報告に対して、参加院生との質疑、担当教員からのコメント、という方法で進めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	院生 1 の報告	院生 1 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第2回	院生 2 の報告	院生 2 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第3回	院生 3 の報告	院生 3 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第4回	院生 4 の報告	院生 4 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第5回	院生 5 の報告	院生 5 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第6回	院生 6 の報告	院生 6 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第7回	院生 7 の報告	院生 7 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第8回	院生 8 の報告	院生 8 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第9回	院生 9 の報告	院生 9 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第10回	院生 10 の報告	院生 10 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第11回	院生 11 の報告	院生 11 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第12回	院生 12 の報告	院生 12 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第13回	院生 13 の報告	院生 13 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第14回	院生 14 の報告	院生 14 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

博士論文完成に向けて、資料の収集・読込・考察を常におこなう。本授業そのものの準備学習・復習時間は、2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特になし。

### 【参考書】

テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

### 【成績評価の方法と基準】

博士論文の完成にむけての作業を真剣に取り組んでいるかどうかを判断して、評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっている。

### 【担当教員の専門分野等】

コミュニティ政策論。

### 【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of a supervisor of this class. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. Each student should obtain the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

POL700P1 - 103 (政治学 / Politics 700)

公共政策ワークショップ (公共) 2 A

名和田 是彦

備考 (履修条件等) : 隔週授業

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2023年度以前の博士後期課程入学者向けに、ゼミ横断的に集まり、博士論文の完成に向けて、いつも指導を受けている指導教員以外の教員やそのほかの院生などからのコメントをもらい、研鑽する。

【到達目標】

博士論文をまとめていくに必要な学術的諸能力を身につけること。3年目については、博士論文全体の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、院生の報告に対して、参加院生との質疑、担当教員からのコメント、という方法で進めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	院生 1 の報告	院生 1 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第2回	院生 2 の報告	院生 2 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第3回	院生 3 の報告	院生 3 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第4回	院生 4 の報告	院生 4 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第5回	院生 5 の報告	院生 5 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第6回	院生 6 の報告	院生 6 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第7回	院生 7 の報告	院生 7 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第8回	院生 8 の報告	院生 8 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第9回	院生 9 の報告	院生 9 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第10回	院生 10 の報告	院生 10 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第11回	院生 11 の報告	院生 11 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第12回	院生 12 の報告	院生 12 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第13回	院生 13 の報告	院生 13 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第14回	院生 14 の報告	院生 14 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

博士論文完成に向けて、資料の収集・読込・考察を常におこなう。本授業そのものの準備学習・復習時間は、2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】

博士論文の完成にむけての作業を真剣に取り組んでいるかどうかを判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっている。

【担当教員の専門分野等】

コミュニティ政策論。

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of a supervisor of this class. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. Each student should obtain the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

POL700P1 - 104 (政治学 / Politics 700)

## 公共政策ワークショップ（公共） 2 B

名和田 是彦

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2023年度以前の博士後期課程入学者向けに、ゼミ横断的に集まり、博士論文の完成に向けて、いつも指導を受けている指導教員以外の教員やそのほかの院生などからのコメントをもらい、研鑽する。

### 【到達目標】

博士論文をまとめていくに必要な学術的諸能力を身につけること。3年目については、博士論文全体の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は、院生の報告に対して、参加院生との質疑、担当教員からのコメント、という方法で進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	院生 1 の報告	院生 1 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第2回	院生 2 の報告	院生 2 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第3回	院生 3 の報告	院生 3 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第4回	院生 4 の報告	院生 4 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第5回	院生 5 の報告	院生 5 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第6回	院生 6 の報告	院生 6 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第7回	院生 7 の報告	院生 7 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第8回	院生 8 の報告	院生 8 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第9回	院生 9 の報告	院生 9 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第10回	院生 10 の報告	院生 10 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第11回	院生 11 の報告	院生 11 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第12回	院生 12 の報告	院生 12 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第13回	院生 13 の報告	院生 13 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第14回	院生 14 の報告	院生 14 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文完成に向けて、資料の収集・読込・考察を常におこなう。本授業そのものの準備学習・復習時間は、2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

### 【成績評価の方法と基準】

博士論文の完成にむけての作業を真剣に取り組んでいるかどうかを判断して、評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっている。

### 【担当教員の専門分野等】

コミュニティ政策論。

### 【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of a supervisor of this class. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. Each student should obtain the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

POL700P1 - 105 (政治学 / Politics 700)

## 公共政策ワークショップ (公共) 3 A

名和田 是彦

備考 (履修条件等) : 隔週授業

その他属性 :

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2023年度以前の博士後期課程入学者向けに、ゼミ横断的に集まり、博士論文の完成に向けて、いつも指導を受けている指導教員以外の教員やそのほかの院生などからのコメントをもらい、研鑽する。

### 【到達目標】

博士論文をまとめていくに必要な学術的諸能力を身につけること。3年目については、博士論文全体の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は、院生の報告に対して、参加院生との質疑、担当教員からのコメント、という方法で進めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	院生 1 の報告	院生 1 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第2回	院生 2 の報告	院生 2 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第3回	院生 3 の報告	院生 3 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第4回	院生 4 の報告	院生 4 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第5回	院生 5 の報告	院生 5 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第6回	院生 6 の報告	院生 6 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第7回	院生 7 の報告	院生 7 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第8回	院生 8 の報告	院生 8 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第9回	院生 9 の報告	院生 9 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第10回	院生 10 の報告	院生 10 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第11回	院生 11 の報告	院生 11 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第12回	院生 12 の報告	院生 12 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第13回	院生 13 の報告	院生 13 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第14回	院生 14 の報告	院生 14 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

博士論文完成に向けて、資料の収集・読込・考察を常におこなう。本授業そのものの準備学習・復習時間は、2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特になし。

### 【参考書】

テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

### 【成績評価の方法と基準】

博士論文の完成にむけての作業を真剣に取り組んでいるかどうかを判断して、評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっている。

### 【担当教員の専門分野等】

コミュニティ政策論。

### 【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of a supervisor of this class. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. Each student should obtain the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

POL700P1 - 106 (政治学 / Politics 700)

## 公共政策ワークショップ（公共） 3 B

名和田 是彦

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2023年度以前の博士後期課程入学者向けに、ゼミ横断的に集まり、博士論文の完成に向けて、いつも指導を受けている指導教員以外の教員やそのほかの院生などからのコメントをもらい、研鑽する。

### 【到達目標】

博士論文をまとめていくに必要な学術的諸能力を身につけること。3年目については、博士論文全体の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は、院生の報告に対して、参加院生との質疑、担当教員からのコメント、という方法で進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	院生 1 の報告	院生 1 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第2回	院生 2 の報告	院生 2 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第3回	院生 3 の報告	院生 3 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第4回	院生 4 の報告	院生 4 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第5回	院生 5 の報告	院生 5 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第6回	院生 6 の報告	院生 6 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第7回	院生 7 の報告	院生 7 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第8回	院生 8 の報告	院生 8 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第9回	院生 9 の報告	院生 9 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第10回	院生 10 の報告	院生 10 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第11回	院生 11 の報告	院生 11 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第12回	院生 12 の報告	院生 12 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第13回	院生 13 の報告	院生 13 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第14回	院生 14 の報告	院生 14 の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文完成に向けて、資料の収集・読込・考察を常におこなう。本授業そのものの準備学習・復習時間は、2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

### 【成績評価の方法と基準】

博士論文の完成にむけての作業を真剣に取り組んでいるかどうかを判断して、評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっている。

### 【担当教員の専門分野等】

コミュニティ政策論。

### 【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of a supervisor of this class. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. Each student should obtain the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 201 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策ワークショップ (政策研究) 1 A

加藤 寛之

備考 (履修条件等) : 隔週授業 (初回授業 4月27日 (土))

その他属性 :

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

### 【到達目標】

1. 博士後期課程第3年度は博士論文を完成させる。
2. 学会発表および論文投稿を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期1回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル (proposal)、(2)博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。オンライン授業の第1回は4月27日(土)10時からです。詳細は学習支援システムに仮登録し、「お知らせ」で確認してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。オンラインを活用し、授業回数2回減分の学習時間の挽回に努める。

### 【テキスト (教科書)】

特に用いない。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %) を目途に評価する。オンライン授業も同じ。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

### 【Outline (in English)】

This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities.

SOS700P1 - 202 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策ワークショップ (政策研究) 1 B

加藤 寛之

備考 (履修条件等) : 隔週授業

その他属性 :

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。学期開始日以降、通常授業が開始されます。

### 【到達目標】

1. 博士後期課程第3年度は博士論文を完成させる。
2. 学会発表および論文投稿を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教員による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期1回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル (proposal)、(2)博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に用いない。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %) を目途に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

### 【Outline (in English)】

This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities.



SOS700P1 - 203 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策ワークショップ (政策研究) 2 A

加藤 寛之

備考 (履修条件等) : 隔週授業 (初回授業 4月27日 (土))

その他属性 :

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

### 【到達目標】

1. 博士後期課程第3年度は博士論文を完成させる。
2. 学会発表および論文投稿を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期1回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル (proposal)、(2)博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。オンライン授業の第1回は4月27日(土)10時からです。詳細は学習支援システムに仮登録し、「お知らせ」で確認してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。オンラインを活用し、授業回数2回減分の学習時間の挽回に努める。

### 【テキスト (教科書)】

特に用いない。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %) を目途に評価する。オンライン授業も同じ。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

### 【Outline (in English)】

This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities.

SOS700P1 - 204 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策ワークショップ (政策研究) 2 B

加藤 寛之

備考 (履修条件等) : 隔週授業

その他属性 :

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

### 【到達目標】

1. 博士後期課程第3年度は博士論文を完成させる。
2. 学会発表および論文投稿を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教員による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期1回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル (proposal)、(2)博士論文プロポーザル (proposal)に区分して実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に用いない。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

報告内容 (70 %)を中心に、討論への参加 (30 %)を目途に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

### 【Outline (in English)】

This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities.

SOS700P1 - 205 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策ワークショップ (政策研究) 3A

加藤 寛之

備考 (履修条件等) : 隔週授業 (初回授業 4月27日 (土))

その他属性 :

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

### 【到達目標】

1. 博士後期課程第3年度は博士論文を完成させる。
2. 学会発表および論文投稿を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期1回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル (proposal)、(2)博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。オンライン授業の第1回は4月27日(土)10時からです。詳細は学習支援システムに仮登録し、「お知らせ」で確認してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。オンラインを活用し、授業回数2回減分の学習時間の挽回に努める。

### 【テキスト (教科書)】

特に用いない。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %) を目途に評価する。オンライン授業も同じ。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

### 【Outline (in English)】

This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities.

SOS700P1 - 206 (その他の社会科学 / Social science 700)

## 公共政策ワークショップ (政策研究) 3 B

加藤 寛之

備考 (履修条件等) : 隔週授業

その他属性 :

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

### 【到達目標】

1. 博士後期課程第3年度は博士論文を完成させる。
2. 学会発表および論文投稿を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教員による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期1回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル (proposal)、(2)博士論文プロポーザル (proposal)に区分して実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に用いない。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

報告内容 (70 %)を中心に、討論への参加 (30 %)を目途に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

### 【Outline (in English)】

This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities.

## 博士論文

### 公共政策研究科論文指導教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

POL500P2 - 001 (政治学 / Politics 500)

## 行政学基礎

林 嶺那

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。

### 【到達目標】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第2回	論文の報告①	割り当てられた論文についての報告
第3回	「論文の報告①」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第4回	論文の報告②	割り当てられた論文についての報告
第5回	「論文の報告②」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第6回	論文の報告③	割り当てられた論文についての報告
第7回	「論文の報告③」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第8回	論文の報告④	割り当てられた論文についての報告
第9回	「論文の報告④」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第10回	論文の報告⑤	割り当てられた論文についての報告
第11回	「論文の報告⑤」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第12回	論文の報告⑥	割り当てられた論文についての報告
第13回	「論文の報告⑥」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第14回	まとめ	これまで扱った論文について振り返る

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、割り当てられた論文の読解60分、論文報告資料準備120分で、合計180分を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価4290円  
曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価2970円

### 【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーの提出（50%）  
論文の報告（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

行政や政策に関するニュースを見る。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学  
<研究テーマ>人事行政  
<主要研究業績>林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

### 【Outline (in English)】

The course aims to give students an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL500P2 - 002 (政治学 / Politics 500)

## 比較行政研究

申 龍徹

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、比較行政研究の学際的理解及び比較研究手法の習得を目指しており、学位論文の作成に役立つことが目的である。

### 【到達目標】

- ①比較行政研究の理論展開を分析することにより、比較行政研究の理論的背景を理解できる（比較行政運動の展開）。
- ②OECD加盟国における多様な行政現象の中から事例分析を行い、国際比較の方法論を体系的に習得できる（主要国の行政システムの展開と特徴）。
- ③実際の行政活動の改善に役立つ政策案が提案できる専門能力の習得ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

国際化の深化という現代社会の行政現象を分析する上で欠かせない比較行政研究を研究対象とするこの授業は、講義と発表で進める。講義では、比較行政研究の学際的な発展過程について理解を深めるとともに、OECD加盟国の行政制度及び行政過程、個別行政の特徴に関する国際比較を通じて、現在の行政課題に対する政策対案の作成を可能とする政策形成能力の向上を目指す。前半は講義を中心に、後半は受講者の発表と討論で構成する。発表では、受講者が設定したテーマ（行政課題）に対し、国内やOECD諸国との事例の比較・分析を通じて、もっとも有効と思われる対案の作成を目指す。原則として対面で授業を実施すること、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンラインに切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回目	授業の概要説明について	講義の概要、個人課題の設定、発表スケジュールの調整
2回目	比較行政の概念と歴史的展開及び比較行政と発展行政の理論統合	形成期、沈滞期、転換期、跳躍期の比較行政研究 比較行政研究と発展行政論の関係、理論的統合
3回目	行政システムの国際比較A	英米独仏の行政システムの比較分析
4回目	行政システムの国際比較B	北欧諸国の行政システムの比較分析
5回目	行政システムの国際比較C	NICsの行政システム及び日韓の行政システムの比較分析
6回目	比較行政研究事例分析A	受講者の事例発表・討論
7回目	比較行政研究事例分析B	受講者の事例発表・討論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

事前に講義レジュメ及び参考資料などをアップする。

- ・ Eric E. Otenyo & Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
- ・ Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

### 【参考書】

特に限定しないが、主に参考している資料は、以下を推薦する。

- ・ Eric E. Otenyo & Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
- ・ Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

### 【成績評価の方法と基準】

質問力（25%）、調査力（25%）、構成力（25%）、プレゼンテーション（25%）の4つによる絶対評価（100%）  
受講者は、講義の後半において、比較研究を手法を活用した発表をお願いする。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者には関心のあるテーマの発表が課題として課されるので、事前準備が必要です。

### 【担当教員の専門分野】

<専門領域> 行政学、比較行政

<研究テーマ> 自治行政の国際比較

<主要研究業績>

『現代日本の公務員人事—政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』（執筆分担、第一法規、2019）

『公務員制度改革という時代』（執筆分担、敬文堂、2017）

『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版社、2013）

『アジアの中の日本官僚：歴史と現在』（執筆分担、勉誠出版、2010）

『韓国行政・自治入門』（単著、公人社、2006）

『自治体経営改革』（執筆分担、公人社、2006）

### 【Outline (in English)】

Interdisciplinary understanding of comparative administrative research and acquisition of comparative research method  
Understand the theoretical development of comparative administrative research and understand the theoretical background of comparative administrative research (development of comparative administrative movement)

Required reading references

Absolute evaluation (100%) based on four questions: questioning ability (25%), research ability (25%), composition ability (25%), and presentation ability (25%).

PHL500P2 - 003 (哲学/Philosophy 500)

## 公共哲学基礎

宮川 裕二

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目の一つである。近代以降の社会思想の展開をたどり、「自由」と「公共」という公共哲学の基礎的な概念について理解し、現代の公共的課題を探究できる能力を涵養することを目的とする。

### 【到達目標】

公共哲学の基礎的な概念である「自由」と「公共」、およびそれらの相関について理解し、それを踏まえて現代の公共的課題を探究できる能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サステナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講生は分担して、指定された文献の箇所について要点と論点を整理して授業のはじめに報告し、教員のサジェストを交えつつ全体で議論と考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入的講義／文献講読：坂本後掲書序章・第1章	導入的講義、「社会思想とは何か」、「マキアヴェリの社会思想」
第2回	文献講読：坂本後掲書第2章・第3章	「宗教改革の社会思想」、「古典的『社会契約』思想の展開」
第3回	文献講読：坂本後掲書第4章・第5章	「啓蒙思想と文明社会論の展開」、「ルソーの文明批判と人民主権論」
第4回	文献講読：坂本後掲書第6章・第7章	「スミスにおける経済学の成立」、「『哲学的急進主義』の社会思想——保守から改革へ」
第5回	文献講読：坂本後掲書第8章・第9章	「近代自由主義の批判と継承——後進国における『自由』」、「マルクスの資本主義批判」
第6回	文献講読：坂本後掲書第10章・第11章	「J・S・ミルにおける文明社会論の再建」、「西欧文明の危機とヴェーバー」
第7回	文献講読：坂本後掲書第12章・第13章・終章	「『全体主義』批判の社会思想——フランクフルト学派とケインズ、ハイエク」、「現代『リベリズム』の諸潮流」、「社会思想の歴史から何を学ぶか」

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は文献を準備学習し、授業の後は復習を行う。また報告（分担制）のためのレジュメ作成を含む準備と、授業の最終回に提示する期末レポートの作成を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』（名古屋大学出版会、2014年）を文献講読のテキストとする。各章とも、社会思想家の思想内容が要領よく整理されていると同時に、まとめとしてその思想が「自由」と「公共」という概念にどのように結び付いているのかが提示されており、本科目の趣旨に相応しい文献と思われる。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度授業改善アンケートの結果が得られていないためフィードバックできない。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共政策の政治社会学

<研究テーマ>

新しい公共、ガバナンス、統治性研究、地方自治

<主要研究業績>

『「新しい公共」とは何だったのか—四半世紀の軌跡と新自由主義統治性』（風行社、2023年）

『「公共」のオルタナティブは可能か—「新しい公共」言説の検証から』（『世界』2023年9月号、2023年）

『統治性研究を用いた現代日本の実証的研究に関する一考察』（『唯物論研究年誌』第27号、2022年）

### 【Outline (in English)】

(Course outline) The purpose of this course is to understand the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public," by tracing the development of social thought since the modern era, and to cultivate students' ability to investigate contemporary public issues.

(Learning Objectives) The goals of this course are to develop an understanding of the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public" and their correlations, and to acquire the ability to investigate contemporary public issues based on this understanding. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and review it after the class. In addition, students are expected to share in the preparation of in-class reports, and to write a term-end report to be presented at the end of the class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process; in-class report (30%), term-end report (50%), and in-class contribution(20%).



POL500P2 - 004 (政治学 / Politics 500)

**政策学基礎**

淵元 初姫

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

政治学からの政策研究へのアプローチについて、基礎的な知識と分析手法の習得を目指す、入門的な位置づけの科目である。学部までの段階で政治学を専攻していない受講生も想定し、政治学の基礎概念の習得ができるように配慮する。取りあげる主要な論点は、政策と政治過程の関係、政治的正統性と政策的合理性の関係、制度研究と政策研究の関係などである。

**【到達目標】**

政策研究一般の中で、政治学からのアプローチの特性を把握し、対象とする政策領域に対する適切な研究設問を立てることができるようになる。その上、学術論文の作成の際に、適切な文脈の中で活用することができることを到達目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究の基本的知識について整理します。受講者は、個人の研究関心に沿って課題を設定して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	政策に関する諸学問分野の中で政治学からのアプローチの特徴とは何か。あわせて政策に関する諸学問分野の中で、政治学の隣接諸学の基本的な特徴を整理する。
第2回	公共政策学の誕生前史	公共政策学の誕生についてそのルーツを探る。
第3回	公共政策学の成立	公共政策がアメリカで成立したこと背景を整理する。
第4回	公共政策学の発展	公共政策学の発展とその挫折について検討する。
第5回	公共政策学の変容	公共政策学の変容と、多様な政策科学のアプローチについて学ぶ。
第6回	公共政策の構成と特徴	公共政策の構成要素及び公共政策がもつ特徴について整理する。
第7回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、公共政策学の歴史に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第8回	政策のライフ・ステージと政策過程	政策過程を段階に分けて整理する概念を検討する。
第9回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策段階論に関する論点など）について報告・質疑を行う。

第10回	政策過程における参加者	政策過程におけるアクターの役割について考える。
第11回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策過程におけるアクターに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第12回	政策をめぐる価値の対立	政策がめざすべき諸価値について検討し、それらの対立関係について考える。
第13回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策をめぐる価値の対立に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第14回	まとめ	講義のまとめを行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しません。

**【参考書】**

必要に応じて授業中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

課題報告（30%）及び期末レポート（40%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（30%）により評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

公共政策学を理解するために、その歴史的な成り立ちを丁寧に説明することが重要であると考えています。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策  
 <研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権  
 <主要研究業績>  
 「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社  
 「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店  
 「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

**【Outline (in English)】**

The overall aim of this course is to introduce students to a range of political theories and concepts used in the academic study of public policy, such as rationalism, incrementalism and institutionalism. The course aims to be accessible for those who have not studied politics before, and is suitable for students looking for a multi-disciplinary experience. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting. Students will be Assessed by; Course presentation 30%, Short Essay 50%, Class contribution 20%

POL500P2 - 005 (政治学 / Politics 500)

## 現代政治分析研究

白鳥 浩

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代政治の総合的理解を目指す。

### 【到達目標】

同上。詳細は【授業の進め方と方法】に記載。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

- ①現代政治の今日的展開の姿を主に研究者を志望とする学生を対象とし、デモクラシーの視点及び脱冷戦時代の視点から分析し、現代政治分析の理念と手法を明らかにする
- ②具体的には、国際・国内・地域社会における公的課題の解決に向けて、自治体と住民・市民組織との新たな関係の再構築
- ③国際・国内のガバナンスの理念に立脚した政治システムと機構の改革方向
- ④冷戦後の構造変化と政府の新たなあり方などの課題を具体的に考え、そのための仕組みや政策のあり方を設計することを目的とする
- ⑤さらに、将来のデモクラシーについて履修した学生諸君と共に考える
- ⑥対面により講義を行う。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	現代政治分析とは	同左
第2回	現代政治学の基礎	同左
第3回	政治学の基礎概念	同左
第4回	政治学の理論	同左
第5回	現代日本政治の基礎	同左
第6回	現代日本政治の変動	同左
第7回	日本政治の現在	同左
第8回	日本政治の構造	同左
第9回	構造的視座による理解	同左
第10回	国際的視座の中の日本	同左
第11回	国民国家の国際化	同左
第12回	比較の中の日本政治	同左
第13回	多様なデモクラシー	同左
第14回	日本政治の理論的解明	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に適宜指示。

【参考書】

- ①白鳥浩『都市対地方の日本政治』芦書房、2009年

### 【成績評価の方法と基準】

試験、レポートと講義への積極性による総合評価（100%）。(講義への貢献度50%、期末50%を目安とする)。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

### 【Outline (in English)】

This course aims to attain student's understanding of modern politics. In order to reach that goal, it is needed to study modern politics in a systematic way. It starts out from clarification of the definitions of important notions which appears on literatures of political science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and decision-making process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

POL500P2 - 006 (政治学 / Politics 500)

## 公共政策とジャーナリズム

白鳥 浩

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における政策とジャーナリズムの総合的理解。

### 【到達目標】

本講座の目的は、「新聞が行っている報道、論説、提言などの実際を現役記者等が紹介し、新聞メディアの機能、影響力、課題について解説・分析することで、大学院生の視野を広げ、新聞など活字文化への関心を高める」こととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

本講義は読売新聞特別講座である。第一線のジャーナリストをお招きし、新聞社の調査、分析と報道の実際と、論説提言のあり方を学ぶ。講義は、毎回異なるジャーナリストのオムニバス講義によって行う。以下は予想される講義のトピックであるが、変更もありうる。また講義計画は対面を中心とするが、講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	新聞とジャーナリズム	同左
(2)	政治とジャーナリズム	同左
(3)	安全保障政策とジャーナリズム	同左
(4)	外交政策とジャーナリズム	同左
(5)	社会保障政策とジャーナリズム	同左
(6)	医療政策とジャーナリズム	同左
(7)	経済政策とジャーナリズム	同左

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

講義当日の読売新聞朝刊を必ず持参して、講義に臨む事。

### 【参考書】

講義時に適時指示。

### 【成績評価の方法と基準】

出席、毎回の講義で課される課題への取り組み、毎回の感想文、さらにレポートなどを総合的に考慮して評価（100%）。(講義への貢献度50%、期末50%を目安)。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

### 【Outline (in English)】

This course offers advanced understanding of the public policy on each policy fields, international politics, domestic politics, public administration, local government, international economy and so on. Lecturers are all distinguished journalists from the Yomiuri Shinbun, Yomiuri News Paper Company.

The goals of this course are to realize relationship between journalism and policy process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

ECN500P2 - 022 (経済学 / Economics 500)

## 公共政策の経済分析

北浦 康嗣

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、行動経済学の知見をいかして行動変容を促す「ナッジ」への関心が高まりつつあります。この授業の目的は、「ナッジ」を公共政策にあてはめるとき、どのような効果があるのか、また、どのような問題点が生じるのかについて検討することです。この授業では、行動経済学を学びつつ、現在、多くの自治体で取り入れられている「ナッジ」について議論します。その際に、受講者の経験が必要となります。単に講義を聞くだけではなく、受講者の生きた知識をもとに問題点を指摘します。

### 【到達目標】

- ①伝統的経済学と行動経済学の違いが説明できる。
- ②行動経済学の長所と短所を説明できる。
- ③「ナッジ」に関する問題点を指摘することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻「公共政策の経済分析」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義を前提に進めます。しかしながら「ナッジ」に関しては受講生の経験に基づいて議論します。必ず、それぞれの経験について記録しておいてください。また、必要に応じてグラフによる図解を行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	伝統的経済学と行動経済学	合理的と非合理的のちがいに關して議論します。
第2回	双曲割引（1）	時間割引率に關して議論します。
第3回	双曲割引（2）	現在バイアスに關して議論します。
第4回	コミットメントデバイス	コミットメントデバイスに關して議論します。
第5回	選択のオーバーロード現象	選択のオーバーロード現象に關して議論します。
第6回	プロスペクト理論（1）	損失回避性について議論します。
第7回	プロスペクト理論（2）	参照点に關して議論します。
第8回	ナッジ（1）	ナッジの定義について解説します。
第9回	ナッジ（2）	世界におけるナッジの事例について議論します。
第10回	ナッジ（3）	公共経済分野におけるナッジの事例について議論します。
第11回	ナッジ（4）	健康保健分野におけるナッジの事例について議論します。
第12回	ナッジ（5）	労働分野におけるナッジの事例について議論します。
第13回	ナッジ（6）	環境分野におけるナッジの事例について議論します。
第14回	行動経済学の将来	行動経済学と政策に關する展望について議論します。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、ナッジの事例を実務や文献から調査する時間を設けます。とくに成績評価に關係するので必ず時間をとるようにしてください。

### 【テキスト（教科書）】

授業内で指定します。

### 【参考書】

Ohtake, Kang, Ikeda (2010)  
Hyperbolic discounting, the sign effect, and the body mass index  
<https://doi.org/10.1016/j.jhealeco.2010.01.002>  
Wong (2008)  
How much time-inconsistency is there and does it matter? Evidence on self-awareness, size, and effects  
<https://doi.org/10.1016/j.jebo.2008.09.005>  
Ariely and Wertenbroch (2002)  
PROCRASTINATION, DEADLINES, AND PERFORMANCE: Self-Control by Precommitment  
<https://doi.org/10.1111/1467-9280.00441>

### 【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めての授業なので、まだありません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
マクロ経済学、公共経済学  
<研究テーマ>  
開発途上国における教育の役割  
<主要研究業績>  
Kitaura, Koji & Miyazawa, Kazutoshi, 2021. "Inequality and conditionality in cash transfers: Demographic transition and economic development," *Economic Modelling*, Elsevier, vol. 94(C), pages 276-287.

### 【Outline (in English)】

Recently, there has been a growing concern with "nudges," which use knowledge from behavioral economics to promote behavior change. The purpose of this class is to examine the effects of "nudges" when applied to public policy and what problems they may cause. In this class, we will study behavioral economics and discuss the "nudges" that are currently being adopted by many local governments. In this case, the experience of the students will be necessary. Students will not simply listen to a lecture, but will point out problems based on their own experiences.

ECN500P2 - 008 (経済学 / Economics 500)

**財政学基礎**

其田 茂樹

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、財政学全般の概要と日本の財政制度の理解に重点を置く。政策の遂行や評価において密接に関係する財政であるため、これらの理解は研究の進展に資するものと思われる。

**【到達目標】**

受講者自身の研究に対して財政の理論や制度を位置づけながら研究の進捗を図ること、日本の財政制度の持つ課題を認識し、自らの見解を形成・確立することを到達目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

この授業は原則として対面授業で行う予定である。受講者数にもよるが、授業計画に従い財政学の基本的な素養を確認しつつ、受講者各自の問題意識と財政との関連等について授業内で報告を求める予定である。受講者の疑問点などは授業内で質疑の時間を設けるとともに、その場での回答が難しい場合は、後日対応する。なお、受講者の要望を反映して授業計画等は柔軟に見直す予定である。可能な限り初回の授業への参加を求める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの内容について共有し、授業の進め方や授業計画に関する意見交換を行う。
第2回	財政と財政学	各自の研究テーマや問題関心を確認しつつ財政との関係を意識してみる。
第3回	市場の失敗と政府の失敗	財政運営を行う政府の必要性について経済学的に考察する。
第4回	予算と予算原則	予算に関する理論と日本の制度を理解する。
第5回	経費論	経費に関する理論と日本における運用の特質を理解する。
第6回	租税論	租税理論や租税原則を学ぶ。
第7回	日本の主な税目	所得税、法人税、消費税について理解を深める。
第8回	公債論	公債に関する理論、制度を学ぶ。
第9回	財政投融资	財政投融资制度の概要を理解する。
第10回	国と地方の財政関係	税収や歳出における国と地方の関係を理解する。
第11回	国庫支出金	国から地方への財源移転のうち、原則として使途が特定された国庫支出金を理解する。
第12回	地方交付税	一般補助金としての性格をもつ地方交付税の重要性を理解する。
第13回	口頭報告	各自の問題意識と財政の関係等をまとめてみる。

第14回 まとめ

報告に対する受講者相互の質疑等をおこないつつ授業全体を振り返る。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。学術書・専門書による学習もさることながら、財政や地域経済にまつわる報道等についても各授業計画に掲げた項目に応じて目を通すなどして関心を払ってください。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は指定しない。

**【参考書】**

1. 佐藤進・関口浩『新版財政学入門』同文館出版、2019年
  2. 佐々木伯朗編『財政学制度と組織を学ぶ』有斐閣、2019年
  3. 高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020年
- その他、授業内で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

口頭報告の内容（70%）、平常点（30%）による。平常点の内訳は、授業内でのコメント（15%）、相互討論への参画（15%）で評価する。口頭報告の機会は、原則として最終回に用意する予定であるが、初回や途中の授業における発言等も加味して評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

対面授業による受講者相互のコミュニケーションへの期待が大きかったと考えていたが、意外に、ハイフレックスの授業を求める声も多かった。初回の授業を含めて柔軟に対応する必要性を感じたことから、事前にハイフレックスにも対応できるようにしておきたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にないが、都合によりオンライン参加等になる場合には必要な機器を用意されたい。

**【その他の重要事項】**

受講者の研究内容や関心に応じて授業の進め方や授業計画は柔軟に対応する予定である。すなわち、授業計画における授業形態は対面としてあるが、受講者が参加しやすい形態を柔軟に検討する。そのため、第1回・第2回の授業には特に積極的にご参加いただきたい。一方で、担当者の都合でオンラインに変更されることがある旨、ご留意いただきたい。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>  
財政学、地方財政論、経済政策論  
<研究テーマ>  
国と地方の財政関係、地方税における法定外税と超過課税、公共交通政策と財政  
<主要研究業績>  
『自治から考える自治体DX』（編者）公人の友社、2021年  
『国税森林環境税』（共著）公人の友社、2021年  
『生活を支える社会のしくみを考える』（共著）日本経済評論社、2019年  
『地方自治論（第2版）』2018年、弘文堂 など

**【Outline (in English)】**

This course focuses on an overview of Public Finance and fiscal system in Japan.

In addition to reference books, you need to be interested in the websites and press of ministries and agencies to understand the administrative and financial system of Japan.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Research presentation:70%,Partipation&Contribution:30%.

ECN500P2 - 009 (経済学 / Economics 500)

**経済学基礎**

芦谷 典子

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

経済学の基礎の部分は、ミクロ経済学とマクロ経済学の二つから構成されます。このうちミクロ経済学は、個々の経済主体、消費者や企業の行動を分析する学問です。消費者と企業が出会う場である市場についての分析も対象で、国をまたいだ取引である貿易も、ミクロ経済学の対象です。これに対して、マクロ経済学は、ひとつの国の経済活動の成果、パフォーマンスを分析する学問です。どのような政策を実行すれば、結果として国民の所得が増えるのか、失業が減るのか、物価が安定するのかといった、暮らし直結の政策論議も含まれるので、マクロ経済学の方が、より身近に感じられる受講生がいらっしゃるかもしれません。これらを踏まえ、いくつかのトピックを選びながら、講義形式で授業を進行してゆきます。

**【到達目標】**

①経済学の基礎を理解し、②それを使って現実の経済状況を把握し、③求められる政策が何かについて考える力を習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

講義1時間、受講者によるディスカッション1時間、振り返り1時間を基礎に、1日（2回分）の授業で1つのトピックを完結します。受講者の希望に応じて、e-ラーニングを取り入れますが、希望の場合は教科書の購入が必要になります。準備時間1~2時間以内の宿題を各日出题し、予習復習および期末試験の代替とします。講義資料は配布を基本としますが、復習時は教科書の熟読を推奨します。宿題の作成にあたっては、教科書は特に必要ありません。代わりに参照できる文献を適宜紹介し、宿題の作成方法について講義の最後に説明します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方/自己紹介/研究テーマ・関心領域の紹介
第2回	経済学の原理と方法	経済学の原理と実践；経済学の方法と問い；最適化；需要と供給、均衡
第3回	ミクロ経済学の基礎1	消費者と生産者、需要曲線、供給曲線、需要の価格弾力性、長期競争均衡
第4回	ミクロ経済学の基礎2	市場の構造、完全競争、産業間の資源配分、公平性と効率性
第5回	マクロ経済学の基礎1	経済全体の俯瞰、国民経済計算、GDPでは測定されないもの、実質と名目
第6回	マクロ経済学の基礎2	所得、失業、物価、景気、金融市場
第7回	貿易1	生産可能曲線、絶対優位、比較優位
第8回	貿易2	国際貿易、貿易体制、保護貿易
第9回	国際金融1	国際貿易と国際金融、經常収支、金融収支

第10回	国際金融2	為替相場制度、外国為替市場、為替レートと輸出
第11回	開発経済1	経済成長のパターン、不平等、貧困
第12回	開発経済2	経済制度と経済発展、対外援助
第13回	経済政策1	財政政策
第14回	経済政策2	金融政策

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習・宿題に要する時間は各回毎に2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』 東洋経済新報社、2020年

『アセモグル/レイブソン/リスト マクロ経済学』 東洋経済新報社、2019年

※購入は不要です。ただしe-ラーニングの活用希望者は購入が必要です。e-ラーニングの実施の有無については、初回の講義で受講生の希望を伺います。

**【参考書】**

適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

①平常授業の活動状況：60%

②宿題：40%

**【学生の意見等からの気づき】**

社会人受講生が多い傾向にあることから、欠席時にもフォローがしやすくやるように、講義は1日（2回分）に1トピックを完結する方法で実施します。本年度は講義を主体とする進行になりますが、日頃の疑問や仕事に生かせる考え方、論文に生かせる考え方など、受講者の間の楽しみにもなる意見交換を期待します。

**【学生が準備すべき機器他】**

非対面 zoom 授業へのアクセスが可能な PC の準備が必要です。また、zoom アプリのインストールが必要です。

**【その他の重要事項】**

初回および最終回は対面、その他は非対面 zoom によるリアルタイム・オンライン授業となります。アクセス先は講義ページに掲載します。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 経済理論および経済統計

<研究テーマ> 不動産と国際経済（金融、貿易、開発、環境、補償）

<主要研究業績> "The Modified Phillips Curve as a Possible Answer to Japanese Deflation," *Advances in Economics and Business*, 5 (10), 2017; "Determinants of Potential Seller/Lessee Benefits in Sale-Leaseback Transactions," *International Real Estate Review*, 18 (1), 2015; "Perfect' Real Estate Liquidity and Adjustment Paths to Long-run Equilibrium," *Journal of International Economic Studies*, 27 (5), 2013; "The Robustness of Cartels Facilitated by Anti-dumping Regulations," *Australian Economic Papers*, 43 (3), 2004 ほか。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This economics lecture introduces basic theories on microeconomics and macroeconomics. Microeconomics views individual actors of the economy, such as consumers, households and firms and the market economics of larger scale producers. Cross-border transaction is considered trade, as we know, and it can also be explained using microeconomic theory. Through the study of macroeconomics theory, on the other hand, we take an overall look at the economy starting with measuring economic performance, followed by learning the model of circular flow. Everyday issues like unemployment, inflation, and salaries are usually seen as key targets of economic policies, and therefore seem familiar to us, and thus a good choice for the focus of our lecture. So, at least one current economic issue will be discussed in each lecture to illustrate what we study in the class.

**【Learning Objectives】**

This lecture has three objectives as follows and we will approach them cumulatively, building on the concepts one by one.

1. First objective - to understand the basic concepts of Economics
2. Second objective - to utilize them to analyze real economic issues
3. Third objective - to derive the appropriate policy to tackle these issues

**【Learning activities outside of classroom】**

As a review each class, students will be asked to write an answer to a question to submit by the next lecture. For this you will be given reference and other study materials including lecture notes at the end of each lecture. Students will be asked to read through the reference and find related issues including business issues around you to discuss in class. Your answers and corresponding activities will be graded as a replacement of the final exam.

**【Grading Criteria /Policy】**

This lecture puts more weight on the in-class activities, up to 60%. The remainder of your grade will be allocated to what you study at home prior to the every lecture, consisting of 40% of the total grade.

Class participation and in-class contribution: 60%

Reports and assigned tasks: 40%

PHL500P2 - 011 (哲学/Philosophy 500)

## 環境哲学・倫理学

吉永 明弘

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講者は環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握する。あわせて発表を行い、自身の問題意識を他者に伝えることができる。

### 【到達目標】

受講者は、環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握し、それをもとに現実の環境問題に対する自分なりの考えを文章で表現することができる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

対面で行う。環境哲学・倫理学の文献の解説と、参加者による発表を中心に進める。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の進め方を説明する
第2回	現代倫理学の射程	現代倫理学の基本文献を紹介する
第3回	欧米の環境倫理	欧米の環境倫理の基本文献を紹介する
第4回	グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理に関する文献を紹介する
第5回	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理に関する文献を紹介する
第6回	科学技術の倫理	科学技術の倫理を論じた文献を紹介する
第7回	公害と環境正義	公害と環境正義に関する文献を紹介する
第8回	自然保護から生物多様性保全へ	自然保護・生物多様性保全に関する文献を紹介する
第9回	意見交換会（1）	授業内容に関する意見交換を行う
第10回	環境問題と社会科学	社会科学の視点から環境問題を論じた文献を紹介する
第11回	地域環境保全と市民の力	地域環境や市民運動に関する文献を紹介する
第12回	場所論と風土論	場所論と風土論の基本文献を紹介する
第13回	景観保全と都市環境	景観保全と都市環境に関する文献を紹介する
第14回	意見交換会（2）	授業内容に関する意見交換を行う

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017年

### 【成績評価の方法と基準】

授業内の意見交換での発言（20%）と期末の書評レポート（80%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やすことにしました。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境倫理学

<研究テーマ>都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理

<主要研究業績>

『都市の環境倫理』

『ブックガイド 環境倫理』

『未来の環境倫理学』

いずれも勁草書房より刊行

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire environmental reading and presentation. At the end of the course, students are expected to writing a book review. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following book review : 80%,in class contribution: 20%.



LAW500P2 - 012 (法学 / law 500)

**環境法基礎**

岡松 暁子、奥田 進一、野村 摂雄

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境問題に関する民事法、行政法、国際法について、その基礎を学ぶ。本授業は、法律の初学者向けに行われる。

**【到達目標】**

環境法の知識のない学生が、その全体像を把握することが、到達目標である。環境分野で仕事をする上で不可欠な知識を身につけることを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

まず、環境法がどのような法律分野から構成されており、環境問題に対して、どのような機能を果たしているのかについて概観する。また、基本的な文献リサーチ方法についても説明する。次に、環境私法について、私人間の環境紛争で、民法に規定された不法行為という考え方がどのように機能するのかを学ぶ。そして、最後に、実際に起こった公害事案をもとにしながら、判例法の妥当性を検証する。次に、環境行政法について、日本における環境行政法の展開を学んだ後、個別規制法として公害規制法や自然保護法、環境行政訴訟と環境行政組織を概観する。

最後に、国際的な環境問題を検討するにあたり必要となる国際法の基本理論を学ぶ。国際社会の基本単位である国家の役割、国際法の特徴を概観した後、受講者の関心がある国際環境問題を取り上げながら、国際社会における環境に関する紛争解決、国家責任等について適宜判例を紹介しつつ、国際環境問題への国際法からのアプローチの仕方を習得する。

また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境法の概観（1） （奥田進一）	環境問題と環境法
2	環境法の概観（2） （奥田進一）	①環境法とは何か、②環境法の構成
3	環境私法（1）（奥田進一）	①環境私法とは何か、②不法行為の基礎理論
4	環境私法（2）（奥田進一）	損害賠償請求と差止請求
5	環境私法（3）（奥田進一）	①環境訴訟における因果関係の立証、②複合汚染と共同不法行為
6	環境私法（4）（奥田進一）	公害事案に基づく議論
7	環境行政法（1）（野村摂雄）	環境行政法の展開
8	環境行政法（2）（野村摂雄）	公害規制法
9	環境行政法（3）（野村摂雄）	自然保護法

- 10 環境行政法（4）（野村摂雄） 環境行政訴訟・行政組織
- 11 国際環境法（1）（岡松暁子） 国際法の基本原則と国際環境問題
- 12 国際環境法（2）（岡松暁子） 国際環境問題における国家責任法とその限界
- 13 国際環境法（3）（岡松暁子） 国際環境条約と国内法
- 14 国際環境法（4）（岡松暁子） 判例研究

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。適宜資料を配布または紹介する。

**【参考書】**

奥田進一＝長島光一『環境法～将来世代との共生』（成文堂、2023）  
北村喜宣『環境法（第5版）』（有斐閣ストゥディア、2020年）。  
黒川哲志・奥田進一編『環境法へのフロンティア』（成文堂、2015年）。  
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦他編著『ケースブック国際環境法』（東信堂、2020年）。

**【成績評価の方法と基準】**

配分：授業内での発表、議論への参加・貢献度30%、期末レポート70%。

評価基準：3人の講師が、授業中に、それぞれ2つのテーマを提示する。この合計6つのテーマの中からレポートを1つ作成し、担当講師に提出する。選択したテーマにつき、判例や法律論文等を最低5つ以上参照して、レポートを書くこと。論点、構成、内容の理解度から評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【担当教員の専門分野等】**

岡松 暁子  
 <専門領域>国際法  
 <研究テーマ>国際法の履行確保、国際環境法、国際原子力法  
 <主要研究業績>  
 『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「福島第一原子力発電所のALPS処理水の海洋放出にかかる諸問題」（2022年）、「ロンドン条約96年議定書の遵守手続」（2022年）、「SDGsと生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017年）等。

奥田進一  
 <専門領域>環境法、民法  
 <研究テーマ>  
 <主要研究業績>（環境関連のもの）  
 ①共著『環境法のフロンティア』（成文堂、2015）  
 ②共著『流域ガバナンスと中国の環境政策』（成文堂、2015）  
 ③「中国の環境問題と法政策」『アジアの環境法政策と日本』（商事法務研究会、2015）所収

野村摂雄  
 <専門領域>  
 環境法・海事法  
 <研究テーマ>  
 地球温暖化、海洋環境法、環境条約の国内実施  
 <主要研究業績>  
 ①『演習ノート環境法』（法学書院、2010年）。  
 ②「欧州連合（EU）における海洋環境保全法制」環境法研究14号（2022年）1頁以下。  
 ③「資源管理法としての環境法」小賀野晶一・黒川哲志編『環境法のロジック』（成文堂、2022年175頁以下）。

**【Outline (in English)】**

< Course Outline >  
 Students will learn the basics of civil, administrative, and international law on environmental issues in this class. The class will be taught on the assumption that you are a layman in the law.  
 < Learning Objectives >

The goal of this course is for students who have no knowledge of environmental law to grasp the whole picture. Students are expected to acquire essential knowledge for working in the environmental field.

< Learning Activities outside of Classroom >

Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, three instructors will each present two themes during these classes. You can take one of the themes, referring to five or more legal cases or papers, write a report on the theme, and submit it to the instructor in charge. Your report will be evaluated based on issues, structure, and understanding of the content.

SES500P2 - 013 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500)

地球環境学基礎

藤倉 良

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用である。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせない。本講義では気候変動を中心にしつつ、オゾン層保護、酸性雨など環境問題や、エネルギーや淡水などの資源問題について、発生メカニズムと対処に関する科学の基礎を修得し、地球規模や国境を超える環境問題に対処する基礎力を養うことを目指す。

【到達目標】

- 以下を説明できるだけの科学的基礎力を養う。
- 人口増加と減少パターンの発生理由。
- オゾンホールが南極上空にできる理由。
- 温室効果のメカニズムと気候変動の科学の不確実性。
- 日本では酸性雨の生態影響が顕在化していない理由。
- 生物多様性を保全しなければならない理由。
- 資源のもつ意味。
- 淡水、土壌、金属などの資源のもつ役割。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

中学卒業レベルの理科の知識を習得していることを前提にして、パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントはHoppiiにアップする。なお講義の順番は状況によって変更になることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	地球環境問題を取りまく諸状況
第2回	人口	人口が増加する要因、都市の人口問題
第3回	オゾン層	オゾン層が破壊されるメカニズム、オゾン層破壊物質、ウィーン条約、モントリオール議定書、国内対策
第4回	気候変動①	地球温暖化のメカニズム、将来予測
第5回	気候変動②	I P C C、国際社会、国際交渉、パリ協定
第6回	気候変動③	緩和策
第7回	気候変動④	エネルギー資源
第8回	気候変動⑤	適応策、気候安全保障
第9回	越境する大気汚染	酸性雨、光化学オキシダント、PM2.5
第10回	資源とは何か	「資源」の持つ意味、「資源の呪い」、資源に関する楽観論と悲観論
第11回	水資源	世界の水資源、国際流域の課題
第12回	生物多様性	生物多様性保全の意義、生態系サービス、遺伝資源

第13回	土壌資源、窒素とリン	土壌の成り立ち、機能、窒素とリンの循環、リン資源
第14回	金属資源	ベースメタル、レアメタル、リサイクル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文科系のための環境科学入門』 有斐閣

【参考書】

講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終回に行う試験(100%)またはレポート(100%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学校卒業程度の理科の知識があれば理解できるように心がけるが、高校卒業程度の知識が必要な場合もある。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

授業は対面で行うが、オンラインで同時配信するので、学生は各自の都合に合わせて受講されたい。オンラインのURLはHoppiiで通知する。

【担当教員の専門分野等】

環境システム科学、国際環境協力

【担当教員が関連した書籍】

1. Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford
2. Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota (Editor) (2012) Climate Change Mitigation and International Development Cooperation, (p.264) Earthscan, London
3. Ryo Fujikura (Guest Editor) (2011) Environmental Policy in Japan: From Pollution Control to Sustainable Environmental Management, Special Issue, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5
4. Ryo Fujikura and Masato Kawanishi (Editor) (2010) Climate Change Adaptation and International Development - Making Development Cooperation More Effective, Earthscan, London

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this course, students will learn the basic science behind the mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone depletion, acid rain, and resource problems such as energy and fresh water. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each. Grading will be based on the final exam (100%) or report (100%).

POL500P2 - 014 (政治学 / Politics 500)

## 国際政治学基礎

大野 知之

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学とは何か、その概要を解説するのが本講義の目的です。ロシアのウクライナ軍事侵攻や中国の台頭などによって第二次世界大戦後の国際秩序が大きく動揺していると言われます。今こそ国際関係を冷静に見る目が必要な時代はありません。入門論としての本講義では、国際政治を理解する上での基本的諸概念を学びます。

### 【到達目標】

本講義では、以下を到達目標とします。

1. 国際政治学の基本的概念を理解することによって、国際情勢を客観的に把握できるようにする。
2. 他人の意見の受け売りではなく、自分の知力で国際政治について意見を主張できるようにする。
3. 偏見、思い込み、固定観念を打破し、公平かつ価値中立的な国際政治に対する見方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

対面授業を基本として、講義形式で行います。この科目は3つのパートで構成されています。まず前半部は国際政治学の基本的な概念や基礎理論について学びます。その後、中間部では国際政治学の代表的なテーマについて前半部で学んだことを踏まえながら考えます。そして、後半部では、昨今の国際情勢についてこれまでの議論を踏まえながら考えます。また授業では、定期的リアクションペーパーを提出してもらおうほか、授業期間中に1回小テストを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～国際政治学入門の入門	国際政治学（国際関係論）とは何か、学問分野の基本的概念を解説します。
2	アナーキーとは何か？	国際政治の最も基本的な概念の一つであるアナーキーについて考えます。
3	リアリズム	国際政治学の主要理論のうち、リアリズムと呼ばれる理論について扱います。
4	リベラリズム	リベラリズムと呼ばれる国際政治理論について、経済的相互依存、国際制度、民主主義の3つの柱という観点から考えます。
5	国際政治における価値の役割	国際社会における規範の形成を中心に国際政治における価値の役割を考えます。
6	対外政策決定過程	外交政策はどのように決定されるのか？ 政策決定の理論のうち、アリソンモデルとパットナムの2層ゲームモデルを中心に考えます。
7	安全保障	安全保障について、同盟と抑止の2つの概念を取り上げて議論します。
8	国際政治経済	国際経済の政治的側面について、前半部で扱ったリアリズムとリベラリズムの観点から考えます。

9	国際機構の役割	国際連合を中心に国際機構の機能と役割について考えます。
10	戦後日本外交の展開	現在の日本外交について議論する際に欠かせない、戦後日本外交の歴史的展開について概観します。
11	冷戦後の東アジア国際関係	冷戦後の東アジアの国際政治について、朝鮮半島情勢と中国の台頭の2つを中心に検討します。
12	国境を超えた人の移動を取り巻く問題	難民や移民などの人の移動をめぐる問題が各国の内政と対外政策にどのような影響を与えているのか考察します。
13	理論からみた現代の国際紛争	合理的選択論など近年、日本でも取り上げられるようになってきた理論を中心にウクライナや中東での戦争について検討します。
14	学習のまとめ	半期の学習を振り返り、まとめます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに1時間、講義終了後に内容を復習するのに2時間、合計3時間を目安とします。

### 【テキスト（教科書）】

講義の中で毎回必ず使用する教科書は指定しません。

### 【参考書】

講義全体の参考書として、いくつか掲示します。さらに詳細な文献リストは講義内で紹介します。

○国際政治学の入門書・教科書

・村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将著『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣 2023年）

・佐渡友哲、信夫隆司、柑本英雄著『国際関係論（第3版）』（弘文堂 2018年）

・草野大希、小川裕子、藤田泰昌『国際関係論入門』（ミネルヴァ書房 2023年）

・宮岡勲『入門講義 安全保障論（第2版）』（慶應義塾大学出版会 2023年）

○国際政治史・外交史

国際政治学を履修する際は、高校の世界史や大学の国際政治史、外交史の知識が役立ちます。参考文献としては、下記のを挙げておきます。

・小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史-主権国家体系のあゆみ』（有斐閣 2018年）

・添谷芳秀『入門講義 戦後日本外交史』（慶應義塾大学出版会 2023年）

・森聡、福田円編『入門講義 戦後国際政治史』（慶應義塾大学出版会 2022年）

### 【成績評価の方法と基準】

授業中に1回小テストを行います。（30%）

また最後に学期末試験を行います。（70%）

この両者を合計した100点満点で成績評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

### 【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to explain an outline of international politics / international relations. The impact of Russian aggression against Ukraine and the rise of china is very heavily, but we must study the basic concepts of international affairs based upon academic discipline now.

ARSI500P2 - 015 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

国際協力論

武貞 稔彦

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs (持続可能な開発目標) に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】

一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1)現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2)国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3)誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

報告対象とする文献については、2024年度秋学期開始前に学習支援システム (Hoppii) を通じて通知/配布予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景-途上国の貧困と先進国との格差-について概観する。
第2回	国際協力をめぐる歴史と制度 (1) 経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後1970年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治/歴史の文脈に位置づけて概観する。
第3回	国際協力をめぐる歴史と制度 (2) 経済成長路線から人間開発路線へ	1980年代、90年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方/取り組みの重点の変化を概観する。
第4回	国際協力をめぐる歴史と制度 (3) 環境と持続可能な開発	2000年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。

第5回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第6回	「開発」とは何か:開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標 (行き着く先) について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第7回	民間企業と国際協力	国際協力の主要なアクターのひとつとなっている民間企業の活動について概観し、その将来像について議論する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

松本勝男著 (2023年) 『日本型開発協力 一途上国支援はなぜ必要なのか』 (ちくま新書)  
 牧田東一編著 (2013年) 『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』 (学陽書房)  
 勝間靖編著 (2012年) 『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』 (ミネルヴァ書房)  
 斎藤文彦 (2005年) 『国際開発論』 (日本評論社)  
 外務省 (毎年発行) 『日本の開発協力』 (ODA白書)

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末レポート (50%)、各回の担当報告の内容 (30%)、授業やディスカッションへの貢献 (20%) を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】

過去には議論の時間の充実 (拡大) を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい (望ましくない) 「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』 勁草書房 2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.

[Learning Objectives]

Completing the course, students are expected;

- 1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
- 2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
- 3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.

[Learning Activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

SES500P2 - 020 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500)

## サステナビリティ研究入門

藤田 研二郎、金藤 正直、長谷川 直哉、渡邊 誠、小島 聡、武貞 稔彦、藤倉 良

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義はサステナビリティと関連する問題を研究するための学際的なアプローチを学ぶための入門コースである。

学生は、今後のサステナビリティ研究の出発点として、サステナビリティ学専攻を構成する様々な研究分野の基本概念と方法論の概要を理解する。また、これらの分野において、サステナビリティという概念がどのように扱われているかを理解することを目的としている。

### 【到達目標】

学生はサステナビリティ研究を行っていく上での出発点として、サステナビリティ学専攻を構成するさまざまな研究領域において、その基礎概念や方法論について概観を得るとともに、それらの領域においてサステナビリティの概念はどのように扱われているのかについて理解する。

講義は7名の教員がオムニバス方式で担当する。学生はこの講義を2年連続して受講することにより、本専攻に所属する専任教員全員の講義を受けることが可能となり、サステナビリティ学における幅広い基礎知識を身に付け、多角的な視野を持つことを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

サステナビリティ学専攻の専任教員が各1回、合計7回を担当するオムニバス形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ／環境NGO・NPO とパートナーシップ の課題（藤田）	サステナビリティ概念の概要を示す。環境NGO・NPOの役割と行政をはじめ多様な主体のパートナーシップにおける課題を考察する。
第2回	持続可能な開発と貧困・格差（武貞）	持続可能な開発目標（SDGs）の最初の目標の対象となっている貧困・格差について、歴史的な視点から概説する。
第3回	研究の進め方と論文の書き方（藤倉）	研究テーマはどのように設定すれば良いか、論文はどのように書くべきか、学術論文とはどのようなものなのかについて解説する。
第4回	現代日本社会と地域の持続可能性（小島）	現代日本における地域の持続可能性問題と対応策について、最近のトピックなどをお互いに持ち寄りながら、ワークショップ形式で考える。

第5回	地球システムと人間活動（渡邊）	エネルギーと物質の保存と拡散、物質循環とエントロピーなどについて考察する。（熱力学から考えるサステナビリティ）
第6回	サステナビリティを巡る日本企業の対応（長谷川）	サステナビリティ経営の現状を脱炭素、人的資本経営、コーポレートガバナンスの視点から解説する。
第7回	新たな環境経営・サステナビリティ経営の理論と実践／総括（金藤）	包括的（包摂的）成長戦略（IG戦略）とこの戦略に基づいた企業・地域の取組事例を取り上げる。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

とくになし。

### 【参考書】

その都度教員が指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業最終回に提示するテーマからひとつを選択し、それにもとづくレポートを作成する（100％）。

### 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

### 【Outline (in English)】

"Introduction to Sustainability Studies" is an introductory course to learn interdisciplinary approaches to study sustainability and related issues. As a starting point for future research on sustainability, students will gain an overview of the basic concepts and methodologies of the various research areas that make up Major in Sustainability Studies. In addition, students will gain an understanding of how the concept of sustainability is treated in these fields. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Choose one of the themes presented in the last class and write a final report based on the theme (100%).

SES500P2-021

**SDGsへの招待【SDGsPlus履修証明プログラム専  
用科目】**

小島 聡、武貞 稔彦、(一社)SDGs市民社会ネット  
ワーク(新田英理子、長島美紀、星野智子)

その他属性：

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」(以下SDGs)について、多様な分野で実現に向け取り組んでいる専門家の講義を受ける。それらを通じ、SDGsについての理解を深めると同時に、各人が自身の関心分野を切り口に、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。SDGs Plus 履修証明プログラムの入り口として設置されているものである。なお、この科目は(一社)SDGs市民社会ネットワークとの連携科目として開講する。

**【到達目標】**

グローバルな射程を持ち、多様かつ一部は実現に困難が予想される目標も含んだSDGsについては、主に国際機関、政府やNGO/NPOが主体的に活動するものと思われがちである。しかしSDGsでは、民間企業や市民がその担い手として重要であると認識されている。持続可能な社会について学ぶ受講生として、①SDGsに関する基礎的な知識を持ち、人に説明することができるようになること、②SDGsにあげられた各種課題を「自分ごと」として捉えることができる当事者としての意識を涵養すること、が本講義の目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

本セミナーでは、SDGsに関わって実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者のSDGsや現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。

受講者は各回にコメントペーパー(講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの)の記入と提出が求められる。

同時に可能な範囲で参加者によるアクティブラーニングの要素を取り入れ、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。

最終回には各受講者にショートプレゼンテーションを実施してもらう予定である。

なお、本講義は対面開催を予定するが、不測の事態が発生した場合は授業実施方法を変更する可能性もある。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとSDGs 総論	講義の目的、進め方等の説明。 講義の全体像の確認。SDGsの 動向に関する解説
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	プレゼンテーション と総括	受講者によるショートプレゼン テーションと総括

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント(資料)が配布される。

**【参考書】**

外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など)60%、プレゼンテーション20%、期末レポート20%の総合評価による。

**【学生の意見等からの気づき】**

オンライン実施の経験も踏まえ、参加者のコミュニケーションのバリエーションや方法の工夫に努める。

**【その他の重要事項】**

講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および研究科ウェブサイトにて発表する。

**【実務経験のある教員による授業】**

財団法人における行政研究等の実務及び自治体行政のコンサルティングの経験者と、SDGsの専門組織である社団法人の理事が協働で、コーディネーターを担当する。

**【Outline (in English)】**

**【Course Outline】**

This course is to introduce and give basic understandings of the Sustainable Development Goals, which is internationally agreed goals and strategies toward sustainable societies. Each class will consist of lecture, discussion among participants and guest speaker's lectures.

**【Learning Objectives】**

The SDGs, which have a global scope and include a variety of goals, some of which are expected to be difficult to achieve, are often thought of as being primarily the work of international organizations, governments, and NGOs/NPOs. However, the SDGs recognize the importance of the private sector and citizens as key players. As students learning about sustainable society, the goals of this lecture are (1) to have a basic knowledge of the SDGs and be able to explain them to others, and (2) to cultivate an awareness of being a party to the SDGs so that they can see the various issues listed in the SDGs as their own.

**【Learning Activities outside of classroom】**

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria/Policy】**

Grading will be based on a composite evaluation of 60% contribution points (attitude toward participation, content of comment papers, comments made in class, etc.), 20% presentation, and 20% final report.



POL500P2 - 015 (政治学 / Politics 500)

公共政策と持続可能な社会づくり

林 嶺那、加藤 寛之、杉崎 和久、谷本 有美子、土山 希美枝、名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

公共政策研究科が運営しているSDGs Plus履修証明プログラムを強化するために、公共政策学専攻が提供している入門的科目である。公共政策研究の立場からいくつかの主要な分野を選び、専攻の教員によるオムニバス形式で構成する。

【到達目標】

SDGsに関連するさまざまな政治的活動、行政施策、経済活動、市民運動を、いくつかの分野に即して理解し、それぞれの受講者がSDGsについて体系的なイメージを獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サステナビリティ学専攻「公共政策と持続可能な社会づくり」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行う。回によっては、外部講師を招いての講義や対談形式を取り入れる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入的説明、及び「地域における持続可能なまちづくり(まちおこし)について、マーケティング戦略の視点から考える」	加藤寛之教授担当。この科目に関する簡単な導入の後、①AUGAの典型的な失敗、②ドラマ『あまちゃん』(2013)に描かれるアイドルによる村おこしの成功要因と持続可能性という観点からみた問題点、③実際に生じたマーケティングとファイナンスとコーポレート・ガバナンスの観点から見て興味深い草津温泉再生事例を比較する。合わせて社会人大学院生特有の研究の良さそれが故に陥りがちな問題点について考える。
第2回	「地域における持続可能なまちづくり(まちおこし)について、マーケティング戦略の視点から考える」・続き	同上
第3回	「都市型社会の政策主体とその関係性」	土山希美枝教授担当。公共政策を展開する主体は市民社会セクター、政府セクター、企業セクターとセクターをこえて存在し、その主体間関係が重要視されている。各主体の特徴、境界領域での新しいとらえかみをとらえ、論じる。
第4回	「都市型社会の政策主体とその関係性」・続き	同上

第5回	「コミュニティ政策と持続可能な社会づくり 1」	名和田是彦教授担当。基礎的な自治体である市町村内のさらに狭域の、しかし住民にとって生活上意味のある地域社会としての「コミュニティ」の観点から、持続可能な社会のための政策論を考える。まずは、日本のコミュニティの基本的な構成を国際比較の観点も交えながら考察する。
第6回	「コミュニティ政策と持続可能な社会づくり 2」	次いで、近年「地域のつながりの希薄化」とよばれている趨勢のもとで試みられている様々な政策的対応や地域活動を、実例を紹介しながら具体的に考察する。杉崎和久教授担当。都市計画制度は、限られた都市空間において、機能的な都市活動と健康で文化的な都市生活を確保するために、土地利用の適正な制限を行う仕組みです。講義では、基本となる都市計画法の概要と成熟型社会における課題について解説します。
第7回	「都市計画」	同上
第8回	「都市計画」・続き	同上
第9回	「多国籍企業のCSR」	多田和美教授担当。グローバル化の進展にともない、多国籍企業のCSRの重要性はますます高まっています。第9,10回の授業では、多国籍企業の国際経営活動が国際社会に及ぼす影響について解説します。また、社会と企業がともに発展するための新たなCSRのあり方について考察します。
第10回	「多国籍企業のCSR」・続き	同上
第11回	「東京圏・町村地域のまちづくりと自治の持続可能性」	谷本有美子准教授担当。東京圏で人口減少に伴う課題を抱える町村において、市民主導ですすめている移住支援や観光事業等の取組みを題材に、ゲストスピーカーによる事例報告を受け、東京圏の町村地域におけるまちづくりと自治の持続可能性、人口集中地域との連携可能性などについて討議を行います。
第12回	「東京圏・町村地域のまちづくりと自治の持続可能性」・続き	同上
第13回	「原子力と持続可能な社会づくり」	林嶺那教授担当。福島第一原子力発電所事故の傷跡が未だ癒えない中、ウクライナ戦争に端を発するエネルギー危機に伴い原子力に対する注目が高まっている。原子力は持続可能な社会づくりに貢献できるのか。エネルギー経済研究所或いは日本原子力研究開発機構等の原子力の専門家を招き、受講者とのディスカッションも交えて、この問題について皆さんと一緒に考えていきたい。
第14回	「原子力と持続可能な社会づくり」・続き	同上

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】  
特になし。

**【参考書】**

各回の担当者から、事前に、または講義中に、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の討論への参加状況（20%）と期末レポート（80%）により成績を決定する。

**【学生の意見等からの気づき】**

コメントシート等を通じて学生から積極的な意見を得ることができた回もあった。今後、授業における双方向性を強めることを前向きに検討したい。

**【Outline (in English)】**

This lecture is an introduction to the SGDs Plus Certificate Program from a viewpoint of the public policy studies in various fields.

Students are expected to understand the outline of political, administrative, economic, social activities related to SGDa.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end report (80%), and in-class contribution (20%).

LAW500P2 - 051 (法学 / law 500)

**政策法務論**

神崎 一郎

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

**【授業概要】**

特に2000年の第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」ということが唱えられてきた。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者間で「政策法務」という言葉は一般的ではない。この差に着目し、自治体政策法務について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。

**【授業目的】**

現在の自治体法務が直面している問題点を検討するとともに、条例論を学ぶ。

**【到達目標】**

- ・自治体政策法務のイメージをつかむ。
- ・条例案立案のポイントをつかむ。
- ・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

- ①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。
- ②授業は、講義を中心とするが、立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。
- ③本講義の最後の2回を立法演習（条例演習）に当てる。立法演習が、講義内容の総まとめとなる。立法演習において、提示した事例を解決するための制度設計をしてもらい、各学生が報告する。報告に対する講評が学生へのフィードバックとなる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1.はじめに～「政策法務」とは？ 2.自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政府とGHQの攻防	1.GHQ民政局内における条文の変遷とその意味するところ～ホームルール制とチャーター 2.日本側草案の起草～民政局案との対比 3.チャーター制定権の変貌
5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1.基本法・基本条例の法規範的性格の稀薄性 2.法体系上の位置づけ 3.自治基本条例の意義 4.民主的契機としての住民投票 5.議会基本条例の意義

7-8	条例論	1.条例の定義 2.条例の類型 3.法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1.分権改革前の判例 2.比例原則 3.分権改革後の判例 4.違憲審査基準論と合理性の基準 5.合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前配付資料又は文献を読むこと。

**【テキスト（教科書）】**

講義録を配付する予定である。

**【参考書】**

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011年）  
神崎一郎『「政策法務」試論～自治体と国のバララックス(1)(2)』（自治研究2009年2月・3月・第一法規）  
「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）

**【成績評価の方法と基準】**

平常点30%・立法演習40%・報告30%。  
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。  
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし

**【担当教員の専門分野等】**

- <専門領域>立法学
- <研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論
- <主要研究業績>
- ①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究2009年8月・第一法規）
- ②『「政策法務」試論～自治体と国のバララックス(1)(2)』（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
- ③「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）
- ④「基本法と基本条例」自治実務セミナー2018年3月号

**【Outline (in English)】**

Course outline;  
Since the first decentralisation reform in 2000, the term "policy legal affairs" has been advocated mainly by those in charge of legal affairs in local governments. However, this term is not commonly used among legal staff in the central government. We will focus on this difference, and examine the problems faced by municipal legal affairs, while clarifying the concept of policy legal affairs.  
Learning Objectives;  
To get an idea of "policy legal affairs".  
To understand the key points of drafting ordinances.  
Grading Criteria/Policy;

The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.

Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

POL500P2 - 052 (政治学 / Politics 500)

**立法学研究**

神崎 一郎

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

**【授業概要】**

我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和21年に、既に末弘巖太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての優れた能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な考究が全くなされていないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に見るにとどまるのではなく、法的視点（法学の基礎知識から立法における憲法・行政法上の比例原則まで）も含めて検討していきたい。

**【授業目的】**

我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をする。

**【到達目標】**

- ・我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までの正確な知識を得る。
- ・上記のベースとなる法学についての基礎的知識を得る。
- ・法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

- ①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。
  - ②授業は、講義を中心とするが、必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせる。
  - ③本講義の最大の特徴は、最後の2回に行う立法演習である。講義において会得した発想方法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。これに対する講評が学生へのフィードバックの位置付けになる。
- ※本講義は、原則として対面で実施する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1.序論～立法学とは 2.現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など

3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1.内閣による法案提出プロセス 2.政党内の意思決定システム 3.議員立法のプロセスの特徴 4.民主党政権下における立法過程の変容～ウエストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1.国会審議過程の現状と課題 2.内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3.ねじれ国会下における立法傾向 4.ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か	1.「法律」とは何か～歴史的経緯から憲法41条の解釈まで 2.現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3.「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する（必要に応じて主要判例を検討する）。
13-14	立法演習	提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前配付資料又は文献を読むこと。

**【テキスト（教科書）】**

講義録を配付する予定である。

**【参考書】**

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011年）  
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方 第2版』有斐閣（2021年）

**【成績評価の方法と基準】**

平常点30%・立法演習40%・報告30%。  
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。  
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし

**【その他の重要事項】**

コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい（パソコン・タブレットでも対応可）。

**【担当教員の専門分野等】**

- <専門領域>立法学
- <研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論
- <主要研究業績>
- ①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究2009年8月・第一法規）
- ②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス(1)(2)」（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
- ③「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）
- ④「基本法と基本条例」自治実務セミナー2018年3月号

**【Outline (in English)】**

Course outline;  
Japanese jurisprudence has been developed mainly on the interpretation of laws. Already in 1946, Dr.Suehiro pointed out that the work of drafting laws and regulations is done only by the professional skills of the bureaucrats concerned, and that there has been no scientific study. In this lecture, we will try to systematize "Legislation Studies" based on the results of these studies.

Learning Objectives;

To acquire an accurate knowledge of Japanese legislation, from the planning stage to the enactment and enforcement stage.

To gain knowledge of the structure of laws and regulations and the means of achieving policy objectives, and to be able to design simple systems and draft articles.

Grading Criteria/Policy;

The class will consist mainly of lectures, but will also include a combination of research, presentations and discussions by the participants as necessary.

The most important feature of this course is the legislative exercise held in the last two sessions. Students will design a legal system for a given issue, using the ideas and tools they have acquired in the lectures, and report on and discuss the legal system they have designed. Participation in the legislative exercise is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures

POL500P2 - 053 (政治学 / Politics 500)

政策評価論

南島 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代後半には日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされていなかった。本講義では、これら公的部門の評価のあり方を議論するものである。その際、歴史を踏まえつつ理論的な検討を行うとともに海外の取組との比較も視野に入れる。

【到達目標】

本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントは以下の3点である。

- ①政策評価の類型に関する理解  
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
- ②政策評価の歴史に関する理解  
PPBS、GAOのプログラム評価、GPRA/GPRAMAの史的展開  
日本の政策評価の史的展開に関する理解
- ③政策評価の理論に関する理解  
ロジックモデル、評価階層、アカウントビリティの理解  
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争  
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

オンラインにて行う予定である。授業は1回2コマで実施する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形式での討論を交える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この科目について、成績評価の方法についてなど
第2回	政策の概念：公共政策学と評価学の政策のイメージの違い、ロジックモデルについて概説する。	政策の合理性、体系的、循環性、ロジックモデル
第3回	評価の概念：政策分析、プログラム評価、業績測定の違いを概説する。	政策分析、プログラム評価、業績測定の違い
第4回	政策分析：政策分析に関して、公共事業評価、規制影響分析について学ぶ。	費用便益分析、公共事業評価、規制評価

第5回	業績測定と自治体①：自治体評価がどのように組み込まれてきたのか。三重県の事例も含めて概説する。	事務事業評価、総合計画の評価
第6回	業績測定と自治体②：自治体評価において用いられる必要性、有効性、効率性の規準を議論する。また、政治と評価について議論する。	計画と評価、マニフェストと評価
第7回	業績測定と独立行政法人①：国の独立行政法人の評価とその課題について議論する。	NPMと評価、独法の歴史、3つの独法形態と評価
第8回	業績測定と独立行政法人②：地方独法の評価とその課題について議論する。	地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価
第9回	国の府省の評価①：政策評価制度の導入の経緯を詳細に議論する。政策評価法の構造にも触れる。	中央省庁等改革と評価、総務省の行政評価局調査、政策評価法
第10回	国の府省の評価②：国の府省の政策評価の実像に迫る。あわせて行政事業レビューの取組を紹介する。	府省の自己評価、3つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
第11回	アメリカの評価①：アメリカの政策評価の歴史を概観する。	PPBS、プログラム評価、PGRA
第12回	アメリカの評価②：アメリカの政策評価のうちGPRAの改革過程と論点を議論する。	GPRAMA、データドリブン、エビデンスベースド、APGs、CAPGs、評価の日米比較
第13回	評価理論①：評価類型を整理する。あわせて評価階層の理論について議論する。	評価の類型論、評価階層の理論（システマティックアプローチ）
第14回	評価理論②：評価に関する学説史について概要に触れる。	評価をめぐる学説、科学主義と実用主義の対立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』晃洋書房、2020年。

【参考書】

今村都南雄・武藤博己・佐藤克廣・沼田良・南島和久『ホーンブック基礎行政学（第3版）』北樹出版、2015年。  
 石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。  
 行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008年。  
 南島和久編『JAXAの研究開発と評価』晃洋書房、2020年。  
 馬場健・南島和久編『地方自治入門』法律文化社、2023年。  
 武藤博己監修、南島和久・堀内匠編著『自治体政策学』法律文化社、2024年。  
 益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010年。  
 松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018年。  
 武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014年。  
 広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013年。  
 山谷清志『政策評価の理論とその展開』晃洋書房、1997年。  
 山谷清志『政策評価の実践とその課題』萌書房、2006年。

山谷清志編著『公共部門の評価と管理』晃洋書房、2010年。  
山谷清志『政策評価』ミネルヴァ書房、2012年。  
山谷清志監修、大島巖、源由理子編著『プログラム評価ハンドブック』晃洋書房、2020年。  
山谷清志編『政策と行政』晃洋書房、2021年。

**【成績評価の方法と基準】**

討論への参加（40％）、期末レポート（60％）

**【学生の意見等からの気づき】**

とくになし。

**【学生が準備すべき機器他】**

履修にはZoomに接続可能な機器が必要です。講義はZoomを利用して行います。

**【その他の重要事項】**

初回の講義にて案内します。万が一初回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、najima■policy. ryukoku.ac.jp（「■」は「@」に、ピリオドは半角にしてください。）

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>行政学、政策学

<研究テーマ>政策評価の制度運用

<主要研究業績>『政策評価の行政学』（単著、晃洋書房）、『英国の諸相』（編著、創成社）、『地方自治入門』（編著、法律文化社）『自治体政策学』（編著、法律文化社）、『協働型評価とNPO』（共著、晃洋書房）、『JAXAの研究開発と評価』（編著、晃洋書房）、『政策と行政』（共著、ミネルヴァ書房）、『プログラム評価ハンドブック』（共著、晃洋書房）、『公共政策学』（編著、ミネルヴァ書房）、『それでも大学が必要』と言われるために』（共著、創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第3版）』（編著、北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（共著、敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（共著、法大出版）、『組織としての大学』（共著、岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（共著、晃洋書房）など

**【Outline (in English)】**

Since 1990's, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with overseas initiatives.



SOC500P2 - 054 (社会学 / Sociology 500)

社会調査法 1

竹元 秀樹

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1. 社会調査法の入門科目として、社会調査の基本的な事項を学ぶ。
2. 社会調査の全体像、社会調査の歴史的経緯について概説する。
3. 社会調査の様々な手法について検討する。
4. 質的調査と量的調査双方の基本事項を理解する。
5. 調査倫理など調査に伴う問題を学ぶ。

【到達目標】

1. 社会調査の基本事項、歴史を簡潔に説明できる。
2. 量的調査と質的調査の相違を識別できる。
3. 社会調査のプロセスを具体的に述べることができ、実際に調査を始めることができる。
4. 倫理違反といった概念について具体的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

社会調査の基本事項を理解し、全体像を把握するために、次のように授業を進めていく。

1. 社会調査の歴史的経緯を学びつつ、様々な社会調査の手法を説明する。
2. 質・量双方の調査研究の特性について、調査の企画・実施、成果の発表に至るまでの流れを具体的に解説する。
3. 調査倫理の問題を踏まえつつ、社会調査の意義についての理解を促す。

授業は原則対面で実施する講義形式によって進める。  
授業への学生の積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらおう。

授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会調査の基本的な考え方1	・社会調査の諸定義と目的 ・社会調査の諸類型
第2回	社会調査の基本的な考え方2	・量的調査と質的調査 ・成果の公表
第3回	社会調査の歴史1	・社会調査の源流：人口調査、貧困調査 ・民族誌の系譜：文化人類学、シカゴ学派社会学
第4回	社会調査の歴史2	・日本の社会調査：国勢調査、都市及び農村調査、SSM調査等
第5回	社会調査の設計1	・社会調査の全過程：着想から成果の公表まで
第6回	社会調査の設計2	・問いと対象の設定 ・調査・分析手法の選択 ・手法による手順の違い：研究における「仮説」の位置
第7回	量的調査の方法と実例1	量的調査のステップ：仮説の操作化、調査票の作成、サンプリング、実施、データの入力と分析

第8回	量的調査の方法と実例2	・実例に基づく量的調査実施過程の追体験
第9回	質的調査の方法と実例1	・質的調査のステップ：関連資料の収集、参与観察、聞き取り調査の実施、データの整理と分析
第10回	質的調査の方法と実例2	・実例に基づく質的調査実施過程の追体験
第11回	理論と調査との関係1	・理論命題と理論枠組 ・先行理論の位置づけ
第12回	理論と調査との関係2	・認識の深まりと問いの洗練
第13回	調査倫理	・調査者と被調査者との関係 ・学問としての倫理、調査における倫理
第14回	調査の社会的意義	・社会調査と価値判断の問題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業1回につき4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。

【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、リアクションペーパー20%、レポート課題60%とする。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成と社会調査との関係性、たとえば論文作成において社会調査はどのような位置づけにあり、どのような役割を果たしているかなどについて、より理解が深まるように授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」  
関連科目「社会調査法2~8」

【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析  
二大価値観 (個人/集団) の関係構築問題

【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014年、新曜社。  
共著『よくわかる都市社会学』2013年、ミネルヴァ書房。  
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質なコミュニティ・ピロギングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第3巻第2号、2021年。

【Outline (in English)】

This course deal with basic matters of social research. It also enhances the development of students' skill in considering various methods of social research.  
By the end of the course, students should be able to explain basic matters of social research, especially about the difference of quantitative and qualitative research.  
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.  
Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P2 - 055 (社会学 / Sociology 500)

## 社会調査法2

見田 朱子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の社会調査法のうち、統計学の応用による、大人数の社会意識や集合行動の構造の解明を目的とするサーベイ型の調査法について概説する。まずこの調査法の成立の歴史的経緯と基本的な論点を踏まえた上で、調査計画から結果の統計解析までのプロセスを概観するとともに、その時々が生じる実践的課題について詳論する。さらに、社会意識調査を政策形成に活用する方途についても考察したい。

### 【到達目標】

サーベイ型の社会調査に関する基本的知識、特に調査の計画から報告書の作成までの一連の流れを理解し、知識として習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

教室で対面で開催(予定)。実習的な作業をとまなう、各回2時限の連続講義。課題やレポートについては事後に全員に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論1	社会科学的認識と計量的社会調査の関係について
2	概論2	近代日本における計量的社会調査の展開と課題
3	調査の設計1	調査票調査の企画・設計（質問文案をレポートとして提出）
4	調査の設計2	質問文と選択肢の構成（調査票作成作業を実習形式で行う）
5	サンプリング1	サンプリングの統計学的基礎
6	サンプリング2	サンプリングの種類と実施上の問題
7	調査の実際1	計量的社会調査における調査者と被調査者の関係
8	調査の実際2	調査票の配布・回収をめぐる諸問題
9	データの集計と整理1	コーディングとデータクリーニングの方法
10	データの集計と整理2	コーディングから度数分布表作成までの過程（仮想的な調査データを用いて実習形式で行う）
11	調査データの読み方	基本統計量とデータ分布の概説
12	展開的講義	政策形成と社会意識調査
13	まとめ1	社会調査を政策形成に活用する方途について（講義）
14	まとめ2	社会調査を政策形成に活用する方途について（討論）別途レポート提出および筆記試験を実施

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示した課題を指示された期日までに自宅で用意し、提出すること。授業終了後参考書を手入・熟読して、重要箇所を復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない

### 【参考書】

授業中に適宜指示する

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加30%、課題提出15%×2回、筆記試験40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

（本年度授業担当者変更によりフィードバックは特になし）

### 【学生が準備すべき機器他】

各自自宅でパソコンを使用した作業が必要。学習支援システムへのアクセスが必須。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会意識、社会調査論、近代化論

<研究テーマ> 「幸福」の社会学

<主要研究業績>

『「幸福の基準」及びその設定における『近代化』の影響』『SSJDA Research Paper Series—World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA - 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)This lecture aims to study basic methods of social research by statistical sampling and questionnaires.(Learning Objectives)The goals of this lecture are understanding the basics of social research by statistical sampling and questionnaires.(Learning activities outside of classroom)Writing reports and Reading directed books(Grading Criteria /Policy)Positivity to classwork:30%,Reports:15%\*2,Final Exam:40%

SOC500P2 - 056 (社会学 / Sociology 500)

## 社会調査法 3

見田 朱子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学における統計データの利用法。

「統計データ」を読み、書（描）き、利用するための基本概念や方法を理解する。具体的には、統計資料の整理の仕方、基本的な統計量の読み方、図表の読み方、作成方法について。また、変数間の関係を記述する方法やその読み取り方についても解説するので身に付けてほしい。

さらに「非統計（質的）データ」を読むときの基本事項の学習を踏まえ、社会調査におけるデータ活用方法についての理解を促す。技術的には、Excelおよび無料の統計ソフトR等を用いた実習を通じてデータ分析の実践的理解を深める。

### 【到達目標】

統計データの形式を整えたり、変数を操作化することができる。  
統計データの情報を要約することができる。  
統計ソフトを用いて変数間の相関や連関を調べることができる。  
統計ソフトを用いて推定や仮説検定を行うことができる。  
統計データをグラフや表によって可視化することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC操作の可能な学習室を利用予定。  
「社会統計」と「社会調査」の仕組みを根本的に理解するための講義を行う。またExcelや統計ソフトRの技術的な習得が一つの重要な目標であるため、PC操作の実習は必須である。発表や課題提出は社会調査の結果報告に欠かせないため、WordやPowerPoint等の扱い方を含めた、基本的なレポート（論文）の書き方についても指導する。

クラスの親睦を深め、具体的なテーマに接するため、授業内発表の機会も設ける予定である。また、リアクションペーパーではなく、都度の質問や対話やメールでの補足を受け付ける予定。

成績は、受講人数にもよるが、授業内での小課題と発表、レポートによる予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1 統計データの基本事項 2 統計データの基本概念	・統計データの目的と種類 ・社会（学）理論とデータとの関係 ・測定と変数の種類 ・記述統計と推測統計 ・データの解釈
第2回	3 統計資料の整理 4 度数分布	・統計資料の整理 ・データファイルの作成 ・2次資料と公開データ・単純集計と度数分布表 ・図の種類 ・相対度数による表示の機能と問題

第3回	5 分布と統計量1 6 分布と統計量2	・平均 ・分散 ・標準偏差 ・中央値 ・分位数 ・標準化 ・（標準）正規分布
第4回	7 検定の基礎知識 8 クロス表1	・母集団と標本データ ・仮説 ・独立変数と従属変数 ・因果関係 ・クロス表の作成と読み取りの一般原則 ・DKとNA ・情報の圧縮
第5回	9 クロス表2 10 相関1	・関連性の読み取り：オッズ比とリスク比 ・第3変数とエラボレーション ・散布図 ・相関係数
第6回	11 相関2 12 復習と補足	・相関関係と因果関係 ・擬似相関 ・結果の解釈と提示の方法 ・作図のオプション
第7回	13 非統計データについて 14 総括	・「量的データ」への変換と利用の方法 ・テキスト（化）データの扱い方 ・社会調査の基本事項に関するまとめと成績評価に関わる作業

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業各回の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

杉野勇『入門・社会統計学：2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』法律文化社、2017年。（データ資料を利用します。web上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布する予定なので未購入でも構いません。）

### 【参考書】

G.W. ボーンシュテット/D. ノーキ著、海野道郎・中村隆監訳、1992、『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社。  
石川淳志他編、1998、『見えないものを見る力—社会調査という認識』八千代出版。  
『入門・社会統計学』サポートウェブ (<http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html>)  
他（授業中に適宜紹介）

### 【成績評価の方法と基準】

課題提出によって評価。  
課題は、複数回ある小課題（合計40%）、期末の発表（30%）および期末レポート課題（30%）を指す。  
ただし、オンライン授業の取入れなどによって「小課題」や「発表」の内容や方法に変更が有り得る。  
また、授業期間中の授業貢献度（クラス全体の理解を助ける質問や意欲的な取り組みなど）を10-20%程度取り入れる場合がある。  
※出席が2/3に満たない場合は無条件に「不可」となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

・実習の進行について、パソコンに慣れていないと「早すぎる」と感じられるかもしれない。不安を感じる場合は、受講までにパソコンにできるだけ慣れておくことが望ましい。例えば、Excelにおけるドラッグによるナンバリング（Autofill機能）などが一応使える程度、Copy & Pasteやファイルのダウンロードと保存、テキストデータの扱いなども滞りなくできる程度を念頭においている。  
・学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。例年、他分野から様々な立場での受講生がいるため、双方向性の必要を強く感じている。必要な進度は確保しつつ、フロアからも気軽に発言して無理なくフォローができる授業運営にしたい。  
・質問等の効果はクラス全体で共有することを基本とする。  
・また授業時間外の学習に取り組みやすいよう、オンライン資料等の活用に対応できるよう準備したい。

**【学生が準備すべき機器他】**

実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや授業システム等を利用予定。

必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコン等の演算機器が必要になる。自宅に用意できない場合は登校して学習する必要が出てくる。

**【その他の重要事項】**

社会調査士資格認定のためのカリキュラム「C」科目に相当する。オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。その他の機会については初回授業でお知らせする。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 社会意識、社会調査論、近代化論

<研究テーマ> 「幸福」の社会学

<主要研究業績>

『「幸福の基準」及びその設定における『近代化』の影響』『SSJDA Research Paper Series—World Values Survey (世界価値観調査)を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA-40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年.

**【Outline (in English)】**

Learning how to use statistical data in social science research: Beginner level.

Understand basic concepts and methods for reading, writing and drawing statistical data. Specifically, how to organize statistical data, how to read basic statistics, and how to understand and create tables and graphs. Then, also we learn how to know and describe (and read) relationships between variables. Furthermore, based on the learning about basic non-statistical (qualitative) data, encourage understanding of "data" analysis in social survey research.

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.

Grading will be decided based on tasks: assignments 40%,presentation 30% and end-term report 30%. Maybe in-class contribution also will be considered (20% max.and in case, assignments 30% and presentation 20%).

\*We use Windows PC; Excel and statistical package "R".

SOC500P2 - 057 (社会学 / Sociology 500)

## 社会調査法 4

見田 朱子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既存の、あるいはオリジナルに収集されたデータセットについて、基礎的な統計処理を経てレポートを作成するまでのスキルを身につけることを目的とする。

主な内容は、既存の統計調査の検討、学術的調査と実務的調査の違い、統計の理論的背景、Rの使用法などである。あわせて、数値データの解釈に必要な現代社会の諸相についての知識も得る。大きな前提として、本講義は社会調査について学ぶ中にある。したがって、「社会調査」というもののあり方や、その中での定量的調査・分析の位置づけといったものの理解もうながす目的ももつ。

### 【到達目標】

本講義の到達目標は以下の4点である。

- ①定量的社会調査の基礎知識を得る
- ②定量的社会調査をとまなう学術論文を理解できるようになる
- ③自身の論文作成において定量的社会調査を活用できるようになる
- ④行政、ビジネス等の実務においても定量的社会調査を活用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC操作の可能な学習室を利用予定。

2コマ連続のクラスだが、1コマずつ別の単元で区切る場合と、連続して1つの単元に取り組む場合、あるいは前半と後半を講義と実習に振り分けることなどがある。講義もだが、特に実習は遅刻や欠席によって進行についていけなくなるので留意されたい。

リアクションペーパーを兼ねた小課題、期末にはレポートと発表を兼ねた課題を出す予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	イントロダクション 社会調査と社会統計学の歴史
第2回	統計ソフトRの扱い方	Rの紹介と基本的な使い方 復習を兼ねて、基本統計量の算出などを確認。
第3回	確率論の基礎	確率分布の考え方 正規分布の意味と性質
第4回	R実習1	基本操作方法～確率と確率分布に関するコマンド
第5回	統計的（量的）分析の基本	データセットの取り扱いとデータクリーニングについて
第6回	R実習2	データ操作の基本・データ取得～データクリーニング
第7回	分布と確率	正規分布の意味と性質～二項分布
第8回	R実習3	表の作成と解読 正規分布曲線をはじめとしたグラフィックの基本（図の作成）
第9回	統計的検定の基礎	推測統計と、帰無仮説の考え方

第10回	検定の手順	検定の手順を確認しつつ、Rを使って例題を解き、結果を解釈し文章化する。
第11回	各種の検定 独立性の検定 2群間の差の検定	検定の種類外観 カイ二乗検定とt検定
第12回	R実習	カイ二乗検定とt検定
第13回	回帰分析	回帰分析の考え方と手順
第14回	R実習 まとめ	回帰分析の実習 成績評価にかかわるまとめ作業

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習はWindowsパソコンで無料の統計ソフトRを使用して行う。このため、特別なスキルは必要ないが、エクセルやワードをごく一般的なレベルで使える程度のスキルが必要である。できればRを予めダウンロードしておくこと。またパソコンスキルに自信のない受講者は事前にWindowsパソコンに十分に慣れておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しないが、下記の書籍を適宜参照すると理解の助けとなる。この書籍の公開データなどを利用してもらう予定である。また、Rの操作方法についてはWeb上に公開されている参考ページなどを交えて適宜紹介する。

杉野勇『入門・社会統計学: 2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』法律文化社、2017年。

### 【参考書】

石川淳志他編 1998、『見えないものを見る力——社会調査という認識』八千代出版。

G.W. ボーンシュテット/D. ノーキ著、海野道郎・中村隆監訳、1992、『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社。

### 【成績評価の方法と基準】

実習的な小課題 30%

授業中の理解・貢献状況 10%

期末レポート・発表 60%

ただし、受講人数やオンライン回の活用状況などによって、評価の方法や内容は変更になることもありうる（このような場合には受講生への確認と周知をする）。

### 【学生の意見等からの気づき】

・実習の進行について、パソコンに慣れていないと「早すぎる」と感じられるかもしれない。不安を感じる場合は、受講までにパソコンにできるだけ慣れておくことが望ましい。例えば、Excelにおけるドラッグによるナンバリング（Autofill機能）などが一応使える程度、Copy & Pasteやファイルのダウンロードと保存、テキストデータの扱いなども滞りなくできる程度、を念頭においている。

・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては必要に応じて相談のうえクラス運営をする予定である。

・社会調査法1～3（特に3）は、必須ではないが既習であることが望ましい。

例年、「3」より先に本講「4」を履修したいという相談がある。履修予定等さまざまな事情はあるだろうからできる限り対応したいと思うが、理解度としてはやはり難しいところがあると感じている（例えるなら、四則計算を学ばずに面積や体積の計算方法を学ぼうとするようなもの）。さらに、統計ソフトの使用という技術的な慣れの点でも積み重ねの差が出てしまうので、「3」未履修での本科目の履修は非常な努力の覚悟が必要になる。履修相談は受け付ける。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料の配布やお知らせ等には法政大学の学習支援システム（Hoppii）を利用する。

パソコン（Windows）および周辺機器。MacやLinuxでも履修可能だが、授業はWindowsを前提として行う。iPad等のタブレット端末は使用できない。

Excelもしくはこれと同等に使用できる表計算ソフト。ただしExcel以外のソフトを使用する場合、それに合わせた特別な指導や補助はできない。

できれば「R」をインストールしておくこと（講義予定の教室PCにはインストール済み。初回授業で案内予定）。

### 【その他の重要事項】

・質問等はメール（akiko.mita.86@hosei.ac.jp）でも受け付ける。

・講義開始後、授業内容にかかわる質問はクラス全体で共有したい。そのため極力「その場で」の質問を推奨し、メール等でいただいた質問もプライバシーの問題等がない範囲で公開の回答とする。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 社会意識、社会調査論、近代化論

<研究テーマ> 「幸福」の社会学

<主要研究業績>

「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series—World Values Survey (世界価値観調査) を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA - 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年.

**【Outline (in English)】**

This course introduces the skill of quantitative research data.

We will study about technics to analyze statistical data and social research plan. At the end of the course, participants are expected to understand the difference between academic and practical research, theoretical background of social statistics, and be able to analyze statistical data using R.

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.

Grading will be decided based on assignments 30%,end-term report and presentation 60% and in-class contribution 10%.

SOC500P2 - 058 (社会学 / Sociology 500)

社会調査法5

竹元 秀樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的な調査と分析の方法についてより深く学び、基本的な質的調査計画が設計できることを目指す。そのために、さまざまな質的データの収集と分析の具体的方法について理解を深め、実践に役立つ知識を身に付ける。とくにフィールドワークに必要な技法や倫理的な問題についての知識を習得する。

【到達目標】

1. 質的調査におけるデータ収集の基本手法である、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析について、各手法の利点と問題点を説明できる。
2. 質的調査の分析技法である、インタビュー分析、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析について、各技法の内容を説明できる。
3. 質的調査の実施に向け、基本的な調査計画が設計できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

1. まず、質的調査の考え方や設計の仕方について解説する。
2. つぎに、フィールドワークの基本的な質的調査手法である、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析の各項目について、事例を使って具体的な解説を行い、質的データの収集・分析方法について理解を深める。
3. さらに、分析結果の提示（論文・報告書の発表）を念頭におき、被調査者との関係など倫理的な問題についての理解を促す。授業は原則対面で実施する講義形式によって進める。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論1：社会調査の全体像	・社会調査と質的調査の定義／目的 ・質的調査と量的調査の定義／種類／特徴
2	総論2：方法論的スタンスの識別	・方法論的スタンス（個人主義／集団主義）の自己把握と客観性問題
3	総論3：質的研究の意義と特性	・質的研究の現在の特徴と意義 ・帰納的研究および「中範囲の理論」の重要性
4	質的調査の設計—調査研究のプロセス	・質的調査のプロセス ・「問い」「仮説」の設定の重要性と問題点 ・先行研究との関連性
5	フィールドワーク1—社会的生活の記述	・質的調査におけるフィールドワークの流れ ・フィールドワークの論点
6	フィールドワーク2—事例の俯瞰的把握	・先行研究事例の構造とプロセス ・事例の評価と限界

7	質的データの収集1—聞き取り調査	・聞き取り調査の意義と境界 ・インタビューの種類 ・聞き取り調査のプロセス
8	質的データの収集2—参与観察	・参与観察の利点と問題点 ・「問い」の設定時期
9	質的データの収集3—ドキュメント分析	・ドキュメント分析の様々な材料 ・分析によって明らかにされるもの
10	質的調査の分析技法	・カテゴリー分析の特徴と理論的背景 ・シークエンス分析の特徴と理論的背景
11	質的データの分析1—ライフヒストリー分析	・ライフヒストリー分析の特徴と意義 ・先行研究の解読
12	質的データの分析2—内容分析、会話分析	・内容分析の特性と具体例 ・会話分析の内容と先端的意義
13	調査結果のまとめ方と発表での活用	・論文／報告書の作成 ・発表での活用事例の検証
14	調査倫理—成果の公表とその問題	・調査倫理規定 ・プライバシー保護 ・被調査者保護をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業1回につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

学界の現代的潮流のなかでの質的調査の位置づけと重要性について、より理解が深まるように授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」  
関連科目「社会調査法1・2・3・6・8」

【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析  
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014年、新曜社。  
共著『よくわかる都市社会学』2013年、ミネルヴァ書房。  
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質なコミュニティ・ピロングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第3巻第2号、2021年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about specific methods of collecting and analyzing qualitative data. By the end of the course, students should be able to explain specific methods of qualitative research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P2 - 059 (社会学 / Sociology 500)

社会調査法 6

竹元 秀樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学および政策科学の研究の実際場面で社会調査を活用するため、研究の目的および研究に適用する調査の方法論と有機的に結びついたかたちで、調査をデザインしてデータを収集／分析する思考法を実践的に習得する。とくに調査企画・設計のプロセスに主軸をおいた、量的調査と質的調査の両面からの実習体験を通じて、さまざまな社会調査手法の利点／欠点、意義／限界について理解する。そして最終的に、受講者が各自の問題関心に対して、マルチメソッド法や混合研究法の方法論に基づいて調査デザインが立案できる構想力を習得する。

【到達目標】

1. 社会調査の実施に向け、研究計画書を作成するための実践的な思考法を身につけている。
2. 量的調査の基本的な企画・設計ができ、それに基づいて調査票の作成を行える。
3. 社会調査の方法論的立場を認識して、質的調査の基本的な企画・設計ができる。
4. 受講生各自の問題関心に基づく調査計画、およびその調査に基づく修士論文の執筆計画を立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

1. 研究計画書の作成プロセスを通じて調査研究の基礎的な知識について解説し、グループワークによる実習を中心にして研究の方法を検討する。
2. グループワークおよび個別単位での実習を中心にして、量的調査の基本的な企画・設計と簡単な調査票の作成を行う。
3. グループワークによる実習を中心に、方法論的立場の違う仮説を設定して、それに基づいて質的調査の企画・設計を行う。
4. 受講者各自の問題関心に対して、マルチメソッド的な調査デザインを構想する。

授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらおう。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論1：社会学・政策科学と社会調査	・調査背景、調査目的、意義と限界
2	総論2：社会調査のプロセス	・企画から報告書の作成まで、データの収集と分析
3	総論3：社会調査の諸類型	・量的調査／質的調査、混合研究法、デジタル・サーベイ
4	総論4：社会調査の倫理と真正性	・ラポールの構築、調査に特有の倫理
5	研究計画書の作成プロセス1	・論文の構成、調査研究のプロセス、問題関心の内容
6	研究計画書の作成プロセス2	・研究テーマ、研究の課題と目的、研究の方法

7	グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計1	・調査テーマの設定 ・仮説構成 ・サンプリングの対象・方法
8	グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計2	・調査票の作成 ・ワーディング、プリテスト ・企画・設計内容の発表
9	事例の映像データから構想する質的調査の企画・設計1	・データの収集方法 ・聞き取り調査 ・社会構造主義／構築主義
10	事例の映像データから構想する質的調査の企画・設計2	・ライフヒストリー分析 ・会話分析 ・企画／設計策定結果の発表
11	質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較1	・研究目的の相違 ・先行研究の批判的視点 ・調査手法の組合せと限界
12	質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較2	・方法論的個人主義／集団主義 ・参与観察の利点 ・マルチメソッド法の効用
13	マルチメソッド的な方法による社会調査デザインの構想1	・混合研究法の方法論的特徴と意義の把握
14	マルチメソッド的な方法による社会調査デザインの構想2	・混合研究法の方法論に基づく調査デザインの実践的理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業1回につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、リアクションペーパー20%、レポート課題50%。

【学生の意見等からの気づき】

社会調査の企画・設計時に、マルチメソッド法や混合研究法の手法を活用して立案できるように注力していく。

【学生が準備すべき機器他】

第1回目の講義時に確認する。

【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」  
関連科目「社会調査法1・2・3・5・8」

【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析  
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014年、新曜社。  
共著『よくわかる都市社会学』2013年、ミネルヴァ書房。  
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質なコミュニティ・ピロングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第3巻第2号、2021年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about planning and design of social research by practical training.  
By the end of the course, students should be able to make a research plan based on each student's interests in problems.  
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.  
Grading will be decided based on term-end report(50%), short report(20%) and in class contribution(30%).



SOC500P2 - 050 (社会学 / Sociology 500)

## 社会調査法7

見田 朱子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、定量的社会調査の結果をデータとして用いる多変量解析の技術を学ぶものである。しかし、昨今、統計パッケージの普及によって、複雑な統計解析も容易に行えるようになってきた反面、それぞれの統計手法の基礎や特徴を理解しないまま分析がされることも少なくない。本講義では、技術そのものとしての習得と同程度あるいはそれ以上に、その技術が社会調査のなかでどのように利用されるものか、社会調査結果の分析と考察の過程にどのように位置づけられるのかといった理解を重視する。

具体的には、統計学の基礎を確認しつつ、まずは分散分析と線形回帰モデルの学習を通じて、交互作用項を中心とした多変量解析の基本的な考え方を学ぶ。さらに線形回帰モデルとの差異に注目しながら、ロジスティック回帰分析について学習する。また、探索的分析手法としてクラスター分析、主成分分析、因子分析を紹介し、その概要を学習する。

これらの分析手法は、統計パッケージRによる実習を通じて、実践的に修得することが目指される。またその際には、統計パッケージの単なる使用方法の習得だけでなく、各手法の考え方やその結果の意味を理解し報告できるようになることに重点を置く。

### 【到達目標】

本講義の目標は、多群間比較や線形回帰モデルなどの学習を通じて、多変量解析の基本的な考え方を修得することである。座学と実習を通じて各分析手法の考え方や仮定について理解し、自ら説明できるようになることが目標である。それと同時に、統計パッケージRを用いた実習によって、実際に分析するための技術の修得も目指す。

また、本講義はあくまでも社会調査法の一環としてあることを前提とし、社会調査の中で、またその結果を分析・考察・発表する過程において、これらの技術がどのように利用できるか、できないかを理解することも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

本講では、対面の講義と実習を通じて多変量解析の考え方や仮定について学習する。各回の授業は講義とともに適宜統計パッケージの操作実習をさむことで理解を深める形でおこなう予定である。表計算ソフトExcelのほか、統計ソフトとしては無料のRを用いる。Rについては基本的な操作方法から確認するので初見でも構わないが、統計的（量的）分析については社会調査法3、4などで推測統計の基礎までは学んでいることが望ましい（必須ではないが）。

履修人数にもよるが、都度の質問や対話やメール・学習支援システムの機能等によって補足をしていきたい。リアクションペーパーは対面の場合のみ予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	多変量解析に向けた準備1	社会学と多変量解析、R紹介と復習を兼ねて、基本統計量の算出方法。標準化、共分散と相関係数について。
2	多変量解析に向けた準備2	Rの操作に慣れつつ、統計的推測と仮説検定、検定の全体図を確認。
3	分散分析	多変量解析の基本的な考え方。分散分析の基本。級内平均と級間平均、一元配置、多元配置、実習
4	線形回帰分析と最小二乗法（OLS）	線形回帰分析における仮定
5	基本統計量とOLS推定量の関係	分散分析表の読み方や決定係数について学習
6	重回帰分析	統制・偏相関、多重共線性、修正済み決定係数、結果のt検定・F検定
7	実習と補足：分析の準備～結果の解釈	ダミー変数とその作り方、直接効果と間接効果、交互作用
8	ロジスティック回帰分析の基礎	オッズとロジット、回帰係数の解釈、回帰係数とモデルの検定
9	分析方法の整理	仮説検定のための分析と、探索的分析
10	クラスター分析	クラスター分析の紹介と基本的な方法
11	主成分分析と因子分析	考え方の基礎、主成分、潜在因子と観測因子、因子負荷量、寄与率
12	因子分析と主成分分析の実習	因子分析、主成分分析表の図示と解釈
13	データの選び方、分析方法の選択方法、補足	「データ」とは、どのように考えるべきなのか。選び方、利用の仕方の補足と確認。
14	まとめ	まとめと成績評価にかかわる作業

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業各回の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

杉野勇『入門・社会統計学：2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』法律文化社、2017年。  
 （データ資料を利用します。web上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布するので、購入必須ではありませんが、授業の範囲以上に参考になる文献です。）

### 【参考書】

G.W. ボーンシュテット / D. ノーキ著、海野道郎・中村隆監訳、1992、『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社。  
 『入門・社会統計学』サポートウェブ (<http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html>)  
 他、授業内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献と理解度（20%）  
 課題（80%）  
 授業への貢献と理解度とは、クラス全体の理解を促す質問、意欲的な取り組みなどを指す。  
 課題は授業期間中の複数回の小課題、および期末レポートとする。受講人数によっては、発表も取り入れる。  
 これらの内容は、オンライン回の有無等によっても変更の可能性がある。何らかの変更がある場合には必ず受講生に確認と周知をする。  
 ※出席が2/3に満たない場合は自動的に「不可」となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

・学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。双方向の授業を心がけたい。  
 ・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては初回授業で相談のうえクラス運営をする予定である。

**【学生が準備すべき機器他】**

実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや学習支援システム等を利用予定。

必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコンおよび周辺機器、ExcelとRのインストールが必須となる。インターネット通信のできる環境も必要になる。自宅にこれらを準備できない場合は学校の設備を利用するために登校するなどの必要がある。

授業予定の教室には、Rインストール済みのパソコンが準備される予定。各自のパソコンへのRのインストールは授業での案内後でもよい。

**【その他の重要事項】**

専門社会調査士資格認定のためのカリキュラム「I」科目に相当する。シラバス内容にある通り、多変量解析とその応用を扱う。社会調査法1～4あるいはそれ相当の内容を学習済みであることが望ましい。特に推測統計の基礎（社会調査法4相当）については理解していること、少なくとも履修済みのものとして授業を進めるため、未履修あるいは同時並行して学習することは望ましくない。ただし、自信がない程度であれば本講を是非履修して、分析技術を実用的なものとしてほしい。

オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。その他の機会については初回授業でお知らせします。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 社会意識、社会調査論、近代化論

<研究テーマ> 「幸福」の社会学

<主要研究業績>

『「幸福の基準」及びその設定における『近代化』の影響』『SSJDA Research Paper Series—World Values Survey (世界価値観調査)』を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA - 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年.

**【Outline (in English)】**

Advanced class: Social statistical analysis (multivariate data analysis)

We learn:

Interaction term through variance analysis and linear regression model, then logistic regression analysis, at last, exploratory analysis method – principal component analysis and factor analysis.

It is a practical class using a statistical package soft "R".

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution 20% and on tasks 80%; including assignments and end-term report, and maybe presentation (depends on class size).

SOC500P2 - 051 (社会学 / Sociology 500)

## 社会調査法 8

竹元 秀樹

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な質的データの分析法を実習体験を通じて理解する。特にKJ法、インタビュー分析、ドキュメント分析、内容分析、会話分析、アートベースリサーチ分析等における実践的な分析能力を、意識と感性の両レベルから習得する。

また、質的データの収集方法から分類化される、それぞれの質的調査手法の分析局面における限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てる能力を獲得する。

### 【到達目標】

1. 質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題について概要を説明できる。
2. KJ法、インタビュー分析、会話分析、内容分析、グラウンデッド・セオリー分析の特性を理解の上実践できる。
3. 質的データの分析結果を、中範囲の理論の構築へとつなげることができる。
4. 質的調査の各手法の限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

1. 総論として、質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題等、質的調査に関する基礎的な知識について解説する。
  2. グループワークによる実習を中心にして、フィールドワークの映像データ、先行研究の代表的論考、アートベースリサーチを活用しての質的分析を行う。
  3. 個別単位での実習を中心にして、ドキュメント分析、内容分析、会話分析を理解する。
- 授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論1:質的調査とは何か	・社会調査／質的調査の意義・目的、量的調査との違い
第2回	総論2:質的調査の調査技法—質的データの収集とプロセス	・フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析
第3回	総論3:質的調査の分析技法—質的データの分析と知見の抽出	・インタビュー分析、内容分析、ライフヒストリー分析、会話分析、アートベースリサーチ
第4回	総論4:質的調査の倫理問題	・聞き取り調査でのラポール形成、参与観察での立ち位置
第5回	フィールドワークの映像データを活用しての質的分析1	・聞き取り調査／参与観察の疑似体験、フィールドノートの作成、収集したデータの把握
第6回	フィールドワークの映像データを活用しての質的分析2	・KJ法によるデータの整理と分析、分析結果の発表と討論

第7回	質的研究の代表的論考を活用しての質的分析1	・質的分析法の有効性と意義の考察—質的データと量的データの見せ方の工夫
第8回	質的研究の代表的論考を活用しての質的分析2	・質的研究における調査事例の典型性と研究成果の普遍性の事後的獲得の理解
第9回	アートベースリサーチを活用しての質的分析1	・他者の語りをなぞる演技—意識レベルから感性レベルでの体験からの把握
第10回	アートベースリサーチを活用しての質的分析2	・他者の語りをなぞる作画—作画意識の相対化から主体化への変容からの把握
第11回	内容分析の理解	・テレビドラマと原作の表現相違—映像データから見えてくるもの
第12回	ドキュメント分析の理解	地域活動家の語り—テキストデータから見えてくるもの
第13回	会話分析の理解	・社会構築主義に基づく論文—会話データから見えてくるもの
第14回	総合討論	・質的調査の分析における実践的課題と取り組みについて

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業1回につき4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。  
なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

### 【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、リアクションペーパー20%、レポート課題50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

質の高い論文作成のための質的研究の活用の仕方について、より理解が深まるように授業を展開する。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」  
関連科目「社会調査法1・2・3・5・6」

### 【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

### 【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析  
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

### 【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014年、新曜社。  
共著『よくわかる都市社会学』2013年、ミネルヴァ書房。  
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質なコミュニティ・ピロギングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第3巻第2号、2021年。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a performance in their qualitative research.

By the end of the course, students should be able to acquire the practical skills and knowledge in their qualitative research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report(50%), short report(20%) and in class contribution(30%).

POL500P2 - 054 (政治学 / Politics 500)

**政策分析評価技法**

阿部 一知

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

- ① 公的主体が実施する経済政策の効果について、経済学的な分析方法の枠組と手順を理解
- ② 日本あるいは海外の経済政策のいくつかの例を取り上げ、目的・効果の分析方法と結果を議論
- ③ 政策・プロジェクト評価手法の概略について理解

**【到達目標】**

公共経済学に基づいた政策評価の基本的枠組を入門的に理解する。代表的手法として費用便益分析の基本的考え方を学ぶ。政策評価の手順に慣れる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

全体7回程度の講義において、最初の4回程度は、公共的な政策の分析の枠組と手順について教科書に沿って紹介する。基本となるのは、厚生経済学を適用した公共経済学に基づいた理論である。また、その応用分野として、費用便益分析などのプロジェクト評価や、政策の評価手順などについても触れる。これらは講義と質疑を中心とする。

残り3回程度程度は、実際の政策を取り上げて、ディスカッションを行いながら事例研究する。具体事例は、学生の希望を取りながら選択する。原則として、1週間前に材料を示すので、それに基づいた準備があることを前提に講義する。

講義は原則対面で行う。毎回の講義で、学生の理解の確認のため課題を提示し、ディスカッションすることで理解を深める。また、フィードバックとして、メールで直接学生と質問応答や追加説明を行う。講義はオンラインで行う。毎回の講義で、学生の理解の確認のため課題を提示し、ディスカッションすることで理解を深める。また、フィードバックとして、メールで直接学生と質問応答や追加説明を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、政策分析の基本的な考え方	科目の全般的な内容、講義の進め方、教科書の説明。
第2回	分析の手順	ストーリー教科書第1章
第3回	政策分析の手法（外部性モデル、選好の定義など）	厚生経済学の基礎の説明。政策決定モデルの紹介。ストーリー教科書第2～3章、第6章。
第4回	政策分析の手法（外部性モデル、選好の定義など）	厚生経済学の基礎の説明（続き）政策決定モデルの紹介。ストーリー教科書第2～3章、第6章。
第5回	政策分析の手法（費用便益分析入門など）	費用便益分析一般の説明。ストーリー教科書8～10章。
第6回	政策分析の手法（費用便益分析入門など）	費用便益分析一般の説明（続き）ストーリー教科書8～10章。

第7回	政策分析の手順、公共選択、公共主体が政策を実施する根拠	公共選択理論の説明。ストーリー教科書11～13章。
第8回	事例研究の準備	事例研究のテーマ希望聴取など準備。
第9回	政策分析の手順など確認。	政策分析の手順（問題確定、選択肢提示、効果分析、評価）
第10回	事例研究(1)	事例研究：具体的な政策（教員が提示）を取り上げて研究
第11回	事例研究(2-1)	事例研究：具体的な政策を取り上げて研究
第12回	事例研究(2-2)	事例研究：具体的な政策を取り上げて研究
第13回	まとめ、補足的なディスカッション	全体のまとめ。
第14回	まとめ、補足的なディスカッション	全体のまとめ。レポートの作成についての説明

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

前の講義で、指示された資料・教科書該当ページを事前に読む。また、必要に応じて参考資料を参照する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

ストーリー、ゼックハウザー「政策分析入門」 勁草書房

**【参考書】**

指定教科書よりも網羅的・体系的でないが、より新しい教科書として、バーダック「政策立案の技法」東洋経済新報社、を勧める（講義でも一部使用する）。その他の資料は、授業中に適宜指示する。配布できる資料は、ウェブで公開する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の参加（20％）と、レポート（80％）

**【学生の意見等からの気づき】**

事例研究をより幅広く行うため、課題の学生からの希望聴取を、第2回目から口頭でも行うこととした。

**【担当教員の専門分野】**

経済政策（貿易投資の経済効果、マクロ経済対策など）、応用経済学（応用計量経済モデルを含む）。研究者データベース参照 <https://ra-data.dendai.ac.jp/tduhp/KgApp?kyoinId=ymkkgkysggy>

**【Outline (in English)】**

**【Course outline and Objectives】**

The students are:

1. to understand the framework and procedures to analyze the economic effects of public policies,
2. to discuss several examples of economic policies in Japan and other countries, on their objectives and scope,
3. to understand policy/project evaluation methods.

As the goal, the students are to understand the basic framework of the policy evaluation, based on the public enoconomics, including the cost-benefit analysis. In addition, the students are to be accustomed with the procedures of policy evaluation.

**【Learning activities outside of classroom】**

None

**【Grading Criteria /Policy】**

Participation in the class (20%), submission of a research report(80%)

POL500P2 - 055 (政治学 / Politics 500)

## 市民参加の理論と実践

杉崎 和久、小島 聡、谷本 有美子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市民参加は、政治学や行政学、さらに公共政策学の永遠のテーマといえるが、現代では、他の学問分野や個別の政策領域においても重要なテーマになっている。

この授業では、市民参加の理論と動向から現代の政策過程とガバナンスについて俯瞰した上で、市民参加の実践事例に関する検討を行う。この授業は、参加学生が、市民参加を通して、歴史・理論・実践動向を学びながら、制度・手続、社会技術の手法とその活用、参加のガバナンス・マネジメントなどについて、学際的かつ政策領域横断的な視野を身につけることが目的である。

### 【到達目標】

この授業に参加することによる学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ・市民参加の歴史・理論・実践に関する基礎知識と教養を習得する
- ・自治体政策と市民参加に関する基礎知識と教養を習得する。
- ・都市計画分野における市民参加の動向について理解する。
- ・市民参加の手法選択、市民参加の制度・手続の設計と運用、参加のガバナンス・マネジメントに関する政策思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

講義の前半は、市民参加総論として、デモクラシーと市民参加の歴史や、理論と実践の動向、自治体政策と市民参加に関する概説を扱う。講義の後半は市民参加各論として、都市計画分野における市民参加について、運動から参加への制度化、市民だけではなく企業なども含む民間主体による都市空間の管理・運営について扱う。また数名のゲストスピーカーを招き、実務上の経験知などについて講義と討論を行う。討論は質疑応答にとどまらず、市民参加に関する研究会のスタイルで行う。最終回は、総括的な講義を行い、今後を展望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	市民参加総論（1）	マスデモクラシーの形成史と市民参加、政策過程と市民参加の関係、熟議デモクラシーと現代の参加手法について検討する。 【小島】
第2回	市民参加総論（2）	日本の現代史における市民参加の軌跡、自治体政策をめぐる市民参加の動向と論点について検討する。【小島】
第3回	地方自治制度と市民参加	地方自治制度における市民参加の位置づけ等について検討する。 【谷本】
第4回	都市計画分野における参加の展開	法定都市計画への対抗概念としてのまちづくり運動から都市計画における参加の制度化の過程を検討する。【杉崎】

第5回	都市計画分野における参加事例	都市計画分野における市民参加の事例についてゲストから話題提供とそれを踏まえた議論を行う。【杉崎】
第6回	自治体における市民参加の実践	自治体の立場で市民参加を実践してきたゲストから話題提供とそれを踏まえた議論を行う。【谷本】
第7回	学生からの市民参加事例報告	市民参加事例に関する事例報告を行う。【杉崎】

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。この授業に参加する学生は、以下の時間外学習を行う。

- ・事前に配布する資料を読む。
- ・事前に提示する事項について概略を調べる。
- ・授業内で提示するテーマについてレポートを執筆する。

### 【テキスト（教科書）】

特に用いない

### 【参考書】

- ①篠原一編『討議デモクラシーの挑戦 ミニ・パブリックスが拓く新しい政治』（岩波書店、2012）
  - ②米野史健ほか編『住民主体の都市計画 まちづくりへの役立て方』（学芸出版社、2009年）。
- 上記以外の参考文献については、授業内で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（80%）、最終レポート（20%）の総合評価とする。参加姿勢については、講義に対する履修態度、毎回行う質疑応答、討論への積極性等を重視する。

### 【学生の意見等からの気づき】

・現代の市民参加はきわめて幅広い理論と実践領域にわたり、一人の教員がカバーしきれないのが実状です。こうしたことから、学際的なアプローチと専門家をゲストスピーカーとしてお招きすることで実践知を涵養する授業構成の有効性を実感しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、パソコンからプロジェクターに画像を投影する。

### 【小島 聡】

〈専門領域〉行政学、地方自治論  
 〈研究テーマ〉地域の持続可能性と自治体政策  
 〈主要研究業績〉  
 『自治体経営改革』（共著）（ぎょうせい、2004年）  
 『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）  
 『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして』（共編著）、（ミネルヴァ書房、2012）

### 【杉崎和久】

〈専門領域〉都市計画、市民参加手法  
 〈研究テーマ〉公共的意思決定における土民参加のあり方、まちづくりの現代史  
 〈主要研究業績〉  
 『市民参加と合意形成』（共著）（学芸出版社、2005年）  
 『住民主体の都市計画』（共著）（学芸出版社、2009年）

### 【谷本有美子】

〈専門領域〉行政学、地方自治、市民自治  
 〈研究テーマ〉中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制  
 〈主要研究業績〉  
 『地方自治の責任部局』の研究－その存続メカニズムと軌跡[1947-2000]』（公人の友社、2019年）  
 『分権社会と協働』（共著）（ぎょうせい、2001年）  
 『分権改革の動態』（共著）（東京大学出版会、2008年）  
 「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に」（2016）『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

### 【Outline (in English)】

This course deals with theory and trends of citizen participation. It also enhances the development of students' skill in citizen participation practice.

The purpose of this course is to acquire an interdisciplinary and cross-policy perspective on citizen participation systems, socio-technical methods, and governance management. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (20%) and in-class contribution (80%) .

SOS500P2 - 055 (その他の社会科学 / Social science 500)

## 地域コンサルティング論

佐谷 和江

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①この授業では、実際の地域コンサルティング事例を通じて、その背景やプロセス、そして得られた成果や課題を学ぶ。
- ②また、コンサルティング技術の実践演習を行う。
- ③地域の人々による自治（地域レベル、市レベルなど）の枠組みの中で、コンサルティングがどのように機能するか、その役割と重要性について理解を深める。

### 【到達目標】

- ①ケーススタディの分析能力の向上：この授業を通じて、地域コンサルティングの基本理論と実践方法を学び、様々なケーススタディを分析する能力を養う。
- ②スキルの体験：基本的なコンサルティングスキルを体験し、将来のキャリア設計の一助とすることができる。
- ③ローカルガバナンスの理解と見解の形成：また、ディスカッションを通じて、地域コンサルティングの意義と地域の人々による自治（ローカルガバナンス）におけるその役割について自らの見解を形成し、表現する能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

コンサルティングとは、専門性を活かして、企業や行政などに対して外部から客観的に現状を把握し、問題点を指摘し、対策案を提示する業務を行うことである。地域コンサルティングは、自治体や住民に対して行うことが多い。ローカルガバナンスの主体である住民、NPO、行政、企業とは異なり、意志決定に参画するものではないが、それらに与える影響は小さくない。

本講義ではケーススタディや手法のスタディ・演習を行う中で、地域コンサルティングに関する理論や方法論を実践的に学ぶ。

授業形式（対面）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義概論	授業の概要や地域コンサルティングにおいて重要なキーワードを紹介する。手法としては「話し方」を学ぶ。
2	全市レベルの計画作成を支援するコンサルティング	練馬区や港区をケースに全市レベルの計画作成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション」を学ぶ。
3	地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティング	新宿区落合三世代モデル事業をケースに地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション・グラフィックス」を学ぶ。

4	地縁型・テーマ型コミュニティ組織のコンサルティング	横浜市まち普請事業をケースにコミュニティ組織のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ロールプレイング」を学ぶ。
5	地域活性化（コミュニティビジネス）のコンサルティング	墨田区玉の井地区をケースに地域活性化のためのコミュニティビジネスへのコンサルティングを学ぶ。手法としては「プロセス・デザイン」を学ぶ。
6	社会貢献する人材育成のコンサルティング	江戸川総合人生大学をケースに社会貢献する人材育成のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ワークショップのプログラム作成」を学ぶ。
7	講義の総括とレポート発表	これまでの講義の総括を行う。また、各自レポートを発表し、ディスカッションする。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ケースのURLを下記に示すので、事前に概要を把握する。

○第2回：練馬区都市計画マスタープラン改定支援

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/>

港区まちづくりマスタープラン改定支援

<https://www.city.minato.tokyo.jp/sougoukeikaku/kankyo-machi/toshikekaku/kekaku/master-plan.html>

○第3回：新宿区落合三世代モデル事業

[https://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file03\\_04\\_00001.html](https://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file03_04_00001.html)

○第4回：横浜市まち普請事業 左近山地区

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/machibusin.html>

○第5回：墨田区玉の井地区

<https://teratama.tokyo/>

○第6回：江戸川総合人生大学

<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

### 【参考書】

- ①都市のイメージ／ケヴィン・リンチ／1960、翻訳1968、新版2007／岩波書店
- ②アメリカ大都市の死と生／ジェイン・ジェイコブス／1961、翻訳2010／鹿島出版会
- ③人間の街：公共空間のデザイン／ヤン・ゲール／2014／鹿島出版会
- ④都市計画とまちづくりがわかる本／2017／彰国社
- ⑤稼ぐまちが地方を変える 誰も言わなかった10の鉄則／木下 斉／2015／NHK出版新書

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%：地域コンサルティングに関する理論や方法論を積極的に学んでいるか。

討論への参加30%：基礎的なコンサルティング能力の習得のための演習等に積極的に取り組んでいるか。

レポート・発表30%：地域コンサルティングの位置づけなどについて、具体的なケースを踏まえて方向性を検討し、発表してもらうが、その際、適切なケースを把握し、十分に考察を行っているか。

### 【学生の意見等からの気づき】

紹介する事例を更新するとともに、それぞれのケースにおいて、各主体の関わり方をわかりやすく説明する。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

都市計画、地域計画、コミュニティマネジメント

<研究テーマ>

自治体の都市政策、コミュニティのエンパワーメント、地区計画制度

<主要研究業績>

- 「パンデミック×デジタル空間・グローバル社会」で続けるべきこと／2021／建築ジャーナル
- 都市計画の構造転換 整・開・保からマネジメントまで／2021／鹿島出版会
- BIOCITY No.74 特集 エコロジカル・デモクラシーのデザイナー―世界をつなぐ15の原則／2018／ブックエンド

**【Outline (in English)】**

● Course outline

- ① Through real-world regional consulting cases, this course will explore their backgrounds, processes, outcomes, and challenges.
- ② It will also include practical exercises in consulting techniques.
- ③ The course aims to deepen understanding of how consulting functions within the framework of local self-governance (at regional and city levels), focusing on its role and importance.

● Learning Objectives

- ① Case Study Analysis Skills: Learn basic theories and practical methods of regional consulting, and develop the ability to analyze various case studies.
- ② Skill Application: Gain experience in basic consulting skills, aiding future career planning.
- ③ Understanding and Formulating Opinions on Local Governance: Through discussions, enhance the ability to form and express personal views on the significance of regional consulting and its role in local governance.

● Learning activities outside of classroom

You are expected to understand the outline of each case in advance by referring to the Internet.

The standard preparation and review time for this class is 2hours each.

● Grading Criteria /Policy

Ordinary points (40%)

Evaluate by actively learning theory and methodology

Participation in discussion (30%)

Evaluate whether you are actively engaged in exercises for acquiring basic consulting skills

Report and presentation (30%)

The report will be considered based on specific cases of regional consulting. At that time, evaluate whether it is an appropriate case and whether it is sufficiently considered.



SOS500P2 - 056 (その他の社会科学 / Social science 500)

## ファシリテーション演習

徳田 太郎

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複雑化・多様化する社会における政策プロセスに必要なスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本科目においては、政策過程における参加や熟議の位置づけ、その中でファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

### 【到達目標】

- ・参加者主体の合意形成や課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・政策過程における参加や協働の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、多様な人々の個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようにする。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

- 対面授業にて実施する。各回とも、講義と演習を織り交ぜながら進める。
- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
  - ・第2回：講義と質疑応答を中心に、政策過程と参加・熟議の関連を学習する。
  - ・第3～4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
  - ・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
  - ・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
  - ・第14回：まとめの講義を行う。
- \*各回とも、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回(1-前)	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する(講義)
第2回(1-後)	政策過程と参加・熟議	政策過程におけるファシリテーションの位置づけを確認する(講義)

第3回(2-前)	ファシリテーションとは何か	ファシリテーション・ワークショップの全体像を学ぶ(講義・演習)
第4回(2-後)	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ(講義・演習)
第5回(3-前)	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ(講義・演習)
第6回(3-後)	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ(講義・演習)
第7回(4-前)	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ(講義・演習)
第8回(4-後)	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ(講義・演習)
第9回(5-前)	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ(講義・演習)
第10回(5-後)	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約の技術を学ぶ	アイデアの発散～集約の技術を学ぶ(講義・演習)
第11回(6-前)	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ(講義・演習)
第12回(6-後)	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ(講義・演習)
第13回(7-前)	ファシリテーション実践	参加型の場(ワークショップ)の運営を体験する(演習)
第14回(7-後)	まとめ	全体のまとめを行う(講義)

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にする。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理する。(予習・復習各120分程度)
- ・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備する。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめる。(予習・復習各120分程度)
- ・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨む。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解する。(予習・復習各120分程度)

### 【テキスト（教科書）】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

### 【参考書】

- ・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』（岩波書店、2009年）
- ・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

### 【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、各回の振り返りシートの質と量（約60%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約40%）から、総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内でファシリテーター（進行役）を体験する機会を、より多く持てるように工夫する。

### 【その他の重要事項】

受講者同士の話しあいを中心にした体験型の授業です。受講希望者は、必ず第1回授業に出席してください。やむを得ない事情で第1回授業に出席できない場合には、事前にメールにて担当教員にご連絡ください（宛先：taro.tokuda.83@hosei.ac.jp、件名：法政大学大学院ファシリテーション演習）。

**【担当教員の専門分野等】**

＜専門領域＞

政治理論（デモクラシー論）／ファシリテーション論

＜研究テーマ＞

熟議デモクラシーの理論と実践／その中でのファシリテーションの位置づけ

＜主要研究業績＞

・「アイルランドの憲法改正における熟議と直接投票」『法學志林』118巻3-4号、2020-2021年

・「対話／熟議の場を生成するファシリテーション」『総合人間学』14号、2020年

・『はじめての地域づくり実践講座：全員集合！を生ま出す6つのテラシー』（分担執筆）北樹出版、2018年

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets necessary for the policy process in an increasingly complex and diverse society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this class, you will understand and acquire the position of participation and deliberation in the policy process, the significance of facilitation in this process, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered consensus building and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to participation and collaboration in the policy process.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of diverse people and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

short reports: 60%, in class contribution: 40%.

POL502P2 - 057 (政治学 / Politics 500)

**政策研究概論 (外国語) ※中国語**

毛 桂榮

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

公共政策に関する基礎文献を中国語で講読することを中心に勉強し、院生が政策分析の基礎を修得できるように教授します。文献は、日本語、中国語、英語のものですが、履修者と相談しながら、適宜変更もします。しかし、基礎文献を理解することが大事で、じっくり資料を理解するように心がけていきます。なお、この科目は、公共政策論を中国語を利用して勉強するものです。公共政策論の専門知識を勉強するようにカリキュラムを設定しており、中国語を勉強することを目的にした授業ではありません。この点に関しては、十分理解してください。

**【到達目標】**

以下の内容、提示する基礎文献を基本にじっくり「読解」します。資料・論文を要約した上で議論をする形で進めます。半年、基本文献15本以上を熟読するようにします。公共政策分析・研究の手法を修得することを目指します。言葉・概念の問題だけではなく、社会科学における議論の仕方、論文の書き方も含めて、資料を利用しながら、解説・解説・討論します。ゼミの最終回 (この予定は履修者の数により適宜調整) においては、学生が関心する政策課題を事例として、研究発表を行う予定にしています。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

基本は、対面授業です。

- (1) 新型コロナウイルスの流行により、一部オンライン授業はあるが、本授業は、法政大学の方針に則り、「対面」を基本とする予定です。
- (2) もちろん、柔軟に「オンライン」も必要に応じて調整します。
- (3) また、ゼミの進め方は：基本文献の要約からスタートし、議論を深めていきます。資料の事前予習、また関連文献の復習・勉強も必要です。基本文献を中心に、関連する分野の研究資料なども、ある程度把握できるようにしていきます。最後は、各自の発表をもって基礎修得の確認をおこないます。
- (4) 勉強に関する質問は、(本システム、あるいはLINEを通じて)常時受付ます。また、ゼミでは質疑応答の時間も用意します。さらに、報告、提出するレポートに関しても、随時、コメントを返しますので、利用してください。

注意)メールで連絡する場合、maoguirong@gmail.comを使用する。法政大学から付与されたメールアドレスを使用していない。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	打ち合わせ。また大学院の勉強方法についても相談。	文献「若い大学院生へ」を事前配布、当日討論、勉強についての相談。学生のフィールドワークに関して相談も可能。
第2回	行政学の研究史、公共政策論の先行研究について	配布資料 (システムにアップ) の講読を中心に議論：資料「行政学の歴史」など資料を配布、中国語資料もある。
第3回	行政学の歴史における公共政策研究	西尾行政学第4章、日本語と中国語を講読。資料は事前配付。

第4回	さらにもう一つ専門文献を読む	西尾『行政学の基礎概念』所収「行政と組織」論文など行政、政策と管理などの論文を読む。今村『組織と行政』も必要文献。
第5回	USA PA 歴史。英文資料を読む。	英文資料をもって勉強。公共政策研究の歴史も確認。
第6回	公共政策論研究の歴史、並びにガバナンス概念に関する英文資料一つ読解	資料「アメリカ公共政策論の台頭」を講読。また英文：Reflections on governance。状況に応じて、この勉強を2回に分けて進めることも可能
第7回	日本の行政学研究と教育	中国語資料「日本行政学史」(公開資料論文、毛)
第8回	日本の公共政策研究の歴史	「日本の公共政策研究」論文を読む。日本公共政策学会の機関誌に掲載された論文に関する分析論文、中国語論文も参照。
第9回	「公共性」概念の研究	論文「公共性」に関する論文、または、「公共政策とは何か」を読む。
第10回	decision theory 「非決定」、「権力の3つの顔」の概念	英文資料、日本語資料を講読。
第11回	政策形成における政治家と官僚	Bureaucrats and Politicians in Western...1981の終章を読む。また、毛「政府と行政」も参照。
第12回	官僚制の概念	資料「官僚制への視点」今村「行政学の基礎理論」所収を読む。西尾「新版・行政学」官僚制論2章も参照。
第13回	政策リサーチ手法	東大出版「政策リサーチ入門」の文章2つ：事例研究
第14回	学生の研究発表。フィールドワーク調査がある場合、結果を踏まえて	研究発表。学生が関心する課題について分析・発表。修士論文などの検討・相談も可能。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

西尾『行政学の基礎概念』(東大出版)。この本は、(毛が参加した)中国語訳があり、法政大学の図書館にも所蔵あります。一部資料は配布する予定です。また、今村『行政学の基礎理論』(三領書房)、秋吉ほか「公共政策学の基礎」(有斐閣、最新版)、伊藤修一郎「政策リサーチ入門」(東大出版、新版)のほか、配布する資料を必ず読むこと。

**【参考書】**

日本公共政策学会の機関誌を読むこと

**【成績評価の方法と基準】**

授業での報告40%、討論60%を基本に、総合評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

事前の予習をしない場合、内容理解に困難を来すことがあります。全員は、予習するようにしてほしい。相談により、講読の資料を適宜調整します。

**【学生が準備すべき機器他】**

配布資料は、基本的にデータPDFの形式で渡します。本システムにアップした資料を確認してください。電子メールへの送信も可能ですが、別途相談の上、決めます。授業時、毎回PCを持参すること。

**【その他の重要事項】**

- 1、授業の担当者は、本務校が法政大学ではないので、連絡は、maoguirong@gmail.comを利用します。必要があれば、ラインも利用します。注意：法政大学から付与されたメールアドレスを使用していない。
- 2、注意：以上の予定は、適宜変更をします。履修者と相談しながら、やっています。
- 3、少人数のクラスですので、読書の負担がかなりあります。
- 4、成績は、討論、報告などを踏まえて総合判断します。

**【担当教員の専門分野等】**

行政学、日本行政などを研究。著書「日本の行政改革」「比較の中の日中行政」があり、また「行政の概念」、「公務員の用語と概念」の論文（中国語、日本語）などがあります。最近は、中国の公務員制度などを研究中、複数論文を公表しています。論文のほとんどは、ネットで検索・入手可能です。参考にしてください。

**【Outline (in English)】**

This course introduces students the basic literatures and knowledge on public policy and policy analysis. The literatures are papers and books on Chinese, Japanese, and English. This course will enhance students' skill in policy analysis.

Students will be expected to have completed the required assignments (read papers and prepare class report and so on) before each class meeting and then participate in discussions on each topic. Your study time will be more than three hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: (1)class reports 40%, (2) and in-class contribution (discussions) 60%.

SOS500P2 - 058 (その他の社会科学 / Social science 500)

## 公共政策論文技法 1

白鳥 浩、菅米地 真理、宮崎 一徳

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策科学の先端的研究の現場に触れる。

### 【到達目標】

初学者にも論文の書き方がわかる。公共政策分野における学術論文の作法を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

初めて論文を書く方にはこちらをお勧めする。博士号を取得した政策研究を行っている研究者による、やさしく先端的研究の紹介を中心として、政策科学が抱えている現代の問題をアカデミックに理解することを旨とする本講義は、複数教員による分担講義として展開される。そこでは、現代の政策科学が抱える、アクチュアルな問題が提示される。学術的な価値の高い修士論文の執筆を目指す大学院生に、専門研究者レベルのスタンダードを明示することとなる。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	政策科学の最先端と政策へのアカデミックなアプローチ(白鳥)	政策科学の定義と歴史, 政策と学術研究の関係
2	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析1(宮崎)	問題提起と分析
3	理論的フレームワークとデータの収集1(宮崎)	フレームワークの提示, データへのアクセス
4	分析結果と学会内での研究上の位置1(宮崎)	分析の位置, 研究の意義
5	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析2(菅米地)	問題提起と分析
6	理論的フレームワークとデータの収集2(菅米地)	フレームワークの提示, データへのアクセス
7	分析結果と学会内での研究上の位置2(菅米地)	分析の位置, 研究の意義

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

講義中適宜指示

### 【参考書】

講義中適宜指示

### 【成績評価の方法と基準】

出席および毎回の講義への取り組み30%, レポート70%。レポートについては、各自の研究テーマの学術的価値を的確に表現できているかどうかを評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

まずは入学してこちらを履修されることをおすすめする。初めて論文を書く初学者を対象に、論文執筆過程でのテーマ設定、データの収集、その他の課題をより具体的に解説する。

### 【担当教員の専門分野等】

白鳥 浩

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年  
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

### 【担当教員の専門分野】

菅米地真理

<専門領域>政策過程。国際政治。

<研究テーマ>国際化時代の東アジアの分析。

<主要研究業績>

菅米地真理『尖閣問題 政府見解はどう変遷したのか』柏書房、2020年。ほか。

### 【担当教員の専門分野】

宮崎一徳

<専門領域> 政策過程

<研究テーマ> 議員立法、多元的政策提言、政治主導と国会の役割

<主要研究業績>

宮崎一徳『議員立法の役割』法政大学学術機関リポジトリ、2018年3月。

宮崎一徳『「変換型」議会の表出』『日本政治法律研究第3号』2021年3月。

宮崎一徳『附帯決議の分析』『法政論叢58巻1号』2022年。

### 【Outline (in English)】

This course offers our Ph.D. holder's knowledge on tips to write a thesis. The lecture is mainly on the framework of writing academic paper.

The goals of this course are to realize relationship between theory, research, and thesis.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 70%, and class contribution 30%.

SOS500P2 - 061 (その他の社会科学 / Social science 500)

**学術的文章作成演習 (基礎)**

渊元 初姫、西谷内 博美、宮川 路子、林 嶺那

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

修士論文を執筆する上でのポイントとなる事項について、教員によるオムニバス講義と修士論文執筆者(修了生)の報告という形式で展開します。修士論文の執筆に向けて身につけておくべき基本的なスキルについて学ぶことを目的とします。具体的には、学術的文章を作成するための考え方や社会調査の基礎、研究倫理に関する事柄などについて取り上げます。修士課程1年生のうちに履修することを推奨しますが、2年次以上、また、博士後期課程在籍者の履修も可能です。

**【到達目標】**

- (1) 修士論文を執筆する上で求められる事柄について理解する。
- (2) 学術的文章とはどのようなものであるか理解する。
- (3) 文章をわかりやすく構成し、引用と出典の明記を適切に出来る。
- (4) 社会調査に関する基本的知識を習得する。
- (5) 責任ある研究活動を行うための研究倫理について理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻「学術的文章作成演習(基礎)」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

複数の教員によるオムニバス形式で講義を行うほか、ワークショップやディスカッションを行います。授業方式や事前の準備、事後の課題提出などは各回によって異なります。Hoppi(授業支援システム)を通してお知らせを致しますので各回の教員の指示に従ってください。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：研究へのいざない	講義の全体概要を示しながら修士論文の執筆に際して求められる基準や考え方について説明する。
第2回	修士論文の執筆に向けて	研究テーマの選定や、先行研究の調査等について説明する
第3回	論文の定義と構成	論文の必須要素と基本的な構成を知識のレベルで学ぶ。
第4回	論証エクササイズ1	第3回で学んだ知識を元に、論証の技術練習をする。具体的には、マインドマップを用いて思考を整理する。
第5回	論証エクササイズ2	第4回に引き続きマインドマップを用いて、文章を組み立てる練習をする。
第6回	引用とスタイルガイド	引用の原理と基本ルールを学ぶ。特定のスタイルガイドに則して引用処理の練習をする。
第7回	修士論文の執筆に向けて(1)	修士論文の執筆に際して習得すべき知識やスキル、作法について教授する。
第8回	公共政策研究科修士課程修了者による報告(1)	修士論文執筆に際する自身の経験に基づいた報告を行い、その内容について質疑・討論を行う。

第9回	修士論文の執筆に向けて(2)	修士論文の執筆に際して習得すべき知識やスキル、作法について教授する。
第10回	公共政策研究科修士課程修了者による報告(2)	修士論文執筆に際する自身の経験に基づいた報告を行い、その内容について質疑・討論を行う。
第11回	修士論文の執筆に向けて(3)	修士論文の執筆に際して習得すべき知識やスキル、作法について教授する。
第12回	公共政策研究科修士課程修了者による報告(3)	修士論文執筆に際する自身の経験に基づいた報告を行い、その内容について質疑・討論を行う。
第13回	修士論文のプロポーザル(仮)に関する検討	これまでの講義と報告に基づき、各自の研究における「問い」を明らかにし、それについて検討を加える
第14回	まとめ	総括討論を行い、各自の課題を明確にする。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。教員・テーマによっては、授業当日までに予め指示された課題を行うなどの準備学習が必要となります。また、授業中に課題を指示された場合は、期日までに提出してください。

**【テキスト(教科書)】**

教科書の指定は特にありません。必要に応じてレジュメを配布します。

**【参考書】**

参考書については必要に応じて授業内に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の質疑や討論における参加(30%) 課題の提出(30%)、期末レポート(40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

専攻やコースを超えた複数の教員や修了生から学ぶ機会のひとつとして活用されているようです。

**【学生が準備すべき機器他】**

Hoppi(授業支援システム) およびオンライン講義(zoom)へ接続するインターネット環境が必要となります。

**【Outline (in English)】**

MA or PhD students in their first year are welcome to sign up to this course. Each lecture will provide students with an understanding of writing a Masters dissertation or PhD thesis. The course will be able to help students raise their academic related competency in writing. Upon completion of this course, students should be able to develop good academic practice. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting. Students will be Assessed by; Reaction paper 30%, Reporting paper 40%, Class contribution 30%

SOS500P2 - 062 (その他の社会科学 / Social science 500)

学術的文章作成演習 (応用)

西谷内 博美

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学術論文の執筆能力を高めること、言い換えると「学術論文」を作成するための一般的な知識を体系的に学んだり、技術を習得したりすることが目的です。

【到達目標】

- 論文のかたちや構成要素などについての理解を深め、その知識を実践的に活用することができる。
- パラグラフ・ライティングにもとづく論証が出来る。
- 授業内容を踏まえて、自分の研究計画を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻「学術的文章作成演習 (応用)」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

この科目は演習です。つまり、講義よりも実践的な作業が多くなります。

より具体的には、宿題あるいは授業内で作業をしてもらい、その成果をグループワーク形式でピアインストラクションすることが主要な進め方です。また、ピアインストラクションの延長として講師からもフィードバックします。

なお以下の授業計画は暫定的なものです。実際には、受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとプレテスト	・授業の内容と進め方を共有する。 ・プレテストを実施する。
第2回	論文とは何か/論文の型	・論文の特徴を理解する (テキスト第1章) ・論文の型や意義を理解する (テキスト第2章)
第3回	論証とその技法	論証の技法を理解する (テキスト第9章)
第4回	論証の練習①思考の整理	論証の技法を用いて思考の整理をする。
第5回	論証の練習②議論	論証の技法を用いて議論を整理する。
第6回	主題と対象①理解	主題と対象の使い分けを理解する (テキスト第3章)
第7回	主題と対象②実践	主題と対象の使い分けを実践する
第8回	先行研究の特定/調査設計 (レシピ)	・主題を絞り、先行研究リストを作成する (テキスト第4章) ・調査設計の方法を理解し実践する (テキスト第5章)
第9回	学問体系と「先行研究の検討」	・学問体系と「先行研究の検討」についての理解を深める (テキスト第6章)

第10回	研究計画書/構成と仕上げ	・研究計画とプレゼンテーションについて理解を深める (テキスト第8章) ・最後のチェックポイントを確認する (テキスト第11章)
第11回	社会調査法	社会科学でよく使われる実証的調査の方法を概観する (テキスト第7章)
第12回	スタイルガイド	引用の方法を理解し練習する (テキスト第10章)
第13回	プレゼンテーション	研究計画をプレゼンテーションする
第14回	ポストテスト	ポストテストを実施する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎授業回に一定量の宿題 (予習課題や復習課題) があります。授業内では、持ち寄った宿題回答を用いて授業を進めることになるため、宿題は必ず実施してください (宿題を提出していない場合は授業参加が難しくなります)。

また、予習および復習としてテキストの該当箇所を読み、理解を深めてください。

【テキスト (教科書)】

小熊英二, 2022, 『基礎からわかる——論文の書き方』講談社。

【参考書】

佐渡島紗織・吉野亜矢子, 2021, 『これから研究を書くひとのためのガイドブック第2版』ひつじ書房。

井下千以子, 2019, 『思考を鍛えるレポート論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会。

【成績評価の方法と基準】

研究計画書とプレゼンテーション 20%、ポストテスト 20%、平常点 60%。平常点の内訳は以下の通り。ただし配分は受講人数等に応じて調整する場合があります (宿題 30%、発言とグループワーク 20%、リアクションペーパー 10%)。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能な PC をご準備ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、国際社会学、コミュニティ論  
<研究テーマ>廃棄物管理、開発援助、アカデミック・ライティング  
<主要研究業績>

2022「日本における大学ライティング教育の変遷」『東京電機大学総合文化研究』20：55-63

2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂。

2016『開発援助の介入論』東信堂。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The objective of the course is to improve students' academic writing abilities. For this purpose, students are introduced to the basic concepts and conventions of academic writing.

(Learning Objectives)

Upon completion of the course, students should:

- ・ be aware of a series of writing processes.
  - ・ gain practical experience of each process.
  - ・ be able to write an effective research plan.
- (Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have completed their assignment(s) and read the relevant chapter(s) from the text. It is necessary for you to spend more than four hours studying for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Research plan 20%, Term examination 20%, Assignments 30%, Class contribution 30%

LAW500P2 - 103 (法学 / law 500)

## 環境行政法

野村 摂雄

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法分野のうち、環境行政法に分類されるものを学びます。それは、環境問題の出現に伴って生成・発展してきた環境行政に関する法制度であり、その基本的な考え方や規制の構造、そして課題を取り上げます。受講生は、法条文、裁判例、参考資料に触れ、また、毎回リアクションペーパーを書くことで、環境行政法について基本的な知識を得るとともに、論理的な文章を書く能力を磨いていくことに取り組みます。

### 【到達目標】

環境行政法の内容について、国内外の環境問題に即して学んでいきます。受講生は、産業公害、廃棄物問題、地球温暖化など具体的な問題に対する法制度の発展と現状について法条文や裁判例、参考資料を通して基礎的な知識を習得し、また、課題を考察してリアクションペーパーを書くことで論理的な文章作成能力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各回に関連する法条文や参考資料を配付し、その読解と問題の検討を行うとともに、受講生による報告内容について議論をしていきます。受講生は、各回の課題に対してリアクションペーパーを作成・提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	環境行政法の概観
第2回	環境行政法の原則・手法	環境行政法の基本的な考え方と手法について学びます。
第3回	産業公害と法（1）	産業公害の内容と国内社会の取組みについて学びます。
第4回	産業公害と法（2）	産業公害に対する基本法及び個別法について学びます。
第5回	産業公害と法（3）	産業公害に対する法制度の課題について学びます。
第6回	廃棄物と法（1）	廃棄物問題の内容と国内社会の取組みについて学びます。
第7回	廃棄物と法（2）	廃棄物問題に対する国内法の生成と発展を学びます。
第8回	廃棄物と法（3）	裁判例を通して廃棄物問題の法的論点を学びます。
第9回	廃棄物と法（4）	循環型社会の構築に向けた法制度について学びます。
第10回	地球温暖化と法（1）	地球温暖化問題の内容と国際社会・国内社会の取組みについて学びます。
第11回	地球温暖化と法（2）	地球温暖化問題に対する国際法の生成と発展を学びます。
第12回	地球温暖化と法（3）	地球温暖化問題に対する国内法の生成と発展を学びます。
第13回	地球温暖化と法（4）	地球温暖化問題の解決に向けた環境行政の課題を学びます。
第14回	まとめ	環境行政法の到達点と課題とを考えます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の精読、授業内報告の準備、リアクションペーパーの執筆など週4時間程度。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

黒川哲志・奥田進一編『環境法のフロンティア』（成文堂、2015年）

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%+期末レポート50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

個人パソコン又は貸与パソコン。

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【担当教員の専門分野】

<専門領域>

環境法・海事法

<研究テーマ>

地球温暖化、海洋環境法、環境条約の国内実施

<主要研究業績>

①『演習ノート環境法』（法学書院、2010年）。

②「欧州連合（EU）における海洋環境保全法制」環境法研究14号（2022年）1頁以下。

③「資源管理法としての環境法」小賀野晶一・黒川哲志編『環境法のロジック』（成文堂、2022年175頁以下）。

### 【Outline (in English)】

Course outline : This programme offers laws/regulations in the environmental fields which stipulate the roles of the central/municipal government.

Learning Objectives :Students learn the basic idea, types and contents of the environmental laws/regulations, and develop logical writing skills.

Learning activities outside of classroom :Reading relevant materials and writing small papers which is supposed to take four hours a week in average.

Grading Criteria /Policy :Participating in discussion at class (50%) and submitting a paper at the end of the term (50%)



LAW500P2 - 110 (法学 / law 500)

**環境政策法務と条例**

朝賀 広伸

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境政策法務における条例の果たすべき役割は大きく、市民の身近な生活の実態に基づいた施策によって、環境行政はよりよく発展することができます。本講義では、環境政策法務における条例の果たすべき役割を現実の条例制度を通して、環境政策と条例に係る基本的知識を学びます。

受講される学生の皆様が、環境政策法務における条例の果たす役割を理解し、条例の現状を分析し、条例制度の課題を発見し、施策の検討を行い、改善のための新たな対策の提案などができるようになることを目的とします。

**【到達目標】**

本講義では、環境政策と条例に係る基本的知識を学習し、条例と法律との関係、条例規制の実効性、条例における計画の役割などについて説明できる力を身につけていただきます。

上記の目標を達成するために、各学生の皆様が、関心のある環境政策に係るテーマについて調べて、①課題設定、②現状分析、③対策手法の提案を授業内で報告し、双方向の議論を通して、到達度を測ります。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

- ・環境政策と条例に関する基礎的知識を修得するために、テキストを中心に演習形式で進めます。テーマを割り振り、簡単なレジュメを作成し、授業内で報告をしていただきます。
- ・授業内での双方向の議論を通して、理解を深めていきます。
- ・授業形式：対面授業

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	都道府県の位置づけと権限
第2回	都道府県と条例	地方自治体が定める条例
第3回	地球温暖化対策条例の制度と運用	温暖化防止に関する法律と条例の制度的な動向と特徴
第4回	廃棄物条例の制度と運用（1）	廃棄物処理法と条例との関係
第5回	廃棄物条例の制度と運用（2）	都道府県の廃棄物条例の動向と全体的な特徴
第6回	自然環境保全条例の制度と運用	自然環境保全等の法制度
第7回	環境影響評価条例の制度と運用（1）	環境影響評価法の手続および条例との関係
第8回	環境影響評価条例の制度と運用（2）	都道府県等における環境影響評価条例の概要
第9回	公害防止条例の制度と運用（1）	公害防止に関する条例制度
第10回	公害防止条例の制度と運用（2）	大気汚染防止に係る規制対策
第11回	公害防止条例の制度と運用（3）	水質汚濁防止に係る規制対策
第12回	公害防止条例の制度と運用（4）	条例による水質規制の事例
第13回	公害防止条例の制度と運用（5）	騒音防止に係る規制・対策
第14回	再生可能エネルギーの導入促進と規制対策	騒音防止に係る規制対策

第13回	公害防止条例の制度と運用（6）	振動防止、地盤沈下防止、悪臭防止に係る規制対策
第14回	再生可能エネルギーの導入促進と規制対策	再生可能エネルギーの普及と法の制度

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『環境条例の制度と運用』, 田中充編, 信山社2015年, 2600円

**【参考書】**

環境法政策を理解するための書として、  
『コンパクト環境法政策』, 柳憲一郎著, 清文社2015年

**【成績評価の方法と基準】**

授業貢献度（80%）：授業時のディスカッション  
レポート課題（20%）：関心のある環境政策に係るテーマを選び、①課題設定、②現状分析、③対策手法の提案について調べて、授業内で報告する。

**【学生の意見等からの気づき】**

初学者でも安心して受講できるように、受講生の関心テーマに近づけた授業運営に心掛けたいと考えております。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

行政法および環境法に関連が深い授業となりますが、初学者にも理解できるように進めていきたいと考えております。気軽に質問できる雰囲気づくりに努めてまいります。

**【担当教員の専門分野等】**

- <専門領域>  
環境法
- <研究テーマ>  
環境法政策に係る総合研究
- <主要研究業績>  
・『気候変動を巡る法政策』大塚直編, 信山社2023年  
・『環境法研究第13号』大塚直編, 信山社2021年  
・『イギリスにおける気候変動への適応法制』環境管理第57巻第5号, 産業環境管理協会2021年  
・『司法試験の問題と解説』「環境法」(日本評論社2020年・2019年・2018年・2017年)  
・『環境法判例百選 第3版』有斐閣2018年  
・「最新の環境アセスメント法の動向と課題」人間環境問題研究会編, 有斐閣2015年  
・『新司法試験論文式問題と解説』中央大学真法会編, 法学書院2018年・2012年  
・『演習ノート環境法』浅野直人・柳憲一郎編, 法学書院2010年  
・「英国における土壌汚染法の概要」商事法務研究会2009年  
・「Legislation related to groundwater in the EU: background and current status」UNESCO2009年  
・「英国のリスク管理と予防原則」季刊環境研究No.154, 2009年  
・「EU及び英国の地下水管理制度」明治大学法科大学院論集 第3号, 2008年  
・『多元的環境問題論』柳憲一郎編, ぎょうせい2006年  
・『オランダ環境法』国際比較環境法センター2004年  
・『環境法辞典』有斐閣2002年  
・『京都議定書』シュプリンガーフェアラーク2001年

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

In this lecture, students will learn about environmental policy legislation and ordinance. For example, students will acquire basic knowledge on the role of ordinance in environmental policies, the actual ordinance system, environmental policies and ordinance.

(Learning Objectives)

Students will acquire basic knowledge about environmental policy and ordinances and be able to explain the relationship between ordinances and laws, the effectiveness of regulations by ordinances, and the role of planning in ordinances.

(Method)

In order to acquire basic knowledge of environmental policies and regulations, the class will be conducted in an exercise format with a focus on the textbook. Students will be assigned a topic, prepare a simple resume, and report it in class.

We will deepen our understanding through interactive discussions in the class.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

- Class contribution (80%): Class discussions and resumes.
- Brief report assignment (20%): Select a theme related to local environmental policy, and conduct research on (1) problem setting, (2) analysis of the current situation, and (3) proposals for countermeasure methods, and make a brief report in class.

POL500P2 - 138 (政治学 / Politics 500)

外交政策論

宮本 悟

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の戦後外交史や領土問題、外交政策理論について学んだうえで、外交政策がどのようにして決定されるのかについて理解していく。重要なことは、国際社会や日本が直面している外交問題や領土問題について知識を深め、国際政治学における外交政策論を理解した上で、現実の外交政策を考察する際に応用できるようになることである。

【到達目標】

外交政策について、(1) 日本の外交政策の歴史的な経緯と現状の説明をでき、(2) 日本が置かれている領土や外交上の問題とその対処について理解を深め、(3) 実際の外交政策の決定過程について学んだうえで、その理論的な知識を実際の問題に応用できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

2024年度は対面を実施する予定である。戦後日本外交史と日本の領土については、全体的に理解していくことが目的であり、基本的には講義形式によって授業を進めていくが、教員側の一方的な講義ではなく、受講者と対話をしながら授業を進めることを重視する。質問があれば、講義の途中でも遠慮なく質問してかまわないし、教員側からも積極的に受講者に問いかける。

対外政策の選択については、受講者側の発表について教師も含めて討議しながら、理解を深めていく。従って、授業が充実したものになるかは、受講者側の積極的な参加にかかっている。受講者の発表に対するフィードバックは、その都度、授業内でコメントすることにする。重要なことは、領土や安全保障上の問題に対して、外交政策が必ずしも合理的に決定されるわけではないことを理解し、実際の外交政策を理解するための応用力をつけることである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後日本外交史 (1)	戦後日本外交史のあらましと占領期における日本とGHQの交渉について学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第2回	戦後日本外交史 (2)	戦後日本外交史について50年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第3回	戦後日本外交史 (3)	戦後日本外交史について60年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第4回	戦後日本外交史 (4)	戦後日本外交史について70年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。

第5回	戦後日本外交史 (5)	戦後日本外交史について80年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第6回	戦後日本外交史 (6)	戦後日本外交史について冷戦後を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第7回	戦後日本外交史 (7)	戦後日本外交史について全体像を議論する。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第8回	日本の領土 (1)	領土の概念や北方領土問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第9回	日本の領土 (2)	竹島問題と尖閣諸島問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第10回	対外政策の選択(1)	外交とは何かを学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第11回	対外政策の選択(2)	国内政治と対外政策の連関について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第12回	対外政策の選択(3)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第13回	対外政策の選択(4)	国際情勢についての認識と行動から戦争が勃発する原因について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第14回	対外政策の選択(5)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『戦後日本外交史』第三版補訂版、五百旗頭真編、有斐閣、2014年、2,200円  
 『日本の領土』 芹田健太郎、中央公論新社、2010年、755円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は授業でパワーポイントやレジュメで解説します。  
 『国際政治学』 中西寛、石田淳、田所昌幸、有斐閣、2013年、3,520円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は最初の授業で配布する。

【参考書】

『新訂第5版 安全保障学入門』防衛大学校安全保障学研究会編、株式会社亜紀書房。  
 『決定の本質—キューバ・ミサイル危機の分析』 グレアム T. アリソン(著)、宮里 政玄(訳)、中央公論新社、1977年。絶版。

【成績評価の方法と基準】

70%：平常点と、授業における発言内容の充実度  
 30%：発表：「対外政策の選択」に関して、自分の研究にどのように応用できるのか最後の授業で一人一人発表してもらう。

【学生の意見等からの気づき】

過度な学生の負担はない授業内容にしています。受講者の発表は短い時間でかまいません。勤務後に授業に来られる方がおられたら、時間を考慮しますので、申し出てください。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業では授業支援システムは使いません。オンライン授業ではZOOMを使います。

**【その他の重要事項】**

大学院の方針によって全てオンライン授業になる可能性があります。対面授業でも第8回の講義ではパワーポイントを使って説明します。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 国際政治学、比較政治学、政軍関係論、安全保障論

<研究テーマ> 東アジアの安全保障、経済制裁、北朝鮮研究

<主要研究業績>

「北朝鮮の世界観から見た世界の対立」川島真、鈴木絢女、小泉悠編著、池内恵監『ユーラシアの自画像「米中対立／新冷戦」論の死角』2023年、PHP研究所。

「日朝和解の困難」波多野澄雄編『国家間和解の揺らぎと深化：講和体制から深い和解へ』2022年、明石書店。

"North Korea's Foreign Policy: A Non-isolated Country with Expanding Relations" Takashi Inoguchi ed., The SAGE Handbook of Asian Foreign Policy, Dec. 2019, Sage Publishing.

「北朝鮮流の戦争方法-軍事思想と軍事力、テロ方針」川上高司編『新しい戦争』とは何か-方法と戦略-』2016年1月、ミネルヴァ書房。

「北朝鮮の軍事・国防政策」木宮正史編『朝鮮半島と東アジア』2015年6月、岩波書店。

『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか？ 政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』2013年10月、潮書房光人社。

**【Outline (in English)】**

The objectives of the class is to understand how foreign policy is decided, while leaning Japanese postwar diplomatic history, territorial issues and foreign policy theory. The important point is the applying foreign policy theory in considering real foreign policy, while deepening the knowledge of the territorial issues and diplomatic issues facing Japan and international society, understanding the foreign policy theory in international politics. The prior learning and review are need each 2 hours. The distribution of score is as follows: class participation remarks: 70%, presentation: 30%

POL500P2 - 120 (政治学 / Politics 500)

## サステイナブル地域政策研究

小島 聡

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「サステナビリティ」(持続可能性)の視点から自治体政策について総合的に検討する。授業では、まず持続可能性の概念、地域の多様性と政策の方向性について考える。さらに、グローバルな政策、政策統合とSDGs、縮小都市問題と政策展開、都市と過疎地域の政策連携などについて議論する。この授業の目的は、持続可能な地域社会への公共政策を理解することである。

### 【到達目標】

この授業に参加することによる学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ・持続可能な地域社会と自治体の役割に関する知識を習得する。
- ・公共政策の構造を理解する。
- ・政策型思考を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

持続可能性に関する基礎概念や政策規範・政策原則を分析視角とし、政策課題と政策展開について検討しながら、今後を展望する。パワーポイントのほか配布資料を使用しながら講義を行うが、各地の最新の政策情報を共有しながら、参加者とも議論をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「持続可能性」の概念と「持続可能な地域社会」の多様性	「持続可能性」の概念構成から政策原則を導き、さらに地域特性に応じた政策課題の多様性をふまえ、都市の「変容」と過疎地域の「存続」という二重課題について検討する。
2	グローカリズムと自治体政策	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考し、政策責任や政策行動モデルなどに関する理論的な整理を行いながら、自治体の政策動向について検討する。
3	持続可能性の包括性・統合性とローカルSDGs	「持続可能性」概念の包括性・統合性や「環境政策統合」の考え方をふまえながら、「持続可能な地域社会」への総合政策論の重要性を確認する。さらにローカルSDGsと自治体政策について検討する。
4	都市の持続可能性リスクと縮小都市への政策的対応	長期的な視点で都市の持続可能性リスクを確認しながら、特に縮小都市の時代における自治体政策の動向について検討する。
5	ローカルSDGsのケーススタディ	ローカルSDGsに関するケースの報告と議論を行う。
6	ローカルSDGsのケーススタディ	ローカルSDGsに関するケースの報告と議論を行う。
7	ローカルSDGsのケーススタディ	ローカルSDGsに関するケースの報告と議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。

- ・配布資料やその他の関連資料を読む。
- ・指示した課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

必読参考文献は開講時に紹介し、また必要に応じて参考資料を配付する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（60%）、課題への取り組み（20%）、最終レポート（20%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度は休講であったため、最新のフィードバックはありません。過去のアンケート、学生の意見、内省等からの気づきは、以下のとおりです。

- ・「持続可能性」や「持続可能な地域社会」について俯瞰することには、現代のかつ学際的な意義があると考えています。
- ・多様な問題領域を扱うことで、それぞれの研究テーマをもつ院生の視野を広げることができると考えています。
- ・政策事例の検討により、「臨床の知」から政策思考を育む教育効果があると考えています。
- ・対話型授業の要素を取り入れてきましたが、その必要性を実感しています。

【学生が準備すべき機器他】

参加者によるケーススタディの報告は、各自のパソコンからプロジェクターに画像を投影するか、レジュメ等の配布で対応する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治論

<研究テーマ> 持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、市民社会と自治体行政システム

<主要研究業績>

『アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編』『自治体経営改革』（共著）（ぎょうせい、2004）

『参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて』『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）

『自治体環境政策の軌跡と持続可能性』『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）

『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして』（共編著）、（ミネルヴァ書房、2012）

『自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性』『地域開発』（vol.574、2012）

【Outline (in English)】

The objective of this course is to examine the policy of local government comprehensively from the viewpoint of sustainability. Firstly, we will think about the conception of sustainability, regional diversity and policy direction. Furthermore, we will discuss the trend of "Glocal policy", sustainability of urban areas and rural areas, "Policy integration and SDGs, urban sustainability risk, shrinking city problems and policy development, cases of regions with advanced initiatives, etc.

The purpose of this course is for students to understand public policy for sustainable community.

At the end of the course, students are expected to achieve the following:

(1) Acquire knowledge of sustainable community and the role of local Government.

(2) Understand structure of public policy

(3) Gain ability of policy thinking

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on some assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Active class participation:60%,Assignments:20%,Final report:20%

SES500P2 - 123 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500)

**地域環境計画研究**

湯澤 規子

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

受講生は「食」と「農」と「地域」をキーワードとして、その関係性を歴史的に検討します。「自然環境」、「社会環境」の両側面から「環境」を捉え、様々な事例から持続可能な社会のしくみについて考えます。

**【到達目標】**

受講生は食と農と地域の歴史を理解し、地域環境を論じる基礎的知識と視角を身につけます。文献講読および具体的な事例を通して、現代社会の課題と今後の展望を考察することを目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

講義を中心としつつ、ディスカッションペーパーにもとづく議論を適宜織り交ぜて、考察を深めていきます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域環境を論じる視点
第2回	問題提起	地域環境を論じた近年の研究成果の検討
第3回	文献講読（1）	地域環境に関わる文献講読
第4回	文献講読（2）	地域環境に関わる文献講読
第5回	文献講読（3）	地域環境に関わる文献講読
第6回	地域・環境・計画に ついての討論	様々なアクターについて考える
第7回	総括と展望	各自の研究課題との関連について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。具体的には課題文献の精読、報告レジュメ作成、論点の検討などに取り組んで下さい。

**【テキスト（教科書）】**

下記の文献を輪読し、討論します。

・湯澤規子、伊丹一浩、藤原辰史編著『入門 食と農の人文学』ミネルヴァ書房、2024年3月刊行予定。

**【参考書】**

講義の中で適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

講義への参加および報告（50%）と最終レポート（50%）で評価します。具体的には主体性、独自性、堅実性に基づいて評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。

**【学生の意見等からの気づき】**

参加者それぞれの問題意識を深められるように、ディスカッションの時間を活用したいと思います。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 地域経済学、日本近現代史、人文地理学

<研究テーマ> 地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史

<主要研究業績>

・『焼き芋とドーナツ—日米シスターフード交流秘史』（単著、KADOKAWA、2023年）

・『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）

・『胃袋の近代—食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）

・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）

・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁

・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

**【Outline (in English)】****◆ Course outline**

Students will examine this relationship from a historical point of view using "food", "agriculture" and "region" as keywords. We will consider the "environment" from both the "natural environment" and "social environment" and think about the structure of a sustainable society from various cases.

**◆ Learning Objectives**

Students will gain an understanding of the history of food, agriculture, and local communities, and acquire the basic knowledge and perspectives to discuss the local environment. The course aims to examine the issues and future prospects of contemporary society through literature reading and specific case studies.

**◆ Learning activities outside of classroom**

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, please read the assigned literature carefully, prepare a resume, and discuss the issues.

**◆ Grading Criteria /Policy**

Evaluation will be based on lecture participation and report (50%) and final report (50%). Specifically, evaluation will be based on initiative, originality, and solidity. The theme will be presented at the beginning of the lecture.

SOC500P2 - 144 (社会学 / Sociology 500)

環境ガバナンス I

藤田 研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集合行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直交流について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。
第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。
第10回	NGO・NPO③	ボランテア、寄付の理論と実態、フーコーの権力論について学ぶ。
第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。

第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦/まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。坂本治也編、2017、『市民社会論』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）+期末レポート（70%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

博士課程「環境ガバナンスDⅢ」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】

（専門領域）  
環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性（研究テーマ）  
環境問題解決に向けた市民の活動と行政、企業との連携  
地域の課題解決と環境保全の両立を考える（主要研究業績）  
藤田研二郎、2019、『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is not the government or business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations, and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.

- To propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Report (70%).



MAN500P2 - 102 (経営学 / Management 500)

環境経営論

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、経営学および会計学の視点から、企業や地域における環境経営やサステナビリティ経営の仕組みを明らかにしつつ、国内外における先進的な企業の取組事例も考慮に入れながら、将来企業や地域において、有効かつ効率的に実施すべき環境経営やサステナビリティ経営の方法を理論的かつ実践的に検討していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、国内外で刊行されたマルチステークホルダーの視点からの環境経営またはサステナビリティ経営に関する文献(理論研究の論文)を多面的に分析・検討し、その結果を論理的に整理し、報告し、議論していくための能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本講義は原則対面で実施する。第1回は、履修者に環境経営またはサステナビリティ経営に関する研究論文を紹介しつつ、関心のある論文を1つ選んでもらう。また、その論文の内容を分析し、整理し、報告してもらおうポイントも講義する。第2回以降は、履修者には、第1回で選んだ研究論文の内容を、企業や地域の取組事例や関連する著書・報告書も参考にしながら多面的に分析・検討し、その結果を報告してもらおう。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義全体の流れとその内容、講義で使用する文献の紹介、その文献を分析・検討していくための方法やポイントを説明する。
第2回	環境・社会問題に対応する企業①	環境・社会問題に対応する企業のあり方に触れた論文(例えば、プラハラード、ハート、ロザベス=テュナの論文)の内容を考察し、報告する。
第3回	環境・社会問題に対応する企業②	第2回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第4回	環境・社会問題解決のための経営戦略①	企業が環境重視から持続可能性に展開していくために検討し、策定すべき経営戦略に関する研究論文(例えば、ハート、アンルー、ランジェイの論文)の内容を考察し、報告する。
第5回	環境・社会問題解決のための経営戦略②	第4回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第6回	環境・社会問題解決のための新たな経営戦略①	企業が経済的価値と環境・社会的価値を同時実現していくための新たな経営戦略に関する研究論文(例えば、クリステンセン、ポーター=クラマー、セラフェイムの論文)の内容を考察し、報告する。

第7回	環境・社会問題解決のための新たな経営戦略②	第6回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第8回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメント①	第2回から第7回で取り上げられた経営戦略を実現していくための組織編成・マネジメント(サブライチェーン、コレクティブ・インパクト、コラボレーション、エコシステム)に関する研究論文(例えば、カニア=クラマー、アドラー、リー、バロニカ=デニスの論文)の内容を整理し、報告する。
第9回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメント②	第8回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第10回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメントの先進事例①	第8回と第9回で取り上げられた組織編成・マネジメントに関するガイドや先進事例(例えば、国連グローバルコンパクトやパタゴニアの取組み)の内容を整理し、その結果を報告する。
第11回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメントの先進事例②	第10回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域における取組事例を参考にしながら検討し、報告する。
第12回	戦略策定や組織編成・マネジメントを支援する会計システム①	組織(第2回、第3回)の戦略策定(第4回~第7回)と組織編成・マネジメント(第8回~第11回)を支援する会計システムに関する論文(例えば、キャプラン、エクセル、セラフェイム、ガードナーの論文)の内容を整理し、報告する。
第13回	戦略策定や組織編成・マネジメントを支援する会計システム②	第12回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域における取組事例を参考にしながら検討し、報告する。
第14回	講義のまとめ	第13回までの検討内容を整理しつつ、その内容をもとに新たな方法論も検討する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義内容の理解および文献の分析・検討にあたっては、少なくとも次の3点について行ってください。  
 ・経営学および会計学の基礎的知識を事前に学習し、身につけること  
 ・毎回の講義内容を復習すること  
 ・本講義に関連する新聞・雑誌記事やホームページなどの内容をチェックすること本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

・講義では、テキストは使用せず、テーマごとに配布した資料を使用します。  
 ・報告では、配布資料の内容を整理したレジユメの作成および配布をお願いします。

【参考書】

講義中に配布資料や報告内容に関連する著書・論文・雑誌・URLなどを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。  
 ・報告用配布レジユメの内容(20%)  
 ・報告内容(プレゼンテーション能力)(30%)  
 ・討論への参加(発言内容)(30%)  
 ・レポートの内容(報告内容に基づくレポート)(20%)

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

**【その他の重要事項】**

- ・講義はワードあるいはパワーポイントを用いて進めていきますので、報告およびそのレジュメの作成も、ワードまたはパワーポイントを使用してください。
- ・質問などについては電子メールで連絡ください。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・金藤正直 (2015) 「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
- ・金藤正直 (2016) 「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
- ・金藤正直 (2018) 「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
- ・金藤正直、岡照二 (2021) 「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
- ・金藤正直 (2021) 「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
- ・金藤正直 (2022) 「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。

**【Outline (in English)】**

① Course Outline

The purpose of this lecture is to learn the management method for solving environmental and social issues in companies and regions.

② Learning Objectives

Thought this lecture, graduate students are able to logically understand a new sustainability management and accounting system in companies and regions.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this lecture are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Content of the resume : 20%
- 2) Content of the presentation : 30%
- 3) Participation in the discussion : 30%
- 4) Report based on the presentation : 20%

MAN500P2 - 107 (経営学 / Management 500)

## サステナビリティ・レポーティング

八木 裕之

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業のサステナビリティ情報は、サステナビリティ報告、統合報告、ガバナンス報告、有価証券報告書などのさまざまな方法によって開示されています。履修者は、世界および日本で展開されているサステナビリティ情報開示に関する、さまざまな動向（制度、政策、ガイドラインなど）や企業の先進実践について理論と実践を学び、サステナビリティ情報開示のあり方や利用方法についてディスカッションを通して理解を深めます。

### 【到達目標】

履修者は、サステナビリティ・レポーティングの国際的な動向および企業のサステナビリティ情報開示の実践を学び、開示されたサステナビリティ情報を経営戦略、サステイクホルダー、投資家などの様々な視点から分析する能力を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

サステナビリティ社会における企業経営のためには、企業活動のサステナビリティに関わる戦略を経営戦略に組み込むことはもちろんのこと、その状況を投資家、顧客などのステークホルダーに開示し、ステークホルダーとのエンゲージメントを図っていくことが必要不可欠です。本講義では、世界的に大きな変動期にある企業のサステナビリティ・報告制度や企業実践について解説すると同時に、今後のサステナビリティレポーティング、サステナビリティ・マネジメント、サステナブル投資などのあり方などについて議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	サステナビリティ・レポーティングの系譜	講義の進め方とサステナビリティ・レポーティングの歴史的発展の経緯を解説する。
2	サステナビリティ・レポーティングの発展	サステナビリティ社会におけるレポーティングの役割について考える。
3	環境マネジメントとレポーティング	環境マネジメントの仕組みとレポーティングについて、EUの動向、ガイドラインなどに基づいて考える。
4	サステナビリティ・マネジメントとレポーティング	サステナビリティ・マネジメントの仕組みとレポーティングについてガイドラインなどに基づいて考える。
5	サステナビリティ・レポーティングとサステナブル投資	サステナブル投資におけるサステナビリティ評価やサステナビリティ情報の利用について考える。
6	SDGsと企業戦略	SDGsと企業のサステナビリティ戦略およびSDGsビジネスの関係について考える。
7	環境戦略と環境会計	環境会計情報のレポーティングについてガイドラインを中心に考える。
8	企業のサステナビリティ戦略の分析	履修者による企業のサステナビリティ戦略分析に基づいてディスカッションする。

9	サステナビリティ・レポーティングと財務報告	サステナビリティ・レポーティングと財務報告との関係を国際的な制度化の動向を踏まえて考える。
10	サステナビリティ・レポーティングと統合報告	統合報告とサステナビリティ・レポーティングの関係性について考える。
11	サステナビリティ・レポーティングと気候変動	気候変動に関する経営戦略と情報開示の状況をTCFD提言などを中心に考える。
12	サステナビリティ・レポーティングと自然資本	サステナビリティ・レポーティングにおける自然資本情報について考える。
13	自治体のサステナビリティ・レポーティング	自治体のためのサステナビリティ・レポーティングの仕組みと機能について考える。
14	サステナビリティ・レポーティング分析プレゼン	履修者が行ったサステナビリティ・レポーティング分析の結果を発表し、ディスカッションする。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業のサステナビリティ情報に関する、サステナビリティ・レポート、環境レポート、統合報告、有価証券報告書、各種調査資料などを読んで分析します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

主に配布プリントを教材として用います。テキストは特に使用しません。読む必要がある文献や資料は講義時に適宜指示します。

### 【参考書】

八木他『サステナビリティ社会のための会計生態会計入門』森山書店、2013年  
 環境省『環境報告ガイドライン2018年版』環境省、2018年  
 環境省『環境会計ガイドライン2005年版』環境省、2005年  
 Task Force on Climate-related Financial Disclosures, Implementing the Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures, TCFD, 2021  
 IIRC, International IR Framework, IIRC, 2021  
 GRI, GRI Standard 2021, GRI, 2021

### 【成績評価の方法と基準】

プレゼン（30%）・ディスカッション（40%）・レポート（30%）に基づいて評価します。ディスカッションを重視するため、講義回数の3分の2以上の出席が必要です。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義の教材、ケーススタディの対象企業などについては、できるだけ履修者の要望に対応して選択しますので、積極的にディスカッションに参加してください。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

特にありません。

### 【担当教員の専門分野等】

サステナビリティ会計、サステナビリティ・レポーティング、サステナビリティマネジメント、ソーシャルビジネス、環境会計、カーボン会計、自然資本金会計、バイオマス環境会計

### 【サステナビリティ会計】

八木裕之「サステナビリティ関連財務情報に関する考察－マテリアリティの視点から－」『会計』202巻第1号、森山書店、2022年  
 八木裕之「非財務情報と統合報告」『会計』199巻第1号、森山書店、2021年  
 八木裕之「環境戦略と自然資本金会計」『会計』196巻4号、森山書店、2019年  
 八木裕之「気候変動情報開示とカーボン会計」『会計』194巻4号、森山書店、2018年

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Students study basic theory and practices of sustainability reporting and utilization of sustainability information.

**【Learning Objectives】**

The goals of this course are acquisition of sustainability analytical capabilities.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students will be expected to read sustainability reports related to each lecture at least two hours.

**【Grading Criteria /Policy】**

Final grade will be calculated according to the following process: presentation (30%), term-end report (30%), and in-class contribution(40%).

ECN500P2 - 119 (経済学 / Economics 500)

環境経済論

杉野 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どのような政策が必要であるかを理論的に考える。本授業では、以下の2つを最終目的とする。  
① 環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に経済学を応用できるようにする。  
② 日本の環境政策・制度およびそれらの問題点を理解し、必要とされる政策について理解を深める。なお、環境経済学を学ぶうえでミクロ経済学の基礎的な知識が必要となる。本授業では、関連するミクロ経済学を適宜説明しながら講義を行う。

【到達目標】

経済学の基礎知識と環境問題に対する理解を深めることができる。また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面での講義形式を基本とする授業を行います。毎回、講義と関連する課題（小テスト）を実施します。課題（小テスト）の解説を次の授業の冒頭に行います。また、コメントや質問に対する回答も授業の冒頭に行います。

なお、一部の授業ではゲームを行い、学んだ理論と現実の差を体感します。

また、グループディスカッションを通じて、政策の方向性などを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境経済学とは	環境経済学を学ぶ際に必要最低限の経済学的知識を解説します。
	ミクロ経済学①（市場とは）	需要曲線と供給曲線の意味および、市場の機能を解説します。
第2回	ミクロ経済学②（余剰分析）	消費者余剰、生産者余剰、社会的総余剰について解説します。
	ミクロ経済学③（市場の効率性）	市場の効率性・万能性について解説します。
第3回	公共財とは	公共財の定義およびどのような問題があるのかを解説します。
	外部性（様々な費用）	平均費用、平均可変費用、限界費用など費用の概念を解説します。
第4回	外部経済（余剰分析）	正の外部性について解説し、市場にどのような影響をもたらすかを解説します。
	外部不経済（余剰分析）	負の外部性について解説し、市場にどのような影響をもたらすかを解説します。
第5回	外部不経済の内部化	外部不経済が存在する場合、社会的に望ましい状態は何かを解説します。
第6回	コースの定理	当事者間の交渉によって環境問題が解決することができることを解説します。
第7回	政策による環境問題の解決	どのような環境政策が有効かを解説する。また、それぞれの政策の利点・欠点について議論する。
	効率的な削減（ピグー税と排出量取引）	

第8回	ゲーム①：排出量取引制度を理解する	ゲームを通じて排出量取引制度の基本的な制度設計について学ぶ。
	ゲーム②：排出量取引制度におけるプレイヤーを理解する	
第9回	ゲーム③：排出量取引制度における費用軽減措置を理解する	ゲームを通じて排出量取引制度の導入がもたらす様々な問題に対処する応用的な制度設計について学ぶ。
	ゲーム④：排出量取引制度のまとめ	
第10回	地球温暖化①：問題の所在	温暖化政策の基礎的な知識を解説する。また、京都議定書第1約束期間までの状況を解説する。
	地球温暖化②：京都議定書	
第11回	地球温暖化③：ポスト京都	ポスト京都議定書（パリ協定まで）について解説し、各国の気候変動政策および事前評価について解説する。
	地球温暖化④：各国の対策および事前評価	
第12回	廃棄物問題①：ごみ処理有料化政策	ごみ処理有料化政策が何故必要なのか、何を意図としているのかを解説する。また、自治体の取り組みと理論を比較する。
	廃棄物問題②：自治体の取り組み	
第13回	放射性廃棄物問題①	放射性廃棄物の最終処分問題について米国の取り組みを紹介しながら解説する。また、日本に必要な方策を考える。
	放射性廃棄物問題②	
	高レベル放射性廃棄物	
第14回	大気汚染①：固定排出源の規制	日本における大気汚染対策を紹介し、今後の方策について考える。
	大気汚染②：移動排出源の規制	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。指定したテキストおよび参考書の該当する箇所を事前に読み、授業の準備を行ってください。また、課題を行い、内容の理解度を深めてください。

【テキスト（教科書）】

『入門 環境経済学－環境問題解決へのアプローチ』, 日引聡・有村俊秀, 中央公論新社 (2002)

【参考書】

Richard Porter The Economics of Waste, Routledge, 2002.

【成績評価の方法と基準】

小テストおよび最終課題を総合的に評価します。具体的には、小テスト45%、最終課題55%の合計100%点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

理論の理解を深めるため、排出量取引制度のゲームを引き続き実施します。また、練習問題の難易度を複数準備する。例えば、公務員試験の過去問など。また、オンライン対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

電子ファイル（講義資料や追加資料など）を配布いたします。パソコン（タブレット）などをインターネットに接続できるようにしてください。

【その他の重要事項】

特定の時間帯にオフィスアワーを設定していませんが、授業等がなければいつでも対応いたします。事前アポをメールで取ってください (makoto.sug@gmail.com)。質問などがあつた場合、連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境経済学、応用ミクロ経済学  
<研究テーマ>環境経済学  
<主要研究業績> Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

Economic growth has increased the burden of environmental impacts in various dimensions. In this course, we will apply microeconomic theory to environmental issues and consider what kind of policy/regulations are needed to address these issues from the theoretical perspective.

**【Learning Objectives】**

Students will be able to 1) understand the “nature” of environmental issues and apply economics to counter these issues and 2) understand Japanese environmental policies/regulations and consider further, what kind of actions are needed in the future.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students will be expected to have completed the required assignments after class. Your study time will be more than two hours for each class.

**【Grading Criteria/Policy】**

Your overall grade in class will be decided based on the following:

Take-home test 45%, Term-end assignment 55%.

MAN500P2 - 122 (経営学 / Management 500)

## サステナブル経営論

長谷川 直哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義ではサステナビリティを巡る国際的な動向を整理し、CSR、CSV、SDGsが時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。サステナビリティ経営の強化を求めるコーポレートガバナンス・コードや東証市場再編、影響力を強めているESGマネー（投資・融資・保険）が企業経営にもたらす影響について理解を深めることめざします。

### 【到達目標】

サステナビリティに関する国際的な政策動向に関する基本知識を習得し、国内外の企業および機関投資家の行動を理解し正しく評価する能力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻「CSR論」においては公共マネジメントコースの「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻「サステナブル経営論」においては「DP1」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本のSDGs/CSRおよびBusiness Ethicsに関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	価値共創時代のサステナビリティ経営とは	サステナビリティ経営の概観
第2回	責任経営ケーススタディ①	住友財閥／伊庭貞剛・鈴木馬左也
第3回	サステナビリティ経営の最新動向「ガバナンス編」	日本型ガバナンスの現状 コーポレートガバナンスコード
第4回	責任経営ケーススタディ②	大日本報徳社／岡田良一郎
第5回	サステナビリティ経営の最新動向「環境編」	脱炭素経営の本質企業評価の新たな尺度となる炭素利益率
第6回	責任経営ケーススタディ③	豊田自動織機／豊田佐吉 スズキ／鈴木道雄
第7回	ESG経営の最新動向「社会編」	人権・ダイバーシティ 人的資本経営
第8回	責任経営ケーススタディ④	倉敷紡績・クラレ 大原孫三郎 大原総一郎
第9回	近代産業の勃興と経済倫理「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について

第10回	責任経営ケーススタディ⑤	グンゼ／波多野鶴吉 天竜木材／金原明善
第11回	日本社会における企業倫理の形成	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第12回	責任経営ケーススタディ⑥	第一生命／矢野恒太 東京海上／各務謙吉
第13回	ゲストスピーカーによる講義①	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します
第14回	ゲストスピーカーによる講義②	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業が発行する統合報告書やサステナビリティ報告書を参照しながら、SDGsやパリ協定と企業はどのように向き合おうとしているのかについて自己学習を深めて下さい。詳細については、初回授業において説明します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年  
毎回レジュメを配布します。

### 【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂, 2023年  
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会, 2023年  
Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂, 2019年  
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年  
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年  
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年

### 【成績評価の方法と基準】

期末レポート：80%  
発表・討議：20%

### 【学生の意見等からの気づき】

複雑な数式等は使わず、財務分析や証券投資に関する知識の無い方にも理解しやすい説明を心掛けます。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー  
<研究テーマ>  
企業と社会のサステナビリティ  
<主要研究業績>  
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年  
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年  
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

### 【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

### 【関連視角】

証券アナリスト検定会員（CMA）

**【Outline (in English)】**

In this lecture, we will review how international trends in sustainability (CSR, CSV, SDGs) have been changing. We will also examine the impact of the Corporate Governance Code, the restructuring of the Tokyo Stock Exchange and ESG money (investment, financing and insurance) on corporate management. Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading will be based on the final report (80%) and presentation (20%).



LAW500P2 - 124 (法学 / law 500)

環境と知的財産権

中里 妃沙子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知的財産権の基礎を押さえた後、知的財産権の現代社会における重要性を学び、さらに工業的分野だけでなく、知的財産権が、自然及び環境問題とどのように関連しているか、知的財産権の種類にわけて、幅広く事例を挙げて講義する。

知的財産権の法的理解を深めるために、必要に応じて、民法などの法的問題についても、講義を行う。

特に、特許権、音楽著作権、商標権など、知的財産権の新しい動向についても解説するとともに、一般にはなじみがない種苗法も取り上げ、環太平洋パートナーシップ (TPP) の農業分野に対する影響、知的財産権に対する影響について解説する。

ほかに、生物多様性条約が知的財産権についても関連の深い条約であることを概説し、知的財産権の現代社会における広がりについて学ぶ。

【到達目標】

特に、特許権、音楽著作権、商標権など、知的財産権の新しい動向についても解説するとともに、一般にはなじみがない種苗法も取り上げ、環太平洋パートナーシップ (TPP) の農業分野に対する影響、知的財産権に対する影響について解説する。

ほかに、生物多様性条約が知的財産権についても関連の深い条約であることを概説し、知的財産権の現代社会における広がりについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面で開催予定である。講師作成のパワーポイントレジュメを使用し、判例の紹介、その他新聞記事などを適宜配布しながら、知的財産権の内容及び知的財産権と自然との関係について概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	知的財産権が属地的権利であることを確認したのち、グローバル化した社会の中で、条約などを通じて、どのように保護されていくかを論じる。	・知的財産権とはどのような権利の呼称か ・知的財産権の法的性質（「独占」）について ・知的財産権の種類 ・知的財産権の国際性（条約を中心にして）
第2回	工業所有権の中心的権利である特許権を概説し、工業分野だけでなく、自然及び環境との関係でも、関連の深い権利であることに触れる。	・特許法1：特許法についての概説及び特許権の具体的事例の説明
第3回	特許法のつづき 実用新案権についての概説	・特許法2：特許権に対する制限について ・実用新案法の解説及び実用新案権の具体的事例の説明 ・意匠法の解説及び意匠権の具体的事例の説明

第4回	工業所有権のひとつである意匠権の概説 農業分野で重要な権利であり、自然と直接関わりのある育成者権保護する種苗法を中心に概説する。	・意匠権に対する制限について ・種苗法1：種苗法についての解説
第5回	種苗法についての概説の続き	・種苗法2：指定種苗制度についての解説
第6回	著作権について概説する。	・著作権法1：著作権法の概説
第7回	著作権についての概説の続き	・著作権法2：著作権に対する制限
第8回	商標法について概説し、特許権と同じく、工業分野だけではなく、農業分野など、自然とも深く関わってくる権利であることに触れる。	・商標法1：商標権について概説する
第9回	商標についての概説の続き	・商標法2：新しい商標について概説
第10回	不正競争防止法について概説し、知的財産権分野だけでなく、農業分野など、自然とも深く関わってくる権利であることに触れる。	・不正競争防止法
第11回	自然及び環境と知的財産権の関わりについて、特許権を中心に論ずる。特に、遺伝子特許、生物特許など新しい問題についても扱う。また、特許権と育成者権の二重保護についても触れる。	・自然と特許権 ・特許権と育成者権との関係（二重保護）
第12回	農林水産分野における知的財産権の保護についてのこれまでの講義の総まとめを行う。	・農林水産分野における知的財産権 ・地域団体商標 ・TPP交渉の農業及び知的財産権に対する影響
第13回	生物多様性条約が、知的財産権をも扱っている点について解説し、さらに今後の知的財産権の方向性についても概説する。	・生物多様性条約（知的財産権に関連して）
第14回	まとめ	学生による研究発表・レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業終了後、授業内容を理解することが求められます。

【テキスト（教科書）】

講師作成のパワーポイントレジュメ

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50% レポート課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

毎年、知的財産権について最新の話題を取り入れてお話ししようと考えていますが、今年は特にTPPに関連する事柄について、折に触れてお話しする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

**【担当教員の専門分野等】**

＜専門領域＞

離婚・相続などの家事分野

景表法、薬機法、特商法などを踏まえた広告規制全般

＜研究テーマ＞

特になし

＜主要研究業績＞

特になし

**【Outline (in English)】**

The purpose of this course is to help students master the basic concepts and principles of Japanese Intellectual Property Rights such as Patent Act, Utility model right Law, Design Act, Plant Variety Protection and Seed Act, Copy right Act, Trademark Act, and Unfair Competition Prevention Act. It also introduces the International Intellectual Property including several global conventions, such as Paris Convention, Berne Convention, Agreement on Trade-Related Aspects of Intellectual Property Rights and Convention, and Convention on Biological Diversity.

At the end of the course, participants are expected to understand the Japanese Law system and social phenomena from the view of legal perspective by learning Japanese Civil Code which is the most important and basic law in Japanese law system as well.

**【Learning activities outside of classroom】**

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

**【Grading Criteria/Policy】**

Aggressiveness such as attendance and question in classes 50%  
Submission of reports 50%

MAN500P2-133 (経営学 / Management 500)

グローバル環境経営論

白鳥 和彦

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

今日、企業経営においては、公害対策から廃棄物対策、温暖化防止や生物多様性保全など幅広く地球環境問題への対応が求められている。また、それが同時に企業の持続可能な発展につながるものが求められている。日本および海外企業の環境経営の現状と今後の課題について、その本質と企業の対応について検討する。

【到達目標】

先進的な環境経営を行っている企業等の事例をもとに、環境経営の基本的考え方、基礎的な目標や達成手法などに関する基本的な知識を習得し、持続可能な社会に向けた企業の環境経営の在り方等について自ら考察出来る能力を涵養する。  
ディプロマポリシーの「DP1」と「DP2」に関連している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン授業で行う。リアルタイム型 (Zoom を利用した双方向型) とする。

授業ごとに設定したテーマについて、社会や環境問題の現状、法規制、企業の取組みなど、基本的な事項を講義したのち、具体的な企業の事例を分析・検討し、受講者からの報告や教員と受講者との意見交換等を通じて理解を深めていく。  
連続した2時間授業であることを活かし、講義と意見交換を交える。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	環境経営の概念 ～環境経営とは何か	・環境経営の概観 ・企業理念、環境方針、トップコミットメント ・環境先進企業がどう取り組んできたか 等
第2回	エネルギー政策とエネルギー関連ビジネス	・エネルギーと環境負荷、エネルギー政策、パリ協定 ・既存エネルギー企業、再生可能エネルギー企業、IT 関連企業の取組み 等
第3回	資源循環・サーキュラーエコノミー	・日本および欧州の関連政策 ・製造業の資源循環の取組み (ex 自動車業界) ・プラスチックリサイクル企業、リサイクルメジャー企業の取組み 等
第4回	環境経営の評価：社会やステークホルダーからどう評価されるか	・環境経営度ランキング、環境・CSR 関連のインデックス 等
第5回	環境経営の指標化：自社のなかでどう評価・指標化し進めるか	・エコラベル、カーボンフットプリント ・環境会計とその進化 (社会価値の定量化) 等

第6回 地域循環共生圏：環境基本計画と地域の環境対応  
・地域エネルギー、街づくり  
・コンパクトシティ  
・地域企業の取組み例  
等

第7回 環境対応と社会課題解決に繋がる新しいビジネスモデル  
・シェアリング・エコノミー等  
・全授業を通してのまとめ、発表講義のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

地球環境問題、企業の環境・社会的責任に関する活動に関心を持ち、自己学習に努めること。各回に次回の事前・事後学習の内容を指示します。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。 必要に応じて資料配布する。

【参考書】

授業テーマに応じて資料・文献などを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：80 %

討議への関与度、発表：20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なパソコンおよび通信環境を準備してください。

(通信環境は通信量無制限の契約が望ましい)

【その他の重要事項】

【その他の重要事項】

受講者の関心事・理解度により講義内容や取り上げる事例を変更することがある。

学生からの積極的な発言や議論を期待する。

【実務経験のある教員による授業】

製造業で、ゼロエネルギー住宅の開発、居住環境・生活エネルギーに関する研究開発など環境領域での研究開発に従事。その後、環境経営およびCSR経営の立ち上げから全社の施策立案・推進に従事。環境マネジメントシステムの全社展開、LCAや環境会計手法の活用と展開、環境レポート・CSRレポートをはじめとした環境コミュニケーション、環境教育、社会貢献活動 (特に次世代向け) の企画・立案・推進等、環境経営・CSR経営に関するほぼ全ての事項や手法に携わってきた。理論だけでなく企業での施策や手法など実践的な内容を盛り込んだ講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:

Considers the current efforts and future issues of environmental management of Japanese and overseas companies, for the sustainable society.

Learning Objectives:

Based on examples of companies that are conducting advanced environmental management, acquire basic understanding about the basic concept of environmental management, basic goals and achievement methods, etc. Cultivate the ability to think independently about how environmental management should be.

Learning activities outside of classroom:

Students are required to be interested in activities related to global environmental issues and corporate environmental and social responsibility. Preparatory study and review for this class are 2 hours each.

Grading criteria :

participation and attitude 20% / final report 80%

ECN500P2 - 126 (経済学 / Economics 500)

開発経済論

山田 英嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済学は、開発途上国での貧困や不平等に着目し、どうすればそれらの問題を解決できるかを考察する実践的な分野である。本講義の目的は、現代の開発途上国が直面する主要な課題を把握し、開発経済学がどのような課題解決策を提示してきたのかを理解することである。特に、理論的なアプローチだけでなく、データによる実証分析も活用して開発途上国の諸課題について議論する力を習得することを旨とする。

【到達目標】

本講義の到達目標は以下の3点である。

- (1) 開発経済学がどのように貧困や不平等をとらえてきたのか、主要な指標の考え方や計測方法について、基本的な知識を習得し、アジア・アフリカなどの開発途上諸国の実態を把握すること。
- (2) 貧困や低開発の原因やその解決方法について、開発経済学が提示してきた理論の概要を理解すること。
- (3) 政策の効果を統計的に評価するために定量分析の手法（特にインパクト評価）の概念を理解し、現実の実証例を通じて、開発政策実務への活用方法を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

講義はすべてオンライン授業で行う。各回の講義は、①教員による講義、②参考文献に関する学生の報告、③基礎的なデータ分析課題、④ディスカッションで構成する。講義内容は、ミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学等、経済学の基礎的な知識は前提としない。理論的な説明では数式はなるべく使用せず、グラフなどを使った直観的な理解を優先する。実証分析を理解するための統計学の基礎知識については、講義内で補足説明を行う。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/開発経済学の変遷と経済成長論	第二次世界大戦以降、開発経済学がどのように変遷してきたのか、開発途上国の発展の歴史を踏まえつつ概観する。併せて、経済成長論の概要を理解する。
第2回	貧困と不平等	開発経済学が解決の対象とする中心的課題が貧困と不平等である。貧困と不平等に関する諸概念を整理し、主要な指標の計測方法を習得する。開発経済学および開発の実務でよく使われるデータ（オープンデータ）の使い方についても紹介する。
第3回	貧困層のミクロ経済学	途上国の貧困層は、労働者・起業家・消費者としての役割を持つ経済主体である。ミクロ経済学モデルにより、経済主体としての貧困層の行動を分析するアプローチを学ぶ。

第4回	開発政策を実証分析する手法（インパクト評価）	近年の開発経済学において、現実の政策の効果をデータを使って実証的に分析し知見を得る「インパクト評価」が大切なツールとなっている。効果の測定に必要なデータや主要な手法について、基礎的な知識を得る。
第5回	教育・保健医療と開発	開発途上国における教育や保健医療の実情を主要な統計から把握する。教育や医療へのアクセスを改善するための様々な施策に関して、インパクト評価による主要な研究を概説し、どのような施策が有効なのか議論する。
第6回	出稼ぎ移民/環境問題	前半では、現代の開発途上国に幅広くみられる出稼ぎ移民（国内・海外）について扱う。出稼ぎの動機や故郷への送金もたらず影響などについて考察する。後半では、近年特に深刻となっている環境問題について、開発途上国の現状と各国政府、国際社会の取り組みを経済的に解釈する。
第7回	国際協力と開発経済学	開発経済学は、開発途上国の政策や援助にどのように役立てられているのか。国際協力の歴史・最近の動向を概観しつつ、実際の開発協力事業を例に、政策策定やプロジェクトの実施における開発経済学の知見の活用事例を紹介し、開発経済学の有用性・課題について理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 各回で講読する参考文献について、発表担当の学生は発表準備を、その他の学生は予習をする。学期中、各学生が1 - 2回発表できるようにする。参考文献には英語のものも含まれる予定。
- (2) 全体で2回程度、講義内容に関連する簡単なデータ分析課題を課す。講義開始前までにメールで提出、受講人数によるが、講義時間中に学生からの発表とディスカッションを行う。課題は、オープンデータ（オンラインでアクセス可能な公開データ）を使い、エクセル等の表計算ソフトで実施可能な基礎的なもので、統計分析ソフトウェア等は必要としない。
- (3) 期末レポートの詳細については、講義中にガイダンスする。
- (4) 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】特に指定しません。

【参考書】

「開発経済学—貧困削減へのアプローチ」黒崎卓・山形辰史、日本評論社、2017年  
 「テキストブック開発経済学（第3版）」ジェトロ・アジア経済研究所・黒岩郁雄・高橋和志・山形辰史、有斐閣、2016年  
 「貧困の経済学（上・下）」マーティン・ラヴァリオン（柳原透 監訳）、日本評論社、2018年

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、参考文献の発表(30%)、データ分析課題(20%)、授業やディスカッションへの貢献(30%)、期末レポート(20%)、を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>空間経済学・都市経済学・ミクロ計量経済学  
 <研究テーマ>①海外出稼ぎ移民の要因・海外送金の開発効果②インフラ事業のインパクト分析③空間経済学による都市開発・環境問題等の分析  
 <主要研究業績>

Yasuharu Shimamura, Satoshi Shimizutani, Eiji Yamada, Hiroyuki Yamada (2023), "On the Inclusiveness of Rural Road Improvement: Evidence from Morocco", *Review of Development Economics*, Vol 27, No3, 1721-1745.

W. Seitz, E. Yamada, S. Shimizutani (2023), "Can Vaccination Incentives Backfire? Experimental Evidence That Offering Cash Incentives Can Reduce Vaccination Intentions in Some Contexts" *The World Bank Policy Research Working Paper*, 10349.

Yasuharu Shimamura, Satoshi Shimizutani, Eiji Yamada & Hiroyuki Yamada (2023). "The Gendered Impact of Rural Road Improvement on Schooling Decisions and Youth Employment in Morocco," *The Journal of Development Studies*, 59:3, 413-429, DOI: 10.1080/00220388.2022.2139608

Satoshi Shimizutani & Eiji Yamada (2022), "Long-term Consequences of Civil War in Tajikistan: The Gendered Impact on Education and Labor Market Outcomes," *Defence and Peace Economics*, DOI: 10.1080/10242694.2022.2141946

Satoshi Shimizutani and Eiji Yamada (2023), "Transformation of International Migrants in Head Wind: Evidence from Tajikistan in the 2010s," *Review of Development Economics*, Vol 27, No1, 525-549.

E Yamada, S Shimizutani (2022), "The COVID 19 pandemic, daily mobility and household welfare: Evidence from Tajikistan", *Transportation Research Interdisciplinary Perspectives* 15, 1006412.

E YAMADA, S SHIMIZUTANI, E MURAKAMI (2022), "Remittances, Household Welfare, and the COVID-19 Pandemic in Tajikistan"

*Asian Development Review* 39 (2), 147-174.

Satoshi Shimizutani, Eiji Yamada (2021), "Resilience against the pandemic: The impact of COVID-19 on migration and household welfare in Tajikistan," *PLoS ONE* 16(9): e0257469.

Enerelt Murakami, Eiji Yamada, Erica Paula Sioson, "The impact of migration and remittances on labor supply in Tajikistan," *Journal of Asian Economics*, Volume 73, 2021, 101268.

Eiji Yamada, Satoshi Shimizutani, Enerelt Murakami, "The COVID-19 pandemic, remittances, and financial inclusion in the Philippines," *Philippines Review of Economics*, Vol 57, No. 1 (2020)

Murakami, E., Shimizutani, S. & Yamada, E. "Projection of the Effects of the COVID-19 Pandemic on the Welfare of Remittance-Dependent Households in the Philippines". *Economics of Disasters and Climate Change* (2020).

Eiji Yamada, "A Spatial Equilibrium Analysis of Air Pollution in China", JICA Research Institute Working Paper 211, 2020.

Mai Seki and Eiji Yamada, "Heterogeneous Effects of Urban Public Transportation on Employment by Gender: Evidence from the Delhi Metro", JICA Research Institute Working paper 207, 2020.

Mahmud, Minhaj, Yasuyuki Sawada, and Eiji Yamada, "Willingness to Pay for Mortality Risk Reduction from Air Quality Improvement: Evidence from Urban Bangladesh", JICA Research Institute Working Paper 190, 2019.

#### [Outline (in English)]

[Course Outline] This course aims at providing basic knowledge on the Development Economics, in terms of its major topics and key methodological approaches. The lecture covers the concept and measurements of poverty/inequality, microeconomic models of poor households, the basics of quantitative impact evaluation, and economic interpretation of specific development issues such as education, healthcare, migration, and environment.

[Learning Objectives] We have major three objectives. First is to overview the key concepts and measurement for poverty and inequality.

Second is to understand basic theories in Development Economics that have proposed explanations on the cause and solutions for poverty and underdevelopment. Third is to learn about impact evaluation, the set of methodology to statistically quantify the impact of policy interventions.

[Preparation and homework outside of the class] Every week, after the lecture, one or two student(s) present a reference article followed by an open class discussion. In addition, students are required to submit short works of data analysis (graphing, tabulation, etc.) related to the contents of the lecture.

[Grading criteria and policy] The following items will be evaluated with the weight given in the parentheses. Presentation of reference materials(30%), Data analysis homework(20%), Contribution to the discussion during the lecture(30%), term paper(20%)

ARSI500P2 - 128 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

**国際環境協力論**

藤倉 良

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

開発途上国が持続可能な開発を達成するために、日本や国際機関はどのような支援を実施しているのか、また、今後、どのように支援を行うべきなのかを学ぶ。将来、国際協力の分野に進んだ学生には、援助のあり方を考える基礎を習得する。

**【到達目標】**

インフラ開発に伴う社会環境配慮と環境プロジェクトの相違を理解したうえで、世界銀行やアジア開発銀行、日本のODAがどのような仕組みで動いているかを理解する。その上で、以下の事例について学習する。

- ・過去に行われたダム建設に伴う住民移転から得られた教訓
- ・工業化に伴う公害対策の先例としての日本の公害経験
- ・気候変動対策における援助の方向性

これらをベースにして、持続可能な開発に向けた援助の方向性を見据える。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントのコピーはHoppiiにアップする。

国際協力や条約交渉の現場で働く2名程度の実務家にプレゼンテーションを行って頂く予定である。海外勤務の方にはオンラインで行って頂く。日程はプレゼンターの都合によるので、授業の全体スケジュールはそれに応じて変更される。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	序論	国際協力とODAの仕組み
第2回	資金の流れ	国際協力に伴う資金の流れ
第3回	日本のODA	日本のODAの原点とその後の経緯
第4回	日本の環境協力	1960年代から現在に至る日本の環境協力の歴史
第5回	水資源1 (ゲストスピーカー)	世界の諸問題と日本の農業との関係
第6回	水資源2 (ゲストスピーカー)	援助を通じて気づく日本の価値
第7回	気候変動緩和策	事例研究
第8回	気候変動適応策	事例研究
第9回	日本の公害経験	大気汚染対策を例にとって
第10回	日本の地方公共団体の公害経験	横浜市、北九州市、大阪市の事例
第11回	気候変動枠組み条約 (ゲストスピーカー)	条約の概要と国際交渉
第12回	COP (ゲストスピーカー)	COP29の成果
第13回	環境配慮	セーフガードポリシー
第14回	住民移転	ダムによる住民移転と生活再建の評価

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

指定された文献を読むなどの、本授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準である。

**【テキスト (教科書)】**

講義中に資料を指示する。

**【参考書】**

井村秀文・松岡俊二・下村恭民編著 『環境と開発』 日本評論社

**【成績評価の方法と基準】**

レポート (100%) で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

なるべく多くの事例を紹介することとする。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

授業は対面で行うが、オンラインで同時配信するので、学生は各自の都合に合わせて受講されたい。オンラインのURLはHoppiiで通知する。

**【担当教員の専門分野等】**

環境システム科学、国際環境協力

**【最近の担当教員の関連する業績】**

1. Masato KAWANISHI, Makoto KATO, Ryo FUJIKURA, Wongkot WONGSAPAI, Alice SHARP, Manami FUJIKURA (2023) Analysis of the Impact and Challenges of Capacity Development for Climate Change Adaptation — Case of Japanese Technical Assistance Through Bangkok - Yokohama Cooperation —. Environmental Science, 36(6): 194-210. <https://doi.org/10.11353/sepj.36.194>
2. Fujikura R, Nakayama M, Sasaki D, Taafaki I, Chen J. (2023) Family and Community Obligations Motivate People to Migrate — A Case Study from the Republic of the Marshall Islands. International Journal of Environmental Research and Public Health. 20(8):5448. <https://doi.org/10.3390/ijerph20085448>
3. Ryo Fujikura (2022) Financing in Climate Change Adaptation, Chapter 2, (Ed: Ishiwatari M. and Sasaki D.) Financing Investment in Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation - Asian Perspectives, Springer, Singapore, 19-36, [https://doi.org/10.1007/978-981-19-2924-3\\_2](https://doi.org/10.1007/978-981-19-2924-3_2)
4. Taro Katsurai, Daisuke Sasaki, and Ryo Fujikura (2022) What Determines the Time Efficiency of the Purchasing Phase of Public Procurement in Developing Countries: Evidence from Japanese ODA Loans, Working Paper No.229, March 2021, JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development, [https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp\\_229.html](https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp_229.html)
5. Masato Masato Kawanishi, Nela Anjani Lubis, Hiroyuki Ueda, Junko Morizane and Ryo Fujikura (2021) From Project to Outcome: the Case of the National Greenhouse Gas Inventory in Indonesia, Working Paper No.225, December 2021, JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development, [https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp\\_225.html](https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp_225.html)
6. 川西正人、藤倉良、加藤真、森寶順子 (2021) 国家温室効果ガスインベントリ実施体制の比較研究 - 日本・インドネシア・ベトナム・タイの事例から -、環境科学会誌34 (3)、124- 138、10.11353/sepj.34.124
7. 土岐典広、藤倉良 (2021) 国際協力機構と中国政府機関による日中企業の連携促進事例 - 日本のODA 出口戦略に向けた示唆 -、公共政策志林、第9号、217-236
8. Masato Kawanishi, Makoto Kato, Ryo Fujikura (2021) Analysis of the Factors Affecting the Choice of Whether to Internalize or Outsource the Task of Greenhouse Gas Inventory Calculations: The Cases of Indonesia, Vietnam, and Thailand, International Journal of Sustainable Development and Planning, Vol. 16, No. 1, February, 2021, pp. 145-154, doi: 10.18280/ijstdp.1608.

**【Outline (in English)】**

Students will learn how international cooperation is implemented by Japan or international organizations to support. Students are required to prepare and review each lecture for two hours. Evaluation will be based on a report or the final exam.

ARSI500P2 - 130 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 国際協力フィールドスタディ

武貞 稔彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

途上国における国際開発協力のプロジェクトや課題を現地で学ぶ。事前学習で訪問先のプロジェクトや訪問地域について理解を深め、現場を視察したうえで、報告書をまとめる。

### 【到達目標】

本講義および現地調査を通じて、受講生は、1) 開発プロジェクトの理論と現地調査の手法を学び、実践を通して習得することができる、2) 報告書の作成を通じて、論文執筆の基礎となる文書作成能力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

文献講読と現地調査によって、開発援助プロジェクトのあり方を討議する。事前学習では、教員による調査手法などの講義、受講者による事前学習の発表、現地調査準備、報告書作成準備を行う。現地調査では、開発途上国で日本政府や民間企業、NGOなどが行っているプロジェクトの現場を訪問する。帰国後に受講者による報告書を作成する。

訪問先と時期については、参加者と協議のうえ決定する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	授業の趣旨、現地調査先、スケジュールの確認
第2回	事前学習作業分担	各自で現地に関する事前学習 テーマを設定する
第3回	現地調査：事例1	現地調査の事例を紹介する
第4回	事例の討論1	調査内容についての討議
第5回	調査対象国についての事前学習1	調査対象国について専門家による講義
第6回	調査対象国についての事前学習2	調査対象国について専門家による講義
第7回	学生の事前学習発表1	受講生による事前学習成果報告
第8回	学生の事前学習発表2	受講生による事前学習成果報告
第9回	現地調査準備1	質問票の作成
第10回	現地調査準備2	スケジュール確認
第11回	事後報告書作成準備1	質問票の完成
第12回	事後報告書作成準備2	報告書の分担
第13回	現地調査	プロジェクト訪問
第14回	現地調査	プロジェクト訪問

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義中に指示する。

### 【参考書】

講義中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

現地調査への参加状況 (50%)と事前講義での報告や事後報告書の作成状況 (50%)によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

現地調査は例年2月か3月に1週間程度で行う。訪問先及び日程は決定次第、公表する。

### 【その他の重要事項】

現地では英語でインタビューするので、それが実施可能なレベルの英語力を必要とする。

### 【費用負担】

現地調査に必要な旅費 (往復航空運賃、宿泊費、食事代等) は自己負担となる。

ただし、大学院の海外における研究活動補助の制度を活用できる。

### 【担当教員の専門分野】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい (望ましくない) 「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

### 【実務経験のある教員】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

This course is a combination of lectures and field trip in order to understand and critically analyze the development project or issue in development.

#### 【Learning Objectives】

After completing the course, students will be able to; 1) understand the project formation/implementation and the theory and practice of field work, 2) strengthen the writing ability for thesis by preparing field reports.

#### 【Learning Activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Evaluation will be based on participation in the field survey (50%), and on the reports made in the pre-lecture and post-lecture reports (50%).

ARSI500P2 - 131 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 国際NGO・NPO論

小野 行雄

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

<政府><経済界>と並ぶアクター<市民社会>として社会を構成することこそが、NGO・NPOの本質である。

本科目では、講師が専門とする国際協力分野での活動を中心として、世界が直面する問題を理解し、NGOが活動する場と方法を学んだ上で、市民社会としてのNGOの活動にも目を向ける。受講者は、組織としてのNGOについて学ぶのと同時に、自らの市民としての役割についても考えることになる。

### 【到達目標】

- 1 現代社会におけるNGO・NPOと市民社会の役割、政府および経済界との関係を理解する
- 2 NGO・NPOの歴史と現状、その方法論を理解する
- 3 自ら世界に関わる市民性を涵養し、その方法論を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」関連している。

### 【授業の進め方と方法】

ディスカッションによるグループワークを中心に進める。授業内プレゼンテーションも毎回行う。ネットを利用してケーススタディを行うのでパソコンまたはスマートフォンが必携。映像資料も多用する。毎回レポートを作成し、それをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	NGO・NPOの基礎	受講者のこれまでの経験と知識を整理しながらNGO・NPOの基礎を概観する
第2回	市民社会	市民社会論を概観し、市民社会そのもの、あるいはエージェントとしてのNGO・NPOの活動を学ぶ
第3回	NGOの方法	ケーススタディとしていくつかのNGOを取り上げながら、NGOの国際開発における方法論について学ぶ
第4回	開発の問題	近代化とグローバリゼーションについて検討し、開発をめぐる考え方を整理しながらNGO・NPOの役割を検討する
第5回	NGOの歴史・日本のNGO	世界と日本のNGOの歴史を学び、いくつかの日本のNGOを取り上げて活動を検証する
第6回	世界のNGO	「先進国」および「途上国」のNGO、それに国際NGOの事例を取り上げて活動を検証する
第7回	NGO・NPOの社会における役割	NGO・NPOが社会に影響を与えた事例を検証し、社会における役割を検討する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を読むことが必須となる。文献は毎回電子ファイルで配布する。毎授業後のふりかえりレポートも重視する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

「激動するグローバル市民社会」重田康博 明石書店  
「国際開発ハンドブック」友松篤信編著 明石書店  
「脱「開発」の時代」イヴァンイリッチ他 晶文社

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (討論への参加・各回のレポート) 70 %  
期末レポート 30 %

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していません

### 【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続できるパソコンまたはスマートフォン

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際社会開発・開発教育

<研究テーマ> NGOによるコミュニティ開発・参加型学習

<主要研究業績> 「NGO主義で行こう」藤原書店 「21世紀の人権 (共著)」日本評論社 「SDGs時代の学びづくり (編著)」明石書店

### 【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 Civil Society (NGO) is an actor which constitutes society along with Politics (Government) and Economy(Enterprises). Students will understand the social issues and the role of civil society, as well as contemplate their own role in the society.

### 【到達目標 (Learning Objectives)】

- 1 Understanding the role of NGO/NPO or Civil Society, as well as those of Government and Market.
- 2 Understanding the history and the present situation of the Civil Society.
- 3 Acquiring the citizenship methodology and cultivating own individual citizenship.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】  
Prepare the class by skimming through the materials provided. After the class, take time to write a reflection paper. Try relating what you learned in the class to your previous knowledge and experiences.

### 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Active participation to the class and thoughtful reflection is important.

Reflection report after every class 70% Term-end report 30%



CUA500P2 - 132 (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 500)

## ヒューマン・エコロジー

高橋 五月

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒューマン・エコロジーは環境に関する文化的、社会的側面について学ぶ領域である。授業では、主に文化人類学的研究をもとに理論および事例を学びながら、環境と人間の関係について意見交換し、検討する。本授業の目的は、文化人類学及び関連分野による先行研究を参考にしながら、学生が自らリサーチクエスチョンを立て、リサーチペーパーを作成することである。

### 【到達目標】

本授業の到達目標は、文化人類学及び関連分野の先行研究を講読し、意見交換を行うこと、また各自が授業で講読する文献を参考にしながらリサーチクエスチョンを立て、リサーチペーパーを作成するという大学院生として必要なアカデミックスキルを獲得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド講義とZoom授業を併用し、アクティブラーニングを取り入れた方式で進める。具体的には、学生は講義録画を視聴し、必須講読文献や講義内で出題される質問に対するコメントをHoppii掲示板にて提出し、Zoom授業では提出したコメントなどをともに履修者間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	環境人類学の系譜（1）	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第2回	環境人類学の系譜（2）	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第3回	環境人類学の系譜（3）	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第4回	環境人類学の系譜（4）	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第5回	環境人類学の事例研究（1）	最近の事例研究を読み、ディスカッションする
第6回	環境人類学の事例研究（2）	最近の事例研究を読み、ディスカッションする
第7回	環境人類学の事例研究（3）	最近の事例研究を読み、ディスカッションする

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業時間外の学習には、文献を事前に読む、リアクションペーパーを書く、発表準備、授業内で示される課題（レポート、演習問題）に取り組むことを含みます。

### 【テキスト（教科書）】

なし

### 【参考書】

授業支援システムにて配布する。

### 【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーと議論への参加（40%）、発表（20%）、期末レポート（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

講義、掲示板、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全てHoppii(学習支援システム)を通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境人類学、海洋人類学、震災人類学

<研究テーマ> 日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学

<主要研究業績> 『Fukushima Futures: Survival Stories in a Repeatedly Ruined Seascape』(単著 University of Washington Press, 2023)、『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World (星の降るとき、3・11後の世界に生きる)』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5- 23 (2014)、他。

### 【Outline (in English)】

"Human Ecology" is a graduate seminar to learn cultural and social dimensions of environmental issues through working with literatures in environmental anthropology and related studies. The main goal of this seminar is to help student to obtain basic knowledge of environmental anthropology and related areas and their contributions to our understanding of human-environment relations.

Students will be expected to actively participate in class and to prepare for and review classwork daily. An expected weekly study time for this seminar is four hours on average. A final grade will be based on weekly commentaries and class participation (40%), presentation (20%), and research paper (40%).

MAN500P2 - 134 (経営学 / Management 500)

## 社会起業家論

松本 勝男

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、世界規模でSDGsの達成に向けた様々な施策や取組みが行われていますが、公共部門や民間部門の従来型の対応では対象になりにくい課題や人々が多く存在します。このような課題・人々に向き合い、ビジネス手法を含めた斬新な方法で解決を図る社会起業家について、その特性、行動内容、具体的な手法等について学びます。様々な工夫を用いて大小の課題解決に従事している社会起業家の具体的な活動を学ぶことで、そもそも社会課題とは何か、何が原因で発生するのか、どのような解決手法があるのか、を理解し、持続可能な社会発展の在り方に関する知見を深めます。

### 【到達目標】

講義を通して、(1)社会課題の種類、(2)課題の発生原因、(3)従来型の取組の問題点、(4)社会起業家の特性、(5)社会起業家の具体的な行動、(6)課題解決に必要な工夫、(7)社会起業家が直面する問題、を理解します。その上で、持続可能な社会を実現するために社会課題を解決する主体となるにはどうしたらよいか、また、私達個人が社会起業家のようにふるまえるのか、について自ら考え、判断する素養を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業は基本的に対話を重視した講義形式で行います。事例研究を取入れ、グループディスカッションや発表等を通じて講義内容の理解を深めます。毎回、講義の最後に学んだ内容の振り返りを行い、参加者の理解度を確認しながら講義を進めていきます。国内の社会起業家やNPOの訪問を通じて、実際の活動を把握し、その実態を直接学ぶことも行います。最終講義の時間に、それまで学んだ内容について学生から発表することを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義オリエンテーション	授業の目的、内容、学生の到達目標などについてオリエンテーションを行います。
第2回	社会起業家とは何か	社会起業家の定義、特性、現状などについて学びます。
第3回	社会課題の把握	社会課題とはそもそもどのようなものなのかを学びます。
第4回	社会起業家の行動(1)	社会課題の解決にどのように取り組むかを事例に基づき学びます。
第5回	社会起業家の行動(2)	社会課題の解決にどのように取り組むかを事例に基づき学びます。
第6回	社会起業家の行動(3)	社会課題の解決にどのように取り組むかを事例に基づき学びます。
第7回	社会的企業とは何か	組織として社会課題の解決を目指す社会的企業の特性や現状を学びます。
第8回	社会的企業の活動(1)	社会的企業の具体的な活動について、途上国の事例を含め学びます。

第9回	社会的企業の活動(2)	社会的企業の具体的な活動について、途上国の事例を含め学びます。
第10回	社会的企業の活動(3)	社会的企業の具体的な活動について、途上国の事例を含め学びます。
第11回	社会的企業の活動(4)	社会的企業の具体的な活動について、途上国の事例を含め学びます。
第12回	社会的企業の活動(5)	社会的企業の具体的な活動について、途上国の事例を含め学びます。
第13回	社会起業家、社会的企業訪問結果のまとめ	実際に訪問した個人や組織の活動や課題等についてまとめます。
第14回	最終発表	講義で学んだ内容や自分が行ってみたい活動について発表をします。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で触れられる教科書の該当箇所を事前に読み、自ら質問事項を準備します。講師が配布する資料に目を通し、講義に備えます。本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

「チェンジメーカー」渡邊奈々、日経BP、2005年、定価1,760円  
 「社会起業家という仕事」渡邊奈々、日経BP、2007年、定価1,760円  
 「インドビジネス ラストワンマイル戦略」松本勝男、日本経済新聞社、2021年、定価2,700円

### 【参考書】

「社会起業家-社会責任ビジネスの新しい潮流-」斎藤慎、岩波書店、2004年、定価880円

### 【成績評価の方法と基準】

授業中のディスカッション50%、小レポート20%、最終発表30%を評価基準とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

社会課題について、学生の関心分野を確認しながら、様々な分野を対象に取り上げます。先進国の課題に限らず、途上国の事例も含めることで、環境問題、教育、保健、貧困、災害など、幅広い観点から社会起業家の役割や特性を議論します。また、ビジネスの手法を取入れた社会的企業等への訪問を通じ、その実態に触れることで、組織運営上の問題などの把握に努めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

### 【その他の重要事項】

本授業の教員は、国際協力機構（JICA）にて長年途上国支援の仕事に従事した経験を有します。このため、特に途上国で活動する社会起業家や社会的企業と実際の付き合いがあり、日本企業との連携強化などに携わっています。講義では、これらの社会起業家や社会的企業にも多く触れます。

### 【None】

<専門領域>国際協力論、社会的企業論

<研究テーマ>日本型開発協力の特徴、社会的企業の斬新的な取組手法、障害者雇用の推進

<主要研究業績>

“Critical factors for success among social enterprises in India”（査読付き）2018年

12月、緒方貞子平和開発研究所

“Impact Sourcing for Employment of Persons with Disabilities”（査読付き）2020年12月、Social Enterprise Journal

「途上国の障害者雇用とインフォーマル経済」（査読付き）2020年3月、日本職業リハビリテーション学会

「インドのインフラ開発と日本の協力」2022年5月、国際貿易投資研究所

「日印経済協力（政府開発援助分野）の現状と今後の見通し」（査読付き）2020年1月、日印協会

「インドビジネス ラストワンマイル戦略」2021年9月、日本経済新聞社

「日本型開発協力 途上国支援はなぜ必要なのか」2023年6月、筑摩書房

**【Outline (in English)】**

We will learn about the characteristics, actions, and specific approaches of social entrepreneurs who are solving social issues in innovative ways, including business methods. While a variety of measures and initiatives are currently being implemented on a global scale to achieve the SDGs, there are issues and people who are not easily targeted by conventional responses in the public and private sectors. By focusing on such issues and learning about the specific activities of social entrepreneurs who are engaged in solving them using various innovations, we will understand what social issues are, what causes them, and what methods are available to solve them, and deepen our knowledge about the nature of social development. As for learning activities outside of class room, read in advance the relevant sections of the textbook that will be mentioned in each lecture and prepare your own questions. Students are also expected to prepare for the lecture by reading through the materials distributed by the lecturer. The standard preparation and review time for this class is one hour each. The evaluation criteria will be 50% for in-class discussion, 20% for a short report, and 30% for a final presentation.

SOC500P2 - 139 (社会学 / Sociology 500)

**国際環境政策の社会学**

島田 昭仁

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

主に、日本とドイツのエネルギーシフト政策の違いについて学ぶ。違いの要因を知るためにコミュニティや労働に対する考え方の違いを学ばなくてはならない。そしてドイツの政策、次に日本の政策、そしてEUとアジアの違いについて説明する。5Gを活用したスマートシティー等、今後のトピックについても扱う。

**【到達目標】**

エネルギーシフト政策を通して、ドイツと日本、及びEUとアジアのコミュニティの意識の違いについて理解できることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

対面式で行う。毎回、テキストと参考書に沿って進め、PPTで解説を行い、ディスカッションを行う。さらに授業でリアクションペーパーを配布し、その結果を授業にフィードバックする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに EUにおけるドイツとは	EUにおいて緑の党が果たした役割について…なぜ脱炭素なのか？
第2回	脱炭素と労働概念	労働と組合とコミュニティと自由の関り
第3回	独のE政策(福島の影響)	日独「エネルギー転換」比較分析 C1
第4回	独のE政策(草創期)	日独「エネルギー転換」比較分析 C2
第5回	独のE政策(討議主義)	日独「エネルギー転換」比較分析 C3
第6回	独のE政策(核エネルギー)	日独「エネルギー転換」比較分析 C4
第7回	独のE政策(政策の結末)	日独「エネルギー転換」比較分析 C5,6
第8回	独日E政策比較(電力供給)	市民電力とは何か…フィールドワークあり
第9回	独日E政策比較(建築)	ZEB、ZEH…ゼロエネルギーとは
第10回	国際E政策(運輸交通)	運輸・航空業界における実態
第11回	国際E政策(都市計画)	スマートシティと5Gで、都市はどうなる？
第12回	EU政策分析(資本主義経済とピグー税)	環境税とは何か 経済学におけるピグー税の適用限界
第13回	EU政策分析(世界戦略としての炭素税)	なぜ炭素排出税はあって森林破壊税はないのか
第14回	まとめ 独日、EUとアジアはなぜちがう	労働とコミュニティの考え方の違いについてディスカッション

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

以下のテキストは授業内で配布します（購入する必要はありません）。  
・『日独「エネルギー転換」の比較分析』2019, 壽福

**【参考書】**

以下の参考書は授業内で配布します（購入する必要はありません）。  
・『資料で見るドイツ「エネルギー転換」の歩み』2019, 壽福  
・『ゼックプロジェクト調査・研究報告書』2019, 谷口・島田

**【成績評価の方法と基準】**

- ①期末試験期間内に提出するレポート課題によって評価する。
- ②課題は第14回の授業内で示す。自分の意見を論文形式で記述する。
- ③評価基準は課題把握の的確さ(30%)、論理一貫性(30%)、論拠の正当性(30%)、誠実性(10%)とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

大事なことは何度も繰り返して説明する。

**【学生が準備すべき機器他】**

状況によってはZoom環境(端末、Wifi)が必要となる。

**【その他の重要事項】**

国や自治体の政策に25年間関わった教員が、関連法規や施策の解説を行う。

**【担当教員の専門分野等】**

- <専門領域>都市計画
- <研究テーマ>住民の合意形成
- <主要研究業績>『住民主権の都市計画』自治体研究社,2019

**【Outline (in English)】**

Learn about the difference between Japan and German energy shift policy mainly. The goal is to have knowledge of the difference in way of the community and the labor. Students will be expected to read the text book and prepare reporting for the next. Your overall grade in this class will be decided based on in class contribution 50% and qualities of reports.

SES500P2-116 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500)

## 環境工学の基礎

藤倉 良

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用である。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには科学知識が欠かせない。本講義では大気汚染、水質汚濁、廃棄物、土壌汚染、騒音・悪臭、有害物質など、ローカルな環境問題の発生メカニズムと対処に関する工学的基礎を修得し、そのような問題への対処方を考える基礎力を養うことを目指す。

### 【到達目標】

以下を説明できるだけの科学的基礎力を養う。

大気汚染発生のメカニズムと処理技術

上下水道の構造

水質汚濁発生のメカニズム

土壌汚染の特徴と対策技術

感覚公害の特徴と騒音・振動・悪臭の原因と対策技術

廃棄物の定義と現状

リサイクルの意味と関連する諸制度

リスク論の考え方と環境に関する基準の設定方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

中学卒業レベルの理科の知識を習得していることを前提にして、パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントはHoppiiにアップする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	環境問題とはどのようなものか、環境科学の役割
第2回	大気汚染1	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸化物
第3回	大気汚染2	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壌汚染	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音	音とは、騒音の評価法、騒音対策
第10回	廃棄物1	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物2	産業廃棄物
第12回	リサイクル	リサイクルの種類、関連法規
第13回	有害物質とリスク	有害の意味、リスクとはなにか、リスク認知
第14回	基準の決め方	環境基準と排出基準

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文科系のための環境科学入門』 有斐閣

### 【参考書】

別途、指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート（100%）もしくは最終回に行う試験（100%）で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

中学校卒業程度の理科の知識があれば理解できるように心がけるが、高校卒業程度の知識が必要な場合もある。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

授業は対面で行うが、オンラインで同時配信するので、学生は各自の都合に合わせて受講されたい。オンラインのURLはHoppiiで通知する。

### 【担当教員の専門分野等】

環境システム科学、国際環境協力

### 【担当教員の関連する業績】

① Ryo Fujikura, Mikiyasu Nakayama, Manami Fujikura (2016) Formulation Process of Diet Law and Cabinet Law in Japan - A Comparative Study of Basic Environmental Law and Basic Law on Biodiversity -, International Journal of Social Science Research, Vol. 4, No. 2, DOI: <http://dx.doi.org/10.5296/ijssr.v4i2.9703>

② Tetsuo Kida and Ryo Fujikura (2015) Pollution Risks Accompanied with Economic Integration of ASEAN Countries and the Fragmentation of Production Processes, International Journal of Social Science Studies, Vol.3, No.5, DOI: [10.11114/ijsss.v3i5.915](http://dx.doi.org/10.11114/ijsss.v3i5.915)

③ Ryo Fujikura (2011) Environmental Policy in Japan: Progress and Challenges after the Era of Industrial Pollution, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5, pp. 303-308

④ Ryo Fujikura (2011) The Influence of Local Governments on National Policy-Setting Processes to Regulate Japan's Vehicle Emissions, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5, pp. 309-324

### 【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this lecture, students will learn the basic engineering knowledge of mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, hazardous substances. Students are required to spend two hours preparing and reviewing each lecture. Evaluation will be based on a report or the final exam.

POL500P2 - 117 (政治学 / Politics 500)

**環境資源・エネルギー政策論**

土井 菜保子

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業は、環境政策およびエネルギー政策の国内外の状況、国際比較や国際協調のあり方をテーマとします。環境およびエネルギー問題について統計などの諸資料を活用しながら現状について客観的な理解を深めます。また、国内外の環境政策、エネルギー政策の経緯や潮流を理解することで、地球温暖化問題や環境問題と一体となっているエネルギー問題の解決のための国際社会や国際協調のあり方、日本の対応などについて学びます。

**【到達目標】**

各種統計資料等に基づいた国内外の状況や国際比較への理解を通じて、各学生が将来に向けて現代社会の重要課題である環境問題や環境問題と一体となっているエネルギー問題について、データと事実に基づいて広い視野から主体的に考察できるようになること、そして、将来に向けて新たな問題意識の発掘や醸成および課題解決について思考、議論できるようになることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

環境およびエネルギー問題について、スライドを利用しながら講義形式で解説します。第1回の授業で、環境・エネルギー問題に関する受講生の関心を聴取します。聴取した結果は、第2回以降の授業で取り扱うテーマや解説の軽重に反映します。

講義は対面を原則としますが、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の狙い、構成など
第2回	環境政策（1）	地球温暖化とエネルギー
第3回	環境政策（2）	省エネ、日本の取り組みと世界動向
第4回	環境政策（3）	脱炭素政策、EV化、デジタル化
第5回	環境政策（4）	ビジネス界の取り組み
第6回	エネルギー市場	エネルギー・環境政策と市場
第7回	前半のレヴュー	学生によるプレゼン
第8回	エネルギーセキュリティ（1）	エネルギー安全保障とは（概念と歴史的経緯） 日本のエネルギー安全保障問題）
第9回	エネルギーセキュリティ（2）	今日のエネルギー安全保障問題 1（至近の情勢、注目点）
第10回	エネルギーセキュリティ（3）	今日のエネルギー安全保障問題 2（至近の情勢、注目点）
第11回	エネルギーセキュリティ（4）	途上国のエネルギー安全保障問題（途上国固有の課題）
第12回	エネルギーセキュリティ（5）	安全保障の対策と国際エネルギーガバナンス（政策の選択肢、国際協力）
第13回	前半のレヴュー	学生によるプレゼン
第14回	全体のレヴュー	議論

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業に用いるスライドは事前に配布するので、予め目を通しておくことで理解が深まります。復習では、授業を振り返るとともに、授業を通じて関心を持ったトピックスについて関連情報を収集し問題意識の醸成に努めることで、主体的に課題を発掘する力が養われることが期待できます。

**【テキスト（教科書）】**

特定の教科書は使用しません。担当教員が作成した資料（スライド）をもとに毎回授業を進めます。

**【参考書】**

特定の参考書はありません。担当教員が作成した個々のテーマの資料（スライド）に参考とすべき書籍・論文があれば個別に紹介します

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加（出欠）、および合計2回のプレゼンまたはレポート提出（各50%の重み）をもとに総合判断します。定められたレポートの提出期限をまもること。また、積極的な意見表明や議論への参加を加点評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

レポート課題の内容や回数・提出期限などの周知を、講義を通じて徹底します。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありません。

**【その他の重要事項】**

担当教員は（一財）日本エネルギー経済研究所でのエネルギー経済に関する研究活動に従事しています。本授業では、その研究活動を通じて得た最新かつ実践的な知見や考え方、分析方法などが反映されています。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>エネルギー定量分析、環境経済、省エネルギー  
<研究テーマ>民生部門の省エネルギー、運輸部門の省エネルギー  
<主要研究業績>

- 2050年カーボンニュートラルの実現に向けた需要側の非化石エネルギーへの転換等の促進に関する調査（令和4年度、経済産業省委託）
- 省エネポテンシャルの開拓に向けた省エネ法関連制度等のあり方に関する調査（令和元年度、経済産業省委託）
- エネルギー転換に関する日英エネルギー変革評議会に係る事業調査（令和元年度、経済産業省委託）
- 海外省エネ政策動向調査（平成23-27年度 経済産業省委託）
- エネルギーミックスにおける省エネルギー対策の実現に向けた施策評価・効果分析調査（平成27-28年度 経済産業省委託）
- 我が国の今後の地球温暖化対策の推進に向けた調査事業（平成26-27年度 経済産業省委託）
- “Energy Outlook for Asia and the Pacific”, Asian Development Bank (2010, 2013). (Project Leader)
- Doi et.al (2011). Assessment of Investment Requirements for Low-carbon Power Generation in Asia and the Pacific – Cost of CO2 Emissions Reduction and Financial Viability, Environmental Economics, Volume 2, Issue 1, 2011.
- ERIA (2018)“An Analysis of Alternative Vehicles’ Potential and Implications for Energy Supply Industries in Indonesia”
- Doi (2011). ‘Understanding the factors affecting the urban transport energy in Asian cities – pathways of urban transport indicators from 1995 to 2009’ Environmental Economics, Volume 2, Issue 2, 2011.

**【Outline (in English)】**

Themes of this lecture series are on (1) environment and energy policies in Japan and the world, and (2) approaches for overcoming the environment and energy challenges including global governance and international cooperation. The objectives of this lecture series are:

- to objectively understand the current environment and energy issues with the use of statistical data as well as policies analyses,
- to understand the global environment and energy policies from both historical and current perspectives, and

- to establish views for overcoming those challenges surrounding global environment and energy issues from multilateral/bilateral approaches as well as Japan's approaches.

A comprehensive evaluation will be made based on class participation (attendance) and two presentations or report submissions (50% weight each).

SOM500P2 - 121 (社会医学 / Society medicine 500)

## 公衆衛生研究

宮川 路子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公衆衛生学は、疾病の治療を目的とする臨床医学とは異なり、疾病の予防を目的とし、さらに健康増進を図る科学技術である。人々を病気から守り、肉体的・精神的に健康な状態で社会生活を送れることを目的としている。これは人類が求める最も基本的かつ重要なサステナビリティである。現代社会には、ありとあらゆる健康問題が山積している。私たちが21世紀を健康に生き抜いていくためには、これらの健康問題について、適切な知識を持ち、情報の取捨選択を行っていく必要がある。

本講義では、学生が健康意識を高め、よい生活習慣、予防のためのノウハウを学び、健康寿命の延長を目的として公衆衛生の立場から幅広い知識を身に付けていく。

### 【到達目標】

本講義では、超高齢社会を生きる社会人にとって必要な健康知識と問題解決能力の習得を目的としている。予防医学、疫学の基礎を学び、様々な領域の専門家を招いて最先端の知識を得るとともにディスカッションを行ってさらに学生が理解を深める。

疫学、統計学的、社会学的手法を用いた実態調査についても実例から方法論を学び、実際の研究調査の質を判断することができるようになる。学生はメディアにおいて氾濫している誤った健康情報から適切な情報を得ることが可能となる。学生は、将来健康問題に直面した際に正しい道を選択できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

少子高齢社会において多様化する健康問題、医療費高騰、各種保健行動などについて議論するとともに、疫学、統計学的、社会学的手法を用いた実態調査の例を論文より学び、対策を講じていく過程を学習する。また、疫学調査、産業保健、などさまざまなテーマを取り上げて専門家を招き、最先端の知識を得ると同時にディスカッションを行って、現代社会における健康、生命についての問題点を浮き彫りにしていく。また、医療関係の映画を視聴し、問題点を指摘してディスカッションを行う。課題は最終回に発表する形とし、時間内に講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 予防医学について	講義を受講するための心構え。 現代社会において必要とされる 予防医学の基礎的知識を学ぶ。
第2回	分子整合栄養療法と 水素療法	健康の基本は栄養であり、細胞 内の栄養バランスを適切に整え ることにより、からだところ の健康を保つことができること を学ぶ。さらに、栄養療法の効 果を高めるための水素療法につ いて学ぶ
第3回	外部講師講義（曼茶 羅ワークショップ）	ファシリテーションの専門家 を招き、曼茶羅ワークショップ を行う。
第4回	外部講師講義（日本 の医療の問題点につ いて）	個の医療から集団の医療へとい うテーマで学ぶ。

第5回	外部講師講義（死生 学について）	死について考えることはいかに 生きるかを見つめることである。 死生学の専門家を招き、話を聴 く。
第6回	医療と倫理	医療界に発生する様々な事件を 参照し、生命倫理の問題点につ いて学ぶ。 映画の視聴。
第7回	研究発表、まとめ	受講者による健康に関わるテー マの研究発表・ディスカッショ ンを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。  
講師により事前配布されるテキストや資料、健康に関連した文献を  
事前に読むこと、さらに講義の後にも学習内容を復習し、自己の健  
康管理に役立てるよう努力することをお願いします。

### 【テキスト（教科書）】

人生100年の健康づくりに医師がすすめる最強の水素術 宮川路子  
三恵書房

### 【参考書】

こころの超整理法 宮川路子、青柳浩明

### 【成績評価の方法と基準】

出席、講義中の発言、参加態度、修士課程の学生に対するコメント、  
最終回の発表とレポートによる。

平常点：50%

発表：30%

レポート：20%

### 【学生の意見等からの気づき】

教科書に基づく基本的な知識の習得範囲を広げるとともに、専門家  
の講義とディスカッションをさらに充実させていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

最終回の発表時にレジュメを準備する。発表にパワーポイントを利用  
する場合には、教授室からパソコンを借りて準備をする。

### 【その他の重要事項】

外部講師の講義については、依頼する講師の都合により、変更する  
ことがある。

### 【担当教員の専門分野等】

公衆衛生学、産業保健、分子整合栄養医学、統合医療、統計学  
<研究テーマ> 栄養と健康、就労者のストレスと健康  
<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and  
association with health in the Swedish working population (the  
SLOSH study)  
The European Journal of Public Health 2012年  
ビタミンDの健康効果 人間環境論集19巻号79-101  
日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における  
課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか  
人間環境論集 20巻1号1-17  
<https://eiyouryohou.com/>

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 Public health, unlike clinical medicine aimed  
at treating diseases, is science and technology aiming at the  
prevention of diseases and promoting health. It aims to  
protect people from diseases and to live social life in a physical  
and mental healthy state. This is the most fundamental  
and important sustainability that mankind desires. In  
modern society, all kinds of health problems are piled up.  
In order to live healthy, it is necessary for us to have  
appropriate knowledge about these health problems, and to  
select information.

【Learning Objectives】 In this lecture, students learn about  
healthy lifestyle and know-how for disease prevention, and  
wear broad knowledge from the viewpoint of public health for  
the purpose of prolonging healthy life span.

【Learning activities outside of classroom】 Review after the  
lecture. Students are expected to read newspapers with an  
awareness of related topics. The standard preparation and  
review time for this class is 2 hours each.



**【Grading Criteria】** Based on attendance, discussion during the lecture, presentation and report at the final session.

Attendance points: 50%.

Presentation: 30%.

Reports: 20%.

ENV500P2 - 112 (環境保全学 / Environmental conservation 500)

## 自然環境共生研究

三村 起一

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会に向けて、自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、科学的・社会的な視点を持つ様々な主体による相乗的で多面的な取組が望まれます。

本講義では、自然環境にかかる様々な背景事象や関係法令も含めた対策等を教材に、今後の共生実現に向けた方策・施策の可能性について考究することをテーマとします。

### 【到達目標】

保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題、さらにはそれらを解消するためのこれまでの内外の取組について理解を深め、その要点及び自らの考えを説明できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

到達目標をかなえるよう、自然環境保全に関わる法制度等について、歴史的背景や課題、具体的な対策やその達成状況等を国内外の実例やエピソードを交えプレゼンテーションします。知識と問題意識を積み重ね、持続可能な自然環境との共生に向けた自らの意見を養うよう、授業とリアクションペーパーで取り組んでいただきます。また、課題提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとイントロダクション	講義の進め方、自然環境問題への気づき
第2回	原生的な自然環境の保全	自然環境保全法を骨格とした保護の法体系
第3回	生物多様性の保全1	生態系サービスと生物多様性条約
第4回	生物多様性の保全2	生物多様性基本法、SATOYAMA活動
第5回	希少野生生物の保護	ワシントン条約から種の保存法へ
第6回	外来生物対策	外来種による影響評価と外来生物法 他
第7回	一般鳥獣に関する課題1	鳥獣施策のあゆみ
第8回	一般鳥獣に関する課題2	普通種管理の課題
第9回	国立公園に関する話題1	国立公園制度のあゆみ
第10回	国立公園に関する話題2	自然公園法について 自然を満喫するとは
第11回	自然の再生に関する課題	自然再生法、エコツーリズム推進法について
第12回	ペットに関する課題	動物愛護法、ペットフード法について
第13回	自然環境を保全することとは	自然環境問題に関する国内外の動向
第14回	まとめと振り返り	我が国の自然環境行政の概要

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

講義テーマに関わる知識の深化や多角的な視点を養えるよう、日常的に、講義テーマにかかるメディアや文献・事例等にふれるよう努めてください。

### 【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。国の機関のホームページを活用（参照）して講義を進めます。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業毎のリアクションペーパー（50%）、期末レポート（50%）の2項目で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

知識の詰め込みとにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

国の機関のホームページ等を参照します。PC・スマホ等をお持ちください。

### 【その他の重要事項】

環境省職員として長年環境行政に従事した経験に基づき、具体的な事例を交えて進めます。

### 【None.】

<専門領域>自然環境政策、地域環境政策  
<研究テーマ>生物多様性、地域脱炭素  
<主要研究業績>

### 【Outline (in English)】

In this lecture, students will consider the possibility of future policies to realize harmony and symbiosis between the natural environment and humans, using various background events related to the natural environment and measures including related laws and regulations as teaching materials, for the purpose of realizing harmony and symbiosis and building a sustainable society.

Students are expected to do self-study for about 2 hours each before and after the lectures, to deepen their understanding of the characteristics of the natural environment to be conserved, the current status and issues of problems caused by human activities, and past domestic and international efforts to resolve these problems, and to be able to explain the main points and their own ideas.

Grades will be based on every time reaction papers (50%) and final reports (50%).

SES500P2 - 115 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500)

## 大気人間環境論

北川 徹哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気は人間生活圏を覆っており、人が呼吸し、生存するために必要なものである。一方で、時には脅威となる存在であり、またある時は心地よさやエネルギーをもたらすものでもある。本講義においては、大気の動きと人間生活、社会、都市、環境との関係について多角的に学ぶ。

### 【到達目標】

1. 大気運動のスケールと性質、ならびに大気と都市環境との関係を説明できる。
2. 大気による災害の種類と、それらの人と社会への影響を説明できる。
3. 気流の人間生活への寄与について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で進められる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大気の動きと時空間スケール	地球の気流, ENSO
2	大スケールの気象による強風と人間環境	季節風, 台風, 風災害
3	局地風と人間環境	海陸風, おろし・だし, フェーン, 日本各地・世界各地の局地風
4	小スケールの気象による強風と人間環境	竜巻, ダウンバースト
5	気流の渦と人間環境	気流の乱れ, 気流の渦と構造物の振動
6	強風の統計的性質	大気観測, 最大風速, 再現期待値, 再現期間
7	ビル風と人間環境, 風騒音と人間環境	高層建物周辺の風環境, 住環境や風力発電施設における風騒音

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のノートや資料などを用いて予習・復習し、後半に出題される課題に取り組み、レポートにまとめること。

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100％）：大気と人間生活、社会、都市あるいはエネルギーに関する課題に対し、到達目標1～3に要求される知識がレポートに展開されているか、また、適切かつ詳細な論述がなされているかを評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境流体, 気象社会論, 流体関連振動  
<研究テーマ>強風の社会への影響と対策, 気象リスク

<主要研究業績>屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析, 第25回風工学シンポジウム論文集, 2018, pp.121-126. 平均回帰Ornstein-Uhlenbeck過程による日最大風速の模擬データの作成, 土木学会論文集A1 (構造・地震工学), Vol.73, No.3, 2017, pp.579-592. 淡路花博2000に導入された天候デリバティブについての一考察, 第23回風工学シンポジウム論文集, 2014, pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み, 日本風工学会論文集, Vol.32, No.2, 2007, pp.87-92.

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

The boundary layer of the atmosphere is closely related to human life and social systems such as industries and transportations, and it is important for us to study its characteristics so as to save the human life and society from disasters/sickness, and to create better urban/regional environments. In this course, firstly we study about fundamentals on various types of atmospheric phenomena such as ENSO, the typhoon, and the sea breeze, the mountain and valley breeze, the downburst and the tornado, and about their effects on cities and people. Secondly, as an example of the air flow significantly related to the human health, the characteristics of the indoor air are focused on. While causing the pollution contaminant advection, the indoor air flow performs to remain the room environment safe and comfortable.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to learn the time-space characteristics of various types of atmospheric phenomena,
- B. to study about the wind effects on cities and people, and
- C. to understand the system of the indoor air ventilation.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to understand the course content after each class, and to have completed a required assignment. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

ENV500P2 - 143 (環境保全学 / Environmental conservation 500)

## サステナビリティ学事例研究Ⅲ

渡邊 誠

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、環境問題について「エネルギーと物質」という観点から検討する。社会の持続可能性を達成する条件などに関して、物理学の一分野である熱力学に着目しながら、現在展開されている具体的な事例をもとに考察する。エネルギーは保存されているが、その変換に際して（時間が経過すると）質は劣化（エントロピーが増大）する。これらは熱力学の第一法則、第二法則として知られている。物質についても同様のことがいえる。このような自然の法則性を理解し、地球システムの描像と人間活動（人為）との関連を理解しておくことは、持続可能性を具体的に考察する上で極めて重要であると思われる。現代社会が抱えているエネルギー問題、廃棄物問題、温暖化問題はまさにこの線上にある。

### 【到達目標】

概ね次の内容の修得をめざしている。(1) 地球システムを概観することができる。(2) 熱力学の第一法則、第二法則を理解し、人間活動（人為）との関連性を考察することができる。(3) 人間活動としてのエネルギーと廃棄物に関わる諸問題をそれらの観点から検討することができる。(4) エネルギー問題、気候変動問題について持続可能性という概念をふまえて考察することができる。(5) 修士課程において各自進めている研究との関連性について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業では、著書、論文、各種資料などをもとに輪読とディスカッションを行っていく。事例研究として受講者が持ち寄った資料をもとに検討を行うことも含める。また受講者が現在遂行している研究内容を報告してもらい、授業内容との関連について考察することも予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方などの説明。参考図書などの紹介。
第2回	地球システムについて	宇宙から微生物までを眺める。太陽エネルギー、光合成、炭素循環、水の大循環など。
第3回	エネルギーと物質（地球システムと人間活動）	エネルギー資源の採取、変換、利用と損失。物質の利用と廃棄、そして人工的循環。地球システムとの比較を通して見る人間活動。
第4回	エネルギーと物質（事例研究）	具体的な事例による考察。
第5回	成長の限界（持続可能性と自然科学的条件）	幾何級数成長とその限界。システムダイナミクス。ナチュラルステップによる持続可能社会の条件。
第6回	成長の限界（事例研究）	具体的な事例による考察。
第7回	熱力学と人間活動（熱力学とエネルギー・物質）	熱力学の第一法則と第二法則。エントロピーの概念とその増大則。
第8回	熱力学と人間活動（事例研究）	具体的な事例による考察。

第9回	環境負荷と指標（人間活動と地球の有限性）	ライフサイクルアセスメント（LCA）とエコロジカルフットプリント（EF）。
第10回	環境負荷と指標（事例研究）	具体的な事例による考察。
第11回	共生の概念と持続（生物学的共生現象から）	生物学に見る共生関係と種の持続性。捕食・被食関係とダイナミクス。社会連携の意義を考える。
第12回	共生の概念と持続（事例研究）	具体的な事例による考察。
第13回	総合討論（物理から考える社会）	クローズド・ループ・インダストリとゼロエミッション。永久機関とエントロピー増大則。これらの概念から環境問題の考察へ。
第14回	総合討論（事例研究）	参加者からの論点提示と総合討論。レポート出題について。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

開講時に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加時の積極性50%と提出されたレポート内容50%によって評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

参加者の理解度を確認しながら授業を進めていきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学  
<研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス  
<主要研究業績> Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

### 【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with the theme as “energy and materials” which relates to the environmental problems. We introduce the concept of thermodynamics in the field of physics. By means of the concept, we investigate various realistic cases for energy and waste problems in society. Thermodynamics states that energy is always conserved even though time passes (the first law), but the quality is spent (the second law). This is valid not only for energy systems but also for materials. In order to understand the concept of sustainability, it is very important to know the natural law as thermodynamics and the structure of the earth system including material circulation in nature. In class, additionally we obtain the concept of Life-Cycle Assessment and Ecological Footprint. Dynamics for biotic systems is simulated in clarifying symbiosis relation among different species. (Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the concepts as the earth system, the first and the second law of thermodynamics, the energy and waste problems in society, and their relation with human actions. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and End-term report 50%.

SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 A

岡松 暁子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講者の関心のあるテーマにつき、修士論文執筆のための指導を行う。文献解題以外はすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況により異なる。

### 【到達目標】

修士論文執筆のための土台となる情報を収集し、1年次終了までに論文のテーマと仮説を設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

修士課程1年生を対象とし、国際環境問題をめぐる法的諸問題につき文献講読、判例研究を行いながら、テーマの絞り込みを行う。続いて、テーマに関連する判例や学術論文などの文献を蒐集し、講読と分析を行いつつ、仮説の設定とその実証方法の検討を行う。文献解題以外は原則としてすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマの選定	各自の関心のあるテーマの候補について、議論の方向をさぐる。
2	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
3	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
4	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
5	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
6	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
7	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
8	テーマの設定（暫定テーマ）	暫定的にテーマと仮説を設定する。
9	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
10	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
11	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
12	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
13	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
14	研究計画書の提出	論文執筆のための研究計画書を提出する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に沿って文献の講読、分析等を行う。

### 【テキスト（教科書）】

受講者の関心に合わせて推薦する。

### 【参考書】

受講者の関心に合わせて推薦する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点のみ

### 【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際法

<研究テーマ>国際海洋法、国際原子力法、国際環境法

<主要研究業績>

1. 繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部壤・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。

2. 「ロンドン条約・議定書と福島原発「ALPS処理水」問題」『外交』Vol. 77、2023年。

3. 「国際原子力機関（IAEA）の安全基準と原発事故－国際法上の観点から」

『論究ジュリスト』2016年秋号（19号）。

### 【Outline (in English)】

This course provides guidance for writing the master thesis on the theme of students' interests.

SES600P2 - 202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 B

岡松 暁子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講者の関心のあるテーマにつき、修士論文執筆のための指導を行う。文献解題以外はすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況により異なる。

### 【到達目標】

修士論文執筆のための土台となる情報を収集し、1年次終了までに論文のテーマと仮説を設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

修士課程1年生を対象とし、国際問題をめぐる法的諸問題につき文献講読、判例研究を行いながら、テーマの絞り込みを行う。続いて、テーマに関連する判例や学術論文などの文献を蒐集し、講読と分析を行いつつ、仮説の設定とその実証方法の検討を行う。文献解題以外は原則としてすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマの選定	各自の関心のあるテーマの候補について、議論の方向をさぐる。
2	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
3	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
4	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
5	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
6	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
7	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
8	テーマの設定（暫定テーマ）	暫定的にテーマと仮説を設定する。
9	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
10	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
11	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
12	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
13	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
14	研究計画書の提出	論文執筆のための研究計画書を提出する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に沿って文献の講読、分析等を行う。

### 【テキスト（教科書）】

受講者の関心に合わせて推薦する。

### 【参考書】

受講者の関心に合わせて推薦する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点のみ

### 【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際法

<研究テーマ>国際海洋法、国際原子力法、国際環境法

<主要研究業績>

1. 繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部壤・平野実晴編集協力『ケースブック 国際環境法』東信堂、2020年。
2. 「ロンドン条約・議定書と福島原発「ALPS処理水」問題」『外交』Vol. 77、2023年。
3. 「国際原子力機関（IAEA）の安全基準と原発事故－国際法上の観点から」『論究ジュリスト』2016年秋号（19号）。

### 【Outline (in English)】

This course provides guidance for writing the master thesis on the theme of students' interests.

Participants are required to study at least 2 hours before and after the class.

The course grade will be based on presentations (50%), and discussions (50%).

SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 A

金藤 正直

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、修士論文の作成を有効的に進めていくために必要とされる研究・調査の方法論を習得していくことを目的とする。

### 【到達目標】

本演習では、①研究の目的や視点の設定方法と、②先行研究の分析方法（文献調査の方法）、といった修士課程で行っていくための研究・調査の基礎的な方法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

本演習は原則対面で実施する。履修者には、本演習で研究・調査の方法論を習得し、これに基づいて研究・調査報告を行ってもらうとともに、小論文（研究計画書）を作成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文のフレームワークを講義するとともに、その中でこの授業で取り扱う内容について確認する。また、履修者がこれまでに取り組んできた（学部時の）研究・調査（卒業論文）の内容を報告し、その内容をこの回で講義したフレームワークに当てはめながら再確認する。
第2回	研究の目的と視点の設定方法①	研究の目的と視点の設定方法を講義する。
第3回～第6回	研究の目的と視点の検討	関心のある研究テーマに関する「著書」、「研究論文」、「報告書」、「新聞・雑誌記事など」の中からいくつか紹介し、その内容を報告する。
第7回	研究の目的と視点の設定方法②	第3回から第6回までの報告内容の検討から、修士論文における研究の目的と視点を報告する。
第8回	先行研究の分析方法①	第7回で設定された研究の目的と視点に基づく先行研究の分析方法を講義する。
第9回～第12回	先行研究の分析	研究の目的と視点に関する「著書」、「研究論文」、「報告書」、「新聞・雑誌記事など」の中からいくつか紹介し、その内容を報告する。
第13回	先行研究の分析方法②	第9回から第12回までの報告内容に基づいて、先行研究の分析内容をリスト化し、それを報告する。
第14回	小論文の作成方法	第13回までの内容を加味した小論文（研究計画書）の作成方法を講義する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などから、研究の目的と視点の検討やこれらに基づく先行研究の調査・分析を計画的に行うとともに、その結果を報告に反映させてください。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

### 【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・報告用配布レジュメの内容（20%）
- ・報告内容（プレゼンテーション能力）（20%）
- ・討論への参加（発言内容）（20%）
- ・小論文（研究計画書）の内容（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

### 【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

### 【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>
  - 環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論
- <研究テーマ>
  - 企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
- <主要研究業績>
  - ・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
  - ・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
  - ・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論叢』第58巻第2号、65-84頁。
  - ・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
  - ・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
  - ・金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。

### 【Outline (in English)】

- ① Course Outline  
The purpose of this seminar is to learn the methodology of research and survey for writing a master thesis.
- ② Learning Objectives  
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically discuss and summarize their research.
- ③ Learning Activities outside of Classroom  
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.
- ④ Grading Criteria /Policy  
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
  - 1) Content of the resume : 20%
  - 2) Content of the presentation : 20%
  - 3) Participation in the discussion : 20%
  - 4) Short thesis based on the research : 40%

SES600P2-202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 B

金藤 正直

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、修士論文の完成度を高めていくために必要とされる研究・調査の方法論について習得していくことを目的とする。

### 【到達目標】

本演習では、論文研究指導1Aでの取組みを加味しながら、次の方法論を習得することを目指す。

- ①修士論文の基盤となる理論モデルの検討方法
- ②アンケート調査およびヒアリング調査とこれらの調査結果の分析方法
- ③企業や地域の事例研究（ケーススタディ）の方法
- ④論文研究指導1Aと①～③の検討結果のまとめ方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

本演習は原則対面で実施する。履修者には、本演習で研究・調査の方法論を習得し、これに基づいて研究・調査報告を行ってもらうとともに、その結果を参考にしながら小論文（研究計画書）を作成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文のフレームワークとそ の中で1年次春学期までの研究・ 調査の内容を再確認する。
第2回	理論モデルの検討方法①	論文研究指導1Aの内容に基づ いて、修士論文の基盤になる理 論モデルの検討方法を講義する。
第3回～ 第4回	理論モデルの検討	論文の基盤になると考えられる 理論モデルを「著書」、「研究論 文」、「報告書」から検討し、そ の内容を報告する。
第5回	理論モデルの検討方法②	第3回から第4回までに検討した 理論モデルを整理し、修士論文 に適したモデルを決定する。
第6回	アンケート調査の方法	アンケート調査票の作成から調 査結果の分析方法までの流れを 講義する。
第7回～ 第8回	アンケート調査票の 作成	アンケート調査票（案）を作成 し、その内容について報告する。
第9回	ヒアリング調査の 方法	ヒアリング調査票の作成から調 査結果の分析方法までの流れを 講義する。
第10回	ヒアリング調査票の 作成	ヒアリング調査票（案）を作成 し、その内容について報告する。
第11回	事例研究の方法	企業や地域の取組事例の研究・ 調査（ケーススタディ）の意義 とその方法について講義する。
第12回～ 第13回	ケーススタディの報 告	ケーススタディの結果を報告す る。
第14回	修士論文の構想	第13回までの内容を加味して、 修士論文の構想について報告す る。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

著書、研究論文、報告書から、修士論文の基盤になると考えられる理論モデルの検討や、アンケート調査やヒアリング調査のための調査票の作成・分析方法を計画的に学習するとともに、その結果を報告や小論文（研究計画書）に反映させてください。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

### 【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（20%）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（20%）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（20%）
- ・ 修士論文の構想（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

### 【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・ 金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
- ・ 金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
- ・ 金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性—フードバレーとかちの取組みを中心として—」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
- ・ 金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？-」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90頁。
- ・ 金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
- ・ 金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
- ・ 金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。

### 【Outline (in English)】

#### ① Course Outline

The purpose of this seminar is to learn the methodology of research and survey for writing a master thesis.

#### ② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically discuss and summarize their research.

#### ③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

#### ④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Content of the presentation : 20%
- 2) Content of the resume : 20%
- 3) Participation in the discussion : 20%
- 4) Submission of master thesis plan:40%



SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

**論文研究指導 1 A**

北川 徹哉

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

**【到達目標】**

1. 課題を設定する。
2. 既往の研究に関する文献調査を行う。
3. 課題解決への手段を構築する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

調査とディスカッションを通じて、研究方針の策定と修士論文の執筆の準備を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現状分析	文献調査, 整理, 理解
2	現状分析	文献調査, 整理, 理解
3	現状分析	文献調査, 整理, 理解
4	現状分析	文献調査, 整理, 理解
5	現状分析	文献調査, 整理, 理解
6	現状分析	文献調査, 整理, 理解
7	第1～6回のとりまとめ	文献調査, 整理, 理解
8	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
9	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
10	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
11	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
12	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
13	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
14	第8～13回のとりまとめ	抽出された課題の解決方法の検討

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

全回：研究の実施、資料およびスライドの作成。  
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。

**【参考書】**

必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

資料およびスライド（70%：論述の適切さ、到達目標1～3への到達度）、議論（30%：説明の正確さ、質疑応答の適切さ）により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>環境流体, 気象社会論, 流体関連振動

<研究テーマ>強風の社会への影響と対策, 気象リスクヘッジ, 数値流体解析

<主要研究業績>屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析, 第25回風工学シンポジウム論文集, 2018, pp.121-126. 平均回帰Ornstein-Uhlenbeck過程による日最大風速の模擬データの作成, 土木学会論文集A1 (構造・地震工学), Vol.73, No.3, 2017, pp.579-592. 淡路花博2000に導入された天候デリバティブについての一考察, 第23回風工学シンポジウム論文集, 2014, pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み, 日本風工学会論文集, Vol.32, No.2, 2007, pp.87-92.

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Studies, investigations and discussions on the research issue for the master thesis.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to deliberate on the research objective and plan,
- B. to obtain basic knowledges to proceed the master research and
- C. to consider the methodology to analyze the data required in the master research.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the qualities of the presentation (70%) and the discussion (30%).

SES600P2 - 202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 B

北川 徹哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

### 【到達目標】

1. 課題を設定する。
2. 既往の研究に関する文献調査を行う。
3. 課題解決への手段を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

調査とディスカッションを通じて、研究方針の策定と修士論文の執筆の準備を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
2	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
3	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
4	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
5	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
6	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
7	第1～6回のとりまとめ	抽出された課題の解決方法の検討
8	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
9	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
10	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
11	解決方法の具体化、中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
12	解決方法の具体化、中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
13	解決方法の具体化、中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
14	第8～13回のとりまとめ	解決方法のインプリメンテーション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全回：研究の実施，資料およびスライドの作成。  
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

資料ならびにスライド（50%：論述の適切さ，到達目標1～3への到達度），議論（50%：説明の正確さ，質疑応答の適切さ）により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境流体，気象社会論，流体関連振動

<研究テーマ>強風の社会への影響と対策，気象リスクヘッジ，数値流体解析

<主要研究業績>屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第25回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰Ornstein-Uhlenbeck過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博2000に導入された天候デリバティブについての一考察，第23回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み，日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

Studies, investigations and discussions on the research issue for the master thesis.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to deliberate on the research objective and plan,
- B. to obtain basic knowledges to proceed the master research and
- C. to consider the methodology to analyze the data required in the master research.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

論文研究指導 1 A

小島 聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、修士課程の1年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ①研究テーマを決めるためのブレインストーミング
- ②研究計画の案の作成

【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。  
 ・修士論文に関する調査研究の設計図をデザインする。  
 ・調査研究の基本的な技法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

修士論文の作成に向けて、参加学生の問題意識を明確化した上で、具体的なテーマ、調査研究対象の設定について指導し、さらに調査研究計画の作成と関連文献の収集・講読などに関する指導、調査研究の遂行に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもちめ。提出したペーパーにはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究の進捗状況から学びあう場とする。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoomによる双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	調査研究や論文作成に関する基礎的な理解と工程管理を促す。
2	問題意識の報告	研究テーマの選択に向けて問題意識を報告する。
3	問題意識の具体化	研究テーマの選択のために、報告した問題意識を具体化する。
4	研究テーマの候補づくり	研究テーマの候補を作成、提示し選定する。
5	研究テーマの検討	複数のテーマの中から研究対象について検討する。
6	研究テーマの再検討	複数のテーマの中から研究対象について再検討する。
7	研究テーマの確定	複数のテーマの中から研究対象を確定する。
8	研究テーマに関する構図の作成	研究テーマについて主題を設定し、分析の構図を作成する。
9	研究テーマに関する構図の修正	研究テーマについて分析の構図を修正する。
10	調査研究計画の作成	調査研究計画を作成し工程とポイントを確認する。
11	調査研究計画の修正	調査研究計画を修正し工程とポイントを確認する。
12	調査研究計画の再修正	調査研究計画を再修正し工程とポイントを確認する。
13	関連文献リストの作成	研究テーマに関する関連文献リストを作成し検討する。
14	関連文献リストの修正	研究テーマに関する関連文献リストを修正し検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。  
 ・修士論文のテーマを確定し調査研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

調査研究の進め方や論文作成の方法に関する文献、演習参加者の個別のテーマに関する文献は、演習実施期間中に適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（50%）、課題への取り組み（50%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>行政学、地方自治論、自治体政策論
- <研究テーマ>持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション
- <主要研究業績>
- 「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）
- 「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）
- 「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
- 「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）
- 「上下流連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）
- 「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－（私）と（社会）の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）
- 「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして（第2版）』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）
- 「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the first year of the master's program.

Students work on the following contents:

- (1)Brainstorm for deciding research theme.
  - (2)Make the draft of research plan on based individual interest.
- Students aim at achieving the following goals:
- (1)Design the blueprint for research on master's thesis.
  - (2)Acquire the basic skills of academic research.

Students need to determine the theme of master's thesis ,and to proceed with research. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2 - 202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

論文研究指導 1 B

小島 聡

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この演習では、修士課程の1年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ①研究テーマに関する具体的な内容の検討
- ②既存研究の調査
- ③小論文の執筆

【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ①調査研究の設計図をブラッシュアップする。
- ②参考文献やその他の資料を作成する。
- ③論文の執筆能力を身につける。
- ④テーマについての的確に説明できる力を身につける。
- ⑤調査研究の基本的な技法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

修士論文の作成に向けて、論文研究指導 1 A に続いて、参加学生の研究テーマについて、調査研究計画の再調整と関連文献の収集・講読などに関する指導、調査研究の遂行に関する指導、修士論文の練習として小論文の作成に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーや小論文はその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究の進捗状況から学びあう場とする。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoom による双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	関連文献の報告	関連文献の学習状況に関する報告を行う。
2	フィールド調査プランの検討	ヒアリング等のフィールド調査プランについて検討する。
3	フィールド調査プランの確定	ヒアリング等のフィールド調査プランについて確定する。
4	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
5	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
6	研究テーマに関する構図の修正	研究テーマに関する分析の構図の修正作業を行う。
7	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
8	小論文の課題設定と執筆方法の学習	研究テーマに関連する小論文の課題を設定し、また論文の執筆方法について学ぶ。
9	フィールド調査の結果の報告と検討	フィールド調査の結果について報告し、論文への反映について検討する。
10	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
11	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。

12	小論文の報告	研究テーマに関する小論文を提出し、内容を報告する。
13	小論文からの発展方向性についての検討	小論文をふまえて、どのように発展させるか、次のステップについて検討する。
14	調査研究計画の再調整	次年度の調査研究計画について再調整する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参加学生は、以下の時間外学習を行う (この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする)。

- ・調査研究を進めること。
- ・小論文を書くこと。

【テキスト (教科書)】

特に用いない。

【参考書】

調査研究の進め方や論文作成の方法に関する文献、演習参加者の個別のテーマに関する文献は、演習実施期間中に適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (積極的な参加姿勢) (50%)、課題への取り組み (50%) の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治論、自治体政策論  
<研究テーマ>持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション  
<主要研究業績>

『アカウントビリティと自治体政策 - 説明責任の体系と再編 -』『自治体経営改革』(共著)、(ぎょうせい、2004)  
『参加手法のイノベーション - 自治体政策への活用に向けて -』『新しい自治のしくみづくり』(共著)、(ぎょうせい、2006)  
『自治体環境政策の軌跡と持続可能性』『分権時代の地方自治』(共著)、(三省堂、2007)  
『自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性』『地域開発』(vol.574,2012)  
『上下流連携とサステイナビリティ』『自治体学』(vol.33-2,2020)  
『人口減少社会における地域の持続可能性と政策論 - (私)と(社会)の世代間継承可能性を手がかりとして -』『自治研かながわ月報』(NO.183,2020)  
『グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想』『フィールドから考える地域環境 - 持続可能な地域社会をめざして(第2版)』(共編著)(ミネルヴァ書房、2021)  
『縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ』『新・江戸東京研究の世界』(共著)(法政大学出版社、2023)

【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the first year of the master's program.

Students work on the following contents:

- (1)Examine concrete contents about research theme.
- (2)Survey of existing research.
- (3)Write the short report on research theme.

Students aim at achieving the following goals:

- (1)Brush up the blueprint for research.
- (2)Make the list of references and other resources.
- (3)Acquire the ability to write research paper.
- (4)Acquire the ability to explain research theme accurately.
- (5)Acquire the basic skills of academic research.

Students need to proceed with research, and to write research paper. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 A

杉野 誠

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、修士論文を含む研究論文の作成に必要な研究の進め方、調査方法の習得を目的とする。

### 【到達目標】

受講生が適切なテーマ設定し、文献のレビューを通じて、研究テーマの位置づけを明確にする。また、データ分析に必要な手法を学び、修士論文の作成を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講者全体で対面形式の演習を行う。具体的には、受講者が進めている研究の報告や関連する研究の報告をもとに議論・指導を行う。この議論・指導を通じて、各々の研究の理解を深め、研究進化を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文のテーマ	修士論文作成のためのテーマ決定および学期のスケジュール決め
第2回	文献の紹介①	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第3回	文献の紹介②	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第4回	文献の紹介③	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第5回	文献の紹介④	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第6回	文献の紹介⑤	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第7回	文献の紹介⑥	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第8回	文献の紹介⑦	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第9回	分析手法の紹介①	先行研究で使われる分析手法を学ぶ
第10回	分析手法の紹介②	先行研究で使われる分析手法を学ぶ
第11回	分析手法の紹介③	先行研究で使われる分析手法を学ぶ
第12回	分析手法の紹介④	先行研究で使われる分析手法を学ぶ
第13回	文献のまとめ方①	先行研究および分析手法を論文形式にまとめる方法を学ぶ
第14回	文献のまとめ方②	先行研究および分析手法を論文形式にまとめる方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

割り当てられた論文を読み、

【テキスト（教科書）】

登録者と相談のうえ決定する

【参考書】

有村、片山、松本（2017）『環境経済学のフロンティア』、日本評論社

【成績評価の方法と基準】

平常点10%、報告40%、最終課題50%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講生がいなかったため、フィードバックできません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境経済学、応用ミクロ経済学

<研究テーマ>環境経済学

<主要研究業績> Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries". Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

This course aims to prepare students for their master thesis, starting with setting the theme of the thesis. Throughout the course, participants will be expected to read and present papers that are related to their master thesis. All participants will also be expected to join the discussion which will help to improve their thesis.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have read the text and prepared for every class. Your study time will be more than two hours for each class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in class will be decided based on the following:

Term-end assignment 50%, Presentation 40%, in class contribution 10%.

SES600P2 - 202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 B

杉野 誠

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の分析に必要なデータ収集方法や分析方法を学ぶ。

### 【到達目標】

各自で設定した研究テーマのデータ分析および関連する箇所の執筆を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

対面形式での議論を行う。まず、各受講者の進捗状況の報告を行い、議論を行う。必要に応じて、データ分析に必要なテキストの報告も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献の紹介1	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第2回	文献の紹介2	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第3回	文献の紹介3	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第4回	文献の紹介4	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第5回	文献の紹介5	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第6回	文献の紹介6	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第7回	文献の紹介7	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第8回	中間報告	研究の進捗状況を報告
第9回	分析手法の紹介1	各自の研究テーマにあった分析手法を解説する
第10回	分析手法の紹介2	各自の研究テーマにあった分析手法を解説する
第11回	分析手法の紹介3	各自の研究テーマにあったデータ分析を行う
第12回	分析手法の紹介4	各自の研究テーマにあったデータ分析を行う
第13回	論文のまとめ方1	修士論文の執筆
第14回	論文のまとめ方2	修士論文の執筆

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

受講者と相談のうえ決定する。

### 【参考書】

受講者の研究テーマや関心に応じて紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

報告（PPT資料の作成および準備）50%、レポート50%を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講生がいなかったためフィードバックできません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境経済学、応用ミクロ経済学

<研究テーマ>環境経済学

<主要研究業績> Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

### 【Outline (in English)】

#### 【Learning Objectives】

In this course, students will start collecting and analyzing their data for their master thesis. We will start with where and how to collect relevant data. This will include making appropriate questionnaires. Then, we will learn how to analyze the data using statistical software packages. Finally, we will learn how to write the analysis part of the master thesis.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have read the text and prepared for every class. Your study time will be more than two hours for each class.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in class will be decided based on the following:

Term-end assignment 50%, Presentation 50%.

SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 A

高田 雅之

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

### 【到達目標】

修士課程1年生を対象として、研究設計と計画作成、並びに手法に必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2年目の修士論文執筆に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第2回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第3回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第4回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第5回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第6回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第7回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第8回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第9回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第10回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第11回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第12回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第13回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第14回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学

<研究テーマ>

湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット

<主要研究業績>

「図説日本の湿地」（朝倉書店、2017）編集・共著

「湿地の科学と暮らし」（北大出版会、2017）共著

「湿地の博物誌」（北大出版会、2014）編者

「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会、2014）共著

Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.

Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.

Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

### 【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

### 【Outline (in English)】

Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for master's thesis including theme setting and study methodology.

The goals of this class are to reach the research design and planning, collect necessary data, and promote these.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2-202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 B

高田 雅之

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

### 【到達目標】

修士課程1年生を対象として、研究設計と計画作成、並びに手法に必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2年目の修士論文執筆に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第2回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第3回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第4回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第5回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第6回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第7回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第8回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第9回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第10回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第11回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第12回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第13回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第14回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学

<研究テーマ>

湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット

<主要研究業績>

「図説日本の湿地」（朝倉書店、2017）編集・共著

「湿地の科学と暮らし」（北大出版会、2017）共著

「湿地の博物誌」（北大出版会、2014）編者

「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会、2014）共著

Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.

Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.

Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

### 【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

### 【Outline (in English)】

Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for master's thesis including theme setting and study methodology.

The goals of this class are to reach the research design and planning, collect necessary data, and promote these.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.



SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

論文研究指導 1 A

高橋 五月

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生はエスノグラフィーの研究手法を学びながら、それぞれの修士論文研究のテーマを絞り、リサーチプロポーザルを作成することを通して、修士論文を書き上げるための準備を行う。授業ではこれらの目標を達成するために、購読文献やリサーチプロポーザルの発表およびディスカッションを行い、学生は授業で得たフィードバックをもとにリサーチプロポーザルの完成を目指す。

【到達目標】

学生の到達目標は、1) 修士論文のテーマを絞る、2) テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、3) エスノグラフィーの研究手法を学ぶ、4) 事前調査を含む現地調査を実施する、5) リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、リサーチプロポーザルを作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	研究テーマを絞る(1)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第3回	研究テーマを絞る(2)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第4回	研究テーマを絞る(3)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第5回	研究テーマを絞る(4)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第6回	研究テーマを絞る(5)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第7回	研究テーマを絞る(6)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第8回	研究テーマを絞る(7)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第9回	研究テーマを絞る(8)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む

第10回	現地調査計画と準備(1)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第11回	現地調査計画と準備(2)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第12回	現地調査計画と準備(3)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第13回	現地調査計画と準備(4)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第14回	リサーチプロポーザル進捗状況発表	リサーチプロポーザルの進捗状況を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読、プレリサーチの実施、リサーチプロポーザルの文献レビュー作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、リサーチプロポーザル（70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境人類学、海洋人類学、震災人類学

<研究テーマ> 日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学

<主要研究業績> 『Fukushima Futures: Survival Stories in a Repeatedly Ruined Seascape』(単著 University of Washington Press, 2023)、『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World (星の降るとき、3・11後の世界に生きる)』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5- 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】

Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for students to create a research proposal and to prepare for accomplishing master's degree thesis. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing their research proposal. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their research proposals (70%).

SES600P2 - 202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 B

高橋 五月

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生はエスノグラフィーの研究手法を学びながら、それぞれの修士論文研究のテーマを絞り、リサーチプロポーザルを作成することを通して、修士論文を書き上げるための準備を行う。授業ではこれらの目標を達成するために、購読文献やリサーチプロポーザルの発表およびディスカッションを行い、学生は授業で得たフィードバックをもとにリサーチプロポーザルの完成を目指す。

### 【到達目標】

学生の到達目標は、1) 修士論文のテーマを絞る、2) テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、3) エスノグラフィーの研究手法を学ぶ、4) 事前調査を含む現地調査を実施する、5) リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、リサーチプロポーザルを作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	研究テーマを絞る(1)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第3回	研究テーマを絞る(2)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第4回	研究テーマを絞る(3)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第5回	研究テーマを絞る(4)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第6回	研究テーマを絞る(5)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第7回	研究テーマを絞る(6)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第8回	研究テーマを絞る(7)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第9回	研究テーマを絞る(8)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む

第10回	現地調査計画と準備(1)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第11回	現地調査計画と準備(2)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第12回	現地調査計画と準備(3)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第13回	現地調査計画と準備(4)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第14回	リサーチプロポーザル発表	リサーチプロポーザル発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読、プレリサーチの実施、リサーチプロポーザルの文献レビュー作成

### 【テキスト（教科書）】

特になし

### 【参考書】

受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、リサーチプロポーザル（70%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境人類学、海洋人類学、震災人類学

<研究テーマ> 日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学

<主要研究業績> 『Fukushima Futures: Survival Stories in a Repeatedly Ruined Seascape』(単著 University of Washington Press, 2023)、『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World (星の降るとき、3・11後の世界に生きる)』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5- 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

### 【Outline (in English)】

Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for students to create a research proposal and to prepare for accomplishing master's degree thesis. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing their research proposal. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their research proposals (70%).

SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

論文研究指導 1 A

武貞 稔彦

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士論文執筆のための演習指導 (2年目以降)

【到達目標】

修士課程2年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なリサーチを行ない、実際に修士論文を執筆、完成させると同時に的確な報告ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表 (プレゼンテーション) の技術についても学ぶ機会が得られます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究構想の検討 (第6回)	前年度の演習に引き続き、演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。(第6回前年度からの継続)
第2回	研究構想の検討 (第7回)	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。(第7回)
第3回	研究構想の検討 (第8回)	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。(第8回)
第4回	研究構想の検討 (第9回)	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。(第9回)
第5回	研究構想の検討 (第10回)	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。(第10回)
第6回	研究構想の検討 (第11回)	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。(第11回)
第7回	研究構想の検討 (第12回)	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。(第12回)
第8回	修士論文執筆と進捗報告 (第1回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第1回)
第9回	修士論文執筆と進捗報告 (第2回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第2回)
第10回	修士論文執筆と進捗報告 (第3回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第3回)
第11回	修士論文執筆と進捗報告 (第4回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第4回)
第12回	修士論文執筆と進捗報告 (第5回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第5回)

第13回	修士論文執筆と進捗報告 (第6回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第6回)
第14回	修士論文執筆と進捗報告 (第7回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(特に中間報告に向けた発表準備) (第7回)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

演習参加者との協議を通じて、修士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。修士論文 (内容およびプレゼンテーション) 70%、演習における積極性と貢献度 30%

【学生の意見等からの気づき】

少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい (望ましくない) 「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】

[Seminar Outline]

This is a second year seminar for authoring master thesis.

[Learning Objectives]

The goal of this exercise for second-year master's students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a master's thesis, and appropriately present their research.

[Learning Activities outside of classroom]

The progress of the master's thesis writing will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and write their theses accordingly. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. Participants are also expected to make presentations at academic conferences.

The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

The overall evaluation will be based on the following balance. Master's thesis (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution to the seminar: 30%

SES600P2 - 202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

論文研究指導 1 B

武貞 稔彦

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士論文執筆のための演習指導 (2年目以降)

【到達目標】

修士課程2年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なリサーチを行ない、実際に修士論文を執筆、完成させると同時に的確な報告ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表 (プレゼンテーション) の技術についても学ぶ機会が得られます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文執筆と進捗報告 (第1回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第1回)
第2回	修士論文執筆と進捗報告 (第2回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第2回)
第3回	修士論文執筆と進捗報告 (第3回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第3回)
第4回	修士論文執筆と進捗報告 (第4回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第4回)
第5回	修士論文執筆と進捗報告 (第5回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第5回)
第6回	修士論文執筆と進捗報告 (第6回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第6回)
第7回	修士論文執筆と進捗報告 (第7回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第7回)
第8回	修士論文執筆と進捗報告 (第8回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第8回)
第9回	修士論文執筆と進捗報告 (第9回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第9回)
第10回	修士論文執筆と進捗報告 (第10回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第10回)
第11回	修士論文執筆と進捗報告 (第11回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第11回)
第12回	修士論文執筆と進捗報告 (第12回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第12回)

第13回	修士論文執筆と進捗報告 (第13回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(第13回)
第14回	修士論文執筆と進捗報告 (第14回)	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。(特に最終発表に向けた発表準備) (第14回)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

演習参加者との協議を通じて、修士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。修士論文 (内容およびプレゼンテーション) 70%、演習における積極性と貢献度 30%

【学生の意見等からの気づき】

少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい (望ましくない) 「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】

[Seminar Outline]

This is a second year seminar for authoring master thesis.

[Learning Objectives]

The goal of this exercise for second-year master's students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a master's thesis, and appropriately present their research.

[Learning Activities outside of classroom]

The progress of the master's thesis writing will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and write their theses accordingly. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. Participants are also expected to make presentations at academic conferences.

The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

The overall evaluation will be based on the following balance. Master's thesis (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution to the seminar: 30%

SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

論文研究指導 1 A

長谷川 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、論文研究指導1A・1Bでの学習を踏まえて、修士論文を完成するための指導を行います。

【到達目標】

学術的に完成度の高い修士論文を執筆することを通じて、高度職業人として多面的かつ学術的な問題解決能力を涵養することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

修士論文のテーマや研究対象を踏まえ、履修者とのディスカッションを通じてデータ解析と学術論文の執筆に関する指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の執筆計画の検討①	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第2回	修士論文の執筆計画の検討②	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第3回	修士論文の執筆計画の検討③	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第4回	修士論文の進捗状況報告①	執筆部分の報告と討議
第5回	修士論文の進捗状況報告②	執筆部分の報告と討議
第6回	修士論文の進捗状況報告③	執筆部分の報告と討議
第7回	修士論文の進捗状況報告④	執筆部分の報告と討議
第8回	修士論文の進捗状況報告⑤	執筆部分の報告と討議
第9回	修士論文の進捗状況報告⑥	執筆部分の報告と討議
第10回	修士論文の進捗状況報告⑦	執筆部分の報告と討議
第11回	修士論文の進捗状況報告⑧	執筆部分の報告と討議
第12回	修士論文中間発表①	修士論文の全体像についての報告
第13回	修士論文中間発表②	修士論文に対する修正点の討議
第14回	修士論文中間発表③	修士論文に対する修正点の討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

収集したデータの解析と修士論文の執筆を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文真堂,2023年  
日本経営協会／長谷川直哉『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2019年

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉編著『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年

長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年

【成績評価の方法と基準】

修士論文の取組状況：80%

発表・討議：20%

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021年

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

In this seminar, I will guide students to complete their master's thesis based on their learning in Thesis Research Guidance 1A and 1B.

This seminar aims to help students acquire multifaceted and academic problem-solving skills through the writing of their master's thesis.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the content of the master's thesis (80%) and the presentation (20%).

SES600P2 - 202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 B

長谷川 直哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、論文研究指導 2 Aでの学習を踏まえて、修士論文を完成するための指導を行います。

### 【到達目標】

学術的に完成度の高い修士論文を執筆することを通じて、高度職業人として多面的かつ科学的な問題解決能力を涵養することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

修士論文のテーマや研究対象を踏まえ、履修者とのディスカッションを通じて、データ解析と学術論文の執筆に関する指導を行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の進捗状況報告①	執筆部分の報告と討議
第2回	修士論文の進捗状況報告②	執筆部分の報告と討議
第3回	修士論文の進捗状況報告③	執筆部分の報告と討議
第4回	プレ最終発表①	執筆済み修士論文の発表と討議
第5回	プレ最終発表②	執筆済み修士論文の発表と討議
第6回	修士論文の修正点の討議①	履修者と修士論文の修正点について討議
第7回	修士論文の修正点の討議②	履修者と修士論文の修正点について討議
第8回	修士論文の修正点の討議③	履修者と修士論文の修正点について討議
第9回	修正論文の報告と討議①	履修者による修正論文の報告と討議
第10回	修正論文の報告と討議②	履修者による修正論文の報告と討議
第11回	修正論文の報告と討議③	履修者による修正論文の報告と討議
第12回	修士論文の最終報告①	完成した修士論文の発表と討議
第13回	修士論文の最終報告②	修正を反映した修士論文の発表と討議
第14回	最終プレゼンテーション	口述試験におけるプレゼンテーションの予行演習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

収集したデータの解析と修士論文の執筆を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

### 【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文真堂,2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2023年  
長谷川直哉著『SDGsとバーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉編著『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年

長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年

### 【成績評価の方法と基準】

修士論文の内容：90%

発表・討議：10%

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてプロジェクターとパソコンを使用します。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021年

### 【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI(社会的責任投資)ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG(非財務)側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

### 【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト (CMA)

### 【Outline (in English)】

In this seminar, I will guide students to complete their master's thesis based on their learning in Thesis Research Guidance 2A. This seminar aims to help students complete a high quality master's thesis.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the content of the master's thesis (90%) and the presentation (10%).

SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 A

藤田 研二郎

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、修士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO論などの文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究について報告し、ディスカッションを行う。

### 【到達目標】

環境社会学、NPO論などの基礎的な知識をもち、最近の研究動向を理解している。修士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを設定できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

文献レビュー、研究報告とディスカッションを中心とする。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の授業の概要、文献レビューの進め方を示す。
第2回	研究の基礎	研究のプロセスを示す。研究テーマの候補を設定する。
第3回	文献レビュー①	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第4回	文献レビュー②	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第5回	文献レビュー③	環境運動論の文献を読み、ディスカッションする。
第6回	文献レビュー④	環境運動論の文献を読み、ディスカッションする。
第7回	文献レビュー⑤	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第8回	文献レビュー⑥	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第9回	文献レビュー⑦	環境ガバナンス論の文献を読み、ディスカッションする。
第10回	文献レビュー⑧	環境ガバナンス論の文献を読み、ディスカッションする。
第11回	文献レビュー⑨	市民-行政のパートナーシップに関する文献を読み、ディスカッションする。
第12回	文献レビュー⑩	市民-行政のパートナーシップに関する文献を読み、ディスカッションする。
第13回	文献レビュー⑪	地域社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第14回	文献レビュー⑫	地域社会学の文献を読み、ディスカッションする。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を事前に読む。自身の研究を進め、報告に向けて準備する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

文献は、受講者の関心を考慮しながら選定する。

### 【参考書】

環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

環境社会学会編、2023、『環境社会学事典』丸善出版。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）+文献レビュー（30%）+研究報告（40%）、を想定。

### 【学生の意見等からの気づき】

提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。またPCを使う回があるため、各自用意すること。

### 【その他の重要事項】

博士課程「サステイナビリティ特殊研究」と合同で開講。

### 【担当教員の専門分野等】

（専門領域）

環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性

（研究テーマ）

環境問題解決に向けた市民の活動と行政、行政との連携

地域の課題解決と環境保全の両立を考える

（主要研究業績）

藤田研二郎、2019、『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版。

### 【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class will provide students with research guidance for writing their master's thesis. Students will review literature and recent research trends in environmental sociology, non-profit organization research, etc. as well as report and discuss their research.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To learn the basic knowledge of environmental sociology, non-profit organization research, etc., and understand the recent research trends.

- To set the research themes for writing their master's thesis.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Reading literature. Preparing for research presentations. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Literature Review (30%) + Research Presentation (40%).

SES600P2 - 202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 B

藤田 研二郎

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、修士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO論などの文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究について報告し、ディスカッションを行う。

### 【到達目標】

環境社会学、NPO論などの基礎的な知識をもち、最近の研究動向を理解している。修士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを設定できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

文献レビュー、研究報告とディスカッションを中心とする。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の授業の概要、文献レビュー、研究報告の進め方を示す。
第2回	文献レビュー①	協同組合論の文献を読み、ディスカッションする。
第3回	文献レビュー②	協同組合論の文献を読み、ディスカッションする。
第4回	文献レビュー③	社会的企業論の文献を読み、ディスカッションする。
第5回	文献レビュー④	社会的企業論の文献を読み、ディスカッションする。
第6回	研究報告①	研究テーマを設定し、関連する先行研究のリストを作成する。
第7回	研究報告②	リストのなかから主要な先行研究をレビューし、ディスカッションする。
第8回	研究報告③	リストのなかから主要な先行研究をレビューし、ディスカッションする。
第9回	研究報告④	リストのなかから主要な先行研究をレビューし、ディスカッションする。
第10回	研究報告⑤	社会調査の方法を学ぶ。研究テーマにもとづき、調査計画を立てる。
第11回	研究報告⑥	データ分析の方法を学ぶ。研究テーマにもとづき、分析計画を立てる。
第12回	研究報告⑦	調査・分析結果について、研究報告を行い、ディスカッションする。
第13回	研究報告⑧	調査・分析結果について、研究報告を行い、ディスカッションする。

第14回 研究報告⑨

調査・分析結果について、研究報告を行い、ディスカッションする。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を事前に読む。自身の研究を進め、報告に向けて準備する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

文献は、受講者の関心を考慮しながら選定する。

### 【参考書】

環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

環境社会学会編、2023、『環境社会学事典』丸善出版。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）+文献レビュー（30%）+研究報告（40%）、を想定。

### 【学生の意見等からの気づき】

提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。またPCを使う回があるため、各自用意すること。

### 【その他の重要事項】

博士課程「サステイナビリティ特殊研究」と合同で開講。

### 【担当教員の専門分野等】

（専門領域）

環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性

（研究テーマ）

環境問題解決に向けた市民の活動と行政、行政との連携

地域の課題解決と環境保全の両立を考える

（主要研究業績）

藤田研二郎、2019、『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版。

### 【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class will provide students with research guidance for writing their master's thesis. Students will review literature and recent research trends in environmental sociology, non-profit organization research, etc. as well as report and discuss their research.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To learn the basic knowledge of environmental sociology, non-profit organization research, etc., and understand the recent research trends.

- To set the research themes for writing their master's thesis.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Reading literature. Preparing for research presentations. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Literature Review (30%) + Research Presentation (40%).



SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 A

藤倉 良

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための個別指導

### 【到達目標】

論文研究指導 1 B で収集したデータの解析

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎週実施するゼミで、関心事項の報告や他の院生の報告を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら、データ収集を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
2	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
3	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
4	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
5	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
6	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
7	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
8	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
9	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
10	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
11	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
12	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
13	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
14	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が報告用レジュメと PPT ファイルを事前に準備する。また、ゼミでの指摘事項を踏まえた対応の実施。疑問点などについては適宜メールで教員と連絡をとりあう。

### 【テキスト（教科書）】

各回指導中に適宜指示

### 【参考書】

各回指導中に適宜指示

### 【成績評価の方法と基準】

データ解析の進捗状況(100%)

### 【学生の意見等からの気づき】

ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談で対応する。

### 【その他の重要事項】

授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面でも行う。

### 【Outline (in English)】

Students will draft thesis. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on participation.

SES600P2 - 202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 B

藤倉 良

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための個別指導

### 【到達目標】

論文研究指導 2 A までに行った調査研究結果のとりまとめと修士論文作成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎週実施するゼミで、関心事項の報告や他の院生の報告を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら、データ収集を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
2	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
3	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
4	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
5	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
6	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
7	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
8	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
9	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
10	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
11	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
12	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
13	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
14	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が報告用レジュメと PPT ファイルを事前に準備する。また、ゼミでの指摘事項を踏まえた対応の実施。疑問点などについては適宜メールで教員と連絡をとりあう。

### 【テキスト（教科書）】

各回指導中に適宜指示

### 【参考書】

各回指導中に適宜指示

### 【成績評価の方法と基準】

データ解析の進捗状況(100%)

### 【学生の意見等からの気づき】

ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談で対応する。

### 【その他の重要事項】

授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面で行うこともある。

### 【Outline (in English)】

Completion of master thesis. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on the thesis.

SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 A

松本 倫明

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文のための研究指導を目的とする。

### 【到達目標】

修士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講生の関心の方向性を発表する。
第2回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第3回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第4回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第5回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第6回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第7回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第8回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第9回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第10回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第11回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第12回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第13回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第14回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指導中に適宜指示する。

### 【参考書】

指導中に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況を基準にする（100%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

なし。

### 【その他の重要事項】

受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、プログラミング（Python など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>理論天文学

<研究テーマ>星形成、宇宙天気

<主要研究業績>

① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123

② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77

③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Seminar for master thesis.

(Learning Objectives) This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.

(Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) Research progress (100%).

SES600P2 - 202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 B

松本 倫明

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文のための研究指導を目的とする。

### 【到達目標】

修士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	今後のロードマップを確認する。
第2回	研究の方法	研究方法について指導する。
第3回	研究の方法	研究方法について指導する。
第4回	研究の方法	研究方法について指導する。
第5回	研究の方法	研究方法について指導する。
第6回	研究の方法	研究方法について指導する。
第7回	研究の方法	研究方法について指導する。
第8回	研究の方法	研究方法について指導する。
第9回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第10回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第11回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第12回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第13回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第14回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指導中に適宜指示する。

### 【参考書】

指導中に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況を基準にする（100%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

なし。

### 【その他の重要事項】

受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>理論天文学

<研究テーマ>星形成、宇宙天気

<主要研究業績>

- ① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123
- ② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77
- ③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Seminar for master thesis.

(Learning Objectives) This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.

(Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) Research progress (100%).

SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 A

宮川 路子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文および研究論文作成のための演習指導を行う。学生はテーマを選定し、先行論文の調査を行い、それらをまとめて課題をみつけ、仮説をたて、課題解決のための方法を探り、論文を執筆することを最終的な目標とする。

### 【到達目標】

学生は修士論文執筆のために、まず研究テーマの設定を行う。関心のある分野の学術的な背景を先行研究を調査することにより明らかにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究の進め方について
第2回	研究とは何か	研究を進めていくための基礎的な知識とスキルを習得する
第3回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第4回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第5回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第6回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第7回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第8回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第9回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第10回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第11回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第12回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第13回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第14回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者それぞれが自分の問題関心に合わせて文献調査を行い、報告する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習における報告内容（60%）、研究の準備状況（40%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養医学、水素療法）、統計学

<研究テーマ> 栄養と健康、就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)

The European Journal of Public Health 2012年

ビタミンDの健康効果 人間環境論集19巻号79-101

日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか

人間環境論集 20巻1号1-17

<https://eiyouyohou.com/>

【Outline (in English)】

【Course outline】 Practice for preparing master's thesis and research paper.

Students will select a topic, conduct a survey of previous papers, summarize them, find a problem, formulate a hypothesis, and explore ways to solve the problem. Students are expected to write a master's thesis at the end of the course.

【Learning Objectives】 To write a master's thesis, students must first establish a research topic. The academic background of the area of interest is clarified by surveying previous studies.

【Learning activities outside of classroom】 Each participant will conduct and report on a literature review according to his or her own problematic interests.

【Grading Criteria】 The content of the report in the exercise (60%) and the state of preparation for the research (40%) will be comprehensively evaluated.

SES600P2 - 202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 B

宮川 路子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の執筆に向けた問題意識の醸成、文献検索の方法、調査、解析方法などを身につけ、論文作成に必要な能力を身につける。学生は先行研究を調査し、自分の研究テーマを決定する。課題発見、仮説の設定、先行研究を交えながら論を展開し、考察し、結論を導き出し、最終的に論文を執筆する。

### 【到達目標】

学生が適切なテーマを選択し、文献検索を行って自身の研究テーマの先行研究における位置づけを明確にする。必要な調査を明らかにすることにより、調査方法を決定する。得られたデータを適切に分析するための解析方法を学ぶ。論文作成を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第2回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第3回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第4回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第5回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第6回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第7回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第8回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第9回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第10回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第11回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第12回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第13回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第14回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は研究テーマについて調査、研究を継続して行う。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

研究の進捗状況に応じて適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、発表10%、研究内容60%で評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当無し。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養医学、水素療法）、統計学

<研究テーマ> 栄養と健康、就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)

The European Journal of Public Health 2012年

ビタミンDの健康効果 人間環境論集19巻号79-101

日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における

課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか

人間環境論集 20巻1号1-17

<https://eiyouyohou.com/>

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will develop an awareness of the issues involved in writing a master's thesis. Students will investigate previous research and determine their own research topic. Students discover issues, formulate hypotheses, and develop and discuss their arguments with previous research. Students are expected to draw a final conclusion and write a paper.

【Learning Objectives】 Students will select an appropriate topic and conduct a literature search to clarify the position of their own research topic in previous studies. Determine the research method by identifying the necessary research. Students will learn how to analyze the data obtained in an appropriate manner.

Students will start writing a paper.

【Learning activities outside of classroom】 Students will continue to investigate their research topic.

【Grading Criteria】 Evaluation will be made on the basis of 30% of normal points, 10% of presentations, and 60% of research content.

SES600P2 - 203 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 A

金藤 正直

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、論文研究指導 1A・B で習得した研究・調査の方法論、小論文（研究計画書）の内容、そして、修士論文の構想に基づいて、研究・調査内容を報告するとともに、その報告結果を参考にしながら完成度の高い修士論文を作成していくことを目的とする。

### 【到達目標】

本演習では、修士論文の中間報告書（粗原稿）を作成していくために、論文研究指導 1A・B よりも論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

本演習は原則対面で実施する。履修者には、論文研究指導 1A・B で習得した研究・調査の方法論、小論文（研究計画書）、修士論文の構想に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ヒアリング調査、ケーススタディから明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	1年次までに行った研究・調査とそれに基づく今後の取組みについて確認する。
第2回	修士論文の構成（案）の検討	修士論文を構成する章や節の設定方法を講義するとともに、その案について報告する。
第3回～第11回	研究・調査の成果報告	第2回の構成（案）に基づいて、研究・調査を進めていくとともに、その成果を報告する。
第12回	修士論文の体裁	修士論文の体裁を整えていくための方法を講義する。
第13回	修士論文の構成（案）の再検討	これまでの講義に基づいて、章や節の構成（案）を再検討する。
第14回	修士論文の中間報告書（粗原稿）の作成	第13回の構成に基づいて作成される修士論文の全体内容を報告するとともに、その内容の粗原稿を作成する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究内容に係る著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を修士論文の中間報告書（粗原稿）に反映させてください。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

### 【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・討論への参加（発言内容）（10%）
- ・報告用配布レジュメの内容（10%）
- ・報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
- ・修士論文（粗原稿）の内容（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

### 【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

### 【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>
  - 環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論
- <研究テーマ>
  - 企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
- <主要研究業績>
  - ・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
  - ・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
  - ・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
  - ・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？-」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90頁。
  - ・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
  - ・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
  - ・金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。

### 【Outline (in English)】

#### ① Course Outline

The purpose of this seminar is to study the details of a master thesis.

#### ② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a master thesis.

#### ③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

#### ④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 10%
- 2) Content of the resume : 10%
- 3) Content of the presentation : 30%
- 4) Content of master thesis (rough draft) : 50%

SES600P2 - 201 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 1 A

渡邊 誠

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この論文研究指導では修士論文の作成に向けて、先行研究の調査、リサーチクエスションの導出、テーマ選定、分析手法・技法を含めた研究方法の検討、結果の評価と検証などの考え方について検討する。また論文作成と口頭発表のための基礎事項を学修する。これにより研究活動を遂行することができるようになる。

### 【到達目標】

研究遂行のための基礎力を身につけることをめざしている。受講者は各々の問題意識と関心事を確認し、情報収集、論点整理、分析手法の検討、さらには結果の解釈と検証などができるようになることを目標とする。また論文執筆あるいは口頭発表に対して効果的な表現とプレゼンテーションができるようになることも目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

教員を含めた参加者による討論を繰り返していく。これにより受講者は各々のテーマに関して柔軟かつ複眼的な見方ができるようになる。参加者は授業時に各々の研究の進捗状況の報告を行うことにする。この授業では各自進めている研究について助言指導していく。実際の授業では受講者のもっている関心事の確認から論文作成までの広範囲にわたる内容に触れることになる。以下の【授業計画】は、授業の中で特に意識したい内容を示したものである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	研究活動の方針	学術的関心事と研究目標・目的の検討および確認
第3回	テーマ検討 (妥当性、実現性の観点から)	課題の検討とテーマ選定へ向けての考察および確認
第4回	テーマ検討 (新規性、社会的意義の観点から)	研究の意義と社会的インパクトの検討および確認
第5回	先行研究の調査と分析 (文献収集)	文献調査およびその確認
第6回	先行研究の調査と分析 (論点整理)	文献調査と先行研究の精査および確認
第7回	視点・論点の検討 (研究課題の検討)	リサーチクエスションの導出および確認
第8回	視点・論点の検討 (研究課題の論点整理)	研究テーマの検討および確認
第9回	分析・評価手法の検討 (論点整理)	分析・評価手法の検討および確認
第10回	分析・評価手法の検討 (選定)	分析・評価手法の選定および確認
第11回	研究の設計・計画 (概要設計)	研究計画の概要検討および確認

第12回	研究の設計・計画 (詳細設計)	研究計画の詳細検討および確認
第13回	研究活動の方針 (再確認)	研究目標・目的の再検討および再確認
第14回	総括	まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テーマの考察、先行研究（文献等）に関する情報収集、プレリサーチ、報告の準備などの作業を進めることにする。

### 【テキスト（教科書）】

特に用いない。

### 【参考書】

開講時に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加の積極性100%によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学

<研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス

<主要研究業績> Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

### 【Outline (in English)】

(Course outline) This is a guidance seminar to accomplish research projects for each member of this class in the master's course. We will mainly discuss the following processes: study of previous works, derivation of research questions, research planning, verification of analysis methods, evaluation of results, report technics. This seminar deals with the basic aspects in preparing master's thesis.

(Learning Objectives) In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.



SES600P2 - 202 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

論文研究指導 1 B

渡邊 誠

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この論文研究指導では修士論文の作成に向けて、先行研究の調査、リサーチ方法の導出、テーマ選定、分析手法・技法を含めた研究方法の検討、結果の評価と検証などの考え方についてさらに検討する。また論文作成と口頭発表のための基礎事項を引き続き学修する。これにより研究活動を遂行することができるようになる。

【到達目標】

研究遂行のための基礎力をさらに身につけることをめざしている。受講者は各々の問題意識と関心事を確認し、情報収集、論点整理、分析手法の検討、さらには結果の解釈と検証などができるようになることを目標とする。また論文執筆あるいは口頭発表に対してより効果的な表現とプレゼンテーションができるようになることも目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教員を含めた参加者による討論を繰り返していく。これにより受講者は各々のテーマに関して柔軟かつ複眼的な見方ができるようになる。参加者は授業時に各々の研究の進捗状況の報告を行うことにする。この授業では各自進めている研究について助言指導していく。実際の授業では受講者のもっている関心事の確認から論文作成までの広範囲にわたる内容に触れることになる。以下の【授業計画】は、授業の中で特に意識したい内容を示したものである。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	リサーチエッセイの再検討	研究課題、研究目標の再検討と再確認
第3回	総合討論 (研究報告と検討)	研究進捗状況の報告、ディスカッション
第4回	総合討論 (研究報告と論点確認)	研究進捗状況の報告、論点確認
第5回	口頭報告と表現研究 (資料作成法)	資料作成法の検討および確認
第6回	口頭報告と表現研究 (プレゼンテーション法)	表現法の検討および確認
第7回	総合討論 (課題検討)	研究進捗状況の報告、課題の確認
第8回	総合討論 (主張事項検討)	研究進捗状況の報告、主張事項検討
第9回	論文構造研究 (章、節の構成)	章・節構造検討および確認
第10回	論文構造研究 (文章構成)	文章展開法検討および確認
第11回	論文作成と表現研究 (学術的表現)	アカデミックライティングと文章表現技法などの検討および確認
第12回	論文作成と表現研究 (効果的表現)	図表、各種データの掲載法などの検討および確認

第13回 研究活動成果の検討 研究遂行の完成度、社会的貢献性などの検討

第14回 総括 まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テーマの考察、先行研究 (文献等) に関する情報収集、プレリサーチ、報告の準備などの作業を進めることにする。

【テキスト (教科書)】

特に用いない。

【参考書】

開講時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加の積極性100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学  
 <研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス  
 <主要研究業績> Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】

(Course outline) This is a basic seminar to accomplish research projects for each member of this class in the master's course. We will mainly discuss the following processes: study of previous works, derivation of research questions, research planning, verification of analysis methods, evaluation of results, report technics. This seminar deals with the basic and practical aspects in preparing master's thesis. (Learning Objectives) In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES600P2 - 204 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 B

金藤 正直

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、論文研究指導 1A・B で習得した研究・調査の方法論、小論文（研究計画書）の内容、修士論文の構想、そして、論文研究指導 2A で作成した修士論文の中間報告書（粗原稿）の内容に基づいて、研究・調査を進め、その結果を報告するとともに、その報告内容を参考にしながら完成度の高い修士論文を作成していくことを目的とする。

### 【到達目標】

本演習では、論文研究指導 1A・B や論文研究指導 2A での学習内容を参考にしながら、修士論文を作成していくための論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

本演習は原則対面を実施する。履修者には、論文研究指導 1A・B で習得した研究・調査の方法論、作成した小論文（研究計画書）の内容、修士論文の構想、論文研究指導 2A で作成した修士論文の中間報告書（粗原稿）の内容に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査から明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査の進展について報告するとともに、完成から提出までのスケジュールを確認する。
第2回～ 第5回	追加的作業の確認	修士論文の完成のために必要不可欠となる作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第6回～ 第13回	修士論文の作成	論文研究指導 2A で作成した修士論文の中間報告書（粗原稿）に、これまでに行ってきた研究・調査内容を反映させた（加筆修正した）部分、また、内容調整した部分について報告する。
第14回	修士論文の最終版の調整	修士論文の形式と内容の最終調整を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その内容を修士論文に反映させ、完成度の高い論文にしてください。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

### 【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（10%）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（10%）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
- ・ 修士論文（提出前原稿）の内容（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

### 【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・ 金藤正直 (2015) 「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
- ・ 金藤正直 (2016) 「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
- ・ 金藤正直 (2018) 「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
- ・ 金藤正直、岡照二 (2021) 「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
- ・ 金藤正直 (2021) 「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
- ・ 金藤正直 (2022) 「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。

### 【Outline (in English)】

#### ① Course Outline

The purpose of this seminar is to study the details of a master thesis.

#### ② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a master thesis.

#### ③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

#### ④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 10%
- 2) Content of the resume : 10%
- 3) Content of the presentation : 30%
- 4) Content of master thesis : 50%

SES600P2-203 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 A

小島 聡

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、修士課程の2年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ①研究テーマの細部の再調整
- ②追加的な調査研究
- ③修士論文の草稿の執筆

### 【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。  
 ・修士論文の執筆能力を身につける。  
 ・学術論文の技法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

修士論文の草稿執筆に向けて、章構成に関する指導、調査研究の遂行に関する指導、調査研究から得た知見の評価と修士論文への反映に関する指導、修士論文の論理展開や技術・作法に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究および論文執筆の進捗状況から学び合う場とする。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoomによる双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1年間の調査研究成果の報告	M1の調査研究成果について報告し、今後の方向性について確認する。
2	修士論文完成までの工程確認	修士論文作成までの工程と具体的な調査研究課題を確認する。
3	修士論文の構造と技法の学習	修士論文の論理展開の重要性、章構成、技法について学ぶ。
4	章節構成案の報告	章節構成案を報告し、論文の構造について検討する。
5	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
6	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
7	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
8	章節構成案の再検討	調査研究の進展をふまえて、章節構成案を再検討する。
9	草稿執筆の準備作業の報告	草稿執筆に向けた準備作業について報告し、工程を確認する。
10	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
11	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
12	草稿執筆に関する報告と検討	執筆中の草稿の進捗状況について報告し、今後の作業課題について検討する。

13	草稿執筆に関する報告と検討	執筆中の草稿の進捗状況について報告し、今後の作業課題について検討する。
14	草稿執筆に関する報告と検討	執筆中の草稿の進捗状況について報告し、今後の作業課題について検討する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。  
 ・調査研究を進めること。  
 ・修士論文の草稿を執筆すること。

### 【テキスト（教科書）】

特に用いない。

### 【参考書】

修士論文の作業の進捗状況に応じて、適宜、関連文献を提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（50%）、課題への取り組み（50%）の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治論、自治体政策論  
 <研究テーマ>持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション  
 <主要研究業績>  
 「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）  
 「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）  
 「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）  
 「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）  
 「上下流連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）  
 「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）  
 「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして（第2版）』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）  
 「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

### 【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the second year of the master's program.

Students work on the following contents:

- (1) Readjust the details of the research theme.
- (2) Work on additional research.
- (3) Write the draft of master's thesis.

Students aim at achieving the following goals:

- (1) Acquire the ability to write master's thesis.
- (2) Acquire the techniques of academic paper.

Students need to proceed with research, and to write the draft of master's thesis. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2 - 204 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 B

小島 聡

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、修士課程の2年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ①修士論文の草稿の検討と修正
- ②研究成果と今後の研究課題の確認

### 【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下の通りである。

- ・修士論文を完成させる。
- ・修士論文についての的確に説明できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

修士論文の完成に向けて、草稿修正に関する指導、追加的な調査研究の遂行に関する指導、そこから得た知見の評価と修士論文への反映に関する指導、修士論文の論理展開や技術・作法に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、修士論文の草稿については、添削とコメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究および論文執筆の進捗状況から学び合う場とする。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoomによる双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	修士論文の草稿に関する報告	草稿について報告し、今後の修正課題について検討する。
2	追加的な調査研究の報告	追加的な調査研究の進捗状況について報告する。
3	追加的な調査研究の報告	追加的な調査研究の進捗状況について報告する。
4	追加的な調査研究の報告	追加的な調査研究の進捗状況について報告する。
5	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
6	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
7	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
8	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
9	修士論文の参考文献・資料に関する報告	修士論文の参考文献・資料について報告し精査する。
10	修士論文の全章に関する構成の最終確認	修士論文の全章に関する構成を最終確認し、重要な箇所について内容を精査する。
11	修士論文（案）の提出と報告	修士論文（案）を提出し、内容について報告する。
12	修士論文（案）の修正状況の報告	修士論文（案）の修正状況について報告する。
13	修士論文（案）の修正状況の報告	修士論文（案）の修正状況について報告する。

14 修士論文の最終案の報告と形式的調整 修士論文の最終案の報告と論文形式に関する調整を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。

- ・調査研究を進めること。
- ・修士論文を執筆すること。

### 【テキスト（教科書）】

特に用いない。

### 【参考書】

修士論文の作業の進捗状況に応じて、適宜、関連文献を提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（50%）、課題への取り組み（50%）の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治論、自治体政策論  
<研究テーマ>持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション

<主要研究業績>

「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）  
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）  
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）  
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）  
「上下流連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）  
「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－（私）と（社会）の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）  
「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして（第2版）』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）  
「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

### 【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the second year of the master's program.

Students work on the following contents:

- (1)Review and revise the draft of master's thesis.
- (2)Confirm of research results and future research issues.

Students aim at achieving the following goals:

- (1)Complete the master's thesis.
  - (2)Acquire the ability to explain the master's thesis accurately.
- Students need to proceed with research, and to write the master's thesis. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2 - 203 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 A

高田 雅之

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を通して、修士論文を完成させます。

### 【到達目標】

修士課程2年生が、収集した資料及び取得したデータの分析と評価を行い、追加的に必要となる情報や知見等を明らかにした上でこれらを入手し、解析評価をとおして修士論文を完成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、修士論文の完成に到達します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第2回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第3回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第4回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第5回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第6回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第7回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第8回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第9回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第10回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第11回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習
第12回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習
第13回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習
第14回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の取りまとめに向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学

<研究テーマ>

湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット

<主要研究業績>

「図説日本の湿地」(朝倉書店, 2017) 編集・共著

「湿地の科学と暮らし」(北大出版会, 2017) 共著

「湿地の博物誌」(北大出版会, 2014) 編者

「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」(北大出版会, 2014) 共著

Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.

Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.

Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

### 【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

### 【Outline (in English)】

Regarding issues related to nature conservation, the students complete the master's thesis through research direction including theme setting, study methodology and analysis.

The goals of this class are to reach the analysis and evaluation of acquired data, additional research and to complete master's thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2 - 204 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 B

高田 雅之

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を通して、修士論文を完成させます。

### 【到達目標】

修士課程2年生が、収集した資料及び取得したデータの分析と評価を行い、追加的に必要となる情報や知見等を明らかにした上でこれらを手し、解析評価をとおして修士論文を完成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、修士論文の完成に到達します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第2回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第3回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第4回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第5回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第6回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第7回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第8回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第9回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第10回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第11回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導
第12回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導
第13回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導
第14回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の取りまとめに向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学

<研究テーマ>

湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット

<主要研究業績>

「図説日本の湿地」（朝倉書店、2017）編集・共著

「湿地の科学と暮らし」（北大出版会、2017）共著

「湿地の博物誌」（北大出版会、2014）編者

「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会、2014）共著

Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.

Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.

Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

### 【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

### 【Outline (in English)】

Regarding issues related to nature conservation, the students complete the master's thesis through research direction including theme setting, study methodology and analysis.

The goals of this class are to reach the analysis and evaluation of acquired data, additional research and to complete master's thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2 - 203 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 A

武貞 稔彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための演習指導（2年目以降）

### 【到達目標】

修士課程2年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なリサーチを行ない、実際に修士論文を執筆、完成させると同時に的確な報告ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究構想の検討（第6回）	前年度の演習に引き続き、演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第6回前年度からの継続）
第2回	研究構想の検討（第7回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第7回）
第3回	研究構想の検討（第8回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第8回）
第4回	研究構想の検討（第9回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第9回）
第5回	研究構想の検討（第10回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第10回）
第6回	研究構想の検討（第11回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第11回）
第7回	研究構想の検討（第12回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第12回）
第8回	修士論文執筆と進捗報告（第1回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第1回）
第9回	修士論文執筆と進捗報告（第2回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第2回）
第10回	修士論文執筆と進捗報告（第3回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第3回）
第11回	修士論文執筆と進捗報告（第4回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第4回）
第12回	修士論文執筆と進捗報告（第5回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第5回）

第13回 修士論文執筆と進捗報告（第6回） 演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第6回）

第14回 修士論文執筆と進捗報告（第7回） 演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に中間報告に向けた発表準備）（第7回）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習参加者との協議を通じて、修士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。修士論文（内容およびプレゼンテーション）70%、演習における積極性と貢献度30%

### 【学生の意見等からの気づき】

少人数演習のため該当せず。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

### 【Outline (in English)】

#### 【Seminar Outline】

This is a second year seminar for authoring master thesis.

#### 【Learning Objectives】

The goal of this exercise for second-year master's students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a master's thesis, and appropriately present their research.

#### 【Learning Activities outside of classroom】

The progress of the master's thesis writing will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and write their theses accordingly. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. Participants are also expected to make presentations at academic conferences.

The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following balance. Master's thesis (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution to the seminar: 30%

SES600P2 - 204 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 B

武貞 稔彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための演習指導（2年目以降）

### 【到達目標】

修士課程2年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なリサーチを行ない、実際に修士論文を執筆、完成させると同時に的確な報告ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文執筆と進捗報告（第1回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第1回）
第2回	修士論文執筆と進捗報告（第2回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第2回）
第3回	修士論文執筆と進捗報告（第3回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第3回）
第4回	修士論文執筆と進捗報告（第4回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第4回）
第5回	修士論文執筆と進捗報告（第5回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第5回）
第6回	修士論文執筆と進捗報告（第6回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第6回）
第7回	修士論文執筆と進捗報告（第7回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第7回）
第8回	修士論文執筆と進捗報告（第8回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第8回）
第9回	修士論文執筆と進捗報告（第9回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第9回）
第10回	修士論文執筆と進捗報告（第10回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第10回）
第11回	修士論文執筆と進捗報告（第11回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第11回）
第12回	修士論文執筆と進捗報告（第12回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第12回）

第13回	修士論文執筆と進捗報告（第13回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第13回）
第14回	修士論文執筆と進捗報告（第14回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に最終発表に向けた発表準備）（第14回）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習参加者との協議を通じて、修士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。修士論文（内容およびプレゼンテーション）70%、演習における積極性と貢献度30%

### 【学生の意見等からの気づき】

少人数演習のため該当せず。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

### 【Outline (in English)】

#### [Seminar Outline]

This is a second year seminar for authoring master thesis.

#### [Learning Objectives]

The goal of this exercise for second-year master's students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a master's thesis, and appropriately present their research.

#### [Learning Activities outside of classroom]

The progress of the master's thesis writing will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and write their theses accordingly. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. Participants are also expected to make presentations at academic conferences.

The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.

#### [Grading Criteria/Policy]

The overall evaluation will be based on the following balance. Master's thesis (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution to the seminar: 30%



SES600P2 - 203 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 A

長谷川 直哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、論文研究指導 1A・1Bでの学習を踏まえて、修士論文を完成するための指導を行います。

### 【到達目標】

学術的に完成度の高い修士論文を執筆することを通じて、高度職業人として多面的かつ学術的な問題解決能力を涵養することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

修士論文のテーマや研究対象を踏まえ、履修者とのディスカッションを通じてデータ解析と学術論文の執筆に関する指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の執筆計画の検討①	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第2回	修士論文の執筆計画の検討②	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第3回	修士論文の執筆計画の検討③	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第4回	修士論文の進捗状況報告①	執筆部分の報告と討議
第5回	修士論文の進捗状況報告②	執筆部分の報告と討議
第6回	修士論文の進捗状況報告③	執筆部分の報告と討議
第7回	修士論文の進捗状況報告④	執筆部分の報告と討議
第8回	修士論文の進捗状況報告⑤	執筆部分の報告と討議
第9回	修士論文の進捗状況報告⑥	執筆部分の報告と討議
第10回	修士論文の進捗状況報告⑦	執筆部分の報告と討議
第11回	修士論文の進捗状況報告⑧	執筆部分の報告と討議
第12回	修士論文中間発表①	修士論文の全体像についての報告
第13回	修士論文中間発表②	修士論文に対する修正点の討議
第14回	修士論文中間発表③	修士論文に対する修正点の討議

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

収集したデータの解析と修士論文の執筆を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

### 【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文真堂,2023年  
日本経営協会／長谷川直哉『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2019年

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年

Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉編著『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年

長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年

### 【成績評価の方法と基準】

修士論文の取組状況：80%

発表・討議：20%

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021年

### 【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

### 【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

### 【Outline (in English)】

In this seminar, I will guide students to complete their master's thesis based on their learning in Thesis Research Guidance 1A and 1B.

This seminar aims to help students acquire multifaceted and academic problem-solving skills through the writing of their master's thesis.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the content of the master's thesis (80%) and the presentation (20%).

SES600P2 - 204 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 B

長谷川 直哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、論文研究指導 2 Aでの学習を踏まえて、修士論文を完成するための指導を行います。

### 【到達目標】

学術的に完成度の高い修士論文を執筆することを通じて、高度職業人として多面的かつ科学的な問題解決能力を涵養することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

修士論文のテーマや研究対象を踏まえ、履修者とのディスカッションを通じて、データ解析と学術論文の執筆に関する指導を行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の進捗状況報告①	執筆部分の報告と討議
第2回	修士論文の進捗状況報告②	執筆部分の報告と討議
第3回	修士論文の進捗状況報告③	執筆部分の報告と討議
第4回	プレ最終発表①	執筆済み修士論文の発表と討議
第5回	プレ最終発表②	執筆済み修士論文の発表と討議
第6回	修士論文の修正点の討議①	履修者と修士論文の修正点について討議
第7回	修士論文の修正点の討議②	履修者と修士論文の修正点について討議
第8回	修士論文の修正点の討議③	履修者と修士論文の修正点について討議
第9回	修正論文の報告と討議①	履修者による修正論文の報告と討議
第10回	修正論文の報告と討議②	履修者による修正論文の報告と討議
第11回	修正論文の報告と討議③	履修者による修正論文の報告と討議
第12回	修士論文の最終報告①	完成した修士論文の発表と討議
第13回	修士論文の最終報告②	修正を反映した修士論文の発表と討議
第14回	最終プレゼンテーション	口述試験におけるプレゼンテーションの予行演習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

収集したデータの解析と修士論文の執筆を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

### 【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文真堂,2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2023年  
長谷川直哉著『SDGsとバーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年

Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉編著『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年

長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年

### 【成績評価の方法と基準】

修士論文の内容：90%

発表・討議：10%

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてプロジェクターとパソコンを使用します。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021年

### 【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI(社会的責任投資)ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG(非財務)側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

### 【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト (CMA)

### 【Outline (in English)】

In this seminar, I will guide students to complete their master's thesis based on their learning in Thesis Research Guidance 2A. This seminar aims to help students complete a high quality master's thesis.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the content of the master's thesis (90%) and the presentation (10%).

SES600P2-203 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 A

藤倉 良

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための個別指導

### 【到達目標】

論文研究指導 1 B で収集したデータの解析

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎週実施するゼミで、関心事項の報告や他の院生の報告を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら、データ収集を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
2	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
3	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
4	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
5	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
6	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
7	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
8	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
9	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
10	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
11	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
12	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
13	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
14	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が報告用レジュメと PPT ファイルを事前に準備する。また、ゼミでの指摘事項を踏まえた対応の実施。疑問点などについては適宜メールで教員と連絡をとりあう。

### 【テキスト（教科書）】

各回指導中に適宜指示

### 【参考書】

各回指導中に適宜指示

### 【成績評価の方法と基準】

データ解析の進捗状況(100%)

### 【学生の意見等からの気づき】

ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談で対応する。

### 【その他の重要事項】

授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面でも行う。

### 【Outline (in English)】

Students will draft thesis. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on participation.

SES600P2 - 204 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 B

藤倉 良

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための個別指導

### 【到達目標】

論文研究指導 2 A までに行った調査研究結果のとりまとめと修士論文作成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎週実施するゼミで、関心事項の報告や他の院生の報告を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら、データ収集を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
2	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
3	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
4	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
5	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
6	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
7	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
8	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
9	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
10	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
11	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
12	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
13	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
14	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が報告用レジュメと PPT ファイルを事前に準備する。また、ゼミでの指摘事項を踏まえた対応の実施。疑問点などについては適宜メールで教員と連絡をとりあう。

### 【テキスト（教科書）】

各回指導中に適宜指示

### 【参考書】

各回指導中に適宜指示

### 【成績評価の方法と基準】

データ解析の進捗状況(100%)

### 【学生の意見等からの気づき】

ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談で対応する。

### 【その他の重要事項】

授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面で行うこともある。

### 【Outline (in English)】

Completion of master thesis. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on the thesis.

SES600P2 - 203 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 A

宮川 路子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成のステップとして修士課程2年生を対象として、修士論文作成のための研究調査活動、論文執筆の指導を行う。学生は定めたテーマについて先行研究をまとめ、課題を提示し、仮説を設定して考察を行うことを目的とする。

### 【到達目標】

学生が適切なテーマについて、調査、分析、考察を行い、仮説を検証していく過程を指導する。学生は論理を組み立てる能力、データを解析する能力、そして結果について考察、説明する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の作成	先行研究について
第2回	修士論文の作成	これまでの研究、調査結果の報告、問題点の把握
第3回	修士論文の作成	問題点の解決について
第4回	修士論文の作成	調査についての報告
第5回	修士論文の作成	調査の問題点について
第6回	修士論文の作成	調査結果の解析
第7回	修士論文の作成	調査結果解析についての課題検討
第8回	修士論文の作成	解析結果の課題検討と考察
第9回	修士論文の作成	解析結果の課題検討と考察
第10回	修士論文の作成	これまでに得られた結果の総括と新知見の再確認
第11回	修士論文の作成	論文執筆の開始
第12回	修士論文の作成	論文執筆についての報告と内容の確認
第13回	修士論文の作成	追加的調査、文献検索についての検討
第14回	修士論文の作成	論文ドラフトの提出と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の完成に向けてテーマについての調査、研究を継続的に行う。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

研究、執筆の状況に応じて必要に応じ提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、指示した課題の消化状況40%、研究内容30%として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学

<研究テーマ>就労者のストレスと健康

<主要研究業績>Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012年

ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー 労働安全衛生広報 2010年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健 21 2010年

【Outline (in English)】

【Course outline】As a step toward the completion of the master's thesis, research and survey activities for the preparation of the master's thesis and guidance in writing the thesis are provided. Students are expected to summarize previous research on a defined topic, present a problem, set a hypothesis, and conduct a study.

【Learning Objectives】Students will be guided through the process of researching, analyzing, and discussing an appropriate topic and testing hypotheses. Students will develop the ability to formulate logic, analyze data, and discuss and explain the results.

【Learning activities outside of classroom】Students will continue to investigate and research on the topic to complete their master's thesis.

【Grading Criteria】The evaluation will be based on 30% of the normal score, 40% of the completion of the assigned tasks, and 30% of the research content.

SES600P2-204 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 B

宮川 路子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成のための最終段階として、論文執筆の指導を行う。  
学生は修士論文を仕上げることを目標とする。

### 【到達目標】

学生が適切なテーマについて、調査、分析、考察を行い、仮説を検証していく過程を指導する。  
学生は論理を組み立てる能力、データを解析する能力、そして結果について考察、説明する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の作成	論文ドラフトの提出と修正
第2回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第3回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第4回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第5回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第6回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第7回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第8回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第9回	修士論文の作成	論文完成にむけて検討
第10回	修士論文の作成	論文完成にむけて検討
第11回	修士論文の作成	論文完成にむけて検討
第12回	修士論文の作成	論文を完成させる
第13回	修士論文の作成	論文を完成させる
第14回	修士論文の作成	論文を完成させる

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の完成に向けてテーマについての調査、研究を継続的に行う。

### 【テキスト（教科書）】

特に用いない。

### 【参考書】

研究、執筆の状況に応じて必要に応じ提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、指示した課題の消化状況40%、研究内容30%として評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学  
<研究テーマ>水素栄養療法の健康効果、就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012年

ソフト面から考える快適職場—職場のメンタルヘルス対策の一環として— 労働安全衛生広報 2010年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健 21 2010年  
人生100年の健康づくりに医師がすすめる最高の水素術 サンライズパブリッシング 2023年

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will receive guidance in writing their paper as the final step in preparing their master's thesis. Students are expected to complete their master's thesis.

【Learning Objectives】 Students will be guided the process of researching, analyzing, and discussing an appropriate topic and testing hypotheses. Students will develop the ability to formulate logic, analyze data, and discuss and explain the results.

【Learning activities outside of classroom】 Students will continue to investigate and research on the topic to complete their master's thesis.

【Grading Criteria】 The evaluation will be based on 30% of the normal score, 40% of the completion of the assigned tasks, and 30% of the research content.

SES600P2-203 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

論文研究指導 2 A

湯澤 規子

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は修士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】

学生は修士論文を作成するために、次の3つを目標にします。

- ①研究の核心となる「問い」を明確にする。
- ②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
- ③実証研究の実施と報告。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	参加者の「問い」を共有、テーマと文献の選定
第2回	研究とは何か	研究を進めていくための基礎的な知識とスキルを習得する
第3回	「問い」の設定と先行研究レビュー (1)	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する (第1回)
第4回	「問い」の設定と先行研究レビュー (2)	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する (第2回)
第5回	「問い」の設定と先行研究レビュー (3)	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する (第3回)
第6回	「問い」の設定と先行研究レビュー (4)	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する (第4回)
第7回	「問い」の設定と先行研究レビュー (5)	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する (第5回)
第8回	「問い」の再設定とブレフィールドワークの報告 (1)	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する (第1回)
第9回	「問い」の再設定とブレフィールドワークの報告 (2)	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する (第2回)
第10回	「問い」の再設定とブレフィールドワークの報告 (3)	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する (第3回)
第11回	「問い」の再設定とブレフィールドワークの報告 (4)	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する (第4回)

第12回	「問い」の再設定とブレフィールドワークの報告 (5)	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する (第5回)
第13回	修士論文のテーマ設定 (1)	2回の報告を総括し、修士論文のテーマについて報告し、議論する (第1回)
第14回	修士論文のテーマ設定 (2)	2回の報告を総括し、修士論文のテーマについて報告し、議論する (第2回)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学生は自分の問題関心に合わせて参考文献を選定したうえで熟読し、報告してください。かならず1度はフィールドワークに取り組み、その報告をして下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習における報告内容 (60%)、研究の準備状況 (40%) を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>地域経済学、日本近現代史、人文地理学  
 <研究テーマ>地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史  
 <主要研究業績>  
 ・『焼き芋とドーナツ—日米シスターフッド交流秘史』(単著、KADOKAWA、2023年)  
 ・『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』(単著、晶文社、2019年)  
 ・『胃袋の近代—食と人びとの日常史』(単著、名古屋大学出版会、2018年)  
 ・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』(単著、古今書院、2009年)  
 ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁  
 ・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】

◆Course outline

Students will learn analytical and thesis writing techniques for the preparation of master's theses and research papers.

◆Learning Objectives

Students will have the following three goals for their master's thesis

- (1) Clarify the "question" that is the core of the research.
- (2) To understand the relevant academic background through literature review and other means.
- (3) Conduct and report on empirical research.

◆Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to actively access, collect, organize, and read articles, literature, and other materials related to their own problem consciousness. The standard preparation and review time is 2 hours.

◆Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the content of the reports in the exercises (60%) and the preparation of the research (40%).

SES600P2 - 204 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600)

## 論文研究指導 2 B

湯澤 規子

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は修士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

### 【到達目標】

学生は、修士論文を作成するために、次の3つを目標にします。

- ①研究の核心となる「問い」を洗練する。
- ②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
- ③研究計画を立て、調査を実施し、報告する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の報告と検討 (1)	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する (第1回)
第2回	研究計画の報告と検討 (2)	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する (第2回)
第3回	研究計画の報告と検討 (3)	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する (第3回)
第4回	研究計画の報告と検討 (4)	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する (第4回)
第5回	研究計画の報告と検討 (5)	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する (第5回)
第6回	フィールドワークの報告と検討 (1)	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する (第1回)
第7回	フィールドワークの報告と検討 (2)	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する (第2回)
第8回	フィールドワークの報告と検討 (3)	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する (第3回)
第9回	フィールドワークの報告と検討 (4)	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する (第4回)
第10回	フィールドワークの報告と検討 (5)	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する (第5回)

第11回	研究計画のブラッシュアップ (1)	2回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する (第1回)
第12回	研究計画のブラッシュアップ (2)	2回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する (第2回)
第13回	研究計画のブラッシュアップ (3)	2回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する (第3回)
第14回	研究計画のブラッシュアップ (4)	2回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する (第4回)

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学生は、自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読することをすすめます。2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

演習における報告内容 (60%)、研究の準備状況 (40%) を総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 地域経済学、日本近現代史、人文地理学  
<研究テーマ> 地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史

<主要研究業績>

- ・『焼き芋とドーナツ—日米シスターフード交流秘史』(単著、KADOKAWA、2023年)
- ・『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』(単著、晶文社、2019年)
- ・『胃袋の近代—食と人びとの日常史』(単著、名古屋大学出版会、2018年)
- ・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』(単著、古今書院、2009年)
- ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
- ・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

### 【Outline (in English)】

#### ◆ Course outline

Students will learn analytical and thesis writing techniques for the preparation of master's theses and research papers.

#### ◆ Learning Objectives

Students will have the following three goals for their master's thesis

- (1) Clarify the "question" that is the core of the research.
- (2) To understand the relevant academic background through literature review and other means.
- (3) Conduct and report on empirical research.

#### ◆ Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to actively access, collect, organize, and read articles, literature, and other materials related to their own problem consciousness. The standard preparation and review time is 2 hours.

#### ◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the content of the reports in the exercises (60%) and the preparation of the research (40%).



## 修士論文

### 公共政策研究科論文指導教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

## 政策研究論文

### 公共政策研究科論文指導教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

SES700P2-001 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 A

岡松 暁子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講者の関心のあるテーマにつき、博士論文執筆のための指導を行う。文献解題以外はすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況により異なる。

### 【到達目標】

博士論文執筆のための土台となる情報を収集し、1年次終了までに論文のテーマと仮説を設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

博士課程1年生を対象とし、国際環境問題をめぐる法的諸問題につき文献講読、判例研究を行いながら、テーマの絞り込みを行う。続いて、テーマに関連する判例や学術論文などの文献を蒐集し、講読と分析を行いつつ、仮説の設定とその実証方法の検討を行う。文献解題以外は原則としてすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況による。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマの選定	各自の関心のあるテーマの候補について、議論の方向をさぐる。
2	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
3	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
4	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
5	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
6	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
7	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
8	テーマの設定（暫定テーマ）	暫定的にテーマと仮説を設定する。
9	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
10	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
11	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
12	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
13	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
14	研究計画書の提出	論文執筆のための研究計画書を提出する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に沿って文献の講読、分析等を行う。

### 【テキスト（教科書）】

受講者の関心に合わせて推薦する。

### 【参考書】

受講者の関心に合わせて推薦する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点100%

### 【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際法

<研究テーマ>国際海洋法、国際原子力法、国際環境法

<主要研究業績>

1. 繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部壤・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
2. 「ロンドン条約・議定書と福島原発「ALPS処理水」問題」『外交』Vol. 77、2023年。
3. 「国際原子力機関（IAEA）の安全基準と原発事故－国際法上の観点から」『論究ジュリスト』2016年秋号（19号）。

### 【Outline (in English)】

This course provides guidance for writing the doctoral dissertation on the theme of students' interests.

SES700P2-002 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 B

岡松 暁子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の設定したテーマにつき、博士論文執筆のための指導を行う。

### 【到達目標】

博士論文の提出に向けて、文献解題、問題点に関する討論を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

博士課程1年生を対象とし、国際問題をめぐる法的諸問題につき設定したテーマにそった博士論文の作成を行う。毎行われる論文執筆の進捗状況報告に対する指導を行う。また、設定されている中間報告や最終報告に向けたプレゼンテーションについても指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
2	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
3	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
4	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
5	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
6	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
7	目次案提出	初稿を提出し、検討する。
8	中間報告会のための指導	中間報告に向け、要点を簡潔にまとめ、目指す方向を明確に示す。
9	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
10	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
11	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
12	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
13	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
14	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に沿って文献の講読、分析等を行う。  
論文の執筆を進める。

### 【テキスト（教科書）】

受講者の関心に合わせて推薦する。

### 【参考書】

受講者の関心に合わせて推薦する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点100%

### 【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際法

<研究テーマ>国際海洋法、国際原子力法、国際環境法

<主要研究業績>

1. 繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部壤・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。

2. 「ロンドン条約・議定書と福島原発「ALPS処理水」問題」『外交』Vol. 77、2023年。

3. 「国際原子力機関（IAEA）の安全基準と原発事故－国際法上の観点から」

『論究ジュリスト』2016年秋号（19号）。

### 【Outline (in English)】

This course provides guidance for writing the doctoral dissertation on the theme of students' interests.

Participants will acquire the theory of international cooperation and field research methods through literature and practice.

Participants will improve their writing skills as well.

Participants are required to study at least 2 hours before and after the class.

The course grade will be based on final paper (50%), presentations (30%), and discussions (20%).

SES700P2-001 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 A

北川 徹哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

### 【到達目標】

1. 課題を設定する。
2. 既往の研究に関する文献調査を行う。
3. 課題解決への手段を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

調査とディスカッションを通じて、研究方針の策定と博士論文の執筆の準備を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現状分析	文献調査, 整理, 理解
2	現状分析	文献調査, 整理, 理解
3	現状分析	文献調査, 整理, 理解
4	現状分析	文献調査, 整理, 理解
5	現状分析	文献調査, 整理, 理解
6	現状分析	文献調査, 整理, 理解
7	第1～6回のとりまとめ	文献調査, 整理, 理解
8	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
9	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
10	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
11	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
12	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
13	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
14	第8～13回のとりまとめ	抽出された課題の解決方法の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全回：研究の実施, 資料とスライドの作成。  
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

資料とスライド（50%：論述の適切さ, 到達目標1～3への到達度）, 議論（50%：説明の正確さ, 質疑応答の適切さ）により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境流体, 気象社会論, 流体関連振動  
<研究テーマ>強風の社会への影響と対策, 気象リスクヘッジ, 数値流体解析

<主要研究業績>屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析, 第25回風工学シンポジウム論文集, 2018, pp.121-126. 平均回帰Ornstein-Uhlenbeck過程による日最大風速の模擬データの作成, 土木学会論文集A1 (構造・地震工学), Vol.73, No.3, 2017, pp.579-592. 淡路花博2000に導入された天候デリバティブについての一考察, 第23回風工学シンポジウム論文集, 2014, pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み, 日本風工学会論文集, Vol.32, No.2, 2007, pp.87-92.

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

Studies, investigations and discussions on the research issue for the doctor thesis.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

A. to deliberate on the research objective and plan,  
B. to obtain basic knowledges to proceed the doctor research and

C. to consider the methodology to analyze the data required in the doctor research.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria / Policy)

Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

SES700P2-002 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 B

北川 徹哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

### 【到達目標】

1. 課題を設定する。
2. 既往の研究に関する文献調査を行う。
3. 課題解決への手段を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

調査とディスカッションを通じて、研究方針の策定と博士論文の執筆の準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
2	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
3	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
4	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
5	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
6	解決方法の探索、中間報告会の準備	抽出された課題の解決方法の検討
7	第1～6回のとりまとめ、中間報告会の準備	抽出された課題の解決方法の検討
8	解決方法の具体化、中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
9	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
10	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
11	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
12	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
13	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
14	第8～13回のとりまとめ	解決方法のインプリメンテーション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全回：研究の実施、資料とスライドの作成。  
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

資料とスライド（50%：論述の適切さ、到達目標1～3への到達度）、議論（50%：説明の正確さ、質疑応答の適切さ）により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞環境流体、気象社会論、流体関連振動  
＜研究テーマ＞強風の社会への影響と対策、気象リスクヘッジ、数値流体解析

＜主要研究業績＞屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析、第25回風工学シンポジウム論文集、2018、pp.121-126。平均回帰Ornstein-Uhlenbeck過程による日最大風速の模擬データの作成、土木学会論文集A1（構造・地震工学）、Vol.73、No.3、2017、pp.579-592。淡路花博2000に導入された天候デリバティブについての一考察、第23回風工学シンポジウム論文集、2014、pp.19-24。Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699。自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み、日本風工学会論文集、Vol.32, No.2, 2007, pp.87-92。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

Studies, investigations and discussions on the research issue for the doctor thesis.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to deliberate on the research objective and plan,
- B. to obtain basic knowledges to proceed the doctor research and
- C. to consider the methodology to analyze the data required in the doctor research.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

SES700P2-001 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 A

小島 聡

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、博士課程の1年生の学生に対して研究指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ①博士論文の作成に向けて計画的に研究を進める。
- ②研究方法や博士論文の構成の仕方について学ぶ。

### 【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ①研究計画をデザインする。
- ②進捗状況の報告により研究成果を確認する。
- ③先行研究を調査し研究に反映する。
- ④フィールド調査から知見を得る。
- ⑤高度な研究能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

参加学生の研究計画や進捗状況に関する報告に基づいて指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoomによる双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究計画の検討	1年間の研究計画を作成しタイムスケジュールについて検討する。
2	フィールド調査プランの検討	1年間で実施する予定のフィールド調査のプランを作成し検討する。
3	先行研究の報告	先行研究の調査結果を報告する。
4	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
5	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
6	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
7	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
8	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
9	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
10	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
11	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
12	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
13	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
14	研究成果の確認	半期（Ⅰ期、Ⅱ期）の研究成果を確認し、次の半期（Ⅲ期、Ⅳ期～）の研究課題を検討する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。  
・博士論文に関する研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

特に用いない。

### 【参考書】

演習実施期間中に適宜、提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（50%）、課題への取り組み（50%）の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治論、自治体政策論  
<研究テーマ>持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション  
<主要研究業績>  
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）  
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）  
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）  
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）  
「上下流連携とサステナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）  
「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－（私）と（社会）の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）  
「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして（第2版）』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）  
「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

### 【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the first year of the doctoral program.

Students work on the following contents:

- (1)Plan research for doctoral dissertation.
- (2)Learn about research methods and how to structure doctoral dissertation.

Students aim at achieving the following goals:

- (1)Design the research plan for doctoral dissertation.
- (2)Confirm research results through progress reports.
- (3)Research existing studies and reflect them in your research.
- (4)Gain knowledg from field reseach.
- (5)Acquire advanced research ability.

Students need to proceed with research. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:Active class participation:50%,Assignments:50%

SES700P2-002 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 B

小島 聡

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、博士課程の1年生の学生に対して研究指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ①博士論文の作成に向けて計画的に研究を進める。
- ②研究方法や博士論文の構成の仕方について学ぶ。

### 【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ①研究計画をブラッシュアップする。
- ②進捗状況の報告により研究成果を確認する。
- ③先行研究を調査し研究に反映する。
- ④フィールド調査から知見を得る。
- ⑤高度な研究能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

サステナビリティ特殊研究 1 A に続いて、参加学生の研究計画や進捗状況の報告に基づいて指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoomによる双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究計画の調整	研究計画の細部とタイムスケジュールを調整する。
2	先行研究の報告	先行研究の調査結果を報告する。
3	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
4	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
5	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
6	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
7	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
8	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
9	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
10	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
11	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
12	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
13	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
14	研究成果の確認	1年間の研究成果を確認し、次年度の研究課題を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。  
・博士論文に関する研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

特に用いない。

### 【参考書】

演習実施期間中に適宜、提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（50%）、課題への取り組み（50%）の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治論、自治体政策論  
<研究テーマ>持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション  
<主要研究業績>  
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）  
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）  
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）  
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）  
「上下流連携とサステナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）  
「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－（私）と（社会）の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）  
「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして（第2版）』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）  
「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

### 【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the first year of the doctoral program.

Students work on the following contents:

- (1)Plan research for doctoral dissertation.
- (2)Learn about research methods and how to structure doctoral dissertation.

Students aim at achieving the following goals:

- (1)Brush up on the research plan for doctoral dissertation.
- (2)Confirm research results through progress reports.
- (3)Research existing studies and reflect them in your research.
- (4)Gain knowledg from field research.
- (5)Acquire advanced research ability.

Students need to proceed with research. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:Active class participation:50%,Assignments:50%



SES700P2-001 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 A

杉野 誠

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

設定した博士論文の骨子をもとに、各章の具体的な内容を完成させる。

### 【到達目標】

論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎回ゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去の進捗状況を報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	論文の方向性を報告する
第2回	関心テーマの設定	関心テーマの概要をとりまとめる
第3回	関心テーマの実現可能性	関心テーマが実施できるかを検討する
第4回	関連情報の収集	論文に関連する情報を収集する
第5回	関連情報の収集	論文に関連する情報を収集する
第6回	関連情報の分析	収集した関連情報を分析する
第7回	関連情報の分析	収集した関連情報を分析する
第8回	論文の実現可能性	論文の実現可能性を再検討し、論文の内容を確定する
第9回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第10回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第11回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第12回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第13回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第14回	春学期報告	論文の進捗状況を報告

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

受講者と相談のうえ決定する

### 【参考書】

適宜、関連する文献を紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

報告（PPT資料の作成および準備）40%とレポート60%を総合的に判断する。

### 【学生の意見等からの気づき】

新任のため該当しない

### 【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学

＜研究テーマ＞環境経済学

＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Complete each chapter of the dissertation according to the theme and overall outline set.

(Learning Objectives) Writing the dissertation.

(Learning activities outside of classroom) Collect, analyze, and writing the doctor dissertation.

(Grading Criteria /Policy) Grades will be based on 1)Presentation 40% and 2) term report 60%.

SES700P2-002 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 B

杉野 誠

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の分析および論文を執筆する。

### 【到達目標】

論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎回ゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去の進捗状況を報告し、議論を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究方針の確認	設定した研究テーマを確認する
第2回	データ収集	データの収集方法などを検討する
第3回	データ収集	データの収集方法などを検討する
第4回	データ収集	データの収集方法などを検討する
第5回	分析手法の解説	先行研究に用いられている分析手法の理解を深める
第6回	分析手法の解説	先行研究に用いられている分析手法の理解を深める
第7回	分析手法の解説	先行研究に用いられている分析手法の理解を深める
第8回	分析結果の報告	分析結果を報告し、追加的な分析の必要を検討する
第9回	分析結果の報告	分析結果を報告し、追加的な分析の必要を検討する
第10回	追加データ収集・分析	追加的なデータ収集およびヒアリング調査の結果を報告
第11回	論文の執筆	論文をまとめる
第12回	論文の執筆	論文の書き方
第13回	論文の執筆	論文の書き方
第14回	秋学期報告	論文の進捗状況を報告

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

受講者と相談のうえ決定する

### 【参考書】

適宜、関連する文献を紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

報告（PPT資料の作成および準備）40%とレポート60%を総合的に判断する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者がいないため、フィードバックできません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境経済学、応用ミクロ経済学  
<研究テーマ>環境経済学

<主要研究業績> Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Data collecting, data analysis and writing the dissertation.

(Learning Objectives) Writing the dissertation.

(Learning activities outside of classroom) Collect, analyze, and writing the doctor dissertation.

(Grading Criteria /Policy) Grades will be based on 1)Presentation 40% and 2) term report 60%.

SES700P2 - 001 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 A

高田 雅之

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む博士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

### 【到達目標】

博士課程1年生を対象として、研究設計と計画作成、先行研究の調査、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2年目の投稿論文作成に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、先行研究論文や関連する文献資料・事例を題材として研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第2回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第3回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第4回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第5回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第6回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第7回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第8回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第9回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第10回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第11回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第12回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究

第13回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第14回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。適宜資料を配布します。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学

<研究テーマ>

湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット

<主要研究業績>

「図説日本の湿地」（朝倉書店、2017）編集・共著  
 「湿地の科学と暮らし」（北大出版会、2017）共著  
 「湿地の博物誌」（北大出版会、2014）編者  
 「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会、2014）共著  
 Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.  
 Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.  
 Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

### 【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

### 【Outline (in English)】

Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for doctoral dissertations including theme setting and study methodology.

The goals of this class are to reach the research design and planning, find related paper/methodology, collect necessary data and promote these.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES700P2-002 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 B

高田 雅之

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価を含む博士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

### 【到達目標】

博士課程1年生を対象として、研究設計と計画作成、先行研究の調査、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2年目の投稿論文作成に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、先行研究論文や関連する文献資料・事例を題材として研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第2回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第3回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第4回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第5回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第6回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第7回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第8回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第9回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第10回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第11回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第12回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第13回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第14回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。適宜資料を配布します。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学

<研究テーマ>

湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット

<主要研究業績>

「図説日本の湿地」（朝倉書店、2017）編集・共著

「湿地の科学と暮らし」（北大出版会、2017）共著

「湿地の博物誌」（北大出版会、2014）編者

「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会、2014）共著

Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.

Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.

Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

### 【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

### 【Outline (in English)】

Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for doctoral dissertations including theme setting and study methodology.

The goals of this class are to reach the research design and planning, find related paper/methodology, collect necessary data and promote these.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES700P2-001 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

サステナビリティ特殊研究 1 A

高橋 五月

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は博士課程1年生を対象とした演習科目であり、学生は修士論文を振り返りつつ、博士論文研究に必要な文献調査および現地調査を実施することを目標とする。授業では、文献レビュー、現地調査をもとにした民族誌の記述について発表および意見交換を行い、学生は授業で得たフィードバックをもとに研究計画を立て、博士論文研究を進める。

【到達目標】

学生の到達目標は、1) 博士論文のテーマを絞る、2) テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、3) 事前調査を含む現地調査を実施する、4) リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、博士論文を作成するための指導をする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	文献講読と先行研究レビュー (1)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第3回	文献講読と先行研究レビュー (2)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第4回	文献講読と先行研究レビュー (3)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第5回	文献講読と先行研究レビュー (4)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第6回	文献講読と先行研究レビュー (5)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第7回	文献講読と先行研究レビュー (6)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第8回	文献講読と先行研究レビュー (7)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第9回	文献講読と先行研究レビュー (8)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む

第10回	民族誌の記述 (1)	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第11回	民族誌の記述 (2)	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第12回	民族誌の記述 (3)	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第13回	民族誌の記述 (4)	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第14回	博士論文進捗状況報告	博士論文進捗状況報告をする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献講読、文献レビュー作成、現地調査、博士論文の作成

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、プロポーザル (70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境人類学、海洋人類学、震災人類学

<研究テーマ> 日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学

<主要研究業績> 『Fukushima Futures: Survival Stories in a Repeatedly Ruined Seascape』(単著 University of Washington Press, 2023)、『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World (星の降るとき、3・11後の世界に生きる)』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5- 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】

Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for doctorate students to carry out their dissertation research. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing up their dissertations. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their dissertation proposals (70%).

SES700P2-002 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 B

高橋 五月

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は博士課程1年生を対象とした演習科目であり、学生は修士論文を振り返りつつ、博士論文研究に必要な文献調査および現地調査を実施することを目標とする。授業では、文献レビュー、現地調査をもとにした民族誌の記述について発表および意見交換を行い、学生は授業で得たフィードバックをもとに研究計画を立て、博士論文研究を進める。

### 【到達目標】

学生の到達目標は、1) 博士論文のテーマを絞る、2) テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、3) 事前調査を含む現地調査を実施する、4) リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、博士論文を作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	文献講読と先行研究レビュー（1）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第3回	文献講読と先行研究レビュー（2）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第4回	文献講読と先行研究レビュー（3）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第5回	文献講読と先行研究レビュー（4）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第6回	文献講読と先行研究レビュー（5）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第7回	文献講読と先行研究レビュー（6）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第8回	文献講読と先行研究レビュー（7）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第9回	文献講読と先行研究レビュー（8）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む

第10回	民族誌の記述（1）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第11回	民族誌の記述（2）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第12回	民族誌の記述（3）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第13回	民族誌の記述（4）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第14回	博士論文進捗状況報告	博士論文進捗状況報告をする。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読、文献レビュー作成、現地調査、博士論文の作成

### 【テキスト（教科書）】

特になし

### 【参考書】

受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、プロポーザル（70%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境人類学、海洋人類学、震災人類学

<研究テーマ> 日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学

<主要研究業績> 『Fukushima Futures: Survival Stories in a Repeatedly Ruined Seascape』（単著 University of Washington Press, 2023）、『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、3・11後の世界に生きる）』（共編 The New Pacific Press, 2014）、『Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5- 23（2014）、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

### 【Outline (in English)】

Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for doctorate students to carry out their dissertation research. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing up their dissertations. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their dissertation proposals (70%).

SES700P2-001 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 A

武貞 稔彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための演習指導（3年日以降）

### 【到達目標】

博士課程3年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なサーチを行ない、実際に博士論文を執筆、完成させると同時に的確な研究発表ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文執筆と進捗報告（第1回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第1回）
第2回	博士論文執筆と進捗報告（第2回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第2回）
第3回	博士論文執筆と進捗報告（第3回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第3回）
第4回	博士論文執筆と進捗報告（第4回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第4回）
第5回	博士論文執筆と進捗報告（第5回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第5回）
第6回	博士論文執筆と進捗報告（第6回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第6回）
第7回	博士論文執筆と進捗報告（第7回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第7回）
第8回	博士論文執筆と進捗報告（第8回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第8回）
第9回	博士論文執筆と進捗報告（第9回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第9回）
第10回	博士論文執筆と進捗報告（第10回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第10回）
第11回	博士論文執筆と進捗報告（第11回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第11回）
第12回	博士論文執筆と進捗報告（第12回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第12回）
第13回	博士論文執筆と進捗報告（第13回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第13回）

第14回 博士論文執筆と進捗報告（第14回） 演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に中間報告に向けた発表準備）（第14回）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習参加者との協議を通じて、博士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。博士論文（内容およびプレゼンテーション）70%、演習における積極性と貢献度30%

### 【学生の意見等からの気づき】

少人数演習のため該当せず。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

### 【Outline (in English)】

#### [Seminar Outline]

This is the third year seminar for authoring a doctoral dissertation.

#### [Learning Objectives]

The goal of this seminar for third-year doctoral students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a doctoral dissertation, and give an appropriate research presentation.

#### [Learning Activities outside of classroom]

The progress of writing the doctoral dissertation will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and follow them. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. We will also aim to make presentations at academic conferences. The standard preparation and review time for this exercise is 2 hours each.

#### [Grading Criteria/Policy]

The overall grade will be evaluated based on the following balance. Doctoral dissertation (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution in the seminar: 30%.

SES700P2-002 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 B

武貞 稔彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための演習指導（3年日以降）

### 【到達目標】

博士課程3年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なサーチを行ない、実際に博士論文を執筆、完成させると同時に的確な研究発表ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文執筆と進捗報告（第1回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第1回）
第2回	博士論文執筆と進捗報告（第2回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第2回）
第3回	博士論文執筆と進捗報告（第3回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第3回）
第4回	博士論文執筆と進捗報告（第4回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第4回）
第5回	博士論文執筆と進捗報告（第5回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第5回）
第6回	博士論文執筆と進捗報告（第6回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第6回）
第7回	博士論文執筆と進捗報告（第7回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第7回）
第8回	博士論文執筆と進捗報告（第8回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第8回）
第9回	博士論文執筆と進捗報告（第9回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第9回）
第10回	博士論文執筆と進捗報告（第10回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第10回）
第11回	博士論文執筆と進捗報告（第11回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第11回）
第12回	博士論文執筆と進捗報告（第12回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第12回）
第13回	博士論文執筆と進捗報告（第13回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第13回）

第14回 博士論文執筆と進捗報告（第14回） 演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に最終発表に向けた発表準備）（第14回）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習参加者との協議を通じて、博士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。博士論文（内容およびプレゼンテーション）70%、演習における積極性と貢献度30%

### 【学生の意見等からの気づき】

少人数演習のため該当せず。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

### 【Outline (in English)】

#### [Seminar Outline]

This is the third year seminar for authoring a doctoral dissertation.

#### [Learning Objectives]

The goal of this seminar for third-year doctoral students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a doctoral dissertation, and give an appropriate research presentation.

#### [Learning Activities outside of classroom]

The progress of writing the doctoral dissertation will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and follow them. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. We will also aim to make presentations at academic conferences. The standard preparation and review time for this exercise is 2 hours each.

#### [Grading Criteria/Policy]

The overall grade will be evaluated based on the following balance. Doctoral dissertation (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution in the seminar: 30%.



SES700P2-001 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 A

長谷川 直哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は博士論文の執筆に関係する先行研究について検討を行う。参加者は博士論文の構想や論点を踏まえ、検討すべき先行研究のリストを作成し毎回報告を行う。本授業を通じて、報告者は先行研究の論点と博士論文で取り上げる研究テーマの関係性を整理を行う。

### 【到達目標】

博士論文のテーマの絞り込みを行う上で必要となる、先行研究の到達点（論点）や研究方法を把握し、博士論文のフレームワークを構想する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎回、重要な先行研究について受講者による報告を求め、報告内容に関する討議を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針・進め方
第2回	これまでの研究内容	修士論文の内容についての報告について
第3回	博士論文の中間研究報告	研究テーマ・研究方法についての途中経過を報告
第4回	学会誌投稿論文の執筆計画	検討すべき先行研究のリストアップ
第5回	先行研究に関する報告① [E (環境)]	サステナブル経営に関する先行研究論文の検討
第6回	先行研究に関する報告② [E (環境)]	サステナブル経営に関する先行研究論文の検討
第7回	先行研究に関する報告③ [S (社会)]	サステナブル経営に関する先行研究論文の検討
第8回	先行研究に関する報告④ [S (社会)]	サステナブル経営に関する先行研究論文の検討
第9回	先行研究に関する報告⑤ [G (ガバナンス)]	サステナブル経営に関する先行研究論文の検討
第10回	先行研究に関する報告⑥ [G (ガバナンス)]	サステナブル経営に関する先行研究論文の検討
第11回	学会誌投稿論文のテーマ報告	博士論文提出の条件である学会誌投稿論文のテーマ決定
第12回	学会誌投稿論文の論点整理①	学会誌投稿論文の論定についての報告・討議
第13回	学会誌投稿論文の論点整理②	学会誌投稿論文の論定についての報告・討議
第14回	学会誌投稿論文の論点整理③	学会誌投稿論文の論定についての報告・討議

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生と相談し、進め方を決定していく。

### 【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

### 【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文真堂,2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2023年  
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜-時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年

Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉編著『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年  
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年  
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年

### 【成績評価の方法と基準】

下記基準に基づいて評価する。

研究報告：90%

討議への貢献度：10%

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義で学生からの意見を聴取し、講義に反映させている。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【経営学】

<専門領域>

CSR・企業倫理・ESG投資

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「企業社会の変容と共通価値の創造」『損害保険研究第76巻第3号』2014年

「利益の質保証-企業価値評価を巡る投資家の責任-」『日本経営倫理学会誌第20号』2013年

### 【Outline (in English)】

In this seminar, I will provide guidance on writing doctoral dissertations. The objective of this seminar is to develop multifaceted and scholarly problem-solving skills through the process of composing a doctoral thesis. The standard preparation and review time for this seminar is set at 2 hours each. Evaluation will be based on research content (90%) and presentation skills (10%).

SES700P2-002 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 B

長谷川 直哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は博士論文の執筆に関係する先行研究について検討を行う。参加者は博士論文の構想や論点を踏まえ、検討すべき先行研究のリストを作成し毎回報告を行う。本授業を通じて、報告者は先行研究の論点と博士論文で取り上げる研究テーマの関係性を整理を行う。

### 【到達目標】

博士論文のテーマの絞り込みを行う上で必要となる、先行研究の到達点（論点）や研究方法を把握し、博士論文のフレームワークを構想する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎回、重要な先行研究について受講者による報告を求め、報告内容に関する討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針・進め方
第2回	これまでの研究内容について	学会誌投稿論文、学会発表など、これまでの研究業績についての報告
第3回	博士論文執筆のベースとなる予備論文に関する報告・討議	予備論文のテーマ・内容についての報告と討議
第4回	予備論文のフレームワークの確定	予備論文の執筆内容と執筆スケジュールの確定
第5回	最新論文の検討①	博士論文に関係する論文の検討
第6回	最新論文の検討②	博士論文に関係する論文の検討
第7回	最新論文の検討③	博士論文に関係する論文の検討
第8回	予備論文の中間報告	予備論文の進捗状況についての報告・討議
第9回	最新論文の検討④	博士論文に関係する論文の検討
第10回	最新論文の検討⑤	博士論文に関係する論文の検討
第11回	最新論文の検討⑥	博士論文に関係する論文の検討
第12回	予備論文の最終報告	完成された予備論文の報告・討議
第13回	予備論文の課題検討①	予備論文で抽出された研究課題等の整理
第14回	予備論文の課題検討②	予備論文で抽出された研究課題等の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生と相談し、進め方を決定していく。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文真堂,2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2023年

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜-時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年

Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉編著『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年

長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年

【成績評価の方法と基準】

下記基準に基づいて評価する。

研究報告：90%

討議への貢献度：10%

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義で学生からの意見を聴取し、講義に反映させている。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

特になし

【経営学】

<専門領域>

CSR・企業倫理・ESG投資

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「企業社会の変容と共通価値の創造」『損害保険研究第76巻第3号』2014年

「利益の質保証-企業価値評価を巡る投資家の責任-」『日本経営倫理学会誌第20号』2013年

【Outline (in English)】

In this seminar, I will provide guidance on writing doctoral dissertations. The objective of this seminar is to develop multifaceted and scholarly problem-solving skills through the process of composing a doctoral thesis. The standard preparation and review time for this seminar is set at 2 hours each. Evaluation will be based on research content (90%) and presentation skills (10%).

SES700P2-001 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 A

藤田 研二郎

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、博士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO論などの文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究について報告し、ディスカッションを行う。

### 【到達目標】

環境社会学、NPO論などの発展的な知識をもち、最近の研究動向を批判的に検討している。博士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを探究できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

文献レビュー、研究報告とディスカッションを中心とする。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の授業の概要、文献レビューの進め方を示す。
第2回	研究の基礎	研究のプロセスを示す。研究テーマの候補を設定する。
第3回	文献レビュー①	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第4回	文献レビュー②	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第5回	文献レビュー③	環境運動論の文献を読み、ディスカッションする。
第6回	文献レビュー④	環境運動論の文献を読み、ディスカッションする。
第7回	文献レビュー⑤	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第8回	文献レビュー⑥	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第9回	文献レビュー⑦	環境ガバナンス論の文献を読み、ディスカッションする。
第10回	文献レビュー⑧	環境ガバナンス論の文献を読み、ディスカッションする。
第11回	文献レビュー⑨	市民-行政のパートナーシップに関する文献を読み、ディスカッションする。
第12回	文献レビュー⑩	市民-行政のパートナーシップに関する文献を読み、ディスカッションする。
第13回	文献レビュー⑪	地域社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第14回	文献レビュー⑫	地域社会学の文献を読み、ディスカッションする。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を事前に読む。自身の研究を進め、報告に向けて準備する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

文献は、受講者の関心を考慮しながら選定する。

### 【参考書】

環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

環境社会学会編、2023、『環境社会学事典』丸善出版。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（15%）+文献レビュー（25%）+研究報告（60%）、を想定。

### 【学生の意見等からの気づき】

提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。またPCを使う回があるため、各自用意すること。

### 【その他の重要事項】

修士課程「論文研究指導」と合同で開講。

### 【担当教員の専門分野等】

（専門領域）

環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性

（研究テーマ）

環境問題解決に向けた市民の活動と行政、行政との連携

地域の課題解決と環境保全の両立を考える

（主要研究業績）

藤田研二郎、2019、『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版。

### 【Outline (in English)】

#### （Course Outline）

This class will provide students with research guidance for writing their doctoral thesis. Students will review literature and recent research trends in environmental sociology, non-profit organization research, etc. as well as report and discuss their research.

#### （Learning Objectives）

Students should be able to do the followings:

- To learn the advanced knowledge of environmental sociology, non-profit organization research, etc., and critically review the recent research trends.

- To develop the research themes for writing their doctoral thesis.

#### （Learning Activities Outside of Classroom）

Reading literature. Preparing for research presentations. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### （Grading Criteria/Policy）

Regular Work (15%) + Literature Review (25%) + Research Presentation (60%).

SES700P2-002 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 B

藤田 研二郎

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、博士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO論などの文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究について報告し、ディスカッションを行う。

### 【到達目標】

環境社会学、NPO論などの発展的な知識をもち、最近の研究動向を批判的に検討している。博士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを探求できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

文献レビュー、研究報告とディスカッションを中心とする。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の授業の概要、文献レビュー、研究報告の進め方を示す。
第2回	文献レビュー①	協同組合論の文献を読み、ディスカッションする。
第3回	文献レビュー②	協同組合論の文献を読み、ディスカッションする。
第4回	文献レビュー③	社会的企業論の文献を読み、ディスカッションする。
第5回	文献レビュー④	社会的企業論の文献を読み、ディスカッションする。
第6回	研究報告①	研究テーマを設定し、関連する先行研究のリストを作成する。
第7回	研究報告②	リストのなかから主要な先行研究をレビューし、ディスカッションする。
第8回	研究報告③	リストのなかから主要な先行研究をレビューし、ディスカッションする。
第9回	研究報告④	リストのなかから主要な先行研究をレビューし、ディスカッションする。
第10回	研究報告⑤	社会調査の方法を学ぶ。研究テーマにもとづき、調査計画を立てる。
第11回	研究報告⑥	データ分析の方法を学ぶ。研究テーマにもとづき、分析計画を立てる。
第12回	研究報告⑦	調査・分析結果について、研究報告を行い、ディスカッションする。
第13回	研究報告⑧	調査・分析結果について、研究報告を行い、ディスカッションする。

第14回 研究報告⑨

調査・分析結果について、研究報告を行い、ディスカッションする。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を事前に読む。自身の研究を進め、報告に向けて準備する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

文献は、受講者の関心を考慮しながら選定する。

### 【参考書】

環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

環境社会学会編、2023、『環境社会学事典』丸善出版。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（15%）+文献レビュー（25%）+研究報告（60%）、を想定。

### 【学生の意見等からの気づき】

提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。またPCを使う回があるため、各自用意すること。

### 【その他の重要事項】

修士課程「論文研究指導」と合同で開講。

### 【担当教員の専門分野等】

（専門領域）

環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性

（研究テーマ）

環境問題解決に向けた市民の活動と行政、行政との連携

地域の課題解決と環境保全の両立を考える

（主要研究業績）

藤田研二郎、2019、『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版。

### 【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class will provide students with research guidance for writing their doctoral thesis. Students will review literature and recent research trends in environmental sociology, non-profit organization research, etc. as well as report and discuss their research.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To learn the advanced knowledge of environmental sociology, non-profit organization research, etc., and critically review the recent research trends.

- To develop the research themes for writing their doctoral thesis.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Reading literature. Preparing for research presentations. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (15%) + Literature Review (25%) + Research Presentation (60%).

SES700P2-001 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 A

松本 倫明

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文のための研究指導を目的とする。

### 【到達目標】

博士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講生の関心の方向性を発表する。
第2回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第3回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第4回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第5回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第6回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第7回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第8回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第9回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第10回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第11回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第12回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第13回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第14回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指導中に適宜指示する。

### 【参考書】

指導中に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況を基準にする（100%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

なし。

### 【その他の重要事項】

受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>理論天文学

<研究テーマ>星形成、宇宙天気

<主要研究業績>

① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123

② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77

③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Seminar for doctoral thesis.

(Learning Objectives) This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.

(Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) Research progress (100%).

SES700P2-002 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 B

松本 倫明

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文のための研究指導を目的とする。

### 【到達目標】

博士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	今後のロードマップを確認する。
第2回	研究の方法	研究方法について指導する。
第3回	研究の方法	研究方法について指導する。
第4回	研究の方法	研究方法について指導する。
第5回	研究の方法	研究方法について指導する。
第6回	研究の方法	研究方法について指導する。
第7回	研究の方法	研究方法について指導する。
第8回	研究の方法	研究方法について指導する。
第9回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第10回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第11回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第12回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第13回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第14回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指導中に適宜指示する。

### 【参考書】

指導中に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況を基準にする（100%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

なし。

### 【その他の重要事項】

受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 理論天文学  
<研究テーマ> 星形成、宇宙天気  
<主要研究業績>

- ① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123
- ② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77
- ③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Seminar for a doctoral thesis.

(Learning Objectives) This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.

(Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria / Policy) Research progress (100%).

SES700P2-001 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 A

宮川 路子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマに基づいて文献調査を行い、論文執筆を開始する。また、博士課程中間報告会に向け準備を行う。

### 【到達目標】

博士論文の完成を目指してより内容を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。講義の方法は対面で行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第2回	論文執筆(1)	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆(2)	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆(3)	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆(4)	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆(5)	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆(6)	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆(7)	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆(8)	論文の執筆を行う。
第10回	論文執筆(9)	論文の執筆を行う。
第11回	論文執筆(10)	論文の執筆を行う。
第12回	論文執筆(11)	論文の執筆を行う。
第13回	論文執筆(12)	論文の執筆を行う。
第14回	中間報告会の準備	論文の執筆を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況（100%）

### 【学生の意見等からの気づき】

お互いにしっかりと連絡を取り、報告を心がける。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学

<研究テーマ>就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012年

ソフト面から考える快適職場—職場のメンタルヘルス対策の一環として— 労働安全衛生広報 2010年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健 21 2010年

### 【Outline (in English)】

As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.

The goal for students is to acquire expertise and research skills that will enable them to obtain a doctoral degree and to develop the ability to write a dissertation.

### Learning Objectives

The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.

Students will write their dissertation by selecting a research concept and topic, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and formulating and testing a hypothesis.

### Learning activities outside of classroom

Students will conduct research on their research topic. Students will prepare resumes, materials, etc. for their reports.

Grading Policy: Depends on the progress of the paper (100%).

SES700P2-002 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 B

宮川 路子

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

博士論文を完成させる。

### 【到達目標】

博士論文を完成させ、審査で合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の提出
第8回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第9回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第10回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第11回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第12回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第13回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第14回	審査会	審査会で発表する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

論文執筆を進める。ゼミで報告するためのレジュメを作成する。

### 【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況による (100%)

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【担当教員の専門分野】

<専門領域> 公衆衛生学、産業保健、統合医療 (分子整合栄養療法、水素療法)、統計学

<研究テーマ> 就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012年

ソフト面から考える快適職場—職場のメンタルヘルス対策の一環として— 労働安全衛生広報 2010年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健 21 2010年

### 【これまで指導した博士論文】

1名

### 【Outline (in English)】

Outline and Learning Objectives: Complete doctoral dissertation.

Learning activities outside of classroom: Proceed with writing the paper. Prepare a resume to present in the seminar.

Grading policy: Depends on the progress of the paper (100%)



SES700P2 - 001 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

**サステナビリティ特殊研究 1 A**

**渡邊 誠**

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文の作成を完成させるために必要な事項について学ぶ。受講者が研究者になるために必要な高度な研究力と実践力を修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、分析・評価手法の選定、論文技法と表現法、口頭発表法などについて、その基礎的かつ発展的な内容を修得する。

**【到達目標】**

研究を遂行するための高度な力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、口頭発表を行うことができるようになることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。実際の授業では受講者のもっている学術的関心事および研究テーマの確認から論文作成、学会報告までの広範囲にわたる内容に触れることになる。以下の【授業計画】は、授業の中で特に意識したい内容を示したものである。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	研究活動の方針	学術的関心事と研究目標・目的の検討および確認
第3回	テーマ検討 (妥当性、実現性の観点から)	課題の検討とテーマ選定への考察および確認
第4回	テーマ検討 (新規性、社会的意義の観点から)	研究の意義と社会的インパクトの検討および確認
第5回	先行研究の調査と分析 (文献収集)	文献調査およびその確認
第6回	先行研究の調査と分析 (論点整理)	文献調査と先行研究の精査および確認
第7回	視点・論点の検討 (研究課題の検討)	リサーチクエスションの導出および確認
第8回	視点・論点の検討 (研究課題の論点整理)	研究テーマの検討および確認
第9回	分析・評価手法の検討 (論点整理)	分析・評価手法の検討および確認
第10回	分析・評価手法の検討 (選定)	分析・評価手法の選定および確認
第11回	研究の設計・計画 (概要設計)	研究計画の概要検討および確認

第12回	研究の設計・計画 (詳細設計)	研究計画の詳細検討および確認
第13回	研究活動の方針 (再確認)	研究目標・目的の再検討および再確認
第14回	総括	まとめ

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

**【テキスト (教科書)】**

使用しない。

**【参考書】**

開講時に指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

討論参加の充実度100%によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学  
 <研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス  
 <主要研究業績> Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

**【Outline (in English)】**

(Course outline) This is a seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: analysis of previous works, derivation of research questions, planning of investigation, verification of analysis methods, derivation of the points at issue, evaluation of results, report technics concerning articles and oral announcement, and other points required. This seminar deals with the basic aspects in preparing doctor's thesis or research articles contributed to an attached society.

(Learning Objectives) In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2-002 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 1 B

渡邊 誠

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文の作成を完成させるために必要な事項についてさらに学ぶ。受講者が研究者になるために必要なより高度な研究力と実践力を修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、分析・評価手法の選定、論文技法と表現法、口頭発表法などについて、その基礎的かつ発展的な内容を修得する。

### 【到達目標】

研究を遂行するためのより高度な力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、口頭発表を行うことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。実際の授業では受講者のもっている学術的関心事および研究テーマの確認から論文作成、学会報告までの広範囲にわたる内容に触れることになる。以下の【授業計画】は、授業の中で特に意識したい内容を示したものである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	リサーチクエスションの再検討	研究課題、研究目標の再検討と再確認
第3回	総合討論（研究報告と検討）	研究進捗状況の報告、ディスカッション
第4回	総合討論（研究報告と論点確認）	研究進捗状況の報告、論点確認
第5回	口頭報告と表現研究（資料作成法）	資料作成法の検討および確認
第6回	口頭報告と表現研究（プレゼンテーション法）	表現法の検討および確認
第7回	総合討論（課題検討）	研究進捗状況の報告、課題の確認
第8回	総合討論（主張事項検討）	研究進捗状況の報告、主張事項検討
第9回	論文構造研究（章、節の構成）	章・節構造検討および確認
第10回	論文構造研究（文章構成）	文章展開法検討および確認
第11回	論文作成と表現研究（学術的表現）	アカデミックライティングと文章表現技法などの検討および確認
第12回	論文作成と表現研究（効果的表現）	図表、各種データの掲載法などの検討および確認
第13回	研究活動成果の検討	研究遂行の完成度、社会的貢献性などの検討
第14回	総括	まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

討論参加の充実度100%によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

各々の研究の進捗状況を勘案しながら進捗を柔軟に考えていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学

<研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス

<主要研究業績> Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

### 【Outline (in English)】

(Course outline) This is a developed seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: analysis of previous works, derivation of research questions, planning of investigation, verification of analysis methods, derivation of the points at issue, evaluation of results, report technics concerning articles and oral announcement, and other points required. This seminar deals with the developed aspects in preparing doctor's thesis or research articles contributed to an attached society.

(Learning Objectives) In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2-003 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 2 A

小島 聡

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、博士課程の2年生の学生に対して研究指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ①博士論文の作成に向けて計画的に研究を進める。
- ②研究方法や博士論文の構成の仕方について学ぶ。

### 【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ①研究計画をデザインする。
- ②進捗状況の報告により研究成果を確認する。
- ③先行研究を調査し研究に反映する。
- ④フィールド調査から知見を得る。
- ⑤高度な研究能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

参加学生の研究計画や進捗状況に関する報告に基づいて指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoomによる双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の検討	1年間の研究計画を作成しタイムスケジュールについて検討する。
第2回	フィールドスタディ調査プランの検討	1年間で実施する予定のフィールド調査のプランを作成し検討する。
第3回	先行研究の報告	先行研究の調査結果を報告する。
第4回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
第5回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
第6回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
第7回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
第8回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
第9回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
第10回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
第11回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
第12回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
第13回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成して報告する。
第14回	研究成果の確認	半期（Ⅰ期、Ⅱ期）の研究成果を確認し、次の半期（Ⅲ期、Ⅳ期）の研究課題を検討する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。  
・博士論文に関する研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

特に用いない。

### 【参考書】

演習実施期間中に適宜、提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（50%）、課題への取り組み（50%）の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治論、自治体政策論  
<研究テーマ>持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション  
<主要研究業績>  
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）  
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）  
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）  
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）  
「上下流連携とサステナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）  
「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）  
「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして(第2版)』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）  
「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

### 【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the second year of the doctoral program.

Students work on the following contents:

- (1) Plan research for doctoral dissertation.
- (2) Learn about research methods and how to structure doctoral dissertation.

Students aim at achieving the following goals:

- (1) Design the research plan for doctoral dissertation.
- (2) Confirm research results through progress reports.
- (3) Research existing studies and reflect them in your research.
- (4) Gain knowledge from field research.
- (5) Acquire advanced research ability.

Students need to proceed with research. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Active class participation:50%, Assignments:50%

SES700P2-004 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 2 B

小島 聡

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、博士課程の2年生の学生に対して研究指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ①博士論文の作成に向けて計画的に研究を進める。
- ②研究方法や博士論文の構成の仕方について学ぶ。

### 【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ①研究計画をブラッシュアップする。
- ②進捗状況の報告により研究成果を確認する。
- ③先行研究を調査し研究に反映する。
- ④フィールド調査から知見を得る。
- ⑤高度な研究能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

サステナビリティ特殊研究 2A に続いて、参加学生の研究計画や進捗状況の報告に基づいて指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoom による双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の調整	研究計画の細部とタイムスケジュールを調整する。
第2回	先行研究の報告	先行研究の調査結果を報告する。
第3回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
第4回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
第5回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
第6回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
第7回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
第8回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
第9回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
第10回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
第11回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
第12回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
第13回	進捗状況の報告	進捗状況についてペーパーを作成し報告する。
第14回	研究成果の確認	1年間の研究成果を確認し、次年度の研究課題を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。  
・博士論文に関する研究を進めること。

### 【テキスト（教科書）】

特に用いない。

### 【参考書】

演習実施期間中に適宜、提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（50%）、課題への取り組み（50%）の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

### 【教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治論、自治体政策論

<研究テーマ>持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション

<主要研究業績>

「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）

「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）

「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）

「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）

「上下流連携とサステナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）

「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）

「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして(第2版)』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）

「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

### 【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the second year of the doctoral program.

Students work on the following contents:

- (1)Plan research for doctoral dissertation.
- (2)Learn about research methods and how to structure doctoral dissertation.

Students aim at achieving the following goals:

- (1)Brush up on the research plan for doctoral dissertation.
- (2)Confirm research results through progress reports.
- (3)Research existing studies and reflect them in your research.
- (4)Gain knowledg from field research.
- (5)Acquire advanced research ability.

Students need to proceed with research. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:Active class participation:50%,Assignments:50%

SES700P2-003 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 2 A

杉野 誠

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

設定した博士論文の骨子をもとに、各章の具体的な内容を完成させる。

### 【到達目標】

論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎回ゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去の進捗状況を報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	論文の方向性を報告する
第2回	関心テーマの設定	関心テーマの概要をとりまとめる
第3回	関心テーマの実現可能性	関心テーマが実施できるかを検討する
第4回	関連情報の収集	論文に関連する情報を収集する
第5回	関連情報の収集	論文に関連する情報を収集する
第6回	関連情報の分析	収集した関連情報を分析する
第7回	関連情報の分析	収集した関連情報を分析する
第8回	論文の実現可能性	論文の実現可能性を再検討し、論文の内容を確定する
第9回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第10回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第11回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第12回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第13回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手法・データを理解する
第14回	春学期報告	論文の進捗状況を報告

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

受講者と相談のうえ決定する

### 【参考書】

適宜、関連する文献を紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

報告（PPT資料の作成および準備）40%とレポート60%を総合的に判断する。

### 【学生の意見等からの気づき】

新任のため該当しない

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境経済学、応用ミクロ経済学

<研究テーマ>環境経済学

<主要研究業績> Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Complete each chapter of the dissertation according to the theme and overall outline set.

(Learning Objectives) Writing the dissertation.

(Learning activities outside of classroom) Collect, analyze, and writing the doctor dissertation.

(Grading Criteria /Policy) Grades will be based on 1)Presentation 40% and 2) term report 60%.

SES700P2-004 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究2 B

杉野 誠

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の分析および論文を執筆する。

### 【到達目標】

論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎回ゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去の進捗状況を報告し、議論を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究方針の確認	設定した研究テーマを確認する
第2回	データ収集	データの収集方法などを検討する
第3回	データ収集	データの収集方法などを検討する
第4回	データ収集	データの収集方法などを検討する
第5回	分析手法の解説	先行研究に用いられている分析手法の理解を深める
第6回	分析手法の解説	先行研究に用いられている分析手法の理解を深める
第7回	分析手法の解説	先行研究に用いられている分析手法の理解を深める
第8回	分析結果の報告	分析結果を報告し、追加的な分析の必要を検討する
第9回	分析結果の報告	分析結果を報告し、追加的な分析の必要を検討する
第10回	追加データ収集・分析	追加的なデータ収集およびヒアリング調査の結果を報告
第11回	論文の執筆	論文をまとめる
第12回	論文の執筆	論文の書き方
第13回	論文の執筆	論文の書き方
第14回	秋学期報告	論文の進捗状況を報告

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

受講者と相談のうえ決定する

### 【参考書】

適宜、関連する文献を紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

報告（PPT資料の作成および準備）40%とレポート60%を総合的に判断する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者がいないため、フィードバックできません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境経済学、応用ミクロ経済学  
<研究テーマ>環境経済学

<主要研究業績> Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Data collecting, data analysis and writing the dissertation.

(Learning Objectives) Writing the dissertation.

(Learning activities outside of classroom) Collect, analyze, and writing the doctor dissertation.

(Grading Criteria /Policy) Grades will be based on 1)Presentation 40% and 2) term report 60%.

SES700P2 - 003 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 2 A

長谷川 直哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は博士論文の執筆に関係する先行研究について検討を行う。参加者は博士論文の構想や論点を踏まえ、検討すべき先行研究のリストを作成し毎回報告を行う。本授業を通じて、報告者は先行研究の論点と博士論文で取り上げる研究テーマの関係性を整理を行う。

### 【到達目標】

博士論文のテーマの絞り込みを行う上で必要となる、先行研究の到達点（論点）や研究方法を把握し、博士論文のフレームワークを構想する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎回、重要な先行研究について受講者による報告を求め、報告内容に関する討議を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針・進め方
第2回	これまでの研究内容	修士論文の内容についての報告について
第3回	博士論文の中間研究報告	研究テーマ・研究方法についての途中経過を報告
第4回	学会誌投稿論文の執筆計画	検討すべき先行研究のリストアップ
第5回	先行研究に関する報告① [E (環境)]	サステナブル経営に関する先行研究論文の検討
第6回	先行研究に関する報告② [E (環境)]	サステナブル経営に関する先行研究論文の検討
第7回	先行研究に関する報告③ [S (社会)]	サステナブル経営に関する先行研究論文の検討
第8回	先行研究に関する報告④ [S (社会)]	サステナブル経営に関する先行研究論文の検討
第9回	先行研究に関する報告⑤ [G (ガバナンス)]	サステナブル経営に関する先行研究論文の検討
第10回	先行研究に関する報告⑥ [G (ガバナンス)]	サステナブル経営に関する先行研究論文の検討
第11回	学会誌投稿論文のテーマ報告	博士論文提出の条件である学会誌投稿論文のテーマ決定
第12回	学会誌投稿論文の論点整理①	学会誌投稿論文の論定についての報告・討議
第13回	学会誌投稿論文の論点整理②	学会誌投稿論文の論定についての報告・討議
第14回	学会誌投稿論文の論点整理③	学会誌投稿論文の論定についての報告・討議

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生と相談し、進め方を決定していく。

### 【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

### 【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文真堂,2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2023年  
 長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年  
 Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉編著『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年  
 長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年  
 長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年  
 長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年  
 長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年

### 【成績評価の方法と基準】

下記基準に基づいて評価する。

研究報告：90%

討議への貢献度：10%

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義で学生からの意見を聴取し、講義に反映させている。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【経営学】

<専門領域>

CSR・企業倫理・ESG投資

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「企業社会の変容と共通価値の創造」『損害保険研究第76巻第3号』2014年

「利益の質保証－企業価値評価を巡る投資家の責任－」『日本経営倫理学会誌第20号』2013年

### 【Outline (in English)】

In this seminar, I will provide guidance on writing doctoral dissertations. The objective of this seminar is to develop multifaceted and scholarly problem-solving skills through the process of composing a doctoral thesis. The standard preparation and review time for this seminar is set at 2 hours each. Evaluation will be based on research content (90%) and presentation skills (10%).

SES700P2-004 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究2 B

長谷川 直哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は博士論文の執筆に関係する先行研究について検討を行う。参加者は博士論文の構想や論点を踏まえ、検討すべき先行研究のリストを作成し毎回報告を行う。本授業を通じて、報告者は先行研究の論点と博士論文で取り上げる研究テーマの関係性を整理を行う。

### 【到達目標】

博士論文のテーマの絞り込みを行う上で必要となる、先行研究の到達点（論点）や研究方法を把握し、博士論文のフレームワークを構想する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎回、重要な先行研究について受講者による報告を求め、報告内容に関する討議を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針・進め方
第2回	これまでの研究内容について	学会誌投稿論文、学会発表など、これまでの研究業績についての報告
第3回	博士論文執筆のベースとなる予備論文に関する報告・討議	予備論文のテーマ・内容についての報告と討議
第4回	予備論文のフレームワークの確定	予備論文の執筆内容と執筆スケジュールの確定
第5回	最新論文の検討①	博士論文に関係する論文の検討
第6回	最新論文の検討②	博士論文に関係する論文の検討
第7回	最新論文の検討③	博士論文に関係する論文の検討
第8回	予備論文の中間報告	予備論文の進捗状況についての報告・討議
第9回	最新論文の検討④	博士論文に関係する論文の検討
第10回	最新論文の検討⑤	博士論文に関係する論文の検討
第11回	最新論文の検討⑥	博士論文に関係する論文の検討
第12回	予備論文の最終報告	完成された予備論文の報告・討議
第13回	予備論文の課題検討①	予備論文で抽出された研究課題等の整理
第14回	予備論文の課題検討②	予備論文で抽出された研究課題等の整理

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生と相談し、進め方を決定していく。

### 【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

### 【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文真堂,2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2023年

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜-時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年

Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉編著『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年

長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年

### 【成績評価の方法と基準】

下記基準に基づいて評価する。

研究報告：90%

討議への貢献度：10%

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義で学生からの意見を聴取し、講義に反映させている。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【経営学】

<専門領域>

CSR・企業倫理・ESG投資

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「企業社会の変容と共通価値の創造」『損害保険研究第76巻第3号』2014年

「利益の質保証-企業価値評価を巡る投資家の責任-」『日本経営倫理学会誌第20号』2013年

### 【Outline (in English)】

In this seminar, I will provide guidance on writing doctoral dissertations. The objective of this seminar is to develop multifaceted and scholarly problem-solving skills through the process of composing a doctoral thesis. The standard preparation and review time for this seminar is set at 2 hours each. Evaluation will be based on research content (90%) and presentation skills (10%).



SES700P2-003(環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究2 A

藤倉 良

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文を執筆し、博士課程中間報告会に向けて準備を行う。

### 【到達目標】

論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎週土曜日のゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去1週間の進捗状況を報告し、議論を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第10回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第11回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第12回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第13回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第14回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次のゼミまでに指示された作業を行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況（100%）

### 【学生の意見等からの気づき】

密接に連絡を取り合う。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面で行うこともある。

### 【Outline (in English)】

This class is the second year of the doctoral dissertation writing process. Based on the information collected up to the last year, students will prepare a draft outline of their dissertation to be presented at the interim report meeting.

SES700P2 - 004 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究2 B

藤倉 良

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程中間報告会に向けて準備を行う。

### 【到達目標】

博士課程中間報告会の準備を完了し、中間報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎週土曜日のゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去1週間の進捗状況を報告し、議論を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第10回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。
第11回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。
第12回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。
第13回	論文執筆	中間報告会の評価を受け、論文の執筆を行う。
第14回	論文執筆	中間報告会の評価を受け、論文の執筆を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況（100%）

### 【学生の意見等からの気づき】

密接に連絡を取り合う。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面で行うこともある。

### 【Outline (in English)】

This class corresponds to the second half of the second year of the doctoral dissertation writing process. The outline of the doctoral dissertation will be finalized based on the suggestions given by the faculty members at the interim debriefing session.

SES700P2-003(環境創成学/Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究2 A

宮川 路子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマに基づいて文献調査を行い、論文執筆を開始する。また、博士課程中間報告会に向け準備を行う。

### 【到達目標】

博士論文の完成を目指してより内容を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。講義の方法は対面で行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第2回	論文執筆(1)	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆(2)	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆(3)	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆(4)	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆(5)	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆(6)	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆(7)	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆(8)	論文の執筆を行う。
第10回	論文執筆(9)	論文の執筆を行う。
第11回	論文執筆(10)	論文の執筆を行う。
第12回	論文執筆(11)	論文の執筆を行う。
第13回	論文執筆(12)	論文の執筆を行う。
第14回	中間報告会の準備	論文の執筆を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況（100%）

### 【学生の意見等からの気づき】

お互いにしっかりと連絡を取り、報告を心がける。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学

<研究テーマ>就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012年

ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー 労働安全衛生広報 2010年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健21 2010年

### 【Outline (in English)】

As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.

The goal for students is to acquire expertise and research skills that will enable them to obtain a doctoral degree and to develop the ability to write a dissertation.

### Learning Objectives

The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.

Students will write their dissertation by selecting a research concept and topic, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and formulating and testing a hypothesis.

### Learning activities outside of classroom

Students will conduct research on their research topic.

Students will prepare resumes, materials, etc. for their reports.

Grading Policy: Depends on the progress of the paper(100%).

SES700P2 - 004 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 2 B

宮川 路子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を完成させる。

### 【到達目標】

博士論文を完成させ、審査で合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の提出
第8回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第9回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第10回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第11回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第12回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第13回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第14回	審査会	審査会で発表する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆を進める。ゼミで報告するためのレジュメを作成する。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況による（100%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【担当教員の専門分野】

<専門領域> 公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学

<研究テーマ> 就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012年

ソフト面から考える快適職場—職場のメンタルヘルス対策の一環として— 労働安全衛生広報 2010年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健 21 2010年

### 【これまで指導した博士論文】

1名

### 【Outline (in English)】

Outline and Learning Objectives: Complete doctoral dissertation.

Learning activities outside of classroom: Proceed with writing the paper. Prepare a resume to present in the seminar.

Grading policy: Depends on the progress of the paper (100%)

SES700P2 - 003 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 2 A

渡邊 誠

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文の作成を完成させるために必要な事項について学ぶ。受講者が研究者になるために必要な高度な研究力と実践力を修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、分析・評価手法の選定、論文技法と表現法、口頭発表法などについて、その基礎的かつ発展的な内容を修得する。

### 【到達目標】

研究を遂行するための高度な力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、口頭発表を行うことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。実際の授業では受講者のもっている学術的関心事および研究テーマの確認から論文作成、学会報告までの広範囲にわたる内容に触れることになる。以下の【授業計画】は、授業の中で特に意識したい内容を示したものである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	研究活動の方針	学術的関心事と研究目標・目的の検討および確認
第3回	テーマ検討 (妥当性、実現性の観点から)	課題の検討とテーマ選定への考察および確認
第4回	テーマ検討 (新規性、社会的意義の観点から)	研究の意義と社会的インパクトの検討および確認
第5回	先行研究の調査と分析 (文献収集)	文献調査およびその確認
第6回	先行研究の調査と分析 (論点整理)	文献調査と先行研究の精査および確認
第7回	視点・論点の検討 (研究課題の検討)	リサーチクエスションの導出および確認
第8回	視点・論点の検討 (研究課題の論点整理)	研究テーマの検討および確認
第9回	分析・評価手法の検討 (論点整理)	分析・評価手法の検討および確認
第10回	分析・評価手法の検討 (選定)	分析・評価手法の選定および確認
第11回	研究の設計・計画 (概要設計)	研究計画の概要検討および確認

第12回	研究の設計・計画 (詳細設計)	研究計画の詳細検討および確認
第13回	研究活動の方針 (再確認)	研究目標・目的の再検討および再確認
第14回	総括	まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

討論参加の充実度100%によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学

<研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス

<主要研究業績> Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

### 【Outline (in English)】

(Course outline) This is a seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: analysis of previous works, derivation of research questions, planning of investigation, verification of analysis methods, derivation of the points at issue, evaluation of results, report technics concerning articles and oral announcement, and other points required. This seminar deals with the basic aspects in preparing doctor's thesis or research articles contributed to an attached society.

(Learning Objectives) In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2-004 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究 2 B

渡邊 誠

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文の作成を完成させるために必要な事項についてさらに学ぶ。受講者が研究者になるために必要なより高度な研究力と実践力を修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、分析・評価手法の選定、論文技法と表現法、口頭発表法などについて、その基礎的かつ発展的な内容を修得する。

### 【到達目標】

研究を遂行するためのより高度な力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、口頭発表を行うことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。実際の授業では受講者のもっている学術的関心事および研究テーマの確認から論文作成、学会報告までの広範囲にわたる内容に触れることになる。以下の【授業計画】は、授業の中で特に意識したい内容を示したものである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	リサーチクエスションの再検討	研究課題、研究目標の再検討と再確認
第3回	総合討論 (研究報告と検討)	研究進捗状況の報告、ディスカッション
第4回	総合討論 (研究報告と論点確認)	研究進捗状況の報告、論点確認
第5回	口頭報告と表現研究 (資料作成法)	資料作成法の検討および確認
第6回	口頭報告と表現研究 (プレゼンテーション法)	表現法の検討および確認
第7回	総合討論 (課題検討)	研究進捗状況の報告、課題の確認
第8回	総合討論 (主張事項検討)	研究進捗状況の報告、主張事項検討
第9回	論文構造研究 (章、節の構成)	章・節構造検討および確認
第10回	論文構造研究 (文章構成)	文章展開法検討および確認
第11回	論文作成と表現研究 (学術的表現)	アカデミックライティングと文章表現技法などの検討および確認
第12回	論文作成と表現研究 (効果的表現)	図表、各種データの掲載法などの検討および確認
第13回	研究活動成果の検討	研究遂行の完成度、社会的貢献性などの検討
第14回	総括	まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

討論参加の充実度100%によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

各々の研究の進捗状況を勘案しながら進捗を柔軟に考えていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学

<研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス

<主要研究業績> Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

### 【Outline (in English)】

(Course outline) This is a developed seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: analysis of previous works, derivation of research questions, planning of investigation, verification of analysis methods, derivation of the points at issue, evaluation of results, report technics concerning articles and oral announcement, and other points required. This seminar deals with the developed aspects in preparing doctor's thesis or research articles contributed to an attached society.

(Learning Objectives) In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2-005 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究3 A

金藤 正直

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、サステナビリティ特殊研究1A・1Bおよび2A・Bで作成した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、論文内容を具体的に検討し、また、その検討結果を報告していく。また、その報告内容を参考にしながら、研究報告（学会報告や博士論文の中間報告）、博士論文の作成（学会誌（研究誌）などへの投稿論文も含む）を進めていくことを目的とする。

### 【到達目標】

本演習では、研究報告と博士論文の作成に行われる高度な研究・調査のために必要な論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

本演習は原則対面で実施する。履修者には、サステナビリティ特殊研究1A・1Bおよび2A・2Bで作成した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ヒアリング調査、ケーススタディから明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査について報告するとともに、研究報告や、博士論文の作成までのスケジュールを確認する。
第2回～ 第6回	追加的作業の確認	研究報告や、博士論文の作成のために必要となる作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第7回～ 第14回	博士論文の構成・内容（原案）の再検討・再調整	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文に反映させ、その内容を再検討し、再調整する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を研究報告や、博士論文の作成に反映させてください。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

### 【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（10%）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（10%）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）

・ 研究報告、博士論文の内容（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

### 【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・ 金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
- ・ 金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
- ・ 金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性ーフードバレーとかちの取組みを中心としてー」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
- ・ 金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
- ・ 金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
- ・ 金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。

### 【Outline (in English)】

#### ① Course Outline

The purpose of this seminar is to write a doctoral thesis based on the results of previous research.

#### ② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a doctoral thesis.

#### ③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

#### ④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 10%
- 2) Content of the resume : 10%
- 3) Content of the presentation : 30%
- 4) Content of research report and doctoral thesis : 50%

SES700P2-006 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究3B

金藤 正直

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、サステナビリティ特殊研究3Aで再調整した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、論文内容を具体的に再検討し、また、その結果を報告する。さらに、その報告内容に基づいて、博士論文の作成を進め、完成することを目的とする。

### 【到達目標】

本演習では、研究報告や、博士論文の作成に行われる高度な研究・調査のための論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

本演習は原則対面で実施する。履修者には、サステナビリティ特殊研究3Aで再調整した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、「博士論文に関する報告⇒内容の作成⇒作成した内容の加筆修正」というプロセスを繰り返し、同論文を完成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査について報告するとともに、博士論文の作成および完成までのスケジュールを確認する。
第2回～ 第3回	博士論文の構成・内容（原案）の再検討	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文に反映させ、その内容を再検討する。
第4回	博士論文の構成・内容の決定（決定案）	博士論文の構成を最終調整し、内容を決定する。
第5回～ 第13回	博士論文の構成・内容の報告、作成、加筆修正	第4回に基づいて、博士論文の構成・内容に関する報告とともに、その報告を参考にしながら内容を作成し、加筆修正を行う。
第14回	博士論文の微調整と完成	博士論文の構成・内容を微調整し、同論文を完成させる。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を研究報告や、博士論文の作成に反映させてください。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

### 【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（10%）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（10%）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（20%）
- ・ 博士論文の内容（60%）

### 【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

### 【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・ 金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
- ・ 金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
- ・ 金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取り組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
- ・ 金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
- ・ 金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
- ・ 金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。

### 【Outline (in English)】

#### ① Course Outline

The purpose of this seminar is to complete a doctoral thesis.

#### ② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a doctoral thesis.

#### ③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

#### ④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 10%
- 2) Content of the resume : 10%
- 3) Content of the presentation : 20%
- 4) Content of doctoral thesis : 60%



SES700P2-005 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究3 A

武貞 稔彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための演習指導（3年日以降）

### 【到達目標】

博士課程3年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なサーチを行ない、実際に博士論文を執筆、完成させると同時に的確な研究発表ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文執筆と進捗報告（第1回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第1回）
第2回	博士論文執筆と進捗報告（第2回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第2回）
第3回	博士論文執筆と進捗報告（第3回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第3回）
第4回	博士論文執筆と進捗報告（第4回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第4回）
第5回	博士論文執筆と進捗報告（第5回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第5回）
第6回	博士論文執筆と進捗報告（第6回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第6回）
第7回	博士論文執筆と進捗報告（第7回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第7回）
第8回	博士論文執筆と進捗報告（第8回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第8回）
第9回	博士論文執筆と進捗報告（第9回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第9回）
第10回	博士論文執筆と進捗報告（第10回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第10回）
第11回	博士論文執筆と進捗報告（第11回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第11回）
第12回	博士論文執筆と進捗報告（第12回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第12回）
第13回	博士論文執筆と進捗報告（第13回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第13回）

第14回 博士論文執筆と進捗報告（第14回） 演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に中間報告に向けた発表準備）（第14回）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習参加者との協議を通じて、博士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。博士論文（内容およびプレゼンテーション）70%、演習における積極性と貢献度30%

### 【学生の意見等からの気づき】

少人数演習のため該当せず。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

### 【Outline (in English)】

#### [Seminar Outline]

This is the third year seminar for authoring a doctoral dissertation.

#### [Learning Objectives]

The goal of this seminar for third-year doctoral students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a doctoral dissertation, and give an appropriate research presentation.

#### [Learning Activities outside of classroom]

The progress of writing the doctoral dissertation will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and follow them. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. We will also aim to make presentations at academic conferences. The standard preparation and review time for this exercise is 2 hours each.

#### [Grading Criteria/Policy]

The overall grade will be evaluated based on the following balance. Doctoral dissertation (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution in the seminar: 30%.

SES700P2-006 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究3B

武貞 稔彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための演習指導（3年日以降）

### 【到達目標】

博士課程3年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なサーチを行ない、実際に博士論文を執筆、完成させると同時に的確な研究発表ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文執筆と進捗報告（第1回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第1回）
第2回	博士論文執筆と進捗報告（第2回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第2回）
第3回	博士論文執筆と進捗報告（第3回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第3回）
第4回	博士論文執筆と進捗報告（第4回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第4回）
第5回	博士論文執筆と進捗報告（第5回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第5回）
第6回	博士論文執筆と進捗報告（第6回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第6回）
第7回	博士論文執筆と進捗報告（第7回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第7回）
第8回	博士論文執筆と進捗報告（第8回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第8回）
第9回	博士論文執筆と進捗報告（第9回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第9回）
第10回	博士論文執筆と進捗報告（第10回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第10回）
第11回	博士論文執筆と進捗報告（第11回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第11回）
第12回	博士論文執筆と進捗報告（第12回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第12回）
第13回	博士論文執筆と進捗報告（第13回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第13回）

第14回 博士論文執筆と進捗報告（第14回） 演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に最終発表に向けた発表準備）（第14回）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習参加者との協議を通じて、博士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。博士論文（内容およびプレゼンテーション）70%、演習における積極性と貢献度30%

### 【学生の意見等からの気づき】

少人数演習のため該当せず。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

### 【Outline (in English)】

#### [Seminar Outline]

This is the third year seminar for authoring a doctoral dissertation.

#### [Learning Objectives]

The goal of this seminar for third-year doctoral students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a doctoral dissertation, and give an appropriate research presentation.

#### [Learning Activities outside of classroom]

The progress of writing the doctoral dissertation will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and follow them. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. We will also aim to make presentations at academic conferences. The standard preparation and review time for this exercise is 2 hours each.

#### [Grading Criteria/Policy]

The overall grade will be evaluated based on the following balance. Doctoral dissertation (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution in the seminar: 30%.

SES700P2-005(環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究3 A

藤倉 良

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文を執筆し、博士課程中間報告会に向けて準備を行う。

### 【到達目標】

論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎週土曜日のゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去1週間の進捗状況を報告し、議論を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第10回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第11回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第12回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第13回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第14回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次のゼミまでに指示された作業を行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況（100%）

### 【学生の意見等からの気づき】

密接に連絡を取り合う。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面で行うこともある。

### 【Outline (in English)】

This class is the second year of the doctoral dissertation writing process. Based on the information collected up to the last year, students will prepare a draft outline of their dissertation to be presented at the interim report meeting.

SES700P2 - 006 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究3B

藤倉 良

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程中間報告会に向けて準備を行う。

### 【到達目標】

博士課程中間報告会の準備を完了し、中間報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

毎週土曜日のゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去1週間の進捗状況を報告し、議論を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第10回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。
第11回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。
第12回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。
第13回	論文執筆	中間報告会の評価を受け、論文の執筆を行う。
第14回	論文執筆	中間報告会の評価を受け、論文の執筆を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況（100%）

### 【学生の意見等からの気づき】

密接に連絡を取り合う。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面で行うこともある。

### 【Outline (in English)】

This class corresponds to the second half of the second year of the doctoral dissertation writing process. The outline of the doctoral dissertation will be finalized based on the suggestions given by the faculty members at the interim debriefing session.

SES700P2-005(環境創成学/Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究3 A

宮川 路子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマに基づいて文献調査を行い、論文執筆を開始する。また、博士課程中間報告会に向け準備を行う。

### 【到達目標】

博士論文の完成を目指してより内容を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。講義の方法は対面で行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第2回	論文執筆(1)	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆(2)	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆(3)	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆(4)	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆(5)	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆(6)	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆(7)	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆(8)	論文の執筆を行う。
第10回	論文執筆(9)	論文の執筆を行う。
第11回	論文執筆(10)	論文の執筆を行う。
第12回	論文執筆(11)	論文の執筆を行う。
第13回	論文執筆(12)	論文の執筆を行う。
第14回	中間報告会の準備	論文の執筆を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況（100%）

### 【学生の意見等からの気づき】

お互いにしっかりと連絡を取り、報告を心がける。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学

<研究テーマ>就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012年

ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー 労働安全衛生広報 2010年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健21 2010年

### 【Outline (in English)】

As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.

The goal for students is to acquire expertise and research skills that will enable them to obtain a doctoral degree and to develop the ability to write a dissertation.

### Learning Objectives

The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.

Students will write their dissertation by selecting a research concept and topic, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and formulating and testing a hypothesis.

### Learning activities outside of classroom

Students will conduct research on their research topic. Students will prepare resumes, materials, etc. for their reports.

Grading Policy: Depends on the progress of the paper(100%).

SES700P2-006(環境創成学/Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究3B

宮川 路子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を完成させる。

### 【到達目標】

博士論文を完成させ、審査で合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の提出
第8回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第9回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第10回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第11回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第12回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第13回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第14回	審査会	審査会で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆を進める。ゼミで報告するためのレジュメを作成する。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学

<研究テーマ>就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012年

ソフト面から考える快適職場—職場のメンタルヘルス対策の一環として— 労働安全衛生広報 2010年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健21 2010年

【これまで指導した博士論文】

1名

【Outline (in English)】

Outline and Learning Objectives: Complete doctoral dissertation.

Learning activities outside of classroom: Proceed with writing the paper. Prepare a resume to present in the seminar.

Grading policy: Depends on the progress of the paper (100%)

SES700P2-005 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究3 A

吉永 明弘

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を作成する。

### 【到達目標】

博士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の進捗状況に従って進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する。
第2回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する。
第3回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する。
第4回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する。
第5回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する。
第6回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する。
第7回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第8回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第9回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第10回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第11回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第12回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第13回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第14回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文は基本的に課外学習として行うので、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

随時指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境倫理学

<研究テーマ> 都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理

<主要研究業績>

『都市の環境倫理』

『ブックガイド 環境倫理』

『未来の環境倫理学』

いずれも勁草書房より刊行

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

This is a course for writing dissertation. Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

The goals of this course are to complete the dissertation.

#### 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to improve the dissertation.

#### 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on the dissertation progress.

SES700P2 - 006 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究3 B

吉永 明弘

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を作成する。

### 【到達目標】

博士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各自の進捗状況に従って進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第2回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第3回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第4回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第5回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第6回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第7回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第8回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第9回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第10回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第11回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第12回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第13回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第14回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文は基本的に課外学習として行うので、計画的に進めること。

### 【テキスト（教科書）】

特になし

### 【参考書】

随時指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100点）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境倫理学

<研究テーマ>都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理

<主要研究業績>

『都市の環境倫理』

『ブックガイド 環境倫理』

『未来の環境倫理学』

いずれも勁草書房より刊行

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This is a course for writing dissertation. Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

【到達目標（Learning Objectives）】

The goals of this course are to complete the dissertation.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to improve the dissertation.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on the dissertation progress.



SES700P2 - 005 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

**サステナビリティ特殊研究3 A**

**渡邊 誠**

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文の作成を完成させるために必要な事項について学ぶ。受講者が研究者になるために必要な高度な研究力と実践力を修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、分析・評価手法の選定、論文技法と表現法、口頭発表法などについて、その基礎的かつ発展的な内容を修得する。

**【到達目標】**

研究を遂行するための高度な力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、口頭発表を行うことができるようになることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。実際の授業では受講者のもっている学術的関心事および研究テーマの確認から論文作成、学会報告までの広範囲にわたる内容に触れることになる。以下の【授業計画】は、授業の中で特に意識したい内容を示したものである。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	研究活動の方針	学術的関心事と研究目標・目的の検討および確認
第3回	テーマ検討 (妥当性、実現性の観点から)	課題の検討とテーマ選定への考察および確認
第4回	テーマ検討 (新規性、社会的意義の観点から)	研究の意義と社会的インパクトの検討および確認
第5回	先行研究の調査と分析 (文献収集)	文献調査およびその確認
第6回	先行研究の調査と分析 (論点整理)	文献調査と先行研究の精査および確認
第7回	視点・論点の検討 (研究課題の検討)	リサーチクエスションの導出および確認
第8回	視点・論点の検討 (研究課題の論点整理)	研究テーマの検討および確認
第9回	分析・評価手法の検討 (論点整理)	分析・評価手法の検討および確認
第10回	分析・評価手法の検討 (選定)	分析・評価手法の選定および確認
第11回	研究の設計・計画 (概要設計)	研究計画の概要検討および確認

第12回	研究の設計・計画 (詳細設計)	研究計画の詳細検討および確認
第13回	研究活動の方針 (再確認)	研究目標・目的の再検討および再確認
第14回	総括	まとめ

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

**【テキスト (教科書)】**

使用しない。

**【参考書】**

開講時に指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

討論参加の充実度100%によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学

<研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス

<主要研究業績> Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

**【Outline (in English)】**

(Course outline) This is a seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: analysis of previous works, derivation of research questions, planning of investigation, verification of analysis methods, derivation of the points at issue, evaluation of results, report technics concerning articles and oral announcement, and other points required. This seminar deals with the basic aspects in preparing doctor's thesis or research articles contributed to an attached society.

(Learning Objectives) In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2-006 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700)

## サステナビリティ特殊研究3B

渡邊 誠

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文の作成を完成させるために必要な事項についてさらに学ぶ。受講者が研究者になるために必要なより高度な研究力と実践力を修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、分析・評価手法の選定、論文技法と表現法、口頭発表法などについて、その基礎的かつ発展的な内容を修得する。

### 【到達目標】

研究を遂行するためのより高度な力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、口頭発表を行うことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。実際の授業では受講者のもっている学術的関心事および研究テーマの確認から論文作成、学会報告までの広範囲にわたる内容に触れることになる。以下の【授業計画】は、授業の中で特に意識したい内容を示したものである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	リサーチクエスションの再検討	研究課題、研究目標の再検討と再確認
第3回	総合討論（研究報告と検討）	研究進捗状況の報告、ディスカッション
第4回	総合討論（研究報告と論点確認）	研究進捗状況の報告、論点確認
第5回	口頭報告と表現研究（資料作成法）	資料作成法の検討および確認
第6回	口頭報告と表現研究（プレゼンテーション法）	表現法の検討および確認
第7回	総合討論（課題検討）	研究進捗状況の報告、課題の確認
第8回	総合討論（主張事項検討）	研究進捗状況の報告、主張事項検討
第9回	論文構造研究（章、節の構成）	章・節構造検討および確認
第10回	論文構造研究（文章構成）	文章展開法検討および確認
第11回	論文作成と表現研究（学術的表現）	アカデミックライティングと文章表現技法などの検討および確認
第12回	論文作成と表現研究（効果的表現）	図表、各種データの掲載法などの検討および確認
第13回	研究活動成果の検討	研究遂行の完成度、社会的貢献性などの検討
第14回	総括	まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

討論参加の充実度100%によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学

<研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス

<主要研究業績> Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

### 【Outline (in English)】

(Course outline) This is a developed seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: analysis of previous works, derivation of research questions, planning of investigation, verification of analysis methods, derivation of the points at issue, evaluation of results, report technics concerning articles and oral announcement, and other points required. This seminar deals with the developed aspects in preparing doctor's thesis or research articles contributed to an attached society.

(Learning Objectives) In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

LAW500P2 - 007 (法学 / law 500)

**環境法基礎D**

岡松 暁子、奥田 進一、野村 摂雄

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境問題に関する民事法、行政法、国際法について、その基礎を学ぶ。本授業は、法律の初学者向けに行われる。

**【到達目標】**

環境法の知識のない学生が、その全体像を把握することが、到達目標である。環境分野で仕事をする上で不可欠な知識を身につけることを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

まず、環境法がどのような法律分野から構成されており、環境問題に対して、どのような機能を果たしているのかについて概観する。また、基本的な文献リサーチ方法についても説明する。次に、環境私法について、私人間の環境紛争で、民法に規定された不法行為という考え方がどのように機能するのかを学ぶ。そして、最後に、実際に起こった公害事案をもとにしながら、判例法の妥当性を検証する。次に、環境行政法について、日本における環境行政法の展開を学んだ後、個別規制法として公害規制法や自然保護法、環境行政訴訟と環境行政組織を概観する。

最後に、国際的な環境問題を検討するにあたり必要となる国際法の基本理論を学ぶ。国際社会の基本単位である国家の役割、国際法の特徴を概観した後、受講者の関心がある国際環境問題を取り上げながら、国際社会における環境に関する紛争解決、国家責任等について適宜判例を紹介しつつ、国際環境問題への国際法からのアプローチの仕方を習得する。

また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境法の概観（1） （奥田進一）	環境問題と環境法
2	環境法の概観（2） （奥田進一）	①環境法とは何か、②環境法の構成
3	環境私法（1） （奥田進一）	①環境私法とは何か、②不法行為の基礎理論
4	環境私法（2） （奥田進一）	損害賠償請求と差止請求
5	環境私法（3） （奥田進一）	①環境訴訟における因果関係の立証、②複合汚染と共同不法行為
6	環境私法（4） （奥田進一）	公害事案に基づく議論
7	環境行政法（1） （野村摂雄）	環境行政法の展開
8	環境行政法（2） （野村摂雄）	公害規制法
9	環境行政法（3） （野村摂雄）	自然保護法
10	環境行政法（4） （野村摂雄）	環境行政訴訟・行政組織
11	国際環境法（1） （岡松暁子）	国際法の基本原則と国際環境問題
12	国際環境法（2） （岡松暁子）	国際環境問題における国家責任法とその限界

- 13 国際環境法（3）（岡松暁子）
- 14 国際環境法（4）（岡松暁子）

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。適宜資料を配布または紹介する。

**【参考書】**

奥田進一＝長島光一『環境法～将来世代との共生』（成文堂、2023）  
北村喜宣『環境法（第5版）』（有斐閣ストゥディア、2020年）。  
黒川哲志・奥田進一編『環境法へのフロンティア』（成文堂、2015年）。  
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦他編著『ケースブック国際環境法』（東信堂、2020年）。

**【成績評価の方法と基準】**

配分：授業内での発表、議論への参加・貢献度30%、期末レポート70%。

評価基準：3人の講師が、授業中に、それぞれ2つのテーマを提示する。この合計6つのテーマの中からレポートを1つ作成し、担当講師に提出する。選択したテーマにつき、判例や法律論文等を最低5つ以上参照して、レポートを書くこと。論点、構成、内容の理解度から評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【担当教員の専門分野等】**

岡松 暁子

<専門領域>国際法

<研究テーマ>国際法の履行確保、国際環境法、国際原子力法

<主要研究業績>

『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「福島第一原子力発電所のALPS処理水の海洋放出にかかる諸問題」（2022年）、「ロンドン条約96年議定書の遵守手続」（2022年）、「SDGsと生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017年）等。

奥田進一

<専門領域>環境法、民法

<研究テーマ>

<主要研究業績>（環境関連のもの）

①共著『環境法のフロンティア』（成文堂、2015）

②共著『流域ガバナンスと中国の環境政策』（成文堂、2015）

③「中国の環境問題と法政策」『アジアの環境法政策と日本』（商事法務研究会、2015）所収

野村摂雄

<専門領域>

環境法・海事法

<研究テーマ>

地球温暖化、海洋環境法、環境条約の国内実施

<主要研究業績>

①『演習ノート環境法』（法学書院、2010年）。

②「欧州連合（EU）における海洋環境保全法制」環境法研究14号（2022年）1頁以下。

③「資源管理法としての環境法」小賀野晶一・黒川哲志編『環境法のロジック』（成文堂、2022年175頁以下）。

**【Outline (in English)】**

< Course Outline >

Students will learn the basics of civil, administrative, and international law on environmental issues in this class. The class will be taught on the assumption that you are a layman in the law.

< Learning Objectives >

The goal of this course is for students who have no knowledge of environmental law to grasp the whole picture. Students are expected to acquire essential knowledge for working in the environmental field.

< Learning Activities outside of Classroom >

Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, three instructors will each present two themes during these classes. You can take one of the themes, referring to five or more legal cases or papers, write a report on the theme, and submit it to the instructor in charge. Your report will be evaluated based on issues, structure, and understanding of the content.

SES500P2-008 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500)

## 地球環境学基礎D

藤倉 良

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用である。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせない。本講義では気候変動を中心にしつつ、オゾン層保護、酸性雨など環境問題や、エネルギーや淡水などの資源問題について、発生メカニズムと対処に関する科学の基礎を修得し、地球規模や国境を超える環境問題に対処する基礎力を養うことを目指す。

### 【到達目標】

以下を説明できるだけの科学的基礎力を養う。  
 人口増加と減少パターンの発生理由。  
 オゾンホールが南極上空にできる理由。  
 温室効果のメカニズムと気候変動の科学の不確実性。  
 日本では酸性雨の生態影響が顕在化していない理由。  
 生物多様性を保全しなければならない理由。  
 資源のもつ意味。  
 淡水、土壌、金属などの資源のもつ役割。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

中学卒業レベルの理科の知識を習得していることを前提にして、パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントはHoppiiにアップする。なお講義の順番は状況によって変更になることがある。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	地球環境問題を取りまく諸状況
第2回	人口	人口が増加する要因、都市の人口問題
第3回	オゾン層	オゾン層が破壊されるメカニズム、オゾン層破壊物質、ウィーン条約、モントリオール議定書、国内対策
第4回	気候変動①	地球温暖化のメカニズム、将来予測
第5回	気候変動②	I P C C、国際社会、国際交渉、パリ協定
第6回	気候変動③	緩和策
第7回	気候変動④	エネルギー資源
第8回	気候変動⑤	適応策、気候安全保障
第9回	越境する大気汚染	酸性雨、光化学オキシダント、PM2.5
第10回	資源とは何か	「資源」の持つ意味、「資源の呪い」、資源に関する楽観論と悲観論
第11回	水資源	世界の水資源、国際流域の課題
第12回	生物多様性	生物多様性保全の意義、生態系サービス、遺伝資源
第13回	土壌資源、窒素とリン	土壌の成り立ち、機能、窒素とリンの循環、リン資源
第14回	金属資源	ベースメタル、レアメタル、リサイクル

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文科系のための環境科学入門』 有斐閣

### 【参考書】

講義中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

最終回に行う試験(100%)またはレポート(100%)で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

中学校卒業程度の理科の知識があれば理解できるように心がけるが、高校卒業程度の知識が必要な場合もある。

### 【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

### 【その他の重要事項】

授業は対面で行うが、オンラインで同時配信するので、学生は各自の都合に合わせて受講されたい。オンラインのURLはHoppiiで通知する。

### 【担当教員の専門分野等】

環境システム科学、国際環境協力

### 【担当教員が関連した書籍】

- Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford
- Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota (Editor) (2012) Climate Change Mitigation and International Development Cooperation, (p.264) Earthscan, London
- Ryo Fujikura (Guest Editor) (2011) Environmental Policy in Japan: From Pollution Control to Sustainable Environmental Management, Special Issue, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5
- Ryo Fujikura and Masato Kawanishi (Editor) (2010) Climate Change Adaptation and International Development - Making Development Cooperation More Effective, Earthscan, London

### 【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this course, students will learn the basic science behind the mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone depletion, acid rain, and resource problems such as energy and fresh water. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each. Grading will be based on the final exam (100%) or report (100%).

ARS500P2 - 009

国際協力論D

武貞 稔彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】

一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1)現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2)国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3)誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

報告対象とする文献については、2024年度秋学期開始前に学習支援システム（Hoppii）を通じて通知／配布予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景-途上国の貧困と先進国との格差-について概観する。
第2回	国際協力をめぐる歴史と制度（1）経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後1970年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第3回	国際協力をめぐる歴史と制度（2）経済成長路線から人間開発路線へ	1980年代、90年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第4回	国際協力をめぐる歴史と制度（3）環境と持続可能な開発	2000年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。
第5回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第6回	「開発」とは何か:開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。

第7回 民間企業と国際協力 国際協力の主要なアクターの一つとなっている民間企業の活動について概観し、その将来像について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

松本勝男著（2023年）『日本型開発協力 途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）  
 牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）  
 勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）  
 斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）  
 外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末レポート(50%)、各回の担当報告の内容(30%)、授業やディスカッションへの貢献(20%)を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】

過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.

【Learning Objectives】

Completing the course, students are expected;

- 1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
- 2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
- 3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.

{Learning Activities outside of classroom}

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

POL500P2 - 010 (政治学 / Politics 500)

市民参加の理論と実践D

杉崎 和久、小島 聡、谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市民参加は、政治学や行政学、さらに公共政策学の永遠のテーマといえるが、現代では、他の学問分野や個別の政策領域においても重要なテーマになっている。

この授業では、市民参加の理論と動向から現代の政策過程とガバナンスについて俯瞰した上で、市民参加の実践事例に関する検討を行う。この授業は、参加学生が、市民参加を通して、歴史・理論・実践動向を学びながら、制度・手続、社会技術の手法とその活用、参加のガバナンス・マネジメントなどについて、学際的かつ政策領域横断的な視野を身につけることが目的である。

【到達目標】

この授業に参加することによる学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ・市民参加の歴史・理論・実践に関する基礎知識と教養を習得する
- ・自治体政策と市民参加に関する基礎知識と教養を習得する。
- ・都市計画分野における市民参加の動向について理解する。
- ・市民参加の手法選択、市民参加の制度・手続の設計と運用、参加のガバナンス・マネジメントに関する政策思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

講義の前半は、市民参加総論として、デモクラシーと市民参加の歴史や、理論と実践の動向、自治体政策と市民参加に関する概説を扱う。講義の後半は市民参加各論として、都市計画分野における市民参加について、運動から参加への制度化、市民だけではなく企業なども含む民間主体による都市空間の管理・運営について扱う。また数名のゲストスピーカーを招き、実務上の経験知などについて講義と討論を行う。討論は質疑応答にとどまらず、市民参加に関する研究会のスタイルで行う。最終回は、総括的な講義を行い、今後を展望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	市民参加総論（1）	マスメディアの形成史と市民参加、政策過程と市民参加の関係、熟議デモクラシーと現代の参加手法について検討する。【小島】
第2回	市民参加総論（2）	日本の現代史における市民参加の軌跡、自治体政策をめぐる市民参加の動向と論点について検討する。【小島】
第3回	地方自治制度と市民参加	地方自治制度における市民参加の位置づけ等について検討する。【谷本】
第4回	都市計画分野における参加の展開	法定都市計画への対抗概念としてのまちづくり運動から都市計画における参加の制度化の過程を検討する。【杉崎】
第5回	都市計画分野における参加事例	都市計画分野における市民参加の事例についてゲストから話題提供とそれを踏まえた議論を行う。【杉崎】

第6回	自治体における市民参加の実践	自治体の立場で市民参加を実践してきたゲストから話題提供とそれを踏まえた議論を行う。【谷本】
第7回	学生からの市民参加事例報告	市民参加事例に関する事例報告を行う。【杉崎】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。この授業に参加する学生は、以下の時間外学習を行う。

- ・事前に配布する資料を読む。
- ・事前に提示する事項について概略を調べる。
- ・授業内で提示するテーマについてレポートを執筆する。

【テキスト（教科書）】

特に用いない

【参考書】

- ①篠原一編『討議デモクラシーの挑戦 ミニ・パブリックスが拓く新しい政治』（岩波書店、2012）
  - ②米野史健ほか編『住民主体の都市計画 まちづくりへの役立て方』（学芸出版社、2009年）。
- 上記以外の参考文献については、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（80%）、最終レポート（20%）の総合評価とする。参加姿勢については、講義に対する履修態度、毎回行う質疑応答、討論への積極性等を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

・現代の市民参加はきわめて幅広い理論と実践領域にわたり、一人の教員がカバーしきれないのが実状です。こうしたことから、学際的なアプローチと専門家をゲストスピーカーとしてお招きすることで実践知を涵養する授業構成の有効性を実感しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、パソコンからプロジェクターに画像を投影する。

【小島 聡】

〈専門領域〉行政学、地方自治論  
 〈研究テーマ〉地域の持続可能性と自治体政策  
 〈主要研究業績〉『自治体経営改革』（共著）（ぎょうせい、2004年）  
 『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）  
 『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして』（共編著）、（ミネルヴァ書房、2012）

【杉崎和久】

〈専門領域〉都市計画、市民参加手法  
 〈研究テーマ〉公共的意思決定における土民参加のあり方、まちづくりの現代史  
 〈主要研究業績〉『市民参加と合意形成』（共著）（学芸出版社、2005年）  
 『住民主体の都市計画』（共著）（学芸出版社、2009年）

【谷本有美子】

〈専門領域〉行政学、地方自治、市民自治  
 〈研究テーマ〉中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制  
 〈主要研究業績〉『「地方自治の責任部局」の研究—その存続メカニズムと軌跡[1947-2000]』（公人の友社、2019年）  
 『分権社会と協働』（共著）（ぎょうせい、2001年）  
 『分権改革の動態』（共著）（東京大学出版会、2008年）  
 「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダー—神奈川県内の指定都市を題材に」（2016）『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

【Outline (in English)】

This course deals with theory and trends of citizen participation. It also enhances the development of students' skill in citizen participation practice.

The purpose of this course is to acquire an interdisciplinary and cross-policy perspective on citizen participation systems, socio-technical methods, and governance management.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.



Final grade will be calculated according to the following process  
term-end report (20%) and in-class contribution (80%) .

MAN500P2 - 013 (経営学 / Management 500)

環境経営論D

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、経営学および会計学の視点から、現在国内外で注目されている企業や地域における環境経営またはサステナビリティ経営の理論的方法を明らかにしつつ、それに関連する先進的な取組事例も考慮に入れながら、将来企業や地域において、有効かつ効率的に実施すべき環境経営やサステナビリティ経営の新たな方法を検討していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、国内外で刊行されたマルチステークホルダーの視点からの環境経営またはサステナビリティ経営に関する文献(理論研究の論文)について、直接的または間接的に関係する他の理論や事例(ケース)を加えながら、また、博士論文のテーマとも関係づけながら多面的に分析・検討し、その結果を論理的に、わかりやすく整理し、報告していくための能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本講義は原則対面で実施する。第1回は、履修者に環境経営またはサステナビリティ経営に関する研究論文を紹介しつつ、博士論文に関係のある論文を1つ選んでもらう。また、その論文の内容を分析し、整理し、報告してもらいポイントも講義する。第2回以降は、履修者には、第1回で選んだ研究論文の内容を、企業や地域の取組事例や関連する著書・報告書も参考にしながら多面的に分析・検討し、その結果を報告してもらう。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義全体の流れとその内容、講義で使用する文献の紹介、その文献を分析・検討していくための方法やポイントを説明する。
第2回	環境・社会問題に対応する組織①	環境・社会問題に対応する組織のあり方に触れた論文(例えば、ブラハラード、ハート、ロザベス=テュナの論文)の内容を考察し、報告する。
第3回	環境・社会問題に対応する組織②	第2回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第4回	環境・社会問題解決のための経営戦略①	企業が環境重視から持続可能性に展開していくために検討し、策定すべき経営戦略に関する研究論文(例えば、ハート、アンルー、ランジェイの論文)の内容を考察し、報告する。
第5回	環境・社会問題解決のための経営戦略②	第4回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。

第6回	環境・社会問題解決のための新たな経営戦略①	企業が経済的価値と環境・社会的価値を同時実現していくための新たな経営戦略に関する研究論文(例えば、クリステンセン、ポーター=クラマー、セラフェイムの論文)の内容を考察し、報告する。
第7回	環境・社会問題解決のための新たな経営戦略②	第6回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第8回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメント①	第2回から第7回で取り上げられた経営戦略を実現していくための組織編成・マネジメント(サプライチェーン、コレクティブ・インパクト、コラボレーション、エコシステム)に関する研究論文(例えば、カニア=クラマー、アドラー、リー、ベロニカ=デニスの論文)の内容を整理し、報告する。
第9回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメント②	第8回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第10回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメントの先進事例①	第8回と第9回で取り上げられた組織編成・マネジメントに関するガイドや先進事例(例えば、国連グローバルコンパクトやパタゴニアの取組み)の内容を整理し、その結果を報告する。
第11回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメントの先進事例②	第10回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域における取組事例を参考にしながら検討し、報告する。
第12回	戦略策定や組織編成・マネジメントを支援する会計システム①	組織(第2回、第3回)の戦略策定(第4回~第7回)と組織編成・マネジメント(第8回~第11回)を支援する会計システムに関する論文(例えば、キャプラン、エクセル、セラフェイム、ガードナーの論文)の内容を整理し、報告する。
第13回	戦略策定や組織編成・マネジメントを支援する会計システム②	第12回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域における取組事例を参考にしながら検討し、報告する。
第14回	講義のまとめ	第13回までの検討内容を整理し、その内容をもとに新たな方法論も検討する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義内容の理解および文献の分析・検討にあたっては、少なくとも次の3点について行ってください。  
 ・経営学および会計学の基礎的知識を事前に学習し、身につけること(担当しない資料も事前に読み、検討すべき点を考えておくこと)  
 ・毎回の講義内容を復習すること  
 ・本講義に関連する新聞・雑誌記事やホームページなどの内容をチェックすること本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

・講義では、テキストは使用せず、テーマごとに配布した資料を使用します。  
 ・報告では、配布資料の内容を整理したレジュメの作成および配布をお願いします。

【参考書】

講義中に配布資料や報告内容に関連する著書・論文・雑誌・URLなどを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。  
 ・報告用配布レジュメの内容(20%)

- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30％）
- ・ 討論への参加（発言内容）（20％）
- ・ レポートの内容（報告内容に基づくレポート）（30％）

**【学生の意見等からの気づき】**

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

**【その他の重要事項】**

- ・ 講義はワードあるいはパワーポイントを用いて進めていきますので、報告およびそのレジュメの作成も、ワードまたはパワーポイントを使用してください。
- ・ 質問などについては電子メールで連絡ください。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・ 金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
- ・ 金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
- ・ 金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
- ・ 金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
- ・ 金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
- ・ 金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。

**【Outline (in English)】**

① Course Outline

The purpose of this lecture is to learn the management method for solving environmental and social issues in companies and regions.

② Learning Objectives

Thought this lecture, graduate students are able to logically understand a new sustainability management and accounting system in companies and regions.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this lecture are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Content of the resume : 20%
- 2) Content of the presentation : 30%
- 3) Participation in the discussion : 30%
- 4) Report based on the presentation : 20%

LAW500P2 - 014 (法学 / law 500)

**環境行政法D**

野村 摂雄

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境法分野のうち、環境行政法に分類されるものを学びます。それは、環境問題の出現に伴って生成・発展してきた環境行政に関する法制度であり、その基本的な考え方や規制の構造、そして課題を取り上げます。受講生は、法条文、裁判例、参考資料に触れ、また、毎回リアクションペーパーを書くことで、環境行政法について基本的な知識を得るとともに、論理的な文章を書く能力を磨いていくことに取り組めます。

**【到達目標】**

環境行政法の内容について、国内外の環境問題に即して学んでいきます。受講生は、産業公害、廃棄物問題、地球温暖化など具体的な問題に対する法制度の発展と現状について法条文や裁判例、参考資料を通してアウトプットに活かせるまでの知識を習得し、また、課題を考察してリアクションペーパーを書きながら、学術論文の執筆能力を磨きます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

**【授業の進め方と方法】**

各回に関連する法条文や参考資料を配付し、その読解と問題の検討を行うとともに、受講生による報告内容について議論をしていきます。受講生は、各回の課題に対してリアクションペーパーを作成・提出します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	環境行政法の概観
第2回	環境行政法の原則・手法	環境行政法の基本的な考え方と手法について学びます。
第3回	産業公害と法（1）	産業公害の内容と国内社会の取組みについて学びます。
第4回	産業公害と法（2）	産業公害に対する基本法及び個別法について学びます。
第5回	産業公害と法（3）	産業公害に対する法制度の課題について学びます。
第6回	廃棄物と法（1）	廃棄物問題の内容と国内社会の取組みについて学びます。
第7回	廃棄物と法（2）	廃棄物問題に対する国内法の生成と発展を学びます。
第8回	廃棄物と法（3）	裁判例を通して廃棄物問題の法的論点を学びます。
第9回	廃棄物と法（4）	循環型社会の構築に向けた法制度について学びます。
第10回	地球温暖化と法（1）	地球温暖化問題の内容と国際社会・国内社会の取組みについて学びます。
第11回	地球温暖化と法（2）	地球温暖化問題に対する国際法の生成と発展を学びます。
第12回	地球温暖化と法（3）	地球温暖化問題に対する国内法の生成と発展を学びます。
第13回	地球温暖化と法（4）	地球温暖化問題の解決に向けた環境行政の課題を学びます。
第14回	まとめ	環境行政法の到達点と課題とを考えます。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

関連文献の精読、授業内報告の準備、リアクションペーパーの執筆など週4時間程度。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

黒川哲志・奥田進一編『環境法のフロンティア』（成文堂、2015年）

**【成績評価の方法と基準】**

平常点60%+期末レポート40%。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

個人パソコン又は貸与パソコン。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【担当教員の専門分野】**

<専門領域>  
環境法・海事法  
<研究テーマ>  
地球温暖化、海洋環境法、環境条約の国内実施  
<主要研究業績>

- ①『演習ノート環境法』（法学書院、2010年）。
- ②「欧州連合（EU）における海洋環境保全法制」環境法研究14号（2022年）1頁以下。
- ③「資源管理法としての環境法」小賀野晶一・黒川哲志編『環境法のロジック』（成文堂、2022年175頁以下）。

**【Outline (in English)】**

Course outline : This programme offers laws/regulations in the environmental fields which stipulate the roles of the central/municipal government.

Learning Objectives :Students learn the basic idea, types and contents of the environmental laws/regulations, and develop logical writing skills.

Learning activities outside of classroom :Reading relevant materials and writing small papers which is supposed to take four hours a week in average.

Grading Criteria /Policy :Participating in discussion at class (50%) and submitting a paper at the end of the term (50%)

ENV500P2 - 016 (環境保全学 / Environmental conservation 500)

## 自然環境共生研究D

三村 起一

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会に向けて、自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、科学的・社会的な視点を持つ様々な主体による相乗的で多面的な取組が望まれます。

本講義では、自然環境にかかる様々な背景事象や関係法令も含めた対策等を教材に、今後の共生実現に向けた方策・施策の可能性について考究することをテーマとします。

### 【到達目標】

保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題、さらにはそれらを解消するためのこれまでの内外の取組について理解を深め、その要点及び自らの考えを説明し、学術的視点で自らの研究に適用する力を身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

到達目標をかなえるよう、自然環境保全に関わる法制度等について、歴史的背景や課題、具体的な対策やその達成状況等を国内外の実例やエピソードを交えプレゼンテーションします。知識と問題意識を積み重ね、持続可能な自然環境との共生に向けた自らの意見を養うよう、授業とリアクションペーパーで取り組んでいただきます。また、課題提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとイントロダクション	講義の進め方、自然環境への気づき
第2回	原始的な自然環境の保全	自然環境保全法を骨格とした保護の法体系
第3回	生物多様性の保全1	生態系サービスと生物多様性条約
第4回	生物多様性の保全2	生物多様性基本法、SATOYAMA活動
第5回	希少野生生物の保護	ワシントン条約から種の保存法へ
第6回	外来生物対策	外来種による影響評価と外来生物法 他
第7回	一般鳥獣に関する課題1	鳥獣施策のあゆみ
第8回	一般鳥獣に関する課題2	普通種管理の課題
第9回	国立公園に関する話題1	国立公園制度のあゆみ
第10回	国立公園に関する話題2	自然公園法について 自然を満喫するとは
第11回	自然の再生に関する課題	自然再生法、エコツーリズム推進法について
第12回	ペットに関する課題	動物愛護法、ペットフード法について
第13回	自然環境を保全することとは	自然環境問題に関する国内外の動向
第14回	まとめと振り返り	我が国の自然環境行政の概要

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

講義テーマに関わる知識の深化や多角的な視点を養えるよう、日常的に、講義テーマにかかるメディアや文献・事例等にふれるよう努めてください。

### 【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。国の機関のホームページを活用（参照）して講義を進めます。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業毎のリアクションペーパー（50%）、期末レポート（50%）の2項目で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

知識の詰め込みとならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

国の機関のホームページ等を参照します。PC・スマホ等をお持ちください。

### 【その他の重要事項】

環境省職員として長年環境行政に従事した経験に基づき、具体的な事例を交えて進めます。

### 【None.】

<専門領域>自然環境政策、地球環境政策  
<研究テーマ>生物多様性、地域脱炭素  
<主要研究業績>

### 【Outline (in English)】

In this lecture, with the aim of realizing harmony and symbiosis between the natural environment and humans and building a sustainable society, we will consider the possibility of policies to realize such symbiosis in the future, using various background events related to the natural environment and measures, including related laws and regulations, as teaching materials.

Students are expected to do self-study for about 2 hours each before and after the lectures, to deepen their understanding of the characteristics of the natural environment to be conserved, the current status and issues of problems caused by human activities, and past domestic and international efforts to resolve these problems, and to be able to explain the main points and their own ideas and apply them to their own research from an academic viewpoint.

Grades will be based on every time reaction papers (50%) and final reports (50%).

SES500P2 - 018 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500)

## 大気人間環境論D

北川 徹哉

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気は人間生活圏を覆っており、人が呼吸し、生存するために必要なものである。一方で、時には脅威となる存在であり、またある時は心地よさやエネルギーをもたらすものでもある。本講義においては、大気の動きと人間生活、社会、都市、環境との関係について多角的に学ぶ。

### 【到達目標】

1. 大気運動のスケールと性質、ならびに大気と都市環境との関係を説明できる。
2. 大気による災害の種類と、それらの人と社会への影響を説明できる。
3. 気流の人間生活への寄与について説明できる。
4. 上記1～3のうち、少なくとも一つについて定量的に評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で進められる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気の流れと時空間スケール	地球の気流, ENSO
第2回	大スケールの気象による強風と人間環境	季節風, 台風, 風災害
第3回	局地風と人間環境	海陸風, おろし・だし, フェーン, 日本各地・世界各地の局地風
第4回	小スケールの気象による強風と人間環境	竜巻, ダウンバースト
第5回	気流の渦と人間環境	気流の乱れ, 気流の渦と構造物の振動
第6回	強風の統計的性質	大気観測, 最大風速, 再現期待値, 再現期間
第7回	ビル風と人間環境, 風騒音と人間環境	高層建物周辺の風環境, 住環境や風力発電施設における風騒音

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のノートや資料などを用いて予習・復習し、後半に出題される課題に取り組み、レポートにまとめること。

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート（100%）：大気と人間生活、社会、都市あるいはエネルギーに関するレポート課題に対し、到達目標1～4に要求される知識がレポートに展開されているか、また、適切かつ詳細な論述がなされているかを評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境流体, 気象社会論, 流体関連振動

<研究テーマ>強風の社会への影響と対策, 気象リスクヘッジ, 数値流体解析

<主要研究業績>屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析, 第25回風工学シンポジウム論文集, 2018, pp.121-126. 平均回帰Ornstein-Uhlenbeck過程による日最大風速の模擬データの作成, 土木学会論文集A1 (構造・地震工学), Vol.73, No.3, 2017, pp.579-592. 淡路花博2000に導入された天候デリバティブについての一考察, 第23回風工学シンポジウム論文集, 2014, pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み, 日本風工学会論文集, Vol.32, No.2, 2007, pp.87-92.

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

The boundary layer of the atmosphere is closely related to human life and social systems such as industries and transportations, and it is important for us to study its characteristics so as to save the human life and society from disasters/sickness, and to create better urban/regional environments. In this course, firstly we study about fundamentals on various types of atmospheric phenomena such as ENSO, the typhoon, and the sea breeze, the mountain and valley breeze, the downburst and the tornado, and about their effects on cities and people. Secondly, as an example of the air flow significantly related to the human health, the characteristics of the indoor air are focused on. While causing the pollution contaminant advection, the indoor air flow performs to remain the room environment safe and comfortable.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to learn the time-space characteristics of various types of atmospheric phenomena,
- B. to study about the wind effects on cities and people,
- C. to understand the system of the indoor air ventilation and
- D. to learn a statistical evaluation on atmospheric environments.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to understand the course content after each class, and to have completed a required assignment. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

SES500P2 - 019 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500)

## 環境工学の基礎D

藤倉 良

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用である。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには科学知識が欠かせない。本講義では大気汚染、水質汚濁、廃棄物、土壌汚染、騒音・悪臭、有害物質など、ローカルな環境問題の発生メカニズムと対処に関する工学的基礎を修得し、そのような問題への対処方を考える基礎力を養うことを目指す。

### 【到達目標】

以下を説明できるだけの科学的基礎力を養う。

大気汚染発生のメカニズムと処理技術

上下水道の構造

水質汚濁発生のメカニズム

土壌汚染の特徴と対策技術

感覚公害の特徴と騒音・振動・悪臭の原因と対策技術

廃棄物の定義と現状

リサイクルの意味と関連する諸制度

リスク論の考え方と環境に関する基準の設定方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

中学卒業レベルの理科の知識を習得していることを前提にして、パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントはHoppiiにアップする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	環境問題とはどのようなものか、環境科学の役割
第2回	大気汚染1	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸化物
第3回	大気汚染2	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壌汚染	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音	音とは、騒音の評価法、騒音対策
第10回	廃棄物1	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物2	産業廃棄物
第12回	リサイクル	リサイクルの種類、関連法規
第13回	有害物質とリスク	有害の意味、リスクとはなにか、リスク認知
第14回	基準の決め方	環境基準と排出基準

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文科系のための環境科学入門』 有斐閣

### 【参考書】

別途、指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート（100%）もしくは最終回に行う試験（100%）で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

中学校卒業程度の理科の知識があれば理解できるように心がけるが、高校卒業程度の知識が必要な場合もある。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

授業は対面で行うが、オンラインで同時配信するので、学生は各自の都合に合わせて受講されたい。オンラインのURLはHoppiiで通知する。

### 【担当教員の専門分野等】

環境システム科学、国際環境協力

### 【担当教員の関連する業績】

① Ryo Fujikura, Mikiyasu Nakayama, Manami Fujikura (2016) Formulation Process of Diet Law and Cabinet Law in Japan - A Comparative Study of Basic Environmental Law and Basic Law on Biodiversity -, International Journal of Social Science Research, Vol. 4, No. 2, DOI: <http://dx.doi.org/10.5296/ijssr.v4i2.9703>

② Tetsuo Kida and Ryo Fujikura (2015) Pollution Risks Accompanied with Economic Integration of ASEAN Countries and the Fragmentation of Production Processes, International Journal of Social Science Studies, Vol.3, No.5, DOI: [10.11114/ijsss.v3i5.915](http://dx.doi.org/10.11114/ijsss.v3i5.915)

③ Ryo Fujikura (2011) Environmental Policy in Japan: Progress and Challenges after the Era of Industrial Pollution, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5, pp. 303-308

④ Ryo Fujikura (2011) The Influence of Local Governments on National Policy-Setting Processes to Regulate Japan's Vehicle Emissions, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5, pp. 309-324

### 【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this lecture, students will learn the basic engineering knowledge of mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, hazardous substances. Students are required to spend two hours preparing and reviewing each lecture. Evaluation will be based on a report or the final exam.

ECN500P2 - 021 (経済学 / Economics 500)

環境経済論D

杉野 誠

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どのような政策が必要であるかを理論的に考える。本授業では、以下の3つを最終目的とする。  
 ① 環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に経済学を応用できるようにする。  
 ② 日本の環境政策・制度およびそれらの問題点を理解し、必要とされる政策について理解を深める。  
 ③ 博士論文を環境経済学の文脈の中での位置づけられるようになる。なお、環境経済学を学ぶうえでミクロ経済学の基礎的な知識が必要となる。本授業では、関連するミクロ経済学を適宜説明しながら講義を行う。

【到達目標】

経済学の基礎知識と環境問題に対する理解を深めることができる。また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。さらに、博士論文を環境経済学の文脈の中に位置づけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面での講義形式を基本とする授業を行います。毎回、講義と関連する課題 (小テスト) を実施します。課題 (小テスト) の解説を次の授業の冒頭に行います。また、コメントや質問に対する回答も授業の冒頭に行います。

なお、一部の授業ではゲームを行い、学んだ理論と現実の差を体感します。

また、グループディスカッションを通じて、政策の方向性などを議論します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境経済学とは	環境経済学を学ぶ際に必要最低限の経済学的知識を解説します。
第2回	ミクロ経済学① (市場とは)	需要曲線と供給曲線の意味および、市場の機能を解説します。
第2回	ミクロ経済学② (余剰分析)	消費者余剰、生産者余剰、社会的総余剰について解説します。
第2回	ミクロ経済学③ (市場の効率性)	市場の効率性・万能性について解説します。
第3回	公共財とは	公共財の定義およびどのような問題があるのかを解説します。
第3回	外部性 (様々な費用)	平均費用、平均可変費用、限界費用など費用の概念を解説します。
第4回	外部経済 (余剰分析)	正の外部性について解説し、市場にどのような影響をもたらすかを解説します。
第4回	外部不経済 (余剰分析)	負の外部性について解説し、市場にどのような影響をもたらすかを解説します。
第5回	外部不経済の内部化	外部不経済が存在する場合、社会的に望ましい状態は何かを解説します。
第6回	コースの定理	当事者間の交渉によって環境問題が解決することができることを解説します。

第7回	政策による環境問題の解決	どのような環境政策が有効かを解説する。また、それぞれの政策の利点・欠点について議論する。
第8回	ゲーム①：排出量取引制度を理解する	ゲームを通じて排出量取引制度の基本的な制度設計について学ぶ。
第8回	ゲーム②：排出量取引制度におけるプレイヤーを理解する	
第9回	ゲーム③：排出量取引制度における費用軽減措置を理解する	ゲームを通じて排出量取引制度の導入がもたらす様々な問題に対処する応用的な制度設計について学ぶ。
第9回	ゲーム④：排出量取引制度のまとめ	
第10回	地球温暖化①：問題の所在	温暖化政策の基礎的な知識を解説する。また、京都議定書第1約束期間までの状況を解説する。
第10回	地球温暖化②：京都議定書	
第11回	地球温暖化③：ポスト京都	ポスト京都議定書 (パリ協定まで) について解説し、各国の気候変動政策および事前評価について解説する。
第11回	地球温暖化④：各国の対策および事前評価	
第12回	廃棄物問題①：ごみ処理有料化政策	ごみ処理有料化政策が何故必要なのか、何を意図としているのかを解説する。また、自治体の取り組みと理論を比較する。
第12回	廃棄物問題②：自治体の取り組み	
第13回	放射性廃棄物問題①：低レベル放射性廃棄物	放射性廃棄物の最終処分問題について米国の取り組みを紹介しながら解説する。また、日本に必要な方策を考える。
第13回	放射性廃棄物問題②：高レベル放射性廃棄物	
第14回	大気汚染①：固定排出源の規制	日本における大気汚染対策を紹介し、今後の方策について考える。
第14回	大気汚染②：移動排出源の規制	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。指定したテキストおよび参考書の該当する箇所を事前に読み、授業の準備を行ってください。また、課題を行い、内容の理解度を深めてください。

【テキスト (教科書)】

『入門 環境経済学 - 環境問題解決へのアプローチ』, 日引聡・有村俊秀, 中央公論新社 (2002)

【参考書】

Richard Porter The Economics of Waste, Routledge, 2002.

【成績評価の方法と基準】

小テストおよび最終課題を総合的に評価します。具体的には、小テスト45%、最終課題55%の合計100%点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

理論の理解を深めるため、排出量取引制度のゲームを引き続き実施します。また、練習問題の難易度を複数準備する。例えば、公務員試験の過去問など。

【学生が準備すべき機器他】

電子ファイル (講義資料や追加資料など) を配布いたします。パソコン (タブレット) などをインターネットに接続できるようにしてください。

【その他の重要事項】

特定の時間帯にオフィスアワーを設定していませんが、授業等がなければいつでも対応いたします。事前アポをメールで取ってください (makoto.sug@gmail.com)。質問などがあつた場合、連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境経済学、応用ミクロ経済学  
 <研究テーマ> 環境経済学



<主要研究業績> Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

**【Outline (in English)】**

**【Learning Objectives】**

Economic growth has increased the burden of environmental impacts in various dimensions. In this course, we will apply microeconomic theory to environmental issues and consider what kind of policy/regulations are needed to address these issues. This course has three objectives; 1) understand the “nature” of environmental issues and apply economics to counter these issues, 2) understand Japanese environmental policies/regulations and consider further, what kind of actions are needed and 3) position doctoral dissertations within environmental economics context. This course will also discuss microeconomic theory because it is essential in understanding environmental economics.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students will be expected to have completed the required assignments after class. Your study time will be more than two hours for each class.

**【Grading Criteria/Policy】**

Your overall grade in class will be decided based on the following:

Take-home test 45%, Term-end assignment 55%.

POL500P2 - 022 (政治学 / Politics 500)

## サステイナブル地域政策研究D

小島 聡

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「サステイナビリティ」（持続可能性）の視点から自治体政策について総合的に検討する。授業では、まず持続可能性の概念、地域の多様性と政策の方向性について理解する。さらに、グローバルな政策、政策統合とSDGs、縮小都市問題と政策展開、都市と過疎地域の政策連携などについて議論する。この授業の目的は、持続可能な地域社会に関する公共政策研究に必要な現代地方自治の動向を理解することである。

### 【到達目標】

この授業に参加することによる学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ・ 高度な研究のために知的基盤を構築し広い視野を形成する。
- ・ 持続可能な地域政策に関する政策分析力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

持続可能性に関する基礎概念・政策規範・政策原則を分析視角とし、政策課題と政策展開について検討しながら、今後を展望する。パワーポイントのほか配布資料を使用しながら講義を行うが、各地の最新の政策情報を共有しながら、参加者とも議論をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「持続可能性」の概念と「持続可能な地域社会」の多様性	「持続可能性」の概念構成から政策原則を導き、さらに地域特性に応じた政策課題の多様性をふまえ、都市の「変容」と過疎地域の「存続」という二重課題について検討する。
2	グローカリズムと自治体政策	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考し、政策責任や政策行動モデルなどに関する理論的な整理を行いながら、自治体の政策動向について検討する。
3	持続可能性の包括性・統合性とローカルSDGs	「持続可能性」概念の包括性・統合性や「環境政策統合」の考え方をふまえながら、「持続可能な地域社会」への総合政策論の重要性を確認する。さらにローカルSDGsと自治体政策について検討する。
4	都市の持続可能性リスクと縮小都市への政策的対応	長期的視点で都市の持続可能性リスクを確認しながら、特に縮小都市の時代における自治体政策の動向について検討する。
5	ローカルSDGsのケーススタディ	ローカルSDGsに関するケースの報告と議論を行う。
6	ローカルSDGsのケーススタディ	ローカルSDGsに関するケースの報告と議論を行う。
7	ローカルSDGsのケーススタディ	ローカルSDGsに関するケースの報告と議論を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。

- ・ 配布資料やその他の関連資料を読む。
- ・ 指示した課題に取り組む。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

必読参考文献は開講時に紹介し、また必要に応じて参考資料を配付する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（60%）、課題への取り組み（20%）、博士論文への応用可能性に関するレポート（20%）の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度は休講であったため、最新のフィードバックはありません。過去のアンケート、学生の意見、内省等からの気づきは、以下のとおりです。

- ・ 「持続可能性」や「持続可能な地域社会」について俯瞰することには、現代の学際的な意義があると考えています。
- ・ 多様な問題領域を扱うことで、それぞれの研究テーマをもつ院生の視野を広げることができると考えています。
- ・ 政策事例の検討により、「臨床の知」から政策思考を育む教育効果があると考えています。
- ・ 対話型授業の要素を取り入れてきましたが、その必要性を実感しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

参加者によるケーススタディの報告は、各自のパソコンからプロジェクターに投影するか、レジュメ等の配布で対応する。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治論

<研究テーマ> 持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、市民社会と自治体行政システム

<主要研究業績>

『アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編』『自治体経営改革』（共著）（ぎょうせい、2004）

『参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて』『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）

『自治体環境政策の軌跡と持続可能性』『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）

『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして』（共編著）、（ミネルヴァ書房、2012）

『自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性』『地域開発』（vol.574、2012）

### 【Outline (in English)】

The objective of this course is to examine the policy of local government comprehensively from the viewpoint of sustainability. Firstly, we will think about the conception of sustainability, regional diversity and policy direction. Furthermore, we will discuss the trend of "Glocal policy", sustainability of urban areas and rural areas, "Policy integration and SDGs, urban sustainability risk, shrinking city problems and policy development, cases of regions with advanced initiatives, etc.

The purpose of this course is for students to understand public policy for sustainable community.

At the end of the course, students are expected to achieve the following:

(1) Acquire knowledge of sustainable community and the role of local Government.

(2) Understand structure of public policy

(3) Gain ability of policy thinking

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on some assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Active class participation:60%,Assignments:20%,Final report:20%

SOM500P2 - 023 (社会医学 / Society medicine 500)

公衆衛生研究D

宮川 路子

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

公衆衛生学は、疾病の治療を目的とする臨床医学とは異なり、疾病の予防を目的とし、さらに健康増進を図る科学技術である。人々を病気から守り、肉体的・精神的に健康な状態で社会生活を送れることを目的としている。これは人類が求める最も基本的かつ重要なサステナビリティである。現代社会には、ありとあらゆる健康問題が山積している。私たちが21世紀を健康に生き抜いていくためには、これらの健康問題について、適切な知識を持ち、情報の取捨選択を行っていく必要がある。

本講義では、学生が健康意識を高め、よい生活習慣、予防のためのノウハウを学び、健康寿命の延長を目的として公衆衛生の立場から幅広い知識を身に付けていく。

【到達目標】

本講義では、超高齢社会を生きる社会人にとって必要な健康知識と問題解決能力を習得する。すべての社会問題は人の健康と密接な関係がある。地球上における持続可能性は結局のところ人類が健康に生活していくことを目的としたものがある。

博士課程における研究において人と関わりを考慮する際、予防医学、疫学の知識を持つことは非常に重要である。たとえ、研究テーマが医学と直接かわりがないものであったとしても、視点を変えてみると新たな問題点、解決策の発見につながる可能性がある。

本講義では、幅広い知識を身につけるため、様々な領域の専門家を招いて最先端の知識を得るとともにディスカッションを行って理解を深める。医療倫理についての問題をはらむ映画を視聴し、ディスカッションを行う。

疫学、統計学的、社会学的手法を用いた実態調査についても実例から方法論を学び、研究に活用する手法、更に自分自身が健康に生きて行くための知識、能力を身につけていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

少子高齢社会において多様化する健康問題、医療費高騰、各種保健行動などについて議論するとともに、疫学、統計学的、社会学的手法を用いた実態調査の例を論文より学び、対策を講じていく過程を学習する。また、疫学調査、産業保健、などさまざまなテーマを取り上げて専門家を招き、最先端の知識を得ると同時にディスカッションを行って、現代社会における健康、生命についての問題点を浮き彫りにしていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 予防医学について	講義を受講するための心構え。 現代社会において必要とされる 予防医学の基礎的知識を学ぶ。
第2回	分子整合栄養療法と メンタルヘルスケア、 水素療法	健康の基本は栄養であり、細胞 内の栄養バランスを適切に整え ることにより、からだところ の健康を保つことができること を学ぶ。さらに、栄養療法の効 果を高めるための水素療法につ いて学ぶ
第3回	外部講師講義 (曼荼 羅ワークショップ)	人生の曼荼羅で自分の今までを 振り返り、今後に生かすワーク ショップを行う

第4回	外部講師講義 (日本 の医療の問題点につ いて)	個の医療から集団の医療へとい うテーマで学ぶ。
第5回	外部講師講義 (死生 学について)	人の死について考えることはい かに生きるかを考えることであ る。死生学の専門家による話を 聴く。
第6回	医療と倫理	医療界に発生する様々な事件を 参照し、生命倫理の問題点につ いて学ぶ。映画の視聴。
第7回	研究発表、まとめ	受講者による健康に関わるテー マの研究発表・ディスカッショ ンを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。  
講師により事前配布されるテキストや資料、健康に関連した文献を  
事前に読むこと、さらに講義の後にも学習内容を復習し、自己の健  
康管理に役立てるよう努力することをお願いします。

【テキスト (教科書)】

人生100年の健康づくりに医師がすすめる最強の水素術 宮川路子  
サンライズパブリッシング

【参考書】

こころの超整理法 宮川路子、青柳浩明

【成績評価の方法と基準】

出席、講義中のディスカッション、最終回の発表とレポートによる。  
平常点：50%  
発表：30%  
レポート：20%

【学生の意見等からの気づき】

教科書に基づく基本的な知識の習得範囲を広げるとともに、専門家の  
講義とディスカッションをさらに充実させていく。

【学生が準備すべき機器他】

最終回の発表時にレジュメを準備する。

【その他の重要事項】

外部講師の講義については、依頼する講師の都合により、変更する  
ことがある。

【担当教員の専門分野等】

公衆衛生学、産業保健、分子整合栄養医学、統合医療、統計学  
<研究テーマ> 栄養と健康、就労者のストレスと健康  
<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and  
association with health in the Swedish working population (the  
SLOSH study)  
The European Journal of Public Health 2012年  
ビタミンDの健康効果 人間環境論集19巻号79-101  
日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における  
課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか  
人間環境論集 20巻1号1-17  
<https://eiyouryohou.com/>

【Outline (in English)】

【Course outline】 Public health, unlike clinical medicine aimed  
at treating diseases, is science and technology aiming at the  
prevention of diseases and promoting health. It aims to  
protect people from diseases and to live social life in a physical  
and mental healthy state. This is the most fundamental  
and important sustainability that mankind desires. In  
modern society, all kinds of health problems are piled up.  
In order to live healthy, it is necessary for us to have  
appropriate knowledge about these health problems, and to  
select information.

【Learning Objectives】 In this lecture, students learn about  
healthy lifestyle and know-how for disease prevention, and  
wear broad knowledge from the viewpoint of public health for  
the purpose of prolonging healthy life span.

【Learning activities outside of classroom】 Review after the  
lecture. Students are expected to read newspapers with an  
awareness of related topics. The standard preparation and  
review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria】** Based on attendance, discussion during the lecture, presentation and report at the final session.

Attendance points: 50%.

Presentation: 30%.

Reports: 20%.

MAN500P2 - 024 (経営学 / Management 500)

サステナブル経営論D

長谷川 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義ではサステナビリティを巡る国際的な動向を整理し、CSR、CSV、SDGsが時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。サステナビリティ経営の強化を求めるコーポレートガバナンス・コードや東証市場再編、影響力を強めているESGマネー（投資・融資・保険）が企業経営にもたらす影響について検討します。

【到達目標】

SDGに関する基本的な知識を習得したうえで、現代企業のサステナビリティ経営や脱炭素経営の実態を正しく評価する能力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本のSDGs/CSRおよびBusiness Ethicsに関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	価値共創時代のサステナビリティ経営とは	サステナビリティ経営の概観
第2回	責任経営ケーススタディ①	住友財閥/伊庭貞剛・鈴木馬左也
第3回	サステナビリティ経営の最新動向「ガバナンス編」	日本型ガバナンスの現状 コーポレートガバナンスコード
第4回	責任経営ケーススタディ②	大日本報徳社/岡田良一郎
第5回	サステナビリティ経営の最新動向「環境編」	脱炭素経営の本質企業評価の新たな尺度となる炭素利益率
第6回	責任経営ケーススタディ③	豊田自動織機/豊田佐吉 スズキ/鈴木道雄
第7回	ESG経営の最新動向「社会編」	人権・ダイバーシティ 人的資本経営
第8回	責任経営ケーススタディ④	倉敷紡績・クラレ 大原孫三郎 大原総一郎
第9回	近代産業の勃興と経済倫理「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第10回	責任経営ケーススタディ⑤	グンゼ/波多野鶴吉 天竜木材/金原明善
第11回	日本社会における企業倫理の形成	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成

第12回	責任経営ケーススタディ⑥	第一生命/矢野恒太 東京海上/各務謙吉
第13回	ゲストスピーカーによる講義①	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します
第14回	ゲストスピーカーによる講義②	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

企業が発行する統合報告書やサステナビリティ報告書を参照しながら、SDGsやパリ協定と企業はどのように向き合おうとしているのかについて自己学習を深めて下さい。詳細については、初回授業において説明します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜-時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年  
毎回レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂, 2023年  
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会, 2023年  
Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan  
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜-時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年  
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂, 2019年  
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資-長期的な企業価値創出メカニズムを求めて』文真堂, 2018年  
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年  
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：80%  
発表・討議：20%

【学生の意見等からの気づき】

複雑な数式等は使わず、財務分析や証券投資に関する知識の無い方にも理解しやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー  
<研究テーマ>  
企業と社会のサステナビリティ  
<最近の主要研究業績>  
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年  
「SDGsと企業責任①~⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学(2020年3月2日~12日)」』2020年  
「社会課題と企業経営-企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】  
損害保険会社の資産運用部門において、約15年投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI(社会責任投資)ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG(非財務)側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト (CMA)

**【Outline (in English)】**

In this lecture, We will review how international trends in sustainability (CSR, CSV, SDGs) have been changing. We will also examine the impact of the Corporate Governance Code, the restructuring of the Tokyo Stock Exchange and ESG money (investment, financing and insurance) on corporate management. Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading will be based on the final report (80%) and presentation (20%).

SES500P2-025 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500)

## 地域環境計画研究D

湯澤 規子

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「食」と「農」と「地域」をキーワードとして、その関係性を歴史的に検討します。「自然環境」、「社会環境」の両側面から「環境」を捉え、様々な事例から持続可能な社会のしくみについて考えます。

### 【到達目標】

食と農と地域の歴史を理解し、地域環境を論じる基礎的知識と視角を身につけます。文献講読および具体的な事例を通して、現代社会の課題と今後の展望を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

講義を中心としつつ、ディスカッションペーパーにもとづく議論を適宜織り交ぜて、考察を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域環境を論じる視点
第2回	問題提起	地域環境を論じた近年の研究成果の検討
第3回	文献講読（1）	地域環境に関わる文献講読
第4回	文献講読（2）	地域環境に関わる文献講読
第5回	文献講読（3）	地域環境に関わる文献講読
第6回	地域・環境・計画についての討論	様々なアクターについて考える
第7回	総括と展望	各自の研究課題との関連について

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

下記の文献を輪読し、討論します。

・湯澤規子、伊丹一浩、藤原辰史編著『入門 食と農の人文学』ミネルヴァ書房、2024年3月刊行予定。

### 【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

報告（50%）と最終レポート（50%）で評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。具体的には主体性、独自性、堅実性に基づいて評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。

### 【学生の意見等からの気づき】

参加者それぞれの問題意識を深められるように、ディスカッションの時間を活用したいと思います。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 地域経済学、日本近現代史、人文地理学

<研究テーマ> 地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史

<主要研究業績>

・『焼き芋とドーナツ—日米シスターフード交流秘史』（単著、KADOKAWA、2023年）

・『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）

・『胃袋の近代—食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）

・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）

・『ジェンダーから再考する地域と人間』『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁

・『地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市』『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

### 【Outline (in English)】

#### ◆ Course outline

Students will examine this relationship from a historical point of view using "food", "agriculture" and "region" as keywords. We will consider the "environment" from both the "natural environment" and "social environment" and think about the structure of a sustainable society from various cases.

#### ◆ Learning Objectives

Students will gain an understanding of the history of food, agriculture, and local communities, and acquire the basic knowledge and perspectives to discuss the local environment. The course aims to examine the issues and future prospects of contemporary society through literature reading and specific case studies.

#### ◆ Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, please read the assigned literature carefully, prepare a resume, and discuss the issues.

#### ◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on lecture participation and report (50%) and final report (50%). Specifically, evaluation will be based on initiative, originality, and solidity. The theme will be presented at the beginning of the lecture.

ARS500P2 - 027

## 国際環境協力論D

藤倉 良

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発途上国が持続可能な開発を達成するために、日本や国際機関はどのような支援を実施しているのか、また、今後、どのように支援を行うべきなのかを学ぶ。将来、国際協力の分野に進んだ学生には、援助のあり方を考える基礎を習得する。

## 【到達目標】

インフラ開発に伴う社会環境配慮と環境プロジェクトの相違を理解したうえで、世界銀行やアジア開発銀行、日本のODAがどのような仕組みで動いているかを理解する。その上で、以下の事例について学習する。

- ・過去に行われたダム建設に伴う住民移転から得られた教訓
- ・工業化に伴う公害対策の先例としての日本の公害経験
- ・気候変動対策における援助の方向性

これらをベースにして、持続可能な開発に向けた援助の方向性を見据える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントのコピーはHoppiiにアップする。

国際協力や条約交渉の現場で働く2名程度の実務家にプレゼンテーションを行って頂く予定である。海外勤務の方にはオンラインで行って頂く。日程はプレゼンターの都合によるので、授業の全体スケジュールはそれに応じて変更される。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	国際協力とODAの仕組み
第2回	資金の流れ	国際協力に伴う資金の流れ
第3回	日本のODA	日本のODAの原点とその後の経緯
第4回	日本の環境協力	1960年代から現在に至る日本の環境協力の歴史
第5回	水資源1（ゲストスピーカー）	世界の諸問題と日本の農業との関係
第6回	水資源2（ゲストスピーカー）	援助を通じて気づく日本の価値
第7回	気候変動緩和策	事例研究
第8回	気候変動適応策	事例研究
第9回	日本の公害経験	大気汚染対策を例にとって
第10回	日本の地方公共団体の公害経験	横浜市、北九州市、大阪市の事例
第11回	気候変動枠組み条約（ゲストスピーカー）	条約の概要と国際交渉
第12回	COP（ゲストスピーカー）	COP29の成果
第13回	環境配慮	セーフガードポリシー
第14回	住民移転	ダムによる住民移転と生活再建の評価

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を読むなどの、本授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準である。

## 【テキスト（教科書）】

講義中に資料を指示する。

## 【参考書】

井村秀文・松岡俊二・下村恭民編著 『環境と開発』 日本評論社

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（100%）で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くの事例を紹介することとする。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

授業は対面で行うが、オンラインで同時配信するので、学生は各自の都合に合わせて受講されたい。オンラインのURLはHoppiiで通知する。

## 【担当教員の専門分野等】

環境システム科学、国際環境協力

## 【最近の担当教員の関連する業績】

1. Masato KAWANISHI, Makoto KATO, Ryo FUJIKURA, Wongkot WONGSAPAI, Alice SHARP, Manami FUJIKURA (2023) Analysis of the Impact and Challenges of Capacity Development for Climate Change Adaptation — Case of Japanese Technical Assistance Through Bangkok - Yokohama Cooperation —. *Environmental Science*, 36(6): 194-210. <https://doi.org/10.11353/sesj.36.194>
2. Fujikura R, Nakayama M, Sasaki D, Taafaki I, Chen J. (2023) Family and Community Obligations Motivate People to Migrate — A Case Study from the Republic of the Marshall Islands. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 20(8):5448. <https://doi.org/10.3390/ijerph20085448>
3. Ryo Fujikura (2022) Financing in Climate Change Adaptation, Chapter 2, (Ed: Ishiwatari M. and Sasaki D.) *Financing Investment in Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation - Asian Perspectives*, Springer, Singapore, 19-36, [https://doi.org/10.1007/978-981-19-2924-3\\_2](https://doi.org/10.1007/978-981-19-2924-3_2)
4. Taro Katsurai, Daisuke Sasaki, and Ryo Fujikura (2022) What Determines the Time Efficiency of the Purchasing Phase of Public Procurement in Developing Countries: Evidence from Japanese ODA Loans, Working Paper No.229, March 2021, JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development, [https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp\\_229.html](https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp_229.html)
5. Masato Masato Kawanishi, Nela Anjani Lubis, Hiroyuki Ueda, Junko Morizane and Ryo Fujikura (2021) From Project to Outcome: the Case of the National Greenhouse Gas Inventory in Indonesia, Working Paper No.225, December 2021, JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development, [https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp\\_225.html](https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp_225.html)
6. 川西正人、藤倉良、加藤真、森實順子 (2021) 国家温室効果ガスインベントリ実施体制の比較研究—日本・インドネシア・ベトナム・タイの事例から—、*環境科学会誌* 34 (3)、124- 138、10.11353/sesj.34.124
7. 土岐典広、藤倉良 (2021) 国際協力機構と中国政府機関による日中企業の連携促進事例—日本のODA 出口戦略に向けた示唆—、*公共政策志林*、第9号、217-236
8. Masato Kawanishi, Makoto Kato, Ryo Fujikura (2021) Analysis of the Factors Affecting the Choice of Whether to Internalize or Outsource the Task of Greenhouse Gas Inventory Calculations: The Cases of Indonesia, Vietnam, and Thailand, *International Journal of Sustainable Development and Planning*, Vol. 16, No. 1, February, 2021, pp. 145-154, doi: 10.18280/ijstdp.1608.

## 【Outline (in English)】

Students will learn how international cooperation is implemented by Japan or international organizations to support. Students are required to prepare and review each lecture for two hours. Evaluation will be based on a report or the final exam.



ARS500P2 - 028

## 国際協力フィールドスタディD

武貞 稔彦

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

途上国における国際開発協力のプロジェクトや課題を現地で学ぶ。事前学習で訪問先のプロジェクトや訪問地域について理解を深め、現場を視察したうえで、報告書をまとめる。

### 【到達目標】

本講義および現地調査を通じて、受講生は、1) 開発プロジェクトの理論と現地調査の手法を学び、実践を通して習得することができる、2) 報告書の作成を通じて、論文執筆の基礎となる文書作成能力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

文献講読と現地調査によって、開発援助プロジェクトのあり方を討議する。事前学習では、教員による調査手法などの講義、受講者による事前学習の発表、現地調査準備、報告書作成準備を行う。現地調査では、開発途上国で日本政府や民間企業、NGOなどが行っているプロジェクトの現場を訪問する。帰国後に受講者による報告書を作成する。

訪問先と時期については、参加者と協議のうえ決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	授業の趣旨、現地調査先、スケジュールの確認
第2回	事前学習作業分担	各自で現地に関する事前学習テーマを設定する
第3回	現地調査：事例1	現地調査の事例を紹介する
第4回	事例の討論1	調査内容についての討議
第5回	調査対象国についての事前学習1	調査対象国について専門家による講義
第6回	調査対象国についての事前学習2	調査対象国について専門家による講義
第7回	学生の事前学習発表1	受講生による事前学習成果報告
第8回	学生の事前学習発表2	受講生による事前学習成果報告
第9回	現地調査準備1	質問票の作成
第10回	現地調査準備2	スケジュール確認
第11回	事後報告書作成準備1	質問票の完成
第12回	事後報告書作成準備2	報告書の分担
第13回	現地調査	プロジェクト訪問
第14回	現地調査	プロジェクト訪問

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

講義中に指示する。

### 【参考書】

講義中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

現地調査への参加状況（50%）と事前講義での報告や事後報告書の作成状況（50%）によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

現地調査は例年2月か3月に1週間程度で行う。訪問先及び日程は決定次第、公表する。

### 【その他の重要事項】

現地では英語でインタビューするので、それが実施可能なレベルの英語力を必要とする。

### 【費用負担】

現地調査に必要な旅費（往復航空運賃、宿泊費、食事代等）は自己負担となる。

ただし、大学院の海外における研究活動補助の制度を活用できる。

### 【担当教員の専門分野】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

### 【実務経験のある教員】

担当者は、途上国への経済協力を携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

This course is a combination of lectures and field trip in order to understand and critically analyze the development project or issue in development.

#### 【Learning Objectives】

After completing the course, students will be able to; 1) understand the project formation/implementation and the theory and practice of field work, 2) strengthen the writing ability for thesis by preparing field reports.

#### 【Learning Activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Evaluation will be based on participation in the field survey (50%), and on the reports made in the pre-lecture and post-lecture reports (50%).

CUA500P2 - 029 (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 500)

## ヒューマン・エコロジーD

高橋 五月

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒューマン・エコロジーは環境に関する文化的、社会的側面について学ぶ領域である。授業では、主に文化人類学的研究をもとに理論および事例を学びながら、環境と人間の関係について意見交換し、検討する。本授業の目的は、文化人類学及び関連分野による先行研究を参考にしながら、学生が自らリサーチクエスチョンを立て、リサーチペーパーを作成することである。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は、文化人類学及び関連分野の先行研究を講読し、意見交換を行うこと、また各自が授業で講読する文献を参考にしながらリサーチクエスチョンを立て、リサーチペーパーを作成するという大学院生として必要なアカデミックスキルを獲得することである。加えて、博士課程の履修者においては、本授業での学びを博士論文研究に効果的に反映させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

## 【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド講義とZoom授業を併用し、アクティブラーニングを取り入れた方式で進める。具体的には、学生は講義録画を視聴し、必須講読文献や講義内で出題される質問に対するコメントをHoppii掲示板にて提出し、Zoom授業では提出したコメントなどをもとに履修者間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	環境人類学の系譜 (1)	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第2回	環境人類学の系譜 (2)	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第3回	環境人類学の系譜 (3)	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第4回	環境人類学の系譜 (4)	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第5回	環境人類学の事例研究 (1)	最近の事例研究を読み、ディスカッションする
第6回	環境人類学の事例研究 (2)	最近の事例研究を読み、ディスカッションする
第7回	環境人類学の事例研究 (3)	最近の事例研究を読み、ディスカッションする

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業時間外の学習には、文献を事前に読む、リアクションペーパーを書く、発表準備、授業内で示される課題（レポート、演習問題）に取り組むことを含みます。

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

随時、授業支援システムにアップする。

## 【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーと議論への参加(40%)、発表(20%)、リサーチペーパー(40%)。リサーチペーパーは各自の博士論文の1章にあたる論文を想定して執筆すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

講義、掲示板、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全てHoppii(学習支援システム)を通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境人類学、海洋人類学、震災人類学

<研究テーマ> 日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学

<主要研究業績> 『Fukushima Futures: Survival Stories in a Repeatedly Ruined Seascape』(単著 University of Washington Press, 2023)、『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World (星の降るとき、3・11後の世界に生きる)』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5- 23 (2014)、他

## 【Outline (in English)】

"Human Ecology" is a graduate seminar to learn cultural and social dimensions of environmental issues through working with literatures in environmental anthropology and related studies. The main goal of this seminar is to help student to obtain basic knowledge of environmental anthropology and related areas and their contributions to our understanding of human-environment relations. For students of the doctor program, the main goal is also to appropriately apply the knowledge that they learn through this seminar for their own dissertation research projects.

Students will be expected to proactively participate in class and to prepare for and review classwork daily. An expected weekly study time for this seminar is four hours on average. A final grade will be based on weekly commentaries (40%), presentation (20%), and research paper (40%).

ENV500P2 - 032 (環境保全学 / Environmental conservation 500)

サステナビリティ学事例研究DⅢ

渡邊 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、環境問題について「エネルギーと物質」という観点から検討する。社会の持続可能性を達成する条件などに関して、物理学の一分野である熱力学に着目しながら、現在展開されている具体的な事例をもとに考察する。エネルギーは保存されているが、その変換に際して（時間が経過すると）質は劣化（エントロピーが増大）する。これらは熱力学の第一法則、第二法則として知られている。物質についても同様のことがいえる。このような自然の法則性を理解し、地球システムの描像と人間活動（人為）との関連を理解しておくことは、持続可能性を具体的に考察する上で極めて重要であると思われる。現代社会が抱えているエネルギー問題、廃棄物問題、温暖化問題はまさにこの線上にある。

【到達目標】

概ね次の内容の修得をめざしている。(1) 地球システムを概観することができる。(2) 熱力学の第一法則、第二法則を理解し、人間活動（人為）との関連性を考察することができる。(3) 人間活動としてのエネルギーと廃棄物に関わる諸問題をそれらの観点から検討することができる。(4) エネルギー問題、気候変動問題について持続可能性という概念をふまえて考察することができる。(5) 博士後期課程において各自進めている研究との関連性について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業では、著書、論文、各種資料などをもとに輪読とディスカッションを行っていく。事例研究として受講者が持ち寄った資料をもとに検討を行うことも含める。また受講者が現在遂行している研究内容を報告してもらい、授業内容との関連について考察することも予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方などの説明。参考図書などの紹介。
第2回	地球システムについて	宇宙から微生物までを眺める。太陽エネルギー、光合成、炭素循環、水の大循環など。
第3回	エネルギーと物質（地球システムと人間活動）	エネルギー資源の採取、変換、利用と損失。物質の利用と廃棄、そして人工的循環。地球システムとの比較を通して見る人間活動。
第4回	エネルギーと物質（事例研究）	具体的な事例による考察。
第5回	成長の限界（持続可能性と自然科学的条件）	幾何級数成長とその限界。システムダイナミックス。ナチュラルステップによる持続可能社会の条件。
第6回	成長の限界（事例研究）	具体的な事例による考察。
第7回	熱力学と人間活動（熱力学とエネルギー・物質）	熱力学の第一法則と第二法則。エントロピーの概念とその増大則。
第8回	熱力学と人間活動（事例研究）	具体的な事例による考察。

第9回	環境負荷と指標（人間活動と地球の有限性）	ライフサイクルアセスメント（LCA）とエコロジカルフットプリント（EF）。
第10回	環境負荷と指標（事例研究）	具体的な事例による考察。
第11回	共生の概念と持続（生物学的共生現象から）	生物学に見る共生関係と種の持続性。捕食・被食関係とダイナミックス。社会連携の意義を考える。
第12回	共生の概念と持続（事例研究）	具体的な事例による考察。
第13回	総合討論（物理から考える社会）	クローズド・ループ・インダストリとゼロエミッション。永久機関とエントロピー増大則。これらの概念から環境問題の考察へ。
第14回	総合討論（事例研究）	参加者からの論点提示と総合討論。レポート出題について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加時の積極性50%と提出されたレポート内容50%によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加者の理解度を確認しながら授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学  
 <研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス  
 <主要研究業績> Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with the theme as “energy and materials” which relates to the environmental problems. We introduce the concept of thermodynamics in the field of physics. By means of the concept, we investigate various realistic cases for energy and waste problems in society. Thermodynamics states that energy is always conserved even though time passes (the first law), but the quality is spent (the second law). This is valid not only for energy systems but also for materials. In order to understand the concept of sustainability, it is very important to know the natural law as thermodynamics and the structure of the earth system including material circulation in nature. In class, additionally we obtain the concept of Life-Cycle Assessment and Ecological Footprint. Dynamics for biotic systems is simulated in clarifying symbiosis relation among different species. (Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the concepts as the earth system, the first and the second law of thermodynamics, the energy and waste problems in society, and their relation with human actions. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and End-term report 50%.

SOC500P2 - 033 (社会学 / Sociology 500)

## 環境ガバナンス D I

藤田 研二郎

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

### 【到達目標】

現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようにする。社会運動論、協同組合論、NPO論の先行研究を批判的にレビューし、新たな論点を提起できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

### 【授業の進め方と方法】

各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直交流について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。
第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。
第10回	NGO・NPO③	ボランティア、寄付の理論と実態、フォーコーの権力論について学ぶ。
第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。

第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦/まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

### 【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。坂本治也編、2017、『市民社会論』法律文化社。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（15%）+期末レポート（85%）、を想定。期末レポートでは、社会運動論、協同組合論、NPO論の先行研究に対する批判的なレビューを重視する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

### 【その他の重要事項】

修士課程「環境ガバナンス I」と合同で開講。

### 【担当教員の専門分野等】

（専門領域）  
環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性  
（研究テーマ）  
環境問題解決に向けた市民の活動と行政、企業との連携  
地域の課題解決と環境保全の両立を考える  
（主要研究業績）  
藤田研二郎、2019、『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版。

### 【Outline (in English)】

#### (Course Outline)

The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is not the government or business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations, and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

#### (Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.
- To propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

- To critically review previous studies on social movements, cooperatives, and non-profit organizations and propose theoretical issues.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (15%) + Final Report (85%).

Final report will focus on critically reviewing previous studies on social movements, cooperatives, and non-profit organizations.

## 博士論文

### 公共政策研究科論文指導教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

